

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第198集

# 大八木屋敷遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

1995

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第198集

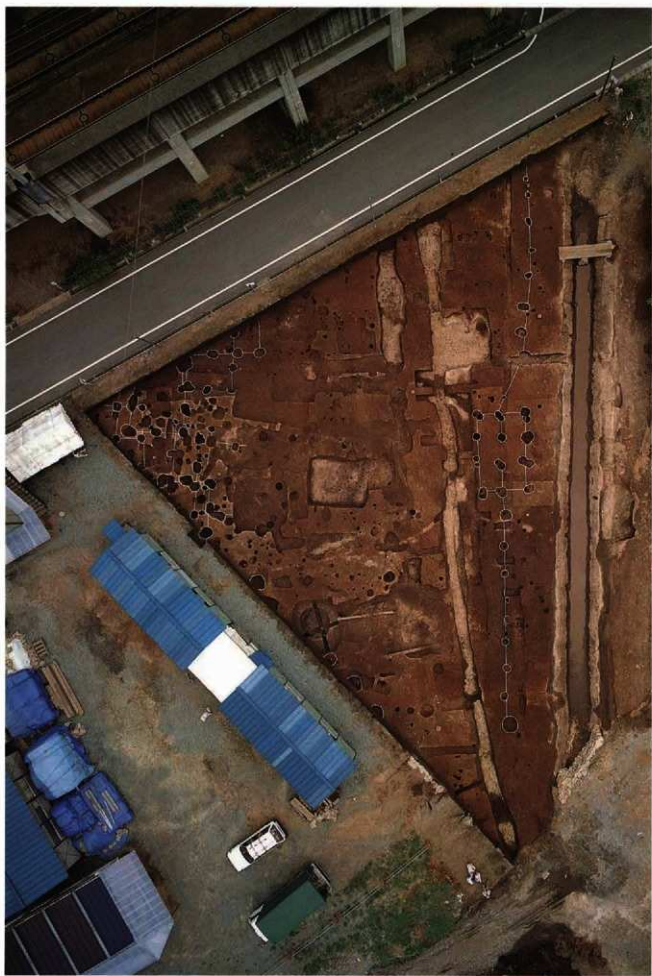
# 大八木屋敷遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

1995

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団





78区獨立柱建物跡 全景



# 序

北陸新幹線は、平成9年秋の開通予定をめざして群馬・長野両県で建設工事が進められています。北陸新幹線は、高崎駅を出て間もなくの高崎市下小島町で上越新幹線より分岐して、箕郷町、榛名町、安中市、倉渕村、松井田町を通過して長野駅へ向かいます。北陸新幹線が分岐する下小島町から大八木町にかけては、上越新幹線が建設される際に埋蔵文化財の発掘調査が行われ、平安時代の1108年に浅間山が大爆発して降下した火山灰により埋もれた水田跡が調査され、以後の群馬県内の水田跡の発掘調査・研究を進める上で記念すべき調査となりました。年月が経過して、下小島町、大八木町に再び新幹線が通過し、建設工事が行われることになったため、当該地域の埋蔵文化財の発掘調査も行われることとなり、それが当事業団に委託されました。

本書で報告する大八木屋敷遺跡は、上越新幹線の建設に伴い発掘調査された融通寺遺跡の西に隣接しています。平成3・4年度に発掘調査された本遺跡は、8・9世紀頃の官衙跡と見られる門と塼、建物跡が見つかり調査されました。この他にも古墳時代の水田跡や古代の集落跡、中世の居館跡等が調査されました。特に中世の堀跡の調査では、堀が深いため、調査の安全を図るために、日本鉄道建設公団のご配慮により、鋼矢板を打設して行いました。お陰様で何ら事故がなく無事調査を終了させることができ、その調査結果は平成6年度より2年の歳月をかけてまとめ上げられ、この度、発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

本報告書の刊行により、古代における地方官衙跡と推定された本遺跡が、『上野国交替実録帳』に見える群馬郡の「八木院」と関連があるのではないかと想定され、その解明が期待されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本鉄道建設公団北陸新幹線建設局、群馬県教育委員会文化財保護課、高崎市教育委員会、地元関係者等には大変お世話になりました。特に遺跡周辺の地元の皆様には鋼矢板の打設時に振動、騒音で、ご理解、ご協力を頂きました。これらの関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が本県の歴史を解決するために、就中「八木院」解明のために大いに活用されることを願い序とします。

平成8年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之





## 例 言

1. 本書は、北陸新幹線建設工事に伴う事前調査として、平成3年度・4年度に実施した、「大八木屋敷遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 大八木屋敷遺跡は、群馬県高崎市大八木町104・108・133・134・135・137・139・140・141番地にかけ所在する。小字名は「融通寺」であるが、山崎一著『群馬県古城遺址の研究 補遺篇』上巻（群馬県文化事業振興会 1979年）に「大八木屋敷」という名称で採録され、周知の遺跡となっている中世方形居館跡の一部が調査対象範囲となっていたので、それを遺跡名称とした。
3. 本発掘調査及び整理事業は、日本鉄道建設公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施した。
4. 調査対象地は、日本鉄道建設公団の起点（高崎駅）距離4.29～4.45km地点にあたる新幹線の路線及び側道部分と、それに付随して設けられる起電区分所の建設予定地、合わせて6880㎡である。
5. 調査期間及び調査担当者

### (1) 発掘

期 間 平成3年4月1日～平成5年3月31日

担当者

平成3年度 中東耕志（専門員）、石塚久則（同）、女屋和志雄（主任調査研究員）、井川達雄（同）、原雅信（同）、菊地実（同）、斎藤利昭（同）、杉山秀宏（調査研究員）、小林徹（同）、高島英之（同）、関口博幸（同）、深沢敦仁（同）

平成4年度 中東耕志（専門員）、高島英之（調査研究員）、遠藤俊爾（同）

### (2) 整理

期 間 平成6年4月1日～平成8年3月31日

担当者

平成6年度 斎藤利昭（主任調査研究員、平成6年4月～6月）、高島英之（同、平成6年7月～平成7年3月）

平成7年度 高島英之（主任調査研究員）

### (3) 事務

邊見長雄（常務理事、平成3・4年度）、中村英一（同、平成5年度～）、松本浩一（事務局長、平成3年度）、近藤功（同、平成4～6年度）、原田恒弘（同、平成7年度～）、佐藤勉（管理部長、平成3～5年度）、蜂巣実（同、平成6年度～）、神保佑史（調査研究部長）、岩九大作（総務課長、平成3年度）、斎藤俊一（同、平成4～6年度）、小淵淳（同、平成7年度～）、真下高幸（調査研究第1課長）、巾隆之（調査研究第3課長、平成6年度）、国定均（総務課係長代理）、笠原秀樹（同）、須田朋子（総務課主任）、吉田有光（同）、柳岡良宏（同）、船津茂（総務課主事、平成3～5年度）、高橋定義（同、平成4年度～）、吉田恵子（総務課臨時職員）、野島のふ江（同）、並木綾子（同）、今井もと子（同）、角田みづほ（同）、松井美智代（同）、塩浦ひろみ（同）、角田正子（同）、内山佳子（同）、星野美智子（同）、羽鳥京子（同）、菅原淑子（同）

### 6. 報告書作成関係者

- (1) 本文執筆 真下高幸（第1章第3節第2項）、桜岡正信（第4章第1節）、高島英之（前記以外）

- (2) 遺物観察 高島英之
- (3) 遺構写真 発掘調査担当者
- (4) 遺物写真 佐藤元彦(普及資料課主任)
- (5) 遺物保存処理 関邦一(普及資料課主任)、土橋まり子(嘱託員)、小村浩一(補助員)、小沼恵子(同)
- (6) 整理補助員 安藤三枝子、今井サチ子、大塚とし子、荻野恵子、田所順子、土田三代子、長谷川公子、宮沢房子、諸田理恵
7. 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。
8. 発掘調査及び報告書作成に際しては、高崎市教育委員会をはじめ関係各機関、及び地元関係者各位に多大なる御支援・御協力をいただきと共に、下記の諸氏に御指導・御教示を賜った。記して深甚なる謝意を表する。(50音順、敬称略)。
- 明石新(平塚市博物館)、麻生優(千葉大学)、阿部義平(国立歴史民俗博物館)、荒井秀規(藤沢市教育委員会)、石川正之助、石川克博(群馬県立歴史博物館)、飯島静雄(群馬県地質研究会)、大塚初重(明治大学)、小笠原好彦(滋賀大学)、鬼形芳夫(群馬県高崎市立高南中学校)、加藤友康(東京大学)、金子浩昌(早稲田大学)、狩野久(岡山大学)、川原秀夫(明和県立高等学校)、鬼頭清明(東洋大学)、坂井秀弥(文化庁)、佐々木慶一(東京都立隅田川高等学校)、佐藤信(東京大学)、清水みき(向日市教育委員会)、鈴木靖民(国学院大学)、須田茂(群馬県新田町立木崎中学校)、関和彦(共立女子第二高等学校)、館野和己(奈良国立文化財研究所)、田中広明((財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)、田村晃一(青山学院大学)、津野仁((財)栃木県埋蔵文化財センター)、利根川章彦(埼玉県立博物館)、永嶋正春(国立歴史民俗博物館)、中村順昭(日本大学)、仲山英樹((財)栃木県埋蔵文化財センター)、仁藤敦史(国立歴史民俗博物館)、橋本博文(新潟大学)、平川南(国立歴史民俗博物館)、深沢靖幸(府中市郷土の森博物館)、前沢和之(横浜市歴史博物館)、松村恵司(奈良国立文化財研究所)、宮崎重雄(群馬県立大間々高等学校)、宮瀧交二(埼玉県立博物館)、山口英男(東京大学)、山路直充(市立市川考古博物館)、山中章((財)向日市埋蔵文化財センター)、山中敏史(奈良国立文化財研究所)、吉田章一郎((財)かながわ考古学財団)、吉村善雄(鳥取県気高町教育委員会)、吉村武彦(明治大学)、若狭徹(群馬県群馬町教育委員会)、渡辺晃宏(奈良国立文化財研究所)
9. 本書の編集は高島英之が行った。

## 凡 例

1. 本遺跡では、後述するように、国家座標に基づき、北陸新幹線建設に伴う発掘調査対象地全域をカバーする1km四方の大グリッドを設定し、それを基準として100m四方の中グリッド、5m四方の小グリッドを設定する方法をとった。本遺跡は、大グリッドの6地区、中グリッドは78・79・89区に該当する。新幹線の路線及び側道部分は79区と89区、起電区分所部分は78区におおむねあたっている。
2. 遺構平面実測図の方位記号は、国家座標の北を表す。座標系は、国家座標第Ⅸ系である。

3. 遺構断面実測図に示した標高値・等高線中の標高値の単位はmである。  
 4. 遺構平面図実測図の縮尺及び図中のスクリーン・トーンは、次の通りである。

[遺構図縮尺]

- ・ 竪穴住居跡……………1/60      ・ 竈跡……………1/30      ・ 掘立柱建物跡……………1/80
- ・ 土坑・井戸跡……………1/40      ・ 水田跡……………1/200
- ・ 溝・その他の遺構及び全体図等については適宜縮尺を変えているので、各々のスケールに拠ら  
 れたい。

[遺構図スクリーン・トーン]



5. 遺物実測図の縮尺及び図中のスクリーン・トーンは、次の通りである。

[遺物図縮尺]

- ・ 古銭……………原寸      ・ 石鏡・碁石……………1/2      ・ 土器・陶器（坏・埴・皿・壺・甕他）
- ・ 土錘・鉄器類・砥石・紡錘車……………1/3      ・ 土器（甕・羽釜・甗）……………1/4

[遺物図スクリーン・トーン]



6. 竪穴住居跡の床面積は、縮尺1/20平面図をプランメーター（ローラー極・レンズ式）を用いて2回計測し、その平均値を小数点以下2桁を四捨五入して算出した。
7. 遺構の土層及び土器の色調の表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』1993年版に準拠した。
8. 本文中に表記した主軸方位は、竈がある竪穴住居跡では竈軸方位を主軸とみなし、竈が検出されなかった竪穴住居跡では長辺を主軸とみなして計測した。また、掘立柱建物跡・土坑跡・土壇墓等では長辺を主軸方向とみなして計測した。
9. 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版ともすべて共通している。

# 目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
写真図版目次	
第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	5
第3節 発掘調査の経過	11
1. 調査の経過	11
2. 安全対策工事の経緯と施工	13
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	18
第3章 検出された遺構と遺物	26
第1節 古墳時代の遺構と遺物	26
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物	28
1. 竪穴住居跡	33
2. 掘立柱建物跡	237
3. 溝跡	263
4. 井戸跡	293
5. 土坑跡	295
6. 整地遺構	349
7. グリッド出土遺物	357
第3節 中世の遺構と遺物	368
第4節 近世の遺構と遺物	381
第4章 調査成果の整理とまとめ	386
第1節 大八木屋敷遺跡の暗文土師器坏について	386
第2節 古代の官衙遺構について	390
抄録	
写真図版	

# 挿 図 目 次

第 1 図	上越新幹線越前寺道跡 J S25 区遺構全体図	3-4	第 55 図	11号住居跡 2	56
第 2 図	大八木屋敷道跡グリッド設定図	6	第 56 図	11号住居跡掘り方	57
第 3 図	北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査 大グリッド設定図	7-8	第 57 図	11号住居跡出土遺物	57
第 4 図	大八木屋敷道跡周辺の旧地形区分概全体図	19	第 58 図	12号住居跡	58
第 5 図	周辺の地形と主な道跡 (1/25,000)	20	第 59 図	12号住居跡掘り方	58
第 6 図	基本土層概全体図	24	第 60 図	12号住居跡出土遺物(1)	58
第 7 図	1. 大八木屋敷道跡 奈良・平安時代期立柱建物跡全体図	30	第 61 図	12号住居跡 2	59
第 8 図	2. 大八木屋敷道跡 奈良・平安時代型穴住居跡全体図	31	第 62 図	12号住居跡出土遺物(2)	59
第 9 図	3. 大八木屋敷道跡 奈良・平安時代清浄土全体図	32	第 63 図	13号住居跡	60
第 10 図	1号住居跡	33	第 64 図	13号住居跡 2	61
第 11 図	1号住居跡 2	34	第 65 図	13号住居跡掘り方	61
第 12 図	1号住居跡出土遺物	34	第 66 図	13号住居跡出土遺物	61
第 13 図	2号住居跡	35	第 67 図	14号住居跡	62
第 14 図	2号住居跡掘り方	35	第 68 図	14号住居跡出土遺物(1)	62
第 15 図	2号住居跡 2	36	第 69 図	14号住居跡出土遺物(2)	63
第 16 図	2号住居跡出土遺物(1)	36	第 70 図	15号住居跡	64
第 17 図	2号住居跡出土遺物(2)	37	第 71 図	15号住居跡 2	65
第 18 図	3号住居跡	38	第 72 図	15号住居跡出土遺物	65
第 19 図	3号住居跡掘り方	38	第 73 図	16号住居跡	66
第 20 図	3号住居跡出土遺物(1)	38	第 74 図	16号住居跡出土遺物	66
第 21 図	3号住居跡出土遺物(2)	39	第 75 図	17号住居跡	67
第 22 図	4号住居跡	40	第 76 図	17号住居跡 2	67
第 23 図	4号住居跡貯蔵穴	40	第 77 図	17号住居跡出土遺物(1)	67
第 24 図	4号住居跡掘り方	40	第 78 図	17号住居跡出土遺物(2)	68
第 25 図	4号住居跡 2	41	第 79 図	18号住居跡	69
第 26 図	4号住居跡出土遺物	41	第 80 図	18号住居跡 2	70
第 27 図	5号住居跡	42	第 81 図	18号住居跡出土遺物	70
第 28 図	5号住居跡掘り方	43	第 82 図	19号住居跡	71
第 29 図	5号住居跡 2	43	第 83 図	19号住居跡 1	72
第 30 図	5号住居跡出土遺物	43	第 84 図	19号住居跡 2	72
第 31 図	6号住居跡	44	第 85 図	19号住居跡掘り方	73
第 32 図	6号住居跡掘り方	45	第 86 図	19号住居跡出土遺物	73
第 33 図	6号住居跡 2	45	第 87 図	20号住居跡	74
第 34 図	6号住居跡貯蔵穴	46	第 88 図	20号住居跡 2	75
第 35 図	6号住居跡出土遺物	46	第 89 図	20号住居跡掘り方	75
第 36 図	7号住居跡	47	第 90 図	21号住居跡	76
第 37 図	7号住居跡 2	47	第 91 図	21号住居跡掘り方	76
第 38 図	7号住居跡出土遺物	47	第 92 図	21号住居跡出土遺物	76
第 39 図	8号住居跡	48	第 93 図	22号住居跡	77
第 40 図	8号住居跡掘り方	48	第 94 図	22号住居跡 2	78
第 41 図	8号住居跡出土遺物	48	第 95 図	22号住居跡出土遺物	78
第 42 図	8号住居跡 2	49	第 96 図	23号住居跡	79
第 43 図	9号住居跡	50	第 97 図	23号住居跡 2	79
第 44 図	9号住居跡出土遺物(1)	50	第 98 図	23号住居跡出土遺物(1)	79
第 45 図	9号住居跡 2	51	第 99 図	23号住居跡出土遺物(2)	80
第 46 図	9号住居跡掘り方	51	第100 図	24号住居跡	81
第 47 図	9号住居跡出土遺物(2)	51	第101 図	24号住居跡 2	81
第 48 図	10号住居跡	52	第102 図	24号住居跡出土遺物(1)	82
第 49 図	10号住居跡掘り方	53	第103 図	24号住居跡出土遺物(2)	83
第 50 図	10号住居跡掘り方	53	第104 図	25号住居跡	84
第 51 図	10号住居跡出土遺物(1)	53	第105 図	25号住居跡 2	85
第 52 図	10号住居跡出土遺物(2)	54	第106 図	25号住居跡出土遺物(1)	85
第 53 図	11号住居跡	55	第107 図	25号住居跡出土遺物(2)	86
第 54 図	11号住居跡 1	56	第108 図	26号住居跡	87
			第109 図	26号住居跡出土遺物	87
			第110 図	26号住居跡 1	88
			第111 図	26号住居跡 2	88

第112區	28号住居跡出土遺物	89	第174區	51号住居跡出土遺物	123
第113區	29号住居跡	90	第175區	52号住居跡	124
第114區	29号住居跡掘り方	90	第176區	52号住居跡礎	125
第115區	29号住居跡礎	91	第177區	52号住居跡出土遺物(1)	125
第116區	29号住居跡出土遺物(1)	91	第178區	52号住居跡出土遺物(2)	126
第117區	29号住居跡出土遺物(2)	92	第179區	52号住居跡出土遺物(3)	127
第118區	30号住居跡	93	第180區	53号住居跡	128
第119區	30号住居跡掘り方	93	第181區	53号住居跡礎	129
第120區	30号住居跡礎	94	第182區	53号住居跡出土遺物	129
第121區	30号住居跡出土遺物	94	第183區	54号住居跡	130
第122區	31号住居跡	95	第184區	54号住居跡掘り方	130
第123區	31号住居跡出土遺物(1)	95	第185區	54号住居跡礎	130
第124區	31号住居跡出土遺物(2)	96	第186區	54号住居跡出土遺物	131
第125區	32号住居跡	97	第187區	55号住居跡	132
第126區	32号住居跡出土遺物	97	第188區	55号住居跡出土遺物	132
第127區	33号住居跡	98	第189區	56号住居跡	133
第128區	33号住居跡貯藏穴	99	第190區	56号住居跡掘り方	134
第129區	33号住居跡礎	99	第191區	56号住居跡礎	134
第130區	33号住居跡出土遺物(1)	99	第192區	56号住居跡出土遺物	135
第131區	33号住居跡出土遺物(2)	100	第193區	57号住居跡	136
第132區	34号住居跡	101	第194區	57号住居跡掘り方	136
第133區	34号住居跡礎	101	第195區	57号住居跡礎	137
第134區	34号住居跡出土遺物	102	第196區	57号住居跡出土遺物	137
第135區	36号住居跡	102	第197區	58号住居跡	138
第136區	36号住居跡礎	103	第198區	58号住居跡礎	139
第137區	36号住居跡出土遺物	103	第199區	58号住居跡出土遺物(1)	139
第138區	37号住居跡	104	第200區	58号住居跡出土遺物(2)	140
第139區	37号住居跡出土遺物	104	第201區	59号住居跡	141
第140區	38号住居跡	105	第202區	59号住居跡出土遺物	141
第141區	38号住居跡貯藏穴	106	第203區	60号住居跡(1)	143
第142區	38号住居跡礎	106	第204區	60号住居跡(2)	144
第143區	38号住居跡出土遺物	106	第205區	60号住居跡礎	144
第144區	39号住居跡	107	第206區	60号住居跡掘り方	144
第145區	39号住居跡貯藏穴	108	第207區	60号住居跡出土遺物	145
第146區	39号住居跡掘り方	108	第208區	61号住居跡	146
第147區	39号住居跡礎	108	第209區	61号住居跡貯藏穴	147
第148區	39号住居跡出土遺物(1)	108	第210區	61号住居跡礎	147
第149區	39号住居跡出土遺物(2)	109	第211區	61号住居跡掘り方	147
第150區	40号住居跡	110	第212區	61号住居跡出土遺物	148
第151區	40号住居跡出土遺物	110	第213區	62号住居跡	150
第152區	41号住居跡	111	第214區	62号住居跡礎	150
第153區	41号住居跡出土遺物(1)	111	第215區	62号住居跡掘り方	151
第154區	41号住居跡礎	112	第216區	62号住居跡出土遺物	151
第155區	41号住居跡出土遺物(2)	112	第217區	63号住居跡	152
第156區	41号住居跡出土遺物(3)	113	第218區	63号住居跡掘り方	152
第157區	42号住居跡	114	第219區	63号住居跡礎 1	152
第158區	42号住居跡礎	115	第220區	63号住居跡礎 2	153
第159區	42号住居跡出土遺物	115	第221區	63号住居跡出土遺物	153
第160區	44号住居跡出土遺物	115	第222區	64号住居跡	154
第161區	44号住居跡	116	第223區	64号住居跡出土遺物(1)	154
第162區	44号住居跡礎	116	第224區	64号住居跡	155
第163區	48号住居跡	117	第225區	64号住居跡出土遺物(2)	155
第164區	48号住居跡掘り方	118	第226區	65号住居跡	156
第165區	48号住居跡出土遺物	118	第227區	66号住居跡	156
第166區	49号住居跡	119	第228區	67号住居跡	157
第167區	49号住居跡掘り方	119	第229區	67号住居跡礎	158
第168區	49号住居跡礎	120	第230區	67号住居跡出土遺物(1)	158
第169區	49号住居跡出土遺物	120	第231區	67号住居跡出土遺物(2)	159
第170區	50号住居跡	121	第232區	67号住居跡出土遺物(3)	160
第171區	50号住居跡礎	122	第233區	68号住居跡	161
第172區	50号住居跡出土遺物	122	第234區	68号住居跡掘り方	161
第173區	51号住居跡	123	第235區	68号住居跡礎	162

第236图	68号住居跡出土遺物(1)	162	第298图	89号住居跡出土遺物	195
第237图	68号住居跡出土遺物(2)	163	第299图	90号住居跡	196
第238图	69号住居跡	164	第300图	90号住居跡出土遺物	196
第239图	69号住居跡竈	164	第301图	94号住居跡	197
第240图	69号住居跡出土遺物	165	第302图	94号住居跡竈	198
第241图	70号住居跡	166	第303图	94号住居跡掘り方	198
第242图	70号住居跡竈1	166	第304图	94号住居跡出土遺物(1)	198
第243图	70号住居跡竈2	167	第305图	94号住居跡出土遺物(2)	199
第244图	70号住居跡出土遺物	167	第306图	95号住居跡	200
第245图	71号住居跡	168	第307图	95号住居跡竈	201
第246图	71号住居跡出土遺物	168	第308图	95号住居跡出土遺物	201
第247图	72号住居跡	169	第309图	97号住居跡	202
第248图	72号住居跡掘り方	169	第310图	97号住居跡竈	202
第249图	72号住居跡出土遺物(1)	169	第311图	97号住居跡出土遺物	202
第250图	72号住居跡出土遺物(2)	170	第312图	98号住居跡	203
第251图	73号住居跡	170	第313图	98号住居跡竈	204
第252图	73号住居跡掘り方	170	第314图	98号住居跡掘り方	204
第253图	73号住居跡竈	171	第315图	98号住居跡出土遺物(1)	204
第254图	73号住居跡出土遺物	171	第316图	98号住居跡出土遺物(2)	205
第255图	74号住居跡	172	第317图	99号住居跡	206
第256图	74号住居跡掘り方	172	第318图	99号住居跡掘り方	206
第257图	74号住居跡出土遺物	172	第319图	99号住居跡竈	207
第258图	75号住居跡	173	第320图	99号住居跡出土遺物	207
第259图	76号住居跡	173	第321图	100号住居跡	208
第260图	76号住居跡掘り方	174	第322图	100号住居跡出土遺物	208
第261图	76号住居跡出土遺物	174	第323图	101号住居跡	209
第262图	77号住居跡	175	第324图	103号住居跡	209
第263图	77号住居跡掘り方	175	第325图	103号住居跡出土遺物	209
第264图	77号住居跡出土遺物(1)	176	第326图	105号住居跡	210
第265图	77号住居跡出土遺物(2)	177	第327图	105号住居跡掘り方	210
第266图	78号住居跡	178	第328图	105号住居跡竈	210
第267图	78号住居跡掘り方	178	第329图	105号住居跡出土遺物	211
第268图	78号住居跡竈	179	第330图	106号住居跡	211
第269图	78号住居跡出土遺物	179	第331图	106号住居跡出土遺物	212
第270图	79号住居跡	180	第332图	107号住居跡	212
第271图	79号住居跡竈	181	第333图	108号住居跡出土遺物	213
第272图	79号住居跡出土遺物	181	第334图	108号住居跡	213
第273图	82号住居跡	182	第335图	109号住居跡	214
第274图	82号住居跡竈	182	第336图	109号住居跡出土遺物	214
第275图	82号住居跡出土遺物	182	第337图	110号住居跡	215
第276图	83号住居跡	183	第338图	111号住居跡	215
第277图	83号住居跡竈	184	第339图	112号住居跡	216
第278图	83号住居跡掘り方	184	第340图	113号住居跡	217
第279图	83号住居跡出土遺物	184	第341图	113号住居跡掘り方	218
第280图	84号住居跡	185	第342图	113号住居跡出土遺物(1)	218
第281图	84号住居跡出土遺物	185	第343图	113号住居跡竈	219
第282图	84号住居跡竈	186	第344图	113号住居跡出土遺物(2)	219
第283图	84号住居跡掘り方	186	第345图	114号住居跡	220
第284图	85号住居跡	186	第346图	114号住居跡竈	221
第285图	85号住居跡掘り方	186	第347图	114号住居跡出土遺物	221
第286图	85号住居跡竈	187	第348图	115号住居跡	222
第287图	85号住居跡出土遺物(1)	187	第349图	115号住居跡出土遺物	222
第288图	85号住居跡出土遺物(2)	188	第350图	115号住居跡竈	223
第289图	86号住居跡	189	第351图	116号住居跡	224
第290图	86号住居跡竈	189	第352图	116号住居跡出土遺物	224
第291图	86号住居跡出土遺物	190	第353图	117号住居跡	225
第292图	87号住居跡	191	第354图	117号住居跡掘り方	225
第293图	87号住居跡竈	191	第355图	117号住居跡出土遺物	225
第294图	87号住居跡出土遺物	192	第356图	118号住居跡	226
第295图	88号住居跡	193	第357图	118号住居跡竈	226
第296图	88号住居跡出土遺物	193	第358图	118号住居跡出土遺物	227
第297图	89号住居跡	194	第359图	120号住居跡	227

第360图	120号住居跡出土遺物	228
第361图	121号住居跡	228
第362图	121号住居跡出土遺物	228
第363图	122号住居跡	229
第364图	122号住居跡出土遺物(1)	230
第365图	122号住居跡出土遺物(2)	231
第366图	123号住居跡	232
第367图	123号住居跡出土遺物	232
第368图	124号住居跡	233
第369图	124号住居跡掘り方	233
第370图	124号住居跡電	234
第371图	124号住居跡出土遺物(1)	234
第372图	124号住居跡出土遺物(2)	235
第373图	125号住居跡電	236
第374图	126号住居跡	236
第375图	126号住居跡出土遺物	237
第376图	1号獨立柱建物跡	237
第377图	2号獨立柱建物跡	238
第378图	2号獨立柱建物跡出土遺物	239
第379图	3号獨立柱建物跡	240
第380图	3号獨立柱建物跡出土遺物	240
第381图	4号獨立柱建物跡	241
第382图	4号獨立柱建物跡出土遺物	241
第383图	5号獨立柱建物跡	242
第384图	6号獨立柱建物跡	243
第385图	6号獨立柱建物跡出土遺物	244
第386图	7号獨立柱建物跡	245
第387图	8号獨立柱建物跡	246
第388图	9・10号獨立柱建物跡	247
第389图	11号獨立柱建物跡	248
第390图	12号獨立柱建物跡	249
第391图	13号獨立柱建物跡	250
第392图	14号獨立柱建物跡	251
第393图	15号獨立柱建物跡	251
第394图	16号獨立柱建物跡	252
第395图	17号獨立柱建物跡	253
第396图	18号獨立柱建物跡	254
第397图	19・20号獨立柱建物跡(1)	255
第398图	19・20号獨立柱建物跡(2)	256
第399图	21号獨立柱建物跡	257
第400图	22号獨立柱建物跡	258
第401图	23号獨立柱建物跡	259
第402图	1号柱穴列	261・262
第403图	4・5号溝跡	263
第404图	6号溝跡出土遺物	264
第405图	7号溝跡	264
第406图	7号溝跡出土遺物	265
第407图	9号溝跡	265
第408图	9号溝跡出土遺物(1)	265
第409图	9号溝跡出土遺物(2)	266
第410图	11号溝跡	266
第411图	12号溝跡出土遺物(1)	267
第412图	12号溝跡出土遺物(2)	268
第413图	6・12号溝跡	269・270
第414图	13号溝跡	272
第415图	13号溝跡出土遺物	272
第416图	14号溝跡	272
第417图	15号溝跡	273
第418图	15号溝跡出土遺物(1)	273
第419图	15号溝跡出土遺物(2)	274
第420图	21・22号溝跡	275・276
第421图	21号溝跡出土遺物	277

第422图	22号溝跡出土遺物	278
第423图	23号溝跡	278
第424图	23号溝跡出土遺物(1)	278
第425图	23号溝跡出土遺物(2)	279
第426图	24号溝跡	279
第427图	24号溝跡出土遺物	280
第428图	25号溝跡	281
第429图	25号溝跡出土遺物	281
第430图	26号溝跡	282
第431图	26号溝跡出土遺物	282
第432图	27号溝跡	282
第433图	28号溝跡	282
第434图	29号溝跡	283
第435图	29号溝跡出土遺物(1)	284
第436图	29号溝跡出土遺物(2)	284
第437图	30号溝跡	286
第438图	30号溝跡出土遺物	286
第439图	31号溝跡	287
第440图	31号溝跡出土遺物	287
第441图	32号溝跡	287
第442图	32号溝跡出土遺物	288
第443图	33号溝跡	288
第444图	34号溝跡	289
第445图	35号溝跡	289
第446图	35号溝跡出土遺物(1)	289
第447图	35号溝跡出土遺物(2)	290
第448图	36号溝跡出土遺物	290
第449图	36号溝跡	291
第450图	37号溝跡	292
第451图	38号溝跡	292
第452图	58号溝跡	293
第453图	1号井戸跡	293
第454图	2号井戸跡	294
第455图	2号井戸跡出土遺物	295
第456图	4号土坑跡	295
第457图	4号土坑跡出土遺物	295
第458图	5号土坑跡	296
第459图	5号土坑跡出土遺物	296
第460图	6号土坑跡	296
第461图	7号土坑跡	297
第462图	8号土坑跡	297
第463图	10号土坑跡	297
第464图	12号土坑跡	298
第465图	20号土坑跡	298
第466图	21号土坑跡	298
第467图	24号土坑跡	299
第468图	25・29号土坑跡	299
第469图	33号土坑跡	300
第470图	34号土坑跡	300
第471图	35号土坑跡	300
第472图	36号土坑跡	301
第473图	36号土坑跡出土遺物	301
第474图	37号土坑跡	301
第475图	38号土坑跡	302
第476图	40号土坑跡	302
第477图	44号土坑跡	302
第478图	44号土坑跡出土遺物	302
第479图	45号土坑跡	303
第480图	45号土坑跡出土遺物	303
第481图	47号土坑跡	303
第482图	48・89号土坑跡	304
第483图	49号土坑跡	304



第484區	50号土坑跡	305	第546區	516号土坑跡	328
第485區	51号土坑跡	305	第547區	516号土坑跡出土遺物	328
第486區	55号土坑跡	305	第548區	517号土坑跡	328
第487區	56号土坑跡	305	第549區	519号土坑跡	329
第488區	58・59・885号土坑跡	306	第550區	520号土坑跡	329
第489區	70号土坑跡	307	第551區	521号土坑跡	330
第490區	72号土坑跡	307	第552區	522号土坑跡	330
第491區	74号土坑跡	308	第553區	534号土坑跡	330
第492區	75号土坑跡	308	第554區	534号土坑跡出土遺物	330
第493區	76・77号土坑跡	309	第555區	577号土坑跡	331
第494區	77号土坑跡出土遺物	309	第556區	646・647号土坑跡	331
第495區	78号土坑跡	309	第557區	646号土坑跡出土遺物	332
第496區	89・90・171号土坑跡	310	第558區	681号土坑跡	332
第497區	171号土坑跡出土遺物	311	第559區	695号土坑跡	332
第498區	100-102号土坑跡	312	第560區	691号土坑跡	333
第499區	128・129号土坑跡	312	第561區	702号土坑跡	334
第500區	129号土坑跡出土遺物	313	第562區	706号土坑跡	334
第501區	136号土坑跡	313	第563區	706号土坑跡出土遺物	334
第502區	137号土坑跡	313	第564區	724号土坑跡	334
第503區	138号土坑跡	314	第565區	745号土坑跡	335
第504區	140号土坑跡	314	第566區	745号土坑跡出土遺物(1)	335
第505區	141号土坑跡	315	第567區	745号土坑跡出土遺物(2)	336
第506區	142号土坑跡	315	第568區	748号土坑跡	338
第507區	143号土坑跡	315	第569區	760号土坑跡	338
第508區	143号土坑跡出土遺物	315	第570區	751・752号土坑跡	339
第509區	145号土坑跡	315	第571區	758・759号土坑跡	339
第510區	148号土坑跡	316	第572區	758号土坑跡出土遺物	340
第511區	160・165号土坑跡	316	第573區	762号土坑跡	340
第512區	184号土坑跡	317	第574區	768号土坑跡	340
第513區	213号土坑跡	317	第575區	770号土坑跡	341
第514區	214号土坑跡	317	第576區	768号土坑跡	341
第515區	219号土坑跡	318	第577區	771号土坑跡	341
第516區	251号土坑跡	318	第578區	774号土坑跡	342
第517區	263-265号土坑跡	319	第579區	774号土坑跡出土遺物	342
第518區	266号土坑跡	319	第580區	815号土坑跡	342
第519區	267号土坑跡	319	第581區	815号土坑跡出土遺物	343
第520區	274号土坑跡	320	第582區	816号土坑跡	343
第521區	274号土坑跡出土遺物	320	第583區	820号土坑跡	343
第522區	275号土坑跡	320	第584區	821号土坑跡	344
第523區	275号土坑跡出土遺物	320	第585區	828号土坑跡	344
第524區	296号土坑跡	321	第586區	832号土坑跡	345
第525區	297号土坑跡	321	第587區	848号土坑跡	345
第526區	299号土坑跡(1)	321	第588區	849号土坑跡	345
第527區	299号土坑跡(2)	322	第589區	850号土坑跡	345
第528區	300号土坑跡	322	第590區	850号土坑跡出土遺物	346
第529區	309号土坑跡	322	第591區	852号土坑跡	346
第530區	312号土坑跡	323	第592區	854号土坑跡	346
第531區	313号土坑跡	323	第593區	854号土坑跡出土遺物	347
第532區	345号土坑跡	323	第594區	856号土坑跡	347
第533區	345号土坑跡出土遺物	323	第595區	858号土坑跡	347
第534區	346号土坑跡	324	第596區	859号土坑跡	348
第535區	382号土坑跡	324	第597區	864号土坑跡	348
第536區	383号土坑跡	325	第598區	894号土坑跡	349
第537區	384号土坑跡	325	第599區	896号土坑跡	349
第538區	388号土坑跡	325	第600區	78区Q-13・14-R-13・14-S-13Gr.付近	
第539區	390号土坑跡	325	整地遺構(1)		350
第540區	391・392号土坑跡	326	第601區	78区Q-13・14-R-13・14-S-13Gr.付近	
第541區	416号土坑跡	327	整地遺構(2)		351
第542區	461号土坑跡	327	第602區	78区N-11・12-O-11・12-P-11・12Gr.付近	
第543區	478号土坑跡	327	整地遺構(1)		351
第544區	513号土坑跡	327	第603區	78区N-11・12-O-11・12-P-11・12Gr.付近	
第545區	515号土坑跡	327	整地遺構(2)		352

第604図	78区整地土出土遺物(1)	352
第605図	78区整地土出土遺物(2)	353
第606図	78区整地土出土遺物(3)	354
第607図	79区整地土出土遺物(1)	355
第608図	79区整地土出土遺物(2)	356
第609図	グリッド出土遺物(1)	357
第610図	グリッド出土遺物(2)	358
第611図	グリッド出土遺物(3)	359
第612図	グリッド出土遺物(4)	360
第613図	グリッド出土遺物(5)	361
第614図	グリッド出土遺物(6)	362
第615図	グリッド出土遺物(7)	363
第616図	グリッド出土遺物(8)	364
第617図	大八木屋敷暫定範囲	368
第618図	陸軍迅速測図にみえる大八木屋敷 (陸軍迅速測図「金古駅」「高崎」 1/20000)	369
第619図	大八木屋敷(山崎一氏 1978年9月作成、岡氏著 『群馬県古墳遺址の研究補遺篇上巻』1979年より)	369
第620図	1号溝跡断面	371
第621図	1号溝跡出土遺物	372
第622図	2号溝跡出土遺物	372
第623図	2号溝跡断面	373-374
第624図	3号溝跡断面(1)	375-376
第625図	2・3号溝跡断面	375-376
第626図	3号溝跡出土遺物	377
第627図	3号溝跡断面(2)	377
第628図	57号溝跡	378
第629図	扇状遺構	379
第630図	扇外郭南側張り出し部	380
第631図	1号土壌墓	381
第632図	2号土壌墓	381
第633図	3号土壌墓	382
第634図	4号土壌墓	382
第635図	3号土壌墓出土遺物	382
第636図	5号土壌墓	383
第637図	6号土壌墓	383
第638図	7号土壌墓	384
第639図	8号土壌墓	384
第640図	9号土壌墓	385
第641図	10号土壌墓	385
第642図	器形分類	386
第643図	各タイプの法量分布	387
第644図	67号住居出土の土器器坏と法量	388
第645図	暗文土器集成	389

#### 付図

付図1.	大八木屋敷遺跡78区第1期水田跡
付図2.	大八木屋敷遺跡78区第2期水田跡
付図3.	大八木屋敷遺跡79区第1期水田跡
付図4.	大八木屋敷遺跡79区第2期水田跡
付図5.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅲ期水田跡
付図6.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅳ期水田跡
付図7.	大八木屋敷遺跡78区第1期水田跡 エレヴェーション
付図8.	大八木屋敷遺跡78区第Ⅱ期水田跡 エレヴェーション(1)
付図9.	大八木屋敷遺跡78区第Ⅱ期水田跡 エレヴェーション(2)
付図10.	大八木屋敷遺跡79区第1期水田跡 エレヴェーション
付図11.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅱ期水田跡

	エレヴェーション(1)
付図12.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅱ期水田跡 エレヴェーション(2)
付図13.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅲ期水田跡 エレヴェーション
付図14.	大八木屋敷遺跡79区第Ⅳ期水田跡 エレヴェーション
付図15.	大八木屋敷遺跡78区獨立建物跡群 エレヴェーション
付図16.	大八木屋敷遺跡中世居館跡跡 (1・2・3号溝跡)

#### 表

表1.	北陸新幹線開通直前一覧表	9
表2.	大八木屋敷遺跡周辺の主な遺跡一覧表	21
表3.	大八木屋敷遺跡のテフラ河定結果	25

# 写真图版目次

## PL

### 1. 大八木原敷遺跡周辺航空写真(昭和46年)

1. I 期水田跡空撮
3. I 期水田跡空撮
4. I 期水田跡
5. I 期水田跡
6. I 期水田跡
7. I 期水田跡
8. I 期水田跡
9. II 期水田跡空撮
10. II 期水田跡空撮
11. II 期水田跡
12. II 期水田跡
13. II 期水田跡
14. III 期水田跡空撮
15. III 期水田跡
16. III 期水田跡・IV 期水田跡空撮
17. IV 期水田跡空撮, 1号住居跡
18. 2・3・4号住居跡
19. 4・5・6号住居跡
20. 6・7・8・9号住居跡
21. 9・10・11号住居跡
22. 11・12号住居跡
23. 13・14・15号住居跡
24. 15・16・17号住居跡
25. 17・18・19号住居跡
26. 19・20・21・22号住居跡
27. 22・23・24号住居跡
28. 24・25・26号住居跡
29. 26・28・29号住居跡
30. 29・30・31号住居跡
31. 32・33・34・36・37号住居跡
32. 38・39号住居跡
33. 41・42・44号住居跡
34. 48・49・50・51・52号住居跡
35. 52・53・54号住居跡
36. 54・55・56号住居跡
37. 56・57・58号住居跡
38. 58・59・60・61号住居跡
39. 61・62・63・64号住居跡
40. 64・65・66・67号住居跡
41. 67・68・69・70号住居跡
42. 70・71・72・73・74・75・101号住居跡
43. 76・77・78・79・82号住居跡
44. 82・83・84・85・86号住居跡
45. 86・87・88・89・90・94号住居跡
46. 94・95号住居跡
47. 97・98号住居跡
48. 99・100・103・106・107号住居跡
49. 108・109・110・112号住居跡
50. 113・114・115号住居跡
51. 116・117・118・120・121・122・123号住居跡
52. 124・125・126号住居跡、79区竪立柱建物跡全景、1号竪立柱建物跡
53. 1・2・3・4・5号竪立柱建物跡
54. 6・7・8・9・10号竪立柱建物跡
55. 9・10・11・12~16号竪立柱建物跡、官衛城
56. 19・20号竪立柱建物跡、1号柱穴列跡
57. 門上層, 21・22・23号竪立柱建物跡、4・5・6・7・9号溝跡
58. 11・12号溝跡
59. 12・14・15号溝跡
60. 15号溝跡
61. 21・22・23・24・25号溝跡
62. 27・29・30号溝跡
63. 31・32・33・34・35・36号溝跡
64. 37・38号溝跡、1・2号井戸跡、4・8号土坑跡
65. 10・20・21・25・33・34・35・36号土坑跡
66. 37・38・44・45・46・47・48・49・50号土坑跡
67. 51・55・56・72・74・75・76・77号土坑跡
68. 77・78・128・129・136・140・145号土坑跡
69. 160・165・171・184・251・264・272・275・345号土坑跡
70. 345・346・461・513・515・519号土坑跡
71. 520・521・522・534・646・647・681・685号土坑跡
72. 702・706・724・725・726・727・745・748・751・752・758・760・762号土坑跡
73. 768・770・771・774・815・832・848・849号土坑跡
74. 850・852・856・858・859号土坑跡、塾地遺構
75. 塾地遺構、グリッド遺物出土状況
76. 1・2・3号溝跡
77. 1・2・3号溝跡、南側掘出部
78. 中世居館跡
79. 1号溝跡
80. 1・2号溝跡
81. 2・3号溝跡、南側谷
82. 2・3号溝跡、南側谷
83. 3号溝跡、1・2・3・4・5・6号土壇基
84. 7・8・9・10号土壇基、東壁土層断面
85. 1・2・3・4・5・6号住居跡出土遺物
86. 6・7・8・9・10・11号住居跡出土遺物
87. 12・14・15・17号住居跡出土遺物
88. 17・18・19・21号住居跡出土遺物
89. 21・23・24号住居跡出土遺物
90. 24・25・26・28号住居跡出土遺物
91. 29・30・31号住居跡出土遺物
92. 31・32・33・34・36・37号住居跡出土遺物
93. 38・39・40・41号住居跡出土遺物
94. 41・42・44・48・49号住居跡出土遺物
95. 49・50・51・52号住居跡出土遺物
96. 52・53・54・55号住居跡出土遺物
97. 55・56・57・58号住居跡出土遺物
98. 58・59・60・61号住居跡出土遺物
99. 61・62・63号住居跡出土遺物
100. 63・64・67号住居跡出土遺物
101. 67・68号住居跡出土遺物
102. 68・69・70・71・72・73号住居跡出土遺物
103. 73・74・76・77号住居跡出土遺物
104. 77・78・79・82・83号住居跡出土遺物
105. 83・85・86・87号住居跡出土遺物
106. 87・88・89・90号住居跡出土遺物
107. 90・94・95・98号住居跡出土遺物
108. 98・99・100・103・105号住居跡出土遺物
109. 105・106・108・109・113・114・115・117号住居跡出土遺物
110. 117・118・120・121・122号住居跡出土遺物
111. 122・123・124号住居跡出土遺物

- 112. 124号住居跡、2・3・4・6号掘立柱建物跡、6・7・9・12号溝跡出土遺物
- 113. 12号溝跡出土遺物
- 114. 12・13・15号溝跡出土遺物
- 115. 15・21・22・23・24号溝跡出土遺物
- 116. 24・25・26・29号溝跡出土遺物
- 117. 29・30・31・32号溝跡出土遺物
- 118. 1・2・3・35・36号溝跡、2号井戸跡、4号土坑跡出土遺物
- 119. 5・36・44・45・77・129・143・171・274・275・345・516・534・646号土坑跡出土遺物
- 120. 646・706・745号土坑跡出土遺物
- 121. 745・758・768・774・815・850・854号土坑跡出土遺物
- 122. 78区整地遺構出土遺物
- 123. 78・79区整地遺構出土遺物
- 124. 79区整地遺構、グリッド出土遺物
- 125. グリッド出土遺物
- 126. グリッド出土遺物
- 127. グリッド出土遺物
- 128. グリッド出土遺物

## 第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

### 第1節 発掘調査に至る経緯

北陸新幹線は、群馬県高崎市から石川県小松市に至る総延長373kmを結ぶ高速旅客鉄道路線である。この路線の計画は、昭和45年（1970）制定の全国新幹線鉄道整備法に基づいて、昭和47年（1972）6月に基本計画が策定され、昭和48年（1973）11月に整備計画が決定となり、同時に運輸大臣より建設の指示が下された。きびしい自然条件等の要因により、高速交通網整備がたち遅れていた北信・北陸方面と首都圏とを直結し、両地域の政治・経済・文化各方面の密接な連関を図ることを目的とし、着工優先区間とされたのである。昭和53年（1978）には「整備五新幹線の具体的実施計画について」が、新幹線整備関係関係会議において承認され、ルートの概要は昭和57年（1982）3月に公表された。

群馬県内は、高崎駅にて上越新幹線と分岐する、高崎駅一軽井沢駅間の42.1kmであり、高崎市・箕郷町・榛名町・倉沢村・安中市・松井田町の2市3町1村を通過することになった。すでに昭和55年（1980）10月には、計画地域内の文化財分布調査の依頼が県教育委員会あてになされており、翌昭和56年（1981）2月には「北陸新幹線地域環境調査報告書（文化財）」が日本鉄道建設公団に提出された。それによって群馬県西部の平野部から丘陵地にかけて、縄文時代から平安時代にかけての埋蔵文化財包蔵地、墳墓、竈跡、中近世の城館城郭跡・神社仏閣・石造物等360ヶ所の文化財が確認されたのである。

昭和57年（1982）3月の路線及び設置予定駅の発表後、各方面の動きはにわかに活発化してきた。同年12月に北陸新幹線環境影響評価報告書案が群馬県知事宛送付されると、この縦覧及び地元説明が早くも同12月10日より実施され、翌昭和58年（1983）2月には県知事意見が日本鉄道建設公団宛送付された。路線発表直後から沿線自治体からの新駅設置要望が強くあがり、知事・議会の一致した要望として県議会での新駅設置趣旨採択等の経緯を経て、昭和61年（1986）5月には新安中駅（仮称）設置と路線の微修正に伴う修正環境評価報告書案が群馬県知事宛に提示された。この報告書では、沿線地域の文化財交差か所を11か所あげ、文化財の保護・保存については関係各機関と協議して措置する等の事項が示された。同年8月、この報告書案に対する知事意見書が鉄道建設公団宛送付され、文化財の保護・保存については、トンネル掘削の土捨場、工事用道路並びに工事用施設についても、詳細な分布調査の実施等、路線と同様の措置を講じるよう求めた。

平成元年（1989）に入ると、鉄道建設公団と県教育委員会との間での文化財の扱いに関する協議が本格化した。同年7月14日に行われた鉄道建設公団高崎建設局と県教育委員会文化財保護課との調整会議の席上、

- (1) 発掘に関しては、日本鉄道建設公団と文化財保護委員会が昭和41年に取り交わした覚書に基づくこと。
- (2) 埋蔵文化財の重要度、規模等に応じた調査体制を確保すること。
- (3) 今後、沿線の分布調査を実施すること。
- (4) 発掘調査は、公団と県教育委員会が委託契約を結び、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団と再委託して実施すること。
- (5) 公団と県教育委員会との協定書は、発掘調査と整理事業について各々別途に結ぶこと。

等の事項についての協議が行われている。翌平成2年（1990）2月、県教育委員会は、北陸新幹線建設予定地域内の埋蔵文化財現地調査を、関連市町の協力を得て実施した。この調査結果は、同年4月、鉄道建設公

## 第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

岡崎建設局長に「北陸新幹線（群馬県内）地域埋蔵文化財一覧表（付地図）」として回答され、それによって遺跡総数32ヶ所（高崎市7ヶ所・箕郷町内4ヶ所・榛名町内11ヶ所・安中市内10ヶ所）があげられた。

平成2年（1990）11月26日、日本鉄道建設公団岡崎建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の実施に関する協定書」が締結された。同協定では、発掘調査対象地、発掘調査期間、整理事業、委託契約方法、調査経費等について各種の取り決めを行い、これによって発掘調査開始にむけての態勢が固まった。

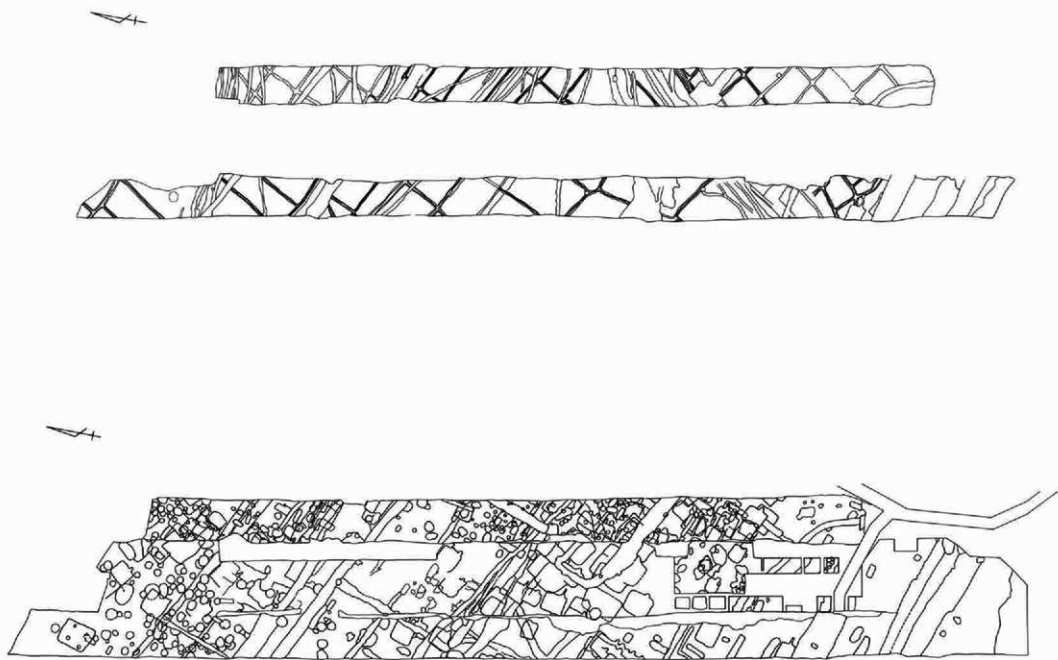
平成3年（1991）2月、高崎市行力町の行力春名社遺跡の発掘調査が（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によって着手され、以後4年半に及ぶ群馬県内における北陸新幹線地域埋蔵文化財調査事業の幕が切って落された。

同年4月からの平成3年度には、高崎市内で本遺跡、安中市内で中秋間甲木ノ巣谷津Ⅰ遺跡の2遺跡が新たに調査着手され、年度頭初には行力春名社遺跡を含めて調査班3班・調査担当者9名の体制となり、北陸新幹線地域の埋蔵文化財発掘調査が本格的にスタートした。同年7月には新たに高崎市浜川町の御布呂遺跡の調査にも着手され、安中市内でも東上秋間稲貝戸遺跡、東上秋間神水遺跡、中秋間中島遺跡、東上秋間笹田遺跡と順次調査が進められていった。またこの年の6月には、1998年の冬季オリンピックの開催地が長野市に決定し、オリンピックの開催までに新幹線を開業することが至上命令とされるようになったこともあって、建設工事及びそれに先立つ埋蔵文化財発掘調査の迅速な遂行により一層の拍車がかげられることになった。しかしながらその一方で、公団側の用地買収も難航し、発掘調査計画にも大きく影響することになったのである。

本遺跡は、既存の上越新幹線と新設される北陸新幹線との分岐点のすぐ北側に隣接する場所に位置している。両新幹線にはさまれた土地は鉄道建設公団によって買い上げられ、その南半分は台形状の土地には起電区分所の建設が予定されており、路線とそれに付随する側道部分と併せて発掘調査の対象とされた。北半分は残地として構造物を建てる予定はないということで、調査対象からは外されることになった。

本遺跡の起電区分所部分のすぐ東側には、上越新幹線の路線及び側道が接しているが、この部分については、昭和50年（1975）4月～昭和51年（1976）2月（第一次調査）、昭和58年（1983）1月～8月（第二次・第三次調査）にわたって群馬県教育委員会文化財保護課及びその後発足した当事業団によって発掘調査が行われた。上越新幹線の遺跡名は「融通寺遺跡」であり、本遺跡に隣接する部分は「S25地区（県道北3～5区）に相当している。当然のことながらその際に検出された各種遺構に接続する部分が検出されるものと、調査着手前から隣接既調査区内遺構の検討が課題となっていた。なお、上越新幹線融通寺遺跡「S25区では、古墳時代後期の水田跡1面（本遺跡Ⅱ期水田に相当）、奈良・平安時代の掘立柱建物跡4棟、堅穴住居跡175棟、溝跡2条、土坑跡349基、中世の堀跡1条、溝跡1条、井戸跡2基、中近世の土壇墓8基、馬土壇墓1基、等の大量の遺構が検出されており、成果は、「融通寺遺跡—上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書第15集」として平成3年（1991）3月に当事業団から刊行されている。

本遺跡の調査は、平成5年（1993）3月に終了したが、北陸新幹線地域の埋蔵文化財発掘調査は平成5・6年度にピークを迎え、最高時は1年度中の調査ヶ所が17ヶ所にのぼることもあった。最終的には、高崎市・群馬町・箕郷町・榛名町・安中市の5市町35遺跡が調査され、平成7年10月、4年半にわたる発掘調査はすべて終了した。



0 15m

第1图 上越新幹線融通寺道跡J S25区道標全体図





## 第2節 発掘調査の方法

本遺跡は、日本鉄道建設公団が設定した北陸新幹線起点（高崎駅）距離程4km290mから4km450mまでの160mの区間にあたる新幹線の路線及び側道部分と、それに付随して設置される起電区分所の建設予定地を調査の対象とした。

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査事業では、これに関連する各遺跡の略号を統一して付すことにした。これは、名称の簡略化によって調査の効率化を図るとともに、同一事業における各遺跡の位置関係を明確にすることを目的としている。先述したように、本事業については、発掘調査着手前の平成2年（1990）4月に県教育委員会文化財保護課によって32ヶ所が調査対象遺跡としてあげられており、とりあえずこの調査着手以前に確定していた32遺跡を基準に、遺跡略号を付すことにした。遺跡略号は3桁の数字によって表記することにし、「Hokuriku -Sinkansen」の頭文字「HS」を冒頭に付して表記した。各数字については、

- (1) 3桁目を遺跡所在市町とし、高崎市…0、箕野町…1、榛名町…2、安中市…3で表記する。
- (2) 2桁目は同一市町内で高崎起点から安中方面に向かって順次123…と付す。
- (3) 1桁目は、すでに調査着手前に確定している遺跡については0を付し、調査開始後に数遺跡に分割されたり、あるいは確定していた遺跡と遺跡との間に試掘等の結果新たに遺跡が検出された場合に、調査開始順に順次123…と付していくことにした。

という意味を持たせた。本遺跡は「HS020」という略号が付された。3桁目の0は高崎市所在を、2桁目の2は高崎起点より数えて2番目の意をなし、1桁目の0は調査着手前にすでに確定された遺跡であることをそれぞれ意味している。

グリッド設定の方法については、当事業団がさきに刊行した『行方春名社遺跡—北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』（1994）に評述してあるので、詳細についてはそちらを参照していただきたいが、そこでも述べられているように、北陸新幹線地域の埋蔵文化財発掘調査事業では全調査対象地に統一して調査区画を設定する方法をとることにした。

区画設定にあたっては、国家座標に基づき、まず北陸新幹線建設に伴う発掘調査対象地全域をカバーする1km四方の大グリッドを設定した。これは、北陸新幹線の起点である高崎駅の南東、国家座標の $X = +35,000.0M$ ・ $Y = -73,000.0M$ の地点を起点となし、新幹線の路線沿いに、高崎駅から安中方面にむけて、1km四方の枠を順次25ヶ所に設定したもので、「地区」（大区画）と呼称することにした。

次いで、その1km四方の各地区の中を、一辺100mの区画で100等分し、この100m四方の中グリッドを「区」と呼称することにした。この「区」では、南東隅を起点に、東→西を優先し、南→北の順に1～100区まで設定した。

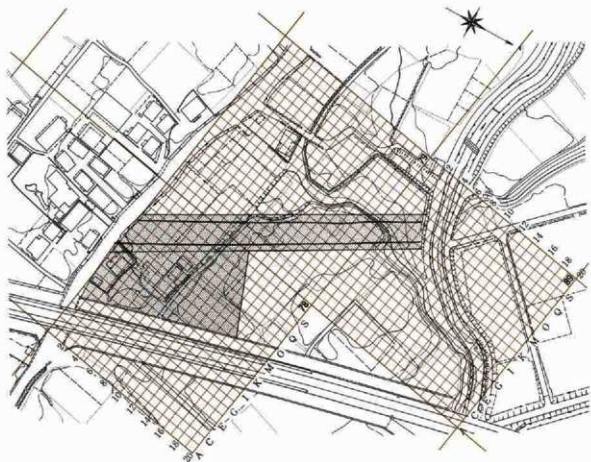
さらに、この100m四方の中グリッド各区の中を、一辺5mの小グリッドで400等分し、これを「グリッド」と呼称することにした。この「グリッド」では、「区」と同様に南東隅を起点とし、X軸にはアルファベットを用い東→西の順にA～T、Y軸には数字を用い南→北の順に1～20とし、その交点によって、A-1～T-20Gr.と称することにした。調査区内には、この小グリッドにあたる5mの方眼杭打ちを行った。

本遺跡の位置は、大グリッドではすべて「6地区」におさまり、中グリッドでは78・79・89区に相当している。グリッドと呼称する場合は、「6-78-0-13グリッド」という表現になる。このように呼称することによって、北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査対象地全域の中において、その地点が特定できることにな

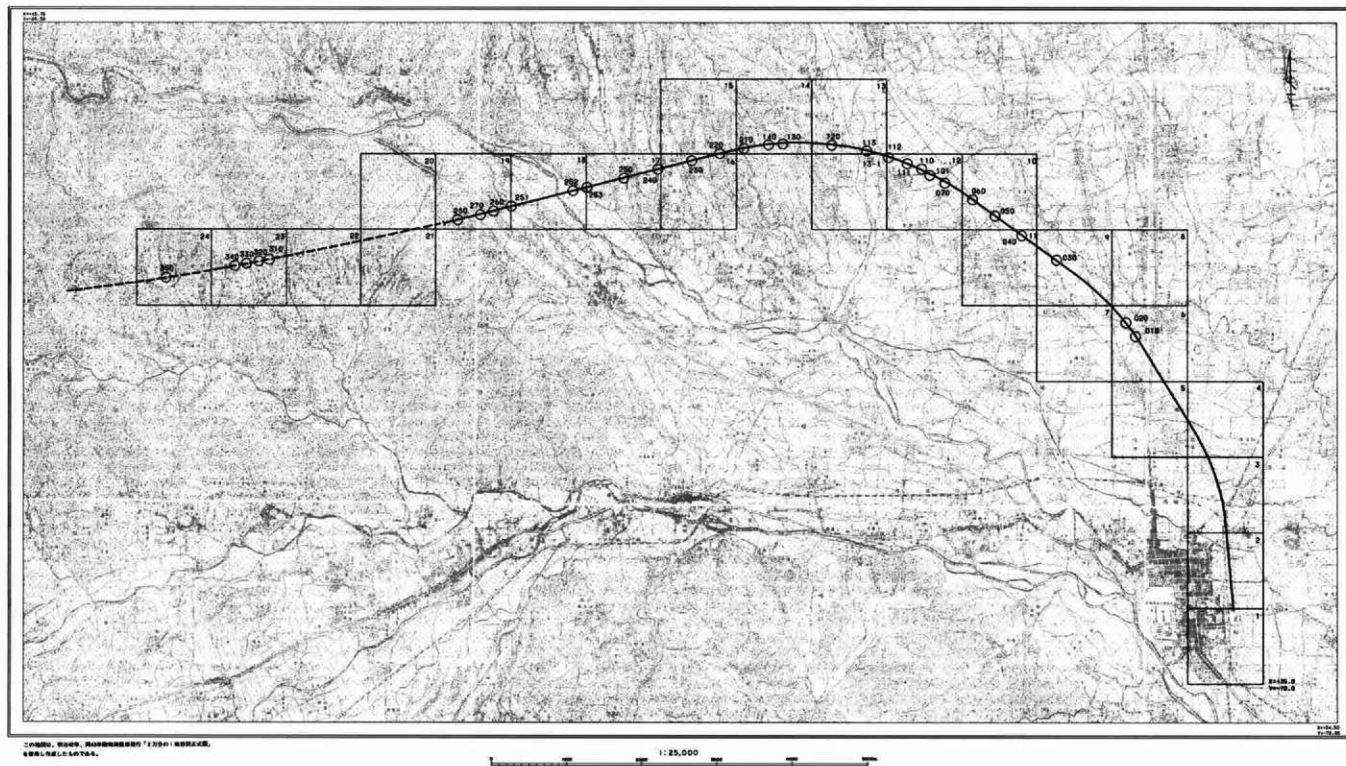
## 第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

る。なお、本遺跡においては、新幹線の路線及び側道部分は79区・89区、起電区分所部分は78区にはばあっている。但し、遺構番号等は遺跡内で統一して順次付しており、区毎に付すようなことはしていない。

本遺跡の発掘調査区は、路線・側道部分、起電区分所部分とも、南半の崖下低地部分と北半の台地上部分に分かれている。本遺跡は北陸新幹線地域の高崎市・箕郷町内の多くの遺跡で予測されていた所謂「泥流地帯」の遺跡ではないため、特段の安全対策措置を講ずることなく、従来通り、バックホーで表土を除去し、人力で遺構確認のための精査を行い、確認された遺構を発掘し、記録保存するという方法をとった。ただ、崖下の低地部分については、中世方形居館「大八木屋敷」跡の堀跡の検出が予想されており、上越新幹線建設に伴う融通寺遺跡の発掘調査時の所見から、深さ2～4mに及ぶとともに大量の湧水が予測され、何らかの安全対策上の措置を講ずる必要があった。特に平成4年度の調査では、上越新幹線建設時の調査区に隣接する位置での調査が予定されており、地表面からの深さが約4mにもなる上、かつての調査時の埋め戻し土砂崩落の危険性が予測されたのである。そこで平成4年(1992)9月1日に当該箇所を試掘してみたところ、予想通り、埋め戻し土砂の崩落が甚だしかったため、その後、数次の協議を経て、低地部分の東西南三方向にシートパイルを打設する安全対策工事を経た上で、堀の調査に着手することにした。なお、安全対策工事の経緯と施工については、次節に詳述する。



第2図 大八木屋敷遺跡グリッド設定図



第3図 北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査  
大グリッド設定図



表1 北陸新幹線関連遺跡一覧表

## 高崎市・群馬町

番号	遺跡名	略称名	IDコード	所在地	調査期間	表面積(m <sup>2</sup> )	内 容	摘 要	起点距離程(km)
1	融通寺	H S 010	00348	下小島町 字神戸	H4.4.1~ H5.3.31	5,582	古墳時代水田・溝、奈良時代溝、 平安時代水田、中世掘立柱建物・ 欄干・溝・井戸・墓坑・土坑	3面調査	4.05~4.28
2	大八木屋敷	H S 020	00336	大八木町 字融通寺	H3.4.1~ H5.3.31	6,880	古墳時代水田、奈良・平安時代 住居・掘立柱建物(官衙)・中 世方形石厨室・土塚墓	7面調査	4.29~4.45 起電区分所を含む。
3	芦田貝戸	H S 021	00338	浜川町字 芦田貝戸	H4.2.1~ H4.9.30	2,268	古墳時代水田、平安時代住居	3面調査	5.05~5.50
4	御寿呂	H S 030	00367	浜川町 字御寿呂	H3.7.1~ H6.12.31	3,484	古墳時代水田、奈良・平安時代 土坑、平安時代水田、中世掘立 柱建物・欄・井戸・土坑、近世 土坑	4面調査	5.50~5.70
5	芦田貝戸			浜川町字 芦田貝戸	H4.4.1~ H4.9.30	180	古墳時代水田、奈良・平安時代 溝	3面調査	東京電力鉄塔建 設関連
6	西下井出		00339	井出字 西下井出	H4.2.1~ H4.3.25	100	古墳時代水田、中世道	2面調査	東京電力鉄塔建 設関連
7	餅井貝戸	H S 031	00367	浜川町字 餅井貝戸	H6.6.1~ H6.12.31	6,032	古墳時代水田、平安時代水田、 近世溝	3面調査	5.70~6.00
8	浜川館	H S 040	00363	浜川町 字館	H5.6.1~ H6.3.31	5,455	古墳時代水田、平安時代住居・ 水田、中近世溝・土坑	6面調査	6.084~6.36
9	高田屋敷	H S 050	00368	浜川町 字高田	H5.6.1~ H6.3.31	8,034	古墳時代水田、平安時代水田、 中世掘立柱建物・井戸・墓・土 坑	6面調査	6.366~6.83
10	浜川長町	H S 060	00369	浜川町 字長町	H5.7.1~ H6.3.31	7,237	古墳時代住居・掘立柱建物・水 田、平安時代水田、中世溝・土 坑	5面調査	6.84~7.25
11	行力春名社	H S 070	00330	行力町 字春名社	H3.2.4~ H3.11.30	5,200	古墳時代住居・工所、奈良時代 溝、平安時代掘立柱建物・水田、 中世溝・土坑	3面調査	7.23~7.64

## 箕郷町

番号	遺跡名	略称名	IDコード	所在地	調査期間	表面積(m <sup>2</sup> )	内 容	摘 要	起点距離程(km)
12	下芝清水	H S 101	00359	下芝 字清水	H4.10.1~ H5.5.31	1,000	古墳時代住居・平地建物・畝、 奈良・平安時代溝	2面調査	7.64~7.70
13	下芝五反田Ⅰ	H S 110	00371	下芝 字五反田	H5.9.1~ H6.8.1 H7.8~10	7,139	古墳時代住居・畝、平安時代住 居・掘立柱建物、井戸・土坑・ 溝・水田	4面調査	変電所
14	下芝五反田Ⅱ	H S 111	00372	下芝 字天神	H5.7.1~ H6.11.30	7,860	古墳時代住居・畝、祭祀場、 平安時代住居・水田	3面調査	7.70~8.162
15	下芝五反田Ⅲ	H S 112	00373	下芝 字天神	H5.7.1~ H5.11.17	3,477	平安時代溝・中世耕作痕	2面調査	8.162~8.38
16	下芝五反田Ⅳ	H S 113	00374	下芝 字上田屋	H5.10.16~ H5.12.24	4,417	奈良・平安時代水田・畝、 中近世溝・土坑	4面調査	6.38~8.67
17	和田山古墳群	H S 120	00360	和田山 字地蔵堂	H4.11.1~ H7.7.31	16,741	旧石器時代、縄文時代住居・土 坑、古墳時代住居・墳墓・畝、 平安時代住居・畝・中世掘立柱 建物・堀・道	5面調査	8.78~9.37
18	白川牟松	H S 130	00361	白川 字牟松	H4.12.1~ H6.7.31	11,445	旧石器時代、縄文時代住居・土 坑、配石遺構、近世溝	2面調査	9.53~9.79
19	白川管塚	H S 140	00364	白川 字管塚	H4.12.1~ H6.7.31	12,845	縄文時代住居・土坑、古墳時代 墳墓、中世掘立柱建物・溝、 近世墓坑・溝	2面調査	9.85~10.13

## 榛名町

番号	遺跡名	略称名	IDコード	所在地	調査期間	表面積(m <sup>2</sup> )	内 容	摘 要	起点距離程(km)
20	白岩浦久保	H S 210	00376	白岩 字浦久保	H5.10.14~ H6.12.8	6,016	縄文時代土坑、奈良・平安時代 住居、中近世土坑・道	2面調査	10.12~10.37

第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

21	白岩民部	H S 220	00377	白岩 字火久保	H5.11.9- H7.3.31	7,266	旧石器時代、縄文時代土坑、平安時代水田、近世道・土坑	2面調査	10.39-10.825
22	高浜広神	H S 230	00394	高浜 字広神	H5.10.20- H7.3.31	3,048	縄文時代土坑、古墳時代住居・溝、奈良・平安時代住居・樹立柱建物・水田・土坑、中近世溝	3面調査	10.86-11.285
23	高浜向原	H S 240	00378	高浜 字向原	H5.11.5- H7.3.31	2,062	縄文時代住居・土坑、古墳時代水田、平安時代水田・溝・土坑	3面調査	11.345-11.675
24	三ツ子沢中	H S 250	00379	三ツ子沢 字中西	H6.4.1- H7.8.15	6,485	旧石器時代、縄文時代住居・土坑、弥生時代土坑、古墳時代住居、平安時代住居	2面調査	11.72-11.95
25	神戸宮山	H S 253	00381	神戸 字宮山	H6.3.15- H6.9.13	3,076	平安時代住居・土坑	1面調査	12.32-12.382
26	神戸若下	H S 252	00382	神戸 字若下	H6.1.10- H7.3.31	3,765	古墳時代水田、平安時代水田、近代島	2面調査	12.43-12.67
27	中里見中川	H S 251	00353	中里見 字中川	H4.4.1- H5.3.31	3,163	縄文時代土坑、弥生時代水田、古墳時代水田、平安時代住居・水田、中世墓坑、近代島	4面調査	13.26-13.565
28	泉福寺古墳群	H S 260	00380	中里見 字根原	H6.4.1- H6.7.21	877	縄文時代包含層、平安時代住居・水田・土坑	3面調査	13.565-13.773
29	中里見原	H S 270	00347	中里見 字原	H4.4.1- H6.3.31	12,924	古墳時代墳墓、奈良・平安時代住居・樹立柱建物、基礎建物、櫛列・装束遺構・土坑、近世道・墓坑	3面調査	13.677-13.95
30	上里見井ノ下	H S 280	00365	中里見 字井ノ下	H5.2.1- H6.10.21	3,930	縄文時代環壺・土坑、平安時代住居・樹立柱建物・良窠、江戸時代屋敷	2面調査	13.95-14.22

安中市

番号	遺跡名	略称名	IDコード	所在地	調査期間	表面積(m <sup>2</sup> )	内 容	調査	起点距離(km)
31	中秋間甲木ノ 菓谷津1		00341	中秋間字甲 木ノ菓谷津	H3.4.1- H3.5.31	700	近世沢溜		16.80-16.88
32	中秋間中島		00342	中秋間 字中島	H3.11.12- H3.12.11	300	平安時代水田		17.13-17.17
33	東上秋間福具 戸		00343	東上秋間 字福具戸	H3.7.1- H3.7.31	1,100	時期不明土坑・ピット		18.08-18.12
34	東上秋間笹田		00344	東上秋間 字笹田	H3.12.1- H4.3.31	3,000	近世沢溜、道・水田・島		18.24-18.34
35	東上秋間神水		00345	東上秋間 字神水	H3.8.1- H3.12.31	3,000	平安時代須恵窯		18.48-18.52

### 第3節 発掘調査の経過

#### 1. 調査の経過

本遺跡は、群馬県高崎市大八木町104・108・133・134・135・137・139・140・141番地にかけて所在する。先述したように、既存の上越新幹線と新設の北陸新幹線との分岐点のすぐ北側にあつている。両新幹線に挟まれた土地も鉄道建設公団によって買い上げられ、その南半分には起電区分所が建設されることとなり、路線及びそれに付随する側道の建設予定地とともに併せて6880㎡が発掘調査の対象となった。両新幹線に挟まれた土地の北半分については構造物を建てる予定はないということで、調査の対象からは外されており、この部分を調査事務所・機材資材置場・残土置場として使用することを許可された。

遺跡地の小字名は「融通寺」であり、遺跡名称を大字名と小字名を以て表すとする当事業の原則から言えば「大八木融通寺遺跡」となるべきである。しかしながら、平成2年(1990)4月に県教育委員会文化財保護課が作成した「北陸新幹線(群馬県内)地域埋蔵文化財一覧表(付地図)」では「融通寺遺跡(茂木屋敷)」という名称が付されていた。その後、群馬県内における城郭・城館跡研究の第一人者であった山崎一氏の著書「群馬県古城址の研究 補遺篇」(群馬県文化事業振興会 1979)に「大八木屋敷」という名称で採録され周知の遺跡となっている中世の方形居館の一部が調査対象範囲となっていることや、本遺跡の南側に隣接する北陸新幹線関連融通寺遺跡(H S 010)・東側に隣接する上越新幹線関連融通寺遺跡(J S 24・25)との混同を避けること、などを勘案して、本遺跡については「融通寺」の字名を用いず、「大八木屋敷遺跡」という名称を用いることにした。

#### (1) 発掘調査

本遺跡の発掘調査は、調査事務所設営・発掘調査準備を含めて平成3年(1991)4月より開始され、平成3年度中は主に路線及び側道を、翌平成4年度は起電区分所部分を調査した。台地上の部分では遺構面が6面に上り、とりわけ奈良・平安時代の遺構は重複が甚だしく、また、低地部分の中世居館跡の調査では激しい湧水に悩まされるなど、発掘調査自体困難を極めた。さらに調査範囲内の民家の立ち退きの遅れによって工程上多大な影響を受けることになった。発掘調査は平成5年(1993)3月末に終了したが、安全対策工事の撤去、調査事務所の撤去を含め、われわれが現地から完全に撤収したのは同年4月23日のことであった。

#### ①平成3年度

平成3年4月 調査対象地の作物等の関係で発掘調査に直ちに着手出来ず、調査準備(調査事務所設営準備作業員集め、機材調達等)にあたる。

- 5月 連休中に調査事務所設営。連休明けより調査開始、まず本遺跡(H S 020)と御布呂遺跡(H S 030)の中間地帯低地の試掘を行う。遺構・遺物等は全く検出されず、井野川の氾濫原で、遺跡はないと判断。月末より漸く本遺跡の調査に着手できる。
- 6月 用地の関係上起電区分所部分の調査から着手。1号住居跡検出、直ちに調査に入る。また、路線部分低地で2・3号溝跡の調査にも着手。路線及び側道部分の調査を特に優先してほしい旨、鉄道建設公団より要請あり。
- 7月 1～3号溝跡の調査。関越道上越線事務所より担当者3名・作業員約30名合流(御布呂遺跡調査班)。担当者6名・作業員70名体制となる。
- 8月 初旬、担当者3名・作業員約30名、北陸新幹線関連御布呂遺跡(高崎市)調査へ転出。1～3号溝跡

## 第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

調査継続。1号溝跡西端溜井状遺構の調査。下旬より台地上にて平安時代住居跡の調査にも着手（2～8号住居跡）。高崎市親子遺跡めぐり（3回、計120名）見学。

- 9月 1～3号溝跡調査。2～13号住居跡調査。中旬から北陸新幹線関連行力春名社遺跡（高崎市）より担当者3名、作業員約40名合流。総勢で担当者6名・作業員約80名体制となる。
- 10月 13～33号住居跡、1～3号掘立柱建物跡調査。遺構の重複が甚だしく調査難航。土曜日も調査を行う。19・20日現地説明会開催、見学者500名。
- 11月 29～56号住居跡、4～5号掘立柱建物跡調査。79区奈良・平安時代遺構の調査継続。
- 12月 41～80号住居跡、6～11号掘立柱建物跡調査。79区奈良・平安時代遺構面調査終了。上旬、担当者3名、作業員約40名、公共事業関連元総社寺田遺跡（前橋市）へ転出。北陸新幹線関連行力春名社遺跡発掘調査終了に伴い担当者3名、作業員約40名合流。

平成4年1月 79区Ⅳ期水田跡の調査、78区71～102号住居跡の調査。

- 2月 79区Ⅲ期・Ⅱ期・Ⅰ期水田跡の調査。78区84～102号住居跡、12～15号掘立柱建物跡の調査。
- 3月 79区Ⅰ期水田跡の調査、下層倒木痕サンプル調査、深掘り。自然堆積土層状況確認、調査終了・埋め戻し、78区15～18号掘立柱建物跡調査。月末、79区鉄道建設公団へ引き渡し。

### ②平成4年度

- 4月 新年度となり、担当者3名、作業員約40名体制に戻る。78区の調査を続行。75～112号住居跡、12～25号溝跡の調査。
- 5月 82～115号住居跡、26～28号溝跡、19・20号掘立柱建物跡、1号柱穴列跡の調査。19・20号掘立柱建物跡と1号柱穴列跡が門と堀になることが確認される。
- 6月 上旬、国立歴史民俗博物館阿部義平教授、県教育委員会文化財保護課前沢和之主幹を指導者として招聘、門と堀、掘立柱建物跡群について指導を受ける。地方官衙跡としての可能性を指摘。90～121号住居跡、29～34号溝跡の調査。
- 7月 122～124号住居跡、35～38号溝跡の調査。29日、平安時代の門と堀跡の検出を高崎記者クラブにて報道関係者に発表。
- 8月 124～126号住居跡、36～38号溝跡、3号井戸跡、21号掘立柱建物跡、整地遺構の調査。
- 9月 1日、低地部分試掘。22・23号掘立柱建物跡調査、78区奈良・平安時代遺構面調査終了。Ⅱ期水田跡調査。
- 10月 Ⅱ期水田跡・Ⅰ期水田跡調査。
- 11月 Ⅰ期水田跡調査。下層倒木痕調査（全面調査）。
- 12月 倒木痕調査終了。下部掘削確認。低地調査にむけてのシートバイル打設準備。下旬、調査区内民家立ち退き。

平成5年1月 中旬より低地部シートバイル打設。担当者・作業員は基礎整理。

- 2月 シートバイル打設、土砂搬出路橋脚工事。下旬に安全対策工事完成し調査再開。57号溝跡調査。
- 3月 2～3号溝跡、7～10号土壌墓跡調査。下旬、全ての調査を終了し、埋め戻し。

### （2）整理作業

整理作業は、平成6年4月から同8年3月までの2年間にわたり、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団分室において行われた。整理体制は、担当者1名・整理補助員7名で、平成6年7月に担当者が交代している。

### ①平成6年度



平成6年4月～9月 図面整理、版下用素図作成、写真整理。事実報告部分原稿執筆。

10月～12月 遺物接合、復元。遺構図トレース。事実報告部分原稿執筆。

平成7年1月～3月 遺物写真撮影、実測。事実報告部分原稿執筆、遺物観察表作成。遺構図トレース。

②平成7年度

4月～5月 遺物実測、トレース。遺物観察表作成。版組。

6月～7月 遺物実測図トレース。遺物全体図トレース。版組。版下図版作成。原稿執筆。

8月～9月 版下図版作成。写真版下作成。遺構全体図トレース。原稿執筆。

10月～12月 原稿執筆。入札準備、入札、校正。

平成8年1月～3月 校正。遺物・図面・写真等収蔵。報告書刊行。

## 2. 安全対策工事の経緯と施工

日本鉄道建設公団は、一刻も早い工事着工を強く希望しており、調査の不効率を承知した上で、用地問題が解決次第、解決したところから次々と埋蔵文化財発掘調査に着手するよう強く要請してきた。これを承けて、早くも平成3年2月から高崎市の行力株式会社遺跡で発掘調査に着手したのだが、以後も工事工程との関係から分割による発掘調査を余儀なくされることとなった。

本遺跡の調査対象の立地は、前述したように台地上の部分と低地に位置する堀の部分に大きく分けられる。台地上は畑地となっているため、速やかな調査着手が可能であるが、堀の検出が予想される南側の低地部分については何らかの安全対策上の措置を講ずる必要が想定されていた。発掘調査は、平成3年5月から、用地問題の解決した①台地上の路線及び側道部分、②台地上の起電区分所部分の順に次々と着手したが、低地の起電区分所部分の民家の立ち退きが遅れており、当面、台地上の調査を先行させることとし、低地部分については民家の立ち退き・撤去後に一括して行う予定であった。平成3年4月17日に行われた県教育委員会文化財保護課との調整協議においても、調査担当側の要望として、低地部分は、調査面積が狭い上、掘削が深所に及ぶ可能性が高いことから、宅地の解決を待って着手したい旨、通知してあった。しかしながら、工事着工順位の早い、路線及び側道部分の調査を特に優先してほしい旨、鉄道建設公団側から再度の要請があり、やむを得ず宅地ぎりぎりの部分まで調査範囲を広げざるを得なくなった。

これを承けて、同年6月より、低地の路線及び側道部分の調査にも着手することになったが、それに先立つ同年5月14日には、起電区分所建設予定地内に位置する民家の住人より、プライバシー保護のため障壁を廻らせてほしい旨の要望が寄せられ、これに応じている。同年6月より低地部分の調査に着手し、堀の部分は浅く緩やかな法切りを施した上、調査を行った。予想された通り、堀の底面からの激しい湧水によって、調査は継続し、同年11月までの5ヶ月間を堀の調査に費やす結果となったのである。なお、この調査が行われている間に、土質・土壌の状況、土の堆積状況、ボーリングによる土壌調査データ、等の検討を行い、コンサルタントの助言を受けるなど、民家撤去後の調査にむけての安全対策措置の検討が行われた。それと同時に、今後、調査が行われる予定の高崎市浜川町から箕郷町下芝地区にかけての、標名山二ツ岳噴火時の土石流に覆われた地域における調査方法・安全対策措置の方法についても併せて検討されたのであった。

本遺跡の調査に伴う安全対策措置の計画が本格的に具体化してきたのは、翌平成4年夏のことであった。起電区分所建設予定地内の民家は依然として存在していたが、前年度にその西側の調査が済んでおり、民家撤去後の堀の調査では、底面から地表面まで4mもの厚さに達する埋土によって西・南・東の三方を囲まれる事態となってしまう、調査に際して埋め土崩落の危険性が予測されていたからである。以下、施工までの

## 第1章 発掘調査に至る経緯と調査の方法・経過

経緯を年譜的に記す。

平成4年7月30日 鉄道建設公団によるボーリングデータ、前年度の掘調査時の資料をもとにしたコンサルタントによる安全対策工事に関する報告書提出。堀の周囲をシートパイルで囲み、内側に法面を残す工法を提示。

同8月24日 県教委文化財保護課との協議の中で、シートパイルを全面に打設するの必要の有無、堀の東西両端のみ打設し、他は法切りで対応できることの可否などの意見が出され、近日中に試掘を行い状況を確認することが決められ、翌25日、鉄道建設公団・県教委文化財保護課・埋文事業団の三者で、残存民家周辺の掘幅や土壌の堆積状況、涌水量の確認、シートパイル打設の範囲、排土量、調査方法、工事との競合などの諸点について協議。

同9月1日 鉄道建設公団、県教委文化財保護課、埋文事業団、コンサルタント立ち合いの上、民家西側で試掘調査実施。バックホーを用いて深さ約3.1mまで掘削し、地下水位が地表より約2.7m付近にあることを確認。涌水量は多く、掘削中に両側の埋め土が何回も崩落。水は上越新幹線側から北陸新幹線方向に流れ、埋め土に溜まることが判明。堀の東西両端にシートパイルを打設するのみでは水がシートパイルの外側に回り込み、基盤土が軟弱な側道や南側市道が崩壊する危険性があることが判明し、当初の計画通り、調査対象範囲を囲むことが最良であるとの結論に至る。

同9月9日 鉄道建設公団・県交通対策課・県教委文化財保護課・埋文事業団による協議が行われ、埋文事業団から鉄道建設公団に対し、調査の早期終結にむけての調査工程を説明したが、これに対して鉄道建設公団側からは、とにかく早急に調査を終了させること、そのためには住民の立ち退きが完了しない状況であったとしても、部分的に安全対策工事に着手してほしいこと、ただしこれによる調査経費の増額は許容する旨の発言があった。しかしながら立ち退き前の住民を必要以上に刺激する上、経費の割には効果が期待できないことを理由に、民家が立ち退く12月末を待った上で、安全対策工事に着手することで了承され、以下の日程で安全対策工事が行われることになった。9月下旬補助地質調査、10月中旬仕様書作成提出、11月初旬入札、12月初旬着工準備、12月民家撤去、12月末安全対策工事施工、翌平成5年1月初旬安全対策工事完了、調査再開、という予定である。

同12月 入札に向けての安全対策工事の現地説明会。

同12月25日 入札後、民家撤去直後からの安全対策工事着工が可能なように日程等調整協議。

同12月26日～民家撤去。

平成5年1月7日 鉄道建設公団高崎建設局、同高崎工事事務所、埋文事業団、安全対策工事施工業者（井上工業株式会社）の四者で具体的な現地調整が行われ、以下の日程で安全対策工事が施工されることとなった。1月初旬現地測量、1月上旬着工、2月上旬施工完了、調査再開、5月末調査終了、6月末安全対策撤去。なお支障物件（民家に関わる電気・水道・電話線等）は鉄道建設公団側で1月末までに処理する。

1月18日 シートパイル打設着工。

2月8日 シートパイル打設終了、土砂搬出路橋脚工事着工、11日 完成。

2月11日 南側谷部のシートパイル支保工（タイロッド打設）着工、15日 完成。

2月23日 調査再開、3月22日 調査終了。

3月24日 埋め戻し着手、3月27日 埋め戻し完了、シートパイル引き抜き着工、4月9日 終了。

以上、前年度の調査期間に比して約4ヶ月、当初の発掘調査予定期間より約3ヶ月短縮して、調査及び安全対策工事の撤去を終了した。



シートパイル打設状況



シートパイル打設状況



シートパイル打設状況



シートパイル屈曲部



タイロッド打設状況



土砂搬出路架橋状況



土砂搬出路架橋状況



土砂搬出路橋鋼板設置状況



土砂搬出路橋の構造



打設完了後調査着手状況



中世掘上通路架橋状況



階段設置状況



シートパイル施工状況 (完掘後)



シートパイル施工状況 (完掘後)



シートパイル施工状況 (完掘後)



シートパイル施工状況 (完掘後)



タイロッド施工状況 (完掘後)



シートパイル打設後の調査状況



シートパイル打設後の調査状況



シートパイル打設後の調査状況



シートパイル打設後の調査状況



搬出路橋下の掘削状況



遺構完掘後全景



シートパイル引き抜き状況

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡は、高崎市街地中心部から北へ約4kmほどの地点に位置している。遺跡の周辺は桑畑が全面に広がる畑作・養蚕地帯であったが、近年は宅地化の波が押し寄せ、耕地は年々減少している。遺跡地の現状は、南側低地部が水田・畑地と宅地、北側台地上が桑畑・麦畑であった。なお、中世方形居館「大八木屋敷」跡の範囲内は、中央部を上越・北陸両新幹線及びそれに付随する側道・起電区分所によって破壊されたが、それ以外は、一部がゲートボール場や建設資材置場となつてはいるもの、おおむね畑地であり、現状では新幹線以外による破壊を辛うじてまぬがれている。

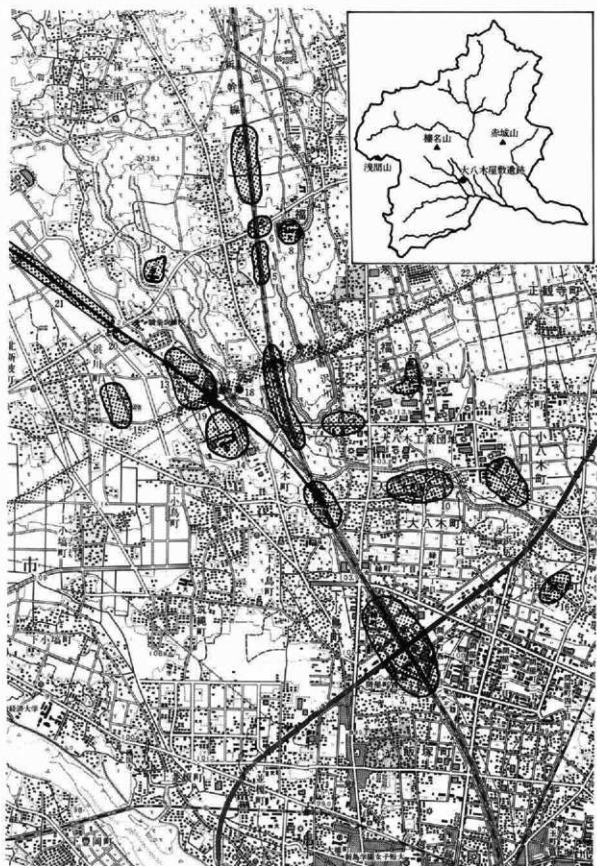
本遺跡は、前橋台地と称される平坦な洪積台地上に立地し、標高は107mである。遺跡の北西約16kmには、那須火山帯に属する海拔1449mの第四紀成層火山である榛名山がある。榛名山東南麓には、相馬ヶ原扇状地と称される山麓扇状地が広がっているが、本遺跡はこの榛名山麓扇状地と前橋台地の変換点付近に位置している。

前橋台地には、東から牛池川・染谷川・唐沢川・井野川・榛名白川などの中小河川が東南方向へと流れている。いずれも榛名山麓扇状地から伏流水を集めて前橋台地に至っており、前橋台地上では台地表面の沖積化が進んでいる。これらの中小河川は、いずれも前橋台地の南方で烏川と合流しているが、かつては井野川や榛名白川は前橋台地内でしばしば氾濫し、付近の田畑に被害を及ぼしていた。本遺跡でも遺構検出面は水性堆積層である。遺跡の北側を、榛名山を源とする井野川が北西から南東方向に流れており、遺跡の北端部で西からくる早瀬川、北からくる唐沢川と合流している。また、西端部及び南端部の、中世方形居館の場になっている部分も井野川支流の小河川によって開析された谷地であり、遺跡の主要部分は三方を低い谷で囲まれた一辺約140mの独立丘陵状の台地に位置している。

微地形をみると、非調査対象地である台地中央部やや西寄りの一帯が最高点であり、南北ともに徐々に低くなっていくが、中世居館の堀跡である2・3号溝跡が検出された南端の低地が最も低くなっている。

井野川中流域では、本遺跡をはじめ、熊野堂遺跡・同道遺跡・御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・西下井出遺跡などで古墳時代前期から平安時代にかけての水田跡が検出されているが、これらの水田跡の多くは、井野川の流路に沿って両岸に周囲より約1m前後下ったテラス状の地形の上に位置している。このテラス状地形は、井野川の流路に沿って約50～200mの幅で約3kmほど続いており、井野川の現流路面よりは4～5m高くなっている。井野川右岸のテラス状部分の外側には、高さ0.5～1m、幅100～200mの自然堤防を認めることができる。この自然堤防は、群馬町保渡田の南方・東谷川と分流する付近にはじまり、井野川が東へ向きを変える本遺跡付近では幅約500m程に広がり、それにより下流では不明瞭になっている。このことは、井野川中流域両岸に展開するテラス状地形が、非常に古い時代の井野川の氾濫原であったことを示しているよう。各遺跡の水田跡の下層に存在する粘質土によってこれを裏付けることができる。また、熊野堂遺跡で検出された井野川の旧流路の河床は、現・井野川の河床よりも約2～3m高い位置にある。そうすると御布呂遺跡や芦田貝戸遺跡での浅間山火山灰As-C軽石層の検出面よりも、旧・井野川の河床の方が高かったことになり、当然As-C軽石降下以前でも天井川ということになる。熊野堂遺跡のAs-C軽石下水田跡の下層で検出された旧・井野川は、天井川化し、ある時期にはは現在に近い流路に変わったわけである。一旦流路を変えた井野川は、今度は下向侵食を開始し、それ以降現在までに河床を約3mも沈下させた。それに加えて、かつての古い氾濫原上には数次にわたって浅間山や榛名山二ツ岳の火山噴出物が厚く堆積し、見かけ上の台地状地





第5図 周辺の地形と主な遺跡 (1/25,000)



表2 大八木屋敷遺跡周辺の主な遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	報告書名
1	大八木屋敷遺跡	古墳時代水田、奈良・平安時代住居・掘立柱建物跡(官衙)土坑跡、中世方形館跡、近世土壌墓。	高崎市大八木町字敏通寺	本報告書
2	敏通寺遺跡	弥生時代末の住居跡。奈良・平安の住居跡。古墳時代の水田。中世の土壌墓。	高崎市大八木町字敏通寺・下小島町	「敏通寺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
3	下小島遺跡 大八木水田遺跡	縄文時代中期の土器。古墳時代前期の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の水田。	高崎市間屋町西・緑町	「大八木水田遺跡」高崎市教育委員会 1979 「下小島遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
4	熊野堂遺跡	縄文時代の土器。弥生時代の住居跡。古墳時代の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。古墳時代の水田・畑・特殊井戸。中世の陶磁器・石臼。	高崎市大八木町字熊野堂・群馬郡群馬町大字井出	「熊野堂遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984 「熊野堂遺跡第II地区・雨窓遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
5	井出村東遺跡	弥生時代の住居跡。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	群馬郡群馬町大字井出	「井出村東遺跡」群馬町井出村東遺跡調査会 1983
6	三ツ寺I遺跡	古墳時代の豪族の居館。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺	「三ツ寺I遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
7	三ツ寺II遺跡	縄文時代前期の住居跡。弥生時代後期の住居跡。古墳時代一奈良・平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺	「三ツ寺II遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
8	中林遺跡	古墳時代一平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の住居跡。	群馬郡群馬町大字三ツ寺・大字猪島	「中林遺跡調査報告」群馬町教育委員会 1983
9	雨窓遺跡	旧石器時代の両面加工尖頭器1点。縄文時代中期の住居跡。弥生時代後期の住居跡。古墳時代前期一中期の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。中世の陶器。	高崎市大八木町字雨窓	「熊野堂遺跡第II地区・雨窓遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
10	大八木遺跡	縄文時代中期の住居跡。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木町字清水・箱田池	「大八木遺跡総掘削調査報告書」高崎市教育委員会 1981
11	小八木遺跡	縄文時代中期の土器。弥生時代後期の住居跡。古墳時代の住居跡。弥生時代の水田・溝。浅間山B軽石下の水田・溝。中世一近世の陶磁器・石臼。	高崎市小八木町字村前・重井戸・井野川	「小八木遺跡(I)・(II)」高崎市教育委員会 1979・1980
12	同道遺跡	浅間山C軽石・榛名山F A・榛名山F P・浅間山B軽石下の水田。中世の館跡。	群馬郡群馬町大字井出字同道	「同道遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
13	御布呂遺跡	浅間山C軽石・榛名山F A・榛名山F P下の水田。平安時代の住居跡。中世の建物跡。	高崎市浜川町字御布呂	「御布呂遺跡」高崎市教育委員会 1980
14	芦田貝戸遺跡	古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。浅間山C軽石・榛名山F A・浅間山B軽石下の水田。榛名山F A下の畑。	高崎市浜川町字芦田貝戸	「芦田貝戸遺跡II」高崎市教育委員会 1980
15	寺ノ内遺跡	平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の水田。中世の館跡(長野氏関係)。中世一近世の陶磁器。板碑。	高崎市浜川町字町東・蔵木	「寺ノ内遺跡」高崎市教育委員会 1979
16	汎尻遺跡	弥生時代中期の住居跡。	高崎市汎尻町	「汎尻遺跡」高崎市教育委員会 1981
17	大八木箱田池遺跡	縄文時代中期一後期の住居跡・土坑。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木町字箱田池	「大八木箱田池遺跡」高崎市教育委員会 1984
18	芦田貝戸遺跡 (東京電力鉄塔部分)	古墳時代水田。中世遺。	群馬町井出字西下井出	未報告
19	西下井出遺跡 (東京電力鉄塔部分)	古墳時代水田。奈良・平安時代溝。	高崎市浜川町字芦田貝戸	未報告
20	餅井貝戸遺跡	古墳時代水田。平安時代水田。近世溝。	高崎市浜川町餅井貝戸	未報告
21	浜川館遺跡	古墳時代水田。平安時代住居・水田。中近世溝・土坑跡。	高崎市浜川町字館	未報告
	高田屋敷遺跡	古墳時代水田。平安時代水田。中世掘立柱建物・井戸・墓・土坑跡。	高崎市浜川町字高田	
	浜川長町遺跡	古墳時代住居・掘立柱建物・水田。平安時代水田。中世溝・土坑跡。	高崎市浜川町字長町	
22	菓山道駅跡	古代官道跡。		

形が形成されたのではないだろうか。

次に、本遺跡周辺における各時代の主な遺跡について述べる。

#### ①旧石器時代の遺跡

本遺跡では、かつて早瀬川の護岸工事中に、崖面に露出した浅間一板葺黄色軽石層の上層から槍先型尖頭器が1点採集されている。当時は、榛名山麓における旧石器時代遺物の初めての発見例として大いに注目を集めた。しかしながらその後、昭和50～58年（1975～1983）に行われた上越新幹線建設に伴う発掘調査の際も、また今回の北陸新幹線建設に伴う発掘調査においても深所掘削を行って確認したが、旧石器時代の遺物は全く検出されなかった。

また、周辺の遺跡では、雨壺遺跡で、両面加工の尖頭器が1点出土している。

#### ②縄文時代の遺跡

縄文時代の遺構・遺物が検出された遺跡としては、大八木遺跡・大八木水田遺跡・大八木箱田池遺跡・小八木遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡などがある。前期の遺構としては、熊野堂遺跡から諸磯b式期の堅穴住居跡が、また三ツ寺Ⅱ遺跡からは黒浜式および諸磯b式期の堅穴住居跡・土坑跡が検出されている。いずれも沖積地に面した低い洪積台地上に位置している。

中期では調査例がやや多い。雨壺遺跡からは阿玉台期の堅穴住居跡・土坑跡、大八木箱田池遺跡からは加曾利E式期の堅穴住居跡・土坑などが検出されている他、周辺の数ヶ所の遺跡で検出されている。

後期では、雨壺遺跡から堀之内式期の堅穴住居跡、正観寺遺跡からは称名寺式期の敷石住居跡が検出されている。後期の遺跡は、中期においてはほとんどみられなかったような低地にも住居が遺出していくという傾向がみられる。

本遺跡の周辺では、まだ縄文時代の遺構は少なく、また、時期的にも中期後半～後期後半に集中する傾向があり、集落構造の解明や土器様相の検討には至っていない。ただ、縄文時代の住居跡が検出されている遺跡は、高崎市問屋町周辺の低地が榛名山の東南麓に向かって高くなりはじめた地点、特に井野川と唐沢川の合流点付近に集中しているように見受けられる。

#### ③弥生時代の遺跡

弥生時代の遺構・遺物は、融通寺遺跡（上越新幹線）・小八木遺跡・浜尻遺跡・正観寺遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・井出村東遺跡などで検出されている。ほとんどが中期後半から後期の土器である。

中期後半の所謂竜見町式土器が出土した遺跡としては、熊野堂遺跡・雨壺遺跡・浜尻遺跡などがある。

後期の埴式土器が出土した遺跡は、熊野堂遺跡・雨壺遺跡・井出村東遺跡・正観寺遺跡・小八木遺跡・融通寺遺跡（上越新幹線）などである。またやや離れるが日高遺跡や新保遺跡では住居に近い同一台地上で方形周溝墓も検出されている。弥生時代後期遺跡のほとんどは、中期後半の遺跡と同様に、沖積地に面した微高地上に存在している。

#### ④古墳時代の遺跡

古墳時代の堅穴住居跡は、融通寺遺跡（上越新幹線）・大八木遺跡・大八木箱田池遺跡・小八木遺跡・芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・西下井出遺跡・餅井貝戸遺跡・浜川館遺跡・高田屋敷遺跡・浜川長町遺跡・正観寺遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・井出村東遺跡・中林遺跡・三ツ寺Ⅰ遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡などから検出されている。雨壺遺跡では古式土師器出土の堅穴住居跡が検出された。熊野堂遺跡ではAs-C降下前の前方後方形周溝墓も検出されている。

融通寺遺跡（上越・北陸新幹線）・小八木遺跡・熊野堂遺跡・同道遺跡・御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・西下井出遺跡・餅井貝戸遺跡・浜川館遺跡・高田屋敷遺跡・浜川長町遺跡などでは水田跡や畑跡が検出されている。なかでも北陸新幹線の建設に伴って調査された御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・西下井出遺跡・餅井貝戸遺跡・浜川館遺跡・高田屋敷遺跡・浜川長町遺跡などは、標名山ニツ岳噴火時の土石流によって厚く覆われており、水田跡の残存状態は極めて良好である。

この時代になると、井野川中流域の各遺跡で竪穴住居跡の検出数が増え、水田跡・畑跡などの生産遺構も数多く発見されている。古墳時代には、この地域一帯の開発がすすみ、多くの集落や耕地が営まれていた様子がうかがえる。

また、古墳時代の遺跡で、特に注目されるのは、本遺跡の北方約2kmに位置する三ツ寺Ⅰ遺跡で検出された豪族居館跡であろう。古墳時代中期末～後期前半と考えられるこの居館跡の周辺からは、同時期の集落跡や耕地跡が数多く検出されており、当時の標名山東南麓一帯の社会構造を解明する上で、貴重な手掛かりとなるだろう。

#### ⑤奈良・平安時代の遺跡

当該期の集落跡は、下小島遺跡・融通寺遺跡（上越新幹線）・大八木遺跡・大八木箱田池遺跡・寺ノ内遺跡・御布呂遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・中林遺跡・三ツ寺Ⅰ遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡などで検出されている。三ツ寺Ⅱ遺跡では井戸跡より木簡や齋串・人形などが出土しており、古墳時代豪族居館廃絶後も重要なポイントであった可能性が考えられる。また、本遺跡の北西約800mのところには、北東から南東にむかって東山道駅路が想定されている。

本遺跡は、律令制下には「群馬郡」に属しているが、10世紀ごろに成立したとされる「後名類聚抄」によれば、群馬郡内には、「長野（奈加乃）」・「井出」・「小野（乎乃）」・「八木」・「上郊（上無佐土）」・「畔切（安木利）」・「鳥名（之万奈）」・「群馬（久留末）」・「桃井（毛乃井）」・「有馬（安利万）」・「利刈（止加利）」・「駅家」・「白衣」の13郷があった。本遺跡の所在地の大字名が大八木であるところからみて、本遺跡一帯が「八木郷」にあたるであろうことは容易に推測できるが、慶長元年（1596）の「上州上八木田畠切開帳」に「上八木」という地名がみえ、これが現・大八木町・小八木町に隣接する正観寺地域を指すものと考えられており、この史料によって現在の大八木・小八木の地名が少なくとも近世初頭までは遡ることが確実となっている。現・大八木町・小八木町を含む一帯が、群馬郡八木郷の故地と考えて妥当であろう。また、長元元年（1028）の「上野国不与解由状」（「上野国安替実録帳」）の諸郡官舎条群馬郡項には、「八木院」という官舎がみえる。この「八木院」は、延暦14年（795）の太政官符によって郡家に付属する正倉が郡内に分置されたいわゆる「郷倉」の一つと考えられるが、後述するように本遺跡で検出された門と塼・溝によって囲まれた掘立柱建物群がこの「八木院」に相当するものと考えられる。本遺跡の周辺からは、これまでも奈良・平安時代の特殊な遺物が際って集中している。例えば、本遺跡の南・東に隣接する融通寺遺跡（上越新幹線）からは、石帯や瓦塔片・灰軸唾壺、井野川をはさんで北側に隣接する熊野堂遺跡からは金銅製装飾金具や奈良三彩陶器片、南東約1kmに位置する下小島遺跡からは漆紙文書、などである。これらの特殊な遺物は、本遺跡を官衙跡と考えた場合、本遺跡を中心に考えれば整合的に解釈できるだろう。

また、天仁元年（1108）に浅間山が大噴火した際に降下した火山灰As-B軽石によって埋没した水田跡が、大八木水田遺跡・下小島遺跡・小八木遺跡・芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・寺ノ内遺跡・正観寺遺跡・餅井貝戸遺跡・浜川館遺跡・浜川長町遺跡・同道遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡などで検出されている。井野川中流域では、

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

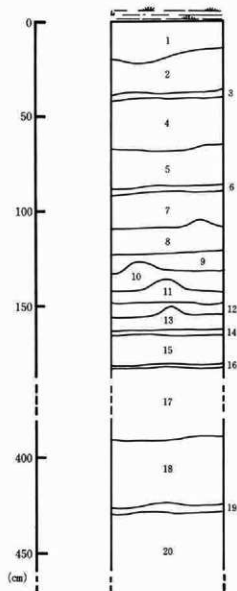
古墳時代から引き続いて活発な生産活動が営まれていた様子がわかる。

### ⑥中・近世の遺跡

融通寺遺跡(上越・北陸新幹線)・小八木遺跡・寺ノ内遺跡・御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・西下井出遺跡・餅井貝戸遺跡・浜川館遺跡・高田屋敷遺跡・浜川長町遺跡・同道遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡などで、中・近世の遺構が検出されている。融通寺遺跡(北陸新幹線)では中世の大規模な掘立柱建物跡が検出されており、本遺跡で検出された中世の方形居館跡と関わるものと考えられる。御布呂遺跡や高田屋敷遺跡でも中世の掘立柱建物跡が検出されており、寺ノ内遺跡・浜川館遺跡・同道遺跡・熊野堂遺跡からは中世の居館跡が発見されている。特に寺ノ内遺跡で検出された居館跡は、長野氏との関連が指摘されている。また、融通寺遺跡(上越新幹線)では文保2年(1318)・観応2年(1351)銘の板碑も出土しており、さらに近世の土壌墓群も検出されている。

遺跡内における土層の堆積状況は次の通りである。なお、野外地質調査は、株式会社古環境研究所に委託した。

- |     |         |  |
|-----|---------|--|
| 1層  | 褐灰色土    | 現在の耕作土                                   |
| 2層  | 黒褐色土    | As-B 混土                                  |
| 3層  | 黒褐色土    | 浅間B軽石層 (As-B)                            |
| 4層  | 暗褐色土    | 粘性やや強くしまりあり。堅穴住居跡・土坑跡・溝跡等の掘り込み面である。      |
| 5層  | 浅黄橙色土   | 粘性強く、しまりあり。堅穴住居跡の掘り込み面である。               |
| 6層  | にぶい黄橙色土 | 榛名-伊香保テフラ (Hr-I)                         |
| 7層  | 浅黄橙色土   | 粘性強く、しまりあり。(多くの堅穴住居跡の床面は5~7層の中で形成されている。) |
| 8層  | 灰黄褐色土   | IV期水田跡耕土。                                |
| 9層  | 灰黄褐色土   | 榛名-浜川テフラ (Hr-S)                          |
| 10層 | 褐灰色土    | III期水田跡耕土。                               |
| 11層 | 黒褐色土    | II期水田跡耕土。As-C 混土。                        |
| 12層 | 黒褐色土    | 浅間C軽石層 (As-C)                            |
| 13層 | 黒色土     | I期水田跡耕土。                                 |
| 14層 | にぶい黄褐色土 | 鬼界アカホヤ火山灰層。                              |
| 15層 | にぶい黄褐色土 | 粘性強く、しまりあり。                              |
| 16層 | 灰黄褐色土   | 浅間総社軽石層 (As-Sj)                          |
| 17層 | 浅黄橙色土   | 礫を多量に含む。井野川泥流                            |



第6図 基本土層概念図

堆積物層。

18層	灰白色土	浅間一板鼻黄色軽石層 (As-YP)
19層	灰白色土	浅間一大窪沢第1軽石層 (As-OP1)
20層	褐灰色土	砂質土。硬くしまっている。

表3 大八木屋敷遺跡のテフラ同定結果

示標テフラ	年代
榛名-伊香保テフラ (Hr-I)	6世紀中葉
榛名-渋川テフラ (Hr-S)	6世紀初頭
浅間C軽石 (As-C)	4世紀中葉
鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah)	約6,300年前
浅間-総社軽石 (As-Sj)	約1.1万年前
井野川泥流堆積物	?
浅間-板鼻黄色軽石 (As-YP)	約1.3-1.4万年前
浅間-大窪沢第1軽石 (As-OP1)	約1.3-1.5万年前

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 古墳時代の遺構と遺物

本遺跡では、古墳時代前期の水田跡が2面と古墳時代後期の水田跡が2面の計4面の水田跡が検出された。但し、4面検出されたのは79区であり、78区では古墳時代前期の水田跡が2面検出されたのみであった。78区では古墳時代後期の水田跡の耕土に相当する灰黄褐色・灰褐色粘質土が検出できず、浅間C軽石混土の黒褐色土の上には灰黄褐色のシルト質土が何層にも堆積していた。78区一帯では、古墳時代後期の水田形成後から奈良・平安時代官衙・集落の形成までの間に、洪水などで水田跡耕土が流出してしまっただと考えられる。なお、78区のすぐ東側に隣接する上越新幹線建設に伴う融通寺遺跡の発掘調査時には1面分の水田跡が調査されており、報告書では古墳時代後期の水田跡としているが、本遺跡での調査の成果に照合すれば、古墳時代前期の水田跡と考えるべきであろう。

本遺跡周辺の井野川流域一帯は、古墳時代前期から平安時代後期にかけての水田遺跡が広範囲にわたって検出されており、大規模な水田地帯であったと考えられる。本遺跡の近隣では、高崎市御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・大八木水田遺跡・小八木遺跡・下小島遺跡・群馬町西下井出遺跡・熊野堂遺跡などで各時代の水田跡が検出されている。水田地帯の範囲は、現時点では、本遺跡を中心におよそ3km四方まで確認されている。本遺跡で検出された水田跡も、井野川流域一帯に広がる広大な水田地帯の一角として捉えてはじめて歴史的な意義が判明すると言えるのである。

本遺跡では、検出された4面の水田跡を、下層からⅠ期水田跡・Ⅱ期水田跡・Ⅲ期水田跡・Ⅳ期水田跡と名付けた。Ⅰ期水田跡・Ⅱ期水田跡は、78区・79区ともに検出されているが、Ⅲ期水田跡・Ⅳ期水田跡が検出されたのは79区のみであった。

#### 1. Ⅰ期水田跡 (付図1・3・7・10)

調査区台地上の全域で検出された。残存状態は概して良好で、79区北寄りの地点と南端付近、78区中央～南寄り一帯が最も残りがよい。現地表面から約1.8m～2m下にあり、4世紀中葉の浅間山火山噴出物As-C軽石層によって覆われており、古墳時代前期のものと考えられる。耕土は黒色粘質土である。78区の中央よりやや北寄り、79区の北東端寄りの部分で幅0.7～1m、高さ0.2～0.3mの東西方向の大畦畔が検出されている。区画は長方形ないし平行四辺形状を呈し、1区画の面積は約18～30㎡程度である。畦畔はかなりしっかりとしたつくりである。79区では概して長方形の区画であるが、78区の中央で若干平行四辺形の区画がみられる。配水は北西から南東に向かって行われている。本水田跡に伴う水路跡等は検出されなかった。

#### 2. Ⅱ期水田跡 (付図2・4・8・9・11・12)

調査区台地上の全域で検出された。残存状態はⅠ期水田跡に比べるとやや劣るが概して良好である。現地表面から約1.5～1.8m下にあり、4世紀中葉の浅間山火山噴出物As-C軽石層降下以後のもので、耕土は黒褐色粘質土で、As-C軽石を働きこんで造成している。79区の北東端寄りの部分で幅0.5～1m、高さ0.2～0.3mの東西方向の大畦畔が検出されている。区画はほぼ長方形形状を呈し、1区画の面積は約5～35㎡とか

## 第1節 古墳時代の遺構と遺物

なりばらつきがある。畦畔はしっかりとした造りであり、配水は北西から南東に向かって行われている。79区では北半分と南端付近、78区では中央部の残りがよいが、78区では北東から南西方向に流れる8本の自然流路によってかなり破壊されている。なお、下層のⅠ期水田とは、大畦・畦の位置はともにずれており、As-C 軽石降下後の復旧作業とは言え、前代の水田地制を全く踏襲したのではない。

水田に伴う水路跡は、78区の西端付近と東端付近とで検出されている。78区西端で検出された水路は上幅0.5～1m、下幅0.2～0.5m、深さ0.3～0.5mで、北から南に向かってやや東側に彎曲蛇行して流れている。溝の両側には畦畔が取り付く。78区東端寄りで見出された水路は、上幅1.1～1.3m、下幅0.2～0.3m、深さ0.3mで、北西から南東方向に流れており、同じく溝の両側には畦畔が取り付く。

### 3. Ⅲ期水田跡 (付図5・13)

79区台地上の東半分のみで検出された。検出範囲内での残存状態は良好である。現地表面より約1.3～1.5m下にあり、6世紀初頭の榛名山二ツ岳火山噴出物 Hr-S 層によって覆われており、古墳時代後期と考えられている。耕土は灰褐色粘質土である。幅0.3～0.4m、高さ0.07～0.1m程度の畦によって東西にやや長い長方形に区画されており、1区画の面積は1～3m<sup>2</sup>程度である。典型的な小区画水田であり、本遺跡周辺一帯で検出されている Hr-S 火山灰層下水田跡と共通する様相を呈している。水田形態、畦の配置箇所など、Ⅱ期水田とは全く異なっている。配水は北西から南東に向かって行われているが、大畦畔や水路等は全く検出されなかった。

### 4. Ⅳ期水田跡 (付図6・14)

79区台地上で部分的に検出された。現地表面より約1～1.2m下にあり、水性堆積土である浅黄褐色粘質土によって覆われている。6世紀中葉の榛名山二ツ岳火山噴出物 Hr-I 層よりは約20cmほど下にあたり、直接、火山噴出物によって覆われているわけではない上、上層の遺構によってかなり破壊されており、残存状態は良くない。畦畔の検出は困難を極め、辛うじて検出できた程度である。耕土は灰黄褐色粘質土で、幅0.2～0.3m、高さ0.05m程度の畦によって東西にやや長い長方形に区画されており、1区画の面積は2～7m<sup>2</sup>程度で、Ⅲ期水田跡同様、小区画であるが、畦畔の位置等はⅢ期水田と全く異なる。Ⅲ・Ⅳ期水田跡ともに大畦畔や水路跡、明瞭な水口は検出されなかったが、前代の水田跡同様、地形からみて、配水は北西から南東に向けて行われていたと考えられる。

## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

本遺跡で検出された奈良・平安時代の遺構は、堅穴住居跡111棟・掘立柱建物跡23棟・柱穴列跡1条・溝跡28条・井戸跡2基・土坑跡741基である。古墳時代後～末期の堅穴住居跡等は全く検出されず、古墳時代後期の水田が廃絶後、しばらくのブランクがあり、奈良時代になって突然住居がつかられるようになる。この時代の遺構は重複が甚だしく調査は困難を極めた。東側に隣接する上越新幹線融通寺遺跡J S25区でも同時代の堅穴住居跡175棟・掘立柱建物跡4棟・溝跡2条・土坑跡349基が検出されており、大集落を形成している。

本遺跡で検出された奈良・平安時代の遺構は、大まかに言って、奈良時代の集落跡・奈良時代末～平安時代初期の官衙跡・平安時代前～後期の集落跡の3時期に分けられる。

奈良時代の遺構とみられるのは、掘立柱建物跡3棟(21～23号)と堅穴住居跡10棟(52・53・55・60・64・90・109・113・125・126号)、溝跡4条(29・35・36・38号)である。このうち21～23号掘立柱建物跡と109・113・125・126号住居跡は整地土によって埋められており、官衙造営に先立って整地されたものとみられる。

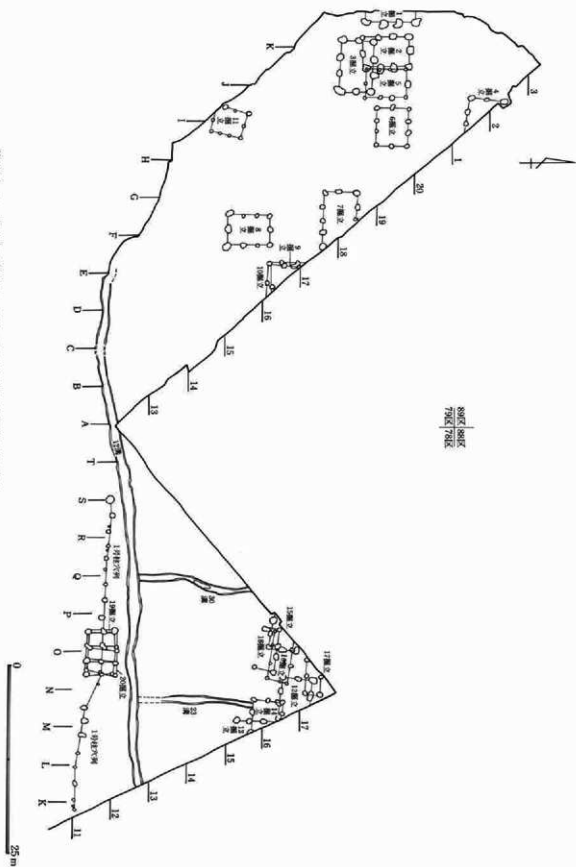
前記の諸遺構を埋め戻し、整地した上で、1～20号掘立柱建物・1号柱穴列・12・23・30号溝が形成される。19・20号掘立柱建物は同一位置に建て替えられた八脚門、1号柱穴列はそれに取り付け板敷のような区画施設と考えられる。門と堀の内側には東西方向の区画溝があり(12号溝跡)、この溝は門の位置で南側に弧を描いて張り出しており、門の雨落溝を兼ねている。門の北東と北西には、12号溝に直交する南北溝が2本(23・30号溝)ある。門の北側の幅15mの空間をはさんで対称的な位置にあり、施設内の南北基幹路の側溝である可能性もある。後に詳述するが、これらの遺構は、長元元年(1028)の「上野国不與解由状」(『上野国交替実録』)の諸部官舎条群馬郡項にみえる「八木院」に相当する官衙遺構と考えられる。19・20号掘立柱建物の八脚門が、官衙の正門であるとするならば、79区で検出された側柱建物群(1～11号掘立柱建物跡)は曹司を構成する雑倉群であろう。また、78区で検出された12～18号掘立柱建物跡は、正門の正面に位置するにもかかわらず重複が甚だしく、また規模も小さいことから、造営・修理等あるいは臨時の行事・儀礼に伴う仮設建物群か、もしくは若干新しい時期のものである可能性が考えられる。これらの諸遺構、とくに掘立柱建物跡に伴う遺物が極めて少ないので、正確な年代を推定することは難しいが、掘立柱建物跡の多くが9世紀後半～11世紀の堅穴住居跡の床面下で検出されていることから、8世紀後半～末から9世紀前半頃のものと考えてまず大過ないだろう。なお、出土遺物からみて、堅穴住居跡にも9世紀前半～中葉頃のものが見られる。掘立柱建物跡と重複しているものでなければ新旧関係を明確にはできないが、出土土器等の様相から明らかに掘立柱建物群と併存していたとみられる時期の堅穴住居跡も存在している。官衙域内は掘立柱建物によってのみ構成されていたわけではなかったようである。

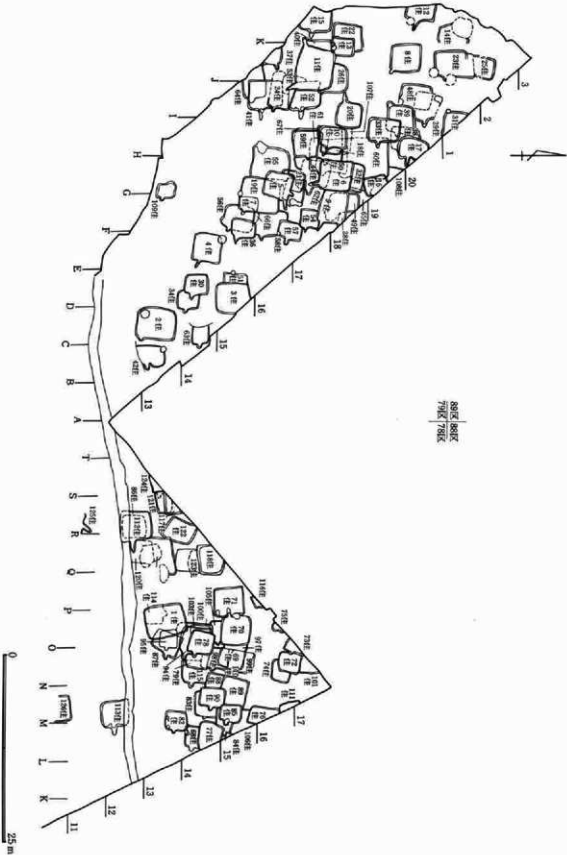
掘立柱建物跡と重複する堅穴住居跡で最も古い様相を示しているのは9世紀中葉頃と考えられるが、そのころを境に、急速に堅穴住居が形成されるようになってくる。廃絶した掘立柱建物跡の上にも次々と堅穴住居がつけられていくが、掘立柱建物群の廃絶と堅穴住居跡の拡大が、必ずしも官衙の廃絶に伴う急速な集落化を意味するとは限らない。八脚門(19・20号掘立柱建物跡)とそれに取り付け堀(1号柱穴列)を破壊してつくっている堅穴住居が1棟もないからである。門と堀の内側にあつて官衙域を区画する12号溝が完全に埋まった後に、溝の上につくられている堅穴住居跡が2棟(86・112号住居跡)あるが、出土遺物からみて11世紀後半頃のものと考えられ、同溝は遅くとも11世紀代には機能していなかったと考えられる。すなわち、



それ以前には存続していたことになる。本遺跡で検出された竪穴住居跡は重複が甚だしく、数世代にわたって建て替えられ続けた様子が看取できるが、それにもかかわらず、12号溝以南に1棟も建てられていないのは、掘立柱建物が廃絶し、その上に竪穴住居がつくられた時期になってからも官衙域の区画施設なり地割なりが維持・存続されていたと考えられるのではないだろうか。八脚門（19・20号掘立柱建物跡）と塀（1号柱穴列跡）が廃絶した後につくられている6・21・22・25号溝跡のうち21・22・25号溝跡の年代がはっきりしないので、門と塀自体の廃絶した時期を明確にすることはできなかったが、あるいは門と塀の廃絶後にそれに代わる区画施設として21・22・25号溝等が掘削された可能性もあろう。いずれにせよ、門と塀に重複する位置にまで竪穴住居群がつくられていないことから考えれば、単に官衙の廃絶に伴う集落化と考えるよりは、竪穴住居が拡大しているとは言え、依然としてこの地には何らかの形で官衙域が維持され続けており、官衙の主要施設が城内の別の場所、もしくは近隣の何処かに移転したと考えるべきだろう。そのように考えてよいとすれば、平安時代の竪穴住居跡群も単なる集落跡とみるよりは官衙付随もしくは近隣の施設、あるいは居住地跡と解釈すべきであり、またそこに本遺跡で検出された平安時代遺構群の歴史的特質があると言えるのである。

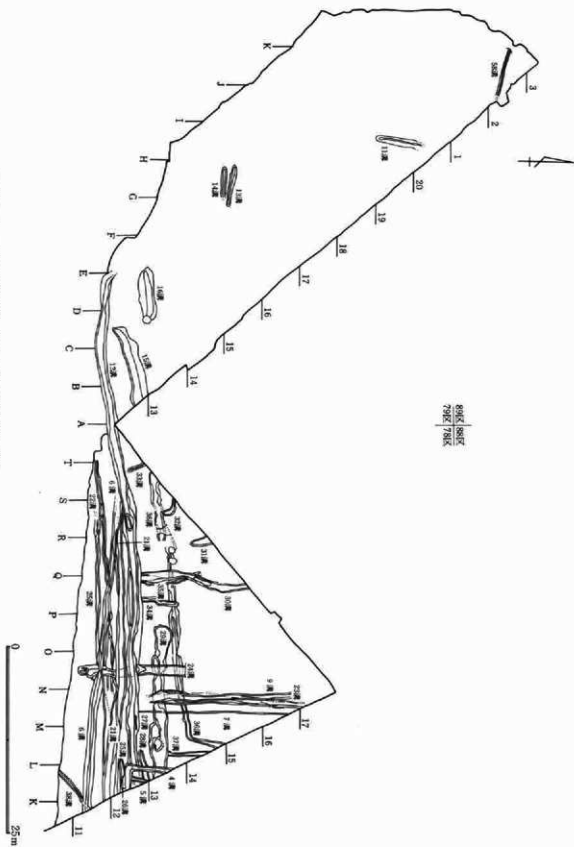
第7図 1. 大八木遺敷遺跡 奈良・平安時代獨立柱建物跡全体図





第8図 2. 大八木遺跡遺構 奈良・平安時代整穴住居跡全体図

第9図 3. 大八木原敷遺跡 奈良・平安時代遺跡全体図



1. 竪穴住居跡

1号住居跡 (PL17-85)

位置 78-O-13グリッド 床面積 23.5㎡ 主軸方位 N-113°-W

重複 87・94・95・103・114住を掘り込む。

規模と形状 長辺5.55m、短辺4.45m、残存壁高0.15mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

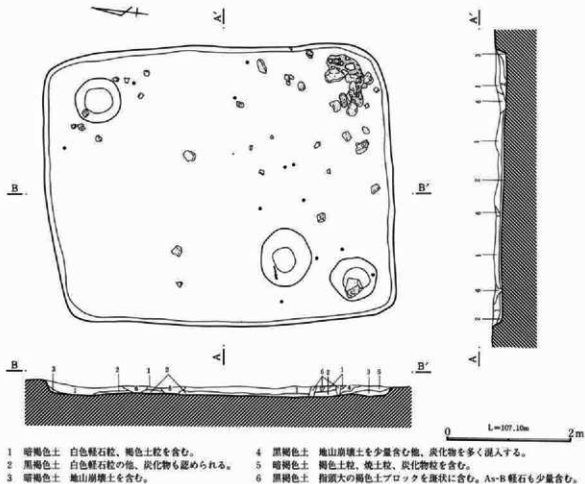
埋土 最上層にAs-Bの堆積がみられる。全体的に白色軽石粒を含む。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていたが、踏み締められたような顕著な傾向は確認できなかった。

竈跡 住居内の東南隅に自然石と粘土によって構築される。燃烧部の前方には礫が散乱し、構築材の一部と考えられる。燃烧部内には焼土・炭・炭化物等の堆積は少なく、煙道部はない。

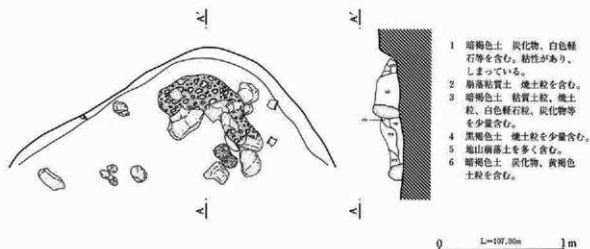
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と一致する。床下土坑が3基検出された。

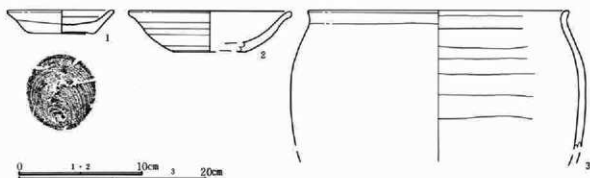


第10図 1号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物



第11図 1号住居跡概



第12図 1号住居跡出土遺物

#### 1号住居跡観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
1住-1	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	口0.4、底6.0、 高1.9	①にぶい赤褐色 ②良好 ③ 粗砂粒を含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
1住-2	須恵器 坏	埋土 口一底破片	口(13.0)、高3. 2、底(5.7)	①灰質 ②良好 ③粗砂粒 を含む。	轆轤整形。
1住-3	土師器 甕	甕 口一明破片	口(28.0)、高(1 4.8)	①明赤褐色 ②良好 ③粗砂 粒を多く含む。	口縁部僅かに外反。口縁部から頸部にかけて横撫で 胴部斜め方向撫で、内面丁寧に撫で。

#### 2号住居跡 (PL18-85)

位置 79-C-13グリッド 床面積 21.7㎡ 主軸方位 N-102°-E

重複 なし

規模と形状 長辺5.25m、短辺4.24m、残存壁高0.3mを測り、南北に長い横長方形状を呈する。

埋土 最上層にAs-Bの堆積がみられる。暗灰褐色・灰白色シルト質土をベースとする。

床面 暗褐色土を貼っている。中央部およびその周辺は硬く踏み固められている。中央部に広く灰が検出された。

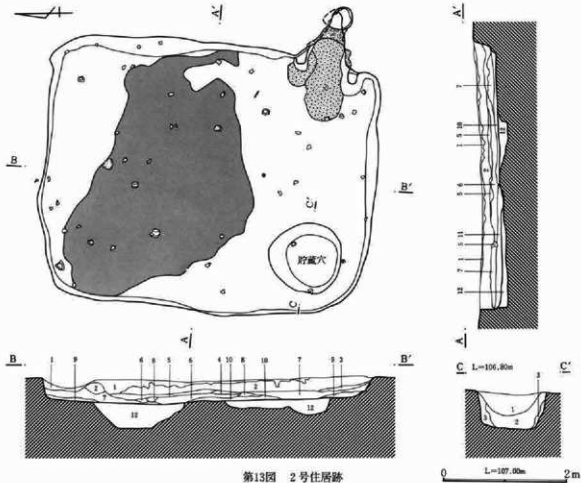
竈跡 東南隅の壁に取り付く。袖・燃焼部・煙道部・煙出し等は、すべて地山を削り出し、掘り抜いてつくられており、燃焼部壁面、煙道の内外、煙出し口はよく焼けている。燃焼部内からその前方にかけて炭化物が3~7cmほど堆積している。

柱穴 なし

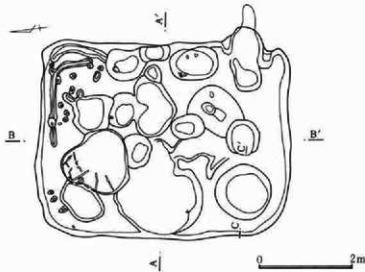
貯蔵穴 南西に位置し、規模は長径1.18m、短径1m、深さ0.3mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

壁下周溝 なし

掘り方 床下から大小9基の土坑が検出された。



第13図 2号住居跡

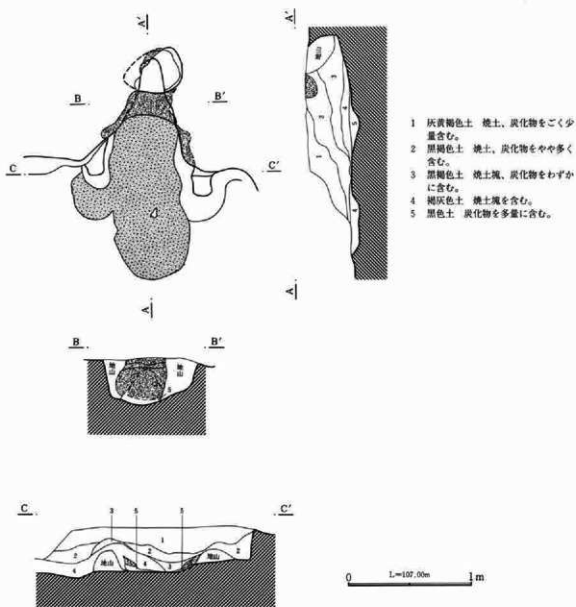


第14図 2号住居跡掘り方

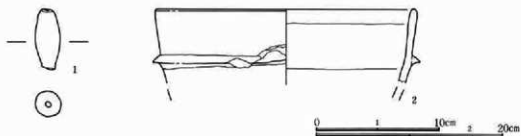
- 1 暗褐色土 As-B 軽石層。
- 2 暗灰褐色土
- 3 暗灰褐色土
- 4 におい質褐色土
- 5 灰白色シルト質土 黒褐色土塊を含む。
- 6 黒褐色土 灰白色シルト質土塊を含む。
- 7 暗灰褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 暗黄褐色土
- 10 暗褐色土
- 11 暗褐色土 黄褐色土塊を若干含む。
- 12 暗褐色土

- 1 黒褐色土 FP粒、炭化物を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 FA塊を少量含む。

第3章 検出された遺構と遺物

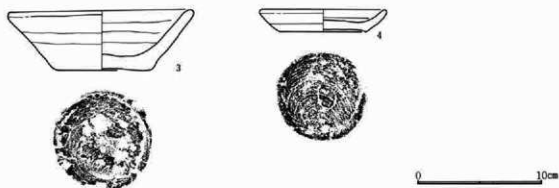


第15図 2号住居跡概



第16図 2号住居跡出土遺物(1)





第17図 2号住居跡出土遺物(2)

## 2号住居跡観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
2住-1	土師甕土鉢	脣 土 完 形	長4.8、幅2.0、 孔0.4	①にぶい黄橙 ②良好 ③ 細砂粒を含む。	形状は中央で膨らむ円筒形を呈し、器表面の磨耗あり。
2住-2	土師器 瓶	脣 土 口縁部破片	口(28.0)、高(7.8)	①にぶい黄橙 ②良好 ③ 細砂粒を含む。	口縁部内外面磨擦で、口縁頂部強により平坦面作る。肩部貼付、断面三角形を呈する。
2住-3	土師器 坏	脣 土 ほぼ完形	口15.0、底7.9、 高4.8	①橙 ②良好 ③粗砂粒 を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
2住-4	土師器 坏	脣 土 ほぼ完形	口10.2、底7.0、 高1.8	①にぶい橙 ②やや不良 ③砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。

## 3号住居跡 (PL18-85)

位置 79-D-15グリッド 床面積 (13.5)㎡ 主軸方位 N-3°-E

重複 51号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.78m、短辺4.0m、残存壁高0.18mを測り、南北に長い長方形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 明黄褐色土を貼っている。比較的硬い面が検出された。中央部に径58cm程の炉状に焼けた部分があり、焼土・炭化物が検出された。

竈跡 調査区域外にかり未検出。

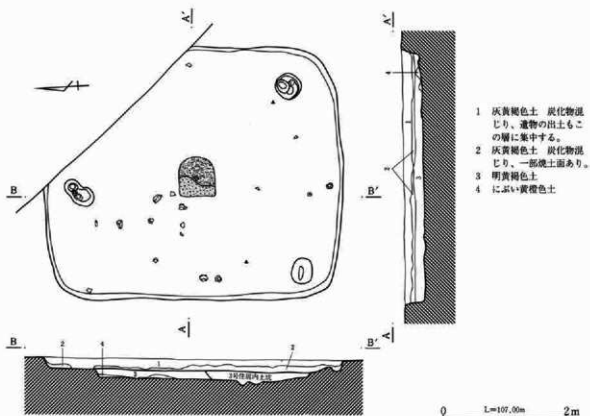
柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は径0.4m、深さ0.3mを測り、形状は円形を呈する。南西隅及び北壁寄り中央に小ピット各1基が検出された。

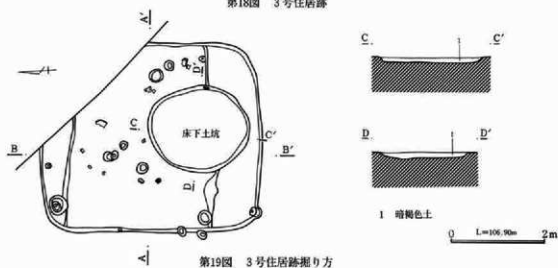
壁下周溝 なし

掘り方 中央部が一段深く掘り込まれている。また中央部南寄りには長径2.17m、短径1.8m、深さ0.1mの床下土坑が検出された。当初の住居は一段低く掘り込まれた。範囲内で、のちに南北に拡張された可能性が高い。

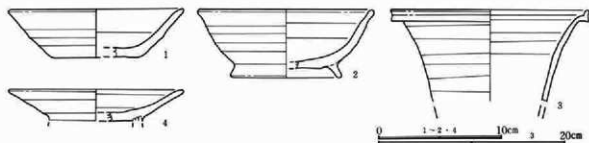
第3章 検出された遺構と遺物



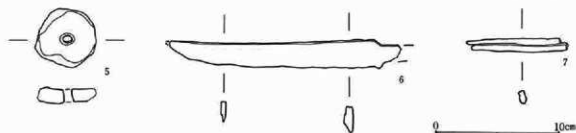
第18図 3号住居跡



第19図 3号住居跡掘り方



第20図 3号住居跡出土遺物(1)



第21図 3号住居跡出土遺物(2)

## 3号住居跡観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
3住-1	須恵器 坏	土 口-底破片	口(14.0)、底(7.2)、高3.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	輪縁整形、底部回転糸切り未調整。
3住-2	須恵器 残	床面直上 口-底1/3	口(14.0)、底(9.0)、高5.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	輪縁整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
3住-3	須恵器 差	土 口縁部破片	口(21.0)、高(9.7)	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	輪縁整形、口縁部外反。端部やや受口状を呈し、1条の沈線が走る。
3住-4	須恵器 高台付皿	土 口-底1/5	口(14.0)、高(2.4)	①灰 ②良好 ③灰織	輪縁整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕。
3住-5	土師質紡錘車	床面直上 ほぼ完形	径4.7、厚0.9、孔径0.9	①橙 ②良 ③細砂粒を多く含む。	土師器坏の底部を転用、下側に回転糸切り痕残る。
3住-6	刀子	土 刃-茎の一部	長(18.4)、刃部長16.9、刃部幅2.0、刃部厚0.5、茎長(1.5)、重26g		刃部は完存。茎部欠失。
3住-7	釘(2本)	土	長(8.2)、太1.0、1本の太さ0.4、重19g		2本が付着。2本共頭部欠失。断面は方形。

## 4号住居跡 (PL18・19・85)

位置 79-E-14グリッド 床面積 (14.8)㎡ 主軸方位 N-106°-E

重複 北西隅を9号土坑によって破壊されている。

規模と形状 長辺3.95m、短辺3.8m、残存壁高0.3mを測り、南北に長い横長方形形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとした、比較的均質な土層で、夾雑物は少ない。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。床面は地山を削り出して形成されており、床下土坑の上面に黒褐色土が貼られている程度で、大半は地山のままである。中央に焼けた石があり、その周囲で炭化物が検出された。

竈跡 東壁の南隅寄りに取り付く。袖・煙道・煙出し等は地山を削り出し、あるいは掘り抜いて形成されている。燃焼部・煙道の壁・天井部は内側・外側ともよく焼けている。燃焼部は住居壁よりも外側につくり出され、U字形のプランを呈する。燃焼部内から前方に焚き口にかけてやや広く炭化物が堆積している。

柱穴 なし

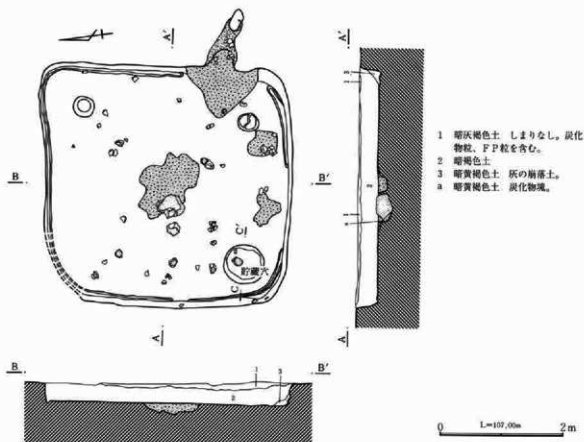
貯蔵穴 南西隅に位置し、規模は径0.64m、深さ0.43mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

また、東北隅に径0.34m、深さ0.18m、南東隅斜め前に径0.34m、深さ0.12mの小ピットが検出された。

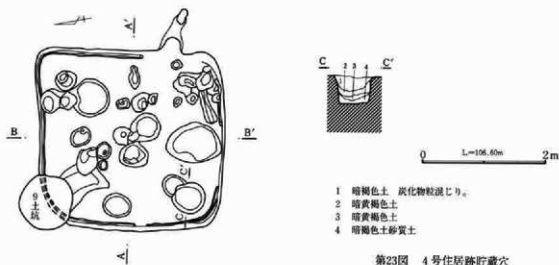
壁下周溝 竈前および南辺中央以外の全辺で検出された。幅3~5cm、深さ2~5cm。

掘り方 大小の床下土坑13基、及びピット状の小さな掘り込みが多数検出されている。いずれも掘り込みは浅い。

第3章 検出された遺構と遺物



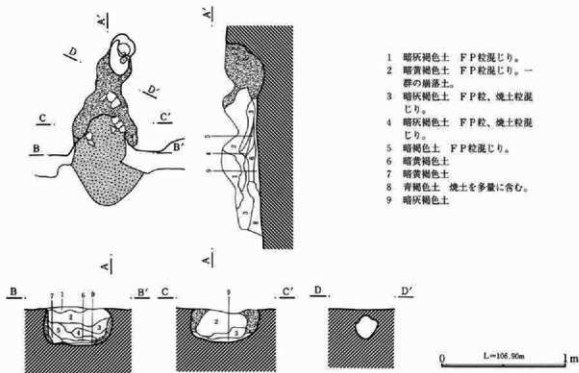
第22図 4号住居跡



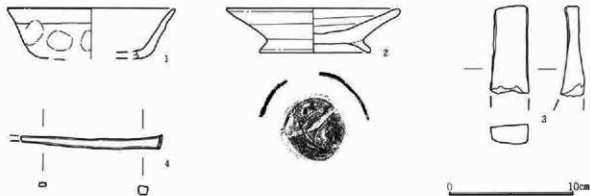
第23図 4号住居跡貯蔵穴



第24図 4号住居跡掘り方



第25図 4号住居跡画



第26図 4号住居跡出土遺物

4号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
4住-1	土師器 坏	埋 土 口-底破片	口(13.3)、高(4.0)	①明赤輪 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	口縁部内外面横溝で。体部内外面不定方向撫で。体部外面に指痕紙。底部磨削り。
4住-2	須恵器 皿	埋 土 口-底1/4	口(14.0)、底8.9、高2.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転切り未調整。高台部貼付。
4住-3	砥沢石製砥石	埋 土 端部欠	長(6.8)、幅(2.9)、厚1.6	①黑褐	四角面磨面。特に表裏面は大きく摩耗し彎曲している。
4住-4	釘	埋 土	長(11.3)、太(0.7-0.3×0.7-0.2、頸部0.9×0.6、重15g)		先端部欠損、頸部方形。

第3章 検出された遺構と遺物

5号住居跡 (PL19・85)

位置 79-G-16グリッド 床面積 13.4㎡ 主軸方位 N-90°-E

重複 19・21・44・55号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.8m、短辺3.4m、残存壁高0.22mを測り、南北にやや長い、横長長方形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、砂礫・小石等を含む。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。踏み固められたような顕著な硬化面はなかったが、暗褐色土を貼っている。

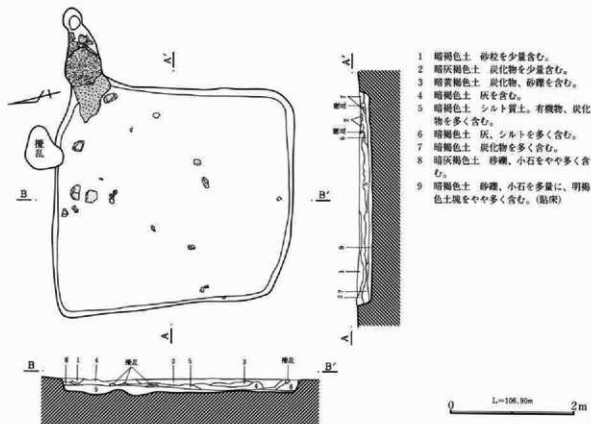
竈跡 住居北東隅に取り付く。袖はなく、燃焼部・煙道・煙出し等は地山を掘り抜いてつくられる。燃焼部は住居壁より外側につくり出され、U字状のプランを呈する。燃焼部の天井は崩落しており、燃焼部内埋土の中から検出された。また燃焼部内には焼土が堆積している。煙道部は内側・外側ともによく焼けている。

柱穴 なし

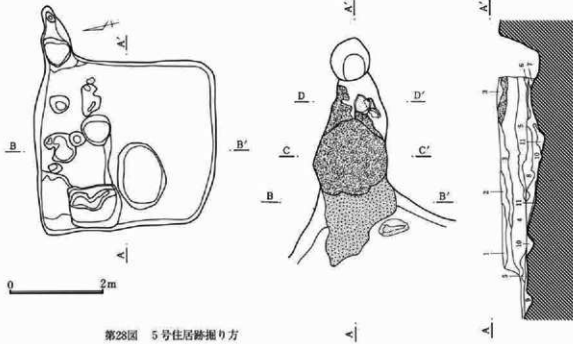
貯蔵穴 なし

壁下周溝 なし

掘り方 床下に大小の土坑、ピット状の掘り込みが9基ほど検出された。

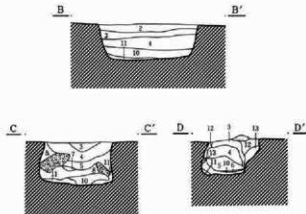


第27図 5号住居跡



第28図 5号住居跡掘り方

- 1 灰黄褐色土 炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を若干含む。
- 3 灰黄褐色土 F P粒を少量含む。
- 4 黒灰色土 炭化物、焼土を含む。
- 5 明褐色土 炭化物を大量に含む。
- 6 灰黄褐色土 炭化物を多く含む。
- 7 浅黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 焼土塊、炭化物を多く含む。
- 9 黒灰色土 砂礫、黄褐色粒子、焼土を含む。
- 10 黒色土 炭化物を極めて大量に含む。
- 11 浅黄褐色土 F A塊。
- 12 明褐色土 地山の土をベースとし、炭化物の粒子を少量含む。
- 13 黄褐色土 地山の土をベースとするが、若干の砂礫を含む。



第29図 5号住居跡竈



第30図 5号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
5住-1	土師器 坏	甕 残土 口-体1/2	口(11.8)、底8.6、高3.2	①澄 ②良好 ③砂粒を多く含む。	口唇部横撫で、体部-底部磨削り。内面撫で。
5住-2	土師器 坏	埋土 口-体1/3	口(8.9)、底(6.2)、高1.9	①にふい寝 ②良好 ③砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
5住-3	須恵器 坏	甕 埋土 口-底1/6	口(13.0)、底(7.6)、高3.2	①灰 ②良好 ③砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
5住-4	土師器 坏	埋土 完形	口8.2、底5.3、高1.9	①淡黄緑 ②やや良好 ③粗砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。

6号住居跡 (PL19-20-85-86)

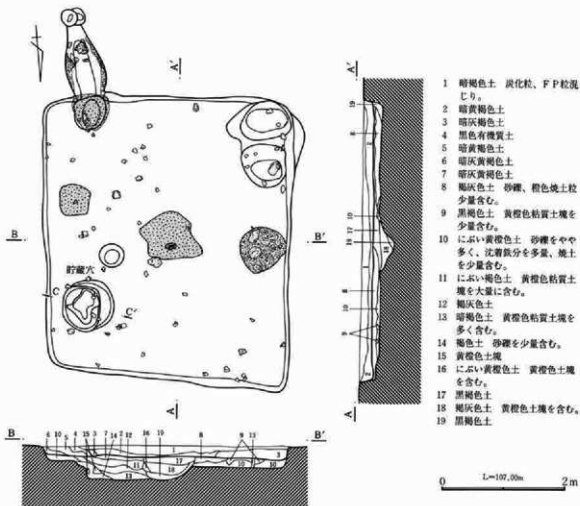
位置 79-G-18グリッド 床面積 17.2㎡ 主軸方位 S-3°-E

重複 9・32・50・60・61・62号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.55m、短辺3.93m、残存壁高0.16mを測り、南北に長い縦長長方形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、砂礫・黄褐色粘質土塊を含む。

床面 暗灰黄褐色土・褐灰色土・黒褐色土を貼り込んでおり、埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好的な平坦面が形成されていた。住居中央部には方形に焼土・炭化物が楕円形に堆積しており、また東壁際中央部、西壁際中央部にも焼土・炭化物が円形状に堆積している部分がある。



第31図 6号住居跡



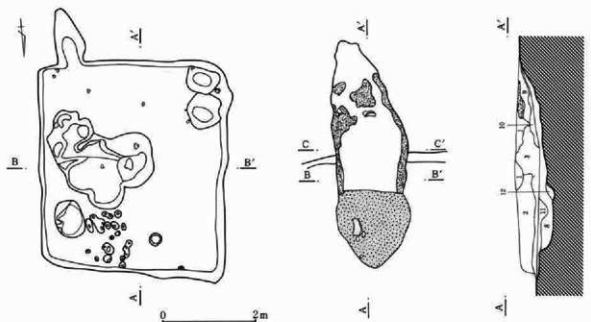
**竈跡** 南壁の東隅寄りに取り付く。軸はなく、燃焼部・煙道・煙出し等は地山を掘り抜いて作られる。燃焼部は住居壁より外側につくられ、天井部は崩落している。燃焼部・煙道とも壁はよく焼けている。焚き口は深さ10cmほど円形に掘り込まれており、炭化物・焼土等の堆積が顕著である。

**柱穴** なし

- 貯蔵穴** (1) 南西隅に位置し、規模は長径0.8m、短径0.6m、深さ0.16mを測り、形状は楕円形を呈する。  
 (2) 南西隅1号貯蔵穴のすぐ北側に隣接し、規模は長径0.7m、短径0.68m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。  
 (3) 北東隅に位置し、規模は長径0.87m、短径0.75m、深さ0.6mを測り、ほぼ円形を呈する。

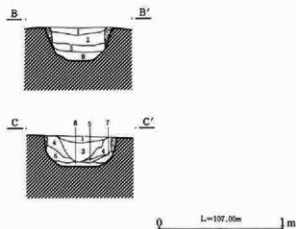
**壁下周溝** なし

**掘り方** 中央部やや東寄りに床下土坑状の掘り込みが検出された。また、北壁寄りには小さな掘り込みが多く、凹凸が著しい。



第32図 6号住居跡掘り方

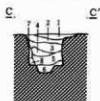
- 1 暗褐色土 炭化粒、焼土粒混じり、F・P粒混入。
- 2 暗褐色土 炭化粒多く、焼土粒混じり、F・P粒混入。
- 3 暗褐色土 炭化粒多く、焼土粒混じり、地山土混じり。
- 4 暗褐色土 焼土粒、炭化粒混じり。
- 5 炭化物層 P含む。炭化粒、焼土粒混じり。
- 6 暗褐色土 炭化粒、焼土粒混じり。
- 7 暗褐色土 炭化粒混じり。
- 8 黒褐色土 炭化物、焼土塊を含む。
- 9 暗黄褐色土 しまり真。
- 10 暗褐色土 黒褐色土(炭化粒混じり)。
- 11 暗褐色土 炭化物多量に混じる。しまり弱い。
- 12 暗褐色土 しまり弱い。



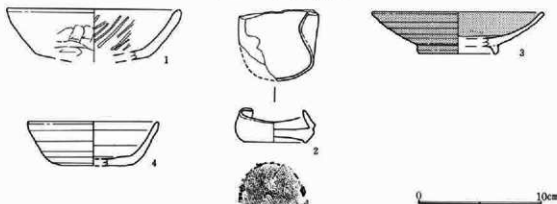
第33図 6号住居跡竈

### 第3章 検出された遺構と遺物

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 暗褐色土  | 6 黒褐色土 |
| 2 灰黄褐色土 | 7 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土  | 8 暗褐色土 |
| 4 黒褐色土  |        |
| 5 暗褐色土  |        |



第34図 6号住居跡貯蔵穴



第35図 6号住居跡出土遺物

#### 6号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
6住-1	土師器 環	埋土 口一底破片	口(14.0)、高(4.0)	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒を僅かに含む。	口縁部横溝で、体部一底部掘削り。内面溝で後、底部に放射状溝。
6住-2	須恵器 耳皿	床面直上 口一底1/2	長9.0、短6.0 底5.2、高1.7	①灰 ②良好 ③中・細砂粒を含む。	轆轤整形後、体部二箇所を深く折り曲げる。底部は回転糸切り未調整。
6住-3	灰釉陶器 碗	床面直上 口一底1/5	口(13.8)、底(6.0)、高3.3	①灰白 ②良好 ③紫鉄	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼付後、擦で。施釉方法は刷毛塗りで、釉調は不透明な灰白色。
6住-4	須恵器 環	埋土 口一底1/6	口(10.5)、底(5.0)、高3.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。

#### 7号住居跡 (PL20-86)

位置 79-F-15グリッド 床面積 (5.5)㎡ 主軸方位 N-107°-E

重複 19・56・66号住居跡、8号掘立柱建物跡を掘り込む。17号土坑に南西隅を破壊される。

規模と形状 長辺2.5m、短辺2.05m、残存壁高0.23mを測り、南北に長い横長長方形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、F P粒を少量含む。

床面 比較的良好な平坦面が形成され、埋土との色調差によって明瞭に識別できたが、踏み固められたような硬化面ははっきりとは確認できなかった。

竈跡 東壁の南寄りに取り付く。袖・燃焼部は住居の壁より外側に地山を掘り抜いてつくられており、一部下層の19号住居跡の掘出しを燃焼部壁としている。残存状況は悪く、燃焼部のプランが確認できなかったにすぎず、煙道は検出できなかった。南側の袖には補強材の自然石が残っている。

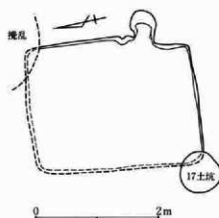
柱穴 なし

貯蔵穴 なし

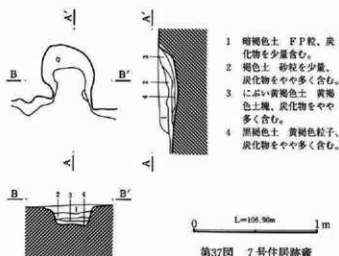
壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方向がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

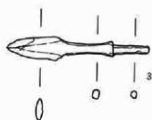
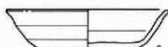
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第36図 7号住居跡



第37図 7号住居跡竈



第38図 7号住居跡出土遺物

7号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
7住-1	土師器 坏	埋 土 口一底破片	口(13.0)、高(2.7)	①にぶい濁 ②良好 ③粗 一細砂粒をやや多く含む。	口唇部狭薄で、体部一底部削り。内面撫で。
7住-2	須恵器 坏	埋 土 口一底1/6	口(13.0)、底7.2、高3.3	①暗灰 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	頸輪整形、底部回転糸切り未調整。
7住-3	鐵	埋 土	長(11.3)、刃部長4.4、柄長3.9、茎長2.8、刃部厚0.5、柄部厚0.6、茎厚0.4、重15g		基部先端欠損。

8号住居跡 (PL20-86)

位置 79-J-19グリッド 床面積 15.4㎡ 主軸方位 N-124°-E

重複 なし

規模と形状 長辺4.13m、短辺3.75m、残存壁高0.21mを測り、南北にやや長い横長形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、F P粒を若干含む。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できた。良好な平坦面が形成されており、竈前や住居中央部を中心に硬化面が検出できた。住居の中央には0.7×0.6mほどの炉状の焼土・炭化物の堆積がみられる。

竈跡 南東隅に取り付く。焼土部は住居壁よりも外側につくられ、焼土部・煙道・煙出し等は地山を掘り抜いて構築される。左右の袖石は原位置で立てられたまま、支脚も焼土部中央で原状のまま検出された。焼土部の壁及び煙道の内側はよく焼けており、焼土部内には炭化物・焼土の堆積が顕著で、炭化物は竈前まで広がっている。

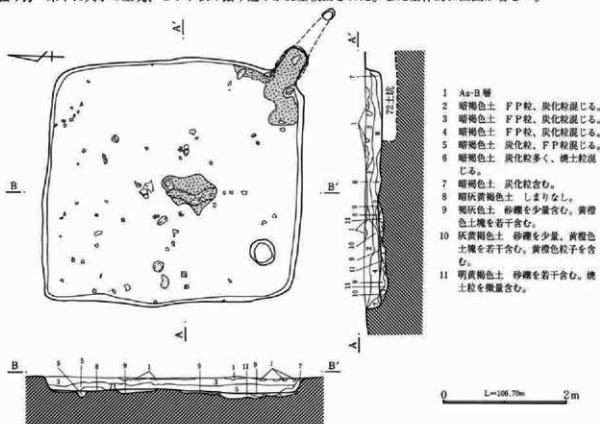
柱穴 なし

第3章 検出された遺構と遺物

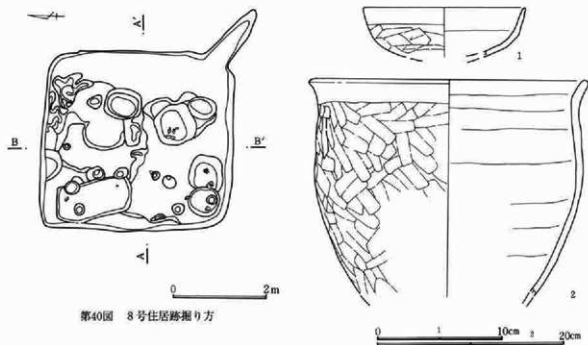
貯蔵穴 南西隅に位置し、規模は径0.4m、深さ0.15mを測り、形状は円形を呈する。

壁下周溝 なし

掘り方 床下に大小の土坑、ピット状の掘り込みが18基検出された。また全体的に凹凸が著しい。



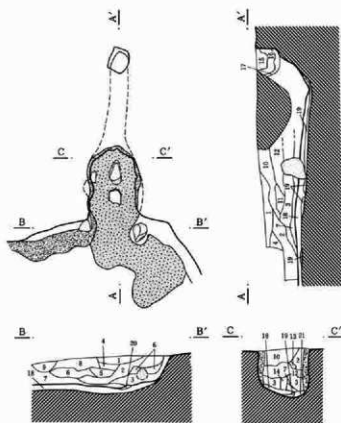
第39図 8号住居跡



第40図 8号住居跡掘り方

第41図 8号住居跡出土遺物

## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 にぶい黄褐色土 砂礫を少量、黄褐色粘質土粒子及び橙色土粒子を微量含む。
- 2 褐色土 黄褐色粘質土粒子及び焼土粒をやや多く含む。
- 3 褐色土 焼土塊及び炭化物塊を多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土 砂粒を少量、黄褐色粘質土粒子を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 4層によく類似するが、焼土粒を4層よりかなり多く含む。
- 6 暗褐色土 砂礫を少量、炭化材をやや多く含む。
- 7 にぶい黄褐色土 粘質土塊を含む。砂礫、焼土粒を多く含む。炭化物を多量に含む。
- 8 黄褐色土 砂礫を少量含む。焼土粒、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 9 黒褐色土 砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 10 褐色土 砂礫を多く含む。焼土を少量含む。
- 11 褐色土 焼土塊、砂粒を少量含む。
- 12 褐色土 きの細かい砂粒を少量含む。
- 13 黒褐色土 砂粒、炭化物を少量含む。
- 14 黒褐色土 炭化材を多量に含む。
- 15 黒褐色土 砂礫を少量含む。
- 16 黒褐色土 炭化材を微量含む。
- 17 黒褐色土 焼土を微量含む。
- 18 黒褐色土 炭化物を大量に含む。
- 19 明黄褐色土 粘質土塊を大量に含む。
- 20 明黄褐色土塊
- 21 黒色土 炭化物のほば純層。黄褐色土塊を若干含む。

第42図 8号住居跡産

### 8号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②構成 ③断土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
8住-1	土師器 坏	土 □-体破片	□(12.8)、高13 9)	①明赤褐色 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	□縁部横溝で、体部一底部掘削り、内面撫で。
8住-2	土師器 壺	土 □-胴1/5	□(29.0)、高12 2.7)	①にぶい褐色 ②やや良好 ③粗～細砂粒を多く含む。	□縁部は外反する。□縁部内外面横溝で、体部外面掘削り、体部内面撫で。

### 9号住居跡 (PL20・21・86)

位置 79-F-17グリッド 床面積 16.9㎡ 主軸方位 N-106°-E

重複 南壁の上端のごく一部6号住居跡に破壊され、28・49・54号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.63m、短辺3.78m、残存壁高0.22mを測り、東西に長い縦長形状を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとし、砂礫・黄褐色粘質土塊を含む。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。砂礫をやや多く含む褐色土を貼り込んでおり、竈前、住居中央部などで硬化面が検出できた。中央部及びその西側にはやや広い範囲で炭化物の堆積がみられた。

竈跡 東壁の南隅際に取り付く。燃焼部は住居壁の外側につくられ、袖・燃焼部・煙道・煙出し等は地山を削り出し、掘り抜いてつくられる。燃焼部の内側・煙道部の内側・天井部外側はよく焼けて赤褐色を呈する。燃焼部内には焼土・炭化物の堆積が顕著にみられる。

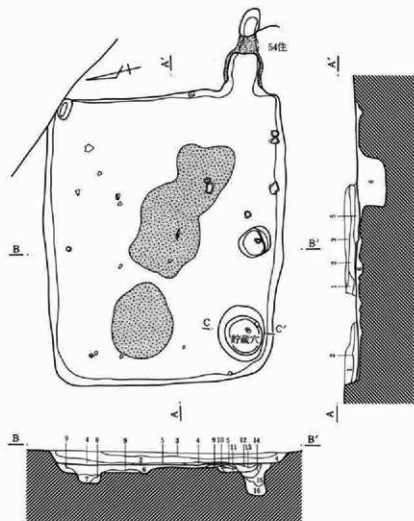
柱穴 なし

第3章 検出された遺構と遺物

**貯蔵穴** 南西隅に位置し、規模は径0.75m、深さ0.42mを測り、形状はほぼ円形を呈する。また、南壁際中央に、長径0.52m、短径0.44m、深さ0.52mの南北にやや長い楕円形状を呈するピットが検出された。

**壁下周溝** なし

**掘り方** 床面下に大小12基の土坑・ピット状の掘り込みが検出された。掘り込みが多く凹凸は著しい。

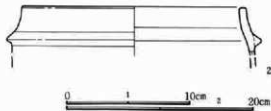
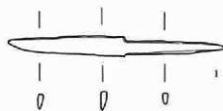


- 1 黄褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。
- 2 灰黄褐色土 砂礫を少量含む。黄褐色土塊、炭化材、焼土塊などをやや多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土 砂礫を多く含む。
- 4 褐灰色土 炭化材をやや多く含む。
- 5 黒色土 炭化物を多量に含む。橙色粒子を少量含む。
- 6 褐灰色土 砂礫をやや多く、黄褐色粘質土塊を少量含む。
- 7 暗褐色土 砂礫を少量、黄褐色粘質土塊、炭化材をやや多く含む。
- 8 暗褐色土 砂礫を微量、炭化材を少量含む。
- 9 黒色土 砂礫を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 11 褐灰色土 砂礫、炭化材を多く含む。
- 12 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。やや粘性あり。
- 13 黒褐色土 灰をやや多く、黄褐色土粒を少量混入する。
- 14 黒褐色土 黄褐色土粒、炭化物を少量含む。
- 15 暗褐色土 黄褐色土粒を層全体に含み、炭化物も少量混入する。
- 16 褐色土 黄褐色土塊を少量、炭化物をやや多く含む。

- 1 灰黄褐色土 砂礫をやや多く、黄褐色土塊を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 1層よりやや暗い色調を呈し、砂礫をごく少量、黄褐色土塊を少量含む。
- 3 黒褐色土 砂礫を微量、黄褐色土塊を微量含む。焼土塊を少量含む。
- 4 黒褐色土 砂礫をやや多く含む。

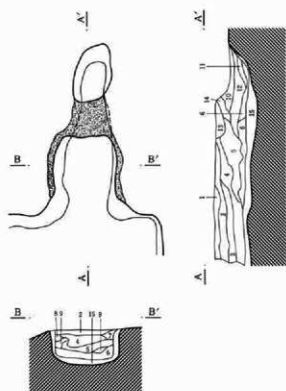
0 L=107.00m 2m

第43図 9号住居跡



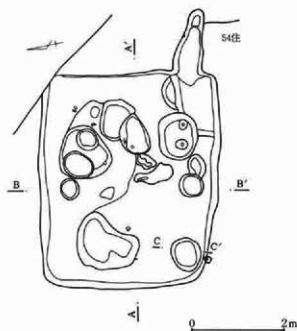
第44図 9号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

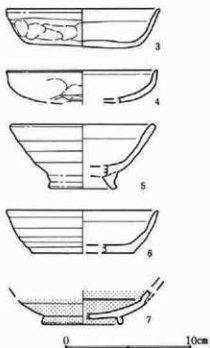


- 1 褐灰色土 橙褐色粒子をやや多く含む。
- 2 褐灰色土 砂礫を少量、褐色粒子、砂礫をやや多く含む。
- 3 褐灰色土 褐色粒子、橙褐色土塊、炭化物をやや多く含む。砂礫を少量含む。
- 4 褐灰色土 砂礫をやや多く、炭化物、焼土を少量含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土塊（指頭大）、黄褐色土粒を少量含む。焼土、炭化物は認められない。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒を少量、焼土をごく少量含む。
- 7 黒褐色土 炭化物をわずかに含む。
- 8 におい黄褐色土 黄褐色土粒を少量含む。
- 9 におい黄褐色土 黄褐色土粒、炭化物をわずかに含む。
- 10 暗褐色土 炭化物、焼土をやや多く含む。
- 11 黒褐色土 炭化物を多量に含む。
- 12 におい黄褐色土 炭化物、焼土をやや多く含む。
- 13 赤褐色土 焼土をベースに砂礫をやや多く含む。
- 14 黒褐色土 砂礫をやや多く、焼土を多量に含む。
- 15 黒褐色土 砂礫、炭化物をやや多く含む。

第45図 9号住居跡断



第46図 9号住居跡掘り方



第47図 9号住居跡出土遺物(2)

9号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②地成 ③胎土	器形・装飾の特徴
9住-1	刀子	埋土	長17.2、刃部長9.3、茎長7.9、刃部厚0.1、 根厚0.5、茎部厚0.1~0.4、重15g		刃部断面は逆三角形状を呈する。完存。

第3章 検出された遺構と遺物

9住-2	須恵器 羽蓋	掘り方内口縁部破片	口(24.0)、高(5.1)	①灰黄 ②やや不良 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、口縁部強により平坦面作る。肩部貼付断面三角形を呈する。
9住-3	土師器 坏	床下2号坑口~底1/2	口12.0、底9.0、高3.2	①にぶい靨 ②良好 ③礫・粗~細砂粒を含む。	口縁部横強で、体部~底部裏削り。内面強で。
9住-4	土師器 坏	床下3号坑口~底破片	口(12.0)、高(2.6)	①にぶい靨 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部横強で、体部~底部裏削り。内面強で。
9住-5	土師器 埴輪 埴土	口~底破片	口(11.5)、底(5.5)、高5.1	①にぶい黄靨 ②良好 ④中~細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼付後横強で。
9住-6	須恵器 坏	埴土	口(12.0)、底(8.0)、高3.4	①灰 ②良好 ③砂礫・中~細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
9住-7	緑釉陶器 埴輪	埴土 底~体破片	底(6.4)、高(2.8)	①明オリブ灰 ②良好 ③紫線	轆轤整形。底部内面に段が付く。底部高台部貼付後轆轤強で。

10号住居跡 (PL21-86)

位置 79-H-17グリッド 床面積 11.0㎡ 主軸方位 N-112°-E

重複 18・50・59・61・67・107号住居跡を掘り込む。

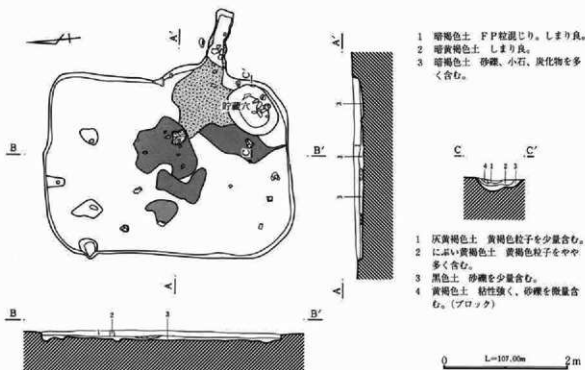
規模と形状 長辺3.95m、短辺2.74m、残存壁高0.15mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、F P粒を若干含む。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干起伏がある。顕著な硬化面は認められなかった。

住居中央部には炉状の焼土・炭化物の堆積がみられる。

竈跡 東壁の南隅寄りに取り付く。袖・燃烧部・煙道部は地山を削り出し、掘り抜いてつくられるが、残存状況は悪く、燃烧部と煙道部のプランが確認できたにすぎない。燃烧部は住居壁の外側に構築され、燃烧部から煙道部にかけて内壁はよく焼けている。竈前から住居東南隅にかけての広い範囲に炭化物の堆積がみられる。



第48図 10号住居跡

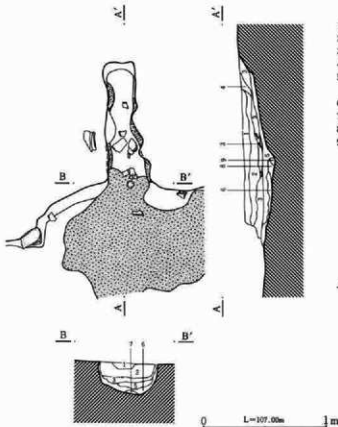


柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.8m、短径0.7m、深さ0.18mを測り、形状は楕円形を呈する。

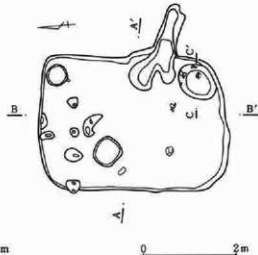
壁下周溝 なし

掘り方 北壁寄りに若干凹凸がみられる他は床面と掘り方面がほぼ一致している。北東隅で径0.45m、深さ10cm程の床下土坑が1基検出されている。

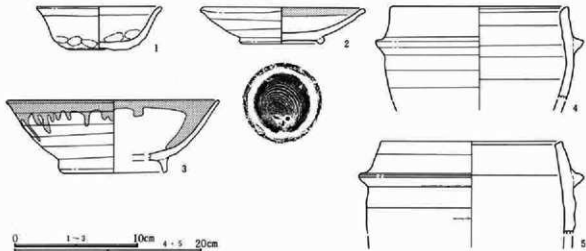


第49図 10号住居跡竪

- 1 暗灰褐色土 炭化粒、焼土粒混じり。しまり良。
- 2 暗褐色土 炭化粒混じり。しまり良。
- 3 暗灰褐色土 炭化粒混じり。しまり弱。
- 4 暗灰褐色土 炭化材を多く含む。
- 5 黒褐色土 焼土塊、焼土粒を10%程度含む。灰を主とする軟弱な層。
- 6 黒褐色土 焼土粒、黄褐色土粒を10%程度含む層。
- 7 におい黄褐色土 炭化材を少量含む。
- 8 におい黄褐色土 焼土を少量含む。
- 9 黒褐色土 炭化物塊。



第50図 10号住居跡掘り方



第51図 10号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第52図 10号住居跡出土遺物(2)

10号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
10住-1	土師器 坏	埋土 口一底破片	口(10.0)、底5.0、高3.3	①にぶい橙 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部・体部内外面横撫で。体部下面から底部裏割り、体部内面下方に指頭圧痕。
10住-2	灰輪陶器 高台付皿	埋土 ほぼ完成	口(13.1)、底6.0、高2.9	①灰白 ②良好 ③堅緻	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付後撫で。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰白色。
10住-3	灰輪陶器 焼	埋土 口一底1/3	口(17.0)、底(8.5)、高5.7	①灰白 ②良好 ③堅緻	輪縁整形。底部回転糸切り、高台部貼付後撫で。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰白色。
10住-4	土師器 羽 釜	埋土 口縁部破片	口(19.0)、高(9.8)	①灰濁 ②良好 ③砂礫・細砂粒を多く含む。	輪縁整形。口縁部撫でにより平坦面作る。肩部貼付断面三角形状を呈する。
10住-5	須恵器 羽 釜	埋土 口縁部破片	口(19.3)、高(9.8)	①黒濁 ②やや良好 ③細砂粒を含む。	輪縁整形。口縁部撫でにより平坦面作る。肩部貼付断面三角形状を呈する。
10住-6	平瓦	埋土 破片	長(8.2)、短(7.1)、厚1.5	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	凸面斜め方向の撫で。凹面布目。端縁横割り。

11号住居跡 (PL21-22-86)

位置 79-J-17グリッド 床面積 29.2㎡ 主軸方位 N-155°-E

重複 13・24・26・40・52・53号住居跡、3号掘立柱建物跡を掘り込む。北壁際中央を364号土坑によって破壊されている。

規模と形状 長辺6.0m、短辺5.0m、残存壁高0.2mを測り、東西に長い横長の台形状を呈する。南東隅と南西隅に竈が2基設けられているが、南西隅の竈の方が新しく、南東隅の竈の廃棄後に構築されている。

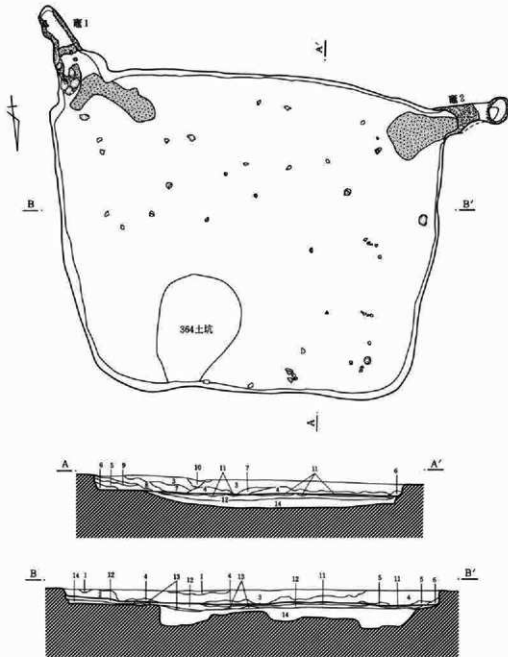
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、良好な平坦面が形成されていた。褐灰色土・明黄褐色土を貼っており、住居中央から南北両竈前にかけての広い範囲で硬化面が検出されている。

竈跡 竈は双方とも袖・燃焼部・煙道・煙出し等が住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いてつくられている。南東隅の竈1は天井部が崩落しているが、燃焼部・煙道部の内壁はよく焼けており、天井部分の崩落土とみられる焼土塊が燃焼部に堆積している。南西隅の竈2は、燃焼部から煙道部にかけての天井は残っており、燃焼部の内壁、煙道部の内・外、煙出しの内壁及び外周はよく焼けている。両竈とも焚口からの前方にかけて炭化物が堆積している。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 住居の中央部が広く掘り窪められている。掘り方内中央やや南寄り、北西隅等で、炭化物の堆積が顕著である。



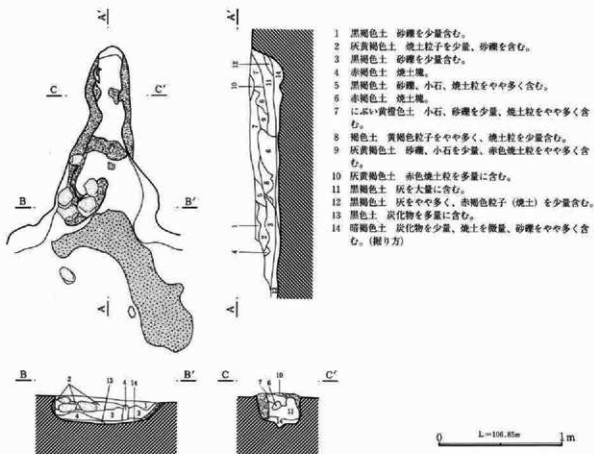
- 1 褐灰色土 砂礫を少量含む。
- 2 明黄褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 3 灰黄褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 4 黒褐色土 砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 黄褐色粒子を微量含む。
- 6 灰黄褐色土 黄褐色粒子をやや多く含む。
- 7 黒色土 砂礫を微量含む。
- 8 明黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 10 褐灰色土 As-C 軽石を大量に含む。

- 11 黄褐色土 砂礫をやや多く含む。硬く締っており、胎床の土と見られる。
- 12 褐灰色土 砂礫を少量含む。黒色、炭化物を多く含む。硬く締っており、胎床の土と見られる。
- 13 明黄褐色土 砂礫を少量含む。粘性強い。
- 14 黒褐色土 焼土、炭化物、砂礫を含む。

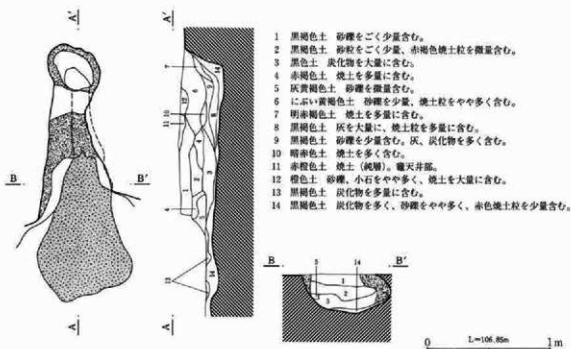
0 L=100.50m 2m

第53図 11号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

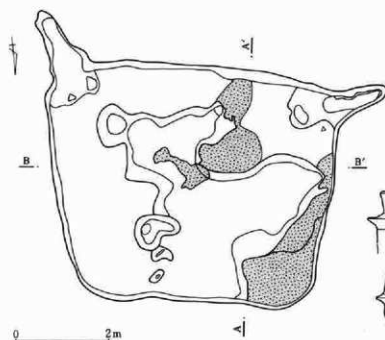


第54図 11号住居跡竈1

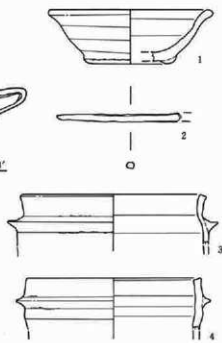


第55図 11号住居跡竈2

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第56図 11号住居跡掘り方



第57図 11号住居跡出土遺物

11号住居遺物観察表

番号	器種	出土状況 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
11住-1	須恵器 碗	埋土 口一底1/2	口13.0、底(7.2) )、高4.3		①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。底部高台貼付。
11住-2	釘	埋土	長9.6、厚さ0.5	重9g		頭部および先端部欠失。
11住-3	須恵器 羽釜	埋土 口縁破片	口(19.7)、高(5.2)		①によい質 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。口縁はやや外反する。口縁端部は撫でにより平坦面作る。肩部貼付、断面は三角形形状を呈する。
11住-4	須恵器 羽釜	埋土 口縁破片	口(18.6)、高(5.5)		①暗灰 ②良好 ③砂粒・中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。口縁は僅かに内彎する。端部は撫でにより平坦面作る。肩部貼付、断面は三角形形状を呈する。

12号住居跡 (PL22-86・87)

位置 79-K-20グリッド 床面積 (10.5)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-108°-E

重複 竈の南側、東壁の一部を攪乱によって破壊される。1号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 東辺3.91m、短辺(2.68)m、残存壁高0.18mを測り、西半が崖になってカットされており、原形は不明である。

埋土 におい黄褐色土をベースとし、粘質土の小塊を全般的に含む。

床面 埋土との色調差によって、明瞭に識別できた。比較的良好な平坦面が形成され、竈前には硬化面が形成されている。暗褐色土を貼っている。

竈跡 東壁中央よりやや南寄りに取り付く。住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いて袖・燃焼部・煙道・煙出し等をつくられているが、残存状態は悪く、燃焼部・煙道等のプランが検出されたにすぎない。燃焼部内

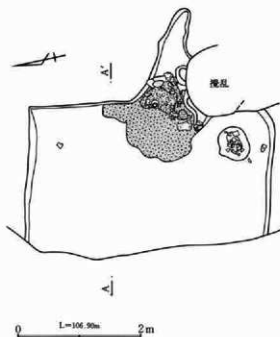
第3章 検出された遺構と遺物

から前方にかけてやや広く、焼土・炭化物が堆積しているが、燃焼部内壁や煙道内には焼けた痕跡は確認できなかった。

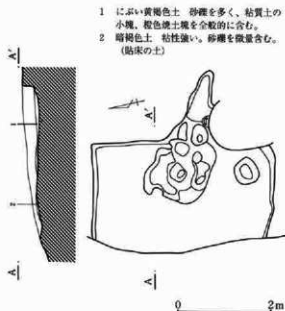
柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南東に位置し、規模は長径0.59m、短径0.5m、深さ0.16mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 貼り床の土の下にも平坦面が形成されており、床面下の掘り込み等はない。

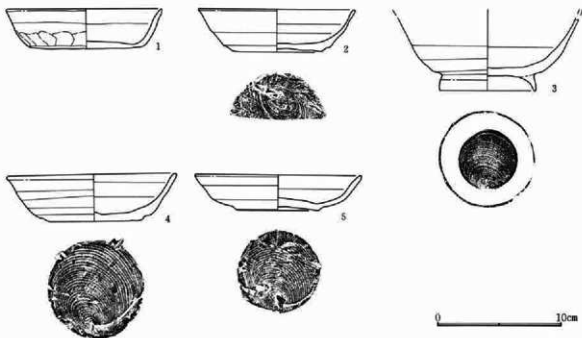


第58図 12号住居跡



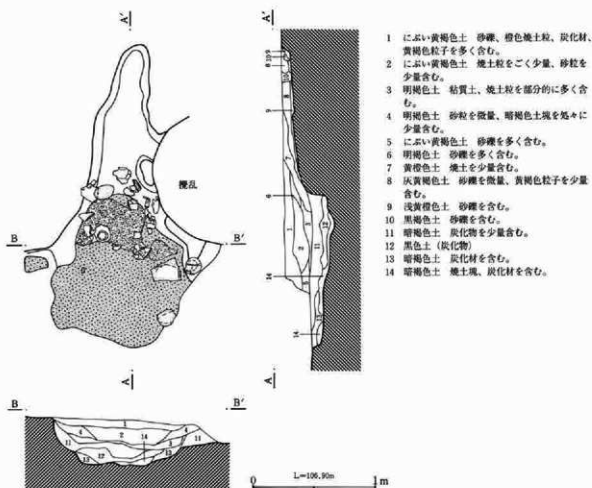
- 1 にぶい黄褐色土 砂礫を多く、粘質土の小塊、褐色焼土塊を全般的に含む。
- 2 暗褐色土 粘性強い。砂礫を微量含む。(貼束の土)

第59図 12号住居跡掘り方

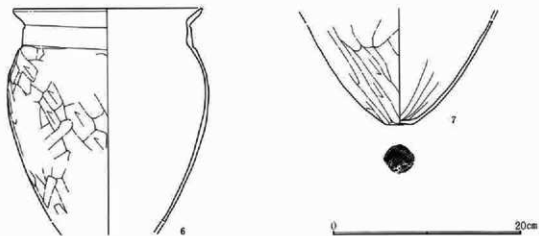


第60図 12号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第61図 12号住居跡概



第62図 12号住居跡出土遺物(2)

12号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・装飾の特徴
12住-1	土器 環	埋土 口一底3/4	口12.4、底9.2、 高3.2	①にぶい ②良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	口縁部横溝で、体部一底部施雨り。内面撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

12住-2	須恵器 坏	埋 土 口~底1/2	口12.6、底7.0、 高3.4	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒をやや多く含む。	輻輪整形。底部回転糸切り未調整。
12住-3	須恵器 坏	埋 土 体~底1/3	底7.6、高(5.2)	①灰白 ②やや不良 ③細 砂粒を多く含む。	輻輪整形。底部回転糸切り未調整。高合部貼付後横 擦で。
12住-4	須恵器 坏	埋 土 口~底1/4	口13.5、底7.7、 高3.7	①灰 ②良好 ③中砂粒を やや多く含む。	輻輪整形。底部回転糸切り未調整。
12住-5	須恵器 坏	埋 土 口~底1/3	口(14.0)、底7. 2、高2.8	①黄灰 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	輻輪整形。底部回転糸切り未調整。
12住-6	土師器 甕	埋 土 口~体2/3	口29.2、高(22. 6)	①に白い赤褐 ②良好 ③ 細砂粒を含む。	口縁は外反する。口縁部、頸部内外面横擦で。胴部 外面裏割り。胴部内面多方向の横で。「コ」字状口 縁を呈する。頸部には指須圧痕が若干着く。
12住-7	土師器 甕	埋 土 胴~底破片	高(10.9)、底3. 0	①に白い褐 ②やや良好 ③中~細砂粒を多く含む。	胴部外面横・斜め方向の裏割り。内面横で。底部裏 割り。

13号住居跡 (PL23)

位置 79-J-18グリッド 床面積 7.3㎡ 主軸方位 S-7°-E

重複 南東隅を11号住居跡に破壊され、22号住居跡、2・3号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.01m、短辺2.52m、残存壁高0.14mを測り、南北に長い縦長長方形形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

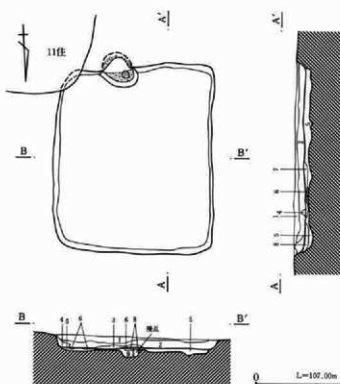
床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。明黄褐色土・黒褐色土を貼っているが、とくに硬く踏み固められた面は確認できなかった。

竈跡 南壁の中央よりやや東寄りに取り付く。燃焼部は住居壁の外側に地山を掘り抜いてつくられる。袖はなく、煙道も検出できなかった。燃焼部の天井・奥壁・内壁はよく焼けている。焚き口は少し掘りくぼんで

いる。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝  
なし

掘り方 住居中央部に床下土坑が3基検出  
された。

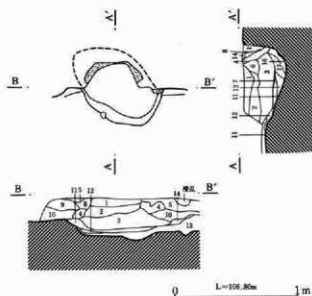


- 1 褐色土 黄褐色土粒、黄褐色土塊、白色軽石粒、炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を含み、焼土粒を少量混入する。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。(壁体崩落土)
- 5 明黄褐色土 地山明黄褐色土塊を多量に含む。
- 6 暗褐色土 軟質。砂礫、小石をやや多く含む。
- 7 黒褐色土 明黄褐色土の粒子をやや多く含む。
- 8 黒褐色土 炭化物を若干含む。
- 9 黒褐色土 黄褐色粘質土塊をやや多く、砂礫、炭化材を微量含む。

第63図 13号住居跡

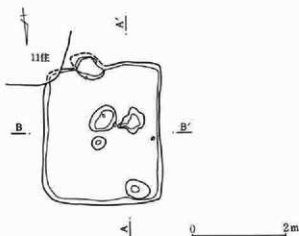


第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

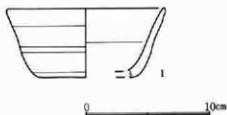


第64図 13号住居跡竪

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒、焼土粒及び炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 黄褐色土塊、粒を少量含む、焼土、炭化物もごく少量見られる。
- 4 暗赤褐色土 焼土層（ブロック状）。
- 5 黒褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、炭化物をごく少量含む。
- 6 暗褐色土 白色軽石粒、焼土粒を少量含む。軟弱な層。
- 7 黒褐色土 灰を主とする層。
- 8 赤色土 ベースとなるのは焼土。砂礫を少量含む。
- 9 褐色土 砂礫を少量、焼土を若干、沈着鉄分をやや多く含む。
- 10 褐色土 黄褐色粘質土塊を含み、砂礫を少量含む。
- 11 黒色土 炭化物を多量に、焼土粒をやや多く含む。
- 12 明黄褐色土 焼土を多く含む。
- 13 黄褐色土 炭化物、焼土を若干含む。
- 14 黒色土 砂礫を少量含む。
- 15 暗褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。
- 16 褐色土 砂礫、小石を若干含む。
- 17 によい黄褐色土 砂礫、小石を含み、黄褐色土塊を若干含む。



第65図 13号住居跡掘り方



第66図 13号住居跡出土遺物

13号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
13住-1	須恵器 環	土口(12.6)、底(7) 口一体破片	口(12.6)、底(7) .6、高5.4	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多く含む。	輪縁整形。

14号住居跡 (PL23-87)

位置 89-K-1グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-4°-E

重複 76・77・345号土坑、15号溝によって破壊される。

規模と形状 長辺4.18m、残存壁高0.13mを測るが、東半を15号溝に、北西の大部分を76・77・345号土坑によって破壊されているため、原形は不明である。

埋土 褐色土をベースとする。

床面 地山(F A層)を平坦に削り出してつくられている。硬化面はとくに検出されなかった。貯蔵穴のすぐ

第3章 検出された遺構と遺物

東側に炭化物の堆積がみられる。

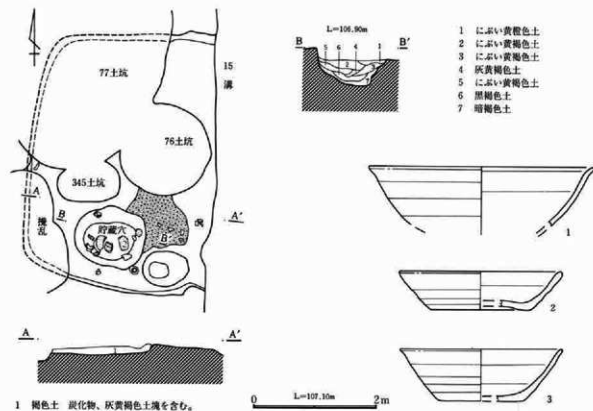
竈跡 他遺構との重複により不明である。

柱穴 なし

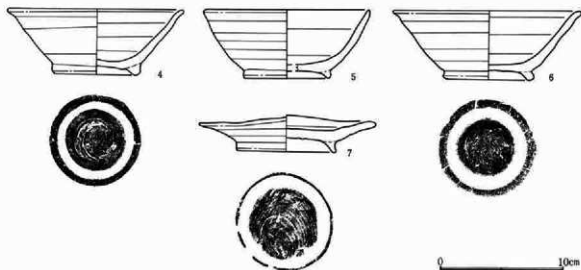
貯蔵穴 南西隅に位置し、規模は長径1.12m、短径0.96m、深さ0.4mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

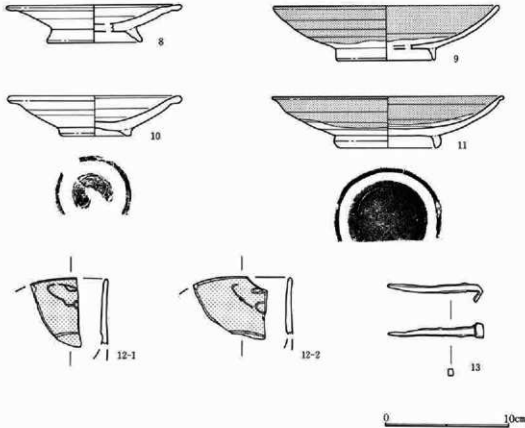
掘り方 貼り床や床面下の遺構は検出されなかった。



第67図 14号住居跡



第68図 14号住居跡出土遺物(1)



第69図 14号住居跡出土遺物(2)

14号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
14住-1	土師器 碗	埋土 口→体破片	口(18.0)、高(4.7)	①によい黄褐色 ②良好 ③中→細砂粒を多量に含む。	内面黒色。轆轤整形。
14住-2	須恵器 坏	埋土 口→底1/5	口(13.0)、底(7.8)、高3.0	①灰白 ②良好 ③中→細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
14住-3	須恵器 坏	埋土 口→底1/5	口(13.0)、底(6.6)、高4.1	①灰 ②良好 ③中砂粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
14住-4	須恵器 碗	貯蔵穴内 完形	口(14.1)、底7.1、高5.2	①灰黄 ②やや不良 ③中→細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台貼付。
14住-5	須恵器 碗	貯蔵穴内 口→底1/4	口(13.2)、底(6.8)、高5.4	①褐灰 ②不良 ③砂粒・中→細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後推で。
14住-6	須恵器 碗	埋土 口→底1/3	口(15.0)、底7.4、高5.5	①灰白 ②良好 ③中→細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台貼付。
14住-7	須恵器 皿	埋土 完形	口(14.1)、底7.9、高2.8	①灰白 ②やや不良 ③中→細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台貼付。
14住-8	須恵器 皿	埋土 口→底破片	口(14.0)、底(7.6)、高3.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台貼付。
14住-9	灰胎陶器 碗	埋土 口→底1/4	口(18.0)、底7.8、高4.2	①灰オリーブ ②良好 ③中→細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付後推で。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰白色。
14住-10	須恵器 皿	埋土 口→底1/3	口(14.0)、底(5.8)、高3.2	①灰白 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台貼付。
14住-11	灰胎陶器 碗	埋土 口→底1/3	口(18.4)、底8.6、高4.1	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付後推で。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰白色。
14住-12	緑釉陶器 段皿	埋土 口縁破片	長(5.6)、短(4.5)、厚0.5	①明オリーブ灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。口縁部内側に陰花文。釉の状態はあまり良くない。
14住-13	釘	埋土	長7.6、厚0.15~0.5×0.4~0.2、頭部1.2×1.0、重9g		完存。頭部は材の先端を折り曲げ、叩いて扁平にしている。方形を呈する。

第3章 検出された遺構と遺物

15号住居跡 (PL23・24・87)

位置 79-K-17グリッド 床面積 (9.4) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-96°-E

重複 なし

規模と形状 長辺3.9m、短辺(3.42)m、残存壁高0.18mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

西壁は削平されており、また南壁は調査区域外に出るので、正確なところの原形は不明である。

埋土 におい黄褐色土をベースとする。

床面 覆土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されていた。指頭大の黄褐色土塊を含む暗褐色土を貼っており、竈前や住居中央では硬化面が検出できた。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。袖・燃烧部・煙道・煙出し等は住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いてつくられる。天井部はすでになく、燃烧部・煙道・煙出しのプランは確認できた。燃烧部の内壁・煙道部はほとんど焼けていないが、燃烧部内から前方にかけて炭化物の堆積が認められる。

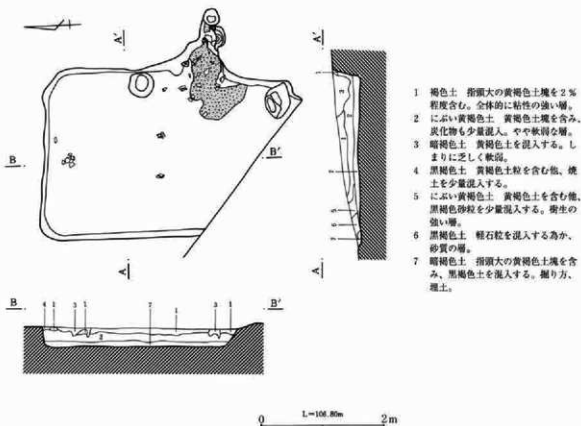
柱穴 なし

貯蔵穴1 南東隅に位置し、規模は長径0.55m、短径0.43m、深さ0.08mを測り、形状は楕円形を呈する。

貯蔵穴2 竈北袖際に位置し、径0.4m、深さ0.05mで、形状はほぼ円形を呈する。

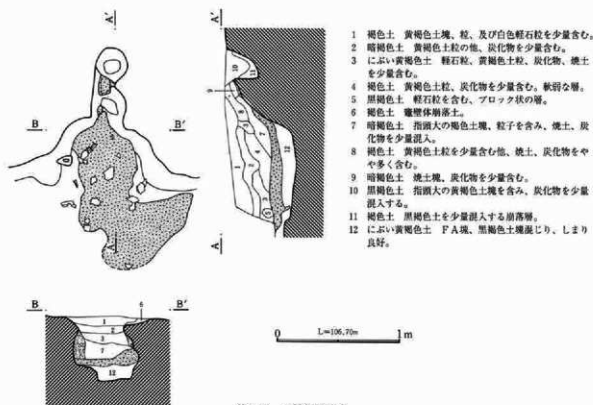
壁下周溝 なし

掘り方 地山を平坦に掘り出しており、床面下の遺構や掘り込みの凹凸は検出されなかった。



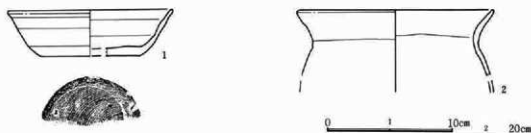
第70図 15号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 褐色土 黄褐色土塊、粒、及び白色軽石粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒の他、炭化物を少量含む。
- 3 におい黄褐色土 軽石粒、黄褐色土粒、炭化物、焼土を少量含む。
- 4 褐色土 黄褐色土粒、炭化物を少量含む。軟弱な層。
- 5 黒褐色土 軽石粒を含む、ブロック状の層。
- 6 褐色土 壘壁体崩落土。
- 7 暗褐色土 指頭大の褐色土塊、粒子を含み、焼土、炭化物を少量混入。
- 8 褐色土 黄褐色土粒を少量含む他、焼土、炭化物をやや多く含む。
- 9 暗褐色土 焼土塊、炭化物を少量含む。
- 10 黒褐色土 指頭大の黄褐色土塊を含み、炭化物を少量混入する。
- 11 褐色土 黒褐色土を少量混入する崩落層。
- 12 におい黄褐色土 F A境、黒褐色土塊張り、しまり良好。

第71図 15号住居跡壘



第72図 15号住居跡出土遺物

15号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
15住-1	須恵器 坏	埋土 □-底1/4	□(13.0)、底(8.1)、高5.1	①灰 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
15住-2	土師器 甕	埋土 □細破片	□(21.0)、高(7.0)	①におい極 ②良好 ③細砂粒を多量に含む。	□縁部・頸部内外面横溝で。体部外面寛削り、内面撫で。

16号住居跡 (PL24)

位置 79-G-19グリッド 床面積 (6.4)㎡ 主軸方位 N-12°-W

重複 60・65・108号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.18m、短辺2.41m、残存壁高0.12mを測る。北東辺が調査区域域外に出る。

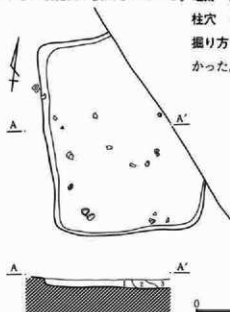
埋土 黒褐色土をベースとする。

### 第3章 検出された遺構と遺物

床面 貼り床はないが、埋土との色調差によって明瞭に識別でき、良好な平坦面が形成されていた。住居中央を中心に硬化面が検出されている。電跡 調査区域外となり、検出できなかった。

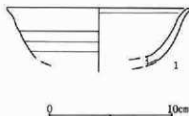
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方向がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。



第73図 16号住居跡

- 1 黒褐色土 小礫、軽石粒を少量、炭粒をわずかに含む。
- 2 褐色土 黄褐色土塊をごく少量含む。しまりあり。
- 3 褐色土 黄褐色土塊を少量含む。



第74図 16号住居跡出土遺物

#### 16号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
16住-1	須恵器 環	埋土 口一破片	口(14.6)、高(4 .1)		①にふい黄粉 砂礫、粗-細砂粒多く含む。	轆轤整形。

#### 17号住居跡 (PL24・25・87・88)

位置 79-H-20グリッド 床面積 (9.9) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-101°-E

重複 38号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.0m、短辺2.77m、残存壁高0.35mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

北東隅が調査区域外に出る。

埋土 暗褐色土・灰黄褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できたが、若干の起伏がみられる。電前から住居中央にかけて硬化面が検出された。

電跡 東壁のほぼ中央に取り付く。袖・燃焼部・煙道は住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いてつくられる。両袖には袖石が残存し、燃焼部の南奥にも構築材の加工石が立てられた状態のまま検出された。袖石や、構築材はよく焼けているが、竈の内壁、煙道の内側等は焼けた痕跡は明瞭ではない。燃焼部・煙道の天井はすでに失われている。燃焼部内から前方にかけてやや広い範囲に炭化物・焼土の堆積がみられる。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

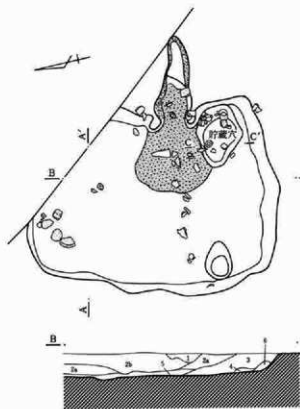
貯蔵穴 東南隅に位置し、規模は長径1.0m、短径0.75m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

また、西壁際の南隅寄りに0.6×0.45m、深さ0.2m

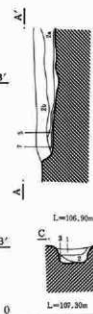
の小ピットがある。

掘り方 床面と掘り方向がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

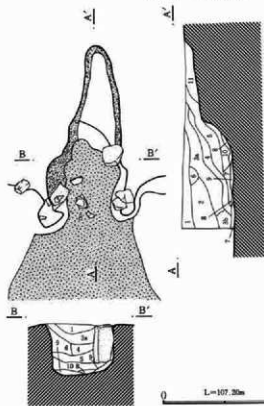


- 1 黒褐色土 灰褐色、茶褐色土塊混じる。ややしまりあり。
- 2 a 暗褐色土 灰褐色、茶褐色土塊少量含む。小礫混じり。
- 2 b 暗褐色土 灰褐色、茶褐色土塊、小礫含む。しまりあり。
- 3 灰黄褐色土 灰褐色小礫、茶褐色小礫、少量混じる。
- 4 黒褐色土 焼土、炭粒含む。灰混じり。
- 5 黒褐色土 黄褐色土、小礫、炭粒少量含む。灰含む。
- 6 黄褐色土 黄褐色土塊含み、小礫わずかに含む。
- 7 黄褐色土 黄褐色土塊含み、小礫わずかに含む。

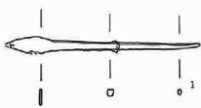


- 1 黄褐色土 灰、焼土を含む。FA塊を少量含む。互層に見える。
- 2 灰黄褐色土 細砂、FA小塊を少量含む。粘性強い。
- 3 明黄褐色土 FA塊主体。焼土、炭粒わずかに含む。

第75図 17号住居跡



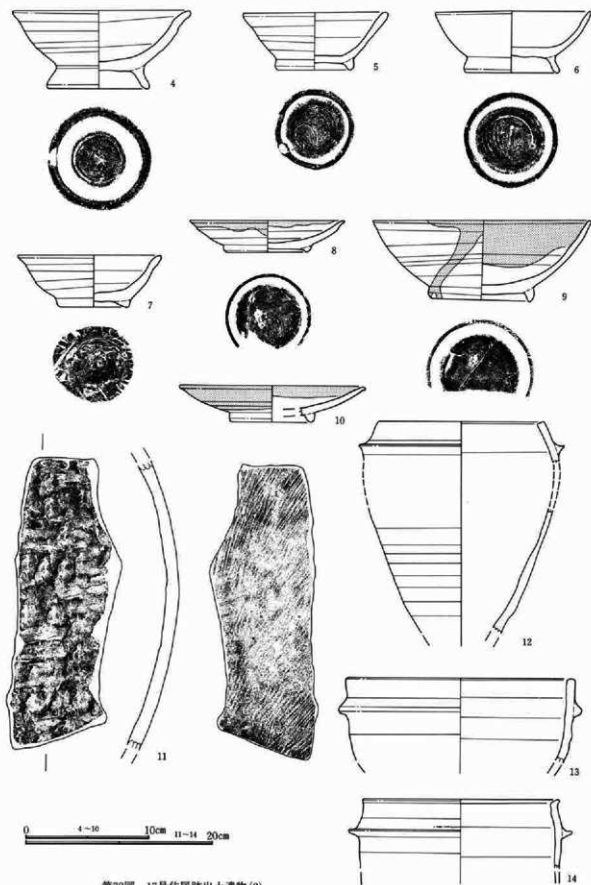
- 1 黒褐色土 灰褐色、茶褐色土塊混じる。ややしまりあり。
- 2 暗褐色土 灰褐色、茶褐色土塊を少量含む。小礫混じり。
- 3 a 暗褐色土 小礫、黄褐色土粒を少量含む。炭粒をわずかに含む。
- 3 b 暗褐色土 小礫をわずかに含む。黄褐色土小礫をごく少量含む。
- 4 黒褐色土 灰混じり、炭粒をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 灰色土、焼土塊混土。
- 6 黄褐色土 明黄褐色土塊混じる。細砂、焼土粒をわずかに含む。
- 7 黒色土 灰、炭混土。焼土粒を含む。
- 8 赤褐色土 焼土層。
- 9 FA層
- 10 暗褐色土 FA塊をごく少量、炭粒をわずかに含む。粘性ややあり。
- 11 暗褐色土 小礫混じり。明黄褐色土をごく少量含む。



第76図 17号住居跡電

第77図 17号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第78図 17号住居跡出土遺物(2)



## 17号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (mm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
17住-1	罐	埋土	長(15.1)、刃部長(3.4)、柄長5.2、茎長6.7、刃部厚0.3、柄厚0.5、蓋厚0.4-0.2、重14g		鉢欠損。
17住-2	土師器 坏	埋土 口-底1/5	口(10.0)、底3.0、高3.8	①にぶい黄橙 ②良好 ③中-細砂粒を含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。
17住-3	土師器 坏	埋土 口-底1/4	口(12.0)、底(6.0)、高3.5	①にぶい褐 ②やや不良 ③中-細砂粒を多量に含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。
17住-4	土師器 埴	埋土 ほぼ完形	口14.2、底8.2、高4.5	①明褐 ②良好 ③砂礫、中-細砂粒を若干含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
17住-5	土師器 埴	埋土 口-底1/2	口11.6、底6.3、高4.5	①明褐 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
17住-6	土師器 埴	埋土 口-底3/4	口12.4、底7.6、高4.9	①にぶい黄橙 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
17住-7	須恵器 埴	埋土 口-底3/4	口11.5、底5.7、高4.1	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
17住-8	灰釉陶器 皿	埋土 口-底4/5	口12.3、底7.0、高2.5	①灰白 ②良好 ③堅緻	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。
17住-9	灰釉陶器 埴	埋土 口-底2/3	口17.4、底8.4、高6.6	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。
17住-10	灰釉陶器 皿	埋土 口-底破片	口(14.8)、底(6.8)、高2.9	①灰白 ②良好 ③細砂粒を含む。	罐體整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。
17住-11	須恵器 大 罍	埋土 胴部破片	長(30.2)、短(0.1)、厚1.4	①明灰 ②良好 ③細砂粒を多量に含む。	外面斜格子目の叩き目、内面には指頭圧痕が顕著に残る。
17住-12	土師器 羽 釜	埋土 口縁-胴部破片	口(18.0)、高(2.5)	①にぶい赤褐 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	罐體整形。口縁は内帯する。口縁部だけでより平坦面作る。口縁部内外面横撫で。胴部貼付、断面は三角形状を呈する。胴部内外面横撫で。
17住-13	須恵器 羽 釜	床下土坑 口縁破片	口(24.6)、高(8.9)	①にぶい褐 ②良好 ③中-細砂粒を多量に含む。	罐體整形。口縁はほぼ垂直に立ち上り、肩部は撫でにより平坦面作る。口縁部内外面横撫で。胴部貼付、断面は台形状を呈する。
17住-14	須恵器 羽 釜	埋土 口縁破片	口(21.0)、高(7.3)	①灰 ②良好 ③砂粒を多く含む。	罐體整形。口縁は僅かに内彎し、肩部は撫でにより平坦面作る。内外面横撫で。胴部貼付、断面は三角形状を呈する。

## 18号住居跡 (PL25-88)

位置 79-H-18グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-101°-E

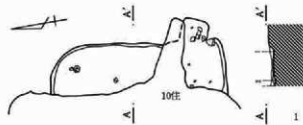
重複 10号住居跡に西半を破壊され、50・61・107号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺2.78m、短辺測定不能、残存壁高0.04mを測る。西半を10号住居跡に破壊されたため、原形は不明である。また、上も削平をうけ、残存状態は悪く、プランが検出できた程度である。

埋土 黒褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって識別できたが、硬化面は明瞭には検出されなかった。

電跡 南東隅の壁に取り付く。削平され焼成部のU字形のプランが検出できた程度であり、なおかつ北側は



10号住居跡の煙道によって破壊されており、残存状態は悪い。焼成部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。中央に支脚の痕跡とみられる小ピットが、南袖には袖石が検出された。

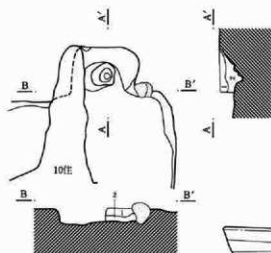
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

- 1 黒褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を多く含む。

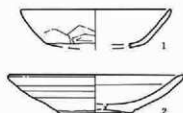
第79図 18号住居跡

0 L=106.90m 2m

### 第3章 検出された遺構と遺物



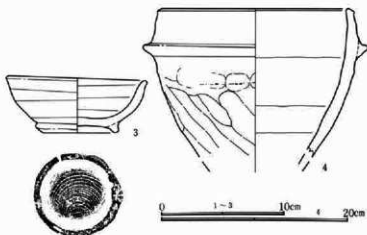
第80図 18号住居跡竈



掘り方 床面と掘り方面がほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。

- 1 黒褐色土 砂礫、小石を多く、炭化物をやや多く、焼土を微量含む。
- 2 褐色土 砂礫、焼土を多く、炭化物をやや多く含む。

0 L=100.00m



第81図 18号住居跡出土遺物

#### 18号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
18住-1	土師器 環	埋土 口-底1/8	口(12.0)、高3.0	①にぶい黄橙 ②やや良好 ③砂粒を少量含む。	口縁部横撫で、腰部-底部外面削り、内面すべて撫で。
18住-2	須恵器 環	埋土 口-底1/8	口(14.0)、底6.0、高3.0	①灰白 ②良好 ③中-中 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転承切り未調整。
18住-3	須恵器 椀	埋土 ほぼ定形	口12.3、底6.8、高4.4	①黒 ②不良 ③中-細砂 粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転承切り未調整。高台部貼付。
18住-4	土師器 羽釜	埋土 口-胴1/5	口(21.0)、高(5.8)	①にぶい黄褐 ②良好 ③ 砂礫、中-細砂粒を含む。	口縁は僅かに内彎し、腰部は撫でにより平坦面作る 口縁部内外面横撫で。胴部上面横撫で、一部に指頭 圧痕残る。胴部下面は斜め方向削り。

#### 19号住居跡 (PL25-26-88)

位置 79-F-16グリッド 床面積 25.3㎡ 主軸方位 N-119°-E

重複 上面を5・7号住居跡に掘り込まれ破壊されている。50・61・107号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺5.6m、短辺4.5m、残存壁高0.26mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈する。

南東隅と東壁の南寄りの2箇所に竈があるが、南東隅の竈(竈1)の方が新しく、東壁の南寄りに取り付く竈(竈2)の廃棄後に構築している。

埋土 黒色土・灰黄褐色土をベースとし、砂礫・F P粒を含む。

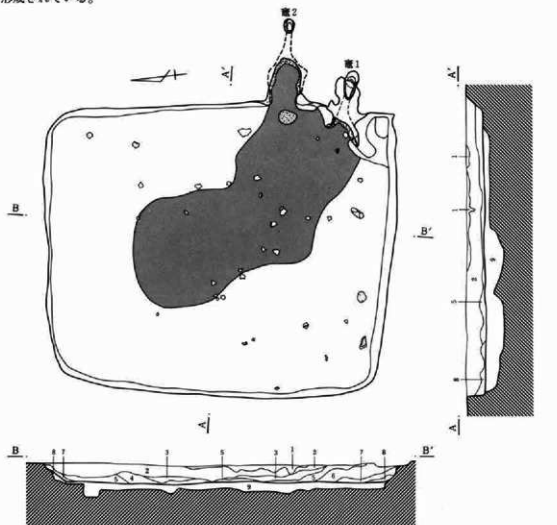
床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、良好な平坦面が形成されていた。灰黄褐色粘質土を10cm程度貼っており、竈前から中央にかけてははっきりとした硬化面が形成されていた。竈前から住居内中央にかけて広い範囲に炭化物の堆積がみられる。

竈跡 竈1は袖と燃焼部は住居壁の内側に褐灰色土を貼りつけて構築し、煙道・煙出しは壁の外側に、地山

をトンネル状に掘り抜いてつくられる。燃烧部の内外、煙道部の内側、煙出しの外周はよく焼けており、煙出し内から完形の土師器高台付碗が出土した。おそらく煙出しの蓋として使われたものと思われる。竈2は、燃烧部・煙道・煙出し等は住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いてつくられる。燃烧部内壁・天井・煙道内・煙出し外周はよく焼けている。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 大小20基の床下土坑、ピット状の掘り込みがあり、凹凸が著しい。竈前には地山を削り出した平坦面が形成されている。

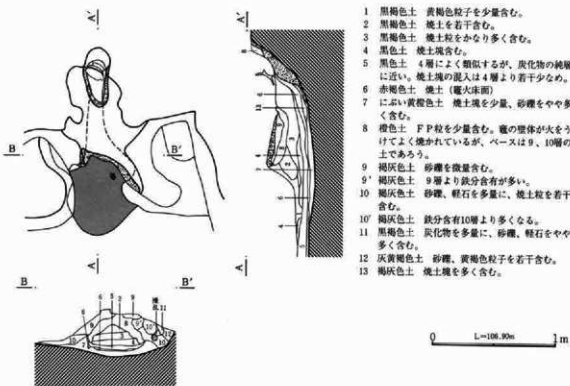


- 1 黒色土 黄色、白色軽石粒を若干含む。
- 2 灰黄褐色土 黄、白軽石粒、焼土粒、炭化物粒を若干含む。焼土、炭化物、白軽石を少量含む。
- 3 褐灰色土 焼土、炭化物を多量含む。
- 4 褐灰色土 炭化物、土質とも3層に似る。(6層が間に入るために分けた。5層とは色調が明確に違う。)
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物を非常に多く含む。
- 6 灰黄褐色土 焼土、炭化物、軽石を少量含む。
- 7 黒褐色土 F A塊を少量含む。
- 8 黒褐色土 F A塊を多量に含む。
- 9 褐灰色土 F A小塊を多量に含む。

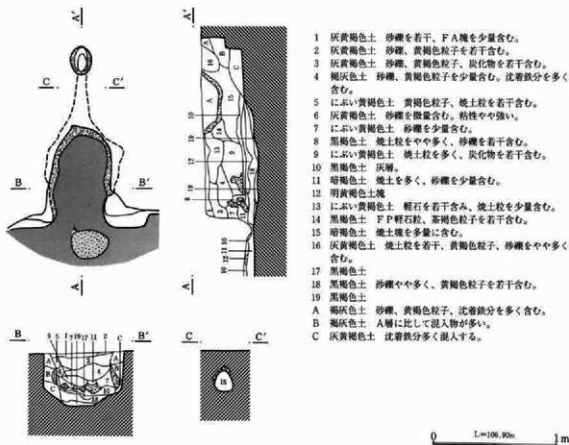
0 L=106.90m 2 m

第82図 19号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

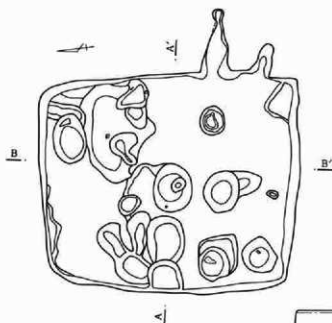


第83図 19号住居跡竈1

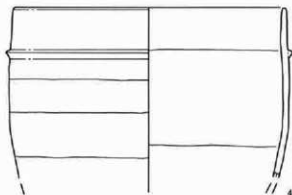
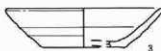
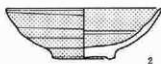
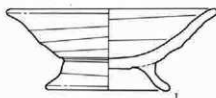


第84図 19号住居跡竈2

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第85図 19号住居跡掘り方



第86図 19号住居跡出土遺物

19号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (m)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
19住-1	土師器 碗	竈煙出口 ほぼ完形	口16.8、底9.9、 高6.5	①にふい粉 ②良好 ③小 石を微量、細石粒を多量に 含む。	轆轤整形。底部回転彫削り、高台部貼付。
19住-2	青磁 碗	貼床下 口一底1/3	口(12.3)、底5. 0、高4.0	①緑灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。削出し高台。
19住-3	須恵器 坏	埋土 口一底破片	口(12.6)、底(6 .8)、高3.1	①褐灰 ②良好 ③中一細 砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転削り未調整。
19住-4	土師器 瓶	埋土 口一割破片	口(29.0)、高(1 8.0)	①灰褐 ②良好 ③細砂粒 を微量含む。	口縁部内外面横溝で、肩部貼付、断面は三角形状を 呈する。胴部内外面横溝で。

20号住居跡 (PL26)

位置 79-1-18グリッド 床面積 12.0㎡ 主軸方位 N-97°-W

重葺 煙出し先端を26号住居跡に破壊され、107号住居跡を掘り込む。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 長辺3.56m、短辺3.39m、残存壁高0.3mを測り、東西にやや長い縦長形状を呈する。

**埋土** 暗褐色土をベースとする。

**床面** 基本的に地山（FA層）を削り出して、面が形成されているが、若干起伏がある。床下土坑や掘り方の窪みの部分にはにぶい黄褐色土を貼っている。中央やや東寄りに炉状に径0.5cmの焼土・炭化物の堆積が認められる。竈前から住居中央にかけて硬化面がはっきりと検出された。

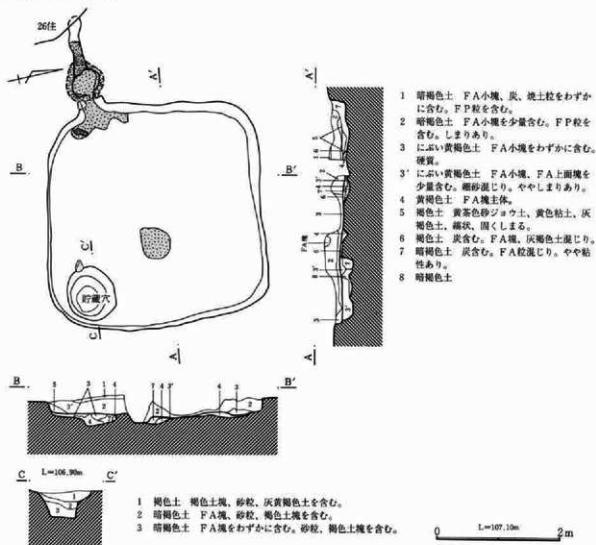
**竈跡** 南西隅の壁に取り付く。燃烧部・煙道・煙出し等は住居壁の外側に、地山を削り出し、掘り抜いてつくられる。南袖には袖石が残存し、燃烧部は円形プランを呈する。燃烧部の内外壁・天井・煙道の内外・天井等はよく焼けており、燃烧部内には焼土・炭化物の堆積が著しい。焚き口は円形に掘り窪められており、燃烧部内から焚き口にかけて焼土・炭化物が広がっている。

**柱穴** なし

**貯蔵穴** 南東隅に位置し、規模は長径0.85m、短径0.8m、深さ0.42mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

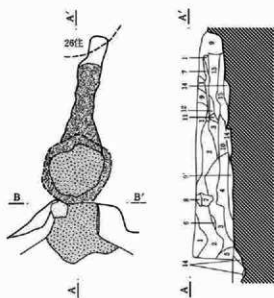
**壁下周** なし

**掘り方** 大小11基の床下土坑・ピットが検出された。全体に掘り込みが多く、とくに北東隅・南西隅などが低く掘り込んでいる。



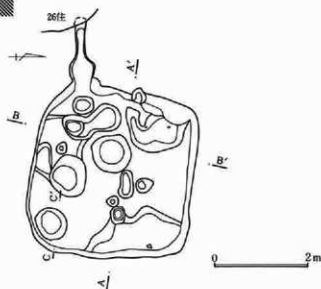
第87図 20号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第88図 20号住居跡竈

- 1 褐色土 白色軽石粒、焼土粒、炭化物粒、黄褐色土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒、黄褐色土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。土粒あらく、やや軟弱。
- 4 黒褐色土 指頭大の黄褐色土塊を少量、炭化物若干含む。
- 5 黒褐色土 炭化物粒、黄褐色土粒を少量含む。粘性乏しいが、しまっている
- 6 暗褐色土 2層に焼土塊を混入する層。
- 7 暗黄褐色土 焼土塊。
- 8 暗褐色土 焼土を塊状に含む。
- 9 暗褐色土 白色軽石粒を少量含む。
- 9' 灰黄褐色土 焼土粒、黄褐色土粒2%含む。わずかに軽石を含む。
- 10 褐色土 炭化物を微量、砂礫を若干含む。
- 11 灰黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 灰黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 13 褐色土 炭化物を若干含む。
- 14 黒褐色土 炭化物をやや多く含む。
- 15 黒褐色土 焼土粒を多く含む。



第89図 20号住居跡掘り方

21号住居跡 (PL26-88-89)

位置 79-G-17グリッド 床面積 (7.4)㎡ 主軸方位 N-11°-E

重複 南東側およそ半分を5号住居跡によって破壊され、44・55・62号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.0m、短辺2.54m、残存壁高0.22mを測り、南北に長い長方形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとし、F P粒・F A塊を若干含む。

床面 基本的には地山(F A層)を平坦に削り出して形成されており、床面下の掘り込みがあるところには、灰黄褐色土を2~15cmほど貼っている。住居中央にははっきりとした硬化面が検出された。北壁際中央から住居中央にかけて炭化物の堆積がみられる。

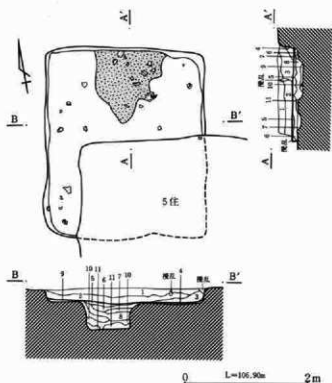
竈跡 5号住居跡によって破壊されており、痕跡すら検出されなかった。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

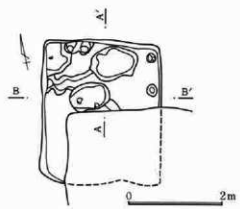
壁下周溝 なし

掘り方 床下土坑2基の他、浅い掘り込みがみられる。

第3章 検出された遺構と遺物

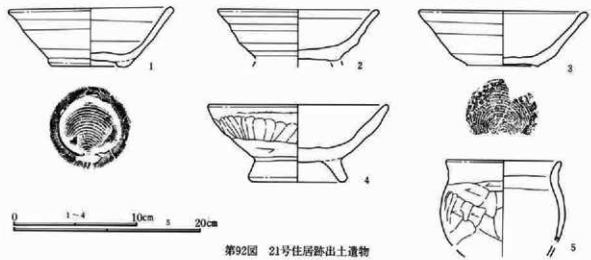


- 1 黒褐色土 F P粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 F A塊を含む。
- 3 黒褐色土 F P粒、F A塊を微量含む。
- 4 黒色土 F P粒を微量に含む。(貼床)
- 5 灰青褐色土 炭化物塊、F A塊を含む。
- 6 暗褐色土 炭化物塊、F P粒を少量含む。
- 7 灰青褐色土 炭化物を大量に含む。
- 8 黒色土 炭化物。
- 9 黒褐色土 炭化物を大量に、F A塊を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 炭化物を少量、F A塊を若干含む。
- 11 黒褐色土 F A塊をやや多く含む。



第90図 21号住居跡

第91図 21号住居跡掘り方



第92図 21号住居跡出土遺物

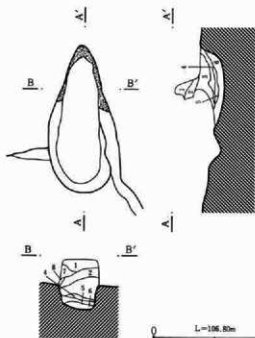
21号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
21住-1	須恵器 埴	土 形 完	口13.2、底6.5、 高4.7	①浅黄 ②不具 ③細砂粒 を少量含む。	楕圓整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
21住-2	須恵器 埴	埴 土 口一底1/4	口(13.0)、高(4 .0)	①灰白 ③良好 ③中-細 砂粒を含む。	楕圓整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付痕残 る。
21住-3	須恵器 埴	埴 土 口一底1/3	口(13.5)、底5. 8、高4.3	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。粗い。	楕圓整形。底部回転糸切り未調整。
21住-4	土師器 埴	埴 土 口一底2/3	口(14.5)、底8. 0、高6.1	①にぶい赤褐 ②良好 ③ 細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面中位寬削り、下位横 撫で。体部内面撫で。底部回転寬削り、口台部貼付。
21住-5	土師器 埴	埴 土 口一破片	口(12.2)、高(9 .1)	①にぶい赤褐 ②良好 ③ 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。胴部外面寬削り、内面撫で。



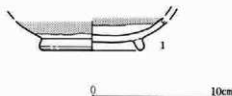


### 第3章 検出された遺構と遺物



第94図 22号住居跡礎

- 1 褐色土
- 2 褐色土 竈天井部を形成。火窓より赤化、硬化する。
- 3 濃い黄褐色土 焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 4 褐色土 指頭大の焼土塊を少量含む。
- 5 褐色土 灰を多く、炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 砂粒、炭化物を多く含む。
- 8 灰黄褐色土 砂粒、F A塊を少量含む。



第95図 22号住居跡出土遺物

#### 22号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 装 形 の 特 徴
22住-1	灰輪陶器 焼 底部破片	土	径7.6、高(2.5)	①灰白 ②良好 ③型紙	轆轤整形、底部回転削り、高台部貼付。施釉方法は漬け掛け。

#### 23号住居跡 (PL27-89)

位置 79-J-1グリッド 床面積 (15.0)㎡ 主軸方位 N-91°-E

重複 4号土坑に中央を、34号土坑に東壁中央から竈北半分を、48号土坑に南東隅を破壊され、25号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.36m、短辺3.37m、残存壁高0.24mを測り、南北に長い横長方形を呈する。

埋土 濃い黄褐色土をベースとする。

床面 地山 (FA層) を削り出して平坦面を形成している。全体に硬面化が検出された。

竈跡 東壁の中央よりやや南寄りに取り付く。上面は削平された北半分は34号土坑によって破壊されているため残存状態は悪く、燃焼部の南半分が検出されたにすぎない。袖・燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。南袖からは袖石が原位置で出土。また燃焼部中央には支脚に使われた自然石が原位置で出土している。燃焼部内から住居中央にかけて炭化物の堆積が顕著である。

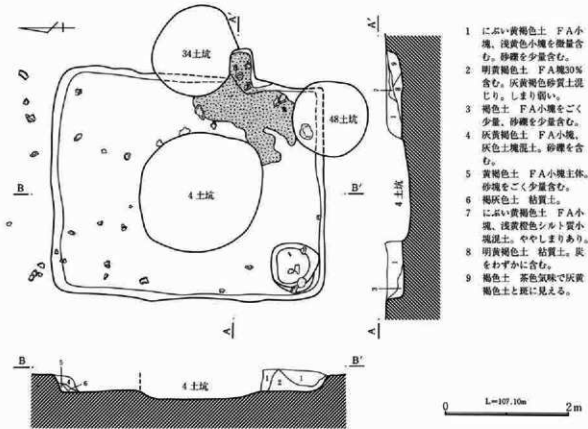
柱穴 なし

貯蔵穴 南西隅に位置し、規模は径0.8m、深さ0.36mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

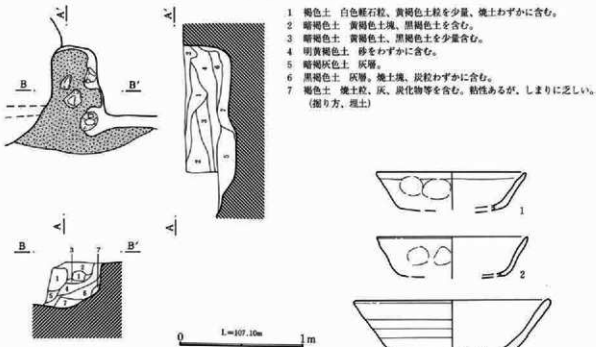
壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面が一致しており、床面下からは遺構は検出されなかった。

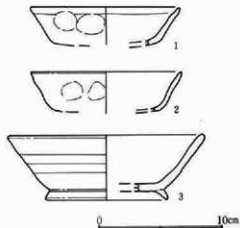
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第96図 23号住居跡

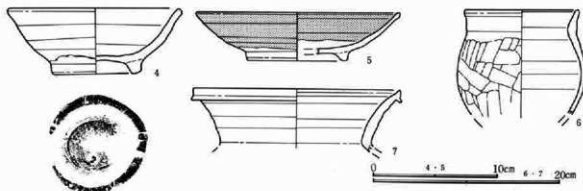


第97図 23号住居跡竈



第98図 23号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第99図 23号住居跡出土遺物(2)

23号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
23住-1	土師器 坏	埋土 口-底破片	口(12.0)、高(3.0)	①赤 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面・体部内外面襷縁で。底部是削り。
23住-2	土師器 坏	埋土 口-底破片	口(12.0)、高(3.2)	①におい橙 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部・体部内外面襷縁で。底部是削り。体部外面に指頭庄復付着。
23住-3	須恵器 瓶	埋土 口-底1/5	口(15.8)、底(9.8)、高5.1	①陶灰 ②良好 ③細砂粒を多量に含む。	輪縁整形。底部回転赤切り未調整、高台部貼付。
23住-4	須恵器 瓶	1号土境内 口-底3/4	口(13.9)、底7.0、高5.3	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。粗い。	輪縁整形。底部回転赤切り未調整、高台部貼付。
23住-5	灰輪陶器 碗	埋土 口-底1/3	口(16.4)、底(8.0)、高3.8	①灰・オリブ ②良好 ③密緻	輪縁整形。底部回転是削り、高台部貼付。施釉方法は遺け掛け。釉調は不透明な灰白色。
23住-6	土師器 甕	埋土 口-胴1/5	口(12.0)、高(11.1)	①赤赤陶 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面襷縁で。胴部外面是削り。内面撫で。
23住-7	須恵器 甕	埋土 口縁破片	口(22.2)、高(16.5)	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	輪縁整形。口縁外側に前面三角形の突起が付く。

24号住居跡 (PL27・28・89・90)

位置 79-I-16グリッド 床面積 (12.3) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-101°-E

重複 北西隅を11号住居跡に破壊され、41・52・53号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.64m、短辺3.35m、残存壁高0.13mを測り、東西に長い縦長形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、F P粒、黄褐色土粒を少量含む。

床面 暗褐色土を5〜10cmの厚さで貼っている。埋土との色調差によって、明瞭に識別でき、特に住居中央から竈前にかけて顕著な硬化面が検出された。

竈跡 東壁の南隅寄りに取り付く。焼成部のみで、煙道・煙出し等は検出されなかった。焼成部は住居壁外側に地山を削り出してつくられる。両袖には袖石が残存し、内壁には一部構築材の自然石が残っているが、内壁・奥壁とも焼けた痕跡は明瞭ではない。焼成部内から焚き口、竈前方にかけて炭化物が検出されている。

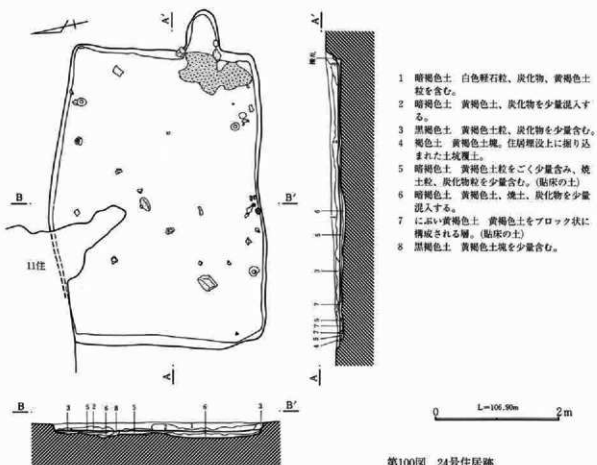
柱穴 なし

貯蔵穴 なし

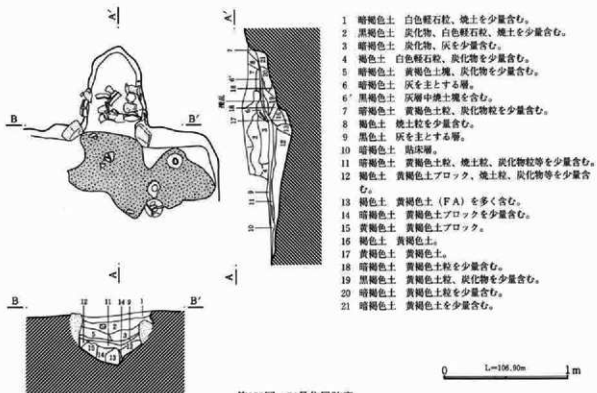
壁下周溝 なし

掘り方 若干起伏があるが概平平坦である。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

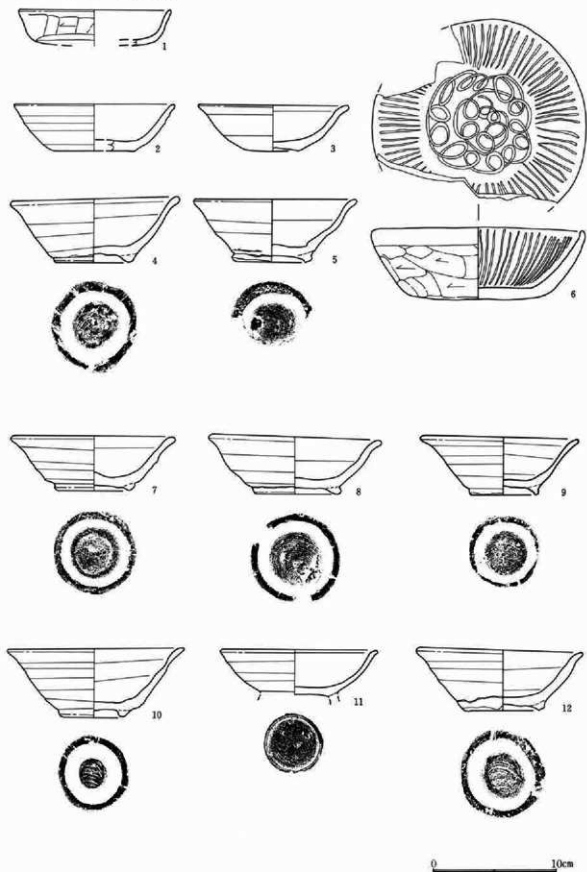


第100図 24号住居跡

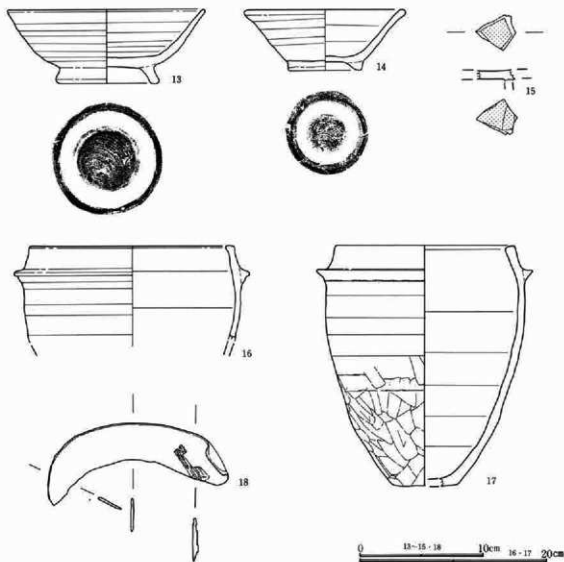


第101図 24号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第102図 24号住居跡出土遺物(1)



第103図 24号住居跡出土遺物(2)

24号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
24住-1	土師器 坏	埋土 口一底破片	口(12.1)、高(2.8)	①にぶい橙 ①良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面一底部削削り、体部一底部内面撫で。
24住-2	須恵器 坏	貼床下 口一底1/5	口(12.8)、底(6.4)、高3.7	①明陶灰 ②良好 ③中一細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
24住-3	土師器 坏	埋土 口一底1/2	口(12.0)、底(4.6)、高3.7	①陶灰 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
24住-4	須恵器 坏	埋土 完	口13.4、底6.0、高5.3	①にぶい黄橙 ②不良 ③中一細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-5	須恵器 坏	埋土 完	口13.0、底6.4、高5.0	①灰黄 ②やや不良 ③細砂粒を含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-6	土師器 坏	埋土 口一底3/4	口(17.0)、底(8.8)、高5.7	①橙 ②良好 ③中一細砂粒を含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面削削り、体部一底部内面丁寧な撫で、放射状及び轆轤暗文つく。
24住-7	須恵器 坏	埋土 完	口13.2、底6.4、高4.3	①灰白 ②良好 ③中一細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-8	須恵器 坏	埋土 完	口13.8、底7.0、高4.7	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-9	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	口12.6、底5.4、高4.6	①灰白 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

### 第3章 検出された遺構と遺物

24住-10	須恵器 埴	竈前床直上 完形	口14.3、底5.5、 高5.5	①灰白 ②やや不良 ③細 砂粒を少量含む。	横軸整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-11	須恵器 埴	埴土 ほぼ完形	口12.5、高(3.7 )	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	横軸整形、底部回転糸切り、高台部貼付残存。
24住-12	須恵器 埴	竈前床直上 ほぼ完形	口13.2、底6.5、 高5.0	①浅黄 ②やや不良 ③中 一細砂粒を多く含む。	横軸整形、底部回転糸切り、高台部貼付。
24住-13	須恵器 埴	埴土 口一底1/3	口(15.8)、底8. 3、高5.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	横軸整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-14	須恵器 埴	埴土 口一底1/3	口(12.8)、底6. 0、高4.8	①にぶい黄粒 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	横軸整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
24住-15	緑釉陶器 埴	埴土 破片	長(3.3)、短(2. 7)、厚0.7	①オリーブ灰 ②良好 ③ 粗粒	横軸整形。
24住-16	土師器 羽 蓋	埴土 口一割破片	口(22.0)、高(1 0.2)	①にぶい粒 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	口縁部は内彎し、内外面撫で、端部は撫でにより平坦面作る。胴部貼付、断面は三角形を呈する。胴部内外面撫で。
24住-17	土師器 羽 蓋	埴土 口一底1/3	口(19.3)、底(6 .7)、高25.5	①粒 ②良好 ③細砂粒を 含む。	口縁部は内彎し、内外面撫で、端部は撫でにより平坦面作る。胴部外面上半は横撫で、下半は斜め方向直削り。内面は丁寧な撫で、胴部貼付、断面は三角形を呈する。
24住-18	埴	埴土	長14.4、幅3.0、厚0.07-0.15、重9g		完存。柄取り付け部分は材を折り曲げている。木質が若干残存している。

#### 25号住居跡 (PL28-90)

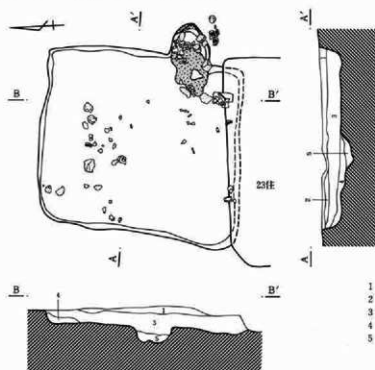
位置 79-J-2グリッド 床面積 (9.3)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-103°-E

重複 南壁を23号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺3.21m、短辺2.86m、残存壁高0.3mを測り、南北にやや長い横長方形を呈する。

上面を削平され、攪乱等の掘り込みも多く、残存状態は悪い。辛うじて平面プランが検出できた。

埴土 にぶい黄褐色土をベースとする。



床面 地山 (F A層) を削り出して平坦面を形成しているが起伏がある。一部に掘り窪みがある。

竈跡 東壁の南隅寄りに取り付く。燃焼部のみ検出され、住居壁の外側に地山を削り出して構築される。南袖には袖石が、奥壁の両側には構築材の自然石が残存しており、内壁から奥壁にかけてよく焼けている。また燃焼部から焚き口前方にかけて焼土・炭化物の堆積が認められる。

- 1 暗褐色土 F P粒を少量含む。
- 2 褐色土 F P粒を微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 F P粒、砂粒をごく少量含む。
- 4 褐色土 F P粒をごく少量含む。
- 5 暗褐色土 F A塊、炭化物を若干含む。

0 L=107.30m 2m

第104図 25号住居跡

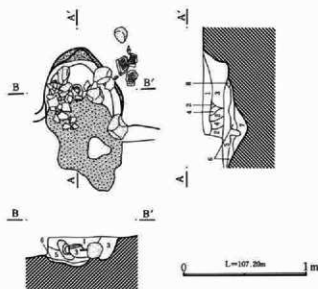


第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

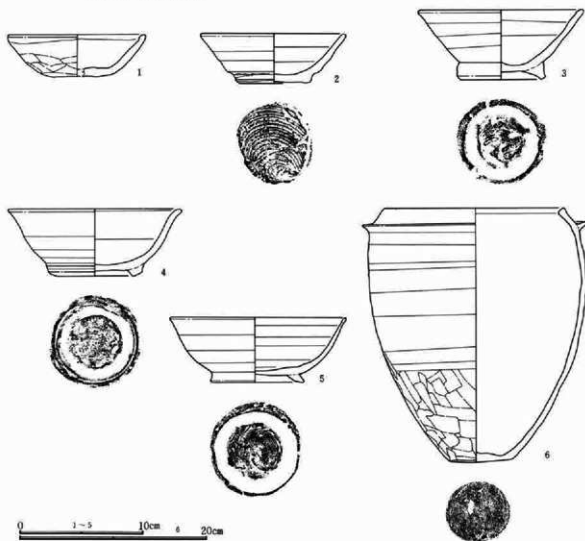
壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方面はほぼ一致している。



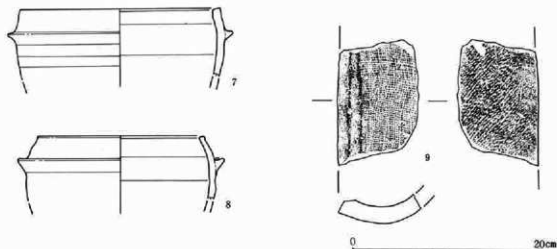
- 1 細灰色土 シルト質土。
- 2 黄褐色土 FA小塊、黒色土塊を少量含む。
- 3 暗褐色土 FP粒、黒色土塊を少量含む。
- 4 黒褐色土 FP粒、黒色土塊を少量含む。
- 5 黒褐色土 灰褐色土塊を含む。
- 6 暗褐色土 FA塊を含む。
- 7 暗褐色土 FA塊を少量含む。
- 8 黄褐色土

第105図 25号住居跡概



第106図 25号住居跡出土遺物(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



第107図 25号住居跡出土遺物(2)

#### 25号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
25住-1	土師器 環	埋土 口~底1/2	口(11.0)、底(5.0)、高3.3	①に白い赤褐 ②良好 ③細砂粒を含む。	口縁部内外面横溝で、体部~底部外面彫削り、体~底部内面撫で。
25住-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(11.7)、底16.1、高3.9	①灰オリーブ ②やや不良 ③細砂粒をやや多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
25住-3	須恵器 魂	埋土 口~底1/4	口(13.1)、底7.0、高5.5	①灰褐 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む、粗い。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
25住-4	須恵器 魂	埋土 口~底1/2	口(13.9)、底7.6、高5.3	①黄灰 ②やや不良 ③中~細砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
25住-5	須恵器 魂	埋土 口~底1/3	口(13.9)、底7.6、高5.3	①黄灰 ②やや良好 ③中~細砂粒を多量に含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
25住-6	須恵器 羽蓋	甕埋土 ほぼ完形	口19.5、底6.7、高25.9	①黄褐 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	輪縁整形。口縁部・胴部上半内外面、胴部下半内面横撫で。胴部外面下半削り彫削り。底部回転彫削り
25住-7	須恵器 羽蓋	甕埋土 口縁破片	口(21.4)、高(7.3)	①灰オリーブ ②良好 ③粗~細砂粒を少量含む。	輪縁整形。口縁部・胴部内外面横撫で。肩部貼付。断面は三角形状を呈する。
25住-8	須恵器 羽蓋	甕埋土 口縁破片	口(17.8)、高(6.9)	①に白い橙 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	輪縁整形。口縁部・胴部内外面横撫で。肩部貼付。
25住-9	平瓦	甕埋土 破片	長(12.1)、短(8.7)、厚1.8	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む。	凸面隅目。凹面布目。縁縁横削り。

#### 26号住居跡 (PL28-29)

位置 79-J-18グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-101°-E

重複 南側を11号住居跡によって破壊され、20・52号住居跡・3号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 短辺4m、残存壁高0.38mを測り、南北に長い横長形状を呈する。東壁の南隅寄り、南東隅に並んで竈が2基検出されたが、南東隅の竈2のほうが新しく、東壁の南隅寄りの竈1の廃棄後につくられ、使用されたものとみられる。

埋土 黒褐色土をベースとする。

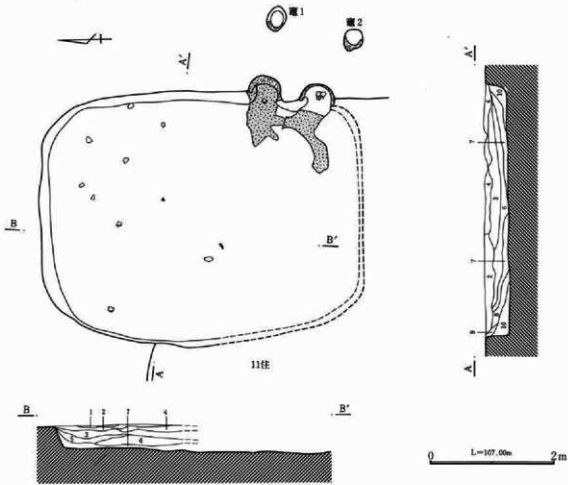
床面 地山を削り出して比較的良好的な平坦面が形成されている。埋土との色調差によって明瞭に識別でき、ほぼ全域にわたって硬化面が検出された。

竈跡 東壁南隅寄りの竈1、南東隅の竈2とも残存状態は良好で、住居壁外に地山を削り出し、掘り抜いて構築されている。両竈とも、燃焼部内壁・煙道内・煙出し外周がよく焼けており、特に煙道部は地山を長

くくり抜いてトンネル状にしている。竈2の燃焼部内には支脚の石が残存し、燃焼部内から焚き口前方にかけて炭化物の堆積が認められる。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下固溝 なし

掘り方 掘り方は床面とはほぼ一致し、床面下の掘り込み、土坑等はない。



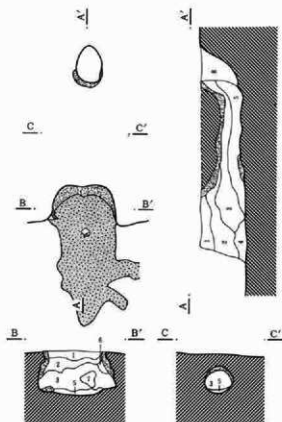
- |                                |                                    |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1 褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒を少量、焼土を微量含む。  | 7 黒褐色土 黄褐色土粒を少量含む。                 |
| 2 黒褐色土 褐色土、白色軽石粒を少量含む。         | 8 褐色土 黄褐色土塊、粒、焼土を少量混入する。           |
| 3 暗褐色土 黄褐色土塊、炭化物、焼土を少量含む。      | 9 暗褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒、焼土粒を少量含む。       |
| 4 黒褐色土 黄褐色土塊を少量含む。             | 10 暗褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒、焼土、炭化物を少量混入する。 |
| 5 暗褐色土 黄褐色土、白色軽石粒を少量含む。        |                                    |
| 6 暗褐色土 黄褐色土塊、粒、炭化物、白色軽石粒を少量含む。 |                                    |

第108図 26号住居跡



第109図 26号住居跡出土遺物

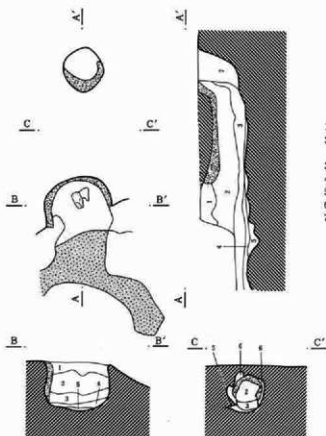
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 砂礫、小石を少量、炭化物、焼土塊を微量、黄褐色粒子を若干含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を若干、焼土粒を微量含む。
- 3 濃い黄褐色土 黄褐色土塊を大量に、炭化物を微量、焼土粒を微量含む。
- 4 黒灰色土 炭化物、焼土粒、黄褐色粒子を少量含む。
- 5 灰黄褐色土 炭化物、焼土塊を多く、黄褐色土塊、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 6 黒褐色土 焼土塊を多く含む。
- 7 灰黄褐色土 F A塊を含む。
- 8 黒褐色土 灰を主とし、黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。

0 L=106.90m ] m

第110図 26号住居跡竈1



- 1 明赤褐色土 竈壁体、火熱を受け硬質。
- 2 褐色土 白色軽石粒を少量含む、全体的に焼土を含み、また、熱の影響により赤褐色を呈する。
- 3 黒褐色土 灰をベースとし、焼土塊をわずかに含む。
- 4 褐色土 白色軽石粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 白色軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。
- 7 暗褐色土 (掘出し)

0 L=106.90m ] m

第111図 26号住居跡竈2

## 26号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
26住-1	須忠器 坏	粘床下 □-底1/4	□(13.0)、底5. 2、高3.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	輪縁整形、底部回転切り後施削り。
26住-2	土師器 坏	埋 土 □-底破片	□(11.2)、高(2 .3)	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で。体部一底部外面施削り、内面 撫で。
26住-3	土師器 甕	埋 土 □縁破片	□(21.0)、高(5 .2)	①明閑 ②良好 ③中～細 砂粒を多く含む。	口縁部内外面撫で。体部外面施削り、内面撫で。

## 28号住居跡 (PL29-90)

位置 79-F-18グリッド 床面積 測定不能

主軸方位 N-106°-E

重積 南壁上面を9号住居跡に破壊され、49号住居跡を掘り込む。

規模と形状 残存壁高0.56mを測る。南西隅が検出されたにすぎず、大部分は調査区域外となるため、原形は不明。

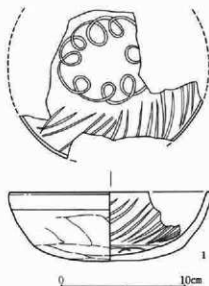
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 調査区外にかかり不明。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方はほぼ一致している。



第112図 28号住居跡出土遺物

## 28号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
28住-1	土師器 坏	埋 土 □-底1/3	□(16.0)、底10 .5、高5.4	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を微量含む。	口縁部内外面横溝で。体部一底部外面施削り、内面 撫で。体部内面に放射状暗文、底部内面に螺旋状暗 文。

## 29号住居跡 (PL29-30-91)

位置 79-I-20グリッド 床面積 (11.9)㎡ 主軸方位 N-89°-E

重積 北東隅を16・160号土塊に、西壁を擾乱によって破壊されている。39・48号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺(3.8)m、短辺3.12m、残存壁高0.23mを測り、東西に長い縦長長方形形状を呈する。

埋土 褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。にぶい黄褐色土を厚さ2～10cmほど貼って、比較的良好的な平坦面が形成されており、竈前から住居中央にかけて硬化面が検出された。

竈跡 東壁の中央よりやや南寄りに取り付く。袖・燃焼部・煙道等は住居壁外に地山を削り出してつくられる。逆V字形の平面プランを呈する。燃焼部内から焚き口にかけて炭化物の堆積が認められる。燃焼部・煙道の天井はすでに失われており、内壁の焼けた痕跡はほとんど確認できなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

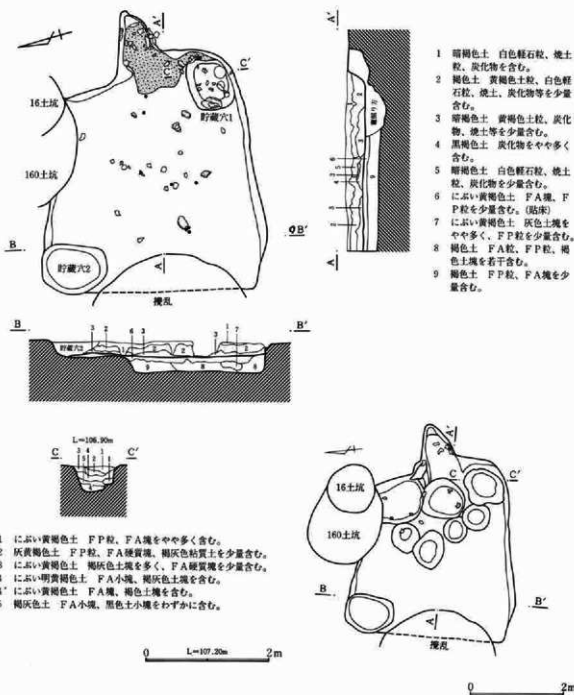
柱穴 なし

貯蔵穴1 南東隅に位置し、規模は長径0.84m、短径0.67m、深さ0.39mを測り、形状は楕円形を呈する。

貯蔵穴2 北西隅に位置し、規模は長径1.04m、短径0.8m、深さ0.4mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

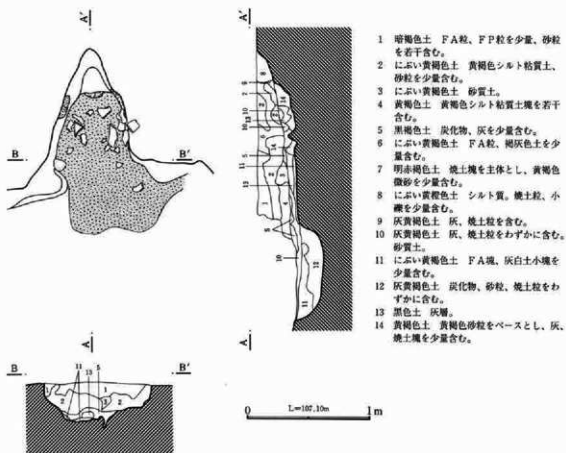
掘り方 東半部に大小の床下土坑が6基検出された。西半部は地山を比較的平坦に削り出している。



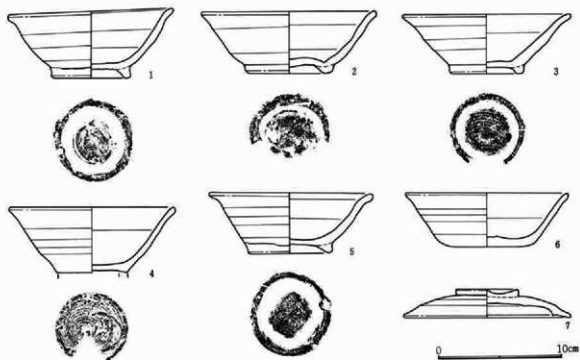
第113図 29号住居跡

第114図 29号住居跡掘り方

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

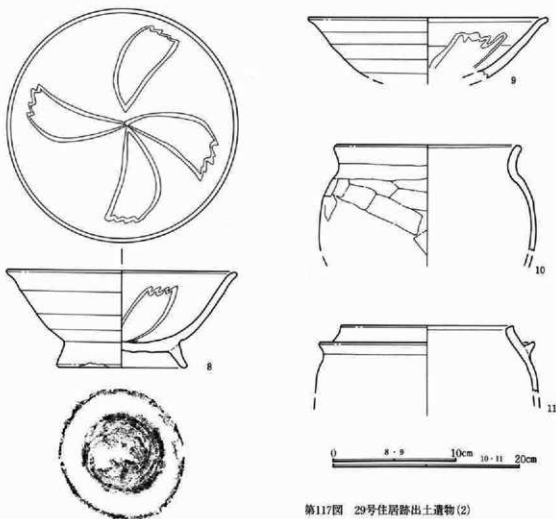


第115図 29号住居跡概



第116図 29号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第117図 29号住居跡出土遺物(2)

29号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
29住-1	須恵器 碗	埋 土 口-底2/3	□13.1、底6.3、 高5.5	①オリーブ黒 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
29住-2	須恵器 碗	埋 土 方 口-底1/2	□(14.0)、底(7 .0)、高4.9	①オリーブ黒 ②やや不良 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
29住-3	須恵器 碗	貯蔵穴内 口-底1/4	□(13.4)、底6. 0、高5.7	①灰黄黒 ②やや不良 ③ 中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
29住-4	須恵器 碗	貯蔵穴内 口-底1/2	□(13.2)、高5. 2	①黄灰 ②やや良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
29住-5	須恵器 碗	埋 土 ほぼ定形	□(13.2)、底6. 8、高5.9	①灰 ②やや良好 ③中- 細砂粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
29住-6	須恵器 坏	埋 土 口-底1/3	□(13.0)、底7. 4、高4.3	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
29住-7	須恵器 蓋	埋 土 つまみ一端	径(13.4)、坯身 4.9、高2.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	轆轤整形。
29住-8	土師器 碗	完 形	□18.4、底10.4、 高7.7	①明赤褐 ②良好 ③中- 細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転削で、高台部貼付。内面黒色処理、裏磨きにて花弁を描く。
29住-9	土師器 碗	貯蔵穴内 口-底破片	□(19.2)、高(4 .8)	①赤褐 ②良好 ③細砂粒 をやや多く含む。	轆轤整形。内面黒色処理、裏磨きにて花弁を描く。
29住-10	土師器 甕	埋 土 口-底1/3	□(20.0)、高(1 1.4)	①明赤褐 ②やや良好 ③ 中-細砂粒をごく少量含む。	口縁部・頸部内外面横線で、胴部外面磨削り、内面横線で。
29住-11	土師器 羽 釜	埋 土 口縁部1/3	□(18.4)、高(7 .4)	①白い燻 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	口縁部は内磨する。口縁部内外面横線で。端部は削 でにより平面作る。



## 30号住居跡 (PL30-91)

位置 79-D-14グリッド 床面積 9.1m<sup>2</sup> 主軸方位 N-90°-E

重複 34号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.3m、短辺2.85m、残存壁高0.44mを測り、南北に長い縦長形状を呈する。

埋土 褐灰色土・にぶい黄褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。褐灰色土・にぶい黄褐色土を10-15cmの厚みで貼って平坦面を形成しており、住居中央から竈前にかけては硬化面が比較的良好に検出された。

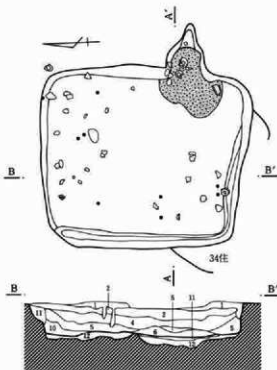
竈跡 東壁の南隅寄りに取り付く。燃烧部・煙道は住居壁外に地山を削り出してつくられる。燃烧部はU字形の平面プランを呈し、燃烧部内には炭化物・焼土が堆積しているが、内壁には焼けた痕跡が顕著にはみられない。煙道は逆V字形を呈し、緩やかな勾配をもちながら立ち上がる。燃烧部・煙道とも天井はすでに失われている。掘り方で両袖石と支脚

を据えた痕跡とみられる小さなピット状の窪みが検出された。

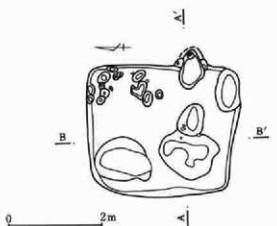
柱穴 なし 貯蔵穴 なし

壁下周溝 西壁から南壁にかけて検出された。幅5-10cm、深さ2-5cm程度である。

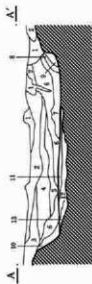
掘り方 南側から西側にかけて床下土坑4基が検出された。また北東側には小さな掘り窪みが多くみられ、全体的に凹凸が甚しい。



第118図 30号住居跡

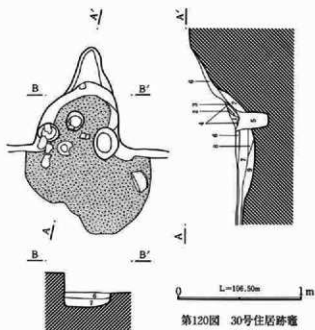


第119図 30号住居跡掘り方



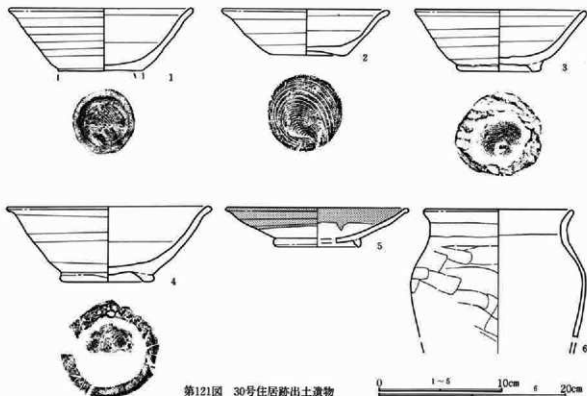
- 1 褐灰色土 F P、炭粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 F P、F A塊を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物微量混じる。
- 4 褐灰色土 炭化物多量含む。F P、F A塊を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物、F A塊を含む。
- 6 褐灰色土 褐灰色粘土塊、炭化物、F A塊を含む。
- 7 褐灰色土 粘質土。F A塊を含む。炭をごく微量含む。
- 8 暗褐色土 F A塊を少量含む。
- 9 青黒色土 灰、炭をベースとし、焼土塊を含む。
- 10 褐灰色土 F A塊を少量含む。
- 11 褐灰色土 F A塊を少量含む。(貼床)
- 12 にぶい黄褐色土 F A塊を多量に、F Pを少量含む。
- 13 褐灰色土 粘土塊。

第3章 検出された遺構と遺物



第120図 30号住居跡竈

- 1 褐色土 F A塊を少量含む。粗粒、粘性あり。
- 2 ぶい黄褐色土 うすい泥状に黄褐色土が混じる。細粒、粘性あり。
- 3 黄褐色土 2層土が焼けた感じ。鮮やかな赤褐色塊混入。
- 4 灰白色土 細かなF A粒びっしり混じる。硬質。しまり足りない。
- 5 褐色土 どん黒い感じの焼土。粘性あり。しまり弱い。
- 6 青灰色土 焼土塊含む灰、炭の層。
- 7 ぶい黄褐色土 住居跡り床面と似る。非常に固い。
- 8 灰黄褐色土 灰少量混じる。粗粒、粘性、しまり足りない。
- 9 ぶい黄褐色土 住居跡床土に類似。



第121図 30号住居跡出土遺物

30号住居遺物観察表

番号	器種	出土状況 無残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
30住-1	須恵器 碗	埋土 口~底2/3	□(14.8)、高(4.9)		①黄灰 ②やや良好 ③中~細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕。
30住-2	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	□13.4、底9.0、高3.7		①灰 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
30住-3	須恵器 碗	埋土 ほぼ完形	□13.7、底6.7、高4.9		①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

30住-4	須恵器 甕	甕 土 口-底2/3	□16.3、底7.5、 高6.0	①灰黄褐 ②やや不良 細砂粒を少量含む。	④ 轆轤整形。底部回転赤切り未調整。高台部貼付。
30住-5	灰軸陶器 甕	甕 土 口-底1/5	□(14.6)、底(7 .0)、高3.1	①灰白 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転無で、高台部貼付。施釉方法は刷毛塗り。軸測は不透明な灰白色を呈する。
30住-6	土師器 甕	甕 土 口-底1/4	□(16.0)、高(1 3.7)	①赤褐 ②やや良好 ③細 砂粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面斜め方向彫削り、内面横溝で。

## 31号住居跡 (PL30-91-92)

位置 89-H-1グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-79°-W

重複 南西隅を165・266号土坑に破壊される。4号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 残存壁高0.4mを測る。大部分が調査区域外に出るため原形は不明である。

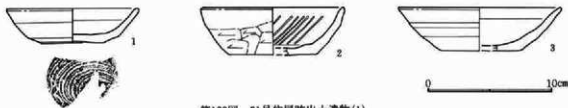
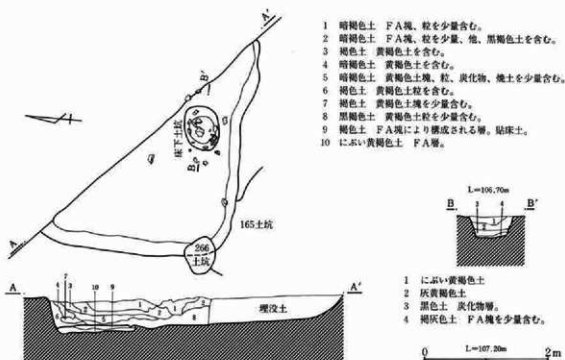
埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。黒褐色土を厚さ10cmほど貼り込んで平坦面を形成している。

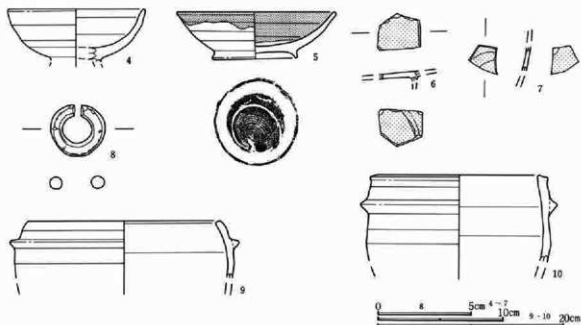
竈跡 調査区域外となり未検出。

柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 なし

掘り方 長径0.7m、短径0.54m、深さ0.31mの楕円形を呈する床下土坑が1基検出された。



第3章 検出された遺構と遺物



第124図 31号住居跡出土遺物(2)

31号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
31住-1	土師器 坏	残土 口~底2/3	口(10.6)、底5.3、高2.7	①橙 ②良好 ③砂漚・粗細砂粒を少量含む。	輪罐整形。底部回転赤切り未調整。
31住-2	土師器 坏	残土 口~底1/4	口(11.5)、底(7.3)、高3.7	①にぶい橙 ②良好 ③中細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部~底部外面無彫り。体部内面斜め方向の暗文、底部内面無で。
31住-3	須恵器 坏	残土 口~底破片	口(13.0)、底(6.2)、高3.4	①灰 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	輪罐整形。底部回転赤切り未調整。
31住-4	須恵器 碗	残土 口~底1/3	口(11.0)、高(4.2)	①にぶい黄橙 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	輪罐整形。底部回転赤切り未調整、高台部貼付。
31住-5	灰釉陶器 碗	残土 口~底2/3	口12.8、底6.8、高3.8	①灰白 ②良好 ③堅緻	輪罐整形。底部回転赤切り未調整、高台部貼付。
31住-6	緑釉陶器 碗	残土 底部破片	長(3.5)、短(2.8)、厚0.5	①オリーブ灰 ②良好 ③堅緻	輪罐整形。
31住-7	緑釉陶器 柄	残土 体部破片	長(2.1)、短(2.1)、厚0.3	①緑灰 ②良好 ③堅緻	輪罐整形。
31住-8	金銅製耳環	埋定 形	縦2.2、横3.0、厚0.5		
31住-9	土師器 羽蓋	残土 口縁破片	口(20.8)、高(6.0)	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	輪罐整形。口縁は内唇し、肩部は溝によって平坦面作る。肩部貼付、断面は三角形を呈する。
31住-10	須恵器 羽蓋	残土 口縁破片	口(19.0)、高(9.0)	①灰白 ②やや不良 ③細砂粒を多量に含む。	輪罐整形。口縁は内唇し、肩部は溝によって平坦面作る。肩部貼付、断面は三角形を呈する。

32号住居跡 (PL31-92)

位置 79-G-18グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-79°-W

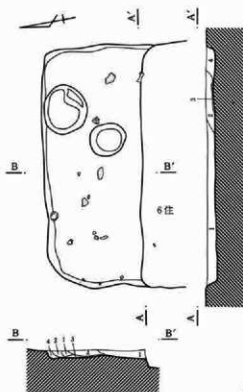
重複 南半を6号住居跡に破壊される。60・65号住居跡を掘り込む。

規模と形状 東西辺3.78m、残存壁高0.4mを測る。南側大半を6号住居跡に破壊されているため原形は不明。東西壁はほぼ6号住居跡に一致するが、6号住居跡とは床面標高が異なり、明らかに別の住居である。

埋土 黒褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。埋土との色調差によって明瞭に識別できるが、硬化面ははっ

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



きりとは検出されなかった。

竈跡 6号住居跡により破壊され、未検出。

柱穴 なし

貯蔵穴1 北東隅に位置し、規模は長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

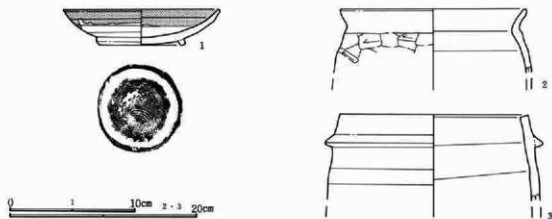
貯蔵穴2 北寄りに位置し、径約0.6m、深さ0.3mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方面はほぼ一致し、床面下の遺構は発見されなかった。

- 1 黒褐色土 炭化物、灰褐色土塊、軽石をごく少量含む。
- 2 褐色土 軽石少量、F A粒をごく少量含む。
- 3 褐色土 うすい灰色土と黄色土の互層。粘床。
- 4 褐色土 F A粒、F P粒を含む。壁の崩落土。

第125図 32号住居跡



第126図 32号住居跡出土遺物

32号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
32住-1	灰釉陶器 皿	規土 形 完	口12.5、底7.1、 高2.8	①灰白 ②良好 ③堅軟	輪襷整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。施釉方法は遣け掛け。
32住-2	土師器 甕	規土 口縁破片	口(30.0)、高(6 .8)	①によい程 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面襷敷で。胴部外面荒削り、内面襷で。
32住-3	土師器 羽 釜	規土 口縁破片	口(20.2)、高(9 .3)	①によい程 ②良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	輪襷整形。口縁は僅かに内押し、踵部は撫でにより 平坦面作る。

33号住居跡 (PL31-92)

位置 79-H-19グリッド

床面積 (13.2) m<sup>2</sup>

主軸方位 N-93°-E

### 第3章 検出された遺構と遺物

**重複** 北東を38号住居跡に破壊され、39・60号住居跡・6号掘立柱建物跡を掘り込む。

**規模と形状** 長辺4.2m、短辺3.15m、残存壁高0.34mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈する。上面を近世の畑で掘り込まれている。

**埋土** におい黄褐色土、灰黄褐色土をベースとし、FA・FP粒を少量含む。住居中央部に径15~40cm程度の自然石が散在している。

**床面** 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。FA塊を含んだにおい黄褐色土、褐灰色土を一部に貼っており、竈前や住居中央部では硬化面が認められた。

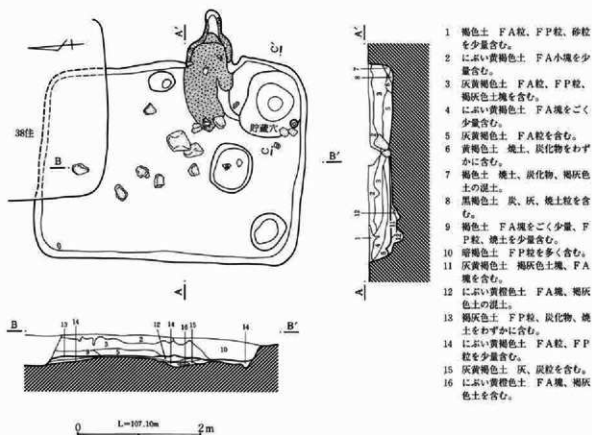
**竈跡** 東壁のやや南東隅寄りに取り付く。燃焼部は住居壁より外側に地山を削り出してつくられる。袖も地山を削り出してあり、南袖のみ住居の内側に若干張り出す。袖の先端には自然石の袖石が残存している。燃焼部前には焚き口と思われる浅いピット状の掘り込みがみられ、周辺に構築材の一部とみられる自然石が散乱している。煙道は緩やかに立ち上がるが上面は削平されており、プランの一部が検出されたにすぎない。

**柱穴** なし

**貯蔵穴** 南東隅に位置し、規模は長径1.1m、短径0.85m、深さ0.32mを測り、形状は楕円形を呈する。また、住居中央よりやや南に長径0.8m、短径0.65m、深さ0.15m、楕円形を呈する土坑があり、また南西隅に径0.55m、深さ0.12mの円形を呈する土坑があり、いずれも住居に伴うものと考えられる。

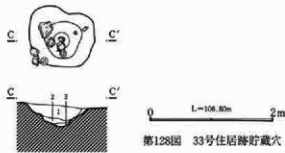
**壁下周溝** なし

**掘り方** 平坦面が形成されており、一部は床面と掘り方面が一致している。床面下から遺構は検出されなかった。



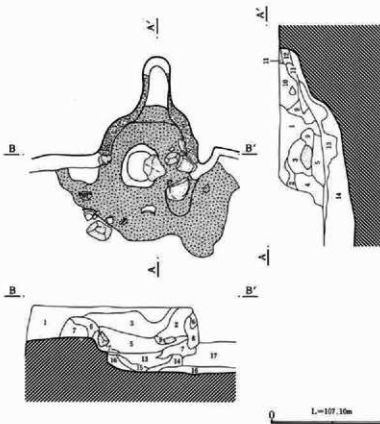
第127図 33号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



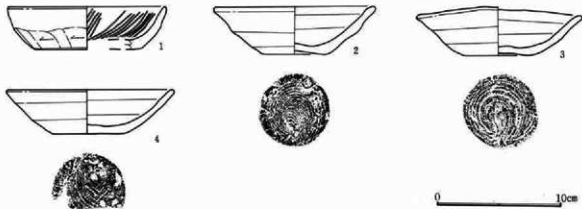
第128図 33号住居跡貯蔵穴

- 1 にぶい黄褐色土 F P粒わずかに含む。
- 2 褐灰色土 炭化物、焼土をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を少量含む。



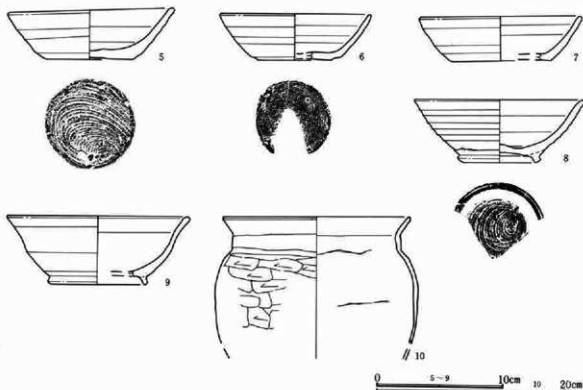
第129図 33号住居跡竈

- 1 暗褐色土 黄褐色砂質塊、F P粒、褐灰色土を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色砂質小塊を微量、F P粒、褐灰色土を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 F P粒やや多く含む。砂礫含む。
- 4 にぶい黄褐色土 夾雑物少ない。わずかにF P粒、黄褐色土粒含む。
- 5 黄褐色土 褐灰色土、黄褐色土、褐色土の混土。焼土塊含む。
- 6 にぶい黄褐色土 黄色粘質土塊とにぶい黄褐色土の混土。
- 7 にぶい黄褐色土
- 8 褐色土 焼土小塊、黄褐色土粒を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 F A土層塊を少量、焼土、炭粒をわずかに含む。
- 10 灰黄褐色土 褐灰色土に茶色鉄分がマンガンを比着粒混土。ややざらついた層。
- 11 赤褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 12 暗褐色土 褐灰色土混じる。
- 13 褐色土 焼土塊灰、炭を少量含む。
- 14 褐色土 F A粒、焼土、褐灰色土小塊をわずかに含む。
- 15 灰黄褐色土 灰、炭粒、F A小塊を少量含む。
- 16 褐灰色土 シルト質。茶色斑点見られる。
- 17 褐色土 F P粒、褐灰色土小塊を含む。



第130図 33号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第131図 33号住居跡出土遺物(2)

33号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
33住-1	土師器 坏	埋 土 口-底1/3	口(12.8)、底(8.9)、高3.4	①にふい橙 ②やや良好 ③粗-細砂粒を少量含む。	口縁部内外両面。体部-底部外面施磨り、体部-底部内面丁寧な面。体部内面に斜め指文入る。
33住-2	須恵器 坏	貯蔵穴内 完 形	口13.0、底5.6、 高3.8	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-3	須恵器 坏	貯蔵穴内 完 形	口13.2、底5.6、 高3.9	①灰 ②良好 ③砂礫・中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-4	須恵器 坏	甕 埋 土 口-底1/2	口(13.4)、底5.6、高3.5	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-5	須恵器 坏	埋 土 口-底2/3	口13.3、底7.2、 高4.2	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-6	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	口(12.0)、底(6.0)、高3.7	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-7	須恵器 坏	埋 土 口-底1/5	口(13.0)、底(8.0)、高3.5	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
33住-8	須恵器 埴	貯蔵穴内 口-底1/3	口(13.5)、底6.6、高3.0	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
33住-9	須恵器 埴	貯蔵穴内 口-底1/8	口(14.7)、底(8.0)、高5.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付後、横溝で
33住-10	土師器 甕	甕 埋 土 口-側1/6	口(20.0)、高(13.5)	①にふい橙 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	口縁部・頸部内外両面横溝で。胴部外面施磨り、内面

34号住居跡 (PL31-92)

位置 79-D-14グリッド 床面積 (7.7)㎡ 主軸方位 N-88°-E

重複 30号住居跡に北西隅を破壊される。



規模と形状 長辺3.04m、短辺2.58m、残存壁高0.35mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

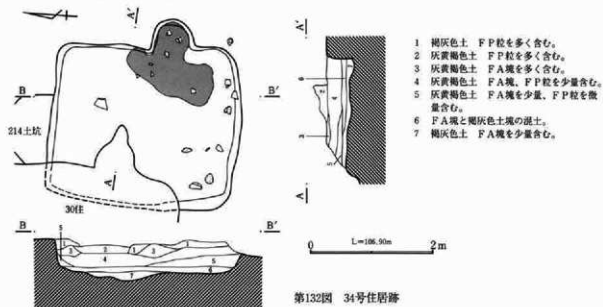
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山をそのまま床面としているが、若干凹凸があり、起伏がみられる。硬化面は明瞭に検出できなかった。

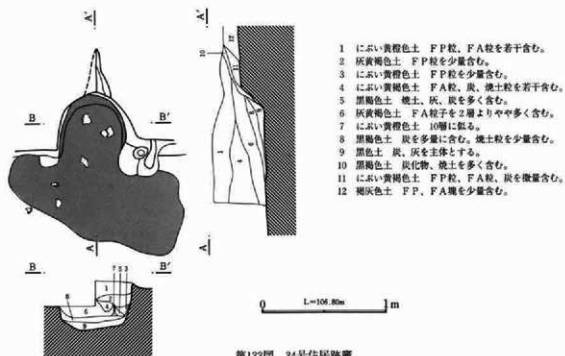
竈跡 東壁のやや東南隅寄りに取り付く。上面は削平をうけており、燃焼部と煙道のごく一部が検出された。燃焼部・袖は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。南袖のみ住居内に若干張り出す。燃焼部内には炭化物が多く堆積している。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面がほぼ一致し、床下の遺構は検出されなかった。

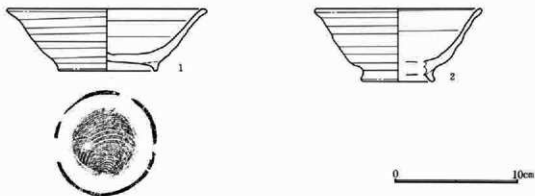


第132図 34号住居跡



第133図 34号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第134図 34号住居跡出土遺物

34号住居遺物観察表

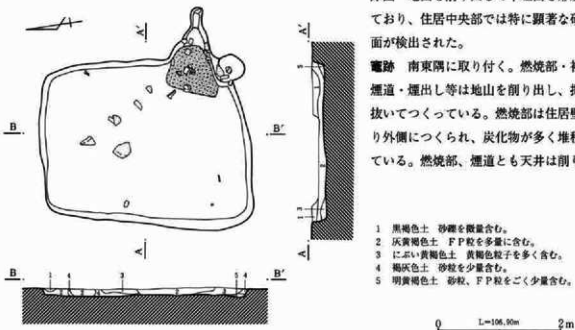
番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
34住-1	須恵器 碗	甕埋土 口-底3/4	口(16.0)、底8.0、高4.9	①灰白 ②良好 ③小石・細砂粒を少量含む。	輪轆整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
34住-2	須恵器 碗	甕埋土 口-底1/5	口(13.8)、底(5.7)、高5.7	①灰黄褐 ②やや不良 ③細砂粒を若干含む。	輪轆整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

36号住居跡 (PL31-92)

位置 79-F-15グリッド 床面積 6.4㎡ 主軸方位 N-101°-E

重複 56・58・66号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.37m、短辺2.55m、残存壁高0.08mを測り、南北に長い横長形状を呈する。



第135図 36号住居跡

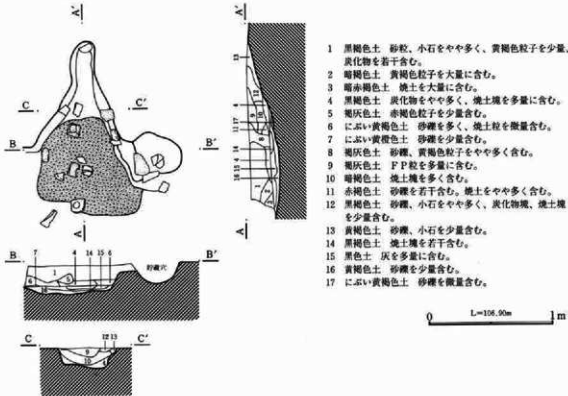
られている。煙道は緩やかに立ち上がり、短い。煙道から焚き口にかけて炭化物が堆積している。

柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅、竈脇に位置し、規模は径0.4m、深さ0.1mを測り、形状は円形を呈する。

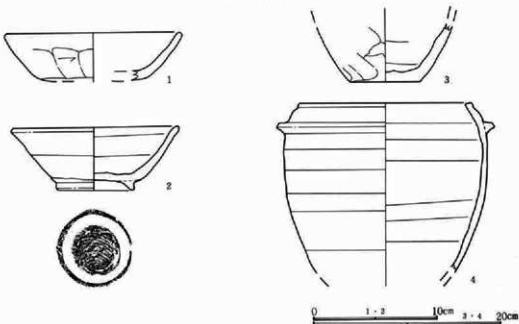
壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とが一致し、床下の遺構は検出されなかった。



- 1 黒褐色土 砂粒、小石をやや多く、黄褐色粒子を少量、炭化物を若干含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粒子を大量に含む。
- 3 暗赤褐色土 焼土を大量に含む。
- 4 黒褐色土 炭化物をやや多く、焼土塊を多量に含む。
- 5 暗灰色土 赤褐色粒子を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 砂礫を多く、焼土粒を微量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 8 暗灰色土 砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 9 暗灰色土 F P粒を多量に含む。
- 10 暗褐色土 焼土塊を多く含む。
- 11 赤褐色土 砂礫を若干含む。焼土をやや多く含む。
- 12 黒褐色土 砂礫、小石をやや多く、炭化物塊、焼土塊を少量含む。
- 13 黄褐色土 砂礫、小石を少量含む。
- 14 黒褐色土 焼土塊を若干含む。
- 15 黒色土 灰を多量に含む。
- 16 黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 17 にぶい黄褐色土 砂礫を微量含む。

第136図 36号住居跡竈



第137図 36号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 36号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
36住-1	土師器 坏	埋土 口-底1/5	口(14.0)、底(8.8)、高3.5	①にぶい黄橙 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面撫で、黒色処理。
36住-2	須恵器 魂	竈前床直上 口-底2/3	口13.4、底6.2、高5.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
36住-3	土師器 甕	竈埋土 胴下位-底	底7.5、高(5.9)	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	底部外面回転磨削り、体部外面斜め方向磨削り、内面撫で。
36住-4	土師器 羽蓋	埋土 口-胴1/3	口(18.4)、高(8.6)	①灰黄濁 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。口縁端部は撫でにより平坦面作る。胴部貼付。断面は台形状を呈する。

#### 37号住居跡 (PL31-92)

位置 79-J-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-100°-W

重複 なし

規模と形状 測定不能、残存壁高0.14mを測る。西南側大半が調査区域外に出るため、原形は不明である。

埋土 暗褐色土をベースとする。

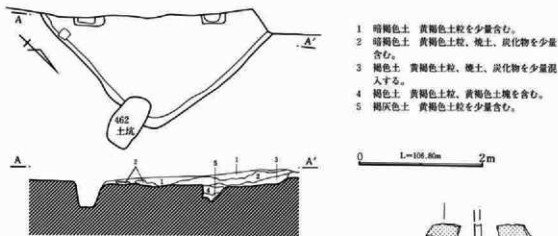
床面 地山を削り出して平坦面をつくっている。硬化面は検出面のほぼ全域に認められている。

竈跡 調査区域外に推定される。

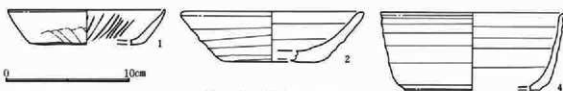
柱穴 対角線上に2基ビットが検出されたが、半分程度しか検出できず、柱穴として認定できるかどうか不明。

貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床面下の遺構は検出できなかった。



第138図 37号住居跡



第139図 37号住居跡出土遺物

37号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
37住-1	土師器 坏	埋土 口~底破片	口(12.6)、底(9.6)、高2.7	①橙 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	口縁部内外面横溝で、体部~底部外面彫削り、体部内面溝で。斜め方向の暗文。
37住-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(14.7)、底(7.2)、高5.0	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を多量に含む。	横罐整形。底部回転糸切り未調整。
37住-3	緑釉陶器 塊	埋土 破片	長(2.8)、短(2.5)、厚0.6	①オリーブ灰 ②良好 ③堅緻	横罐整形。
37住-4	須恵器 塊	埋土 口~底破片	口(14.6)、底(10.8)、高6.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を含む。	横罐整形。底部回転糸切り未調整。

## 38号住居跡 (PL32-93)

位置 79-H-19グリッド 床面積 (9.9) m<sup>2</sup> 主軸方位 N-100°-E

重埋 17号住に北東1/4強を破壊され、33・39号住居跡、6号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺(3.42)m、短辺(2.9)m、残存壁高0.21mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

埋土 褐色土をベースとする。

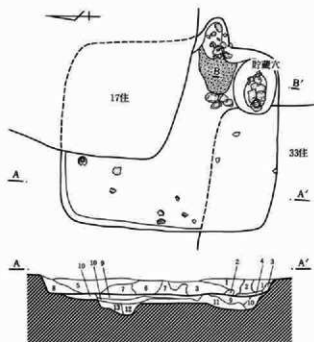
床面 灰黄褐色土・褐色土・黄褐色土を貼っている。中央部には良好な硬化面が形成されている。

竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面を削平されており、燃焼部のみ検出された。燃焼部の天井も失われている。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。燃焼部内から焚き口にかけて炭化物が堆積している。

柱穴 なし 壁下間溝 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.9m、短径0.67m、深さ0.3mを測り、形状は楕円形を呈する。貯蔵穴内・貯蔵穴北脇には径10~20cm前後の石が出土した。

掘り方 厚さ10~20cmの貼床を除去して検出された。床下土坑やピット状の掘り込みはないが、凹凸や起伏が若干ある。



- 1 暗褐色土 砂礫、灰褐色土混じり。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色粘質土塊、砂礫を含む。
- 3 褐色土 砂粒を含む。
- 4 黄褐色土 橙気灰味。礫石粒をやや多く含む。陶灰色土粒、小塊を含む。
- 5 褐色土 砂礫を少量含む。FA上面砂質土混じり。
- 6 黄褐色土 FA上面の微砂、黄色土粒、焼土粒をわずかに含む。
- 7 褐色土 陶灰色土塊、FA上面の微砂の混土。焼土粒、炭粒をわずかに含む。
- 8 黄褐色土 FA上面、壁の崩落土。砂質土。
- 9 灰黄褐色土 FA粒、陶灰色土塊、焼土、炭粒を含む。しまり強い。
- 10 黄褐色土 FA塊主体。陶灰色土塊混じり。固く難み締められている。
- 11 褐色土 焼土、炭粒を少量含む。FA粒、細砂混じり。
- 12 灰黄褐色土 FA塊を微量含む。陶灰色土混じり。
- 13 灰黄褐色土 FA塊を微量含む。陶灰色土主体。

第140図 38号住居跡

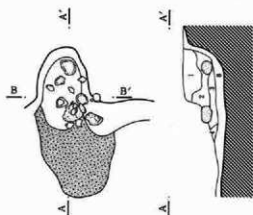
第3章 検出された遺構と遺物



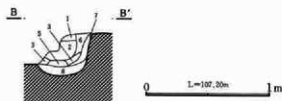
- 1 a におい黄褐色土 F A粒、灰黄褐色土塊を含む。砂粒を多く含む。  
 1 b におい黄褐色土 F A粒、灰黄褐色土塊を少量含む。やや粘性強い。  
 2 褐灰色土 焼土粒、炭粒をわずかに含む。やや灰泥じり。しまり強い。  
 3 褐色土 炭化物を少量含む。

0 L=107.50m 2m

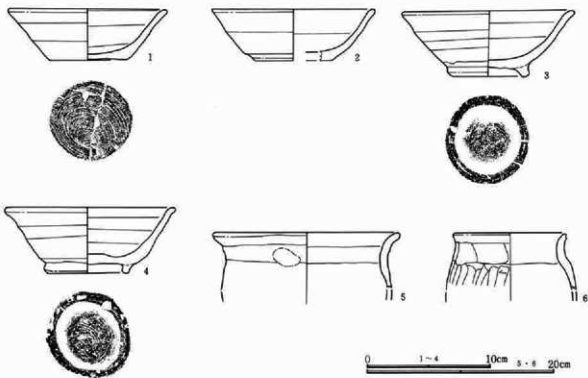
第141図 38号住居跡貯蔵穴



- 1 暗褐色土 砂質土。褐色粒、褐灰色土小塊をわずかに含む。  
 2 黄褐色土 砂礫土をベースとし、焼土、炭化物をわずかに含む。  
 3 灰黄褐色土 焼土粒、炭粒、黄色粒をわずかに含む。  
 4 黒褐色土 灰をベースとし、炭化物、焼土を含む。  
 5 棕色土 焼土塊。  
 6 明黄褐色土 F A塊。  
 7 褐色土 砂礫、焼土を少量含む。  
 8 黄褐色土 暗褐色粗砂、灰白色小塊混じる。



第142図 38号住居跡蔵



第143図 38号住居跡出土遺物

## 38号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
38住-1	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	口12.7、底6.2、 高4.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を含む。	轆轤整形。
38住-2	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(13.0)、底(6 .0)、高4.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。粗い。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
38住-3	須恵器 埴	埋土 完形	口13.9、底6.6、 高5.3	①灰黄 ②やや不良 ③砂 粒・中～細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
38住-4	須恵器 埴	埋土 ほぼ完形	口13.6、底6.8、 高5.2	①灰 ②やや不良 ③中～ 細砂粒を含む。粗い。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
38住-5	土師器 甕	埋土 口縁破片	口(20.0)、高(6 .0)	①明赤地 ②良好 ③細砂 粒を若干含む。	口縁部・頸部横溝で。体部外面磨削り、内面撫で。
38住-6	土師器 甕	埋土 口一割1/3	口(12.0)、高(6 .0)	①にぶい赤地 ②良好 ③ 中～細砂粒を多く含む。	口縁部は僅かに外反する。口縁部内外面横溝で。頸 ～胴部外面磨削り、内面撫で。

## 39号住居跡 (PL32-93)

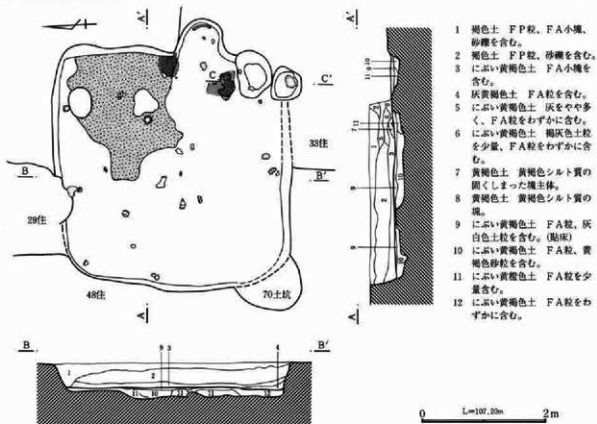
位置 79-1-19グリッド 床面積 (13.7)㎡ 主軸方位 N-99°-E

規模 29・33・38号住居跡に破壊され、48号住居跡・6号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.78m、短辺3.75m、残存壁高0.37mを測り、ほぼ正方形を呈する。上面は削平され、また他遺構や擾乱によってかなり破壊をうけており、残存状態はよくない。

埋土 褐色土をベースとする。

床面 にぶい黄褐色土を貼っている。住居中央には良好な硬化面が形成されている。北東隅一帯には炭化物の堆積が認められた。



第144図 39号住居跡

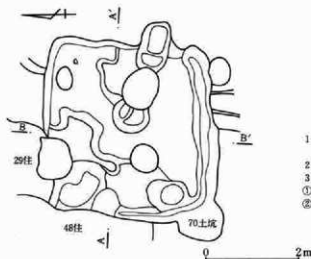
### 第3章 検出された遺構と遺物

**竈跡** 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は攪乱によって破壊されており、残存状態は悪く、燃焼部のプランが確認できたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に、地山を削り出してつくられる。焚き口の部分は若干、掘り窪められており、焼土がややまとまって検出された。

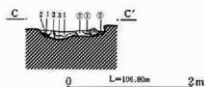
**柱穴** なし **壁下周溝** なし

**貯蔵穴** 南東隅に位置し、規模は長径0.74m、短径0.55m、深さ0.08mを測り、形状は楕円形を呈する。

**掘り方** 凹凸が著しく、床下に土坑状の浅い掘り込みが大小3基検出された。とくに中央部が深く掘り窪められている。

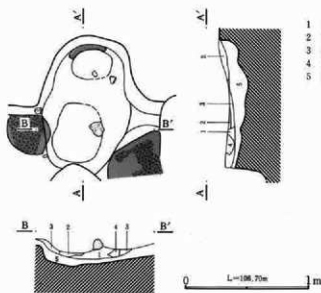


第146図 39号住居跡掘り方



- 1 にぶい黄褐色土 F A粒、灰白色灰小塊をわずかに含む。微砂質。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 細砂質。しまり弱い。
- 3 灰白色土 灰層。
- ① 灰黄褐色土 F A小塊をわずかに含む。粘性。しまりあり。
- ② にぶい黄褐色土 褐色土小塊混じり。灰小塊をわずかに含む。しまりあり。

第145図 39号住居跡貯蔵穴



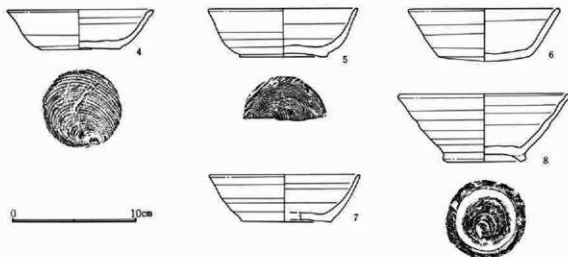
第147図 39号住居跡竈

- 1 黄褐色土 シルト質土。
- 2 暗青灰色土 灰層。
- 3 黄褐色土 焼土粒、炭粒をわずかに含む。微砂質。
- 4 黒褐色土 黄褐色微砂小塊、灰を多く含む。しまり弱い。
- 5 褐色土 F A塊、焼土塊、炭化物ブロックなど多数混在。(モザイク状)



第148図 39号住居跡出土遺物(1)





第149図 39号住居跡出土遺物(2)

39号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
39住-1	土師器 坏	埋 土 口~底1/2	□(11.8)、底7.3、高3.5	①橙 ②良好 ③中~細砂粒を含む。	□縁部内外面横溝で。体部~底部外面彫り、体部内面斜め暗文。底部内面縦筋状暗文。
39住-2	土師器 坏	埋 土 口~底破片	□(12.0)、高(2.7)	①橙 ②やや良好 ③細砂粒を含む。	□縁部内外面横溝で。体部~底部外面彫り、内面横溝で。
39住-3	土師器 坏	埋 土 口~底1/6	□(12.0)、高(3.1)	①にふい赤地 ②良好 ③中~細砂粒を含む。	□縁部内外面横溝で。体部~底部外面彫り、内面横溝で。
39住-4	須恵器 坏	埋 土 口~底3/4	□(11.6)、底6.4、高3.2	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	横縁整形。底部回転糸切り未調整。
39住-5	須恵器 坏	埋 土 口~底1/2	□(12.0)、底7.0、高3.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	横縁整形。底部回転糸切り未調整。
39住-6	須恵器 坏	埋 土 口~底1/3	□(12.1)、底7.3、高4.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	横縁整形。底部回転彫り。
39住-7	須恵器 坏	埋 土 口~底1/4	□(12.0)、底(7.2)、高3.7	①灰 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	横縁整形。底部回転糸切り未調整。
39住-8	須恵器 碗	埋 土 口~底1/8	□(13.9)、底6.5、高5.3	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む。	横縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

## 40号住居跡 (PL93)

位置 79-J-17グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-0°-E-W

重複 11号住居跡に破壊され、3号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺測定不能、残存壁高0.24mを測る。大部分を11号住居跡に破壊されているため原形は全くわからない。

埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成する。調査範囲内では顕著な硬化面は検出されていない。

竈跡 調査範囲外に推定される。(11号住居跡に破壊されたものと思われる。)

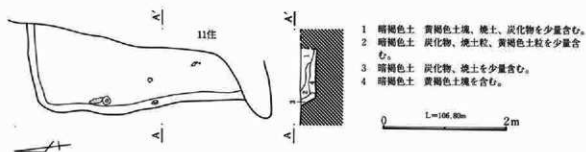
柱穴 調査範囲内になし。

貯蔵穴 調査範囲内になし。

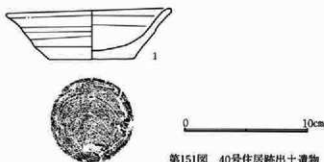
壁下周溝 なし

掘り方 調査範囲内では床面と掘り込み面は一致する。

### 第3章 検出された遺構と遺物



第150図 40号住居跡



第151図 40号住居跡出土遺物

#### 40号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
40住-1	須恵器 坏	壊 完	口13.1、底6.8、 高4.1	①灰 ②良好 ③砂礫、粗 一中砂粒をやや多く含む。	楕圓整形、底部回転糸切り未調整。

#### 41号住居跡 (PL33-93-94)

位置 79-I-16グリッド 床面積 17.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-88°-E

重複 北側上面を24号住居跡に破壊され、64号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.64m、短辺3.72m、残存壁高0.43mを測り、南北に長い横長長方形を呈する。北側の1/3程度、上面を24号住居跡に破壊されているが、本住居埋土上面で止まっているためプランは全域で検出された。

埋土 暗褐色土・灰褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。住居中央部・竈前では硬化面が検出された。

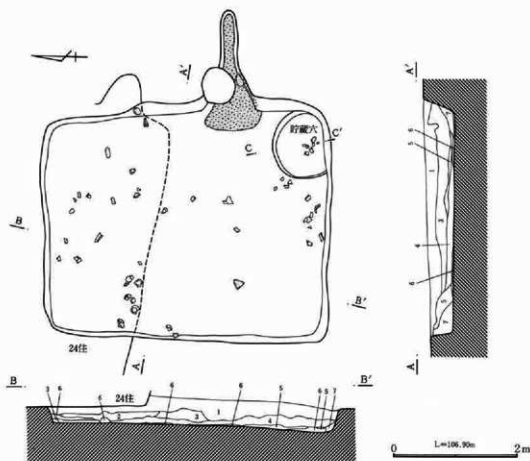
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は削平され、焼焼部・煙道とも天井はすでに失われている。また北軸は径0.55m・深さ0.55mの円形の土坑によって破壊されている。焼焼部・煙道は住居壁の外側に地山を削り出し、掘り抜いてつくられている。煙道は緩やかに立上り、長さ0.8mに及んでいる。竈内から焚き口にかけて炭化物が堆積しているが竈壁等あまり焼けていない。

柱穴 なし

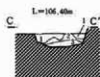
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.01m、短径0.82m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方面はほぼ一致し、床下の遺構は検出されなかった。

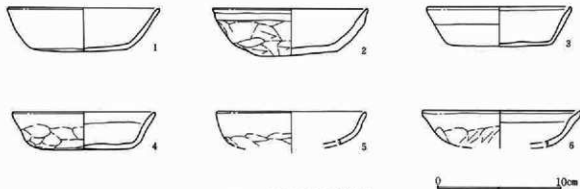


- 1 暗褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒、炭化物を含む。
- 2 灰褐色土 白色軽石粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 5 におい黄褐色土 黄褐色土粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒、黄褐色土塊を少量含む。
- 7 褐色土 白色軽石粒、焼土粒、炭化物を少量含む。



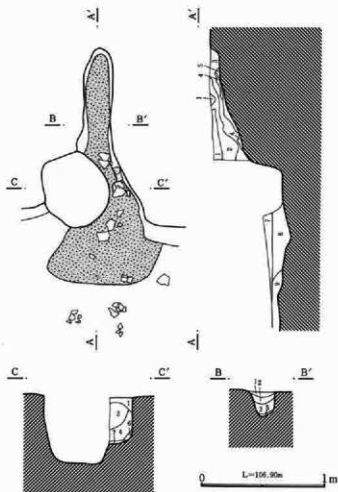
- 1 におい黄褐色土 F A粒、褐色土粒を多く含む。
- 2 灰黄褐色土 F A粒、褐色土粒の互層の塊、炭粒、褐色土塊含む。
- 3 におい黄褐色土 F A塊、炭、灰、褐色土塊含む。

第152図 41号住居跡



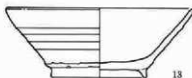
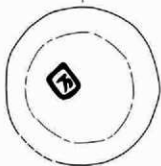
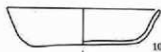
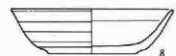
第153図 41号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第154図 41号住居跡壙

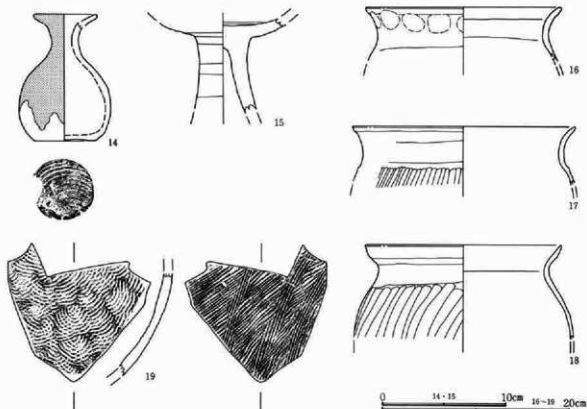
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒、炭化物粒を少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土粒、炭化物、焼土粒等を少量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物、焼土、黄褐色土粒を少量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土塊を多く含む。
- 5 黒褐色土 炭化物を多く含む。
- 6 黒褐色土 灰層。
- 7 灰黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 8 におい黄褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 9 灰黄褐色土 F P 粒を少量含む。



0 10cm

第155図 41号住居跡出土遺物(2)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第156図 41号住居跡出土遺物(3)

41号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
41住-1	土師器 坏	貯藏穴内 口~底5/6	口12.2、底7.5、 高3.6	①橙 ②やや良好 ③中一 細砂粒を少量含む。	口縁部・体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面 撫で。
41住-2	土師器 坏	埋土 ほぼ定形	口12.4、底6.1、 高4.1	①にぶい赤褐 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面磨削り。体部~底部外面磨削り、内面 撫で。
41住-3	土師器 坏	埋土 定形	口11.6、底8.2、 高3.1	①橙 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	口縁部・体部内外面横撫で。底部内面撫で。
41住-4	土師器 坏	埋土 口~底1/2	口11.4、底7.7、 高3.0	①橙 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面磨削り、体部 ~底部内面撫で。
41住-5	土師器 坏	覆埋土 口~底1/3	口12.0、高(3.2)	①橙 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面磨削り、体部 ~底部内面撫で。
41住-6	土師器 坏	貯藏穴内 口~底破片	口(12.6)、高(3 .0)	①橙 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り、内面横撫で。 口縁はやや外反する。
41住-7	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口13.5、底(7.0 )、高4.2	①褐灰 ②良好 ③細砂粒 をごく少量含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。
41住-8	須恵器 坏	埋土 口~底1/4	口(13.0)、底7. 0、高3.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を 微量含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。
41住-9	須恵器 坏	埋土 口~底2/3	口13.5、底7.5、 高4.7	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒をやや多く含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
41住-10	土師器 坏	竈掘方 ほぼ定形	口12.2、底8.3、 高3.1	①橙 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	口縁部・体部内外面横撫で。底部内面撫で、外面磨 削り。
41住-11	土師器 坏	竈埋土 口~底破片	口(12.4)、高(3 .1)	①にぶい褐 ②良好 ③細 砂粒を微量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面上位に指痕(爪痕、下 位は横撫で。体部内面横撫で。底部外面磨削り、内 面撫で。
41住-12	須恵器 坏	貯藏穴内 ほぼ定形	口13.2、底6.3、 高3.7	①褐灰 ②やや不良 ③中 一細砂粒を少量含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。
41住-13	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(15.0)、底7. 7、高5.5	①灰白 ②やや良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
41住-14	灰釉陶器 小瓶	埋土 ほぼ定形	口(5.0)、底5.0 高(10.0)	①オリーブ灰 ②良好 ③ 堅緻	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。釉調は不透明な オリーブ灰~明青色を呈する。

### 第3章 検出された遺構と遺物

41住-15	須恵器 高坏	埋土 上部破片	高(7.0)	①灰 ②良好 ③堅緻	輪縁整形。
41住-16	土師器 壺	埋土 口縁破片	口(21.0)、高(5.6)	①磨 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部外面に指割圧痕。内面横溝で。
41住-17	土師器 甕	埋土 口縁破片	口(24.0)、高(6.1)	①磨 ②良好 ③細砂粒を含む。	口縁部・胴部内外面横溝で。胴部外面彫削り、内面横溝で。
41住-18	土師器 甕	埋土 口一休破片	口(21.0)、高(10.0)	①にふい赤褐 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部・胴部内外面横溝で。胴部外面彫削り、内面横溝で。
41住-19	須恵器 甕	埋土 胴部破片	長(16.2)、短(1.8)、厚1.1	①オリーブ灰 ②良好 ③堅緻	外面叩き、内面青海波文叩き。

#### 42号住居跡 (PL33・94)

位置 79-B-13グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-91°-E

重複 東北隅を148号土坑に、西北隅を144号土坑に、南壁を15号溝に破壊される。

規模と形状 測定不能、短辺2.8m、残存壁高0.26mを測り、南北に長い横長方形形状を呈すると思われるが南壁を15号溝によって破壊されており、原形は不明である。

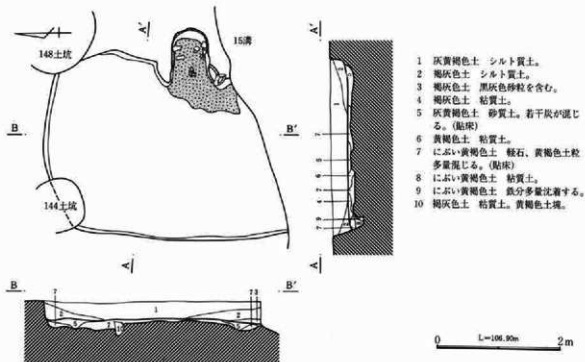
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出した上に厚さ3~17cmほど灰黄褐色土、黄褐色土、にふい黄褐色土を貼って平坦面をつくっている。ほぼ全面硬化している。

竈跡 東壁に取り付く。上面は削平をうけ、燃焼部のみ検出された。袖・燃焼部は地山を削り出してつくられており、袖は住居内に張り出すが、燃焼部本体は住居壁外側にある。燃焼部内から焚き口にかけてやや広い範囲に炭化物の堆積が認められる。

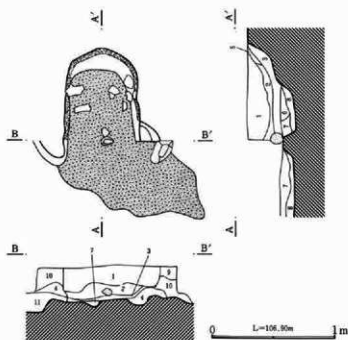
柱穴 なし 貯蔵穴 調査範囲内未検出。 壁下周溝 なし

掘り方 凹凸が甚だしく、起伏に富む。大小12個の床下土坑・ピット状の掘り込みが検出された。



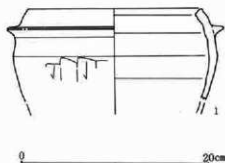
第157図 42号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第158図 42号住居跡竈

- 1 灰黄褐色土 軽石、鉄分含む。
- 2 にぶい黄褐色土 焼土粒を若干含む。
- 3 黒色土 焼土粒をわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土 (竈袖部)
- 5 にぶい黄褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 6 にぶい黄褐色土 夾雑物多し。
- 7 灰黄褐色土 砂質。
- 8 にぶい黄褐色土
- 9 灰黄褐色土 明黄褐色土塊をまばらに含む。
- 10 灰黄褐色土 軽石を少量含む。
- 11 灰黄褐色土 軽石をわずかに含む。



第159図 42号住居跡出土遺物

42号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②地成 ③胎土	器形・整形の特徴
42住-1	土師器 釜	埋土 □-割破片	□(18.5)、高⑨ .7	①明褐色 ②良好 ③中- 細砂粒を多く含む。	□縁部内外面縁で、踵部貼付、踵部下横溝で、胴部 外面垂削り、内面横溝で。

44号住居跡 (PL33-94)

位置 79-G-17グリッド 床面積 9.5㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 南側上面を5号住居跡に、西側1/3を21号住居跡に破壊されている。55・62号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.25m、短辺2.8m、残存壁高0.11mを測り、東西に長い縦長長方形形状を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。硬化面は検出されなかった。

竈跡 東壁の中央よりやや南寄りに取り付く。上面は削平されており、燃焼部のハ字形のプランが検出されたにすぎない。また北袖を468号土坑によって大きく破壊されており、残存状態は悪い。燃焼部は地山を削り出してつくられている。

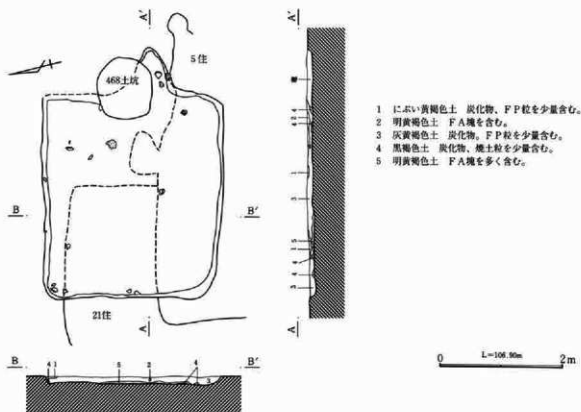
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床下の遺構は検出されなかった。

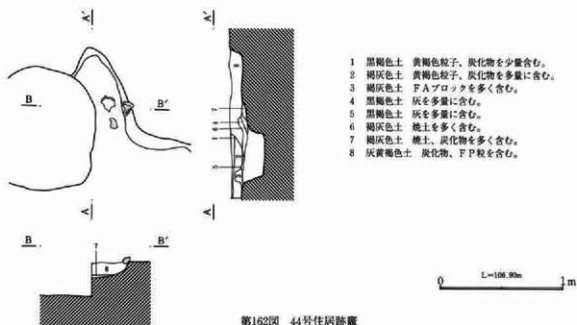


第160図 44号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第161図 44号住居跡



第162図 44号住居跡竈

44号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 型 形 の 特 徴
44住-1	須恵器 坏	土 口一破片	□(13.4)、高(3.9)	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	縦輪整形。
44住-2	須恵器 高 台付皿	土 口一底1/5	□(15.0)、高(2.2)	①灰 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	縦輪整形、底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕。



## 48号住居跡 (PL34・94)

位置 79-1-20グリッド 床面積 13.7㎡ 主軸方位 N-94°-E

重複 北東隅1/4を29号住居跡に南東隅を39号住居跡に破壊される。6号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.32m、短辺3.27m、残存壁高0.25mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

埋土 におい黄褐色土、褐色土をベースとする。

床面 厚さ5~23cmほどにおい黄褐色土を貼って平坦面をつくっている。竈前から中央にかけて良好な硬化面が形成されている。

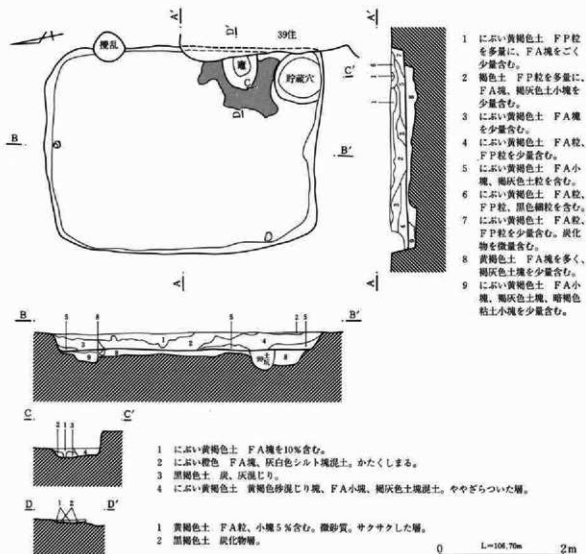
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。本体は39号住居跡によって破壊されており、焚き口の掘り窪みの一部が検出できたにすぎない。焚き口周辺には炭化物の堆積がみられる。

柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は径0.7m、深さ0.17mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

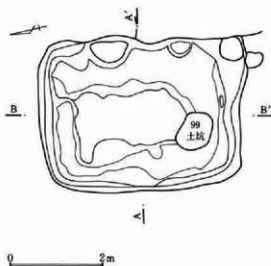
壁下周溝 なし

掘り方 凹凸が著しい。とくに壁に沿って周囲が一段深く掘り窪められている。

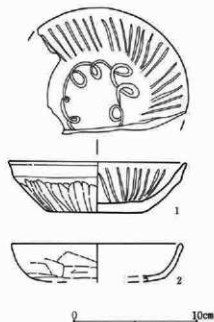


第163図 48号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第164図 48号住居跡掘り方



第165図 48号住居跡出土遺物

48号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
48住-1	土師器 坏	埋 土 □-底1/3	口(14.2)、底7.8、高4.0	①にぶい澄 ②良好 ③堅緻	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面艶削り、体部内面放射状磨文。底部内面螺旋状磨文。
48住-2	土師器 坏	埋 土 □-底破片	口(13.4)、高(3.0)	①澄 ②良好 ③堅緻	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面艶削り、内面撫で。

49号住居跡 (PL34・94-95)

位置 79-F-18グリッド 床面積 (9.6)㎡ 主軸方位 N-98°-E

重複 南側半分を9号住居跡にまた東側1/5を28号住居跡に破壊され、65号住居跡・7号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.0m、短辺3.38m、残存壁高0.27mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

北東隅が調査区域外に出、また東側を28号住居跡に、南東隅を251号土坑に西壁中央を250号土坑に、また南半分の上面を9号住居跡に破壊されており、残存状態は悪い。

埋土 黄褐色土をベースとする。

床面 褐色土・黄褐色土・黒褐色土を貼って平坦面を形成している。住居中央には明確な硬化面が検出され、中央には径1.1mほどの楕円形の炭化物の堆積が認められる。

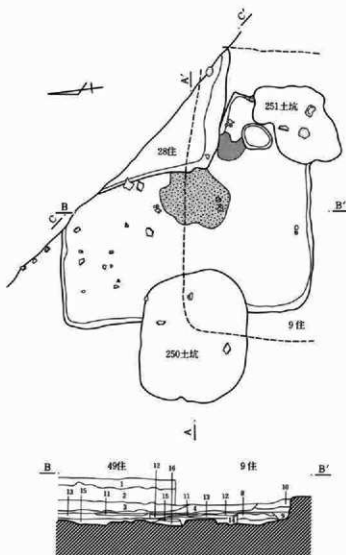
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面を削平され、また北袖を28号住居跡に、南袖を251号土坑によって破壊されており、残存状態は悪く、燃焼部U字形のプランが検出できたのみである。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

壁下周溝 なし

掘り方 小規模な土坑・ピット状の掘り込みが多く、凹凸に富んでいる。



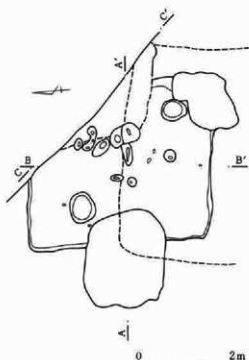
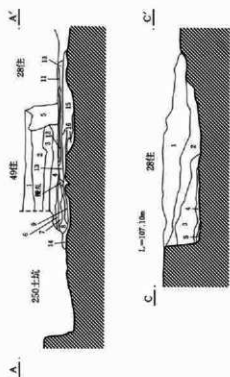
28号住居土層注記

- 1 灰黄褐色土 F P粒を多量に、砂礫をやや多く、炭化物、黄褐色粒子を若干、焼土塊を微量含む。
- 2 褐色土 炭化物をやや多く、砂礫、F P粒、炭化物を多く、黄褐色粒子を若干含む。
- 3 にぶい黄褐色土 砂礫、赤褐色、黄褐色粒子をやや多く、F A粒を若干含む。
- 4 灰黄褐色土 砂礫をやや多く、黄褐色、赤褐色粒子、F A粒を若干含む。(貼床)
- 5 浅黄褐色土 F A塊を多量に、砂礫、黄褐色粒子を多く含む。(貼床)

49号住居土層注記

- 1 褐色土 F P粒、砂礫を多く含む。
- 2 黄褐色土 F P粒、砂礫、焼土塊、炭化物をごく少量含む。
- 3 灰黄褐色土 F P粒、F A粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 F P粒、F A塊、茶褐色粒子、灰褐色土塊を少量含む。
- 5 褐色土 F P粒、F A塊、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 褐色土 茶色土塊、F A粒、焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 F A塊、茶褐色粘土塊を含む。(貼床)

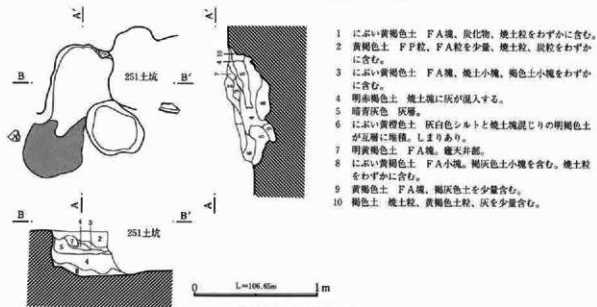
第166図 49号住居跡



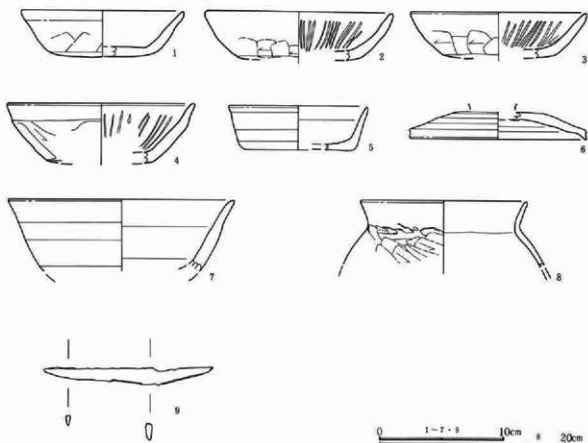
第167図 49号住居跡掘り方

### 第3章 検出された遺構と遺物

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| 8 におい黄褐色土 F A 粒、小塊を少量含む。褐色土、炭化物、<br>焼土塊をわずかに含む。 | 12 灰黄褐色土 灰白色、灰黄褐シルト質土の互層。 |
| 9 におい黄褐色土 F A 粒、褐色土粒を含む。                        | 13 黄褐色土 F A 塊、褐色土の混土。     |
| 10 褐色土 F P、F A 粒を含む。                            | 14 黒褐色土 炭化物。              |
| 11 棕色土 F A 塊、砂粒を少量含む。                           | 15 明褐色土 F A 塊を多く含む。       |
|   | 16 明褐色土 F A 塊。            |



第168図 49号住居跡概



第169図 49号住居跡出土遺物

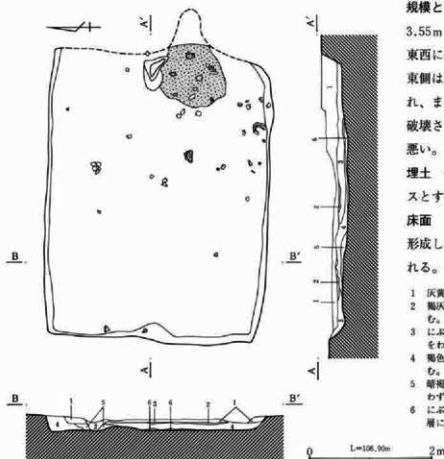
49号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
49住-1	土師器 坏	埋土 口一底1/6	口(13.0)、底(8.4)、高3.7	①にぶい澄 ②良好 ③小石、細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り、内面撫で。
49住-2	土師器 坏	埋土 口一底破片	口(15.2)、高(3.8)	①にぶい澄 ②良好 ③小石、細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り、内面撫で。体部内面に放射状暗文。
49住-3	土師器 坏	埋土 口一底破片	口(14.0)、高(3.6)	①にぶい澄 ②良好 ③中一細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面磨削り、内面撫で後放射状暗文。
49住-4	土師器 坏	埋土 口一底破片	口(15.0)、高(4.6)	①にぶい澄 ②良好 ③中一細砂粒を含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り、内面撫で。体部内面に放射状暗文。
49住-5	須恵器 坏	埋土 口一底破片	口(11.0)、底(9.0)、高3.5	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転磨削り。
49住-6	須恵器 蓋	埋土 中央一端部	径(14.0)、高(2.1)	①灰白 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	輪縁整形。つまみ部欠損。
49住-7	須恵器 埴	埋土 口一底1/4	口(18.0)、高(5.6)	①灰 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	輪縁整形。
49住-8	土師器 甕	埋土 口縁破片	口(17.8)、高(6.8)	①明赤褐 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。頸部一腹部外面磨削り、内面横撫で。
49住-9	刀子	埋土	長15.0、刃部長9.2、茎部長5.8、幅0.7-1.2、重12g		完存。鋒より9.2cmのところまで直角に折れ曲ってしまっている。

## 50号住居跡 (PL34-95)

位置 79-II-17グリッド 床面積 (16.2)㎡ 主軸方位 N-92°-E

重複 上面を6・10・18号住居跡によって破壊され、59・61・62・67・107号住居跡を掘り込む。



規模と形状 長辺(4.45)m、短辺3.55m、残存壁高0.17mを測り、東西に長い縦長長方形形状を呈する東側は6号住居跡によって破壊され、また10・18号住居跡に上面を破壊されているので、残存状態は悪い。

埋土 褐色土・灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成しているが、やや起伏がみられる。硬化面は明確でない。

- 1 灰黄褐色土 F P粒、F A小塊を含む。
- 2 褐灰色土 炭土粒、炭粒をわずかに含む。
- 3 にぶい黄褐色土 炭土、炭粒、F A粒をわずかに含む。
- 4 褐色土 F P粒、F A粒をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 炭を多く、F P、F A粒をわずかに含む。
- 6 にぶい黄褐色土 F A粒、褐灰色土土層に固く絡まる。(泥炭)

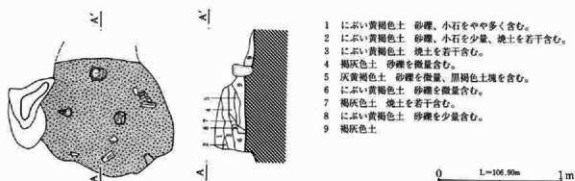
第170図 50号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

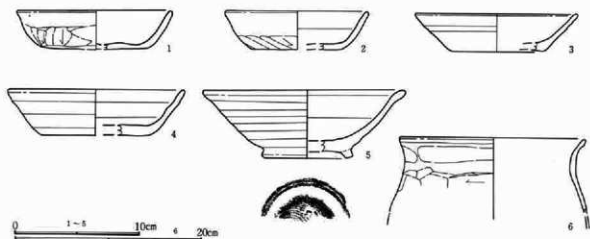
**竈跡** 東壁の中央よりやや南寄りに位置する。燃焼部は6号住居跡によって破壊されているため、北袖の一部と焚き口が検出されたにすぎない。北袖は住居壁の内側に地山を削り出してつくられている。焚き口には炭化物の堆積がみとめられる。

**柱穴** なし **貯蔵穴** なし **壁下周溝** なし

**掘り方** 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床面下から遺構は検出されなかった。



第171図 50号住居跡竈



第172図 50号住居跡出土遺物

#### 50号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
50住-1	土師器 坏	壺 土 口~底1/2	口(12.4)、底(8.6)、高3.1	①橙 ②良好 ③中~細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横溝で、体部~底部外面直削り、内面撫で。
50住-2	土師器 坏	壺 土 口~底破片	口(11.4)、底(7.4)、高3.0	①にぶい濁 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部~底部外面直削り、内面撫で。
50住-3	須恵器 坏	壺 土 口~底破片	口(13.0)、底(7.2)、高3.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
50住-4	須恵器 坏	壺 土 口~底破片	口(14.2)、底(9.2)、高3.6	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
50住-5	須恵器 高台付施	壺 土 口~底2/3	口16.3、底(7.4)、高5.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
50住-6	土師器 甕	壺 土 口縁破片	口(19.8)、高(8.1)	①橙 ②良好 ③中~細砂粒を若干含む。	口縁~頸部内外面横溝で、体部外面直削り、内面撫で。

## 51号住居跡 (PL34・95)

位置 79-D-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-6°-E

重複 東側大部分を3号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺測定不能、短辺4.37m、残存壁高0.22mを測る。大部分を3号住居跡に破壊されているため原形は不明。

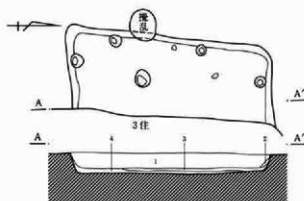
埋土 にぶい黄褐色土をベースとする。

床面 褐灰色土・淡赤橙色土を7-10cmほど貼っている。硬化面は明確ではない。

竈跡 3号住居跡に破壊されている。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

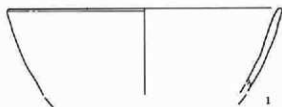
掘り方 床面下より小さなピット状の掘り込みが若干検出された。掘り方は比較的平坦である。



- 1 にぶい黄褐色土 F P粒を含む。
- 2 黄褐色土 F A塊を含む。
- 3 褐灰色土 F A粒を含む。(貼床)
- 4 淡赤橙色土 F A塊を含む。

0 L=106.90m 2m

第173図 51号住居跡



0 10cm

第174図 51号住居跡出土遺物

## 51号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
51住-1	土師器 鉢	埋 土 口一破片	口(22.0)、高(6.8)	①にぶい程 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	口縁一内部内外面横溝で。
51住-2	灰土器 皿	埋 土 口一破片	口(12.6)、高(1.8)	①黒 ②やや不良 ③中一細砂粒を少量含む。	縦壁整形、高台部貼付痕残る。

## 52号住居跡 (PL34・35・95・96)

位置 79-I-17グリッド 床面積 15.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-94°-E

重複 11・24・26号住居跡に破壊され、53号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.37m、短辺3.44m、残存壁高0.45mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

西側1/3を11号住居跡に掘り込まれ、南側1/4を24号住居跡に掘り込まれているが、いずれも床面までは達していないので、全体のプランは検出できた。

第3章 検出された遺構と遺物

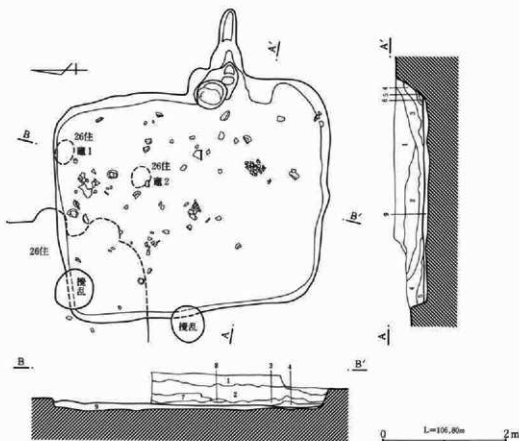
埋土 褐色土・灰褐色土をベースとする。

床面 暗褐色土を3-7cmほど貼っている。良好な平坦面が形成されており、竈前から中央にかけては顕著な硬化面が検出できた。

竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。燃焼部・煙道は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。北袖際突き口には円形の径45cmのピットが穿たれ、その上に径40cmの石が据えつけられている。石は焼けており、竈に伴うものと考えられる。燃焼部・煙道内より土器片多数出土。また煙道は緩やかに立ち上がる。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面より10cm弱深く掘り下がるが、掘り方面は地山を平坦に削り出しており、床下の土坑・ピット等は検出されなかった。

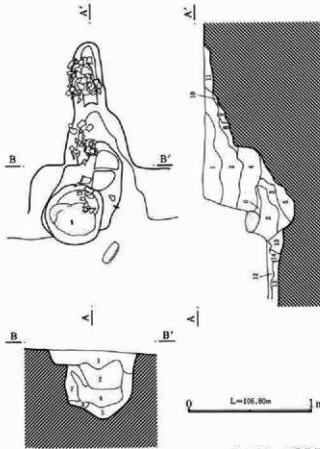


- 1 暗褐色土 白色軽石粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土粒、黄褐色土塊、白色軽石粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 3 灰褐色土 白色軽石粒、炭化物を少量含む。
- 4 褐色土 黄褐色土塊、炭化物、焼土を少量含む。
- 5 暗褐色土 白色軽石粒、砂礫、黄褐色土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 黒色粘質土、黄褐色土塊を少量含む粘質土。
- 7 褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、白色軽石粒、炭化物を少量含む。
- 8 黄褐色土 黄褐色土を主とし、焼土を少量含む。
- 9 暗褐色土 黄褐色土、褐灰色土、炭を40%程度含む。貼床面を形成し、硬くしまっている。

第175図 52号住居跡

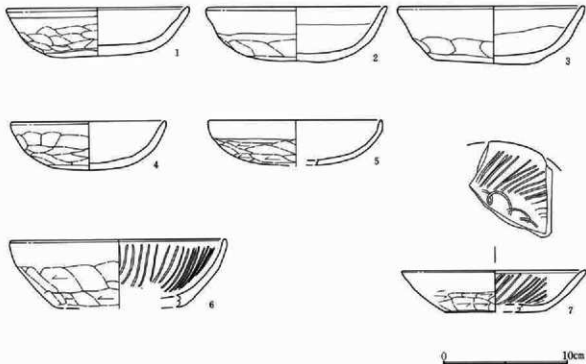


第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



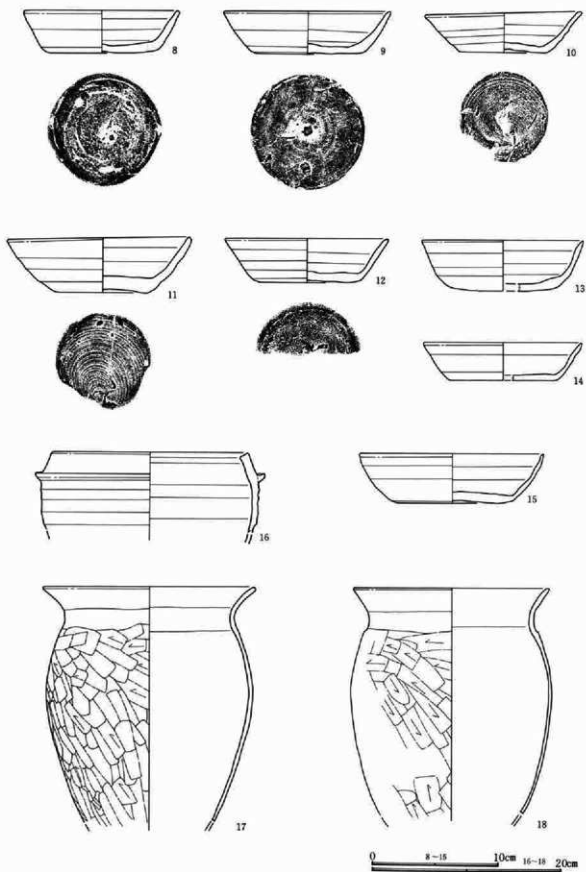
- 1 褐色土 F P粒、黄色粒、炭粒をわずかに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 F P粒、黄色粒、炭粒、焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 F P粒、焼土粒、褐色土を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 F P粒、焼土、炭粒を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 F A小塊、褐色土小塊、焼土粒、炭粒を含む。
- 6 灰黄褐色土 上面橙色鉄分見られる。シルト質。
- 7 にぶい黄褐色土 Sと類似し、黄褐色土 (F A粒) を含む。崩落土層。
- 8 褐色土 灰、焼土粒を少量含む。ややしまっている。
- 9 褐色土 ブロック状の(黄)褐色土。
- 10 暗褐色土 灰を20%程度含む。ブロック状に入る。粘性なく軟弱。
- 11 褐色土 黄褐色土粒、白色軽石粒を少量含む。焼土、灰を少量混入する。やしまりのある層。
- 12 暗褐色土 黄褐色土塊をごく少量、灰、焼土を少量含む。粘面を形成し、硬くしまっている。
- 13 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。軽石、焼土を少量含む。硬くしまっている。
- 14 褐色土 軽石粒、焼土、灰を少量混入する。

第176図 52号住居跡概

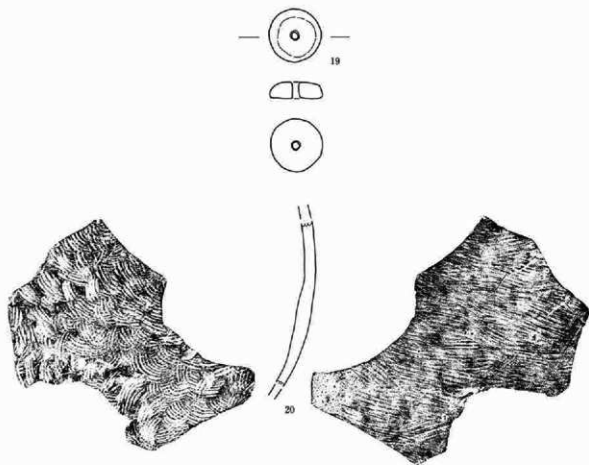


第177図 52号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第178図 52号住居跡出土遺物(2)



第179図 52号住居跡出土遺物(3)

0 10 20 30 40 cm

52号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
52住-1	土師器 坏	埋 土 完 形	口14.5、底9.0、 高4.1	①にぶい椀 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
52住-2	土師器 坏	埋 土 口-底2/3	口14.4、底8.6、 高4.4	①にぶい黄椀 ②良好 ③ 中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
52住-3	土師器 坏	埋 土 口-底4/5	口14.9、底8.4 高5.0	①にぶい椀 ②良好 ③中 -細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
52住-4	土師器 坏	埋 土 口-底2/3	口(12.4)、底6. 0、高3.8	①にぶい椀 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
52住-5	土師器 坏	埋 土 口-底1/3	口(14.0)、高(3 .6)	①明赤陶 ②良好 ③中- 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
52住-6	土師器 坏	埋 土 口-底1/3	口(17.4)、高(5 .4)	①椀 ②良好 ③紫鉄	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で後放射状暗文。
52住-7	土師器 坏	埋 土 口-底破片	口(14.6)、底(8 .0)、高3.3	①椀 ②良好 ③紫鉄	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で後、体部に放射状、底部に縦線状暗文。
52住-8	須恵器 坏	埋 土 ほぼ完形	口12.3、底8.8、 高3.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	横線整形、底部回転糸切り後、撫で。
52住-9	須恵器 坏	埋 土 ほぼ完形	口13.3、底9.2、 高3.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	横線整形、底部回転糸切り後、撫で。
52住-10	須恵器 坏	貼 床 下 口-底2/3	口(12.6)、底7. 0、高3.3	①灰 ②良好 ③小石・細 砂粒を少量含む。	横線整形、底部回転糸切り未調整。

### 第3章 検出された遺構と遺物

52住-11	須恵器 坏	甕 瓦 土 口-底2/3	口(13.8)、底7.4、高4.4	①灰 ②やや不貞 ③小石・細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
52住-12	須恵器 坏	埴 土 口-底1/2	口(13.0)、底8.5、高3.5	①灰 ②良好 ③小石・細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り後磨り。
52住-13	須恵器 坏	埴 土 口-底1/5	口(13.0)、底(8.4)、高4.0	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り後磨り。
52住-14	須恵器 坏	埴 土 口-底1/3	口(12.5)、底(8.6)、高3.0	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り後磨り。
52住-15	須恵器 坏	埴 土 口-底1/3	口(14.9)、底8.0、高3.9	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り後磨り。
52住-16	土師器 羽 蓋	埴 土 口-胴破片	口(21.0)、高(8.3)	①粗 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形、口縁端部は溝により平坦面作る。胴部貼付、断面は三角形を呈する。
52住-17	土師器 甕	甕 埴 土 口-胴1/3	口22.8、高(24.7)	①明褐色 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部・胴部内外面横溝で、胴部外面磨り、内面無で。
52住-18	土師器 甕	甕 埴 土 口-胴1/3	口20.9、高(22.5)	①明赤褐色 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部・胴部内外面横溝で、胴部外面磨り、内面無で。
52住-19	かんらん岩 製紡錘車	貼床 下 完 形	上径4.1、下径3.2、厚1.2、孔径0.7	①黒	
52住-20	須恵器 甕	埴 土 破 片	長(27.0)、短(7.5)、厚1.5	①灰 ②良好 ③整微	内外面叩き。

#### 53号住居跡 (PL35-96)

位置 79-1-17グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-94°E

重複 上面を11・24号住居跡に掘り込まれ、北東1/3以上を52号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺測定不能、短辺2.3m、残存壁高0.12mを測り、南北に長い横長長方形を呈する。

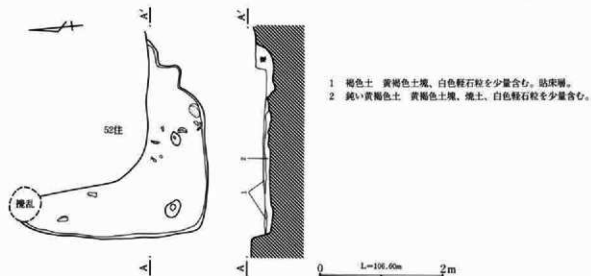
上面を11・24号住居跡に削平され、北東側1/3以上を52号住居跡に破壊されているため残存状態は悪い。

埋土 床面直上まで掘り込まれており、不明。

床面 しぶい黄褐色土を4~10cmほど貼っている。硬化面は検出されなかった。

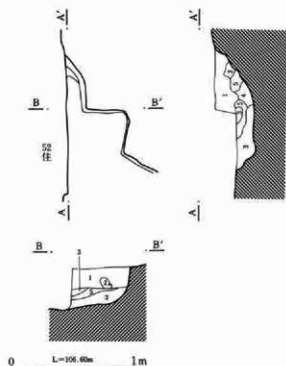
竈跡 南東隅に取り付く。上面は削平され、また北半分は52号住居跡によって破壊されており、燃焼部八字形のプランの南半分が検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁外側に地山を削り出してつくられる。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし 掘り方 小さな掘り窪みが多く、起伏に富む。



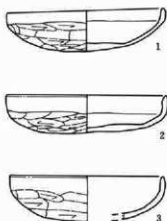
第180図 53号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第181図 53号住居跡概

- 1 におい黄褐色土 F P粒、焼土を少量含む。
- 2 黄褐色土 F P粒、焼土を少量含む。
- 3 褐色土 F P粒、焼土をごく少量含む。
- 4 におい黄褐色土 F P粒、焼土を少量含む。
- 5 褐色土 焼土、灰をやや多く含む。



第182図 53号住居跡出土遺物

53号住居遺物観察表

番号	器種	出土位置 残存状況	法 (cm)量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
53住-1	土師器 坏	貼床下 完形	□12.6, 底6.2, 高3.4	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を多く含む。	□縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 丁寧な襷で。
53住-2	土師器 坏	貼床下 完形	□12.8, 底9.1, 高3.0	①橙 ②良好 ③細砂粒を 多量に含む。	□縁部・体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面 丁寧な襷で。
53住-3	土師器 坏	貼床下 ほぼ完形	□12.3, 高(3.8)	①におい橙 ②良好 ③細 砂粒を多く含む。	□縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。

54号住居跡 (PL35・36・96)

位置 79-F-17グリッド 床面積 6.2㎡ 主軸方位 N-96°-E

重複 9号住居跡に北辺を掘り込まれ、57号住居跡・7号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺2.58m、短辺2.5m、残存壁高0.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。

埋土 褐色土・黄褐色土をベースとする。

床面 灰黄褐色土を10-14cm貼って平坦面を形成している。硬化面はほぼ全域で検出された。

竈跡 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面は削平をうけ、燃焼部と煙道の一部が検出された。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。

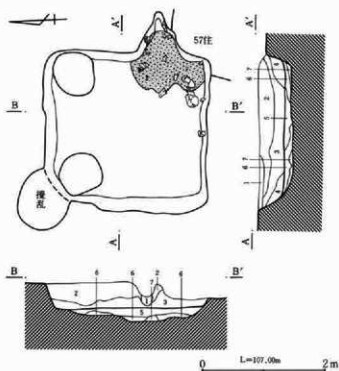
柱穴 なし

貯蔵穴 なし

壁下周溝 なし

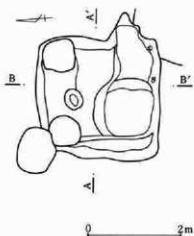
掘り方 凹凸が著しい。とくに南壁寄りを深く掘り込んでいる。

第3章 検出された遺構と遺物

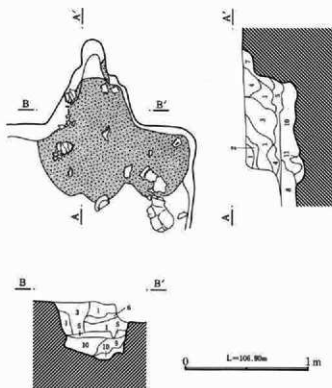


第183図 54号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物、F P粒をごく少量含む。
- 2 褐色土 F P粒、砂礫、F A塊をごく少量含む。
- 3 黄褐色土 F A塊、F P粒、褐灰色土塊含む。
- 4 にぶい黄褐色土 F A塊、F P粒を少量含む。
- 5 灰黄褐色土 F A塊、褐灰色土、砂粒を含む。
- 6 灰黄褐色土 F A塊をごく少量、褐灰色土塊を多く含む。
- 7 にぶい褐色 F A塊を多く、褐灰色土塊を少量含む。

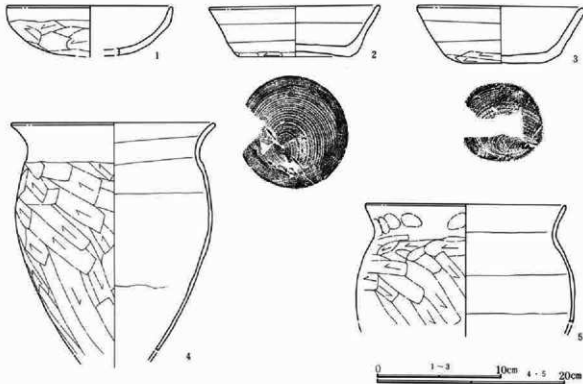


第184図 54号住居跡掘り方



第185図 54号住居跡竈

- 1 にぶい黄褐色土 F A粒、F P粒少量、炭粒わずかに含む。
- 2 黄褐色土 F P粒少量含む。粘質土。
- 3 にぶい黄褐色土 F A小塊5%、褐灰色土小塊5%、F P粒混土。
- 4 明黄褐色土 F A塊?天井崩落土。
- 5 黒褐色土 灰、炭多量に混じる。焼土小塊、F A小塊混土。しまり強い。
- 6 にぶい黄褐色土 細砂、F P粒少量含む。ざらついた層。
- 7 にぶい黄褐色土 焼土塊、灰、炭混土。しまり弱い。サクサクした層。
- 8 にぶい黄褐色土 F A小塊を微量含む、褐灰色土粒混じる。
- 9 明黄褐色土 F A塊主体。褐灰色土小塊混じる。
- 10 にぶい黄褐色土 F A塊15%、灰白、黄褐色土塊混土。
- 11 褐灰色土 F A塊を少量含む。地山に近い。



第186図 54号住居跡出土遺物

54号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
54住-1	土師器 坏	貯蔵穴内 口~底1/2	口(13.2)、高(4.6)	①明赤陶 ②良好 ③細中砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面磨削り、内面撫で。
54住-2	須恵器 坏	竈前床直上 口~底2/3	口13.7、底8.8、高4.1	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り、縁辺部のみ糸切り後磨削り。
54住-3	須恵器 坏	床面直上 口~底2/3	口13.3、底6.9、高4.6	①灰白 ②良好 ③中~細砂粒を若干含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整、底部縁辺一体部下位回転磨削り。
54住-4	土師器 甕	竈埋土 口~胴1/3	口21.8、高(24.3)	①明陶 ②良好 ③細砂粒を多量に含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面磨削り、内面撫で。
54住-5	土師器 甕	竈埋土 口~体破片	口21.3、高(12.5)	①橙 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。頸部に指頭圧痕付く。胴部外面磨削り、内面撫で。

## 55号住居跡 (PL36-96-97)

位置 79-G-16グリッド 床面積 22.8㎡ 主軸方位 N-96°-E

重覆 北東隅を5・21・44号住居跡に掘り込まれ、南東隅を19号住居跡によって破壊される。

規模と形状 長辺5.15m、短辺4.45m、残存壁高0.31mを測り、南北に長い横長方形形状を呈する。

上面は5・19・21・44号住居跡などによって掘り込まれており、残存状態は悪い。

埋土 におい黄褐色土・明赤灰色土・灰黄褐色土が水平堆積している。

床面 褐灰色土を貼って平坦面を形成している。硬化面はほぼ全域で検出された。

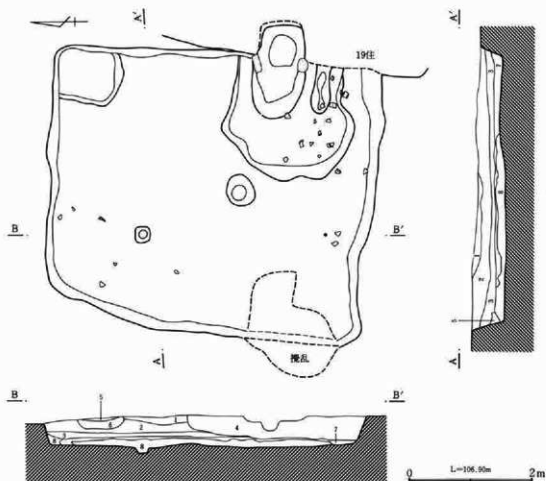
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。19号住居跡によって破壊されており、燃焼部の火床、抽石、焚き口が検出されたにすぎない。北抽石の残存状態は良好で、扁平に加工した砂岩を使用している。また焚き口はかなり広い範囲にわたって若干掘り窪められている。

### 第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 なし 壁下周溝 なし

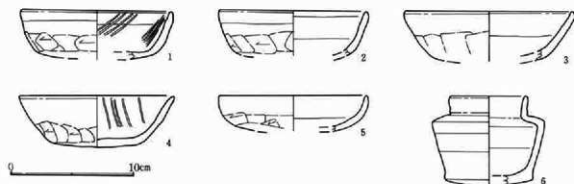
貯蔵穴 北東に位置し、規模は長径1.0m、短径0.7m、深さ0.1mを測り、形状は隅丸長方形を呈する。浅い。

掘り方 小さな掘り窪みが無数にあり、凹凸が激しい。



- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色土 粘質土。         | 5 灰色土 粘質土。                   |
| 2 にぶい黄褐色土 粘質土。         | 6 灰色土 粘質土。                   |
| 3 明赤灰色土 灰、炭化物、粘土を少量含む。 | 7 灰黄褐色土 F A塊、F P粒を多量に含む。(貼床) |
| 4 灰色土 粘質土。             | 8 腐灰色土 F A塊を多く含む。            |

第187図 55号住居跡



第188図 55号住居跡出土遺物



## 55号住居遺物観察表

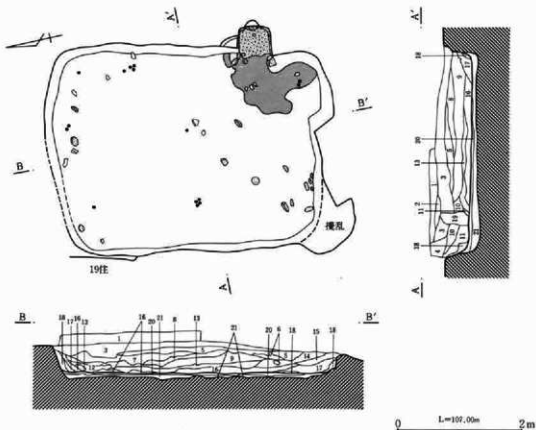
番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
55住-1	土師器 坏	床面直上 口-底1/5	口(11.9)、底(9.7)、高(3.8)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を含む。	口縁部-体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面裏削り、内面溝で、体部内面に放射状暗文。
55住-2	土師器 坏	床面直上 口-底破片	口(11.7)、高(3.5)	①にぶい黄橙 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部-体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面裏削り、内面溝で、体部内面に放射状暗文の痕跡残るが、磨滅が甚だしい。
55住-3	土師器 坏	貼 床 下 口-底1/4	口(13.6)、高(3.9)	①橙 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面裏削り、内面溝で。
55住-4	土師器 坏	埋 土 口-底1/3	口(12.4)、底7.2、高4.0	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	口縁部-体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面裏削り、内面溝で、体部内面に放射状暗文。
55住-5	土師器 坏	埋 土 口-底破片	口(11.8)、高(2.8)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部-体部内外面横溝で、底部外面裏削り、内面溝で。
55住-6	須恵器 甕 閉塞	埋 土 口-底1/2	口(6.3)、底(7.0)、高(7.1)	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	樽罐整形。

## 56号住居跡 (PL36-37・97)

位置 79-F-15グリッド 床面積 14.0㎡ 主軸方位 N-106°-E

重複 東側を36号住居跡に、北西隅を7・19号住居跡に掘り込まれ、66号住居跡・8号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.34m、短辺3.24m、残存壁高0.41mを測り、南北に長い横長長方形状を呈する。上面は7・19・36号住居跡によって掘り壊されている。南東隅壁が半円形状に張り出したような形をしているが、土坑等の重複ではなく、壁の崩落に因るものと考えられる。



第189図 56号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

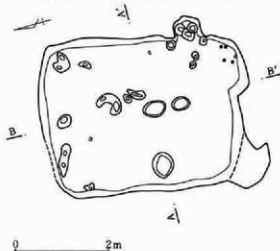
**埋土** におい黄褐色土・灰黄褐色土をベースとする。色調によってかなり細分できるが水平堆積である。

**床面** 褐灰色土・灰黄褐色土を7~15cm貼って平坦面を形成している。埋土との色調差によって明瞭に識別でき、竈前から中央にかけて良好な硬化面が検出された。

**竈跡** 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面を36号住居跡によって掘り壊されているため、燃焼部のみ検出された。袖石は両側とも壁の接点、原位置に残存。燃焼部はU字形のプランを呈する。炭化物の堆積が顕著であるが、壁体はあまり焼けていない。

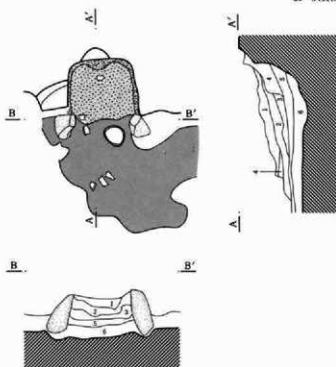
**柱穴** なし **貯蔵穴** なし **壁下周溝** なし

**掘り方** 床面より7~15cm下がるが、小さな掘り窪みが数カ所にみられる程度で、ほぼ平らに地山を削り出している。床下土坑等は検出されなかった。



第190図 56号住居跡掘り方

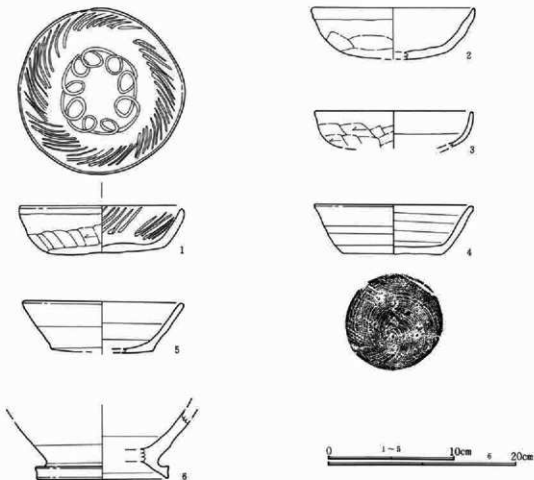
- 1 におい黄褐色土 軽石、炭を少量含む。
- 2 明黄褐色土 F A塊を含む。
- 3 におい黄褐色土 軽石多量に、炭を少量、焼土粒わずかに含む。
- 4 におい黄褐色土 細かな軽石を多く含む。
- 5 におい黄褐色土 軽石、炭、焼土粒を少量ずつ含む。
- 6 黒色土 炭、灰。
- 7 灰黄褐色土 炭、灰を多量に、F P粒、焼土粒を少量含む。
- 8 灰黄褐色土 F P粒を多量に、炭を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 F P粒、F A塊を少量含む。
- 10 におい黄褐色土 F A塊、暗灰色土、軽石を多く含む。
- 11 におい黄褐色土 F A塊、軽石を微量含む。
- 12 灰白色土 灰を主とし、炭、焼土塊、暗褐色土塊をブロック状に含む。
- 13 褐灰色土 F A塊を含む。
- 14 におい黄褐色土 F P粒、F A塊を少量含む。
- 15 におい黄褐色土 F A塊をごく少量含む。
- 16 におい黄褐色土 F A塊、F P粒を少量含む。
- 17 褐灰色土 F A塊を少量含む。
- 18 灰黄褐色土 F A塊をやや多く含む。
- 19 におい黄褐色土 3、10、11層が入り混じった土。
- 20 褐灰色土 粘質土 (陥床)
- 21 灰黄褐色土 F A塊を少量含む。



- 1 におい黄褐色土 F P粒、焼土、暗褐色土塊を含む。
- 2 灰黄褐色土 F A塊、炭化物、焼土を含む。
- 3 赤褐色土 焼土。
- 4 褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
- 5 黒褐色土 炭化物。
- 6 黄褐色土 砂粒、F P粒をやや多く含む。

第191図 56号住居跡竈

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第192図 56号住居跡出土遺物

56号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
56住-1	土師器 坏	埋 土 ほぼ2完形	口13.2、底9.8、 高3.8	①灰 ②良好 ③小石・粗 細砂粒をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り、内面 丁寧な撫で。体部内面に放射状、底部内面に螺旋状 暗文。
56住-2	土師器 坏	埋 土 口一底1/3	口(13.0)、底(7 .6)、高(4.1)	①にぶい殻 ②やや不良 ③細砂粒を若干含む。	口縁部一体部上位内外面横撫で。体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。体部内面に放射状暗文の痕跡 が一部残るが、磨滅が長だしい。
56住-3	土師器 坏	粘 束 下 口一底破片	口(12.4)、高(2 .8)	①にぶい赤褐 ②良好 ③ 中一細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り。
56住-4	須恵器 坏	埋 土 口一底3/4	口12.6、底8.0、 高3.9	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	輪罐整形。底部回転糸切り未調整。
56住-5	須恵器 坏	埋 土 口一底1/3	口(12.8)、底(8 .2)、高4.0	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	輪罐整形。底部回転糸切り。
56住-6	須恵器 甕	埋 土 底一割破片	底(14.2)、高(6 .1)	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	輪罐整形。

57号住居跡 (PL37-97)

位置 79-E-16グリッド 床面積 8.5㎡ 主軸方位 N-102°-E

重複 北西隅を54号住居跡に破壊される。58号住居跡を掘り込む。

第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 長辺3.39m、短辺2.4m、残存壁高0.27mを測り、南北に長い横長形状を呈する。東壁がやや乱れている。

**埋土** 褐色土をベースとする。

**床面** 黄褐色土・灰黄褐色土を5～20cm貼って平坦面をつくっている。埋土との色調差によって明瞭に識別できるが、硬化面は顕著ではない。

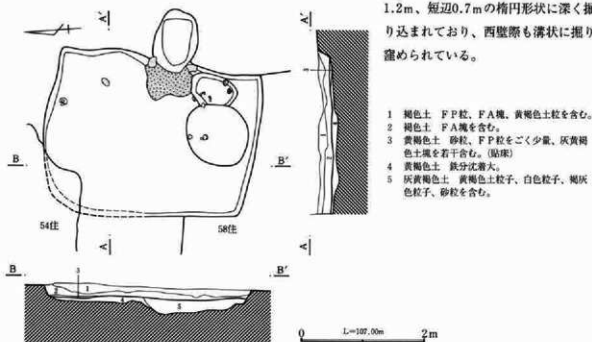
**竈跡** 東壁のはほぼ中央に取り付く。煙道はすでに全く削平されて痕跡すらなく、燃烧部は擾乱によってほとんど破壊されている。辛うじて両袖石と焚き口のみ検出できた。袖石は加工していない砂岩を使用する。袖石の外側から焚き口にかけて炭化物が堆積している。

**柱穴** なし 壁下周溝 なし

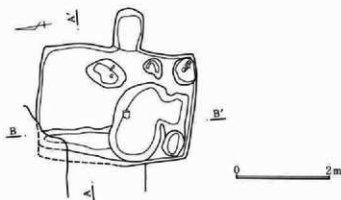
**貯蔵穴** 庭南袖脇に位置し、規模は長径0.75m、短径0.55m、深さ0.14mを測り、形状は楕円形を呈する。西辺を上からの土坑によって破壊されている。

**掘り方** 床面より5～20cmほど深くなる。起伏が甚だしく、床下土坑3基が検出された。また南西側が長辺

1.2m、短辺0.7mの楕円形状に深く掘り込まれており、西壁際も溝状に掘り窪められている。

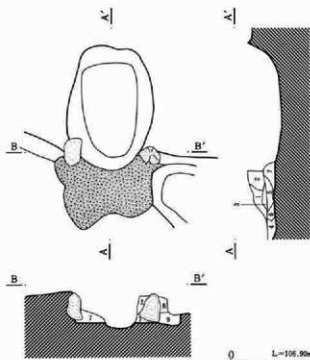


第193図 57号住居跡



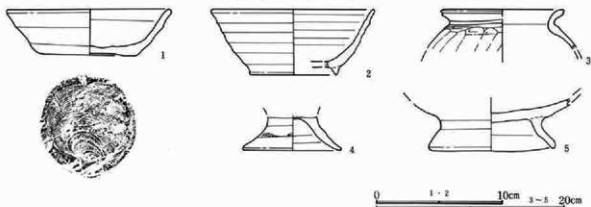
第194図 57号住居跡掘り方

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 灰黄褐色土。F P粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土。F A塊。
- 3 にぶい黄褐色土。F A塊。
- 4 にぶい黄褐色土。F A粒、焼土塊、F P粒を少量含む。
- 5 褐色土。F A塊、焼土、炭化物。
- 6 黄褐色土。砂粒を多く含む。
- 7 褐色土。砂粒、F P粒を含む。
- 8 にぶい黄褐色土。F A粒、焼土を含む。
- 9 黄褐色土。F A塊。

第195図 57号住居跡竈



第196図 57号住居跡出土遺物

57号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
57住-1	須恵器 坏	貼床下 ほぼ完形	口13.2、底7.5、 高3.8	①灰黄褐色 ②やや不良 ③ 中一細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
57住-2	須恵器 碗	埋土 口一底破片	口(13.0)、底(7 .0)、高5.2	①灰 ②良好 ③細砂粒を 含む。	轆轤整形。高台部貼付。
57住-3	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁破片	口(13.0)、高(4 .1)	①明褐色 ②良好 ③小石・ 中一細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。体部外面寛削り、内面 撫で。
57住-4	土師器 台 付甕	埋土 台部破片	脚径10.7、台高 部径5.2、台部 高3.5	①赤 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	台部横撫で。
57住-5	土師器 壺	貯蔵穴内 底部破片	底径13.5、高(5 .0)	①明褐色 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	底部高台貼付横撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

58号住居跡 (PL37・38・97・98)

位置 79-F-16グリッド 床面積 (15.0)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-96°-E

重複 西壁を19号住居跡に北壁を57号住居跡に南壁を36・56号住居跡に破壊される。66号住居跡・8号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺(4.4)m、短辺3.35m、残存壁高0.15mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

西壁・北壁・南壁をそれぞれ新しい住居跡に掘り込まれ、破壊されているため、形状には不明な点がある。

また上面より攪乱による破壊をうけており、残存状態は悪い。

埋土 におい黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。顕著な硬化面がほぼ全域にみられた。

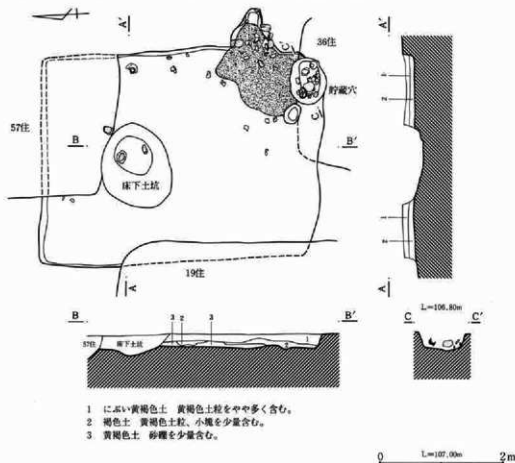
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は削平されており、燃焼部と煙道の一部が検出された。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられており、両袖の袖石が残存している。煙道は燃焼部奥壁に取り付く部分のみ検出された。残存状態は悪い。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.72m、短径0.59m、深さ0.25mを測り、形状は楕円形を呈する。

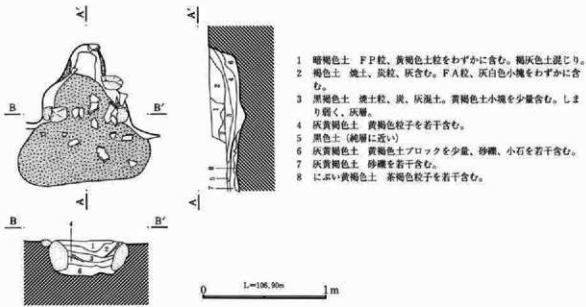
また、中央やや北寄りには長径1.36m、短径1.05m、深さ0.22mの楕円形の土坑がある。

掘り方 掘り方面と床面とはほぼ一致しており、床面下の遺構は検出されなかった。

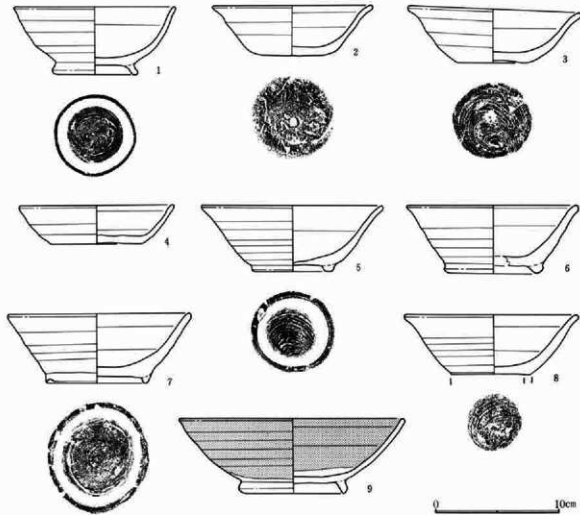


第197図 58号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

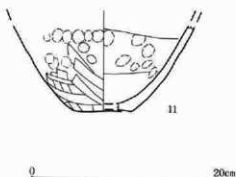
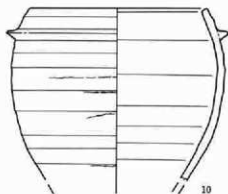


第198図 58号住居跡竈



第199図 58号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第200図 58号住居跡出土遺物(2)

58号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
58住-1	土師器 埴	貯蔵穴内 口~底3/4	口12.8、底6.6、 高5.4	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を含む。	轆轤整形。内面黒色処理。底部回転糸切り未調整、 高台部貼付。
58住-2	須恵器 坏	貯蔵穴内 ほぼ定形	口12.8、底6.0、 高4.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。粗い。	轆轤整形。底部回転糸切り後、撫で。
58住-3	須恵器 坏	貯蔵穴内 口~底3/4	口13.8、底6.0、 高4.5	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
58住-4	須恵器 坏	甕 埋 土 口~底1/3	口(12.3)、底7. 2、高3.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
58住-5	須恵器 埴	貯蔵穴内 口~底4/5	口(14.8)、底6. 5、高5.2	①灰白 ②やや良好 ③中 ~細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
58住-6	須恵器 埴	甕前床直上 口~底1/3	口(13.7)、底(7 .9)、高5.4	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で。高台部貼付。
58住-7	須恵器 埴	貯蔵穴内 口~底2/3	口(14.6)、底8. 2、高5.5	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を多く含む。粗い。	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で、高台部貼付。
58住-8	須恵器 埴	貯蔵穴内 ほぼ定形	口13.9、高(4.7)	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕あ り。
58住-9	灰釉陶器 土 埴	甕 土 口~底2/3	口(18.0)、底8. 5、高6.0	①灰白 ②良好 ③堅微	轆轤整形。底部回転糸切り後、高台部貼付。
58住-10	須恵器 羽 釜	甕 埋 土 口~割破片	口(19.0)、高(1 8.3)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。筒部貼付。
58住-11	須恵器 羽 釜	貯蔵穴内 割~底破片	底(6.0)、高(9. 0)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	胴部斜め方向の撫で、下部斜め方向撫で。底部撫 で。

59号住居跡 (PL38-98)

位置 79-H-17グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-90°-E

重複 北側を10・18・50号住居跡に破壊される。61・67号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺測定不能、短辺3.63m、残存壁高0.17mを測り、南北に長い横長形状を呈すると思われるが、北側が破壊されているため、不明確な点が多い。また上面から攪乱をうけたり、削平されている部分が多く、残存状態は悪い。

埋土 褐灰色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面をつくっている。全体的によく硬化している。

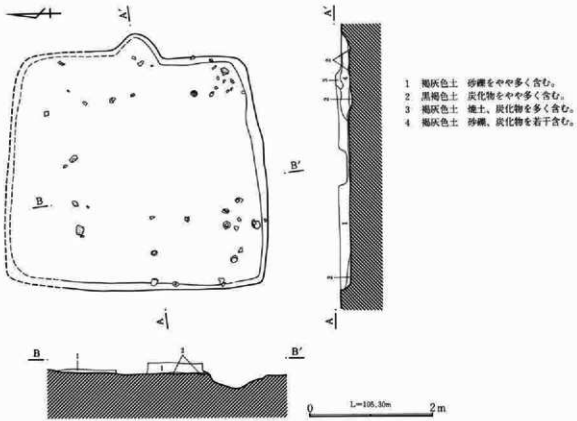
竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。かなり削平されている上、北半分以上破壊されているため、燃焼部のプランの一部が検出されただけである。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。炭化物・焼土等も少ない。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

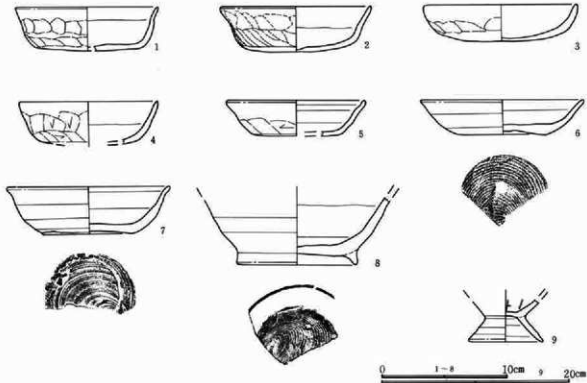
掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致しており、床面下の遺構は検出されなかった。



第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第201図 59号住居跡



第202図 59号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

59号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
59住-1	土師器 坏	埋 土 完 形	口(11.4、底(8.4) )、高3.5	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。底部中央に穿孔(外面から、径0.3cm)。
59住-2	土師器 坏	埋 土 ほぼ完成形	口(12.1、底8.8、 高3.6	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部上位外面に指頭圧痕、下 位～底部外面磨削り、内面撫で。
59住-3	土師器 坏	埋 土 口～底1/3	口(12.2)、底7. 9、高2.9	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を微量含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
59住-4	土師器 坏	埋 土 口～底破片	口(11.0)、高(3 )、4	①にぶい黄橙 ②良好 ③ 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
59住-5	土師器 坏	床面直上 口～底破片	口(11.0)、底(7 )、0、高2.7	①にぶい橙 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
59住-6	須恵器 坏	埋 土 口～底1/3	口(12.9)、底7. 9、高2.7	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
59住-7	須恵器 坏	埋 土 口～底1/2	口(13.0)、底7. 3、高3.7	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
59住-8	須恵器 塊	埋 土 体～底破片	底9.4、高(5.1)	①灰白 ②良好 ③中～細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
59住-9	土師器 青 付罌	埋 土 底～台破片	台径(7.9)、高 (4.3)	①黄褐 ②良好 ③細砂粒 を多量に含む。	台部横撫で。

### 60号住居跡 (PL38-98)

位置 79-G-18グリッド 床面積 (36.3)㎡ 主軸方位 N-95°-E

重複 6・16・32・33・50・61号住居跡に破壊される。107・108号住居跡、6号掘立柱建物跡を掘り込む。  
規模と形状 長辺6.5m、短辺5.45m、残存壁高0.53mを測り、南北に長い横長方形形状を呈する。

北東隅を16号住居跡に、東壁中央を32号住居跡に、南東隅を6号住居跡に、南西隅を10・18・50号住居跡に、  
南壁を61号住居跡に、北西隅を33号住居跡に掘り込まれ、破壊されている。

埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 一部で地山を削り出した面をそのまま床としているところもあるが、厚さ5～18cmほどFA塊を含んだ  
暗褐色土を貼っている。

竈跡 上面を32号住居跡によって掘り込まれ、削平されているため、燃焼部のみ検出された。東壁の南東隅  
寄りに取り付く。燃焼部はU字形のプランを呈し、住居壁の内側に地山を削り出してつくられる。袖も地山  
を削り出してつくられており、壁の内側に張り出す。燃焼部内壁には構築材と思われる自然石が残っている。  
燃焼部内には炭化物の堆積がみられる。

#### 柱穴

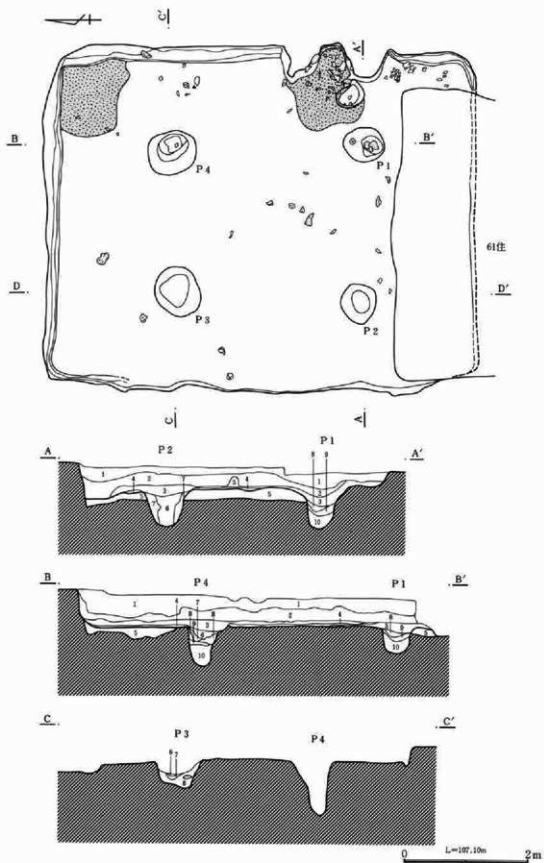
規模 NO1長径0.65m、短径0.55m、深さ 0.6m NO2長径0.65m、短径0.55m、深さ 0.5m

NO3長径 0.8m、短径 0.7m、深さ 0.4m NO4長径0.75m、短径 0.7m、深さ0.85m

#### 貯蔵穴 未検出

壁下周溝 竈の部分を除く東辺から北辺、北西隅にかけて検出された。幅7～15cm、深さ10cm程度。

掘り方 起伏に富み、とくに西側が一段深く掘り窪められている。また北壁より約1m、東壁より約0.8mぐ  
らいのところでL字形の幅0.15～0.5m程度の周溝状の掘り込みが検出されたことから、本住居はある時期  
に東側と北側を拡張された可能性がある。



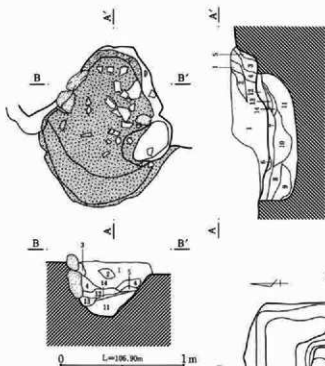
第203図 60号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



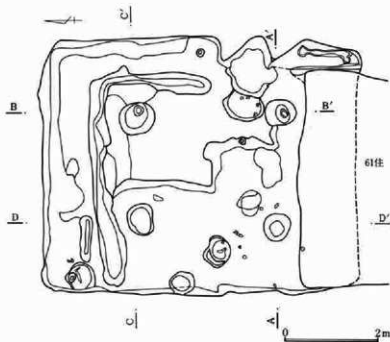
- |                                      |                                   |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 F P粒、砂礫を多く含む。                 | 6 褐色土 FA粒、炭化物をごく少量含む。             |
| 2 暗褐色土 F P粒、砂礫を多く、焼土粒、灰層、炭化物をごく少量含む。 | 7 濃い黄褐色土 砂粒、褐灰色土塊、FA塊、暗褐色土塊を若干含む。 |
| 3 灰黄褐色土 灰白色シルト質土塊、焼土粒、炭化物を少量含む。      | 8 褐色土 FA塊、暗褐色土塊、砂粒を含む。            |
| 4 黒色土 灰層、焼土、炭化物を多量に含む。               | 9 暗褐色土 粘土、砂粒を少量含む。                |
| 5 暗褐色土 F P粒、FA塊を多く含む。(掘り方)           | 10 濃い黄褐色土 FA塊、褐灰色土塊を含む。           |

第204図 60号住居跡(2)



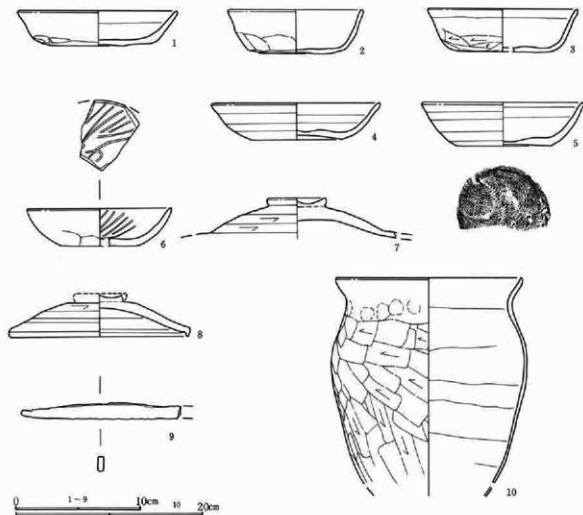
第205図 60号住居跡断

- |  |
|--|
| 1 濃い黄褐色土 F P粒、焼土塊をやや多く、灰褐色砂粒、炭化物、灰を少量含む。 |
| 2 灰黄褐色土 焼土粒をやや多く、炭化物、黄色粘土をわずかに含む。        |
| 3 赤褐色土 焼土塊を多量に含む。                        |
| 4 濃い赤褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。                   |
| 5 黒褐色土 炭化物、焼土粒、灰を多く含む。                   |
| 6 暗褐色土 焼土粒、灰を少量含む。                       |
| 7 黒褐色土 灰層、焼土粒を少量含む。                      |
| 8 褐色土 焼土粒、灰を含む。                          |
| 9 黒褐色土 灰層、黄褐色土塊、焼土粒を少量含む。                |
| 10 褐色土 焼土粒、炭化物、灰を少量含む。                   |
| 11 濃い黄褐色土 焼土粒、灰、炭化物を少量含む。                |
| 12 暗褐色土 灰、粘土を少量含む。                       |
| 13 褐色土 焼土をわずかに含む。                        |
| 14 黒褐色土 灰層、焼土をごく少量含む。                    |



第206図 60号住居跡掘り方

## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第207図 60号住居跡出土遺物

## 60号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 量 (m)	①色调 ②焼成 ③粘土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
60住-1	土師器 坏	埋 土 口一底1/2	口(12.7)、底8.9、高2.8	①橙 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	口縁部一底部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。
60住-2	土師器 坏	埋 土 口一底1/3	口(10.7)、底7.4、高3.4	①明赤褐 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。
60住-3	土師器 坏	埋 土 口一底1/2	口(12.0)、底(8.2)、高3.5	①にぶい黄橙 ②良好 ③中一細砂粒をごく少量含む。	口縁部・体部上位内外面横撫で。体部下位一底部外面磨削り。内面撫で。
60住-4	灰思器 坏	埋 土 口一底1/2	口(13.5)、底7.5、高3.0	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
60住-5	灰思器 坏	埋 土 口一底1/2	口(12.9)、底7.4、高3.5	①灰 ②良好 ③中一細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
60住-6	土師器 坏	埋 土 口一底破片	口(11.6)、底(6.0)、高3.0	①橙 ②良好 ③粗織	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面磨削り、内面撫で。体部内面に放射状、底部内面に螺旋状刷文。
60住-7	灰思器 蓋	埋 土 つまみ一 破片	つまみ径5.2、高(3.3)	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。体部切り離し後つまみ部貼付。
60住-8	灰思器 蓋	埋 土 縁辺一部欠	径14.4、高(3.5)	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。体部切り離し後つまみ部貼付。つまみ周囲一部回転磨削り。
60住-9	刀子	埋 土	長(12.8)、幅0.8-1.3、厚0.4-0.5		刃部の一部のみ。錆がひどく彫れてしまっている。
60住-10	土師器 甕	埋 土 口一胴1/2	口(20.0)、高(21.7)	①明赤褐 ②良好 ③中一細砂粒をやや多く含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。頸部外面に指頭圧痕付く。胴部外面磨削り、内面撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

61号住居跡 (PL38・39・98・99)

位置 79-H-17グリッド 床面積 16.8㎡ 主軸方位 N-98°-E

重複 6・10・18・50・59号住居跡に破壊される。62・67・107号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.95m、短辺4.23m、残存壁高0.49mを測り、南北に長い長方形形状を呈する。

上面はかなり削平されている。

埋土 におい黄褐色土・黄褐色土をベースとする。

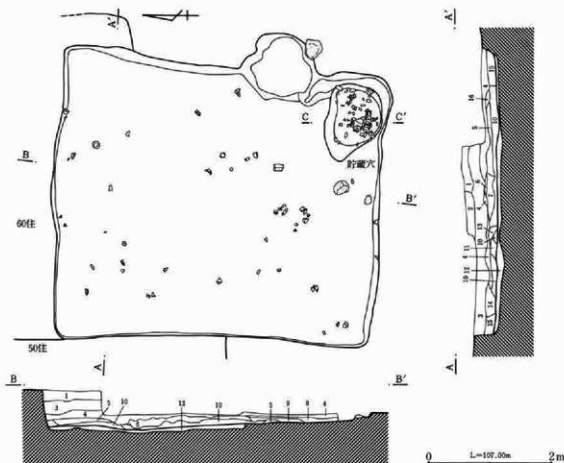
床面 灰黄褐色土を4～5cm貼って床面をつくっている。硬い。

竈跡 東壁のやや南東隅寄りに取り付く。上面は削平をうけ、燃焼部のハ字形のプランが検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。

柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.24m、短径0.91m、深さ0.38mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし 掘り方 比較的平坦である。住居中央よりやや北寄りに床下土坑が10基検出された。

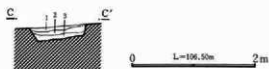


- 1 におい黄褐色土 砂質土の砂礫、小石を少量含む。
- 2 黄褐色土 砂礫、小石を少量、炭化物、焼土を若干含む。
- 3 明黄褐色土 砂礫、F P粒を若干含む。
- 4 褐灰色土 砂礫を若干、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 におい黄褐色土 F A塊積物。
- 6 褐灰色土 夾雑物少ない。
- 7 灰黄褐色土 砂礫、小石を若干、F A塊を少量含む。
- 8 褐灰色土 砂礫、炭化物、焼土粒を微量含む。

- 9 褐灰色土 砂礫、焼土粒を若干含む。
- 10 におい黄褐色土 焼土粒、炭化物をやや多く含む。
- 11 灰黄褐色土 F A塊を少量混入。
- 12 褐灰色土 F A塊を若干含む。
- 13 褐灰色土 F A塊。
- 14 褐灰色土
- 15 におい黄褐色土
- 16 黒褐色土塊

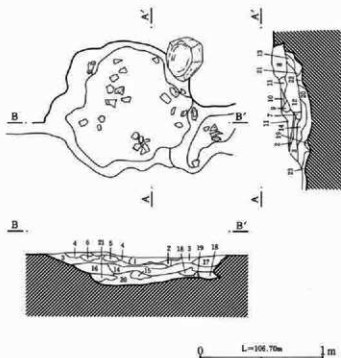
第208図 61号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



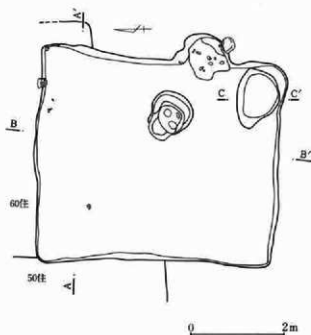
- 1 黒褐色土 炭化物、焼土塊を大量に、砂礫、小石を若干含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を多く、砂礫、小石、焼土塊を少量含む。
- 3 暗褐色土 F P 粒、炭化物、焼土粒を少量含む。

第209図 61号住居跡貯蔵穴



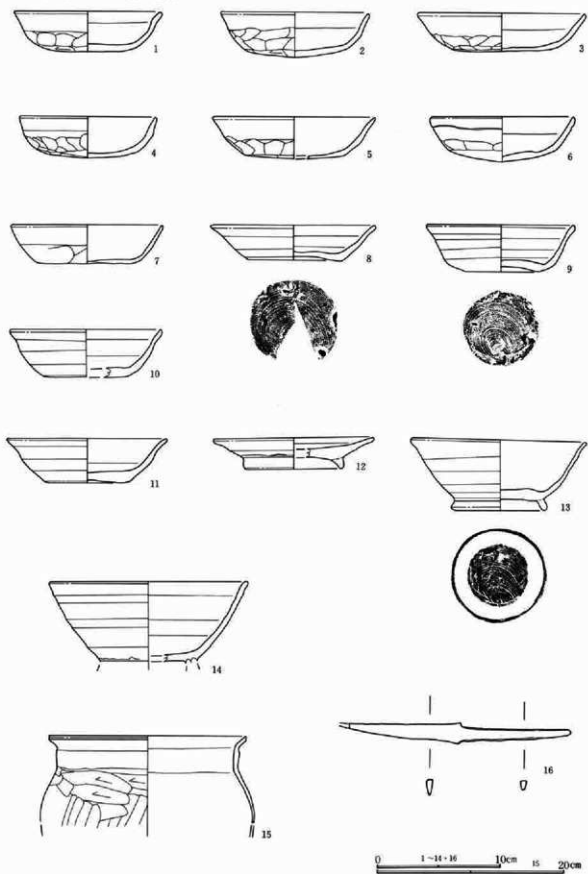
- 1 黒褐色土 炭化物を多量に、黄褐色土塊を若干含む。
- 2 黄褐色土 炭化物、焼土を若干含む。
- 3 褐灰色土 炭化物をやや多く、黄褐色土塊を少量含む。
- 4 褐灰色土 砂礫、小石を少量含む。
- 5 黒色土 炭化物。
- 6 黒褐色土 砂礫を若干含む。
- 7 褐灰色土 灰。
- 8 灰黄褐色土 FA塊を大量に含む。
- 9 におい黄褐色土 黄褐色粒子、砂礫を若干含む。(ブロック状)
- 10 褐灰色土 炭化物塊、焼土粒を若干含む。
- 11 褐灰色土 砂礫を含む。
- 12 褐色土 焼土、炭化物を多く含む。
- 13 褐灰色土 炭化物を多量に含む。
- 14 明黄褐色土 砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
- 15 黒褐色土 炭化物。
- 16 黄褐色土 砂礫、小石を若干、焼土粒を少量含む。
- 17 褐灰色土 焼土を少量、砂礫を若干含む。
- 18 におい黄褐色土 FA塊を多く含む。
- 19 褐灰色土塊
- 20 におい黄褐色土 砂礫、焼土粒を少量含む。
- 21 におい黄褐色土 焼土を含む。
- 22 におい黄褐色土 粒子を微量含む。
- 23 明黄褐色土 砂礫を若干含む。

第210図 61号住居跡蔵



第211図 61号住居跡掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第212図 61号住居跡出土遺物



## 61号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
61住-1	土師器 坏	埋 土 完 形	口11.8、底8.0、 高3.2	①明赤陶 ②良好 ③中- 細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横溝で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
61住-2	土師器 坏	貯蔵穴内 ほぼ完形	口11.9、底8.1、 高3.6	①明赤陶 ②良好 ③細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
61住-3	土師器 坏	貯蔵穴内 口-底1/2	口13.4、底7.6、 高3.0	①にぶい橙 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面彫削り、内面撫で。
61住-4	土師器 坏	貯蔵穴内 口-底2/3	口(11.2)、底6. 8、高3.4	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒をごく少量含む。	口縁部内外面横溝で。体部-底部外面彫削り、内面 撫で。
61住-5	土師器 坏	貯蔵穴内 口-底1/3	口(13.0)、底(7 .8)、高3.2	①にぶい橙 ②やや良好 ③中-細砂粒を若干含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面彫削り、内面撫で。
61住-6	土師器 坏	貯蔵穴内 口-底1/3	口(11.6)、底7. 8、高3.7	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を微量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面彫削り、内面撫で。
61住-7	土師器 坏	貯蔵穴内 口-底1/4	口(12.0)、底8. 0、高3.0	①にぶい橙 ②やや良好 ③中-細砂粒をごく少量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面彫削り、内面撫で。
61住-8	須恵器 坏	埋 土 口-底2/3	口(13.1)、底7. 2、高2.9	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	横溝整形。底部回転糸切り未調整。
61住-9	須恵器 坏	甕 埋 土 口-底2/3	口(12.0)、底6. 0、高3.7	①灰白 ②良好 ③中-細 砂粒を少量含む。	横溝整形。底部回転糸切り未調整。
61住-10	須恵器 坏	貯蔵穴内 口-底1/2	口(12.2)、底(6 .4)、高3.8	①灰 ②良好 ③整粒	横溝整形。底部回転糸切り未調整。
61住-11	須恵器 坏	埋 土 口-底1/4	口(12.8)、底6. 8、高3.5	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	横溝整形。底部回転糸切り未調整。
61住-12	須恵器 皿	埋 土 口-底1/3	口(13.0)、底(8 .0)、高2.5	①灰 ②良好 ③整粒	横溝整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
61住-13	須恵器 埴	貯蔵穴内 完 形	口14.1、底7.6、 高2.5	①灰 ②良好 ③整粒	横溝整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
61住-14	須恵器 埴	貯蔵穴内 口-底1/6	口(15.8)、高(6 .2)	①灰白 ②良好 ③中-細 砂粒を少量含む。	横溝整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕残 る。
61住-15	土師器 甕	埋 土 口-胴破片	口(21.0)、高(9 .2)	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面彫削り、内面撫 で。
61住-16	刀子	埋 土	長(17.6)、刃部長(9.0)、茎部長(8.6)、刃部厚 0.1-0.15、棟厚0.3-0.4、重17g		鋒欠損。

## 62号住居跡 (PL39-99)

位置 79-G-17グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-93°-E

重複 6・21・44・50・61号住居跡に破壊される。67号住居跡・7号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺測定不能、短辺3.5m、残存壁高0.16mを測る。北側1/3を6号住居跡に、北西隅を61号住居跡に、南西隅を21・44号住居跡に破壊されており、原形は不明である。また、上面はかなり削平されている。

埋土 ぶい黄褐色土・褐灰色土をベースとする。

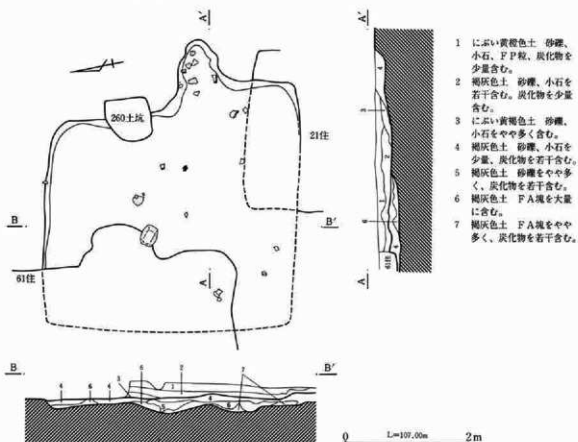
床面 一部で地山を平坦に削り出した面を床面としているが、褐灰色土を10-25cmの厚さで貼っている。埋土との色調差によって明瞭に識別できるが、硬化面はあまり明確ではない。

竈跡 東壁のやや南東隅寄りに取り付く。上面は削平をうけ、燃焼部の八字形のプランが検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。残存状態は悪く、燃焼部内壁にもあまり焼けたような痕跡はうかがえない。

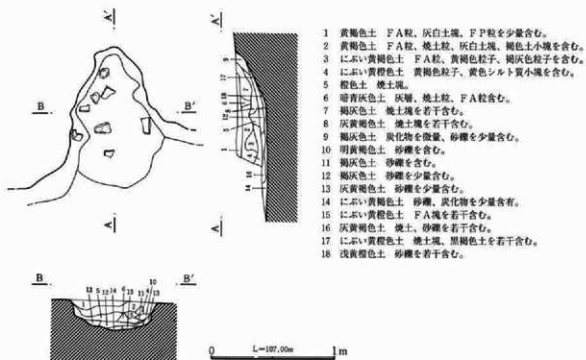
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 大小8基の床下土坑・小ピットが検出された。起伏に富む。

第3章 検出された遺構と遺物

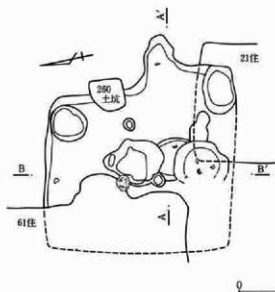


第213図 62号住居跡

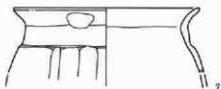
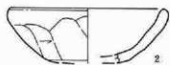


第214図 62号住居跡

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第215図 62号住居跡掘り方



第216図 62号住居跡出土遺物

62号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
62住-1	土師器 坏	埋 土 口-底3/4	□13.4、底(7.5) 、高(4.1)	①にふい糸濁 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面彫削り、内面撫で。
62住-2	土師器 坏	埋 土 口-底破片	□(12.0)、底(6) 、高(4.2)	①にふい糸濁 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面彫削り、内面撫で。
62住-3	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	□(13.5)、底6、 高4.0	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤製形。底部回転糸切り未調整。
62住-4	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	□13.1、底7.5、 高3.7	①灰白 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	轆轤製形。底部回転糸切り未調整。
62住-5	須恵器 皿	埋 土 口-底破片	□(13.0)、底(7.4)、 高1.8	①黒 ②やや不良 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤製形。高台部貼付。
62住-6	灰輪陶器 柄	埋 土 口-底1/4	□(13.4)、底6、 高3.9	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒を微量含む。	轆轤製形。底部-体部高台周囲回転彫削り、高台部貼付。
62住-7	土師器 甕	貼 床 下 口-割破片	□(20.0)、高(6.7)	①橙 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横溝で、体部外面彫削り、内面撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

63号住居跡 (PL39-99-100)

位置 79-C-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-174°-E

重複 なし

規模と形状 長辺測定不能、短辺2.19m、残存壁高0.2mを測り、東西に長い縦長長方形形状を呈する。

西辺を大きく擾乱によって破壊されている。また、東壁の南東隅寄りと、南壁の南東隅寄りの2箇所に竈が築かれるが、南壁の竈1の方が、東壁の竈2より新しく、竈1は竈2の廃棄後につくられる。また上面は削平されている。

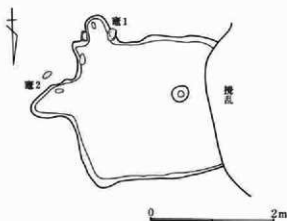
埋土 黒褐色土をベースとする。

床面 暗褐色土を厚さ2~5cmほど貼っている。硬化面は検出されなかった。

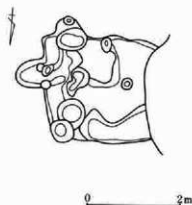
竈跡 竈1・2とも上面は削平され、燃焼部のプランが検出されたにすぎない。竈2は地山を削り出して壁の外側に構築され、ハ字形のプランを呈する。竈1も住居壁の外側にあるが、□字形のプランで、粘土を若干貼って構築されている。扁平に加工した砂岩を両袖の袖石としている。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

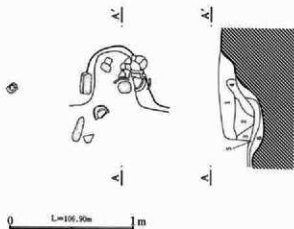
掘り方 大小の床下土坑・小ピット6基の他、掘り込みが多く、凹凸が甚だしい。とくに北壁際が深く掘り込まれている。



第217図 63号住居跡



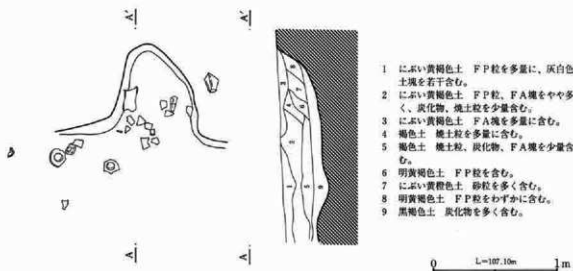
第218図 63号住居跡掘り方



第219図 63号住居跡竈1

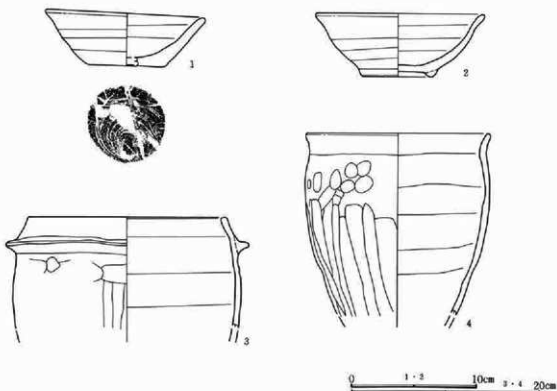
- 1 におい黄褐色土 F P粒を多量に、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 におい黄褐色土 F P粒を少量、炭化物を多量に含む。
- 3 灰黄褐色土 F P粒をやや多く含む。
- 4 におい黄褐色土 炭化物、焼土粒をやや多く含む。
- 5 黒色土 炭化物層。
- 6 におい黄褐色土 F A塊を少量含む。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 にぶい黄褐色土 F P粒を多量に、灰白色土塊を若干含む。
- 2 にぶい黄褐色土 F P粒、FA塊をやや多く、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 FA塊を多量に含む。
- 4 褐色土 焼土粒を多量に含む。
- 5 褐色土 焼土粒、炭化物、FA塊を少量含む。
- 6 明黄褐色土 F P粒を含む。
- 7 にぶい黄褐色土 砂粒を多く含む。
- 8 明黄褐色土 F P粒をわずかに含む。
- 9 黒褐色土 炭化物を多く含む。

第220図 63号住居跡概観 2



第221図 63号住居跡出土遺物

63号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
63住-1	須恵器 坏	残 土 口一底4/5	口12.9、底(6.2) 、高4.3	①灰 ②やや良好 ③中一細砂粒を多量に含む。	楕圓盤形。底部回転糸切り未調整。
63住-2	須恵器 碗	残 土 口縁一部欠	口13.4、底6.0、 高5.0	①灰 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	楕圓盤形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
63住-3	土師器 羽 釜	残 土 口一胴1/4	口(21.2)、高(1 1.7)	①にぶい黄褐色 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で。肩部貼付、胴部外面直削り、内面無で。
63住-4	土師器 甕	残 土 口一胴1/3	口(19.6)、高(1 9.3)	①にぶい褐色 ②良好 ③中一細砂粒をやや多く含む。	口縁部は僅かに外反する。口縁部一胴部上位外面横溝で。中一下位外面直削り、内面横溝で。

第3章 検出された遺構と遺物

64号住居跡 (PL39-40-100)

位置 79-I-15グリッド 床面積 (14.0)<sup>2</sup> 主軸方位 N-87°-E

重複 東半分を41号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺4.45m、短辺3.15m、残存壁高0.27mを測り、東西に長い縦長形状を呈する。

東半分を41号住居跡に掘り込まれ、破壊されており、また、西側は調査区域外に出る。

埋土 暗褐色土・褐色土をベースとする。

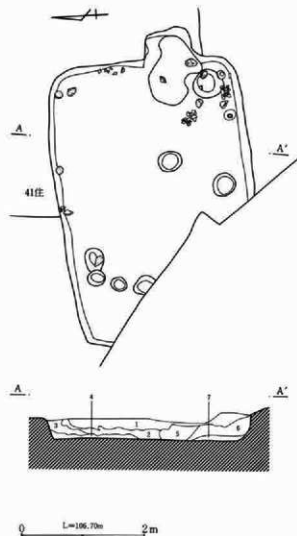
床面 地山を削り、平らにして床面をつくっている。硬化面は明瞭であり、ほぼ住居跡内全域に検出された。

竈跡 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面は削平をうけ、燃烧部のプランが検出されたにすぎない。燃烧部は地山を削り出して、住居壁の外側につくられる。焚き口は深く掘り窪められている。残存状態は悪い。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

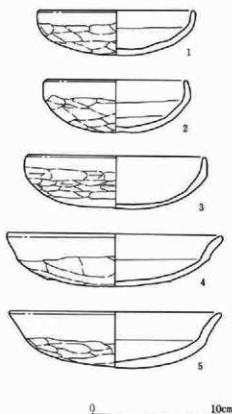
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は径0.4m、深さ0.3mを測り、形状はほぼ円形を呈する他にピット状の掘り込みが6基ある。

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致しており、床下の遺構等は検出されなかった。



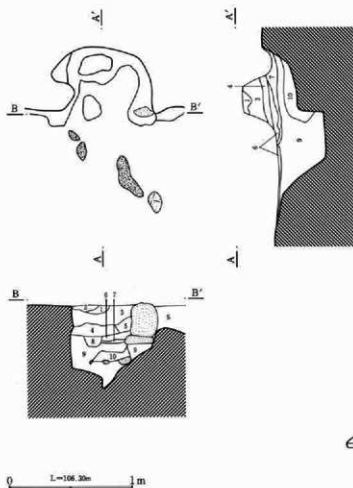
第222図 64号住居跡

- 1 暗褐色土 黒褐色土、黄褐色土塊を含む。
- 2 褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 3 暗褐色土 黒褐色土塊、黄褐色土塊を少量含む。
- 4 暗褐色土 黒褐色土塊、黄褐色土塊を少量含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土、F P 粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土 灰、黄色粘土を少量含む。
- 7 黒褐色土 黄褐色土粒子、F P 粒を少量含む。



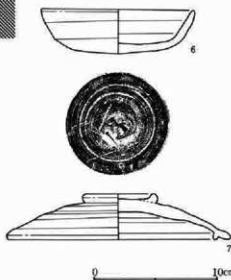
第223図 64号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第224図 64号住居跡壁

- 1 暗褐色土 黒褐色土、灰、焼土を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色粒子、黒褐色土塊、F P粒を少量含む。
- 3 褐色土 黒褐色土塊、焼土粒、F P粒を少量含む。
- 4 褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 5 黒褐色土 黒褐色土塊、灰、焼土を少量含む。
- 6 黒褐色土 灰を主とし、焼土粒を少量含む。
- 7 褐色土 灰層。
- 8 暗褐色土 黒褐色土塊、黄褐色土粒、焼土を少量含む。
- 9 暗褐色土 黄褐色土塊、黒褐色土塊を少量含む。
- 10 黒褐色土 焼土粒子、F P粒を少量含む。



第225図 64号住居跡出土遺物(2)

64号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
64住-1	土師器 坏	床面直上	口12.6、底4.6、 高3.5	①にぶい橙 ②良好 ③中 -細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で。体部-底部外面削り、内面 無で。
64住-2	土師器 坏	貯蔵穴内 完 形	口11.5、底4.1、 高4.2	①橙 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	口縁部は僅かに内彎する。口縁部内外面横溝で。体 部-底部外面削り、内面無で。
64住-3	土師器 坏	貯蔵穴内 完 形	口14.4、底7.0、 高4.1	①黄褐色 ②良好 ③中-細 砂粒を多量に含む。	口縁部内外面横溝で。体部-底部外面削り、内面無 で。
64住-4	土師器 坏	床面直上 口-底2/3	口17.1、底7.1、 高4.3	①にぶい橙 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	口縁部-体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面削り、内面無で。
64住-5	土師器 坏	床面直上 口-底1/2	口16.9、底6.8、 高4.4	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部-体部上位内外面横溝で。体部下位-底部外 面削り、内面無で。
64住-6	須恵器 坏	埋 土 完 形	口12.1、底8.0、 高3.5	①灰白 ②良好 ③中-細 砂粒を多く含む。	甕輪整形。底部回転削り。
64住-7	須恵器 蓋	床面直上 完 形	径17.7、つまみ 径5.9、高3.7	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	甕輪整形。つまみ部貼付。

65号住居跡 (PLA0)

位置 79-F-18グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-20°-E  
重複 16・32・49号住居跡に破壊される。

### 第3章 検出された遺構と遺物

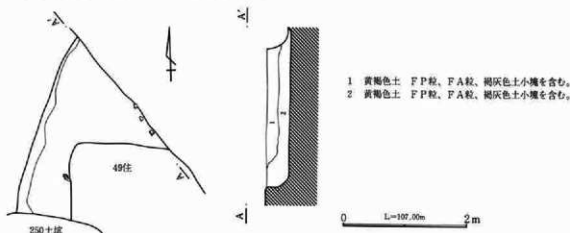
**規模と形状** 長辺、短辺測定不能、残存壁高0.27mを測る。上面を16・32号住居跡に掘り込まれ、南側を49号住居跡・250号土坑に破壊され、北辺と東辺とが調査区域外に出るため、原形は不明である。

**埋土** 黄褐色土をベースとする。

**床面** 地山を削り出して平坦面をつくっている。

**竈跡** 未検出 **柱穴** 未検出 **貯蔵穴** 未検出 **壁下周溝** 未検出

**掘り方** 掘り方面と床面とがほぼ一致している。



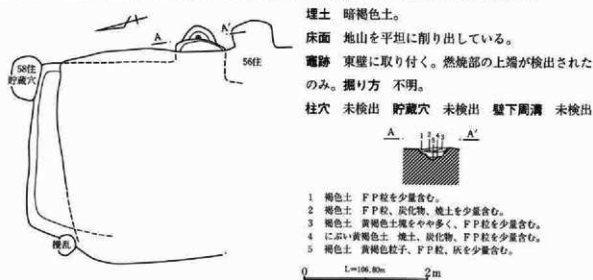
第226図 65号住居跡

### 66号住居跡 (PL40)

**位置** 79-F-15グリッド **床面積** 測定不能 **主軸方位** N-108°-E

**重複** 7・19・36・56・58号住居跡に掘り込まれ、破壊されている。

**規模と形状** 長辺測定不能、短辺2.7m、残存壁高0.31mを測る。上面を7・19・36・58号住居跡に掘り込まれ、南側9割を56号住居跡に破壊されており、北辺と竈燃焼部の一部が検出されたにすぎない。



第227図 66号住居跡



## 67号住居跡 (PL40・41・100・101)

位置 79-II-17グリッド 床面積 15.5㎡ 主軸方位 N-92°-E

重複 10・50・59・61・62号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長辺4.48m、短辺3.1m、残存壁高0.29mを測り、東西に長い縦長長方形を呈する。

上面を多くの住居跡によって掘り込まれており、残存状態は悪い。

埋土 灰黄褐色土・褐灰色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。硬化面は明瞭である。

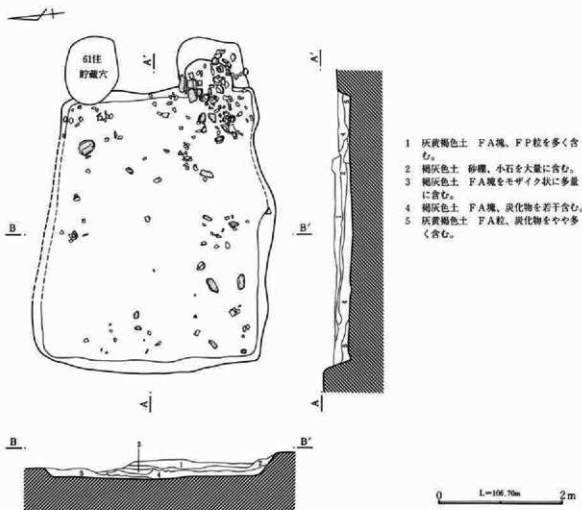
竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は59号住居跡によって掘り込まれており、燃焼部のプランの一部が検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。北壁、北軸は加工された砂岩を配している。焼土・炭化物はあまり顕著ではない。

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

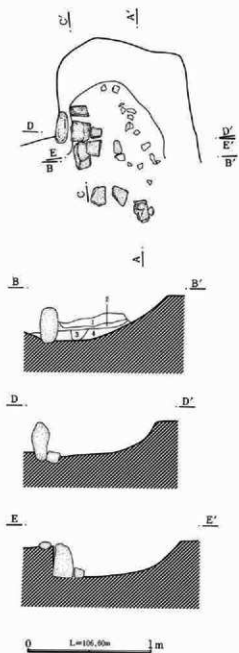
壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。



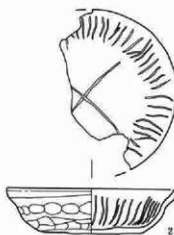
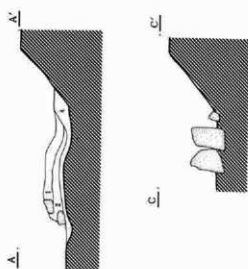
第228図 67号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



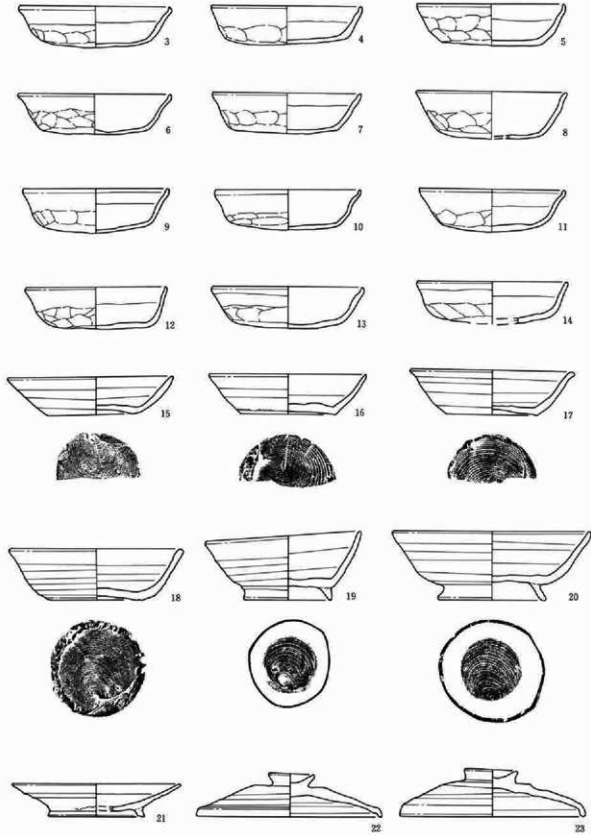
- 1 褐灰色土 砂礫、F P粒をやや多く、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂礫を少量含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を多量に含む。
- 4 褐灰色土 砂礫を少量含む。

第229図 67号住居跡覆



第230図 67号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第231圖 67号住居跡出土遺物(2)

0 10cm

第3章 検出された遺構と遺物



第232図 67号住居跡出土遺物(3)

67号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
67住-1	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	口13.0、底10.0、 高4.2	①にぶい橙 ②良好 ③中 一細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面磨削り。内面 撫で。体部一底部に結文。
67住-2	土師器 坏	埋土 口一底1/2	口(13.3)、底8. 5、高3.8	①橙 ②良好 ③細砂粒を 含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。
67住-3	土師器 坏	埋土 完形	口12.2、底8.3、 高3.3	①にぶい橙 ②良好 ③細 砂粒を多く含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り。
67住-4	土師器 坏	埋土 完形	口12.1、底9.4、 高3.0	①にぶい褐 ②やや良好 ③中一細砂粒を多く含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り。
67住-5	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	口11.7、底8.0、 高3.4	①橙 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面磨削り。内面 撫で。
67住-6	土師器 坏	埋土 完形	口12.4、底8.4、 高3.1	①橙 ②良好 ③細砂粒を 多量に含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面磨削り。内面 撫で。
67住-7	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	口12.0、底8.0、 高3.2	①明赤褐 ②良好 ③中一 細砂粒を少量含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。
67住-8	土師器 坏	埋土 口一底一部欠	口11.9、底(8.0) 、高3.7	①にぶい橙 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面磨削り、内面 撫で。
67住-9	土師器 坏	埋土 ほぼ完形	口11.6、底8.0、 高3.5	①明赤褐 ②良好 ③細砂 粒をやや多く含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部一底部外面磨 削り、内面撫で。
67住-10	土師器 坏	埋土 口一底2/3	口11.6、底8.0、 高3.2	①にぶい赤褐 ②良好 ③ 細砂粒を少量含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部一底部外面磨 削り、内面撫で。
67住-11	土師器 坏	埋土 口一底2/3	口11.5、底7.0、 高3.4	①にぶい橙 ②良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面磨削り。内面 撫で。
67住-12	土師器 坏	埋土 口一底3/4	口11.3、底8.0、 高3.3	①橙 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。
67住-13	土師器 坏	埋土 口一底1/2	口(12.4)、底9. 0、高3.2	①にぶい橙 ②良好 ③中 一細砂粒を含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。
67住-14	土師器 坏	埋土 口一底1/3	口(12.3)、底(9 .0)、高(3.3)	①にぶい橙 ②良好 ③中 一細砂粒を少量含む。	口縁部一体部上位内外面横溝で、体部下位一底部外 面磨削り、内面撫で。
67住-15	須恵器 坏	埋土 口一底1/3	口(12.8)、底7. 2、高3.1	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。
67住-16	須恵器 坏	埋土 口一底1/2	口(13.2)、底6. 8、高3.0	①灰 ②やや良好 ③小石 ・粗一細砂粒を多く含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。
67住-17	須恵器 坏	埋土 口一底1/2	口(13.0)、底7. 2、高3.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多量に含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。
67住-18	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	口13.9、底7.0、 高4.1	①灰白 ①良好 ③細砂粒 を含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。
67住-19	須恵器 坏	埋土 口一底5/6	口12.5、底7.0、 高5.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
67住-20	須恵器 坏	埋土 口一底2/3	口(15.8)、底8. 5、高5.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	横轆整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
67住-21	土師器 甗	埋土 口一底破片	口(13.4)、底(7 .6)、高2.6	①にぶい橙 ②良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	横轆整形。底部撫で、高台部貼付。
67住-22	須恵器 甗	埋土 つまみ一端 3/4	径(14.8)、つま み径3.5、高3.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	横轆整形。つまみ周囲回転磨削り、つまみ部貼付。
67住-23	須恵器 甗	埋土 つまみ一端 3/4	径(14.9)、つま み径4.2、高3.9	①灰 ②やや良好 ③砂礫 ・粗一中砂粒を多量に含む。 粗い。	横轆整形。つまみ周囲回転磨削り、つまみ部貼付。
67住-24	土師器 甗	埋土 口縁部破片	口(18.8)、高(5 .8)	①橙 ②やや良好 ③中一 細砂粒を少量含む。	口縁部・肩部横溝で、胴部磨削り。

67住-25	土師器 釜	埋土 口縁部破片	口(14.0)、高(4.5)	①にふい赤褐色 ②やや良好 ③中一廻砂粒をを若干含む。	口縁部・胴部横溝で。
67住-26	甕金	埋土	長6.8、直径1.6、孔径0.7、厚0.3-0.4、重4g		完存。初り合わせて胴部を円環状につくる。

## 68号住居跡 (PL41-101-102)

位置 78-L-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-102°-E

重複 77・82号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺測定不能、短辺2.76m、残存壁高0.16mを測る。南西隅を82号住居跡に、また、北側を77号住居跡によって破壊されており、原形は不明である。

埋土 暗褐色土をベースとする。

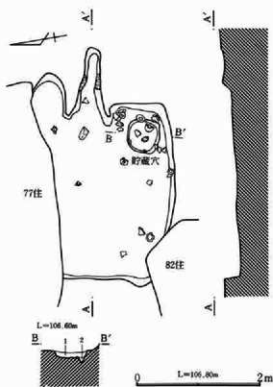
床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できた。黒褐色土を5~10cmの厚さで貼っている。硬化面はあまり顕著ではない。

竈跡 東壁に取り付く。燃焼部と煙道が検出されたが、天井はすでに失われていた。南北両袖・燃焼部・煙道とも地山を削り出してつくっており、袖は住居壁の内側にある。燃焼部は八字形を呈し、内壁はよく焼けている。焚き口はやや深く掘り窪められている。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は径0.5m、深さ0.1mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

掘り方 凹凸が多く起伏に富んでいる。中央から南西隅にかけて、とくに深く掘り込まれている。



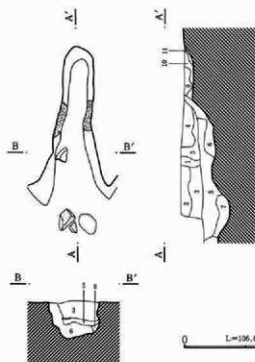
第233図 68号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒と炭化物、灰を含む。灰は中程に厚さ1cm前後、レンズ状にある。
- 2 茶褐色土 地山の一部分か。



第234図 68号住居跡掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第235図 68号住居跡竈

- 1 暗褐色土 F P粒、焼土を含む。
- 2 黄褐色土 砂粒をやや多く含む。
- 3 黄褐色土 焼土を多く含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊、灰、焼土を多く含む。
- 5 暗褐色土 砂粒を少量含む。
- 6 褐色土 焼土塊を多く含む。
- 7 黒褐色土 炭化物を多く含む。
- 8 暗褐色土 焼土を多く含む。
- 9 にぶい黄褐色シルト質粘土 焼土塊を混入。
- 10 にぶい黄褐色シルト質粘土 F P軽石粒子を混入。
- 11 褐色シルト質砂 微細なF P軽石粒子を少量混入。



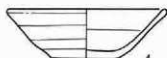
1



2



3



4



5



6



7



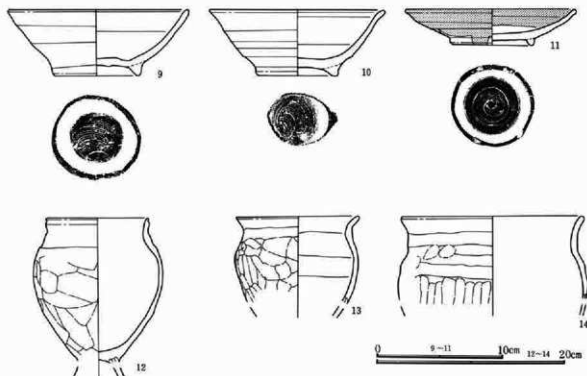
8



0 10cm

第236図 68号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第237図 68号住居跡出土遺物(2)

68号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
68住-1	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	口(13.6)、底(6.4)、高4.3	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-2	須恵器 坏	埋 土 口-底1/4	口(12.0)、底3.4、高3.8	①灰 ②やや良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-3	須恵器 坏	埋 土 完 形	口13.4、底6.4、高3.8	①にぶい黄褐色 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-4	須恵器 坏	埋 土 口-底4/5	口12.3、底5.8、高3.8	①灰白 ②やや良好 ③中-細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-5	須恵器 坏	埋 土 口-底3/4	口(12.5)、底4.9、高3.6	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-6	須恵器 坏	埋 土 口-底4/5	口13.4、底6.5、高4.1	①灰白 ②やや不良 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
68住-7	須恵器 坏	埋 土 口-底4/5	口14.2、底6.7、高4.9	①淡黄 ②やや不良 ③中-細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
68住-8	須恵器 坏	埋 土 口-底2/3	口14.3、底7.0、高4.9	①淡黄 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
68住-9	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	口(14.4)、底6.8、高5.1	①灰白 ②やや良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
68住-10	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	口(14.0)、底6.3、高5.0	①灰白 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
68住-11	灰釉陶器 皿	埋 土 口-底3/4	口13.5、底6.6、高2.9	①灰白 ②良好 ③張破	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付。施釉方法は刷毛塗り、釉調は不透明な青灰色。
68住-12	土師器 台 付壺	埋 土 口-台1/3 台部一部欠	口(11.0)、高(16.0)	①にぶい赤褐色 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面磨削り。内面撫で。
68住-13	土師器 甕	埋 土 口-胴1/2	口13.0、高(8.9)	①灰褐 ②やや良好 ③砂粒を若干含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面磨削り。内面撫で。
68住-14	土師器 甕	埋 土 口-胴破片	口(19.2)、高(8.8)	①淡黄 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面磨削り。内面撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

69号住居跡 (PL41-102)

位置 78-N-15グリッド 床面積 9.4㎡ 主軸方位 N-105°-W

重複 97・98・99号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.72m、短辺2.59m、残存壁高0.18mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

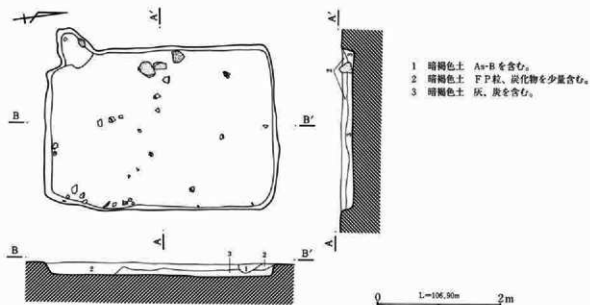
埋土 暗褐色土

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別できる。硬化面は明確ではない。

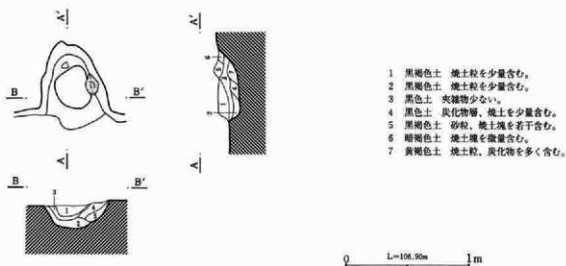
竈跡 北西隅に取り付く。燃焼部のみ検出された。地山を削り出して形成されており、住居壁より外側にある。上面は削平をうけており残存状態は悪く、内壁などはあまり焼けていない。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面がほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。

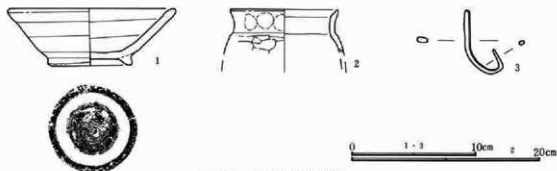


第238回 69号住居跡



第239回 69号住居跡





第240図 69号住居跡出土遺物

69号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
69住-1	須臾器 碗	埋 土 完 形	□13.4、底6.8、 高4.6	①灰 ②良好 ③小石・粗 細砂粒をやや多く含む。	楕圓形。底部回転余切り未調整。高合部貼付。
69住-2	土師器 甕	埋 土 口縁破片	□(11.6)、高(4 .7)	①暗赤褐 ②やや良好 ③ 中～細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部丸なり。
69住-3	釣針状鉄製 品	埋 土	長(5.5)、先端部長1.7、幅0.2-0.7、厚0.1 -0.3、重4g		柄元部欠損。針先は細く尖らしてある。

## 70号住居跡 (PL41-42・102)

位置 78-O-15グリッド 床面積 16.6㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 71・97・105号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.25m、短辺3.94m、残存壁高0.5mを測り、東西にやや長い縦長形状を呈する。東南隅(竈1)と西南隅(竈2)の二ヶ所に竈がつくられているが、東南隅の竈1の方が新しく、西南隅の竈2の廃絶後につくっている。

埋土 黒色土、黒褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 竈1は東南隅にあり、袖・燃焼部・煙道等すべて地山を削り出してつくっている。両袖は住居壁の内側に、燃焼部は住居壁の外側にある。煙道は2つあり、当初のものを廃してから、若干南寄りにつけ換えており、つけ換えられた煙道はトンネル状に残っている。竈2は西南隅にあり、竈1と同様、袖・燃焼部・煙道は地山を削り出してつくられている。

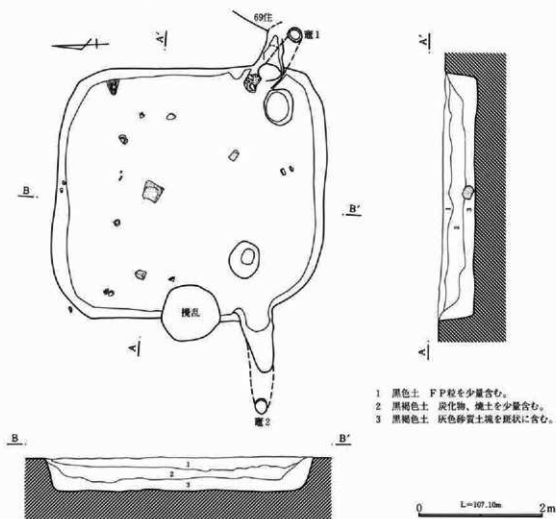
柱穴 なし

貯蔵穴 東南隅に位置し、規模は長径0.58m、短径0.45m、深さ0.3mを測り、形状は楕円形を呈する。また竈2前に、長径0.55m、短径0.5m、深さ0.23mの楕円形を呈するピットがある。

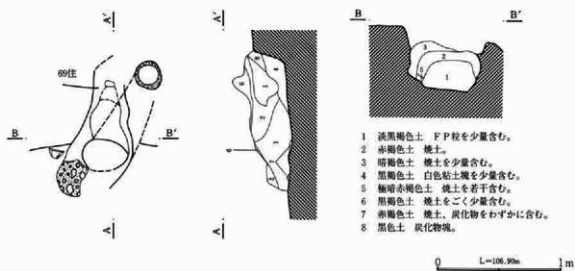
壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床下の遺構は検出されなかった。

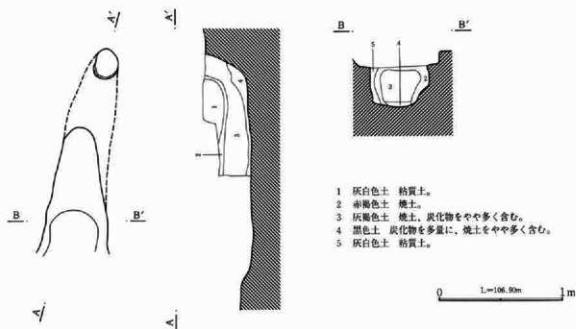
第3章 検出された遺構と遺物



第241図 70号住居跡



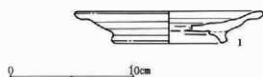
第242図 70号住居跡壺1



- 1 灰白色土 粘質土。  
 2 赤褐色土 焼土。  
 3 灰褐色土 焼土、炭化物をやや多く含む。  
 4 黒色土 炭化物を多量に、焼土をやや多く含む。  
 5 灰白色土 粘質土。

0 106.90m 1m

第243図 70号住居跡燻2



第244図 70号住居跡出土遺物

## 70号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②地皮 ③胎土	器形・整形の特徴
70住-1	須恵器 甕	埋土 □-底1/5	□(15.0)、底② .1)、高2.5	①灰白 ②良好 ③中～細 砂粒を少量含む。	罐罐整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
70住-2	白磁 碗	埋土 破片	長(3.4)、短(3.0)、厚0.4	①灰白 ②良好 ③堅緻	罐罐整形。

## 71号住居跡 (PL42-102)

位置 78-P-15グリッド 床面積 16.2㎡ 主軸方位 N-96°-E

重複 東辺を70号住居跡によって破壊されている。

規模と形状 長辺4.35m、短辺3.92m、残存壁高0.09mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。よく硬化している。

電跡 70号住居跡によって破壊されており、未検出。

## 柱穴

規模 NO1長径0.2m、短径0.1m、深さ0.2m NO2長径0.2m、短径0.15m、深さ0.3m

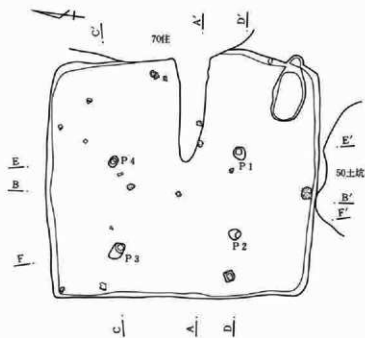
NOS長径0.3m、短径0.15m、深さ0.15m NO4長径0.15m、短径0.12m、深さ0.1m

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.2m、短径0.5m、深さ0.25mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

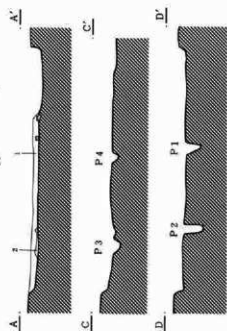
掘り方 床面と掘り方向とがほぼ一致し、床面下より遺構は検出されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

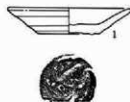


0 L=107.10m 2m

第245図 71号住居跡



- 1 暗褐色土 F P粒、機土粒を含む。
- 2 黄褐色土 砂礫を少量含む。



0 10cm

第246図 71号住居跡出土遺物

71号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
71住-1	土師器 坏	埋土 口-底3/4	口9.8、底4.9、 高2.0	①に濃い黄橙 ②やや不貞 ③細砂粒をやや多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。

72号住居跡 (PL41-102)

位置 78-N-16グリッド 床面積 (8.8)㎡ 主軸方位 N-10°-E

重複 西辺を73号住居跡に破壊される。74号住居跡を掘り込む。

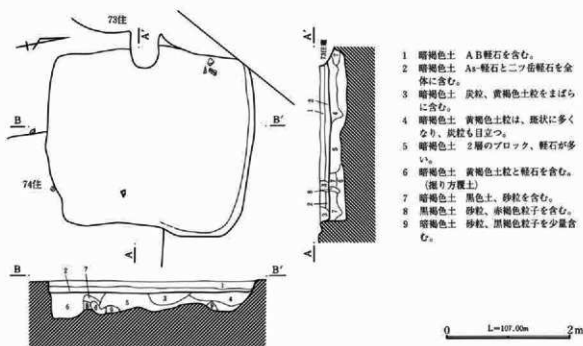
規模と形状 長辺3.3m、短辺2.73m、残存壁高0.17mを測り、南北にやや長い縦長形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

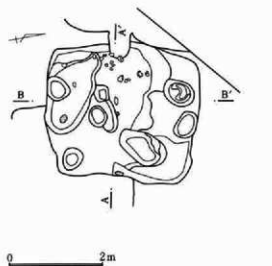
床面 暗褐色土を20~30cm貼って、平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

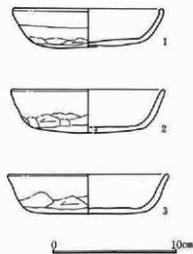
掘り方 床下土坑6基、住居中央、及び南側に特に深く掘り窪んでおり、起伏に富んでいる。



第247図 72号住居跡



第248図 72号住居跡掘り方



第249図 72号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第250図 72号住居跡出土遺物(2)

72号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
72住-1	土師器 坏	残 土 口-底2/3	口12.0、底7.6、 高3.4	①明赤褐 ②やや良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面彫削り、内面撫で。
72住-2	土師器 坏	残 土 口-底1/2	口12.2、底(8.8) 、高3.5	①澄 ②やや良好 ③細砂粒を若干含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面彫削り、内面撫で。
72住-3	土師器 坏	残 土 口-底1/3	口12.8、底9.4、 高3.1	①明赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面撫で。
72住-4	須恵器 坏	残 土 口-底1/2	口(11.4)、底6.2、 高3.6	①褐灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
72住-5	須恵器 羽蓋	残 土 口縁破片	口(21.5)、高(6.9)	①にふい黄褐色 ②不良 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・胴部内外面横溝で、肩部貼付。

73号住居跡 (PL42・102・103)

位置 78-O-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-106°-E

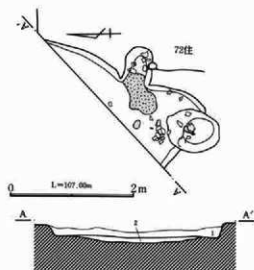
重複 72号住居跡を掘り込む。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.09mを測る。東壁及び南壁の一部が検出されたのみで、大半は調査区域外に出るため原形は不明である。上面はかなり削平されており、残存状態は悪い。

埋土 暗褐色土、As-B軽石を若干含む。

床面 黒色土、砂粒を含む暗褐色土を10cmほど貼って平坦面を形成している。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。上面は削平されており口字形を呈する燃焼部のプランが検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。内壁は殆ど焼けておらず焼土もあまり検出されなかった。

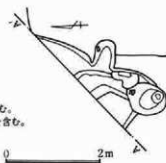


第251図 73号住居跡

柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.88m、短径0.65m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

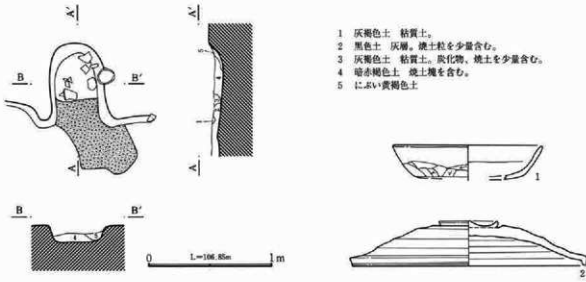
掘り方 南東隅が特に深く掘り窪められている。



第252図 73号住居跡掘り方

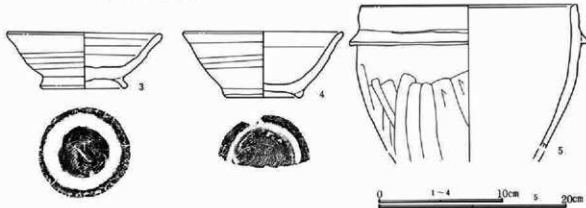
- 1 暗褐色土 As-B軽石を含む。
- 2 暗褐色土 黒色土、砂粒を含む。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 灰褐色土・粘質土。
- 2 黒色土 灰層。焼土粒を少量含む。
- 3 灰褐色土 粘質土。灰化物、焼土を少量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土塊を含む。
- 5 にぶい黄褐色土

第253図 73号住居跡廬



第254図 73号住居跡出土遺物

73号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
73住-1	土師器 坏	埋土 □-底破片	□(12.0)、高(2.1)	①澄 ②良好 ③中-粗砂粒を含む。	口縁部・体部上位内外面横撫で。体部下位-底部外面塗磨り。内面撫で。
73住-2	須恵器 蓋	埋土 つまみ-通破片	径(18.5)、つまみ径4.7、高3.6	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	輪縁整形。つまみ周囲回転磨り。つまみ部貼付。
73住-3	土師器 碗	埋土 ほぼ定形	□12.4、底7.0、高4.5	①明褐色 ②良好 ③砂粒・粗-細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
73住-4	須恵器 碗	埋土 □-底1/2	□(12.8)、底6.0、高5.2	①明褐色 ②良好 ③細砂粒を多量を含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
73住-5	土師器 釜	埋土 □-割破片	□(23.0)、高(4.4)	①にぶい澄 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部-胴部上位内外面横撫で。胴部中位-下位外面塗磨り。内面横撫で。肩部貼付。

74号住居跡 (PL42-103)

位置 78-N-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-96°-E

重複 西辺を72号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺2.86m、短辺2.5m、残存壁高0.12mを測り、東西に長い長方形を呈するが、北西側1/3

### 第3章 検出された遺構と遺物

を72号住居跡に破壊されているため、原形は不明である。

埋土 暗褐色土

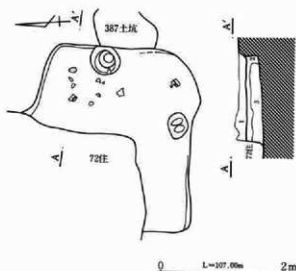
床面 暗褐色土を25~30cm貼っている。硬化面はあまり明瞭ではない。

竈跡 72号住居跡に破壊されており、未検出。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

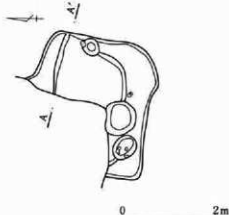
貯蔵穴 東壁際中央に位置し、規模は径0.56m、深さ0.1mを測り、形状はほぼ円形を呈する。

掘り方 床下土坑が2基検出された。中央部はとくに深く掘り窪められている。

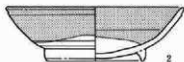


第255図 74号住居跡

- 1 暗褐色土 A~B 軽石を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子を含む。



第256図 74号住居跡掘り方



第257図 74号住居跡出土遺物

#### 74号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
74住-1	須臾器 坏	埋土 口-底1/4	□(14.0)、底径 .4)、高3.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を ごく少量含む。	輪罐整形。底部回転糸切り未調整。
74住-2	灰釉陶器 瓶	埋土 口-底1/2	□(14.2)、底7. 6、高4.3	①明褐色 ②良好 ③堅緻	輪罐整形。底部回転糸切り。高台部貼付。施釉方法は渡り掛け。

#### 75号住居跡 (PL42)

位置 78-O-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-16°-E

重複 なし

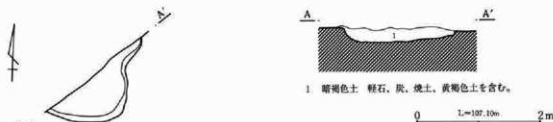
規模と形状 測定不能、残存壁高0.21mを測る。南東隅が検出されたのみで、大部分は調査区域外に出るため原形は不明である。

埋土 暗褐色土



床面 地山を削り出して平坦面をつくっている。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出 掘り方 未検出



第258図 75号住居跡

### 76号住居跡 (PL43-103)

位置 78-M-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-11°-E

重複 106号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.06m、短辺2.3m、残存壁高0.1mを測り、南北に長い長方形を呈するものと思われるが、東辺と北辺が調査区域外に出るため原形は不明である。

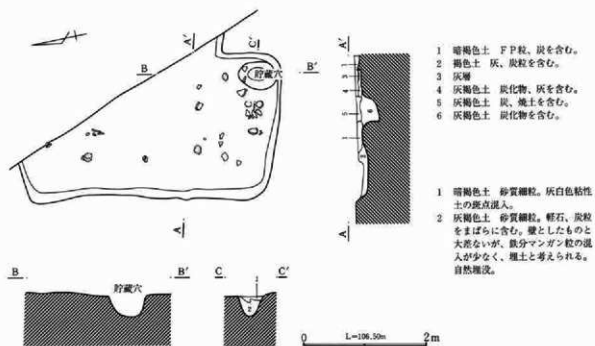
埋土 暗褐色土、褐色土をベースとする。

床面 灰褐色土を5~20cmほど貼って平坦面を形成している。硬化面は明確には検出されなかった。

竈跡 未検出 柱穴 なし 壁下周溝 なし

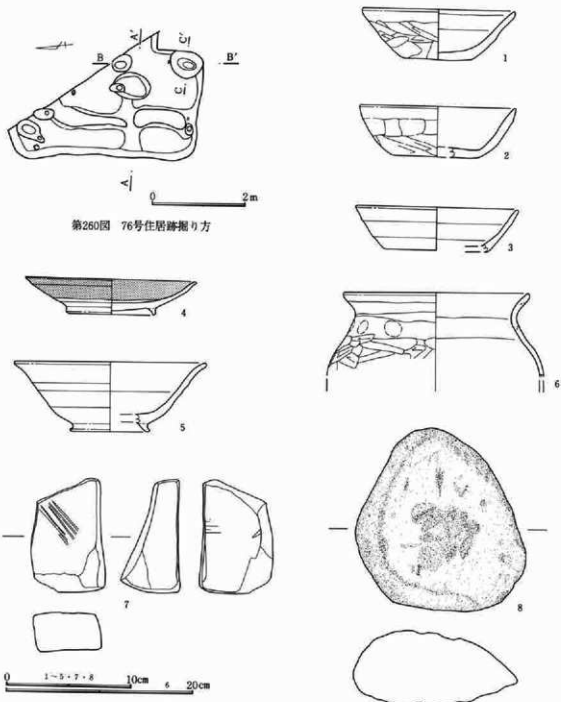
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.6m、短径0.45m、深さ0.32mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 床下土坑2基。起伏が多く、凹凸が甚だしい。



第259図 76号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第260図 76号住居跡掘り方

第261図 76号住居跡出土遺物

76号住居遺物観察表

番号	器種	出土状況	量 (cm)	①色调 ②焼成 ③新土	器形・整形の特徴
76住-1	土師器 坏	埋土 口~底1/2	口(12.2)、底5.5、高4.0	①明赤地 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り。内面撫で。
76住-2	土師器 坏	埋土 口~底1/3	口(12.6)、底(6.8)、高4.0	①橙 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り。内面撫で。
76住-3	須恵器 坏	埋土 口~底破片	口(13.0)、底(8.4)、高3.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り。内面撫で。
76住-4	灰釉陶器 皿	埋土 口~底4/5	口13.7、底6.9、高2.8	①灰白 ②良好 ③堅緻	輪轆整形。底部回転彫削り、高台部貼付。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

76住-5	須恵器 埴	土	口(15.4)、底(6.4)、高5.5	①灰白 ②良好 ③中一細砂粒を若干含む。	轆轤型。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
76住-6	土師器 釜	土	口(20.0)、高(8.9)	①にふい橙 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部・胴部内外面横溝。胴部に指添痕。胴部是削り。
76住-7	砥沢石製風石	土	長9.0、短5.6、厚3.0	①黒褐色	4面使用。
76住-8	角閃石安山岩 凹み石	土	長14.5、短13.7、厚5.8	①灰褐色	中央に凹みあり。

77号住居跡 (PL43-103-104)

位置 78-L-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-9°-E

重複 68・74号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺測定不能、短辺3.36m、残存壁高0.12mを測る。東辺が調査区域外に出るため、原形不明。

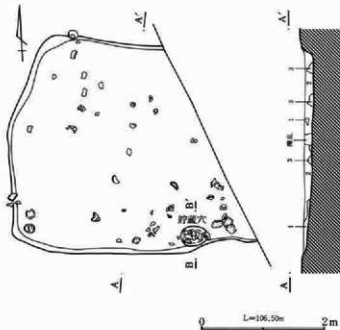
埋土 褐灰色土をベースとする。

床面 褐色土を3-10cm貼って平坦面をつくっている。硬化面は明確ではない。

竈跡 未検出 柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南壁際に位置し、規模は長径0.45m、短径0.3m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 中央部が特に深く掘り窪められている。全体に凹凸が多く、起伏に富んでいる。

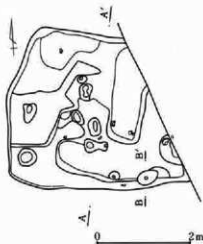


- 1 にふい黄褐色砂質粘土
- 2 褐灰色粘質土 焼土粒子と灰化物を混入。
- 3 褐色粘質土 やや砂質味をおびている。

第262図 77号住居跡

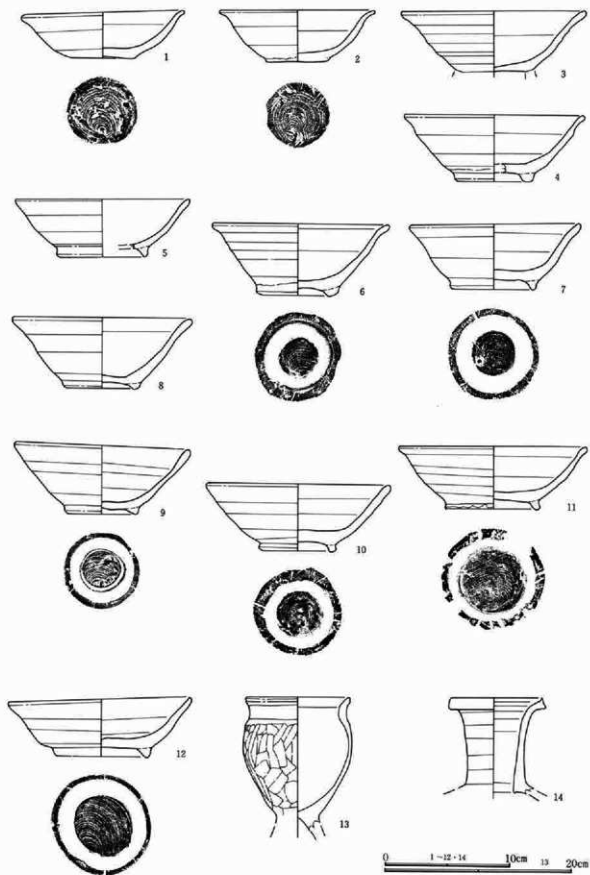


- 1 褐色土 砂質、軽石混入。
- 2 黒褐色土 粘性あり。炭、灰混入。
- 3 黒褐色土 黄褐色砂質土層状に混入。



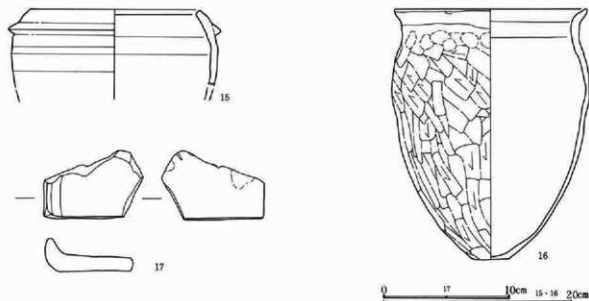
第263図 77号住居跡掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第264図 77号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第265図 77号住居跡出土遺物(2)

77号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②硬成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
77住-1	須恵器 坏	埋 土 口一底1/2	口13.0、底4.8、 高3.9	①褐色 ②良好 ③砂礫・ 小石を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
77住-2	須恵器 坏	埋 土 口一底1/3	口(12.4)、底4. 9、高4.1	①灰白 ②良好 ③粗・中 砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
77住-3	須恵器 碗	埋 土 口一底1/3	口(14.8)、高4. 8	①灰黄褐色 ②不良 ③中一 細砂粒を若干含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕有り。
77住-4	須恵器 碗	埋 土 口一底1/5	口(14.4)、底(6 .4)、高5.4	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り後推で。高台部貼付。
77住-5	須恵器 碗	埋 土 口一底1/4	口(14.0)、底(7 .2)、高4.6	①褐色 ②不良 ③中一細 砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-6	須恵器 碗	埋 土 口一底3/4	口(14.2)、底5. 6、高5.7	①にぶい帯 ②不良 ③細 砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-7	須恵器 碗	埋 土 口一底2/3	口13.7、底6.9、 高5.3	①褐色 ②やや良好 ③砂 礫・中一細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り後推で。高台部貼付。
77住-8	須恵器 碗	埋 土 口一底1/5	口(14.4)、底6. 2、高6.5	①灰白 ②やや良好 ③細 砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-9	須恵器 碗	埋 土 口一底5/6	口(14.1)、底5.8、 高5.7	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒をやや多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-10	須恵器 碗	埋 土 口一底1/3	口(14.8)、底6. 2、高5.3	①褐色 ②やや良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-11	須恵器 碗	埋 土 口一底5/6	口15.1、底7.7、 高5.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-12	須恵器 碗	埋 土 口一底	口14.6、底7.4、 高4.8	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を若干含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
77住-13	土師器 台 付壺	埋 土 口部欠	口11.2、高(14. 4)	①赤褐色 ②良好 ③中一細 砂粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面直削り。内面溝で。
77住-14	須恵器 長 頸壺	埋 土 口一頸破片	口7.3、高(7.2)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	輪縁整形。
77住-15	須恵器 羽 釜	埋 土 口一頸破片	口(18.2)、高(8 .0)	①灰オリーブ ②良好 ③ 細砂粒を多量に含む。	輪縁整形。頸部貼付。
77住-16	土師器 甕	埋 土 口一底1/3	口(20.6)、底3. 8、高26.5	①赤茶 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	口縁部・頸部横溝で。胴部外面直削り。
77住-17	須恵器 風 字瓶	埋 土 破 片	長(7.9)、短(5. 3)、厚7.2	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒をごく少量含む。	表裏面、頸部端面無で。

第3章 検出された遺構と遺物

78号住居跡 (PL43・104)

位置 78-O-14グリッド 床面積 10.4㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 79・94・98・100・103・105号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.32m、短辺3.13m、残存壁高0.24mを測り、南北に長い横長形状を呈する。

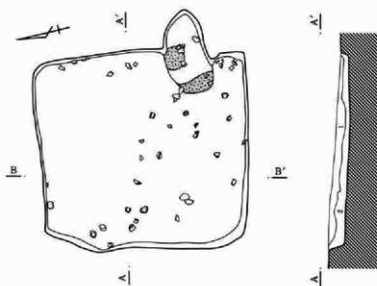
埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 埋土との色調差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されている。住居中央は踏み固められて硬化している。

竈跡 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面は削平されており口字形を呈する燃焼部のプランが検出されたのみである。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられており、内壁及び奥壁はよく焼けている。また、燃焼部内にも焼土・炭化物の堆積が多く、炭化物は焚き口にかけて顕著であった。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方はほぼ一致しているが、南東隅・中央・西壁際・北西隅の4カ所で床下土坑が検出された。

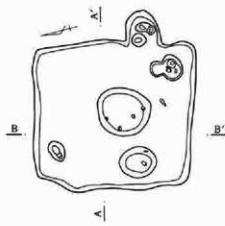


- 1 暗褐色土 F P粒、炭化物、焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土 炭化物を多く含む。
- 3 暗褐色土 炭化物、砂礫を少量含む。



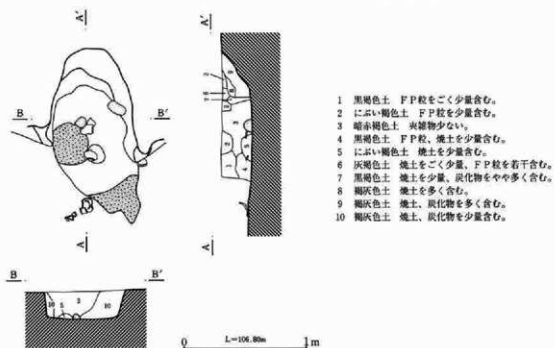
0 L=107.00m 2m

第266図 78号住居跡

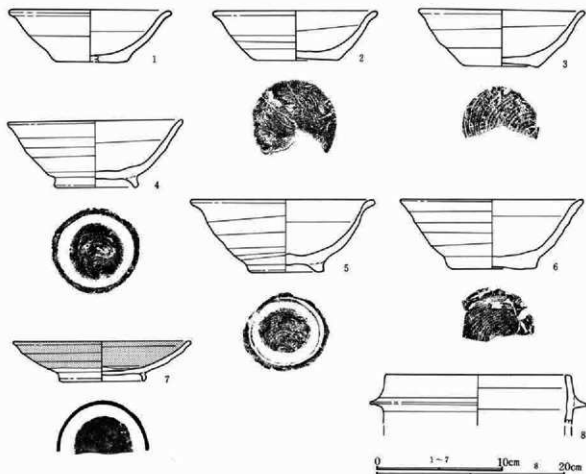


0 2m

第267図 78号住居跡掘り方



第268図 78号住居跡竈



第269図 78号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

78号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
78住-1	須恵器 坏	埋土 口-底1/4	口(13.0)、底(5.6)、高4.1	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78住-2	須恵器 坏	埋土 口-底1/2	口13.0、底6.6、高3.9	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78住-3	須恵器 坏	埋土 口-底1/3	口(13.2)、底6.0、高4.5	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78住-4	須恵器 瓶	埋土 口-底2/3	口14.0、底6.6、高5.4	①灰 ②良好 ③粗-中砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78住-5	須恵器 罎	埋土 口-底4/5	口(14.8)、底6.0、高5.7	①褐灰 ②やや不良 ③中-細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78住-6	須恵器 坏	埋土 口-底1/2	口(14.4)、底6.5、高5.5	①にぶい陶 ②不良 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78住-7	灰軸陶器 皿	埋土 口-底1/2	口(14.2)、底7.0、高3.2	①灰オリーブ ②良好 ③厚紙	轆轤整形。底部磨で、高台部貼付。
78住-8	須恵器 羽釜	埋土 口縁破片	口(19.6)、高(5.2)	①オリーブ黒 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。

79号住居跡 (PL43・104)

位置 78-N-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-110°-E

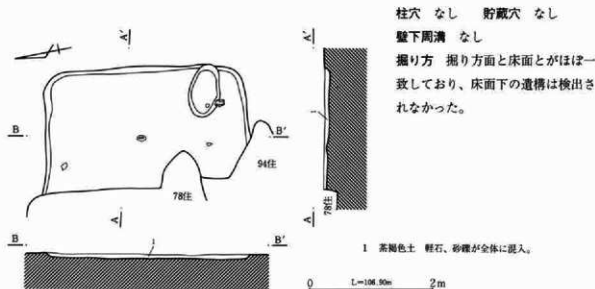
重複 78号住居跡に南半を破壊され、94・98号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.26m、短辺測定不能、残存壁高0.07mを測る。南側半分以上を78号住居跡に破壊されており、原形は不明である。また上面はかなり削平を受け、竈もほとんど失われている。

埋土 茶褐色土

床面 埋土との色差によって明瞭に識別でき、比較的良好な平坦面が形成されている。地山(先行する住居跡の埋土)を削り出しただけで、貼床はない。竈周辺は硬化している。

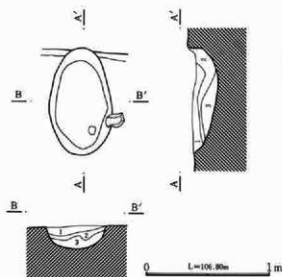
竈跡 南東隅で焚き口の掘り込みが検出されたのみで、燃焼部等はすべて上面の削平をうけ失われていた。焚き口の南壁に南袖の残骸とみられる加工された砂岩が残っていた。焚き口の埋土中には焼土・炭化物が多く混入していた。



1 茶褐色土 軽石、砂礫が全体に混入。

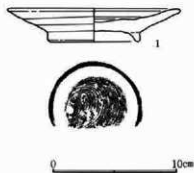
第270図 79号住居跡





第271図 79号住居跡礎

- 1 暗褐色土 焼土をやや多く、炭化物を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 F A種、焼土、炭化物をやや多く含む。



第272図 79号住居跡出土遺物

## 79号住居遺物観察表

番 号	部 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
79住-1	須形器 皿	埋 土 □-底1/2	□14.6、底7.3、 高2.7	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	輪壇型。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

## 82号住居跡 (PL43・44・104)

位置 78-M-13グリッド 床面積 7.7㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 68号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.05m、短辺2.55m、残存壁高0.16mを測り、南北に長い横長方形を呈する。

埋土 黄褐色土と暗褐色土の混土。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。ほぼ全面が踏み固められて硬化していた。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。全面は削平され、また南側半分は攪乱によって破壊されており、U字形の燃焼部プランの北半分が検出されたとすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。内壁、奥壁には焼けた跡ははっきりとしない。

柱穴

規模 NO1長径0.3m、短径0.25m、深さ0.36m NO2長径0.45m、短径0.42m、深さ0.12m

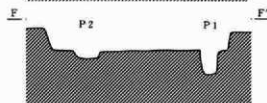
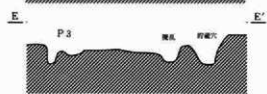
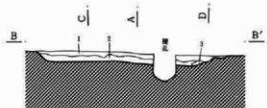
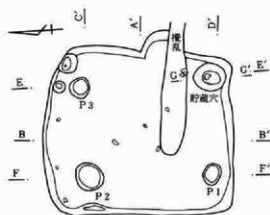
NO3長径0.35m、短径0.32m、深さ0.1m

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.5m、短径0.45m、深さ0.25mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

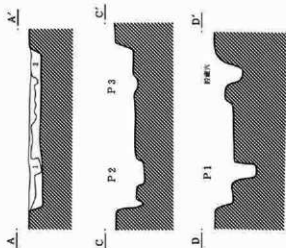
掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



0 L=106.80m 2m

第273図 82号住居跡



- 1 黄褐色土と暗褐色土との混土 軽石、炭粒、焼土を含む。
- 2 黄褐色土と暗褐色土との混土 床面近くでうすい灰層を何枚か含む。
- 3 黄褐色土と暗褐色土の大粒のブロック。



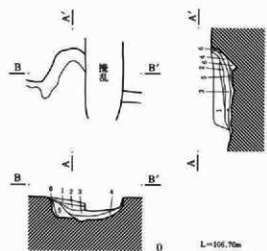
L=106.70m

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土



0 10cm

第275図 82号住居跡出土遺物



第274図 82号住居跡竈

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊、炭を含む。煙道寄りの先端部がわずかに焼けている。
- 2 黄褐色土 地山に近い砂質土。
- 3 黄褐色土 流れ込みの黄褐色土に炭を多く含む。黄褐色土は天舟部や煙体からの崩落。
- 4 黒褐色土 灰と炭化物の混土。
- 5 灰黒色土 炭化物、焼土を多く含む。
- 6 赤褐色焼土

82号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
82住-1	須恵器 瓦	埋 土 口一底2/3	口14.6、底6.5、 高3.0	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	圓錐整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

## 83号住居跡 (PL44・104・105)

位置 78-M-14グリッド 床面積 (8.3)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-99°-E

重複 84・90号住居跡を掘り込み、85号住居跡・7号溝に破壊される。

規模と形状 長辺3.65m、短辺3.4m、残存壁高0.36mを測り、南北にやや長い横長形状を呈する。北東隅を85号住居跡に破壊され、また中央を7号溝によって破壊されている。

埋土 黒褐色土をベースとする。

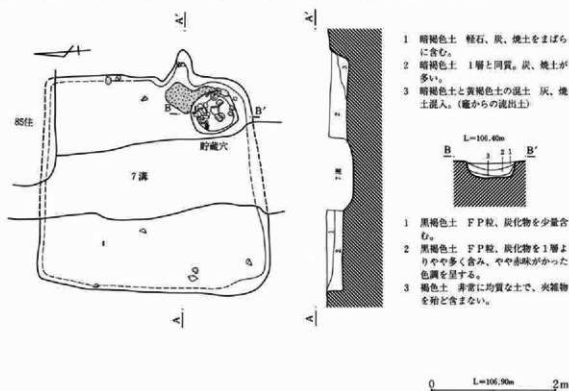
床面 褐色土と黒褐色土の混土を3~5cmの厚さで貼って平坦面を形成している。硬化面ははっきりとしていない。

竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は削平され、燃焼部の八字形のプランが検出されたのみである。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくっている。焚き口及び掘り方埋土中には炭化物が多く堆積しているが内壁・奥壁には焼かれた痕跡は顕著ではない。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

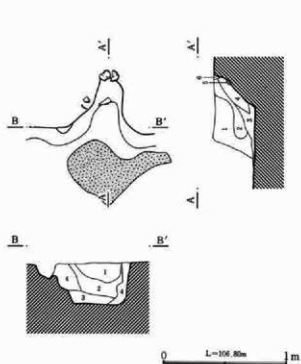
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.75m、短径0.65m、深さ0.24mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 東壁寄りが掘り込みが多く凹凸に富む。西半は掘り方面と床面とがほぼ一致している。



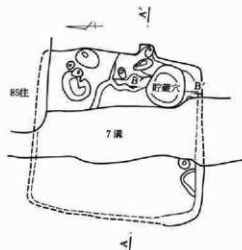
第276図 83号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

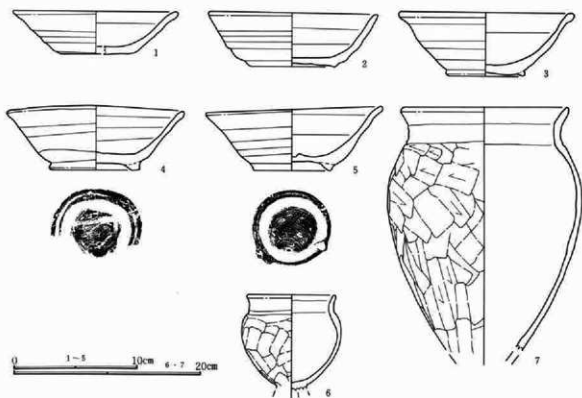


第277図 83号住居跡竈

- 1 暗褐色土 焼土、炭化物、灰を多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土、炭化物、灰をさらに多く含む。
- 3 暗褐色土 炭と灰の互層。
- 4 褐色土 焼土を含む。
- 5 黄褐色土
- 6 暗褐色土 焼土を多く含む。



第278図 83号住居跡掘り方



第279図 83号住居跡出土遺物

## 83号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
83住-1	須恵器 坏	埋 土 口-底1/3	口(13.2)、底(5.7)、高3.4	①明黄褐色 ②不良 ③中～細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
83住-2	須恵器 坏	埋 土 口-底1/4	口(13.5)、底6.8、高4.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
83住-3	須恵器 碗	埋 土 口-底1/5	口(14.0)、底6.3、高5.0	①灰黄 ②やや不良 ③中～細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。削り出し高台。
83住-4	須恵器 碗	埋 土 口-底4/5	口(14.2、底7.2、高5.1	①灰黄 ②良好 ③中～細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。かなり歪んでいる。
83住-5	須恵器 碗	埋 土 口-底3/4	口(14.2、底6.0、高5.1	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
83住-6	土師器 台付壺	埋 土 台部欠損	口(9.5、高(10.2)	①明黄褐色 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面彫り、内面撫で。
83住-7	土師器 壺	埋 土 口-胴1/3	口(17.8)、高(25.6)	①明赤褐色 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面彫り、内面撫で。

## 84号住居跡 (PL44-105)

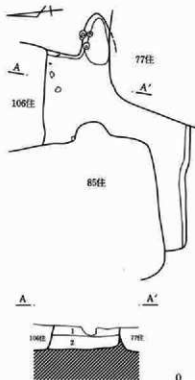
位置 78-L-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-97°-E

規模 77・85・106号住居跡に破壊され、90号住居跡を掘り込む。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.36mを測る。南東隅を77号住居跡に、北側及び北東隅を106号住居跡に、南側1/3以上を85号住居跡に破壊されている。辛うじて竈燃焼部と東壁、南壁の一部が残っている程度で、残存状態は悪い。

埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。顕著な硬化面は検出できなかった。



第280図 84号住居跡

竈跡 東壁に取り付く。上面は削平されており、南袖・南壁を77号住居跡によって破壊されているので、ハ字形の燃焼部プランの北半分が検出されたにすぎない。内壁等は殆ど焼けておらず、埋土中に炭化物・焼土もみられなかった。北壁には袖石や構築材の石を据えた痕跡とみられる小ピットが検出された。

柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 なし

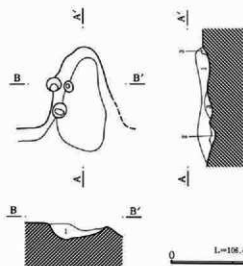
掘り方 床面と掘り方面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。

- 1 暗褐色土 軽石、塵土、炭粒をわずかに含む。全体に均質でしる。
- 2 暗褐色土 1層と同性状。炭粒がやや多く、暗いのが特徴。



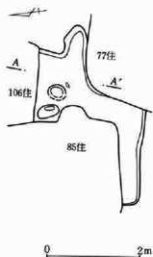
第281図 84号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第282図 84号住居跡画

- 1 黒褐色土 炭、灰を含む。
- 2 暗褐色土 炭、灰をわずかに含む。
- 3 褐色土 シルト質土。



第283図 84号住居跡掘り方

84号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
84住-1	須恵器 坏	埋土 口-底1/3	口(13.4)、底(7.2)、高3.6	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

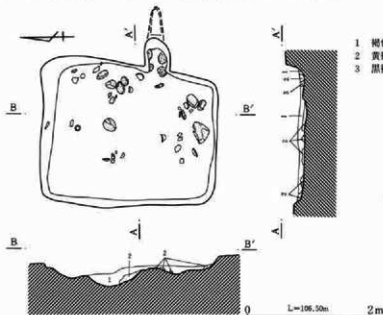
85号住居跡 (PL44・105)

位置 78-M-15グリッド 床面積 6.3m<sup>2</sup> 主軸方位 N-94°-E

重複 84・89・90・106号住居跡を掘り込む。

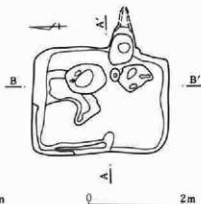
規模と形状 長辺2.8m、短辺2.2m、残存壁高0.11mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈する。

埋土 黄褐色砂質土・F・P粒を含む褐色粘土をベースとする。



第284図 85号住居跡

- 1 褐色粘土 黄褐色砂質土、F・P粒、炭化物を含む。
- 2 黄褐色土
- 3 黒褐色土 黒色土塊を含む。



第285図 85号住居跡掘り方

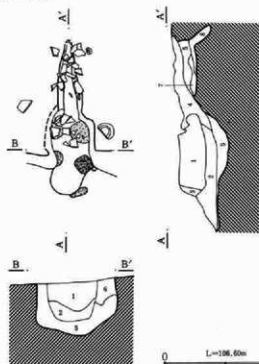
床面 黄褐色土を5cm前後部分的に貼っている。ほぼ全面が硬化している。

竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。上面は削平され煙道は辛うじて平面プランが検出できた程度である。

燃烧部・煙道は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。袖・燃烧部内壁はよく焼けており、煙道は燃烧部奥壁から緩やかに立ちあがる。

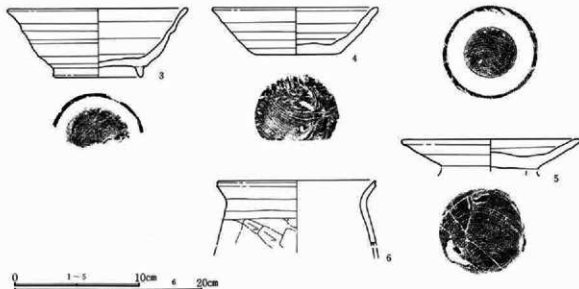
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 竈南斜め前、北斜め前に床下土坑が各1基検出された。北壁際から中央にかけて一段深く掘り窪められている。



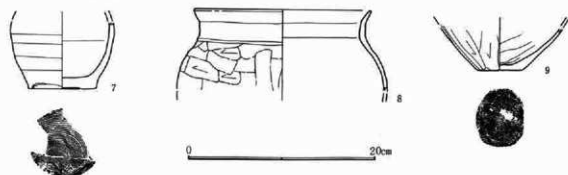
第286図 85号住居跡竈

- 1 褐色土 明褐色土塊、F P粒を少量含む。
- 2 褐色土 炭化物と焼土の混土、灰を多く含む。
- 3 暗褐色土塊
- 4 褐色土 焼土塊を多く含む。
- 5 暗褐色土 粘質土。
- 6 茶褐色土 砂粒を含む。
- 7 暗褐色土 砂礫、炭化物、焼土を含む。
- 8 暗褐色土 炭化物を含む。



第287図 85号住居跡出土遺物(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



第288図 85号住居跡出土遺物(2)

85号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
85住-1	須恵器 埴	埋土 口-底2/3	口(13.0)、底6.2、高3.5	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
85住-2	須恵器 埴	埋土 口-底1/3	口(14.0)、底7.4、高5.0	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で。高台部貼付。
85住-3	須恵器 埴	埋土 口-底1/3	口(14.3)、底7.2、高5.4	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
85住-4	須恵器 埴	埋土 口-底1/2	口(13.2)、底6.6、高3.7	①灰黄 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
85住-5	須恵器 皿	埋土 高台部欠	口14.2、高(2.1)	①灰白 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
85住-6	土師器 甕	埋土 口縁部破片	口(17.0)、高(6.2)	①灰褐色 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面撫で。胴部外面磨削り、内面撫で。
85住-7	土師器 甕	竈 掘方 胴-底破片	底7.2、高(7.1)	①にぶい調 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
85住-8	土師器 甕	埋土 口-胴破片	口(18.9)、高(8.6)	①灰黄褐 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・胴部内外面撫で。胴部外面磨削り、内面撫で。
85住-9	土師器 甕	埋土 底部破片	底4.5、高(4.6)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	胴部外面磨削り、内面撫で。底部外面磨削り。

### 86号住居跡 (PL44-45-105)

位置 78-R-12グリッド 床面積 16.5㎡ 主軸方位 N-103°-E

重複 384号土坑に破壊される。112・120号住居跡を掘り込む。12号溝が完全に埋まりきった後に構築されている。

規模と形状 長辺4.12m、短辺3.92m、残存壁高0.25mを測り、南北にやや長い縦長形状を呈する。北西隅を384号土坑によって破壊される。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山(一部112号住居跡埋土)を削り出して平坦面を形成している。竈前から住居中央にかけて、しっかりと硬化面が形づくられていた。住居中央には炉状の焼土・炭化物の溜まり(長径1.4m、短径0.55m)が検出された。

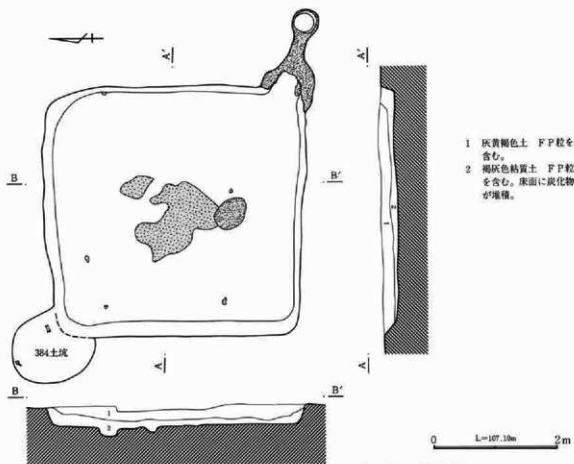
竈跡 東南隅に取り付く。燃焼部・袖とも住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。燃焼部の内壁、外壁、煙道の内側、天井外側、煙出し外縁はよく焼かれて赤色を呈する。袖から燃焼部天井にかけては、自然石、円筒埴輪を組み立てている。焚き口には支脚の石が動かされており、両袖石も原位置からは動かされている。煙道はトンネル状に掘り抜かれており、原状をよく保っている。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

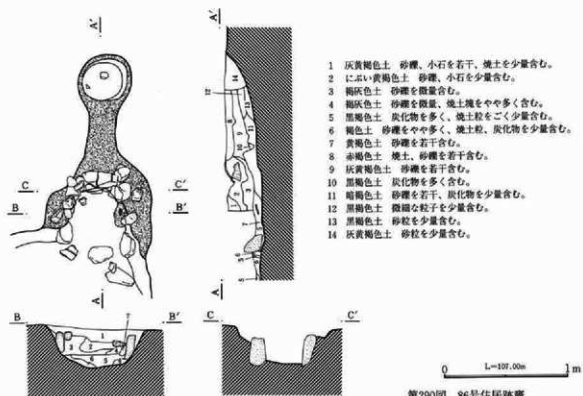
掘り方 床面と掘り方面とがほぼ一致しており、床面下から遺構等は検出されなかった。



第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

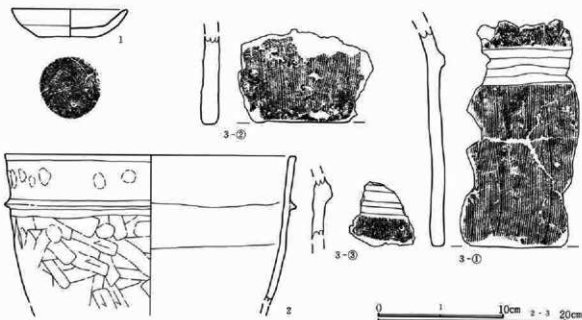


第289図 86号住居跡



第290図 86号住居跡裏

第3章 検出された遺構と遺物



第291図 86号住居跡出土遺物

86号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
86住-1	土師器 坏	埋土 形状 完形	口9.2、底4.7、 高2.2	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多量に含む。	甕罐整形。底部回転糸切り未調整。
86住-2	土師器 甕	埋土 形状 口-割1/2	口(31.0)、高(5.8)	①暗褐 ②やや良好 ③中- 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面撫で。胴部外面磨削り、内面撫で。胴部貼付。頸部外面に指摺圧痕。
86住-3	円筒 埴輪	埋土 形状 底-割破片	長(24.0)、短(2.0)、厚1.4	①にぶい赤褐 ②良好 ③ 中-細砂粒をややく含む。	内面撫で。外面刷毛目。突帯及び突帯上下横撫で。

87号住居跡 (PL45・105・106)

位置 78-O-13グリッド 床面積 11.2㎡ 主軸方位 N-108°-E

重複 1号住居跡に破壊される。94・95・102号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.64m、短辺2.94m、残存壁高0.24mを測り、南北に長い横長形状を呈する。南西隅上面を1号住居跡に掘り込まれる。

埋土 暗褐色土・褐色土をベースとする。

床面 地山（一部95号住居跡埋土）を削り出して平坦面を形成している。竈前から住居中央にかけて硬化面が形成されている。

竈跡 東壁の東北隅寄りに取り付く。上面は削平され、燃焼部と煙道の一部が検出された。燃焼部は地山を削り出してつくられており、内壁及び奥壁には構築材の自然石が据え付けられている。また奥壁の煙道取り付き部分にも自然石が据え付けられている。燃焼部内壁はあまり焼けてはいない。

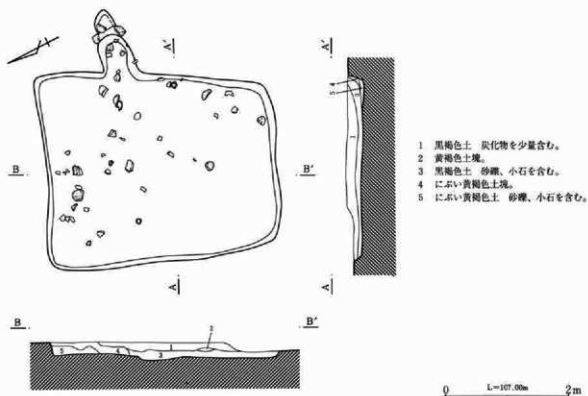
柱穴 なし

貯蔵穴 なし

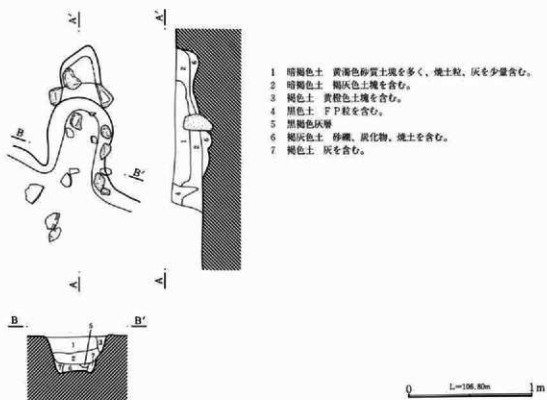
壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

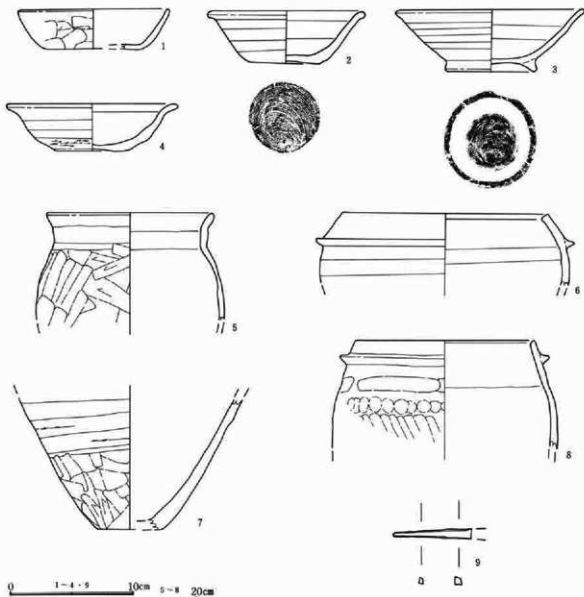


第292図 87号住居跡



第293図 87号住居跡廬

第3章 検出された遺構と遺物



第294図 87号住居跡出土遺物

87号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
87住-1	土師器 坏	埋土 口-底破片	口(12.0)、底(7.8)、高3.2	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面削り、内面撫で。
87住-2	須恵器 坏	埋土 ほぼ完形	口12.6、底5.8、高4.2	①灰黄 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤製形。底部回転糸切り未調整。
87住-3	須恵器 瓶	埋土 口-底1/3	口(15.0)、底7.3、高5.0	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤製形。底部回転糸切り未調整、高合部貼付。
87住-4	須恵器 坏	埋土 口-底1/4	口(13.6)、底5.8、高3.7	①灰黄緑 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	轆轤製形。底部回転糸切り未調整。
87住-5	土師器 甕	埋土 口-割破片	口(17.9)、高(1.4)	①暗褐 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	口縁部内外面横溝で、胴部外面削り、内面撫で。

87住-6	土師器 羽 釜	埋 土 口-胴破片	口(22.0)、高(7.4)	①にふい粉 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	横軸整形、肩部貼付。
87住-7	土師器 壺 胴-底破片	埋 土	底(6.4)、高(13.9)	①にふい粉 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	胴部外面中位横溝で、下位-底部艶削り、内面撫で。
87住-8	土師器 羽 釜	埋 土 口-体破片	口(19.2)、高(1.4)	①にふい黄粉 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・肩部内外面横撫で。胴部外面上位横溝で、中位艶削り、内面撫で。
87住-9	釘	埋 土	長(6.3)、厚0.15-0.6、重4g		頭部欠損。

## 88号住居跡 (PL45・106・111)

位置 78-N-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-8°-E

重複 89・90号住居跡に破壊される。115号住居跡を掘り込む。

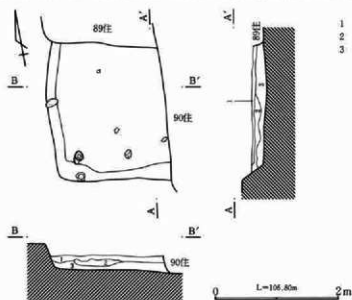
規模と形状 測定不能、残存壁高0.24mを測る。89号住居跡に北側大部分を、90号住居跡に東側大部分を破壊されており、住居跡の南西隅の1/4もしくは1/5程度が残っているにすぎない。

埋土 褐色土、にふい赤褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。残存面積が少なく、不明確。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 床面と掘り方面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。



第295図 88号住居跡

- 1 褐色土 夾雑物を殆ど含まない均質な土。
- 2 にふい赤褐色土 F P粒を少量含む。
- 3 にふい赤褐色土 焼土、炭化物を少量含む。



第296図 88号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

88号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
88住-1	土師器 坏	埋土 口~底2/5	口(11.7)、底7.1、高3.4	①澄 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横溝で。体部~底部外面彫り、内面撫で。
88住-2	須恵器 Ⅲ	埋土 定形	口12.8、底7.0、高2.7	①黄灰 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
88住-3	須恵器 Ⅲ	埋土 ほぼ完形	口13.6、底8.5、高2.7	①灰 ②やや良好 ③中~細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
88住-4	須恵器 Ⅲ	埋土 口~底3/4	口13.9、底8.2、高2.9	①灰 ②やや良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
88住-5	須恵器 Ⅲ	埋土 口~底4/5	口(13.6)、底7.2、高2.6	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
88住-6	頁岩製碁石	埋土	長2.0、厚1.0、重3g	①黒	

89号住居跡 (PL45・106)

位置 78-M-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-12°-E

重複 85・90号住居跡、7・9号溝に破壊される。88・90号住居跡を掘り込む。

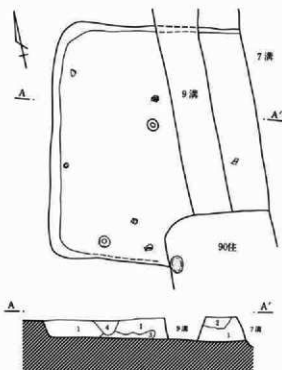
規模と形状 測定不能、残存壁高0.3mを測る。東側を7号溝・85号住居跡に、南側を90号住居跡に、中央部を9号溝に破壊されており、原形は不明である。

埋土 にぶい黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

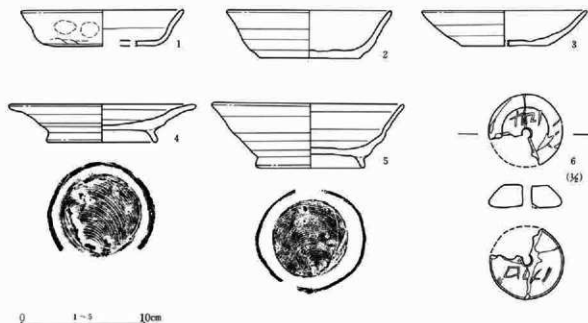
竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 床面と掘り方面とがほぼ一致しており、床面下の遺構等は検出されなかった。



- 1 暗褐色土 黄褐色砂質壤が入る。軽石が多い。
- 2 黒褐色土 近世畑の削跡。軽石とA+B、Aを全体に含む。
- 3 暗黒褐色粘性土 全体に均質。灰、焼土を混入。
- 4 暗褐色土 攪拌によるらしい焼土を多く含む。焼土は竈に伴うらしいが、灰や灰は不明瞭。

第297図 89号住居跡



第298図 89号住居跡出土遺物

89号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
89住-1	土師器 坏	土 口-底破片	口(13.0)、底(9.6)、高2.8	①赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横溝で、体部内外面撫で、外面に指頭圧痕付着。底部外面丸削り、内面撫で。
89住-2	須恵器 坏	土 口-底1/6	口(13.2)、底6.0、高3.8	①灰白 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	横壁整形。底部回転赤削り未調整。
89住-3	須恵器 坏	土 口-底1/5	口(13.0)、底(7.2)、高2.8	①暗灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	横壁整形。底部回転赤削り。
89住-4	須恵器 皿	土 口-底3/4	口14.8、底6.8、高3.0	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	横壁整形。底部回転赤削り未調整、高台部貼付。
89住-5	須恵器 碗	土 ほぼ完形	口15.3、底6.7、高5.1	①灰 ②良好 ③堅緻	横壁整形。底部回転赤削り未調整、高台部貼付。
89住-6	土師器 特 鍾車	土 3/4	径4.0、孔径0.5 厚1.2	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を含む。	上・下面両面に刻書(焼成後)、「加口」の刻書。

## 90号住居跡 (PL45-106-107)

位置 78-M-14グリッド 床面積 9m<sup>2</sup> 主軸方位 N-97°-E

重埋 83・84・85・89号住居跡に破壊され、88号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.36m、短辺2.53m、残存壁高0.04mを測り、南北に長い横長方形を呈する。83・84・85・89号住居跡に上面を破壊され、残存状態は極めて悪く、掘り込みは4cm程度確認できたにすぎない。

埋土 暗褐色土

床面 地山を削り出して床面を形成している。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。厚さ3~4cm分しか検出できず、U字形の燃焼部のプランが検出できたにすぎない。

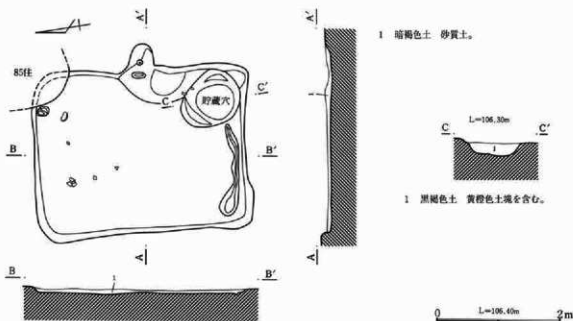
柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1m、短径0.8m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

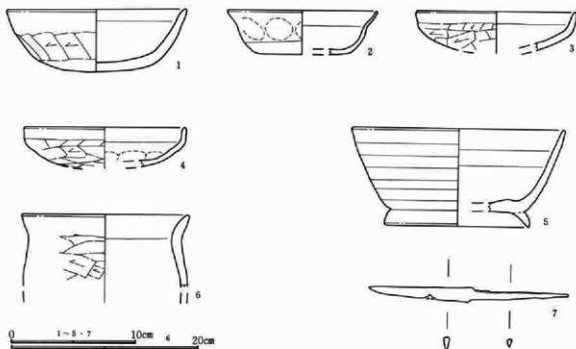
壁下周溝 南壁際でのみ検出された。幅5~15cm、深さ3cm程度。

掘り方 床面と掘り方向とがほぼ一致し、床面下から遺構等は検出されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



第299図 90号住居跡



第300図 90号住居跡出土遺物

90号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
90住-1	土師器 坏	残	口径14.4、底8.2、 高5.0	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面撫で。
90住-2	土師器 坏	残	口径(12.0)、底(7.8)、高3.5	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多量に含む。	口縁部-体部外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。
90住-3	土師器 坏	残	口径(12.7)、高(3.1)	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面撫で。



90住-4	土師器 坏	埋 土 口-底1/3 .2)	口(12.7)、高(3	①明赤釉 ②やや良好 ③ 中-粗砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面撫で。
90住-5	須恵器 碗	埋 土 口-底破片	口(17.0)、底(1 1.6)、高7.7	①灰 ②良好 ③中-粗砂 粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
90住-6	土師器 甕	埋 土 口-割破片	口(18.0)、高(7	①明赤釉 ②良好 ③中- 細砂粒を若干含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面磨削り、内面撫で。
90住-7	刀子	埋 土	長16.0、刃部長8.0、茎部長8.0、刃部幅0.7 -1.1、茎部幅0.15-0.7、刃部厚0.05、棟厚 0.2-0.45、茎部厚0.4、重10g		完存。

## 94号住居跡 (PLA5・46・107)

位置 78-O-14グリッド 床面積 18.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-93°-E

重複 1・78・79・87・98号住居跡に掘り込まれる。95・100・103・105号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.78m、短辺3.8m、残存壁高0.19mを測り、南北に長い縦長長方形を呈する。

埋土 褐色土をベースとする。

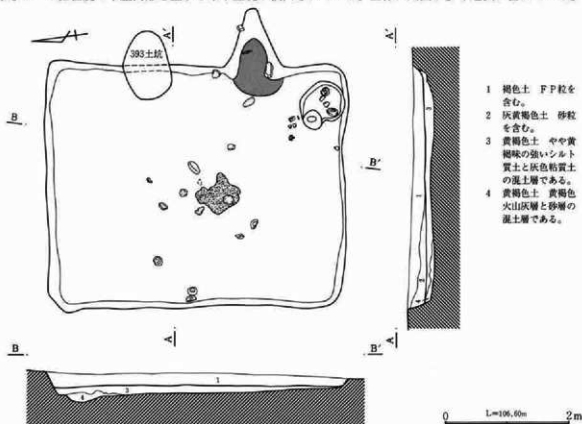
床面 黄褐色土を5-15cmの厚さで貼って平坦面を形成している。竈前から住居中央にかけて硬化しており、住居中央には径70cmの炉状の焼土の溜りが検出された。

竈跡 東壁の南東隅寄りに取り付く。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

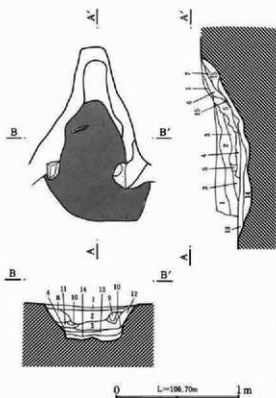
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.7m、短径0.65m、深さ0.03mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 住居中央から北東隅にかけて特に深く掘り込まれている。また中央よりやや南寄りには径1.2m、深さ3-4cm程度の不整形円形を呈する床下土坑が検出されている。全体に凹凸が多く起伏に富んでいる。



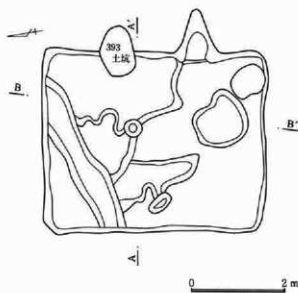
第301図 94号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

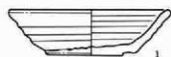


第302図 94号住居跡竈

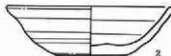
- 1 褐灰色土 F P粒をやや多く、炭化物を少量含む。
- 2 にい黄褐色土 F P粒、焼土、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 4 黒色土 灰と炭化物の互層。
- 5 明赤褐色土 焼土塊。
- 6 にい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 7 明黄褐色土 砂質土塊。
- 8 褐灰色土 F P粒、炭化物を少量含む。
- 9 灰褐色土 焼土、炭化物、灰を含む。
- 10 灰褐色土 炭化物、灰を含む。
- 11 黒色土 灰をやや多く含む。
- 12 褐色土 焼土、炭化物、F P粒を含む。
- 13 黒色土 炭化物層、灰、焼土を少量含む。
- 14 にい褐色土 F P粒、炭化物を含む。
- 15 にい褐色土 黄褐色粘土層を含む。



第303図 94号住居跡掘り方



1



2



3

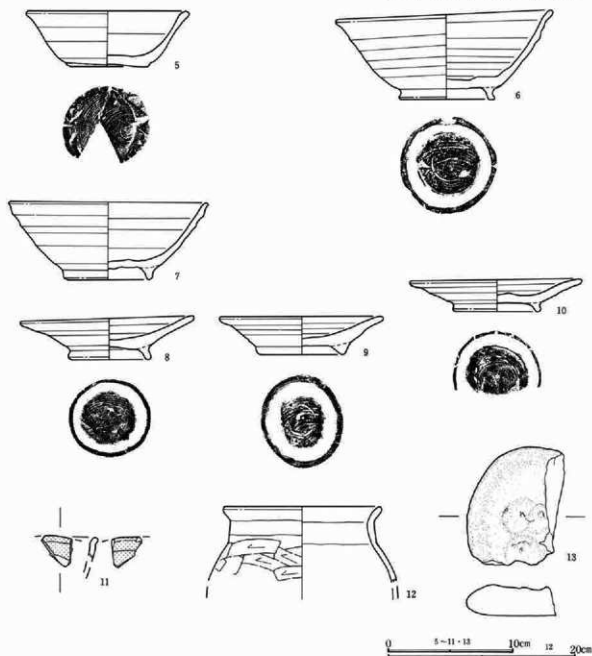


4



0 10cm

第304図 94号住居跡出土遺物(1)



第305図 94号住居跡出土遺物(2)

94号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
94住-1	須恵器 钵	底土 完形	口13.0、底7.3、 高3.6	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
94住-2	須恵器 钵	底土 口-底4/5	口13.3、底5.8、 高3.9	①オープン灰 ②良好 ③ 中-細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
94住-3	須恵器 钵	底土 口-底3/4	口12.8、底6.2、 高3.8	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
94住-4	須恵器 钵	底土 口-底1/2	口(13.2)、底6. 7、高3.8	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
94住-5	須恵器 钵	底土 口-底1/2	口(13.0)、底6. 4、高4.3	①にふい黄橙 ②やや不良 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

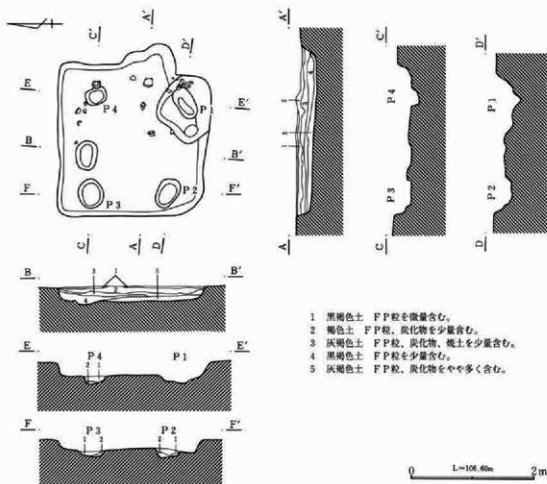
第3章 検出された遺構と遺物

94住-6	須恵器 埴 口-底4/5	埋 土 口17.3、底7.6、 高7.0	①灰 ②良好 ③粗-細砂 粒をやや多く含む。	楕圓形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
94住-7	須恵器 埴 口-底1/5	埋 土 口(15.8)、底7. 0、高6.1	①灰白 ②良好 ③中-細 砂粒を多く含む。	楕圓形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
94住-8	須恵器 皿 ほぼ完形	埋 土 口13.9、底6.6、 高3.4	①灰 ②良好 ③粗-細砂 粒を若干含む。	楕圓形。底部回転糸切り後捨て、高台部貼付。
94住-9	須恵器 皿 完形	埋 土 口13.2、底6.8、 高3.0	①灰 ②やや良好 ③中- 細砂粒を多く含む。	楕圓形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
94住-10	須恵器 皿 口-底3/5	埋 土 口13.7、底6.9、 高2.6	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	楕圓形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
94住-11	緑釉陶器 施	埋 土 口縁破片 長(2.3)、短(2. 2)、厚0.5	①オリーブ灰 ②良好 ③ 堅緻	楕圓形。輪はかなり剥離している。
94住-12	土師器 甕 口-銅破片	埋 土 口(17.0)、高(7. .9)	①場 ②やや良好 ③中- 細砂粒を若干含む。	口縁部内外面擦壊。胴部外面剝離、内面擦で。
94住-13	安山岩製西 み石	埋 土 長(9.4)、短(7. 7)、厚2.4	①灰	自然石(川原石)利用。凹みは表面、ほぼ中央に3 ヶ所。

95号住居跡 (PL46-107)

位置 78-O-13グリッド 床面積 5.7m<sup>2</sup> 主軸方位 N-100°-E

重複 1・87・94号住居跡に掘り込まれる。



第306図 95号住居跡

**規模と形状** 長辺2.38m、短辺2.38m、残存壁高0.17mを測り、ほぼ正方形形状を呈する。上面を87号住居跡に掘り込まれ、また北辺には94号住居跡に破壊される。

**埋土** 褐色土、褐色灰土をベースとし、F P粒を少量含む。

**床面** 地山を削り出して平坦面を形成している。

**竈跡** 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面を87号住居跡に掘り込まれて削平されているので、八字形の燃焼部プランのみ検出された。燃焼部は地山を削り出してつくられているが、北壁・袖がやや大きく広がる。南袖には現位置に袖石が残る。

**柱穴**

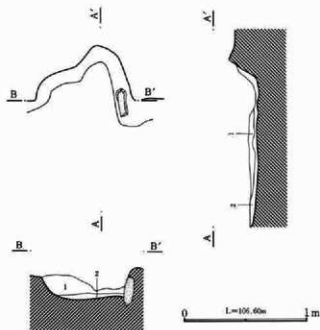
規模 NO1長径0.5m、短径0.25m、深さ0.14m NO2長径0.5m、短径0.34m、深さ0.15m

NO3長径0.45m、短径0.4m、深さ0.1m NO4長径0.35m、短径0.25m、深さ0.12m

**貯蔵穴** 南東隅に位置し、規模は長径0.95m、短径0.6m、深さ0.02mを測り、形状は楕円形を呈する。

**壁下周溝** なし

**掘り方** 床面と掘り方面とがほぼ一致し、床面下の遺構等は検出されなかった。



- 1 黒色土 炭化物、灰燼。
- 2 褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。



第307図 95号住居跡竈



第308図 95号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

95号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
95住-1	須恵器 坏	埋土 口~底4/5	口12.6、底5.9、 高3.5	①灰白 ②良好 ③中一 細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転余切り未調整。
95住-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/2	口(12.0)、底(5 .5)、高3.0	①灰 ②やや良好 ③中一 細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転余切り未調整。
95住-3	須恵器 坏	埋土 口~底3/5	口14.8、底7.2、 高5.0	①灰白 ②良好 ③中一 細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転余切り後撤で。高台部貼付。
95住-4	土師器 甕	埋土 口縁破片	口(18.0)、高(5 .2)	①明赤褐色 ②良好 ③中一 細砂粒をやや多く含む。	口縁部・胴部内外面撫で。胴部外周隅取り、内面撫 で。

97号住居跡 (PL47)

位置 78-O-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-100°-E

重複 69・70号住居跡に破壊される。99号住居跡を掘り込む。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.22mを測る。上面を69号住居跡によって掘り込まれ、西側大部分を70号住居跡によって破壊されており、東辺と北辺のごく一部と竈・燃焼部のプランのみ検出された。

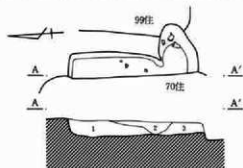
埋土 黒褐色土をベースとし、F P粒、炭化物を含む。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 東壁に取り付く。上面は削平され、燃焼部の口字形のプランのみ検出された。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出して形成される。北袖は小さく住居内に張り出し、南袖は西側住居内に大きく張り出すが、70号住居に破壊されているので、全体の形状は不明確である。

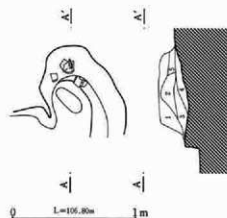
柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 検出範囲では床面と掘り方面とがほぼ一致しており、床面下から遺構等は検出されなかった。



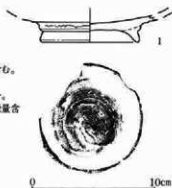
- 1 黒褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土 F P粒、炭化物を少量、焼土を微量含む。
- 3 黒褐色土 F P粒、炭化物を多く含む。

第309図 97号住居跡



第310図 97号住居跡竈

- 1 黒褐色土 F P粒をごく少量含む。
- 2 黒褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 F P粒を少量含む。
- 4 褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 5 褐色土 F P粒、焼土、炭化物を微量含む。



第311図 97号住居跡出土遺物

## 97号住居遺物観察表

番 号	部 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
97住-1	須恵器 甕	床面 直上 底部破片	底8.0、高(1.9)	①オリーブ黒 ②やや不良 ③中一細砂粒を少量含む。	轆轤雙形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

## 98号住居跡 (PL47・107・108)

位置 78-N-14グリッド 床面積 10.8㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 69・78・79・94号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺3.62m、短辺2.87m、残存壁高0.21mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈する。北半上面を69号住居跡に、南西隅上面を78号住居跡に、南側1/4上面を79号住居跡に、南西隅を94号住居跡にそれぞれ破壊されている。

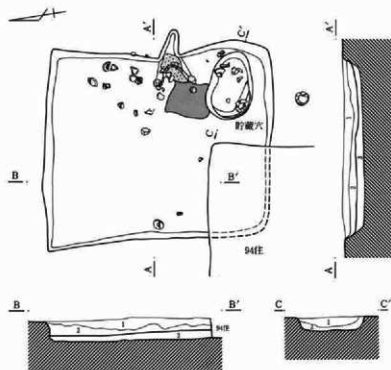
埋土 暗褐色土、灰褐色土をベースとする。

床面 褐色土を9-14cm貼って平坦面をつくっている。

竈跡 東壁中央に取り付く。袖・燃焼部・煙道とも地山を削り出してつくられている。袖は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側につくられる。両袖の先端には加工した砂岩による袖石が据え付けられており、煙道は、燃焼部奥壁から緩やかに立ち上がる。燃焼部内壁はよく焼けており、燃焼部内には焼土・炭化物の堆積がみられる。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。



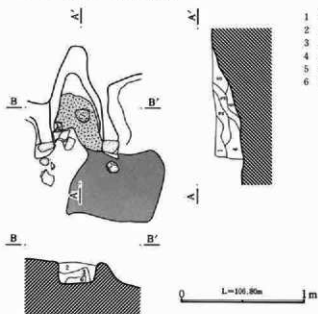
掘り方 床面より9-14cm深くなる。竈前から住居中央東半部にかけてとくに深く掘り進められている。竈前には径10-60cmの床下のピット状の掘り込みが検出された。

- 1 暗褐色土 F P粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 灰褐色土 砂礫、炭化物をやや多く含む。
- 3 褐色土 F P粒、炭化物をごく少量含む。

- 1 暗褐色土 炭化物を少量、F P粒をごく少量含む。
- 2 褐色土 F P粒をごく少量含む。

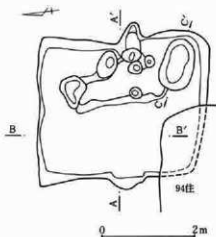
第312図 98号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

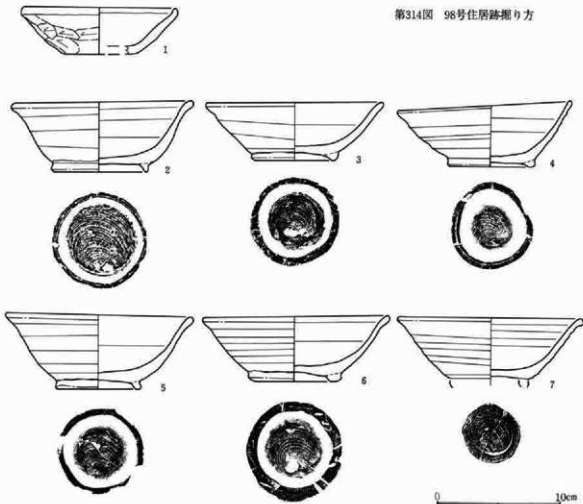


第313図 98号住居跡壘

- 1 褐色土 炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物、焼土粒、F P粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 F P粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 F P粒、焼土を微量含む。
- 5 明褐色土 焼土塊。
- 6 褐色土 F P粒を少量含む。



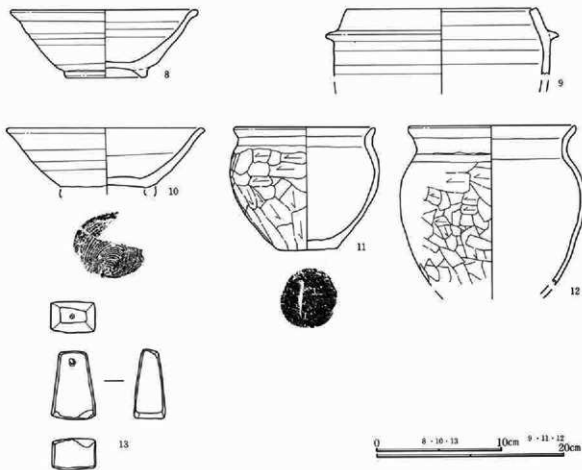
第314図 98号住居跡掘り方



第315図 98号住居跡出土遺物(1)



第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第316図 98号住居跡出土遺物(2)

98号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
98住-1	土師器 坏	床面直上 口-底1/4	口(12.5)、底(6.0)、高3.7	①赤褐 ②やや良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面磨削り、内面撫で。
98住-2	須恵器 魂	埋 土 完 形	口14.6、底7.5、高5.6	①灰黄 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-3	須恵器 魂	埋 土 完 形	口14.2、底6.8、高4.7	①灰白 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-4	須恵器 魂	埋 土 完 形	口14.0、底7.0、高5.5	①灰白 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-5	須恵器 魂	埋 土 口縁一部欠	口15.0、底6.8、高6.0	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-6	須恵器 魂	埋 土 口縁一部欠	口15.0、底7.5、高5.3	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-7	須恵器 魂	埋 土 高台部欠損	口14.8、高(4.8)	①灰白 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付痕あり。
98住-8	須恵器 魂	埋 土 口-底1/3	口(15.0)、底6.5、高5.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
98住-9	土師器 羽釜	埋 土 口縁部破片	口(20.2)、高(6.9)	①にぶい褐 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。肩部貼付、断面は三角形を呈する。
98住-10	須恵器 魂	埋 土 高台部欠	口15.8、高4.6	①灰黄 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。軽い。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付痕あり。
98住-11	土師器 甕	貯蔵穴内 ほぼ完形	口15.0、底6.5、高13.0	①赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横溝で、胴部-底部外面磨削り内面撫で。
98住-12	土師器 甕	埋 土 口-胴3/4	口17.8、高(16.8)	①にぶい褐 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部・頸部内外面横溝で、胴部外面磨削り、内面撫で。

第3章 検出された遺構と遺物

98住-13	灰沢石製餅	埋 完	土 形	長6.4、短3.5、 厚2.5、重55g	①浅黄	頂部から表面にかけて穿孔。六面整形。
--------	-------	--------	--------	-------------------------	-----	--------------------

99号住居跡 (PL48・108・111)

位置 78-N-15グリッド 床面積 8.1m<sup>2</sup> 軸方位 N-96°-E

重複 69・97号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長辺3.13m、短辺2.57m、残存壁高0.34mを測り、南北にやや長い縦長形状を呈する。上面は削平されており、残存状態は悪い。

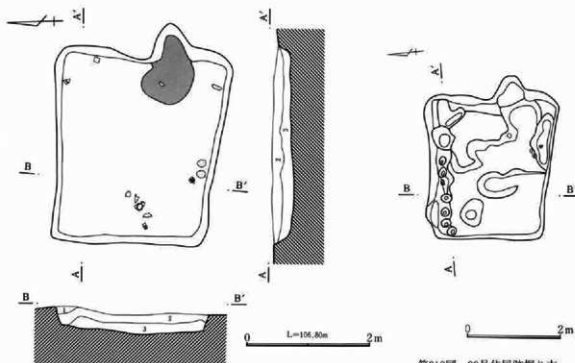
埋土 暗褐色土・灰褐色土をベースとする。

床面 灰褐色土を2～5cm前後貼って平坦面を形成している。硬化面はあまりはっきりとしていない。

竈跡 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面は削平されており、燃烧部の冑字形のプランのみ検出された。燃烧部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。燃烧部内壁は若干焼けており、燃烧部内には焼土塊が堆積している。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

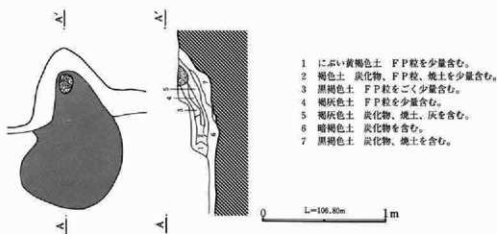
掘り方 竈前から住居中央、東壁にかけて一段深く掘り進められている。また、北壁際には径10～20cm内外の小ビット状の掘り込みが並ぶが、浅く、柱を据えつけたような痕跡とは考えられない。全体に起伏が甚だしく、凹凸に富む。



第318図 99号住居跡掘り方

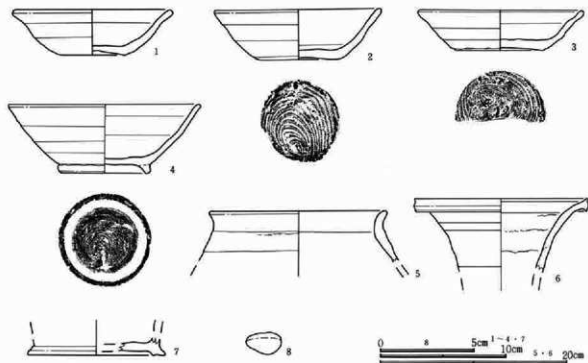
- 1 黒褐色土 F P粒、白色砂質土を少量含む。
- 2 暗褐色土 F P粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 灰褐色土 F P粒をやや多く、炭化物を微量含む。

第317図 99号住居跡



- 1 にぶい黄褐色土 F P粒を少量含む。
- 2 褐色土 炭化物、F P粒、焼土を少量含む。
- 3 黒褐色土 F P粒をごく少量含む。
- 4 褐色土 F P粒を少量含む。
- 5 褐色土 炭化物、焼土、灰を含む。
- 6 暗褐色土 炭化物を含む。
- 7 黒褐色土 炭化物、焼土を含む。

第319図 99号住居跡窟



第320図 99号住居跡出土遺物

99号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・変形の特徴
99住-1	須恵器 坏	埋 土 口一底1/4	□(12.8)、底5.0、高3.6	①褐灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
99住-2	須恵器 坏	埋 土 口一底1/4	□(13.4)、底6.8、高4.0	①灰 ②やや良好 ③中一細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
99住-3	須恵器 坏	埋 土 口一底1/3	□(13.2)、底7.0、高3.2	①灰 ②良好 ③緊緻	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
99住-4	須恵器 坏	埋 土 口一底1/3	□15.3、底7.4、高5.5	①灰白 ②やや良好 ③中一細砂粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
99住-5	土師器 甕	埋 土 口縁部破片	□(19.0)、高(5.2)	①にぶい赤褐色 ②やや良好 ③中一細砂粒を少量含む。	口縁部一頸部内外面撫で。

### 第3章 検出された遺構と遺物

99住-6	須恵器 長頸壺	埋土 口-頸破片	口(18.6)、高(7.8)	①灰黄 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。
99住-7	須恵器 壺	埋土 底部破片	底(11.0)、高(1.2)	①灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
99住-8	石英製砂石	埋土	長1.9、厚1.1、重2g	①白	

#### 100号住居跡 (PL48-108)

位置 78-O-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-7°-E

重複 78・94号住居跡に破壊される。

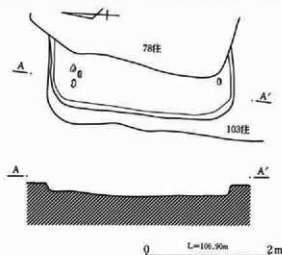
規模と形状 北辺2.94m、残存壁高0.16mを測る。大部分を94号住居跡に破壊されており、原形は全く不明である。

埋土 暗褐色土をベースとする。

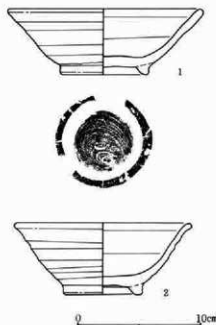
床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 検出範囲内では床面と掘り方面とが一致している。



第321図 100号住居跡



第322図 100号住居跡出土遺物

#### 100号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・変形の特徴
100住-1	須恵器 壺	埋土 口-底3/4	口(15.6)、底7.1、高5.2	①灰黄 ②不良 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
100住-2	須恵器 壺	埋土 口-底1/3	口(14.2)、底6.4、高5.7	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

#### 101号住居跡 (PL42)

位置 78-N-17グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-11°-E

重複 72号住居跡に破壊される。

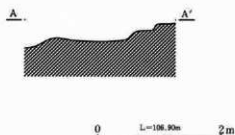
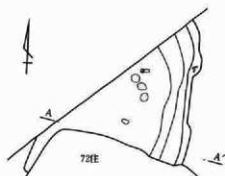
規模と形状 測定不能、残存壁高0.24mを測る。大部分が調査区域外に出てしまう上、南側を72号住居跡に、中央を96号住居跡に破壊されているため、原形は全く不明である。

埋土 暗褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 検出範囲内では掘り方面と床面とは一致している。



第323図 101号住居跡

## 103号住居跡 (PL48-108)

位置 78-O-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-124°-E

重複 1・78・94・100号住居跡

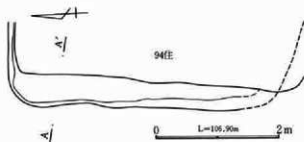
規模と形状 測定不能、残存壁高0.1mを測る。94・100号住居跡に大部分を破壊されており、西辺と北辺のごく一部のみ残る。原形は全く不明である。

埋土 にぶい黄褐色土をベースとする。

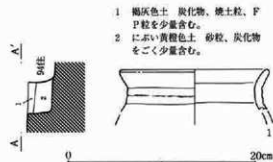
床面 地山を削り出して、平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 検出範囲内では、床面と掘り方面とが一致している。



第324図 103号住居跡



第325図 103号住居跡出土遺物

## 103号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
103住-1	土師器 甕	埋土 口縁部破片	口(16.0)、高(4.5)		①赤褐 ②良好 ③細砂粒を含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。

第3章 検出された遺構と遺物

105号住居跡 (PL48-108-109)

位置 78-O-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-94°-E

重複 70・78・100・103号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 南長辺3.04m、短辺測定不能、残存壁高0.14mを測る。南側を78・100・103号住居跡に、北側を105号住居跡に破壊されており、住居の南西隅と中央部竈前の一部が検出された程度である。

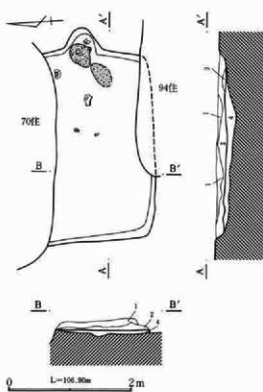
埋土 暗褐色土・褐色土をベースとする。

床面 暗褐色土を5~15cm貼って平坦面を形成している。竈前は硬化している。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。上面は削平され口字形の燃焼部のプランのみ検出された。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられている。燃焼部内には、焼土・炭化物の堆積がみられるが、燃焼部内壁はほとんど焼けていない。焚き口の部分は5~10cmほど円形に掘り窪められている。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

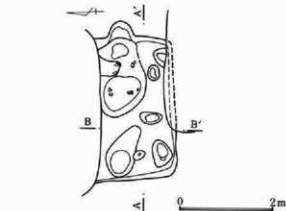
掘り方 竈前・住居中央、南東隅付近、南西隅付近に床下の土坑状の掘り込みがあるが、深さは10cm内外でそれほど深くはない。全体的には凹凸が多く、起伏に富んでいる。



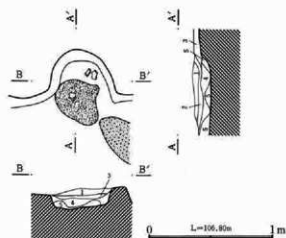
第326図 105号住居跡

- 1 暗褐色土 炭化物、焼土、F P粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物を少量、焼土、灰をごく少量含む。
- 3 によい褐色土 F P粒を少量含む。
- 4 褐色土 炭化物、焼土、灰を少量含む。
- 5 褐色土 F P粒をごく少量含む。

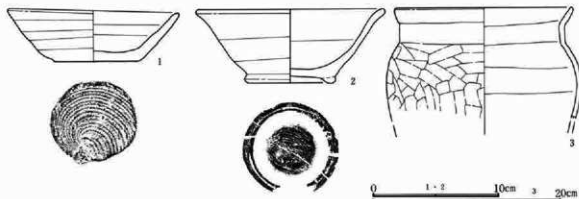
- 1 暗褐色土 F P粒、炭化物、焼土を少量含む。
- 2 褐色土 F P粒、焼土粒を少量含む。
- 3 によい褐色土 F P粒をごく少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化物をやや多く、焼土粒、F P粒を少量含む。



第327図 105号住居跡掘り方



第328図 105号住居跡竈



第329図 105号住居跡出土遺物

## 105号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
105住-1	須恵器 坏	埋 土 口縁一部欠	□13.7、高6.8、 高4.2	①灰白 ②良好 ③中～粗 砂粒を若干含む。	輪軸整形。底部回転糸切り未調整。
105住-2	須恵器 柄	埋 土 口～底1/2	□(15.2)、底7. 2、高5.8	①陶灰 ②良好 ③中～粗 砂粒をややく含む。	輪軸整形。底部回転糸切り、高台部貼付後焼。
105住-3	土師器 甕	埋 土 口～胴上1/3	□(19.0)、高(1 1.9)	①橙 ②良好 ③中～粗砂 粒を若干含む。	口縁部・頸部内外面横溝で。胴部外面施刷り、内面 撫で。

## 106号住居跡 (PL109)

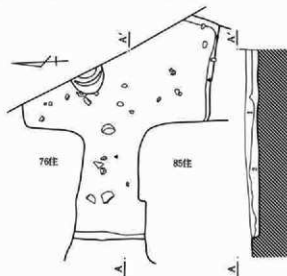
位置 78-M-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-106°-E

重複 76・85号住居跡に破壊され、84号住居跡を掘り込む。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.21mを測る。北東1/5が調査区外に出る上、南西隅を85号住居跡に破壊され、北西隅を76号住居跡に破壊されているため、原形は不明である。

埋土 暗褐色土・黒褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。硬化面はあまり明確ではない。



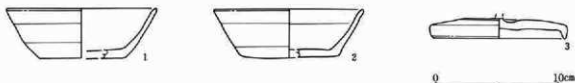
竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出  
壁下周溝 未検出

掘り方 検出範囲内では床面と掘り方面とは一致し、  
床面下の遺構等は検出されなかった。

- 1 暗褐色土 F P粒、灰褐色土塊、炭化物を斑状に含む。  
2 黒褐色土 砂粒、小石を含む。

第330図 106号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第331図 106号住居跡出土遺物

106号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 形 状 の 特 徴
106住-1	須恵器 坏	埋 土 口~底1/3	口(12.0)、底(6.8)、高4.0	①灰 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
106住-2	須恵器 坏	埋 土 口~底1/2	口(12.0)、底(6.0)、高3.8	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸削り。
106住-3	須恵器 蓋	埋 土 天~端1/2	径(10.6)、高(1.5)	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む。	轆轤整形。つまみ部欠損。

107号住居跡 (PL48)

位置 79-H-18グリッド 床面積 12.2㎡ 主軸方位 N-96°-E

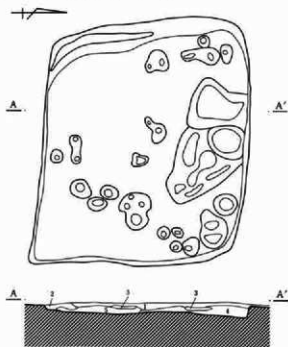
重複 10・18・20・50・60・61号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺3.85m、短辺3.3m、残存壁高0.13mを測り、東西に長い長方形を呈する。

上面を10・18・20・50・60・61号住居跡に破壊されており、掘り方のみ検出された。竈も完全に破壊されており、位置も不明である。

埋土 褐灰色土が貼床として貼られている。

掘り方 住居中央北壁寄りやや深く掘り窪められている他、径10~30cm前後の浅いビット状の掘り込みが多くみられ、起伏に富んでいる。



- 1 灰黄褐色土 砂礫、FA粒を若干含む。
- 2 褐灰色土 砂礫を若干含む。
- 3 褐灰色土 FA塊を多く、砂礫、小石を若干含む。
- 4 褐灰色土 FA塊、砂礫、小石、FP粒などをモザイク状に多量に含む。
- 5 濃い黄褐色土 FA塊。

第332図 107号住居跡



## 108号住居跡 (PL49-109)

位置 79-G-19グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-104°-E

重複 16・60号住居跡に破壊される。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.3mを測る。東辺と北辺とが調査区外に出る上、南側上面を32号住居跡に破壊され、南西隅を60号住居跡に破壊されており、原形は不明である。

埋土 褐灰色土・灰黄褐色土・にぶい黄褐色土をベースとする。

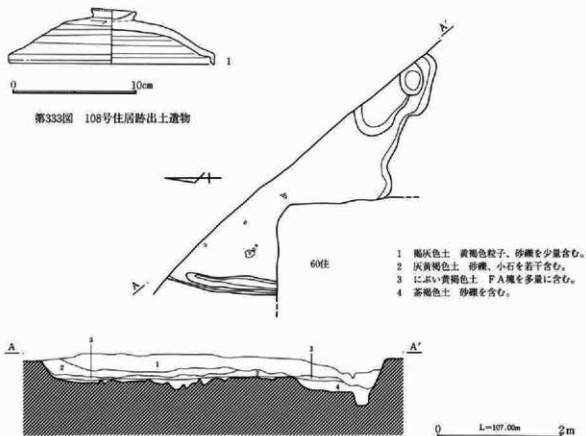
床面 茶褐色土を3~15cm貼って平坦面を形成している。調査範囲内では硬化部分は明瞭ではない。

竈跡 未検出 柱穴 なし

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.35m、短径測定不能、深さ0.11mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 西辺の一部にて検出された。幅10cm、深さ4~5cm。

掘り方 床面より3~15cm下になる。若干凹凸がみられるが、床下土坑等は調査範囲内では検出されていない。



第333図 108号住居跡出土遺物

第334図 108号住居跡

## 108号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
108住-1	須恵器 蓋	埋土 天-地3/4	径(16.4)、つまみ径3.6、高4.3	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	輪縁整形。つまみ部周囲転削あり、つまみ部貼付

第3章 検出された遺構と遺物

109号住居跡 (PL49-109)

位置 79-G-13グリッド 床面積 4.9m<sup>2</sup> 主軸方位 N-99°-E

重複 なし

規模と形状 長辺2.44m、短辺1.93m、残存壁高0.05mを測り、南北に長い横長形状を呈する。上面はかなり削平され、掘り方のみが検出された。

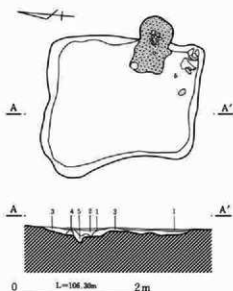
埋土 におい黄褐色土・におい橙色土をベースとするが、これらは貼床土である。

床面 灰黄褐色土・におい黄褐色土・におい橙色土・褐灰色土を貼っている。検出された埋土はすべて貼床の土とみてよい。

竈跡 東壁のやや東南隅寄りに取り付く。上面は著しく削平され、燃焼部・焚き口の平面プランが炭化物等の堆積により辛うじて検出されたにすぎない。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられていたようである。

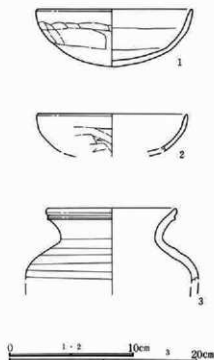
柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 比較的平坦であるが、若干凹凸がある。



- 1 灰黄褐色土 砂礫を含む。
- 2 におい黄褐色土 シルト質土、灰黄褐色土塊を含む。
- 3 におい橙色土 シルト質土。
- 4 明褐色土 FA塊。
- 5 褐灰色土 砂粒、粘土塊を若干含む。

第335図 109号住居跡



第336図 109号住居跡出土遺物

109号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
109住-1	土師器 坏	床面直上 完 形	口12.5、底1.8、 高4.4	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体～底部外面彫削り、内面撫 で。
109住-2	土師器 坏	床面直上 口～体破片	口(12.0)、高(2 .9)	①におい橙 ②やや良好 ③中～細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横溝で、体部外面彫削り、内面撫で。
109住-3	須恵器 甕	埋 土 口～肩破片	口(14.0)、高(8 .1)	①灰 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	胴縁整形。

## 110号住居跡 (PL49)

位置 78-N-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-11°-E

重複 88・89・98号住居跡に破壊される。

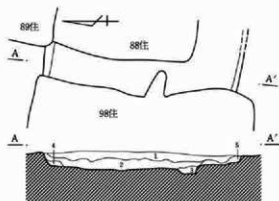
規模と形状 測定不能、残存壁高0.27mを測る。南北西側の大部分を88・98号住居跡に破壊されており、幅50cmほどしか検出できず、原形は全く不明である。

埋土 褐色土をベースとする。

床面 地山を平坦に削り整えて床面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出。

掘り方 掘り方面と床面とはほぼ一致している。



- 1 褐色土 灰白色砂質土粒、軽石を全体に含む。
- 2 褐色土 黄褐色土粒、炭粒をまばらに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒、黄褐色土塊、焼土、炭化物を含む。
- 4 黄褐色土 シルト質細粒土。
- 5 黄褐色土 軽石を含む砂質土。

0 L=106.80m 2m

第337図 110号住居跡

## 111号住居跡

位置 78-M-16グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-15°-W

重複 12号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 長辺測定不能、短辺2.65m、残存壁高0.17mを測る。大部分が調査区域外に出、西辺のみ検出された。

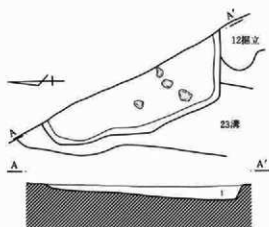
埋土 褐色土。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出。

壁下周溝 未検出

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致している。



- 1 褐色土 炭化物、黄褐色粒子を少量含む。

0 L=106.80m 2m

第338図 111号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

112号住居跡 (PL49)

位置 78-R-12グリッド 床面積 10.1m<sup>2</sup> 主軸方位 N-4°-W

重複 86号住居跡に破壊される。12号溝を掘り込む。

規模と形状 長辺3.56m、短辺2.98m、残存壁高0.07mを測り、南北に長い長方形を呈する。86号住居跡より古く、86号住居構築時に上面を削りとられているため、残存状態は悪い。86号住居跡内にすっぽり入ってしまうので、建て替えとみられそうだが、南辺が86号住居跡南辺よりも外に出るため、建て替えてはいない。埋土 灰黄褐色土をベースとする。

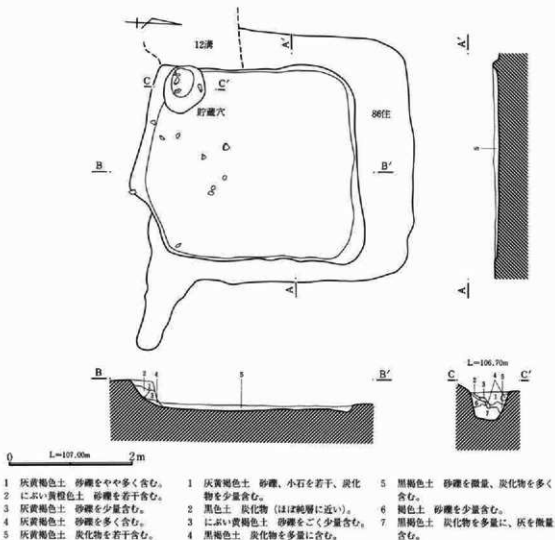
床面 地山を削り出して床面を形成している。住居中央には径70cmの楕円形の炭化物・焼土の溜まりが検出された。

電跡 上面が86号住居跡に破壊されており、検出されなかった。痕跡すら全くない。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

貯蔵穴 南西隅に位置し、規模は長径0.75m、短径0.55m、深さ0.43mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 掘り方面と床面とがほぼ一致している。



第339図 112号住居跡

## 113号住居跡 (PL50-109)

位置 78-M-12グリッド 床面積 (12.5)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-85°-E

重複 12号溝に破壊されている。

規模と形状 長辺(3.7)m、短辺3.44m、残存壁高0.53mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈する。北辺を12号溝に破壊されている。

埋土 非常に細かい土のブロックが斑状に堆積している。人為的に埋められたものとみられる。すなわち本住居跡は掘立柱建物群等よりも古く、官衙造営の際の整地で埋められたものと考えられる。

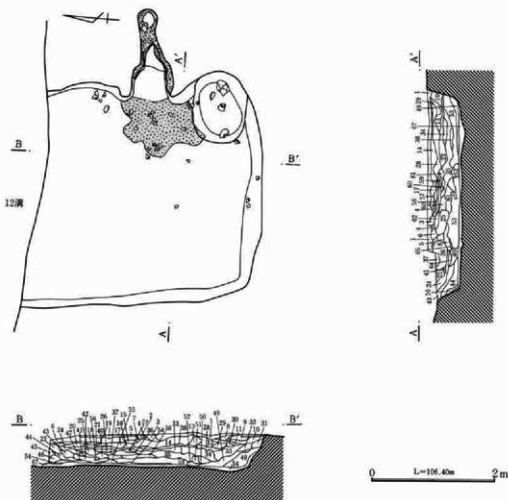
床面 黒褐色土を3~10cm貼って床面を形成している。全体に硬化している。

竈跡 東壁のはば中央に取り付く。袖、燃焼部、煙道は地山を削り出してつくっている。両袖は住居内に少し張り出し、燃焼部の西半分は住居壁の内側に位置する。煙道は燃焼部の奥壁から急に立ち上がり、地山をトンネル状にくりぬいている。燃焼部の内・外壁、煙道の内側および天井の外側はよく焼けており、燃焼部内から竈前にかけてやや広く、焼土及び炭化物の堆積が認められる。

柱穴 なし 壁下周溝 なし

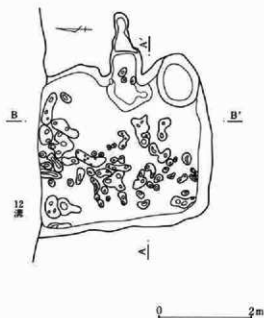
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径1.15m、短径0.85m、深さ0.1mを測り、形状は楕円形を呈する。

掘り方 床面より3~10cm下で、細かい掘り込みがほぼ全域にみられる。浅いが凹凸には富む。

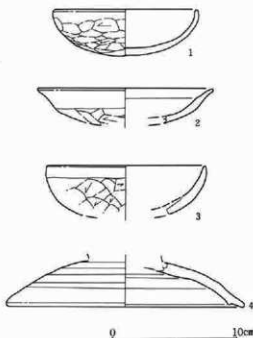


第340図 113号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第341図 113号住居跡掘り方

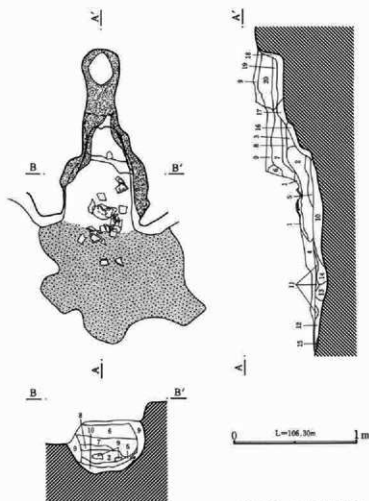


第342図 113号住居跡出土遺物(1)

- 1 灰黄褐色土 砂礫を少量、黄褐色粒子を微量含む。
- 2 明黄褐色土 砂礫を微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 砂礫を微量、黄褐色粒子を若干含む。
- 4 にぶい黄褐色土 砂礫を若干、炭化物塊を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 砂礫を少量、黄褐色微粒子をやや多く含む。
- 6 にぶい黄褐色土 砂礫を少量、黄褐色粒子の微粒子を多く含む。
- 7 灰黄褐色土 砂礫をごく少量含む。
- 8 灰黄褐色土 灰白色シルト粒子をやや多く含む。
- 9 灰黄褐色土 砂礫を若干、黒色土塊を少量含む。
- 10 褐灰色土 砂礫を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を少量、砂礫を少量含む。
- 12 灰黄褐色土 黒褐色土塊、砂礫を少量含む。
- 13 灰黄褐色土 砂礫をやや多く含む。
- 14 灰黄褐色土 砂礫、黒褐色土塊、灰白色シルトの粒子を少量含む。
- 15 灰黄褐色土 砂礫を少量、黄褐色粒子を多く含む。
- 16 にぶい黄褐色土 褐灰色土塊を若干含む。
- 17 褐灰色土 砂礫をごく少量含む、黒色土塊を少量含む。
- 18 灰黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 19 褐灰色土 砂礫を少量、黄褐色粒子を若干含む。
- 20 にぶい黄褐色土 砂礫、黒褐色土塊を少量含む。
- 21 明黄褐色土塊
- 22 褐灰色土 砂礫を微量、黒褐色土塊を若干含む。
- 23 灰白色土 夾雑物をほとんど含まない。安定した土層。硬質。
- 24 灰黄褐色土 砂礫を少量、にぶい黄褐色土塊をモザイク状にかなり多く含む。
- 25 褐灰色土 砂礫、茶褐色粒子を若干含む。
- 26 褐灰色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 27 にぶい黄褐色土塊
- 28 灰黄褐色土 茶褐色粒子を若干含む。
- 29 褐灰色土 黒褐色土塊を若干、砂礫を少量含む。
- 30 褐灰色土 砂礫を微量含む。
- 31 褐灰色土 砂礫を少量含む。

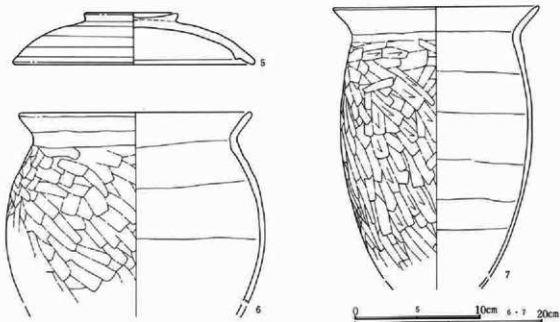
- 32 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 33 灰黄褐色土 黒褐色土塊を若干、黄褐色粒子を多く含む。
- 34 褐灰色土 砂礫を少量、黄褐色及び黒褐色土塊を若干含む。
- 35 黒褐色土 砂礫を少量、茶褐色粒子を若干含む。
- 36 褐灰色土 茶褐色粒子をやや多く、砂礫を若干含む。
- 37 褐灰色土 茶褐色粒子を少量含む。
- 38 褐灰色土 灰白色土塊をごく少量含む。
- 39 灰黄褐色土 灰白色土塊、黒褐色土塊を少量含む。
- 40 褐灰色土 黒褐色土塊をモザイク状に多く含む。
- 41 灰黄褐色土
- 42 褐灰色土 砂礫をごく少量、黒褐色土塊を若干含む。
- 43 褐灰色土 黄褐色及び黒褐色土塊をモザイク状に含む。
- 44 褐灰色土 黄褐色土塊を含む。
- 45 褐灰色土 黒褐色土塊を少量、砂礫を少量含む。
- 46 灰黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 47 にぶい黄褐色土塊
- 48 褐色土 砂礫を微量、黒褐色土塊を少量含む。
- 49 黒褐色土 砂礫を少量含む。
- 50 褐灰色土 砂礫を若干、茶褐色粒子を少量含む。
- 51 にぶい黄褐色土塊
- 52 褐灰色土塊
- 53 褐灰色土 黒褐色土塊を若干含む。
- 54 黒褐色土
- 55 褐灰色土 砂礫を若干含む黒色土。
- 56 褐灰色土塊
- 57 にぶい黄褐色土
- 58 にぶい黄褐色土
- 59 灰黄褐色土
- 60 灰黄褐色土
- 61 黒褐色土
- 62 褐灰色土
- 63 にぶい黄褐色土
- 64 にぶい黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 65 黒褐色土
- 66 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 67 黒褐色土 A-C 軽石を多量に含む。(貼床土)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 1 黒褐色土 砂礫を若干、同大の焼土粒を多量に含む。
- 2 青褐色土 非常に微細な炭化物の純層。
- 3 褐色土 砂礫を微量、黄褐色粒子及び焼土粒を少量含む。
- 4 黒色土 焼土粒を若干含む。
- 5 黒褐色土 微細な炭化物粒子、赤褐色粒子をやや多く含む。
- 6 におい黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 8 黒色土 軽石 (A+C) を多く含む。
- 9 暗赤褐色土 砂礫を若干、焼土多量に含む。
- 10 黒褐色土 砂礫、焼土塊、炭化物塊をやや多く含む。
- 11 黒褐色土 炭化物を多量に含む。
- 12 褐色土塊
- 13 褐色土塊
- 14 におい黄褐色土 焼土塊を若干、黒色土塊を多量に含む。
- 15 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 16 褐灰色土 軽石を少量、砂礫をごく少量含む。
- 17 黒褐色土 砂礫を若干含む。
- 18 灰黄褐色土 砂礫をごく少量含む。
- 19 黒褐色土 炭化物、灰を多く含む。
- 20 におい黄褐色土 砂礫を若干、焼土粒、炭化物、黄褐色粒子をごく少量含む。

第343図 113号住居跡遺



第344図 113号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

113号住居遺物観察表

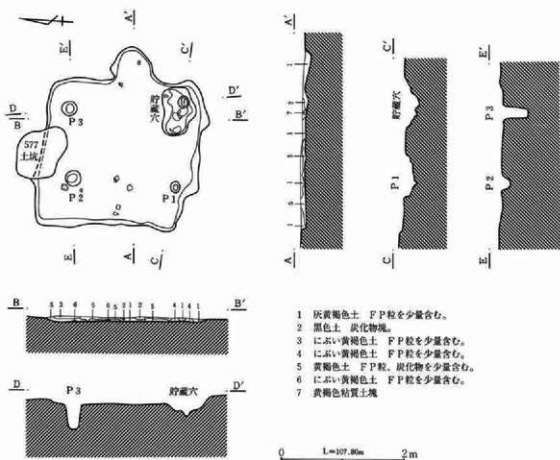
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
113住-1	土師器 坏	埋土 口-底1/3	口(11.6)、高3.6	①赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面撫で。
113住-2	土師器 坏	埋土 口-体破片	口(14.0)、高(2.8)	①にぶい黄褐 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面彫削り、内面撫で。
113住-3	土師器 坏	埋土 口-体破片	口(12.6)、高(3.8)	①にぶい褐 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面彫削り、内面撫で。
113住-4	須恵器 蓋	埋土 つまみ跡欠	径19.0、高(3.6)	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転痕有り。
113住-5	須恵器 蓋	埋土 定形	径19.3、つまみ径7.4、高4.1	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転痕有り。つまみ部貼付
113住-6	土師器 甕	埋土 口-胴破片	口(25.0)、高(20.2)	①明赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面彫削り、内面撫で。
113住-7	土師器 甕	埋土 口-胴1/2	口(22.0)、高(28.4)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面彫削り、内面撫で。

114号住居跡 (PL50-109)

位置 78-O-13グリッド 床面積 6.0m<sup>2</sup> 主軸方位 N-90°-E

重複 1号住居跡に破壊される。

規模と形状 長辺2.57m、短辺2.27m、残存壁高0.05mを測り、ほぼ正方形状を呈する。上面を1号住居跡によって掘り込まれており、残存状態は悪い。



第345図 114号住居跡



埋土 灰黄褐色土・黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 東壁のほぼ中央に取り付く。上面を削平されており、燃焼部の〇字形の平面プランが検出されただけである。袖、燃焼部は地山を削り出してつくっており、燃焼部は住居壁の外側に位置する。燃焼部はあまり焼けていない。

柱穴

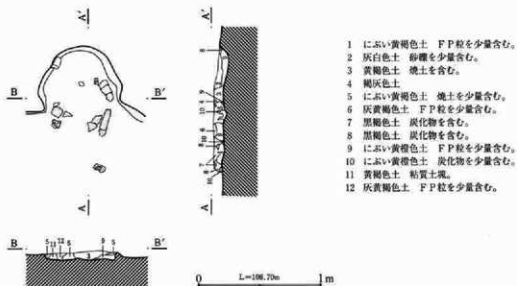
規模 No1長径0.18m、短径0.15m、深さ0.19m No2長径0.25m、短径0.23m、深さ0.16m

No3長径0.25m、短径0.24m、深さ0.42m

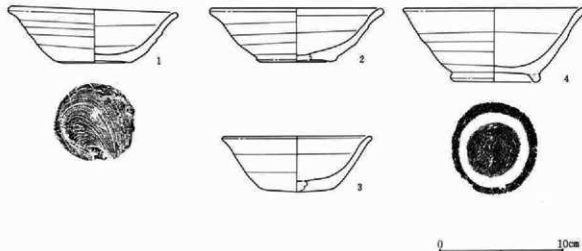
貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長径0.78m、短径0.45m、深さ0.2mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 なし

掘り方 掘り方向と床面とがほぼ一致しており、床面下の遺構等は検出されなかった。



第346図 114号住居跡竈



第347図 114号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

114号住居遺物観察表

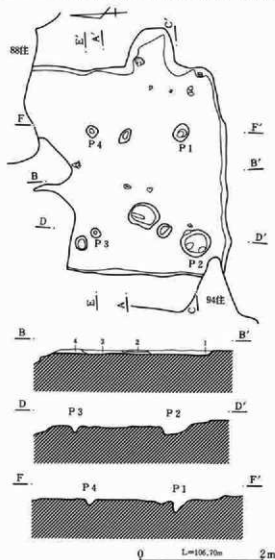
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
114住-1	須恵器 坏	貯蔵穴内 口縁一部欠	口13.6、底6.4、 高4.6	①灰灰 ②良好 ③中～細 砂粒を若干含む。	楕圓盤形。底部回転糸切り未調整。
114住-2	須恵器 坏	貯蔵穴内 口～底1/3	口(14.0)、底(6 .4)、高4.3	①灰灰 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	楕圓盤形。底部回転糸切り未調整。
114住-3	須恵器 坏	埋土 口～底1/4	口(12.0)、底(5 .8)、高4.3	①にふい貴粒 ②良好 ③ 中～細砂粒を少量含む。	楕圓盤形。底部回転糸切り未調整。
114住-4	須恵器 碗	貯蔵穴内 口～底2/3	口14.4、底7.2、 高5.9	①灰灰 ②良好 ③中～細 砂粒をやや多く含む。	楕圓盤形。高台部貼付。

115号住居跡 (PL50-109)

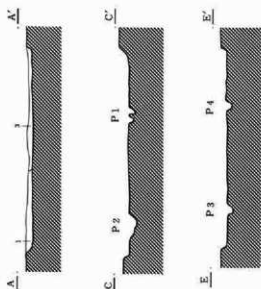
位置 78-N-14グリッド 床面積 (9.4)㎡ 主軸方位 N-90°-E

重複 79・88・98号住居跡に破壊されている。

規模と形状 長辺3.26m、短辺(3.0)m、残存壁高0.05mを測り、南北に長い横長長方形形状を呈するものと思われる。西側上面を79号住居跡に、南西隅を94号住居跡に、北東隅を88号住居跡に破壊されており、残存



第348図 115号住居跡



- 1 灰黄褐色土。砂礫をごく少量含む。
- 2 にふい貴褐色土。砂礫を少量含む。
- 3 灰黄褐色土。夾雑物少ない。
- 4 褐灰色土。砂礫を少量、黄褐色土塊を少量含む。



第349図 115号住居跡出土遺物

状態は悪い。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 東壁の東南隅寄りに取り付く。上面をかなり削平されており、燃焼部の口字形のプランが検出されたにすぎない。袖・燃焼部は地山を削り出してつくられており、燃焼部は住居壁の外側に位置する。

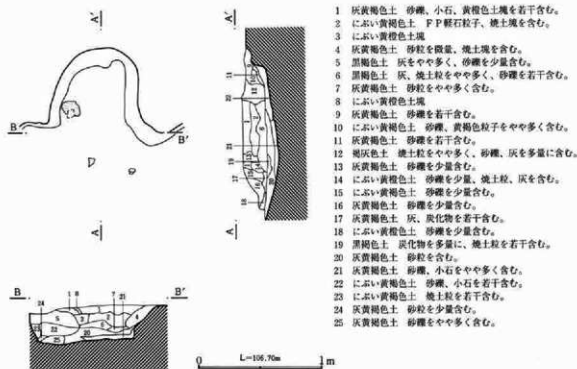
柱穴

規模 No1長径0.3m、短径0.25m、深さ0.1m No2長径0.48m、短径0.45m、深さ0.14m

No3長径0.18m、短径0.15m、深さ0.11m No4長径0.2m、短径0.18m、深さ0.1m

貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方向とがほぼ一致しており、床面下の遺構等は検出されなかった。



- 1 灰黄褐色土 砂礫、小石、黄褐色土塊を若干含む。
- 2 にぶい黄褐色土 F P軽石粒子、焼土塊を含む。
- 3 にぶい黄褐色土塊
- 4 灰黄褐色土 砂粒を微量、焼土塊を含む。
- 5 黒褐色土 灰をやや多く、砂礫を少量含む。
- 6 黒褐色土 灰、焼土粒をやや多く、砂礫を若干含む。
- 7 灰黄褐色土 砂粒をやや多く含む。
- 8 にぶい黄褐色土塊
- 9 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 10 にぶい黄褐色土 砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 11 灰黄褐色土 砂礫を若干含む。
- 12 黒褐色土 焼土粒をやや多く、砂礫、灰を多量に含む。
- 13 灰黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 砂礫を少量、焼土粒、灰を含む。
- 15 にぶい黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 16 灰黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 17 灰黄褐色土 灰、炭化物を若干含む。
- 18 にぶい黄褐色土 砂礫を少量含む。
- 19 黒褐色土 炭化物を多量に、焼土粒を若干含む。
- 20 灰黄褐色土 砂粒を含む。
- 21 灰黄褐色土 砂礫、小石をやや多く含む。
- 22 にぶい黄褐色土 砂礫、小石を若干含む。
- 23 にぶい黄褐色土 焼土粒を若干含む。
- 24 灰黄褐色土 砂粒を少量含む。
- 25 灰黄褐色土 砂礫をやや多く含む。

第350図 115号住居跡産

115号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (m)	量	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
115住-1	須恵器 皿	埋土 口一底1/2	口(13.2)、底8、 2、高2.9		①灰白 ②良好 ③中一層 砂粒を少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

#### 116号住居跡 (PL51)

位置 78-P-15グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-93°-E

重複 なし

規模と形状 測定不能、残存壁高0.15mを測る。大半が調査区域外に出、南辺と東辺のごく一部のみ検出された。原形は不明である。

### 第3章 検出された遺構と遺物

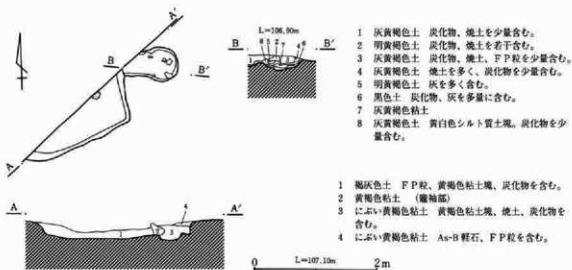
**埋土** 褐灰色土をベースとする。

**床面** 地山を削り出して平坦面を形成している。

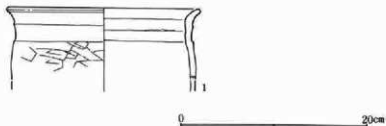
**竈跡** 東壁に取り付く。燃焼部の一部のみ検出。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられるが、壁に取り付く部分が直線的で、奥が円形を呈しており、形態はかなり特異である。燃焼部内には焼土・炭化物の堆積が多くみられ、燃焼部南壁も若干焼けている。

**柱穴** 未検出 **貯蔵穴** 未検出 **壁下周溝** なし

**掘り方** 床面と掘り方面とはほぼ一致している。



第351図 116号住居跡



第352図 116号住居跡出土遺物

#### 116号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
116住-1	土師器 甕	埋土 口縁部破片	口(20.7)、高(7.6)	①赤褐 ②良好 ③中-粗 砂粒を微量含む。	口縁部・胴部内外面横撫で。胴部外面彫り、内面撫で。

#### 117号住居跡 (PL51-109-110)

**位置** 78-R-13グリッド **床面積** 測定不能 **主軸方位** N-90°-E

**重複** 121号住居跡を掘り込む。

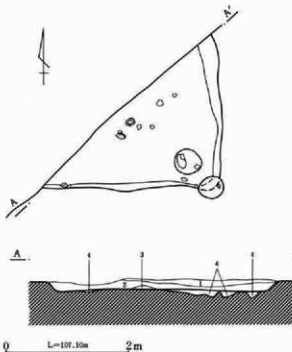
**規模と形状** 測定不能、残存壁高0.15mを測る。北辺、西辺とも調査区外に出るため、原形は不明である。

埋土 灰黄褐色土・黄褐色土をベースとする。

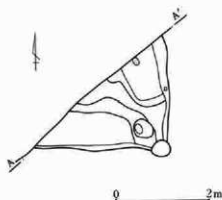
床面 灰黄褐色土を3~10cm貼って平坦面を形成している。あまり硬化していない。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 なし

掘り方 床面より3~10cm低くなる。北東側および中央から南東隅にかけて、若干低く掘り込まれている。

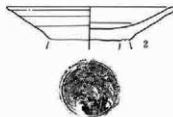
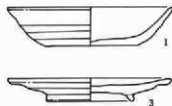


第353図 117号住居跡



第354図 117号住居跡掘り方

- 1 灰黄褐色土 炭化物、F P粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 炭化物、F P粒、焼土を少量含む。
- 3 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 砂礫、小石を含む。(貼床)



0 10cm

第355図 117号住居跡出土遺物

117号住居遺物観察表

番号	器種	出土状況 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②構成 ③胎土	器形・整形の特徴
117住-1	土師器 坏	埋土 口-底1/3	口(13.2)、底7.2、高(3.0)		①淡橙 ②やや良好 ③中-細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
117住-2	須恵器 皿	埋土 高台部・口縁一部欠損	口13.3、高(2.9)		①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕あり。
117住-3	須恵器 皿	埋土 口-底破片	口(13.0)、底7.0、高1.8		①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

118号住居跡 (PL51・110)

位置 78-Q-14グリッド

床面積 測定不能

主軸方位 N-120°-E

第3章 検出された遺構と遺物

重複 2号井戸に掘り込まれる。123号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺4.22m、短辺3.5m、残存壁高0.26mを測り、東西に長い縦長形状を呈する。

北西隅が調査区域外に出る上、中央を2号井戸に破壊されているため、残存状態は悪い。

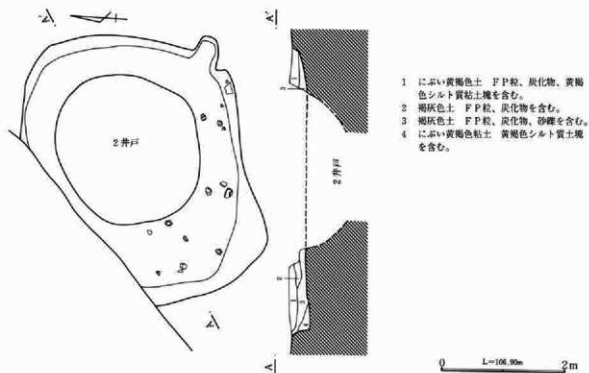
埋土 におい黄褐色土・褐灰色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。中央部が破壊されているため、硬化面は検出できなかった。

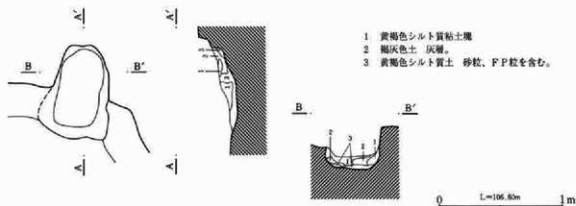
竈跡 南東隅に取り付く。上面を削平されており、 $\square$ 字形の燃焼部プランが検出されたのみである。燃焼部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。燃焼部はかなり小振りであり、内・外壁ともほとんど焼けておらず、燃焼部内には焼土・炭化物の堆積は少ない。

柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とはほぼ一致している。

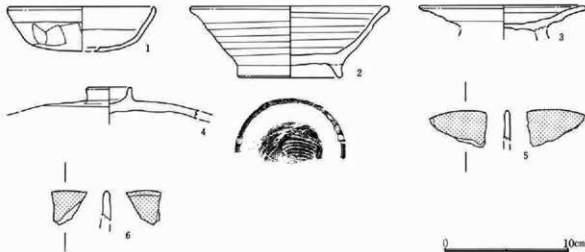


第356図 118号住居跡



第357図 118号住居跡竈

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



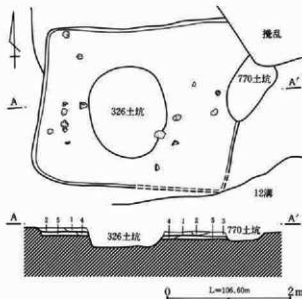
第358図 118号住居跡出土遺物

118号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
118住-1	土師器 坏	埋 土 口-底1/4	口(11.9)、底(8.8)、高3.4	①にぶい赤褐 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨り、内面撫で。
118住-2	須恵器 埴	埋 土 口-底1/2	口(16.0)、底8.4、高5.6	①灰白 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
118住-3	須恵器 皿	埋 土 口-底破片	口(13.3)、高(2.0)	①灰白 ②不良 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕あり。
118住-4	須恵器 蓋	埋 土 つまみ-体1/4	つまみ径3.6、高(2.6)	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転磨り、つまみ部貼付
118住-5	緑釉陶器 埴	埋 土 口縁部破片	長(4.4)、短(2.9)、厚0.5	①浅黄 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
118住-6	緑釉陶器 埴	埋 土 口縁部破片	長(2.7)、短(2.6)、厚0.5	①浅黄 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。

120号住居跡 (PL51-110)

位置 78-Q-12グリッド 床面積 (8.0)㎡  
 主軸方位 N-84°-E  
 重複 326・770号土坑、12号溝によって破壊されている。  
 規模と形状 長辺3.17m、短辺2.5m、残存壁高0.06mを測り、東西に長い長方形を呈する。北東隅を攪乱に、南東隅を12号溝に、中央を326号土坑によって破壊されており、残存状態は悪い。  
 埋土 褐灰色土・灰黄褐色土をベースとする。床面 褐灰色土・にぶい黄褐色土を3～5cm貼って平坦面を形成している。あまり硬化していない。



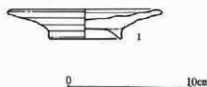
第359図 120号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

電跡 未検出 柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面より3～5cm下となるが、掘り方面も平坦で起伏はあまりない。

- 1 褐灰色土 F P粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 F P粒、黄褐色土をブロック状に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
- 4 褐灰色土 F P粒を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 黄褐色シルト質土塊を多く含む。



第360図 120号住居跡出土遺物

#### 120号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
120住-1	須恵器 皿	土 口-底1/4	口(12.4)、底6.9、高2.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

#### 121号住居跡 (PL51・110)

位置 78-R-13グリッド 床面積 (5.7)㎡ 主軸方位 N-77°-E

重複 117号住居跡に破壊され、124号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長辺3.08m、短辺2.24m、残存壁高0.09mを測り、東西に長い長方形を呈する。

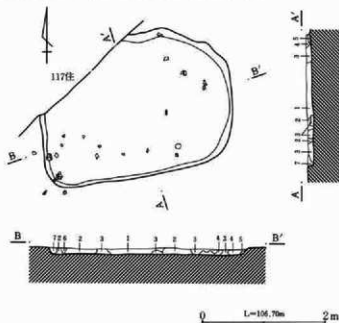
北西隅が調査区外に出、上面もかなり削平されているので残存状態は悪い。

埋土 褐灰色土・黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。あまり硬化していない。

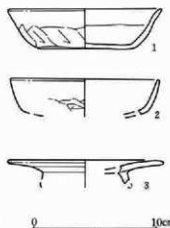
電跡 未検出 柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 床面と掘り方面とはほぼ一致している。



第361図 121号住居跡

- 1 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 炭化物、F P粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 4 黄褐色土 炭化物、F P粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 6 灰黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 7 褐色土 炭化物を含む。



第362図 121号住居跡出土遺物



121号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
121住-1	土師器 坏	埋 土 口-底2/3	口12.2、底7.4、 高3.2	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面艶削り、内面 撫で。
121住-2	土師器 坏	埋 土 口-底破片	口(12.0)、底(1 0.0)、高(2.7)	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面艶削り、内面 撫で。
121住-3	須恵器 皿	埋 土 口-底破片	口(12.4)、高(1 .9)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。高台部貼付。

## 122号住居跡 (PL51・110・111)

位置 78-R-13グリッド 床面積 (10.9)㎡ 主軸方位 N-22°-E

重複 なし

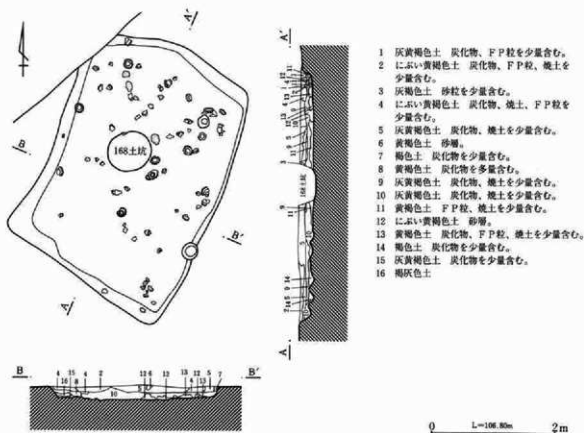
規模と形状 長辺4.03m、短辺2.8m、残存壁高0.23mを測り、南北に長い長方形形状を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。あまり硬化していない。

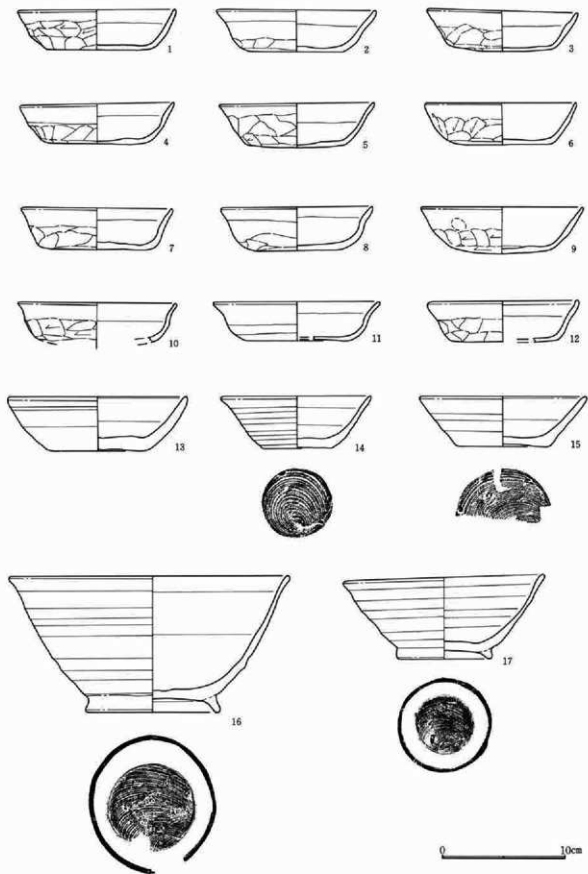
竈跡 未検出 柱穴 なし 貯蔵穴 なし 壁下周溝 なし

掘り方 掘り方面と床面とはほぼ一致している。



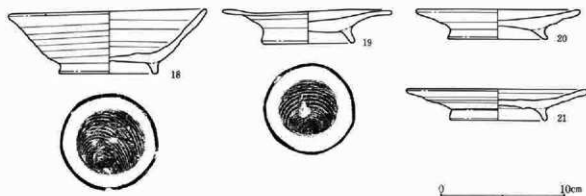
第363図 122号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第364図 122号住居跡出土遺物(1)

## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第365図 122号住居跡出土遺物(2)

## 122号住居遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
122住-1	土師器 坏	埋土 完形	口12.6、底8.4、 高3.3	①靑 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-2	土師器 坏	埋土 完形	口12.7、底8.7、 高3.3	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部-体部上位内外面横撫で。体部下位-底部外 面横撫で。内面撫で。
122住-3	土師器 坏	埋土 完形	口12.0、底9.0、 高3.4	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-4	土師器 坏	埋土 完形	口12.3、底8.2、 高3.3	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-5	土師器 坏	埋土 口縁一部欠	口12.3、底8.0、 高3.5	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒を多量に含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-6	土師器 坏	埋土 口-底2/3	口12.2、底7.0、 高3.3	①靑 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-7	土師器 坏	埋土 口-底2/3	口(12.0)、底9. 0、高3.3	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-8	土師器 坏	埋土 口-底1/3	口(12.0)、底6. 8、高3.4	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-9	土師器 坏	埋土 口-底1/3	口(13.0)、底6. 2、高3.6	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒を微量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-10	土師器 坏	埋土 口-底1/3	口(12.7)、高(3 .1)	①にぶい靑 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-11	土師器 坏	埋土 口-底1/4	口(13.3)、底(8 .2)、高3.1	①靑 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-12	土師器 坏	埋土 口-底1/4	口(12.0)、底(8 .6)、高3.3	①靑 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面磨削り、内面 撫で。
122住-13	須恵器 坏	埋土 口-底1/3	口(14.3)、底8. 0、高4.3	①灰黄 ②良好 ③紫織	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
122住-14	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口(12.0)、底5. 6、高4.2	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
122住-15	須恵器 坏	埋土 口-底1/2	口(13.3)、底7. 6、高4.0	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
122住-16	須恵器 坏	埋土 口-底2/3	口(21.4)、底10 .8、高10.8	①褐灰 ②良好 ③中-細 砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
122住-17	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口16.0、底7.6、 高6.7	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
122住-18	須恵器 坏	埋土 口-底4/5	口15.7、底7.8、 高5.2	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
122住-19	須恵器 皿	埋土 口縁一部欠	口13.6、底7.4、 高2.7	①灰白 ②良好 ③細砂粒 をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
122住-20	須恵器 皿	埋土 口-底1/3	口(12.9)、底7. 9、高2.4	①灰白 ②良好 ③中-細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
122住-21	須恵器 皿	埋土 口-底1/4	口(14.4)、底7. 5、高2.5	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

第3章 検出された遺構と遺物

123号住居跡 (PL51・111)

位置 78-Q-14グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-84°-E

重複 118号住居跡に破壊されている。

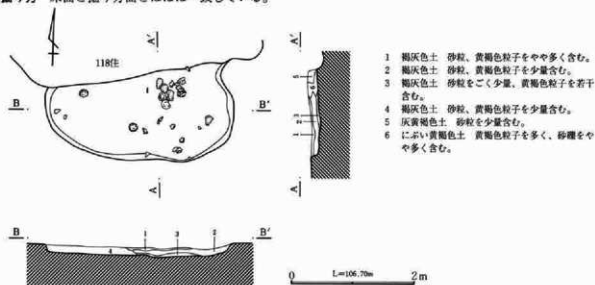
規模と形状 長辺測定不能、短辺2.98m、残存壁高0.13mを測る。北側大半を118号住居跡によって破壊されており、南辺と、東・西両辺の一部が検出されただけである。

埋土 褐灰色土をベースとする。

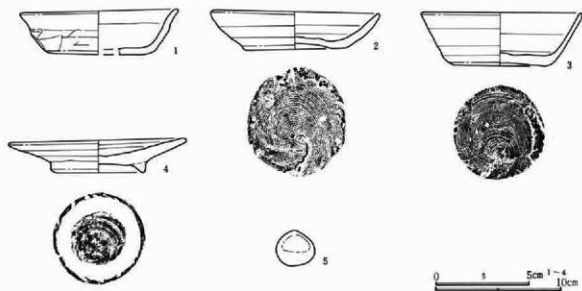
床面 地山を削り出して平坦面を形成している。硬化面はあまりはっきりとはしていない。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出

掘り方 床面と掘り方面とはほぼ一致している。



第366図 123号住居跡



第367図 123号住居跡出土遺物

123号住居遺物観察表

番号	部種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
123住-1	土師器 坏	堆土 底部一部欠	口12.6、底(8.6) )、高3.6	①橙 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面寛削り、内面 撫で。
123住-2	須恵器 坏	堆土 完形	口13.5、底8.4、 高3.2	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
123住-3	須恵器 坏	床面 直上 口-底3/4	口12.8、底7.4、 高4.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
123住-4	須恵器 皿	床面 直上 口縁一部欠	口14.0、底7.2、 高2.7	①灰白 ②やや良好 ③中 -細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
123住-5	石英製磨石	床面 直上	長2.1、厚1.2、 重4g	①白	

## 124号住居跡 (PL52-111-112)

位置 78-S-13グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-98°-E

重複 121号住居跡を掘り込む。

規模と形状 測定不能、残存壁高0.13mを測る。東側上面を121号住居跡に破壊されており、北・西側大半が調査区外に出るため、原形は不明である。

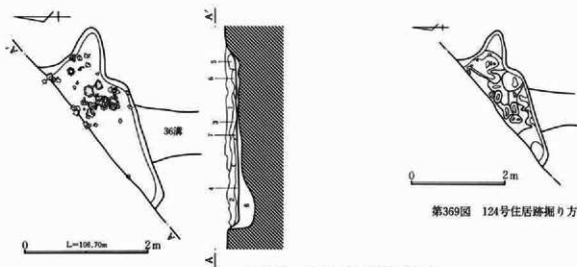
埋土 明黄褐色土、灰黄褐色土をベースとする。

床面 明褐色土を4-10cm貼って平坦面を形成している。硬化面ははっきりとしていない。

竈跡 東南隅に取り付く。上面は121号住居跡によって破壊されており、燃燒部のU字形のプランのみ検出された。燃燒部は住居壁の外側に、地山を削り出してつくられている。燃燒部内には炭化物・焼土の堆積が若干みられたが、あまり焼けてはいない。

柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下溝溝 未検出

掘り方 床面より4-10cm下となる。小さな掘り込みが多く、起伏に富んでいる。

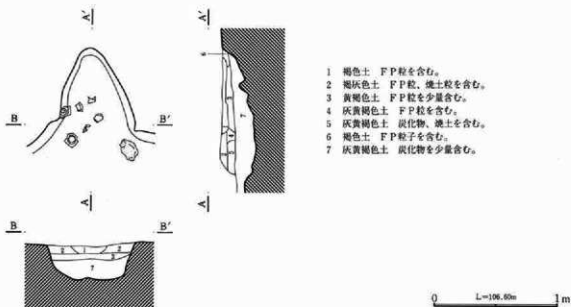


第369図 124号住居跡掘り方

第368図 124号住居跡

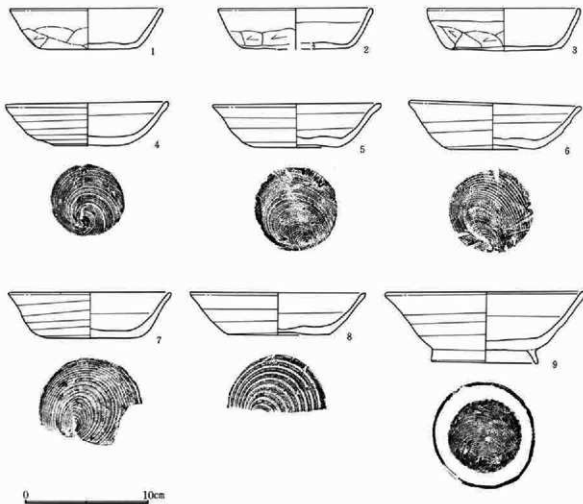
- 1 明黄褐色土 F P粒を少量、炭化物を多く含む。
- 2 灰黄褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 砂質土塊、F P粒、炭化物を少量含む。
- 5 黄褐色土 F P粒、炭化物を含む。
- 6 黄褐色土 F P粒を少量含む。
- 7 褐色土 砂粒を少量含む。
- 8 明褐色土 F P粒、炭化物を少量含む。

第3章 検出された遺構と遺物

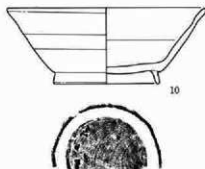


- 1 褐色土 F P粒を含む。
- 2 褐色土 F P粒、焼土粒を含む。
- 3 黄褐色土 F P粒を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 F P粒を含む。
- 5 灰黄褐色土 炭化物、焼土を含む。
- 6 褐色土 F P粒を含む。
- 7 灰黄褐色土 炭化物を少量含む。

第370図 124号住居跡竈



第371図 124号住居跡出土遺物(1)



第372図 124号住居跡出土遺物(2)

124号住居遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
124住-1	土師器 坏	埋 土 口縁一部欠	口12.2、底8.2、 高3.2	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体～底部外面艶削り、内面撫 で。
124住-2	土師器 坏	埋 土 口～底1/3	口(12.3)、底(8 .9)、高3.9	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体～底部外面艶削り、内面撫 で。
124住-3	土師器 坏	埋 土 口～底1/4	口(12.2)、底9. 2、高3.9	①橙 ②やや良好 ③中～ 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体～底部内外面艶削り、内面 撫で。
124住-4	須恵器 坏	埋 土 口縁一部欠	口13.2、底5.9、 高3.5	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
124住-5	須恵器 坏	埋 土 口縁一部欠	口13.3、底6.9、 高3.5	①灰白 ②やや不良 ③中 ～細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
124住-6	須恵器 坏	埋 土 口～底3/4	口14.0、底6.6、 高3.8	①灰 ②やや良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
124住-7	須恵器 坏	埋 土 口～底1/2	口(13.8)、底6. 4、底3.4	①灰白 ②良好 ③細砂粒 をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
124住-8	須恵器 坏	埋 土 口～底1/2	口(14.0)、底8. 0、高3.5	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
124住-9	須恵器 魂	埋 土 口縁一部欠	口16.0、底8.5、 高5.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
124住-10	須恵器 魂	埋 土 口～底1/4	口(16.0)、底8. 6、高5.9	①灰 ②良好 ③中～細砂 粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
124住-11	須恵器 蓋	埋 土 天井部一体 1/3	高(1.3)	①灰白 ②良好 ③中～細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転艶削り、つまみ部貼付 痕あり。

125号住居跡 (PL52)

位置 78-R-11グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-31°-E

重複 大半を1号溝に破壊されている。

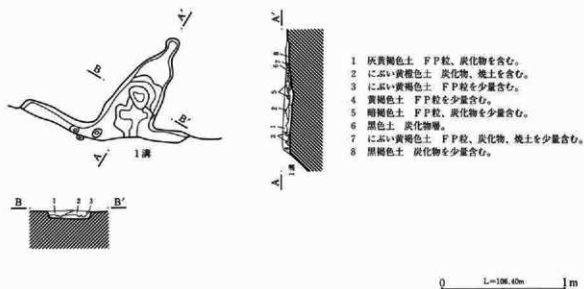
規模と形状 測定不能、残存壁高0.13mを測る。大半を1号溝に破壊されており、また上面がかなり削平されているため、竈焼部と煙道のみ検出された。

埋土 灰黄褐色土、にぶい黄褐色土をベースとする。上面は人為的に埋められており、整地土とよく似ている。官衙造営以前の住居で、官衙造営時に埋められたものと考えられる。

床面 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出 掘り方 未検出

竈跡 焼部は縦長で先端に煙道が取り付く。住居壁の外側に地山を掘り抜いてつくられている。

第3章 検出された遺構と遺物



第373図 125号住居跡画

126号住居跡 (PL52)

位置 78-M-10グリッド 床面積 測定不能 主軸方位 N-86°-E

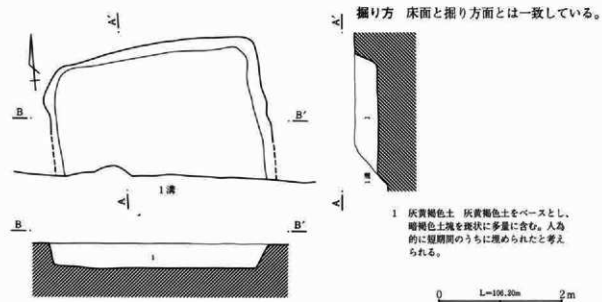
重複 1号溝に破壊される。

規模と形状 長辺測定不能、短辺3.42m、残存壁高0.37mを測る。大半を1号溝に破壊されており、原形は不明である。

埋土 灰黄褐色土をベースとし、暗褐色土塊を斑状に大量に含む。本住居跡も人為的に埋められた形跡があり官衙造営時に埋められ、整地されたものと考えられる。

床面 地山を削り出して平坦面を形成している。

竈跡 未検出 柱穴 未検出 貯蔵穴 未検出 壁下周溝 未検出



第374図 126号住居跡





第375図 126号住居跡出土遺物

## 126号住居遺物観察表

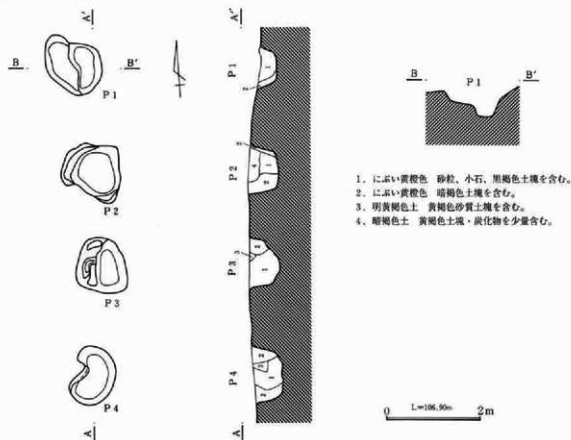
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
126住-1	土師器 坏	埋土 □-底破片	□(12.8)、底(4.0)、高(3.2)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	□縁部内外面横撫で、体部-底部外面磨り、内面撫で。
126住-2	土師器 坏	埋土 □-体破片	□(12.2)、高(3.1)	①橙 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	□縁部内外面横撫で、体部-底部外面磨り、内面撫で。

## 2. 掘立柱建物跡

## 1号掘立柱建物跡 (PL52・53)

位置 79-k-19グリッド 面積 測定不能 標方位 N-2°-W

重複 12号住居跡を掘り込む。



第376図 1号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

規模と形状 梁間3間(6.7m)を測り、西側が後世カットされているため桁行き・形状等不明。同位置で1回建て替えている。柱間は梁間2.5m。

埋土 におい黄褐色土をベースとする。

柱穴

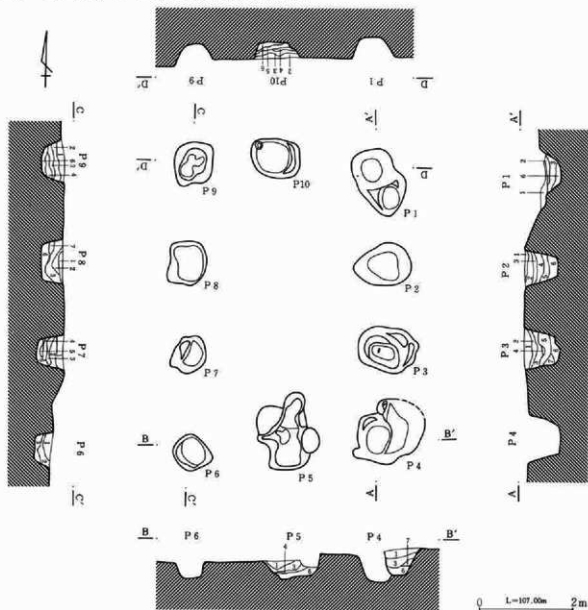
規模 No 1 長径1.25m、短径1.15m、深さ0.35m No 2 長径1.22m、短径1.05m、深さ0.65m

No 3 長径1.15m、短径1.1m、深さ0.65m No 4 長径1.25m、短径0.75m、深さ0.62m

2号掘立柱建物跡 (PL52・53・112)

位置 79-J-19グリッド 面積 24.2m<sup>2</sup> 横方位 N-1°-W

重複 8号住居跡、3・5号掘立柱建物跡を掘り込む。



第377図 2号掘立柱建物跡

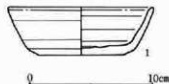
**規模と形状** 桁行き3間(6.2m)×梁間2間(3.9m)を測り、南北に長い長方形を呈する。柱穴は隅丸方形を呈する。柱間は桁行き、梁間ともに2m。5号掘立柱建物跡とは一部重複して、接しており、5号掘立柱建物の建て替えと考えられる。各柱穴は隅丸方形に近い長円形を呈する。

**埋土** 褐色土、暗褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土、灰黄褐色土がほぼ均等に層状に堆積している。

#### 柱穴

- 規模 No1 長径1.4m、短径0.9m、深さ0.45m No2 長径1.2m、短径0.9m、深さ0.7m  
 No3 長径1.3m、短径0.9m、深さ0.76m No4 長径1.45m、短径1.1m、深さ0.7m  
 No5 長径1.65m、短径1.1m、深さ0.5m No6 長径0.9m、短径0.8m、深さ0.4m  
 No7 長径0.8m、短径0.7m、深さ0.6m No8 長辺0.95m、短辺0.75m、深さ0.45m  
 No9 長径0.9m、短径0.85m、深さ0.5m No10 長辺1.01m、短辺0.85m、深さ0.35m

1. 褐色土 黄褐色土塊、焼土を少量含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土塊をやや多く含む。
3. 褐色土 黄褐色土塊を若干含む。
4. にぶい黄褐色土 砂礫・小石を少量含む。
5. 灰黄褐色土 砂礫・黒色粘質土塊を含む。
6. 暗褐色土 小石・黄褐色土塊を少量含む。
7. 黒褐色土 F P粒、燼土、炭化物を含む。



第378図 2号掘立柱建物跡出土遺物

#### 2号掘立柱建物跡遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
2掘立-1	須恵器 罎	3号坑埋土 口一底破片	口(11.6)、底6.7、高3.8	①灰 ②良好 ③中一細砂を多く含む。	横縁整形。底部回転糸切り未調整。

#### 3号掘立柱建物跡 (PL52-53-112)

**位置** 79-J-18グリッド **面積** 28.1㎡ **棟方位** N-87°-E

**重複** 11・13・22・26・40号住居跡、2号掘立柱建物跡を掘り込む。5号掘立柱建物跡とも重複するが、新旧関係は不明。

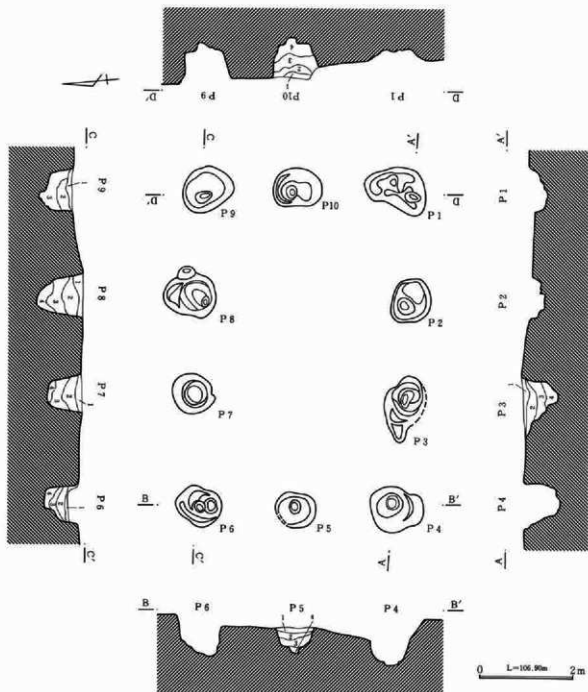
**規模と形状** 桁行き3間(6.7m)×梁間2間(4.2m)を測り、東西に長い長方形を呈する。柱穴は円形もしくは楕円形を呈し、柱間は桁行き、梁間ともに2mである。柱穴掘り方内には柱痕がはっきりと残っているものが多い。

**埋土** 褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土が層状に堆積している。

#### 柱穴

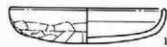
- 規模 No1 長径1.3m、短径0.7m、深さ0.45m No2 長径0.95m、短径0.85m、深さ0.31m  
 No3 長径1.42m、短径0.85m、深さ0.75m No4 長径1.15m、短径1.0m、深さ1.0m  
 No5 長径0.9m、短径0.75m、深さ0.55m No6 長径1.0m、短径0.8m、深さ0.9m  
 No7 長径0.95m、短径0.85m、深さ0.75m No8 長径1.15m、短径0.9m、深さ1.0m  
 No9 長径1.1m、短径0.9m、深さ0.7m No10 長径1.05m、短径0.8m、深さ0.9m

第3章 検出された遺構と遺物



第379図 3号掘立柱建物跡

1. 褐色土・黄褐色土塊、F P粒を少量含む。
2. 暗褐色土・黄褐色土塊、炭化物を少量含む。
3. 褐色土・F P粒、砂粒を多く含む。
4. 灰黄褐色土・FA塊・褐灰色土塊・黄褐色土塊を含む。



0 10cm

第380図 3号掘立柱建物跡出土遺物

3号掘立柱建物跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
3掘立-1	土師器 坏	9号坑埋土 口-底1/2	口(12.4)、底6、 7、高2.8	①にふい赤褐色 ②良好 ③ 中-細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体-底部外面彫削り、内面溝 で。
3掘立-2	土師器 坏	9号坑埋土 口-底1/3	口(12.7)、底5、 8、高3.4	①にふい褐色 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体-底部外面彫削り、内面溝 で。

## 4号掘立柱建物跡 (PL52・53・112)

位置 89-1-1 グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-10°-E

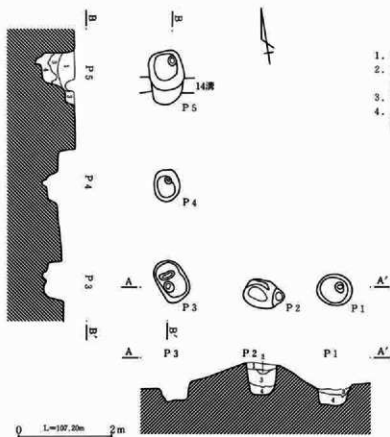
重複 31号住居跡を掘り込む。

規模と形状 大半が調査区外に出るため、全容は不明。東西・南北方向とも2間分のみ検出された。柱穴は楕円形を呈し、長径0.8・短径0.6m内外、柱痕は径0.2m前後である。

埋土 上層暗褐色土、中層黒褐色土、下層は灰黄褐色土。

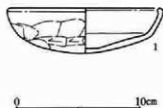
## 柱穴

規模 No 1 長径0.75m、短径0.65m、深さ0.3m No 2 長径0.86m、短径0.6m、深さ0.7m  
 No 3 長径0.9m、短径0.6m、深さ0.45m No 4 長径0.7m、短径0.55m、深さ0.7m  
 No 5 長径1.15m、短径0.7m、深さ0.84m



第381図 4号掘立柱建物跡

1. 褐色土 砂礫を多く含む。
2. にふい黄褐色土 FA塊・砂礫を含む。
3. 黄褐色土 FA塊・砂礫を含む。
4. 灰黄褐色土 FA塊・灰色粘質土塊を含む。



第382図 4号掘立柱建物跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

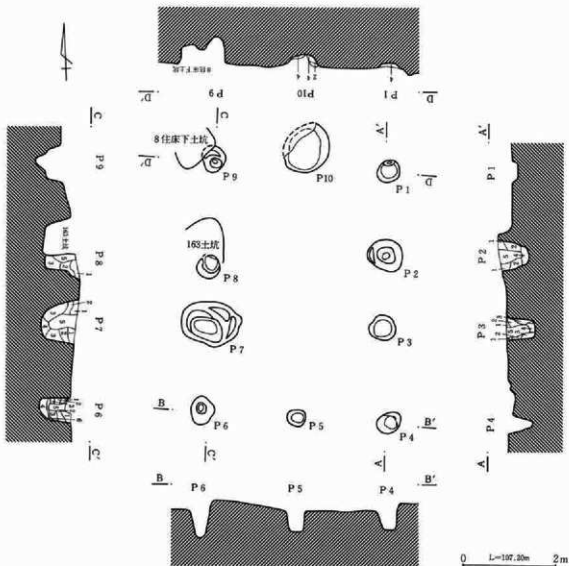
4号掘立柱建物跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
4掘立-1	土師器 坏	1号坑埋土 口-底1/2	口12.3、底4.8、 高3.5	①青 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横溝で。体-底部外面荒削り、内面撫 で。

5号掘立柱建物跡 (PL52-53)

位置 79-J-19グリッド 面積 19.6㎡ 棟方位 N-1°-E

重複 8号住居跡、2号掘立柱建物跡に掘り込まれる。3号掘立柱建物跡とも重複するが、新旧関係は不明。  
規模と形状 桁行き3間(4.9m)×梁間2間(4.2m)を測り、南北に長い長方形を呈する。柱間は桁行き1.7m、梁間2mである。柱穴はほぼ径0.5mであるが、Pit 6・7・8・9は、ほぼ同位置に掘立柱建物の柱穴Pit 1・2・3・4が掘り込まれたため、破壊を受けている。2号掘立に隣接し、規模、形状ともよく類似しているため、2号掘立は、本掘立を建て替えたものと考えられる。



第383図 5号掘立柱建物跡

埋土 柱痕は黒褐色土で明瞭に識別できる。柱痕の両側には灰黄褐色土・にぶい黄褐色土が層状に堆積。

柱穴 規模 No1 長径0.52m、短径0.49m、深さ(0.12)m No2 長径0.74m、短径0.66m、深さ0.63m  
 No3 長径0.57m、短径0.54m、深さ0.62m No4 長径0.55m、短径0.44m、深さ0.54m  
 No5 長径0.41m、短径0.35m、深さ0.44m No6 長径0.61m、短径0.52m、深さ0.82m  
 No7 長径1.3m、短径0.96m、深さ0.75m No8 長径(0.5)m、短径(0.49)m、深さ0.74m  
 No9 長径0.56m、短径0.51m、深さ0.55m No10 長径(1.05)m、短径(0.96)m、深さ0.3m

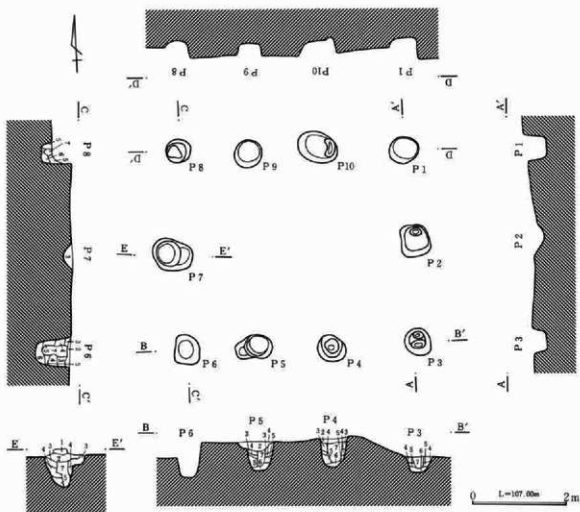
- |                                 |                     |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 灰黄褐色土 F A塊・黄色・茶褐色粒子・砂礫を少量含む。 | 4. 黄褐色土 砂礫をやや多く含む。  |
| 2. にぶい黄褐色土 F A塊、砂礫をごく少量含む。      | 5. 黒褐色土 柱痕・砂礫を少量含む。 |
| 3. 灰黄褐色土 砂粒・黄色砂粒を多く含む。          | 6. 褐灰色土 茶褐色粒子を若干含む。 |

6号掘立柱建物跡 (PL52・54・112)

位置 79-H-19グリッド 面積 20.6m<sup>2</sup> 棟方位 N-87°-W

重複 33・38・39・48号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 桁行き3間(4.9m)×梁間2間(4.2m)を測り、東西に長い長方形を呈する。柱間は桁行き



第384図 6号掘立柱建物跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

1.5m、梁間2mである。柱穴は楕円形を呈し、径0.6m前後であり、柱痕は埋土より推定すると径0.2m程度である。

**埋土** 柱痕は黒色土、柱痕の周囲は褐色土・にぶい黄褐色土・黄褐色土の順に層をなす。

**柱穴** 規模 No1長径0.6m、短径0.55m、深さ0.48m No2長径0.68m、短径0.64m、深さ0.22m  
 No3長径0.6m、短径0.51m、深さ0.31m No4長径0.6m、短径0.56m、深さ0.6m  
 No5長径0.8m、短径0.52m、深さ0.61m No6長径0.65m、短径0.55m、深さ0.85m  
 No7長径0.89m、短径0.65m、深さ0.82m No8径0.5m、深さ0.65m  
 No9長径0.58m、短径0.55m、深さ0.24m No10長径0.9m、短径0.65m、深さ0.36m

1. にぶい黄褐色土 砂粒・黄褐色粒子を含む。
2. 黄褐色土 砂粒・褐灰色土塊をやや多く含む。
3. 褐色土 FA塊・砂粒・褐灰色土塊をごく少量含む。
4. にぶい黄褐色土 FA塊・褐灰色土塊を少量含む。
5. 黄褐色土 FA塊を若干含む。
6. 明黄褐色土 FA塊・褐灰色土塊を含む。
7. 黒色土 砂礫・小石を少量含む。(柱痕)



第385図 6号掘立柱建物跡出土遺物

#### 6号掘立柱建物跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
6号掘立-1	須恵器 坏	1号坑埋土 口一底1/4	口(13.2)、底5.4、高3.6		①灰 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	楕圓整形。底部回転糸切り未調整。
6号掘立-2	須恵器 壺	4号坑埋土 天一底1/2、 つまみ部欠	径(14.2)、高(2.6)		①灰 ②良好 ③中一細砂粒を少量含む。	楕圓整形。つまみ部周囲回転糸削り、つまみ部貼付

#### 7号掘立柱建物跡 (PL52-54)

**位置** 79-F-17グリッド **面積** 測定不能 **棟方位** N-90°-W

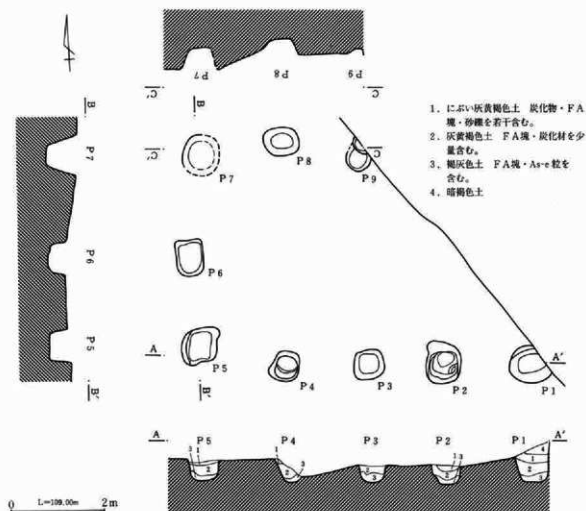
**重複** 6・9・32・49・54号住居跡に掘り込まれる。

**規模と形状** 桁行き4間以上(5.8m)×梁間2間(4.1m)を測る。東側が調査区外に出るため、原形は不明であるが、東西に長い長方形を呈する。柱間は桁行き1.8m、梁間2mである。柱穴は隅丸方形ないし楕円形を呈し、長径0.7~0.8m、短径0.6mである。桁行きが3間以上あるのは、本遺跡の中でも本建物のみである。

**埋土** にぶい黄褐色土・灰黄褐色土・褐灰色土の順に層をなしている。

**柱穴** 規模 No1長径(0.75)m、短径0.85m、深さ0.85m No2長径0.88m、短径0.75m、深さ0.48m  
 No3一辺0.65m、深さ0.4m No4一辺0.65m、深さ0.49m  
 No5一辺0.75m、深さ0.45m No6長辺0.75m、短辺0.6m、深さ0.41m  
 No7径(0.8)m、深さ0.5m No8長径0.78m、短径0.65m、深さ0.32m  
 No9 測定不能





第386図 7号掘立柱建物跡

8号掘立柱建物跡 (PL52-54)

位置 79-F-15グリッド 面積 24.4m<sup>2</sup> 棟方位 N-3°-E

重複 7・19・36・56・58・66号住居跡に掘り込まれる。

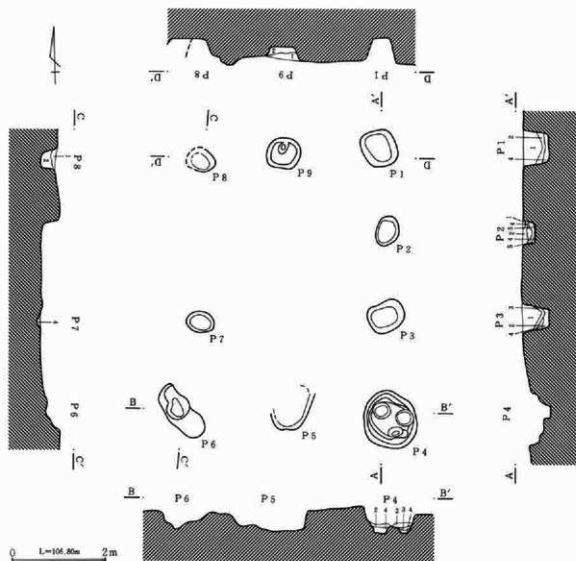
規模と形状 桁行き3間(5.3m)×梁間2間(4.6m)を測り、南北に長い長方形を呈する。住居跡に掘り込まれ、残存状態は悪く、検出できない柱穴もある。柱間は桁行き1.7m、梁間2mで、柱穴は楕円形を呈し、長径0.75m、短径0.6mの規模を呈する。

埋土 上層より順に暗褐色土・褐色土・暗褐色土の層をなしている。

柱穴

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 規模 No 1 長径0.8m、短径0.7m、深さ0.52m | No 2 長径0.65m、短径0.42m、深さ0.25m    |
| No 3 長径0.75m、短径0.62m、深さ0.59m  | No 4 長径1.25m、短径1.15m、深さ0.47m    |
| No 5 測定不能 深さ0.4m              | No 6 長径1.26m、短径(0.55)m、深さ0.45m  |
| No 7 長径0.6m、短径0.44m、深さ(0.05)m | No 8 長径(0.59)m、短径(0.47)m、深さ0.3m |
| No 9 長径0.74m、短径0.65m、深さ0.3m   |                                 |

第3章 検出された遺構と遺物



- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 暗褐色土 F P粒・灰化物・黄褐色土塊を若干含む。 | 4. 暗褐色土 黒褐色土塊を少量含む。 |
| 2. 褐色土 黄褐色土塊を少量含む。           | 5. 暗褐色土 細砂粒を少量含む。   |
| 3. 暗褐色土 F A塊を少量含む。           |                     |

第387図 8号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡 (PL52・54・55)

位置 79-D-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-7°-E

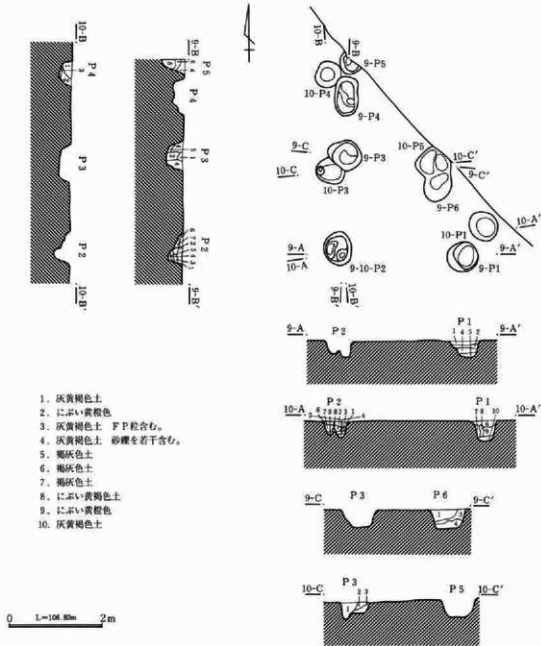
重複 10号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 大半が調査区外に出るため、原形は不明。西側2間分、南側1間分のみ検出された。中央部にも柱穴があるので、総柱建物の可能性が高い。柱穴はほぼ円形で径0.6m前後、柱間は西側・南側・床東間とも約2mである。10号掘立柱建物跡とはほぼ同位置に10度ほど北西に傾いて建てられており、建て替えられたものとみられる。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

柱穴 規模 No 1 長径0.65m、短径0.6m、深さ0.34m No 2 長径0.7m、短径0.61m、深さ0.35m  
 No 3 長径0.65m、短径(0.6)m、深さ0.4m No 4 長径0.82m、短径0.5m、深さ0.25m  
 No 5 径0.5m、深さ0.5m

備考 Pit 2は10号掘立と全く同位置である。



第388図 9・10号掘立柱建物跡

10号掘立柱建物跡 (PL52・54・55)

位置 79-D-16グリッド 面積 測定不能 横方位 N-3°-W  
 重複 9号掘立柱建物跡に掘り込まれる。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 大半が調査区外に出るため原形は不明。西側2間分、南側1間分のみ検出された。ほぼ同位置に立つ9号掘立柱建物に掘り込まれており、建て替えられたものとみられる。9号掘立柱建物と同じく総柱建物と考えられる。柱穴は、ほぼ円形で径0.6m前後、柱間は、西側で約2m、南側で約3mである。

**埋土** 褐灰色土・にぶい黄橙色土の順で堆積。

**柱穴** 規模 No1長径0.65m、短径0.64m、深さ0.42m No2長径0.7m、短径0.61m、深さ0.35m  
No3長径0.75m、短径0.65m、深さ0.25m No4長径0.58m、短径0.52m、深さ2.5m  
No5長径1.1m、短径0.65m、深さ0.39m

**備考** Pit2は9号掘立と全く同位置であり、9号掘立造営時に掘り広げられている可能性もある。

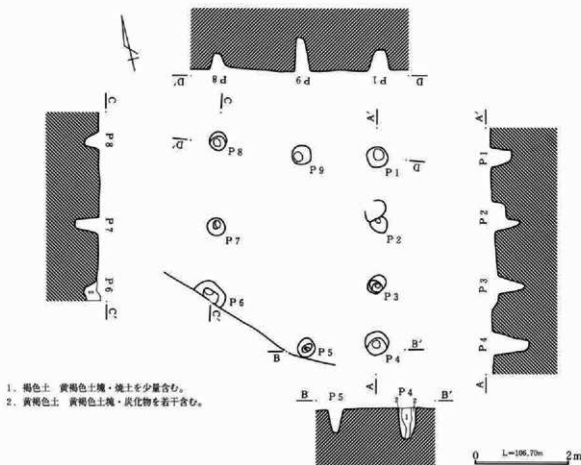
#### 11号掘立柱建物跡 (PL52-55)

**位置** 79-I-15グリッド **面積** 14.4㎡ **棟方位** N-13°-E

**重複** なし

**規模と形状** 桁行き3間(4.1m)×梁間2間(3.5m)を測り、南北に長い長方形を呈する。柱穴は小型で、径0.4m前後であり、柱間は桁行き約1.3m、梁間約1.5mである。本遺跡では最も小型の掘立柱建物である。

**埋土** 黄褐色土をベースとする。



第389図 11号掘立柱建物跡

柱穴 規模 No 1 径0.45m、深さ0.47m	No 2 径0.35m、深さ0.55m
No 3 長径0.45m、短径0.34m、深さ0.55m	No 4 径0.5m、深さ0.73m
No 5 径0.5m、深さ0.5m	No 6 長径0.68m、短径(0.35)m、深さ0.3m
No 7 長径0.4m、短径0.38m、深さ0.55m	No 8 径0.4m、深さ0.3m
No 9 径0.4m、深さ0.75m	

12号掘立柱建物跡 (PL52-55)

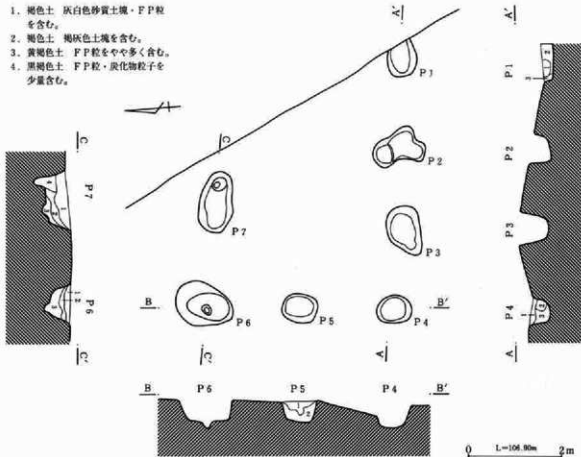
位置 78-M-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-83°-W

重複 72・76号住居跡を掘り込み、14号掘立に掘り込まれる。16・17号掘立とも重複するが新旧関係不明。  
規模と形状 梁間2間(4.1m)であるが、東側が調査区外に出るため、桁行きは不明。柱穴は楕円形を呈し、  
長径1m前後、短径0.7m前後で、柱間は桁行き、梁間とも約2mである。柱痕は径0.2mである。

埋土 褐色土・黄褐色土の順に層をなして堆積している。

柱穴 規模 No 1 長径(6.7)m、短径6.4m、深さ2.2m	No 2 長径1.14m、短径0.55m、深さ0.4m
No 3 長径1.1m、短径0.7m、深さ0.62m	No 4 長径0.75m、短径0.6m、深さ0.5m
No 5 長径0.75m、短径0.6m、深さ0.43m	No 6 長径1.24m、短径0.8m、深さ0.6m
No 7 長径1.3m、短径0.7m、深さ0.65m	

1. 褐色土 灰白色砂質土塊・F P粒を含む。
2. 褐色土 褐色土塊を含む。
3. 黄褐色土 F P粒をやや多く含む。
4. 黒褐色土 F P粒・炭化物粒子を少量含む。



第390図 12号掘立柱建物跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 13号掘立柱建物跡 (PL52-55)

位置 78-M-15グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-3°-E

重複 76・85・106号住居跡を掘り込む。14号掘立柱建物とも重複するが、新旧関係は不明。

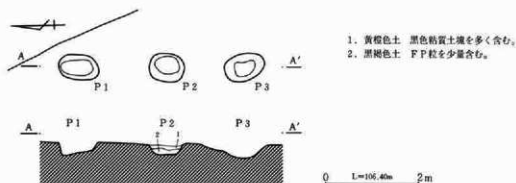
規模と形状 大半が調査区外で西側2間分のみ検出された。柱物の西南隅と考えられるが柱穴は南北に長い縦長長方形を呈し、長径約0.8m、短径約0.6m、柱間は2mである。

埋土 黄褐色土と黒褐色土が層状に堆積する。

#### 柱穴

規模 No 1 長径0.86m、短径0.56m、深さ0.26m No 2 長径0.75m、短径0.61m、深さ0.21m

No 3 長径0.87m、短径0.6m、深さ0.3m



第391図 13号掘立柱建物跡

#### 14号掘立柱建物跡 (PL52-55)

位置 78-M-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-9°-E

重複 76・106号住居跡を掘り込む。13号掘立とも重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 梁間2間(3.8m)、東側が調査区外に出るため、全容は不明である。柱穴は径0.6m前後、柱間は桁行き・梁間とも1.7mで、柱痕は径0.2mである。

埋土 柱痕は褐色土・黒色土。柱の両側には暗褐色土・黄褐色土が入る。

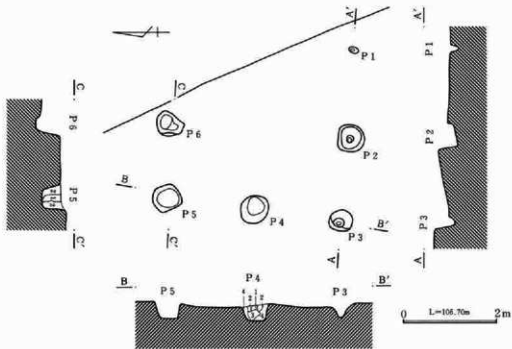
#### 柱穴

規模 No 1 長径0.2m、短径0.14m、深さ0.17m No 2 長径0.6m、短径0.55m、深さ0.4m

No 3 長径0.52m、短径0.45m、深さ0.42m No 4 長径0.65m、短径0.58m、深さ0.35m

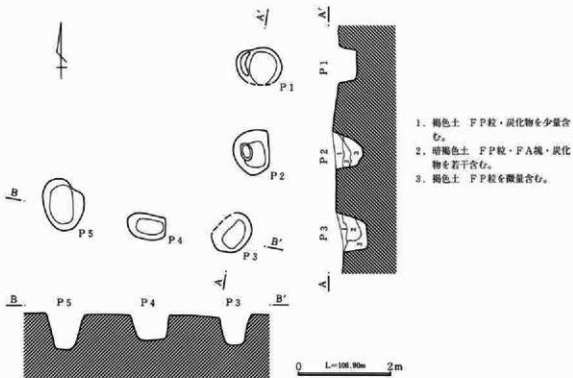
No 5 径0.6m、深さ0.41m No 6 長径0.59m、短径0.5m、深さ0.51m

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



1. 褐色土 F P粒・小石を含む。  
 2. 暗褐色土 F P粒・炭化物を含む。(柱痕)  
 3. 黒色土 砂礫を少量含む。(柱痕)  
 4. 黄褐色土 F P粒を含む。

第392図 14号掘立柱建物跡



1. 褐色土 F P粒・炭化物を少量含む。  
 2. 暗褐色土 F P粒・FA塊・炭化物を若干含む。  
 3. 褐色土 F P粒を微量含む。

第393図 15号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

15号掘立柱建物跡 (PL52-55)

位置 78-O-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-8°-E

重複 16・18号掘立柱建物跡を掘り込む。

規模と形状 北西半分が調査区外に出るため全容不明。南側梁間および東側桁行き各2間分のみ検出された。柱穴は楕円形を呈し、長径約0.9m、短径約0.75m、柱間は桁行き・梁間とも約2mである。

埋土 褐色土・暗褐色土・褐色土の順で層をなして堆積する。

柱穴 規模 No1長径(1.0)m、短径0.8m、深さ0.42m No2長径0.95m、短径0.75m、深さ0.61m  
No3長径0.96m、短径(0.7)m、深さ0.7m No4長径0.85m、短径0.54m、深さ0.52m  
No5長径1.06m、短径0.97m、深さ0.8m

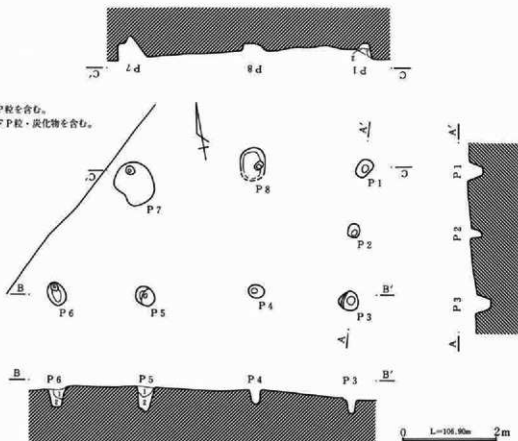
16号掘立柱建物跡 (PL52-55)

位置 78-N-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-81°-W

重複 72・74号住居跡に掘り込まれる。15・18号掘立とも重複するが新旧関係は不明である。

規模と形状 梁間2間(2.8m)であるが、西側が調査区外に出るため全容は不明である。桁行きは3間分のみ検出された。柱穴は円形で径0.4~0.7m、柱間は桁行き約2.2m、梁間1.5mである。

埋土 褐色土・暗褐色土の順で層をなす。



第394図 16号掘立柱建物跡



- 柱穴 規模 No1 長径0.4m、短径0.3m、深さ0.3m  
 No3 径0.4m、深さ0.3m  
 No5 長径0.45m、短径0.4m、深さ0.52m  
 No7 長径0.9m、短径0.6m、深さ0.52m  
 No2 長径0.3m、短径0.25m、深さ0.25m  
 No4 長径0.35m、短径0.3m、深さ0.3m  
 No6 長径0.52m、短径0.37m、深さ0.38m  
 No8 長径(0.68)m、短径(0.52)m、深さ0.16m
- 備考 Pit 7・8 は後から掘り込まれた土坑によって掘り広げられている。

## 17号掘立柱建物跡 (PL52-55)

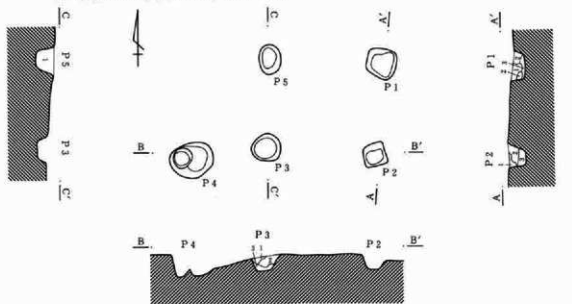
位置 78-N-17グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-88°-W

重複 72・101号住居跡を掘り込む。12号掘立とも重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 西側が調査区外へ出るため、全容は不明である。南側2間、東側1間分が検出されたが、北側も調査区の北辺に接しており、北側へも建物がのびている可能性がある。柱穴は楕円形を呈し、径0.6m前後、柱間は約2mである。

埋土 褐色土・暗褐色土の順に層状に堆積する。

- 柱穴 規模 No1 長辺0.64m、短辺0.6m、深さ0.26m No2 一辺0.49m、深さ0.37m  
 No3 長径0.64m、短径0.56m、深さ0.35m No4 長径0.95m、短径0.75m、深さ0.46m  
 No5 長径0.64m、短径0.5m、深さ0.43m



1. 褐色土 F P粒を含む。

2. 暗褐色土 F P粒を少量含む。

3. 暗褐色土 F A塊・F P粒を微量含む。

0 L=106.90m 2m

第395図 17号掘立柱建物跡

## 18号掘立柱建物跡 (PL52-55)

位置 78-O-16グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-84°-W

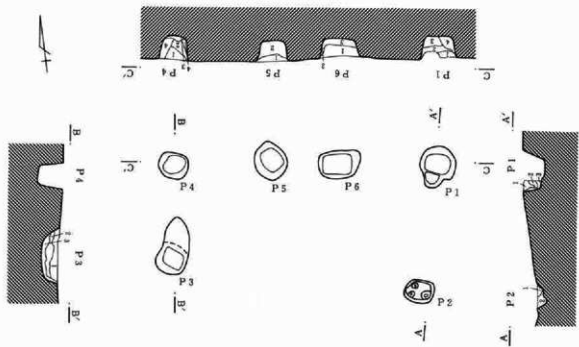
重複 15号掘立柱建物跡に掘り込まれる。16号掘立とも重複するが、新旧関係は不明。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 桁行き3間(5.6m)、梁間は不明。柱穴は隅丸方形に近い楕円形を呈し、長径約0.8m、短径約0.6m、柱間は桁行き、梁間とも2mである。

**埋土** 黒褐色土・黒色土・灰黄褐色土の順に層が堆積している。

**柱穴** 規模 No 1 長径0.91m、短径0.79m、深さ0.5m No 2 長径0.65m、短径0.5m、深さ0.21m  
 No 3 長径1.23m、短径0.64m、深さ0.35m No 4 長径0.63m、短径0.55m、深さ0.51m  
 No 5 長径0.84m、短径0.72m、深さ0.44m No 6 長径0.94m、短径0.61m、深さ0.39m



1. 黒褐色土 F P粒・炭化物を少量含む。
2. 黒色土 F P粒・炭化物をごく少量含む。
3. 灰黄褐色土 F P粒・炭化物・焼土を微量含む。
4. 黒色土 砂質土。

0 L=106.90m 2m

第396図 18号掘立柱建物跡

#### 19号掘立柱建物跡 (PL52-56)

**位置** 78-0-11グリッド **面積** 19.4㎡ **棟方位** N-87°-W

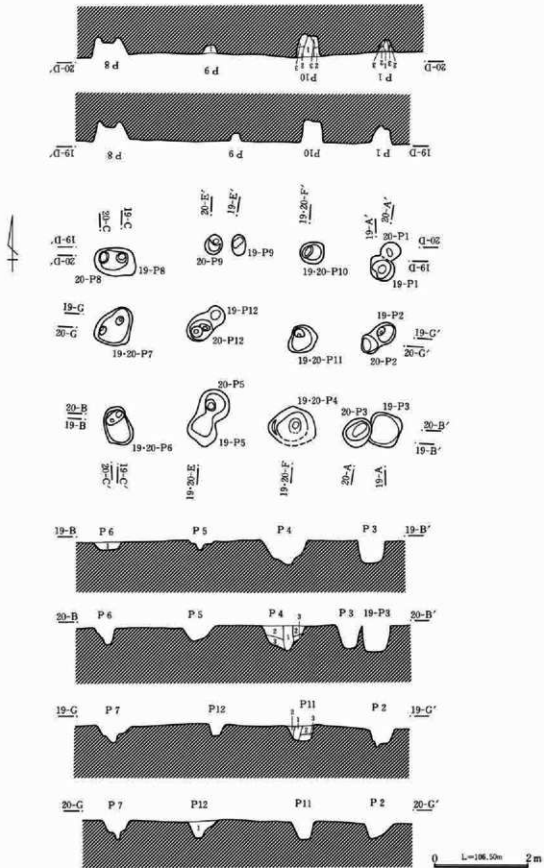
**重複** 20号掘立柱建物跡を掘り込む。

**規模と形状** 桁行き3間(5.7m)×梁間2間(3.4m)を測り、東西に長い縦長形状を呈する。八脚門で東西に柱穴列がとりつく。総柱建物で、ほぼ同位置にある20号掘立柱を建て替えたものと考えられる。柱穴はほぼ円形を呈し、径0.4~0.6m、柱痕は径0.2~0.3mで、柱間は桁行き・梁間とも約1.7mである。建物の基盤には基礎地業が施されており、建設時には入念な準備が行われていたと考えられる。なお Pit 4・6・7・8・10・11は全く同位置に重複している。

**埋土** 柱痕は褐灰色土、柱痕の両側には灰黄褐色土・黒褐色土の順に層状に堆積している。

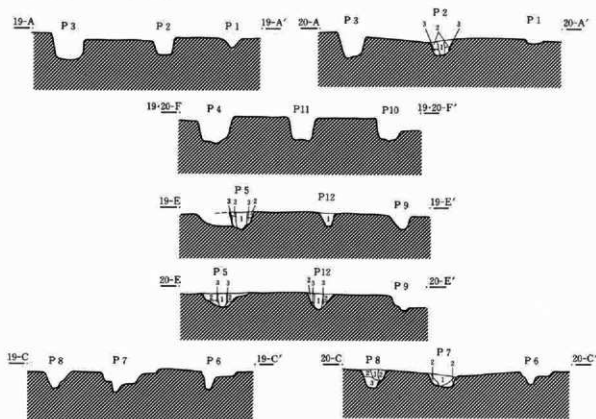
**柱穴**

規模 No 1 長径0.6m、短径0.48m、深さ0.38m No 2 長径0.49m、短径0.43m、深さ0.38m



第397図 19・20号掘立柱建物跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



1. 褐色土 砂礫・炭化物を少量含む。(柱痕)
2. 灰黄褐色土 砂礫をごく少量含む。
3. 黒褐色土 黄褐色粒子を少量含む。

第398図 19・20号掘立柱建物跡(2)

No 3 長径0.72m、短径0.65m、深さ0.49m	No 4 長径1.02m、短径0.81m、深さ0.51m
No 5 長径0.69m、短径0.6m、深さ0.35m	No 6 長径0.84m、短径0.55m、深さ0.38m
No 7 長径0.89m、短径0.73m、深さ0.43m	No 8 長径0.86m、短径0.6m、深さ0.38m
No 9 長径0.46m、短径0.38m、深さ0.27m	No 10 長径0.55m、短径0.46m、深さ0.48m
No 11 長径0.64m、短径0.54m、深さ0.49m	No 12 長径0.42m、短径0.37m、深さ0.29m

備考 本遺跡で検出された掘立柱建物のうち、19・20号のみが総柱で、かつ全く同位置に建て替えがなされている。

20号掘立柱建物跡 (PL52-56)

位置 78-O-11グリッド 面積 19.4㎡ 横方位 N-88°-W

重複 19号掘立柱建物跡に掘り込まれる。

規模と形状 桁行き3間(5.1m)×梁間2間(3.8m)を測り、東西に長い長方形を呈する。19号掘立柱建物に先行する八脚門で、19号掘立柱建物より約1度南西に位置する。柱穴はほぼ円形を呈し、径0.4-0.6m、柱痕は径0.2-0.3mで、柱間は桁行き、梁間とも約1.7mである。19号掘立柱建物と全く同形・同規模である。

埋土 柱痕は褐色土、柱痕の両側には灰黄褐色土・黒褐色土の順に層状に堆積している。

柱穴 規模 No 1 長径0.4m、短径(0.35)m、深さ0.27m No 2 長径0.42m、短径(0.37)m、深さ0.36m

No 3 長径0.65m、短径0.58m、深さ0.56m	No 4 長径1.02m、短径0.81m、深さ0.51m
No 5 長径0.76m、短径(0.52)m、深さ0.36m	No 6 長径0.84m、短径0.55m、深さ0.51m
No 7 長径0.89m、短径0.73m、深さ0.43m	No 8 長径0.86m、短径0.6m、深さ0.38m
No 9 長径0.41m、短径0.36m、深さ0.29m	No10 長径0.55m、短径0.46m、深さ0.48m
No11 長径0.64m、短径0.54m、深さ0.49m	No12 長径(0.58)m、短径0.51m、深さ0.36m

## 21号掘立柱建物跡 (PL52-57)

位置 78-M-11グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-87°-W

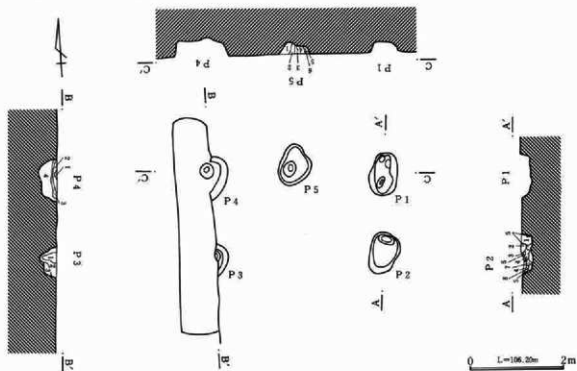
重埋 126号住居跡を掘り込む。1号溝に掘り込まれる。

規模と形状 南側を1号溝に破壊されているため、全容は不明である。南側2間分(4.3m)と東・西1間分(2.5m)のみ検出された。Pit 1・4・5は門に取り付く塀(1号柱穴列)の柱穴がほぼ同位置に後から掘り込まれており、若干形状が原形と異なっている。1~20号掘立よりも古く、官衙造営時に埋められ、整地されたものとみられる。柱穴は楕円形を呈し、長径0.9m、短径0.6m、柱痕は径0.26m、柱間は1.7mである。

埋土 土に黄褐色土・褐灰色土・黒褐色土・灰黄褐色土が細かくブロック状に堆積している。Pit 1・4・5は1号柱穴列の埋土の部分と、21号掘立に伴う埋土の部分に分けられる。21号掘立の埋土は人為的に埋められている可能性が高い。

## 柱穴

規模 No 1 長径0.89m、短径0.59m、深さ0.21m	No 2 長径0.89m、短径0.61m、深さ0.23m
No 3 長径(0.71)m、短径(0.26)m、深さ0.36m	No 4 長径0.92m、短径(0.6)m、深さ0.38m
No 5 長径0.87m、短径0.74m、深さ0.27m	



第399図 21号掘立柱建物跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. にぶい黄褐色 F P粒・暗褐色土塊をやや多く含む。 | 5. 黒褐色土 As-C混入土塊        |
| 2. 褐灰色土 F P粒・砂粒を少量含む。        | 6. 灰黄褐色土 F P粒・砂粒を若干含む。  |
| 3. にぶい黄褐色土 粘質土塊              | 7. 灰黄褐色土 砂粒・As-C粒を微量含む。 |
| 4. にぶい黄褐色土 F P粒・灰黄褐色土塊を微量含む。 | 8. にぶい黄褐色土 砂粒を少量含む。     |

#### 22号掘立柱建物跡 (PL52-57)

位置 78-K-11グリッド 面積 16.5㎡ 横方位 N-7°-W

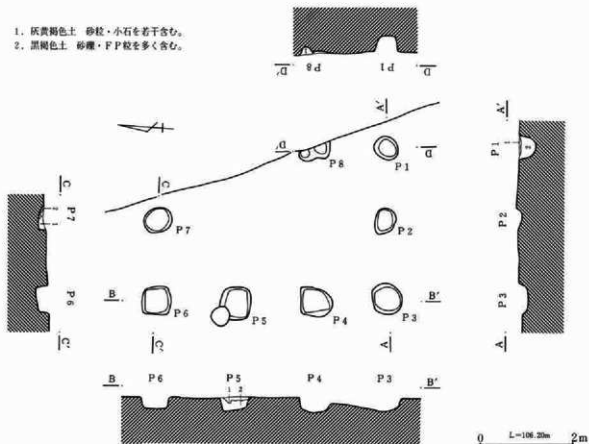
重複 なし

規模と形状 桁行き3間(5m)×梁間2間(3.3m)を測り、南北に長い縦長長方形を呈する。柱穴は隅丸方形で、径0.6m、柱間は桁行き・梁間とも1.7mである。比較的小型の建物で、1~20号掘立より先行するもので、官衛造営時に埋められ、整地されたものと考えられる。

埋土 灰黄褐色土と黒褐色土の2層。細かい黒色土のブロックが斑状に混入しており、人為的に埋められたものと考えられる。

柱穴 規模 No1長径0.54m、短径0.48m、深さ0.34m No2長径0.56m、短径0.46m、深さ0.13m  
 No3長径0.7m、短径0.6m、深さ0.26m No4長径0.69m、短径0.54m、深さ0.34m  
 No5長辺0.69m、短辺0.64m、深さ0.31m No6長辺0.64m、短辺0.62m、深さ0.24m  
 No7長径0.57m、短径0.51m、深さ0.14m No8長径0.71m、短径0.29m、深さ0.16m

1. 灰黄褐色土 砂粒・小石を若干含む。
2. 黒褐色土 砂礫・F P粒を多く含む。



第400図 22号掘立柱建物跡

## 23号掘立柱建物跡 (PL52-57)

位置 78-N-9グリッド 面積 測定不能 棟方位 N-82°E

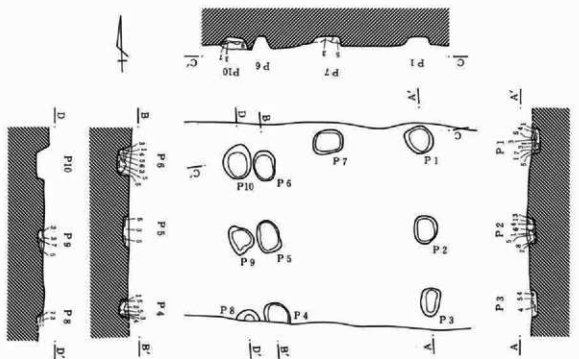
重複 なし

規模と形状 梁間2間(4.45m)、南側が中世居館造営時にカットされているため全容は不明であるが、西側に廊が付き、南北に長い縦長方形を呈する。桁行きは2間(3.6m)分のみ検出された。柱穴は南北に長い楕円形を呈し、長径0.6m、短径0.5m、柱間は桁行き・梁間ともに1.7mである。本掘立も1-20号掘立に先行するもので、官衙造営時に埋められ、整地されたとみられる。

埋土 灰黄褐色土・にぶい黄褐色土・褐灰色土・黒褐色土・にぶい黄褐色土が細かいブロック状に入っている。人為的に埋められたものとみられる。

柱穴

規模 No1長径0.58m、短径0.56m、深さ0.16m No2長径0.59m、短径0.5m、深さ0.21m  
 No3長径0.61m、短径0.42m、深さ0.13m No4長径(0.42)m、短径0.54m、深さ0.19m  
 No5長径0.69m、短径0.48m、深さ0.14m No6長径0.66m、短径0.48m、深さ0.39m  
 No7長径0.64m、短径0.49m、深さ0.22m No8長径(0.24)m、短径0.51m、深さ0.14m  
 No9長径0.63m、短径0.48m、深さ0.11m No10長径0.74m、短径0.59m、深さ0.31m



1. 灰黄褐色土 砂礫・小石をやや多く、F P粒を少量含む。
2. にぶい黄褐色土 砂礫・F P粒を少量含む。
3. 褐灰色土 F P粒を少量含む。
4. 灰黄褐色土 粘質土・シルト質土が互層に入る。
5. 黒褐色土 粘質土
6. 灰黄褐色土 粘質土とシルト質土塊が互層に入る。
7. にぶい黄褐色土 黒褐色粘質土塊と灰黄褐色シルト質土塊が互層に入る。
8. 褐灰色土 砂礫・F P粒を少量含む。
9. 灰黄褐色土 黄褐色シルト質土塊・黄褐色粒子・橙色粒子・砂礫を少量含む。

0 L=100.10m 2m

第401図 23号掘立柱建物跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 1号柱穴列 (PL56・57)

位置 78-K-M、P-R-11グリッド 様方位 N-86°-W

重複 なし

規模と形状 長さは東側で13.9m、西側で17.7m。東側は19・20号掘立 Pit 2 から東南へ斜めに伸び、Pit 5 から10までは、ほぼ真東に一直線に並ぶ。Pit 2～4号は21号掘立の柱穴とほぼ同位置に掘られているためやや大き目であるが、柱穴はおよそ楕円形を呈し、長径0.5、短径0.31m、柱痕は径0.25m、柱間は約2mである。西側に比べて南に屈曲し、不整形である。西側は、19・20号掘立 Pit 7 からはほぼ西へ一直線に並ぶ。柱穴はほぼ円形を呈し、径はほぼ0.5～0.8m、柱痕は径0.2～0.25m、柱間は約2mである。東側が屈曲するのでやや不整形であるが、門の東西両側面中央の柱穴に取り付く、板塼のような区画施設と考えられる。

#### 柱穴

##### 規模 東

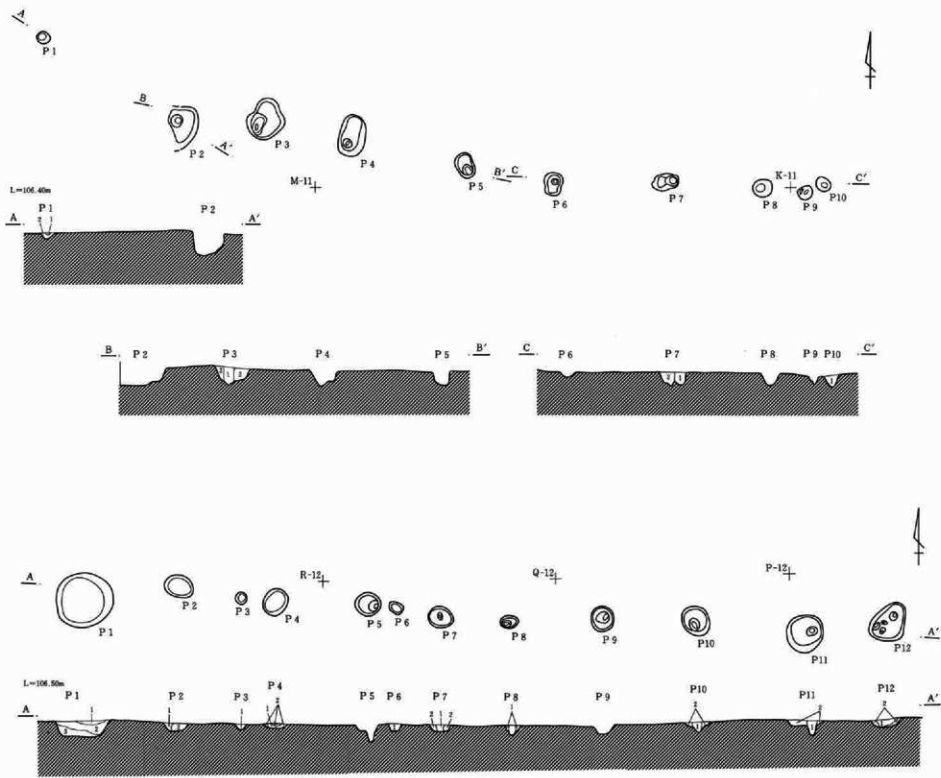
No 1 長径0.24m、短径0.2m、深さ0.16m	No 2 長径0.91m、短径0.64m、深さ0.32m
No 3 長径0.91m、短径0.81m、深さ0.38m	No 4 長径0.88m、短径0.56m、深さ0.36m
No 5 長径0.54m、短径0.36m、深さ0.29m	No 6 長径0.51m、短径0.41m、深さ0.16m
No 7 長径0.56m、短径0.35m、深さ0.31m	No 8 長径0.41m、短径0.38m、深さ0.28m
No 9 長径0.32m、短径0.28m、深さ0.18m	No 10 長径0.29m、短径0.23m、深さ0.24m

##### 西

No 1 長径1.3m、短径1.2m、深さ0.32m	No 2 長径0.61m、短径0.48m、深さ0.22m
No 3 長径0.26m、短径0.24m、深さ0.13m	No 4 長径0.57m、短径0.49m、深さ0.1m
No 5 長径0.54m、短径0.52m、深さ0.36m	No 6 長径0.32m、短径0.24m、深さ0.18m
No 7 長径0.56m、短径(0.44)m、深さ0.17m	No 8 長径0.39m、短径0.28m、深さ0.21m
No 9 長径0.54m、短径0.47m、深さ0.19m	No 10 長径0.67m、短径0.56m、深さ0.22m
No 11 長径0.81m、短径0.79m、深さ0.31m	No 12 長径0.88m、短径0.73m、深さ0.15m

埋土 柱痕は黒褐色土。柱痕の両側には灰黄褐色土が入る。





1. 灰黄褐色土 砂礫・泥化物を若干含む。(柱状)
2. 褐色土 砂礫・黒褐色土塊をごく少量含む。
3. 暗褐色土 砂粒を含む。

0 4m

第402図 1号柱穴列



## 3. 溝跡

## 4号溝跡 (PL57)

位置 78-K-12・13グリッド

重複 5・12・26・28・29号溝を掘り込む。

規模と形状 確認全長10.16m、上幅0.96m、下幅0.59m、深さ0.22m、北東側が調査区外へ出るので全容は不明である。調査範囲内では北壁から約5.5mの所で直角に曲がっている。溝の内側には柱穴・礎石等は確認できず、建物の雨落溝とは断定できない。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。浅間山火山灰 As-B 軽石を多く含むが、2次堆積と考えられる。

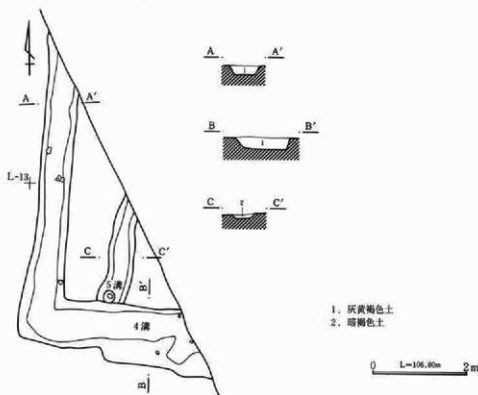
## 5号溝跡 (PL57)

位置 78-K-12グリッド

重複 12・28号溝を掘り込む。5号溝に破壊される。

規模と形状 確認全長2.2m、上幅0.54m、下幅0.32m、深さ0.09m、直角に曲がる4号溝の内側に位置する。4号溝に破壊されており、4号溝より古い。

埋土 暗褐色土をベースとする。浅間山火山灰 As-B 軽石を若干含む。



第403図 4・5号溝跡

## 6号溝跡 (PL57-112)

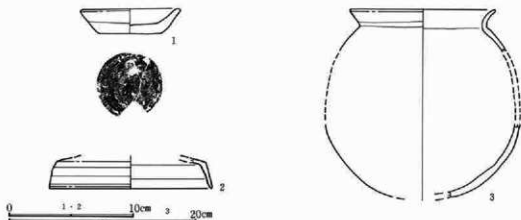
位置 78-J-11-S-11グリッド

重複 21・25号溝を掘り込む。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 確認全長42.5m、上幅1.24m、下幅0.19m、深さ0.59m、起電区所調査区、台地上部分の中央よりやや南寄りを東西に流れる。上層は断面逆台形、下層は断面長方形を呈する。かなりしっかりとした掘り方である。埋土の状態や切り合い関係からみれば、平安時代でもかなり新しい時期のものと考えられる。

**埋土** 浅間B軽石を多量に含む。



第404図 6号溝跡出土遺物

#### 6号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
6溝-1	土器器 杯	埋土 口一底4/5	口7.7、底5.0、 高2.0	①にぶい黄橙 ②良好 ③ 細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転余切り未調整。
6溝-2	須恵器 壺	埋土 海線部破片	径(13.0)、高(2 .4)	①灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。天部回転削り。
6溝-3	土器器 甕	埋土 口縁部・底 部破片	径(15.6)、高(2 0.3)	①にぶい濁 ②良好 ③中 ～細砂粒を少量含む。	口縁部・胴部横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。

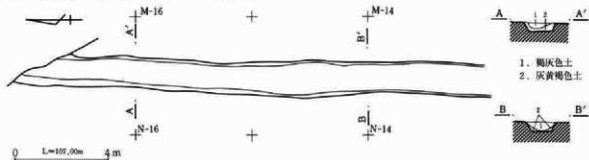
#### 7号溝跡 (PL57-112)

**位置** 78-M-13～17グリッド

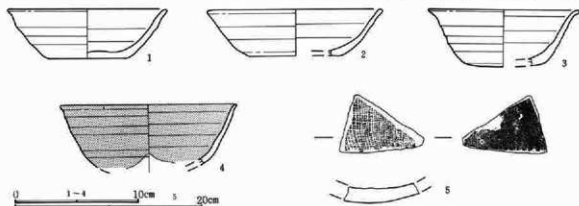
**重複** 9・23・29・36号溝、83・89・90・111号住居跡

**規模と形状** 確認全長23.8m、上幅1.54m、下幅1.32m、深さ0.38m、変電所調査区、台地上部分の東寄りを南北に流れる。12号溝にかかる部分より以南では削平されており、検出できない。断面は逆台形状を呈し、浅いがしっかりとした掘り方を有する。

**埋土** 褐灰色土、灰黄褐色土をベースとする。



第405図 7号溝跡



第406図 7号溝跡出土遺物

## 7号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
7溝-1	須恵器 坏	埋土 口~底1/4	口(12.6)、底6.0、高3.9	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
7溝-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/5	口(14.0)、底(7.4)、高3.7	①灰白 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
7溝-3	須恵器 坏	埋土 口~底1/8	口(12.0)、底(6.3)、高4.5	①灰黄 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
7溝-4	灰釉陶器 埴	埋土 口~体破片	口(14.0)、高5.0	①灰白 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。施釉方法は掛け掛け。
7溝-5	平瓦	埋土 端部破片	長(8.5)、短(6.4)、厚1.6	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を若干含む。	端部、凸面側で、凹面布目。

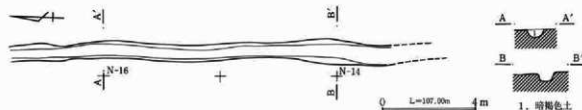
## 9号溝跡 (PL57-112)

位置 78-M-13~17グリッド

重複 23・29・36号溝、88・89・115号住居跡を掘り込む。7号溝に破壊される。

規模と形状 確認全長16.5m、上幅1.03m、下幅0.56m、深さ0.31m、変電所調査区、台地上部分の東寄り  
を7号溝にほぼ並行して南北に流れる。7号溝によって切られているので、7号溝よりは古い。7号溝と同じく、12号溝と交差する地点より南では削平されており、検出できない。断面は逆台形状を呈し、浅いがしっかりとした掘り方である。

埋土 暗褐色土をベースとする。

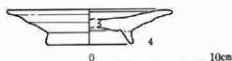


第407図 9号溝跡



第408図 9号溝跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第409図 9号溝跡出土遺物(2)

9号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
9溝-1	土師器 坏	埋土 口一底1/6	口(12.0)、底(7.8)、高2.7	①におい澄 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部一底部外面彫り、内面強で。
9溝-2	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(10.2)、底(6.5)、高3.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
9溝-3	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(12.8)、底(7.0)、高4.1	①黄灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整。
9溝-4	須恵器 皿	埋土 口一底1/3	口(13.2)、底(6.9)、高2.8	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

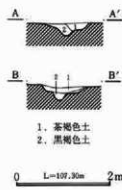
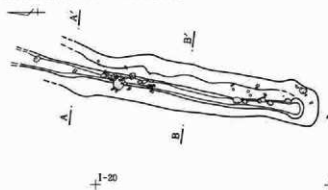
11号溝跡 (PL58)

位置 79-H-19-20グリッド

重複 17・33・38・39・60号住居跡を掘り込む。

規模と形状 確認全長6.38m、上幅1.04m、下幅0.21m、深さ0.24m、本線調査区の北西寄りを南北に流れ、19ラインの手前で途切れる。断面は段差を有し、中央部が一段と低くなる。

埋土 灰黄褐色土、黒褐色土をベースとする。



第410図 11号溝跡

12号溝跡 (PL58-59-112-113-114)

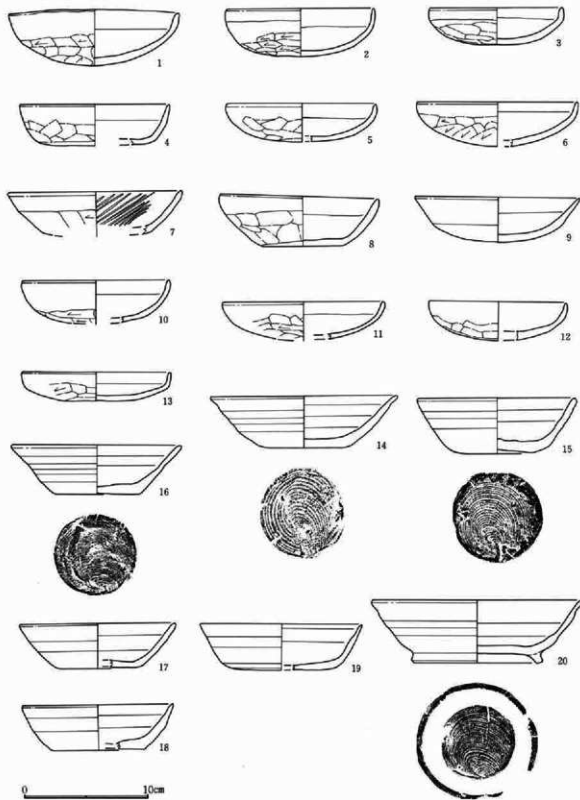
位置 78-K-79-E-12グリッド

重複 4・5・6・7・24・34・35号溝を掘り込む。

規模と形状 確認全長67.48m、上幅1.46m、下幅0.92m、深さ0.78m、起電区分所調査区、台地上部分の中央よりやや南寄り、本線調査区台地上部分の南端を東から西へほぼ一直線に流れる。東端は調査区外に出、上越新幹線融通寺遺跡調査範囲でも一部検出されている。西端は調査区西端まで達しており、中世居館造営時にカットされている。断面は逆台形状を呈し、本遺跡で検出された奈良・平安時代の溝の中ではもっともしっかりした掘り方を有する。八脚門(19・20号掘立柱建物)の北側では、門に寄るように南側へ彎曲して

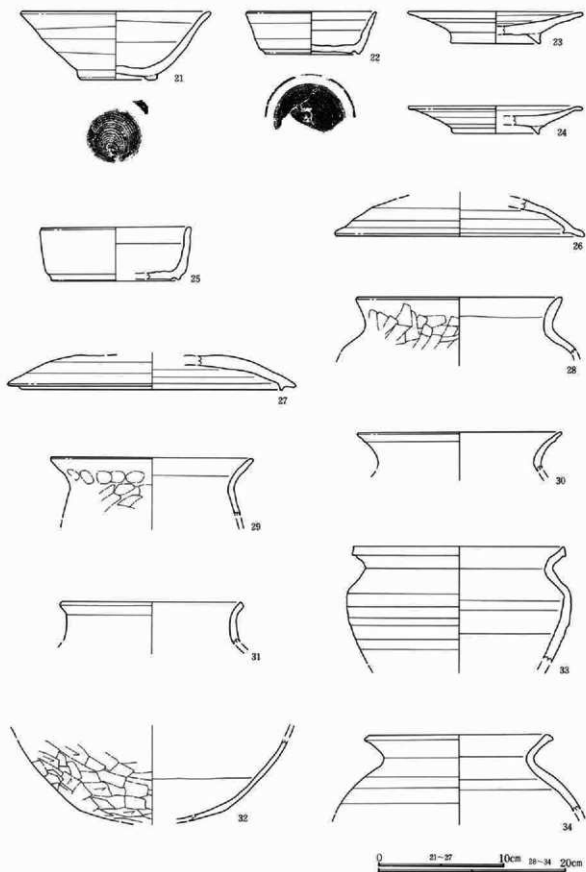
おり、門の雨落溝を意識してつくられている。門と塀の内側にあるが、塀が途中で止まっているため、官街域を区画する溝として機能したものと考えられる。

埋土 黄灰色シルト質をベースとする。



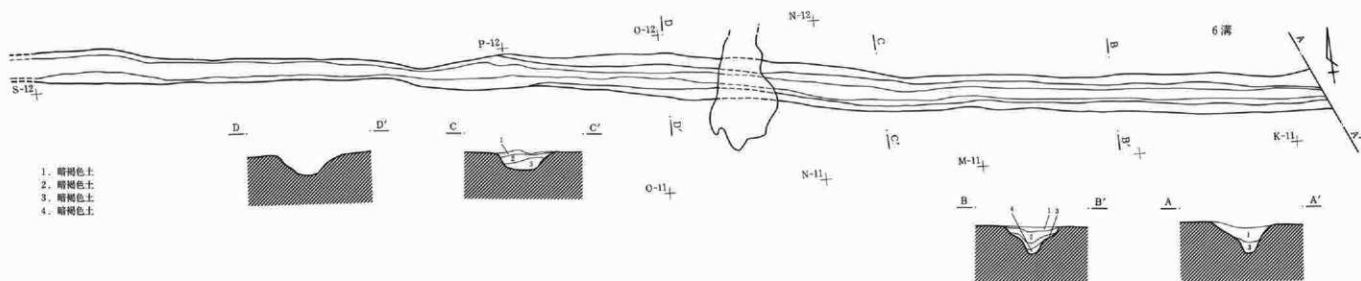
第411図 12号溝跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

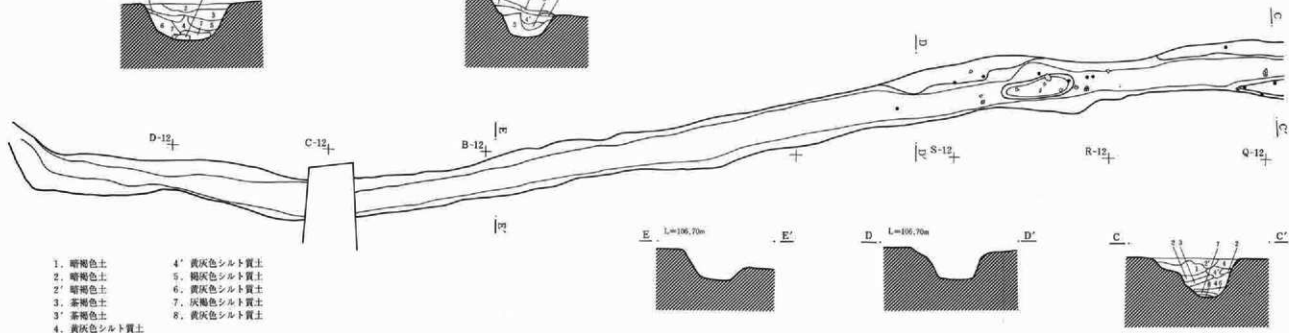
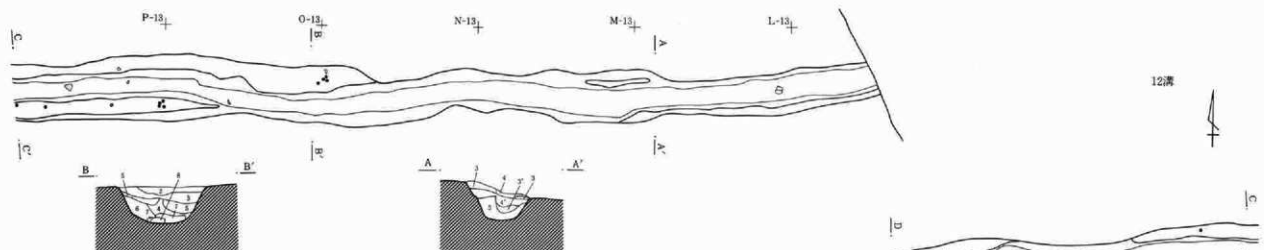


第412図 12号溝跡出土遺物(2)





1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土



1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土
- 4' 黄灰色シルト質土
5. 黄灰色シルト質土
6. 黄灰色シルト質土
7. 灰褐色シルト質土
8. 黄灰色シルト質土

0 L=106.70m 4m 0 L=106.70m 6m

第413図 6・12号溝跡



## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

12号溝遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 保存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器 形 ・ 装 形 の 特 徴
12溝-1	土師器 坏	埋 土 口縁一部欠	口13.6、底3.4、 高4.5	①にぶい褐色 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体-底部外面施削り、内面撫 で。
12溝-2	土師器 坏	埋 土 口一底2/3	口(12.0)、底3. 9、高3.8	①灰青褐色 ②良好 ③細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体-底部外面施削り、内面撫 で。
12溝-3	土師器 坏	埋 土 口一底1/2	口(10.6)、底3. 4、高2.8	①橙 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。
12溝-4	土師器 坏	埋 土 口一底1/8	口(12.0)、底(9 .0)、高3.3	①にぶい褐色 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。
12溝-5	土師器 坏	埋 土 口(12.0)、底(4 口一底1/3 .4)、高3.0	①にぶい褐色 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-6	土師器 坏	埋 土 口(12.6)、底(2 口一底1/2 .8)、高3.5	①橙 ②やや良好 ③中- 細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-7	土師器 坏	埋 土 口一破碎片	口(14.0)、高(3 .5)	①橙 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。体部内面に放射状筋文。
12溝-8	土師器 坏	埋 土 口一底2/3	口12.8、底6.5、 高4.2	①赤褐色 ②良好 ③中- 細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。
12溝-9	土師器 坏	埋 土 口(13.2)、底2. 口一底1/5 8、高3.5	①明褐色 ②良好 ③中- 細砂粒をやや多く含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-10	土師器 坏	埋 土 口(11.8)、底(4 口一底1/6 .1)、高(3.4)	①明褐色 ②良好 ③細砂粒 を含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-11	土師器 坏	埋 土 口(13.0)、底(3 口一底1/6 .2)、高(3.0)	①にぶい褐色 ②良好 ③中 -細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-12	土師器 坏	埋 土 口(10.8)、底(3 口一底1/4 .5)、高3.1	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を多量に含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-13	土師器 坏	埋 土 口(12.0)、底6. 口一底1/6 4、高2.3	①明褐色 ②良好 ③中- 細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-14	須恵器 坏	埋 土 口一底2/3	口(15.0)、底7. 口一底2/3 0、高4.1	①灰黄 ②やや不良 ③細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
12溝-15	須恵器 坏	埋 土 口(12.6)、底7. 口一底1/3 0、高4.3	①灰 ②やや良好 ③砂雜 ・中-細砂粒をやや多く含 む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。	
12溝-16	須恵器 坏	埋 土 口(13.6)、底6. 口一底2/3 8、高3.9	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。	
12溝-17	須恵器 坏	埋 土 口(12.5)、底(7 口一底1/4 .0)、高3.6	①灰 ②やや良好 ③中- 細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後、撫で。	
12溝-18	須恵器 坏	埋 土 口(12.0)、底(7 口一底1/6 .0)、高3.6	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転施削り。	
12溝-19	須恵器 坏	埋 土 口(13.0)、底(8 口一底1/8 .4)、高3.7	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	轆轤整形。底部回転施削り。	
12溝-20	須恵器 坏	埋 土 口(16.8)、底9. 口一底4/5 2、高5.0	①灰 ②やや不良 ③中- 細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。	
12溝-21	須恵器 坏	埋 土 口15.1、底6.3、 口一底1/2 5、高5.4	①にぶい褐色 ②やや不良 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。	
12溝-22	須恵器 坏	埋 土 口(10.4)、底7. 口一底1/4 5、高3.4	①灰 ②良好 ③紫褐色	轆轤整形。底部回転施削り、高台部削り出し。	
12溝-23	須恵器 坏	埋 土 口(14.0)、底(7 口一底1/4 .2)、高2.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多量に含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。	
12溝-24	須恵器 坏	埋 土 口(14.0)、底(7 口一底1/6 .5)、高2.1	①灰 ②やや良好 ③中- 細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。	
12溝-25	須恵器 坏	埋 土 口(12.0)、底(1 口一底1/5 0.0)、高4.3	①灰 ②良好 ③紫褐色	轆轤整形。底部回転施削り、高台部削り出し。	
12溝-26	須恵器 坏	埋 土 径(20.0)、高(3 口一破碎片 .0)	①灰 ②良好 ③紫褐色	轆轤整形。	
12溝-27	須恵器 坏	埋 土 径(22.8)、高(2 口一破碎片 .6)	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。体部回転施削り、つまみ部貼付痕あり。	
12溝-28	土師器 甕	埋 土 口(22.0)、高(6 口一肩破片 .2)	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を含む。	口縁部内外面横撫で。肩部-肩面外面施削り、内面撫 で。	
12溝-29	土師器 甕	埋 土 口(21.6)、高(6 口一破碎片 .2)	①橙 ②やや良好 ③細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部外面施削り、内面撫 で。	
12溝-30	土師器 甕	埋 土 口縁部破片	口(22.0)、高(3 .8)	①にぶい赤褐色 ②良好 ③ 細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。

### 第3章 検出された遺構と遺物

12溝-31	土師器 甕	埋土 □縁部破片	口(19.8)、高(4.2)	①明赤釉 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横溝で。
12溝-32	土師器 甕	埋土 底部破片	底(16.0)、高(8.5)	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	体部-底部外面縦溝、内面無。
12溝-33	須恵器 甕	埋土 □-胴破片	口(22.6)、高(2.4)	①褐灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	輪縁整形。
12溝-34	須恵器 甕	埋土 □-胴破片	口(20.2)、高(8.1)	①褐灰 ②良好 ③中-細砂粒を微量含む。	輪縁整形。

#### 13号溝跡 (PL114)

位置 79-G-H-15グリッド

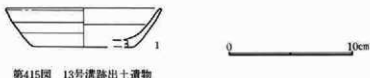
重複 なし

規模と形状 確認全長5.56m、上幅0.78m、下幅0.35m、深さ0.39m、本線調査区のはほぼ中央に位置する。東西方向の溝であるが、東西両端とも途切れている。

埋土 上層に褐灰色土、下層に黄橙色土が堆積している。



第414図 13号溝跡



第415図 13号溝跡出土遺物

#### 13号溝遺物観察表

番号	器種	出土状況 監視状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
13溝-1	須恵器 坏	埋土 □-底破片	口(12.4)、底(8.0)、高3.0	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を若干含む。	輪縁整形。底部回転彫削り。

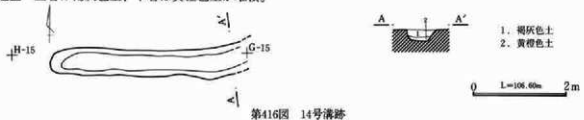
#### 14号溝跡 (PL59)

位置 79-G-15グリッド

重複 なし

規模と形状 確認全長4.13m、上幅0.62m、下幅0.36m、深さ0.23m、東西にのびる、西側は H-15Gr の手前で止まる。東側が削平をうける。

埋土 上層は褐灰色土、下層は黄橙色土が堆積。



第416図 14号溝跡

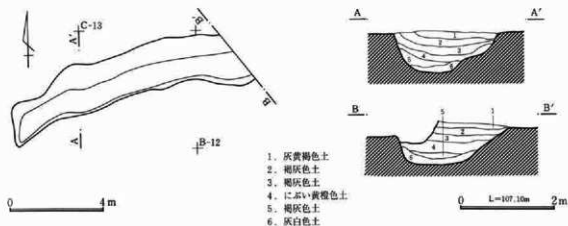
15号溝跡 (PL59・60・114・115)

位置 79-A~C-12グリッド

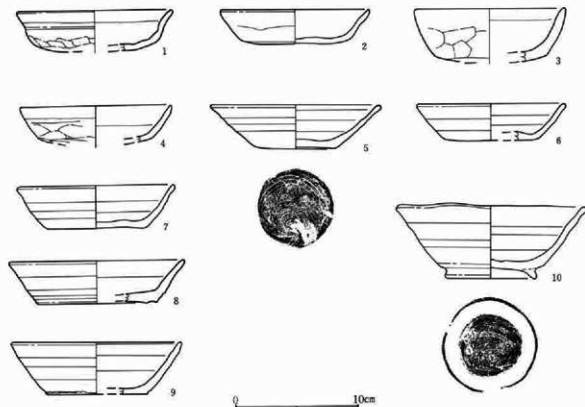
重複 なし

規模と形状 確認全長9.92m、上幅2.54m、下幅1.18m、深さ0.94m、本線調査区、台地上部分の東端に位置する。東西に伸びるが西端はC-12Grの少し先で止まる。東端は調査区外に出るため、全容は不明である。

埋土 上層より灰黄褐色土、褐色土、灰白色土の順に堆積。

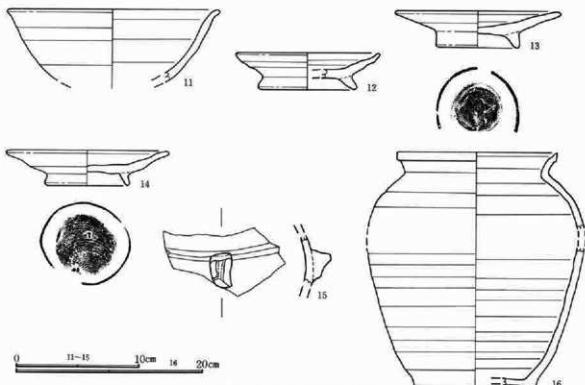


第417図 15号溝跡



第418図 15号溝跡出土遺物(1)

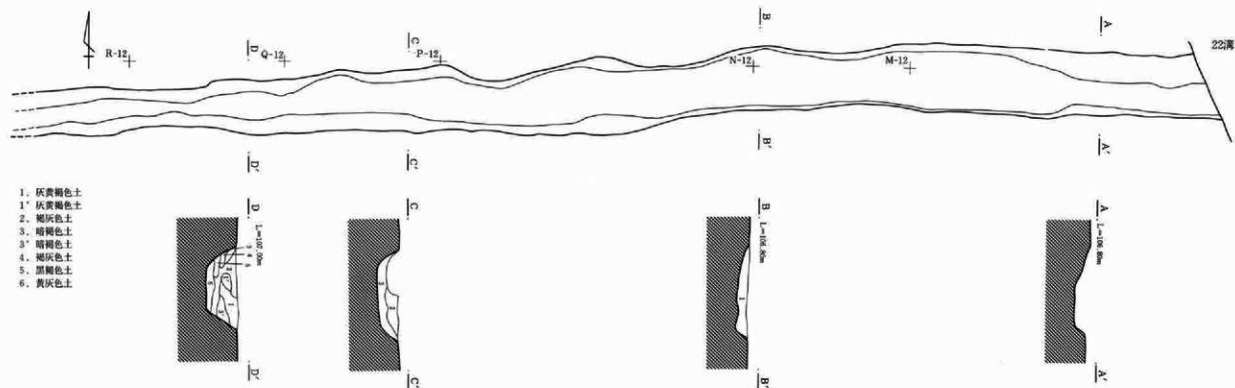
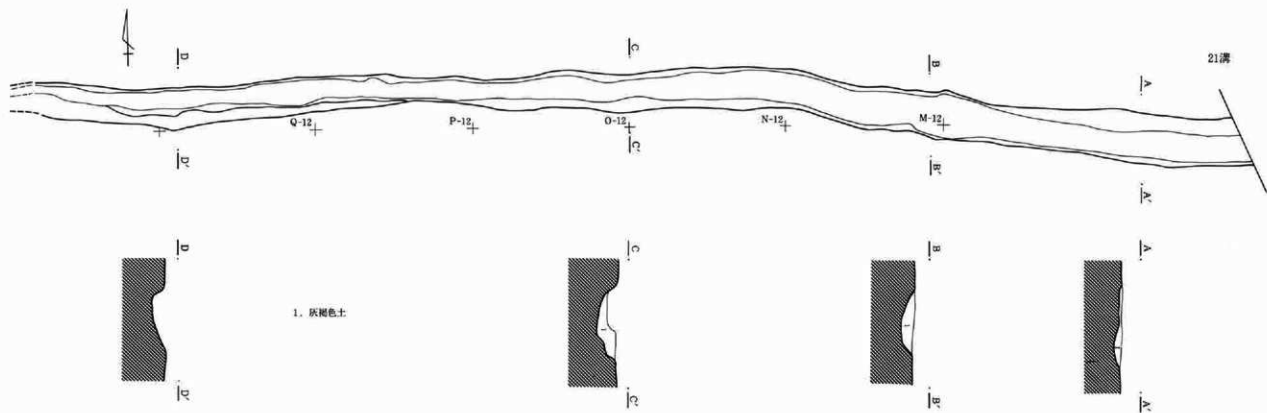
第3章 検出された遺構と遺物



第419図 15号溝跡出土遺物(2)

15号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
15溝-1	土師器 坏	埋土 口一底1/3	口(12.4)、底(9.4)、高(3.2)	①橙 ②良好 ③中一細砂粒を微量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面荒削り、内面撫で。
15溝-2	土師器 坏	埋土 口一底2/3	口(11.8)、底8.4、高2.7	①橙 ②やや良好 ③細砂粒を若干含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面荒削り、内面撫で。
15溝-3	土師器 坏	埋土 口一底1/6	口(12.0)、底(7.6)、高(4.1)	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面荒削り、内面撫で。
15溝-4	土師器 坏	埋土 口一底1/6	口(12.0)、高(3.2)	①にぶい橙 ②やや良好 ③中一細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部一底部外面荒削り、内面撫で。
15溝-5	須恵器 坏	埋土 口一底3/5	口(13.6)、底6.0、高3.5	①灰白 ②やや不良 ③中一細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
15溝-6	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(11.8)、底(7.0)、高2.9	①灰 ②不良 ③中一細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
15溝-7	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(12.0)、底7.9、高3.3	①灰 ②やや良好 ③中一細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
15溝-8	須恵器 甗	埋土 口一底1/5	口(14.0)、底(9.5)、高3.4	①灰 ②良好 ③紫織	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部削り出し、内外面に漆付着。
15溝-9	須恵器 坏	埋土 口一底破片	口(13.6)、底(8.0)、高4.1	①灰 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転荒削り。
15溝-10	須恵器 甗	埋土 口一底1/3	口(15.1)、底7.3、高5.9	①灰 ②良好 ③中一細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で。高台部貼付。
15溝-11	須恵器 甗	埋土 口一底破片	口(17.0)、高(5.8)	①灰 ②良好 ③紫織	轆轤整形。底部欠損。
15溝-12	須恵器 甗	埋土 口一底破片	口(11.4)、底(7.9)、高2.9	①灰 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
15溝-13	須恵器 甗	埋土 口一底1/2	口(13.2)、底6.7、高2.9	①灰白 ②やや良好 ③中一細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
15溝-14	須恵器 甗	埋土 口一底3/4	口(13.0)、底6.8、高2.6	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
15溝-15	須恵器 香伊	埋土 肩部破片	長(9.0)、幅(5.0)、厚0.6	①灰 ②良好 ③紫織	轆轤整形。突帯部貼付。



第420图 21・22号溝跡





15溝-16	須恵器 甕	埋土 口-体破片	口(17.0)、底口 3.0、高(24.6)	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。
--------	-------	-------------	---------------------------	---------------------------	-------

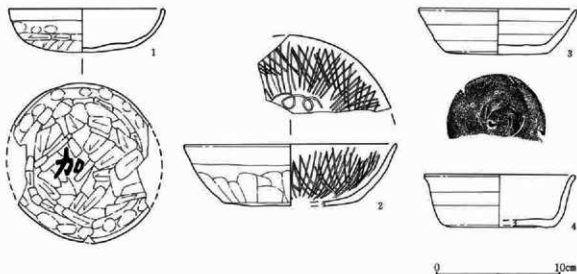
## 21号溝跡 (PL61-115)

位置 78-K-S-11グリッド

重複 19・20号掘立柱建物跡、25号溝を掘り込む。6号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長38.7m、上幅1.54m、下幅1.38m、深さ0.39m、起電区分所調査区、台地上部分の南寄りを東西に流れる。19・20号掘立柱建物跡、1号柱穴列よりは新しい。西端は削平され、S-11Gr付近より西側は検出できない。6・12・22・25号溝とはほぼ並行している。断面は逆台形状を呈しているが、浅く、掘り方もあまりしっかりととはしていない。

埋土 灰褐色土をベースとする。



第421図 21号溝跡出土遺物

## 21号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②地成 ③胎土	器形・整形の特徴
21溝-1	土師器 杯	埋土 口縁一部欠	口12.5、底3.8、 高3.5		①明褐色 ②良好 ③中-細 砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面彫り、内面 横溝で、底部外面には中央に「加」の墨書。
21溝-2	土師器 杯	埋土 口-底1/6	口(17.0)、底(1 0.8)、高4.9		①明赤褐色 ②良好 ③中- 細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面彫り、内面 横溝で、体部内面に斜格子彫文、底部内面に螺旋状 彫文が入る。
21溝-3	須恵器 杯	埋土 口-底1/3	口(12.6)、底6. 2、高3.6		①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	轆轤整形、底部回転彫り。
21溝-4	須恵器 杯	埋土 口-底1/4	口12.0、底(6.8 )、高4.2		①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	轆轤整形、底部回転彫り。

## 22号溝跡 (PL61-115)

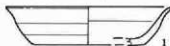
位置 78-K-R-11グリッド

重複 6・21号溝に掘り込まれる。19・20号掘立柱建物跡、24・25号溝を掘り込む。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 確認全長37.5m、上幅2.49m、下幅1.81m、深さ0.68m、起電区分所調査区、台地上部分の南寄りを東西に流れる。6・12・21・25号溝などとほぼ並行しているが、6・21号溝より古く、12・25号溝よりは新しい。S-11Gr、杭のやや手前から西側は削平をうけ、検出できない。断面は逆台形状を呈し、浅いがしっかりとした掘り方を有する。

**埋土** 上層に褐灰色土、下層に暗褐色土が堆積している。



第422図 22号溝跡出土遺物

0 10cm

#### 22号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
22溝-1	須恵器 環	埋土 口=底1/6	口(13.0)、底(9 .0)、高3.0	①黄灰 ②良好 ③中一細 砂粒を含む。	筒輪整形、底部回転糸切り未調整。

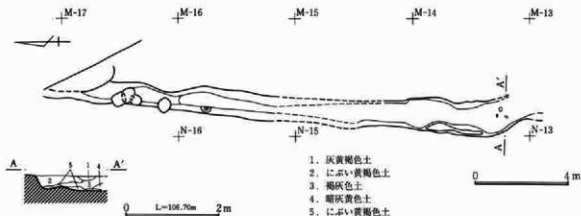
#### 23号溝跡 (PL61-115)

**位置** 78-M-14~16グリッド

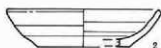
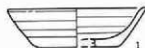
**重複** 85・89・90・111号住居跡を掘り込む。12・14号掘立、7・9号溝に掘り込まれる。

**規模と形状** 確認全長21.4m、上幅1.02m、下幅0.41m、深さ0.28m、変電所調査区、台地上部分の東寄りを南北に流れる。7・9号溝とほぼ同じ位置にあり、7・9号溝に掘り込まれ、壊されている。7・9号溝と同じく、12号溝と交差する地点より南では削平されており、検出できない。断面は逆台形を呈しており、浅いがしっかりとした掘り方である。12・14号掘立柱建物跡を掘り込んでいるが、官街造営時には存在した溝と考えられ、12号溝に注ぎ込んでいたものと考えられる。

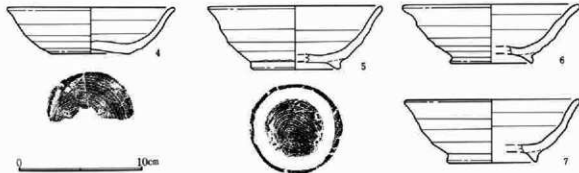
**埋土** 上層より灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、褐灰色土、にぶい黄褐色土の順に堆積。



第423図 23号溝跡



第424図 23号溝跡出土遺物(1)



第235図 23号溝跡出土遺物(2)

23号溝遺物観察表

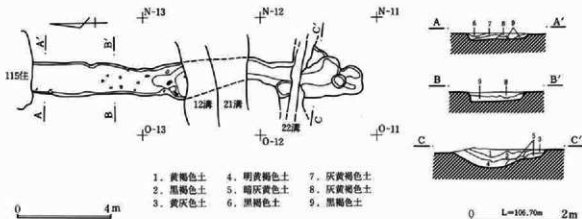
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
23溝-1	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(11.0)、底(6.4)、高3.1	①灰 ②良好 ③中~細砂粒をごく少量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
23溝-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(12.0)、底(6.6)、高3.0	①黒灰 ②良好 ③中~細砂粒を微量含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
23溝-3	須恵器 坏	埋土 口~底破片	口(11.0)、底(7.6)、高2.9	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り。
23溝-4	須恵器 坏	埋土 口~底1/4	口(13.0)、底(6.8)、高3.6	①灰 ②良好 ③砂礫・中~細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
23溝-5	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(13.7)、底(7.3)、高5.0	①灰 ②良好 ③中~細砂粒をやや多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
23溝-6	須恵器 坏	埋土 口~底1/3	口(14.0)、底(6.5)、高4.7	①灰白 ②やや良好 ③細砂粒を多量に含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
23溝-7	須恵器 坏	埋土 口~底1/6	口(14.0)、底(7.0)、高5.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

24号溝跡 (PL61・115・116)

位置 78-N-11~13グリッド

重複 115号住居跡、19・20号掘立柱建物跡、6・12・21・22・25・29・36号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長14.4m、上幅1.35m、下幅1.19m、深さ0.39m、起電区分所調査区、台地上部分の中央よりやや東寄りに位置し、南北に流れる。115号住居より北側は住居跡によって破壊されており、検出できない。南側は19・20号掘立柱建物跡の下、1号溝の手前で止まる。当然、19・20号掘立柱建物跡より古く、



1. 黄褐色土
2. 黒褐色土
3. 黄灰色土
4. 明黄褐色土
5. 暗黄褐色土
6. 黒褐色土
7. 灰黄褐色土
8. 灰黄褐色土
9. 黒褐色土

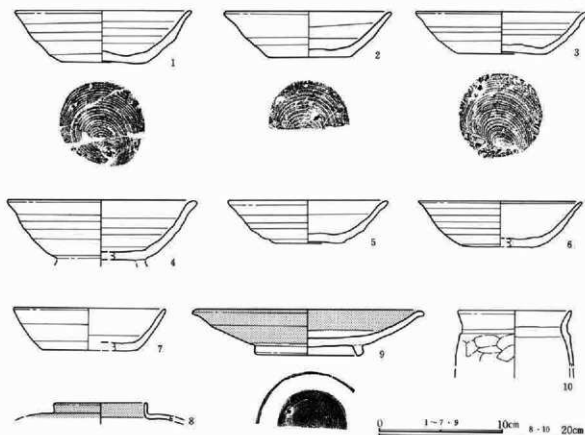
第246図 24号溝跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

掘立柱建物群造営時には埋められ、整地されたものとみられる。

断面は長方形を呈し、上幅が広い割りには浅い。

埋土 上層に灰黄褐色土、下層に黒褐色土が堆積する。



第427図 24号溝跡出土遺物

#### 24号溝遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
24溝-1	須恵器 坏	埋 土 口-底3/4	口(14.0)、底6.5、高4.1	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-2	須恵器 坏	埋 土 口-底1/2	口(13.3)、底6.2、高3.7	①黄灰 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-3	須恵器 坏	埋 土 口-底1/3	口(13.8)、底6.8、高3.3	①灰黄 ②やや良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-4	須恵器 埴	埋 土 口-底1/2	口(15.0)、高(4.7)	①灰 ②良好 ③細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕あり。
24溝-5	須恵器 坏	埋 土 口-底1/4	口(12.7)、底5.8、高3.4	①灰濁 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-6	須恵器 坏	埋 土 口-底1/6	口(13.0)、底(6.0)、高3.6	①黄灰 ②やや良好 ③中-細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-7	須恵器 坏	埋 土 口-底1/8	口(12.0)、底(7.4)、高3.3	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
24溝-8	灰釉陶器 壺	埋 土 口縁部破片	口(10.0)、高(1.5)	①灰白 ②良好 ③粗織	轆轤整形。
24溝-9	灰釉陶器 皿	埋 土 口-底1/2	口(18.4)、底8.6、高3.6	①灰白 ②良好 ③粗織	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
24溝-10	土師器 甕	埋 土 口-割破片	口(12.0)、高(5.9)	①暗赤褐 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部・肩部横溝で。胴部外側削り、内面撫で。

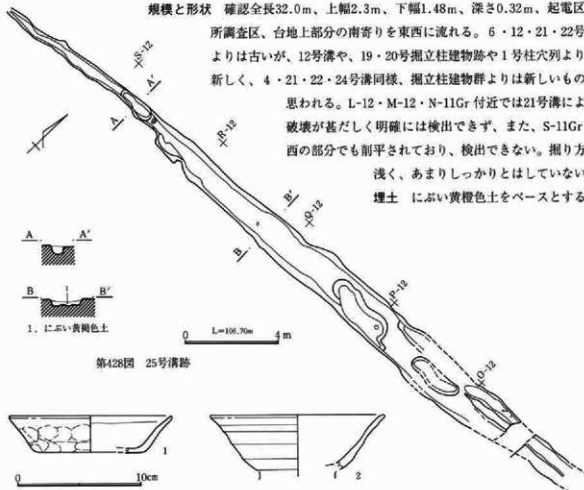
## 25号溝跡 (PL61-116)

位置 78-K-12~R-11グリッド

重複 4・12・21・22・24号溝、19・20号掘立柱建物跡を掘り込む。26号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長32.0m、上幅2.3m、下幅1.48m、深さ0.32m、起電区分所調査区、台地上部分の南寄りを通る。6・12・21・22号溝よりは古い、12号溝や、19・20号掘立柱建物跡や1号柱穴列よりは新しく、4・21・22・24号溝同様、掘立柱建物群よりは新しいものと思われる。L-12・M-12・N-11Gr付近では21号溝による破壊が甚だしく明確には検出できず、また、S-11Gr以西の部分でも削平されており、検出できない。掘り方は浅く、あまりしっかりとはいしていない。

埋土 におい黄褐色土をベースとする。



第428図 25号溝跡

第429図 25号溝跡出土遺物

## 25号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
25溝-1	土師器 坏	埋土 口-底破片	□(13.0)、底(8.6)、高2.9	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部外面上位指頭牙痕あり、体部外面下位-底部外面施刷り。内面無。
25溝-2	須恵器 施	埋土 口-体破片	□(14.0)、高(4.4)	①灰 ②良好 ③細鉄	横溝整形。

## 26号溝跡 (PL61-116)

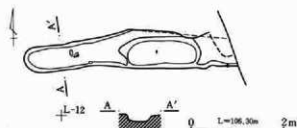
位置 78-K・L-12グリッド

重複 4・5・25号溝に掘り込まれる。

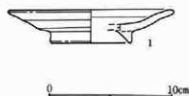
規模と形状 確認全長4.47m、上幅0.81m、下幅0.73m、深さ0.16m、起電区分所調査区、台地上部分南東隅に位置する。東側が調査区外に出る。西端は、東壁より約4.5m西の位置で止まる。上層を25号溝によって大きく破壊されているため、原形は不明。

埋土 灰褐色土が堆積。

### 第3章 検出された遺構と遺物



第430図 26号溝跡



第431図 26号溝跡出土遺物

#### 26号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色调 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
26溝-1	須恵器 皿	土 口一底1/3	口(13.2)、底(6.6)、高2.6	①灰白 ②良好 ③中-粗砂粒をやや多く含む。	楕圓整形。高台部貼付。

#### 27号溝跡 (PL62)

位置 78-M-12・13グリッド

重複 82号住居跡、12・29号溝を掘り込む。7号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長3.23m、上幅(0.18)m、下幅(0.12)m、深さ(0.16)m、起電区分所調査区、台地上部分の東寄りに位置する。西側九割分を7号溝によって破壊されており、東壁の一部が辛うじて残存する。形状はほとんど不明。

埋土 暗褐色土をベースとする。



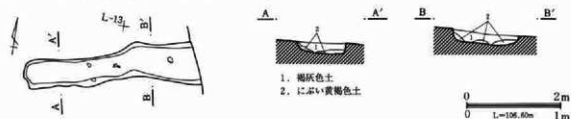
第432図 27号溝跡

#### 28号溝跡

位置 78-K・L-12グリッド

重複 4・5号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長3.68m、上幅0.91m、下幅0.71m、深さ0.12m、起電区分所調査区、台地上部分の南東寄りに位置する。東側は調査区域外に出、西端は東壁より約3.7mの地点で止まる。12号溝にほぼ並行し、規模・形状・走向は、26号溝によく類似している。



第433図 28号溝跡

埋土 褐灰色土をベースとする。

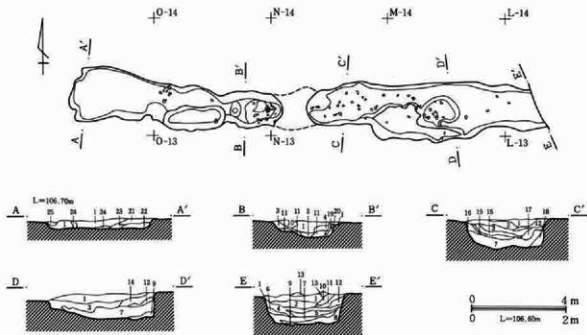
### 29号溝跡 (PL62-116-117)

位置 78-K-O-13グリッド

重複 4・5・7・9・23・24・27号溝、1・87・95・114号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長20.12m、上幅2.5m、下幅2.2m、深さ0.68m、起電区分所調査区、台地上部分の中央部を東西に流れる。東端は調査区外に出、西端はPラインより約1.4m東で止まる。東壁際が最も深く、西にいくに従って浅くなり、西端では深さ0.2m程度となる。また、東壁より約10m、Nラインの手前では幅約1mほど土橋状に浅くなる部分がある。幅は最も広い部分で2.5mあるが、最も狭くなるNラインより1.5m西の部分では1.1mと半分以下にまで狭まるが、およそ1.9m前後が主である。平面形態・深さともかなり不整形である。本溝は12号溝より古く、官衙造営時以前、あるいは官衙造営時のもので、官衙が営まれていた時期にはすでに埋まっていたものと考えられる。

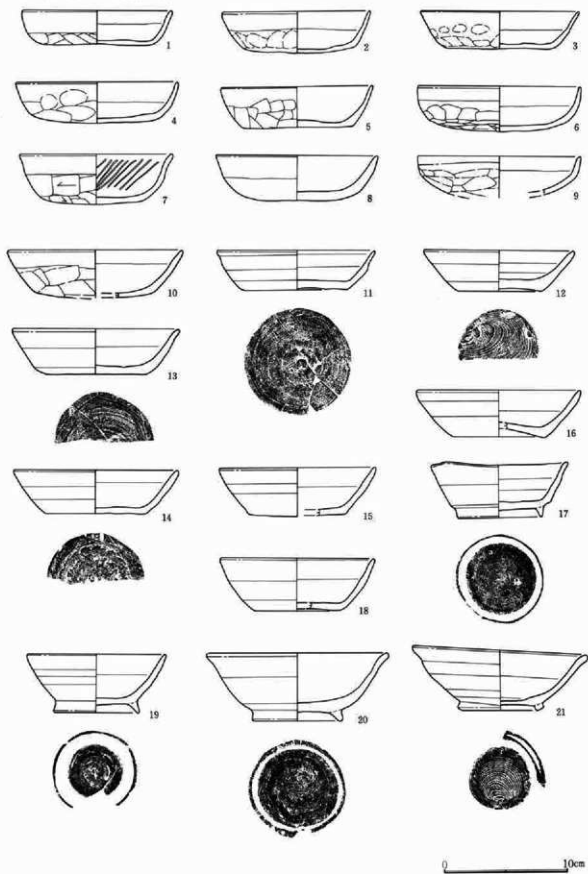
埋土 非常に細かく分けられるが、レンズ状堆積であり、人為的に埋められた形跡は看取できない。東側の深い部分では底部に褐灰色土、上層に灰黄褐色土、にぶい黄褐色土が堆積し、西側の浅い部分では、灰黄褐色土がベースとなる。



- |            |             |             |           |             |
|------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. にぶい黄褐色土 | 6. 褐灰色砂質土   | 11. にぶい黄褐色土 | 16. 褐灰色土  | 21. にぶい黄褐色土 |
| 2. 灰黄褐色土   | 7. 褐灰色土     | 12. 灰黄褐色土   | 17. 褐灰色土  | 22. 灰黄褐色土   |
| 3. 灰黄褐色土   | 8. 黒褐色土     | 13. 褐灰色土    | 18. 黒褐色土  | 23. 褐灰色土    |
| 4. 褐灰色土    | 9. 灰黄褐色土    | 14. にぶい黄褐色土 | 19. 褐灰色土  | 24. 黒褐色土    |
| 5. 灰黄褐色土   | 10. にぶい黄褐色土 | 15. 黒褐色土    | 20. 明黄褐色土 | 25. 灰黄褐色土   |

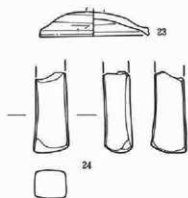
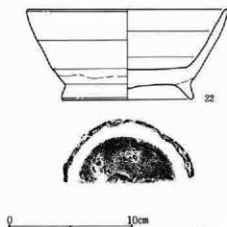
第434図 29号溝跡

第3章 検出された遺構と遺物



第435図 29号溝跡出土遺物(1)





第436図 29号溝跡出土遺物(2)

## 29号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
29溝-1	土師器 坏	壘 土 口縁一部欠	□12.0、底8.7、 高3.4	①にぶい橙 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位外面施削り、内面撫で、底部内外面撫で。
29溝-2	土師器 坏	壘 土 口縁一部欠	□11.8、底8.9、 高3.4	①にぶい橙 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-3	土師器 坏	壘 土 口-底2/3	□12.6、底8.1、 高3.0	①にぶい橙 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位-底部外面施削り、内面撫で、体部上位外面に指面圧痕。
29溝-4	土師器 坏	壘 土 口-底1/2	□13.0、底7.8、 高3.7	①橙 ②良好 ③中-細砂粒を含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-5	土師器 坏	壘 土 口-底1/4	□12.2、底9.0、 高3.3	①にぶい橙 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-6	土師器 坏	壘 土 口-底1/2	□13.0、底6.2、 高3.5	①橙 ②良好 ③細砂粒を含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-7	土師器 坏	壘 土 口縁一部欠	□12.2、底6.2、 高4.0	①にぶい黄橙 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で、体部内面に放射状暗文。
29溝-8	土師器 坏	壘 土 口-底1/3	□13.0、底6.8、 高3.6	①灰黄橙 ②やや不良 ③細砂粒を少量含む。	口縁部-体部内外面施削り、底部外面回転施削り、内面撫で。
29溝-9	土師器 坏	壘 土 口-底1/4	□13.0、底12.8、 高3.5	①にぶい橙 ②やや不良 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-10	土師器 坏	壘 土 口-底1/5	□14.0、底19.4、 高3.8	①にぶい黄 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横溝で、体部-底部外面施削り、内面撫で。
29溝-11	須恵器 坏	壘 土 口縁一部欠	□12.6、底8.4、 高3.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転施削り。
29溝-12	須恵器 坏	壘 土 口-底1/2	□12.0、底6.6、 高3.2	①灰 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
29溝-13	須恵器 坏	壘 土 口-底1/2	□13.3、底8.0、 高3.6	①黄灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
29溝-14	須恵器 坏	壘 土 口-底1/2	□13.2、底7.5、 高3.5	①暗灰黄 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後、撫で。
29溝-15	須恵器 坏	壘 土 口-底1/3	□12.5、底17.8、 高3.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転施削り。
29溝-16	須恵器 坏	壘 土 口-底1/4	□13.3、底17.3、 高3.7	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
29溝-17	須恵器 壘	壘 土 口-底3/4	□11.0、底6.8、 高4.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転施削り、高台部貼付。焼成時にかなり歪んでいる。
29溝-18	須恵器 坏	壘 土 口-底1/2	□12.4、底17.0、 高4.2	①灰 ②良好 ③細砂粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転施削り。
29溝-19	須恵器 壘	壘 土 口-底2/3	□11.0、底6.8、 高4.7	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で。高台部貼付。
29溝-20	須恵器 壘	壘 土 口-底1/2	□14.5、底7.2、 高5.4	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
29溝-21	須恵器 壘	壘 土 口-底1/2	□14.0、底7.0、 高4.9	①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

### 第3章 検出された遺構と遺物

29溝-22	須恵器 陶	埴土 口-底1/2	口(16.0)、底10.5、高7.1	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
29溝-23	須恵器 壺	埴土 底部・つまみ欠	口8.7、高(1.9)	①灰 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転糸切り、つまみ部貼付痕。
29溝-24	紙状石製紙石	埴土	長6.4、短2.7、厚2.2	①灰	四面使用。

#### 30号溝跡 (PL62-117)

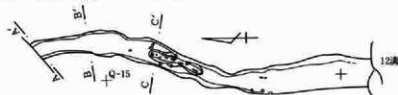
位置 78-P-13~16グリッド

重複 35・36号溝を掘り込む。

規模と形状 確認全長14.59m、上幅1.11m、下幅0.87m、深さ0.29m、起電区分所調査区、台地上部分の西寄りに位置し、西側にやや彎曲しながら南北に流れ、12号溝に注ぎこむ。

浅く、掘り方もあまりしっかりとはいしていないが、12号溝とは同時併存しており、本溝は官衙造営時もしくは官衙が営まれていた時期のものと考えられる。

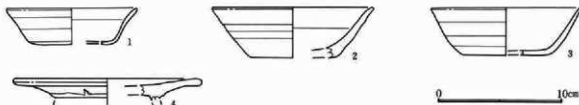
埋土 黒褐色土をベースとする。



1. 濃い黄褐色土
2. 黒褐色土
3. 灰黄褐色土
4. 黒褐色土
5. 灰黄褐色土



第437図 30号溝跡



第438図 30号溝跡出土遺物

#### 30号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②構成 ③胎土	器形・整形の特徴
30溝-1	土師器 坏	埴土 口-底1/8	口(10.4)、底(6.1)、高2.9	①橙 ②やや良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部一体部内外面無で。底部外面貫削り、内面無で。
30溝-2	須恵器 坏	埴土 口-底破片	口(13.0)、底(6.5)、高4.0	①灰 ②良好 ③細砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
30溝-3	須恵器 坏	埴土 口-底破片	口(12.0)、底(7.0)、高3.8	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
30溝-4	須恵器 皿	埴土 破片	口(15.0)、高(1.7)	①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。

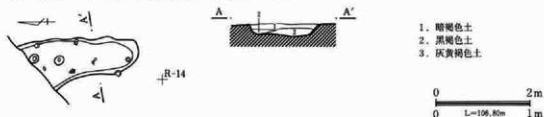
## 31号溝跡 (PL63-117)

位置 78-Q-14グリッド

重複 なし

規模と形状 確認全長2.39m、上幅1.0m、下幅0.89m、深さ0.14m、起電区所調査区、台地上部分の北西に位置し、南北に流れる。北端は調査区外に出、南端は14ラインの手前約0.5mの所で止まる。浅く、掘り方もしっかりとしていない。

埋土 上層に暗褐色土、下層に灰黄褐色土が堆積している。



第439図 31号溝跡



第440図 31号溝跡出土遺物

## 31号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 埋存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
31溝-1	土師器 坏	埋土 口-底3/4	口(12.1)、底7.8、高3.7	①橙 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	口縁部・体部内外面横襖。底部外面施磨り、内面撫で。体部外面に指摺圧痕。
31溝-2	須恵器 坏	埋土 口-底1/3	口(13.8)、底6.0、高4.0	①灰黄 ②良好 ③中-粗砂粒を微量含む。	簡輪整形。底部回転未切り未調整。

## 32号溝跡 (PL63-117)

位置 78-R-13グリッド

重複 36号溝を掘り込む。122号住居跡に掘り込まれる。

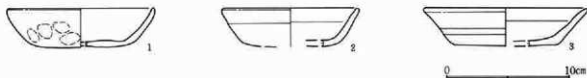


第441図 32号溝跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

**規模と形状** 確認全長2.24m、上幅0.76m、下幅0.61m、深さ0.34m、起電区分所調査区、台地上部分の西寄りに位置し、東西から南北へし字型に屈曲する。西は北西壁より外に出、南端は13ラインより1.5m北で止まる。断面は逆台形状を呈し、不整形ながら、しっかりと掘り方を有する。

**埋土** 灰黄褐色土をベースとする。



第442図 32号溝跡出土遺物

#### 32号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
32溝-1	土師器 坏	埋土 口一底1/2	口(11.8)、底(7.0)、高3.1	①にぶい褐 ②良好 ③中一細砂粒を少量含む。	口縁部一体部内外面横線で、底部外面施磨り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
32溝-2	土師器 坏	埋土 口一底1/8	口(11.0)、底(7.4)、高3.0	①橙 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部一体部内外面横線で、底部外面施磨り、内面撫で。
32溝-3	須恵器 坏	埋土 口一底1/4	口(13.0)、底(8.2)、高3.0	①灰白 ②良好 ③中一細砂粒を少量含む。	機械整形。底部回転糸切り未調整。

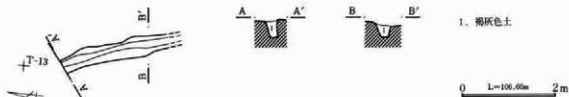
#### 33号溝跡 (PL63)

**位置** 78-S-12グリッド

**重複** 12号溝に掘り込まれる。

**規模と形状** 確認全長2.4m、上幅0.46m、下幅0.14m、深さ0.34m、起電区分所調査区、台地上部分の西端に位置し、南北に流れる。北端は調査区外に出、南端は12号溝によって切られている。断面は細かい逆台形状を呈し、幅は狭いが、しっかりと掘り方を有する。

**埋土** 褐灰色土をベースとする。



第443図 33号溝跡

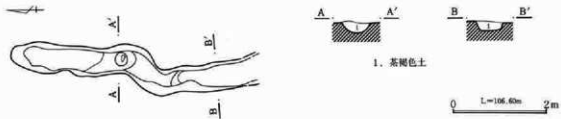
#### 34号溝跡 (PL63)

**位置** 78-P-12・13グリッド

**重複** 36号溝を掘り込む。12号溝に掘り込まれる。

**規模と形状** 確認全長5.46m、上幅0.61m、下幅0.42m、深さ0.22m、変電所調査区、台地上部分の中央より若干西寄りに位置し、S字状に屈曲しながら南北に流れる。北端は14ラインの手前約1.2m南の位置で止まる。南端は12号溝によって切られている。断面は逆台形状を呈し、底面は凹凸があり、起伏に富む。全体に不整形であり、掘り方もしっかりとしていない。

**埋土** 灰黄褐色土をベースとする。



第444図 34号溝跡

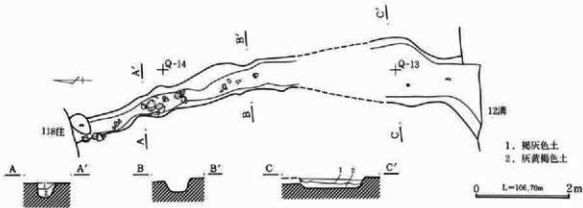
35号溝跡 (PL63・118)

位置 78-P-12・13・14、Q-12・13・14グリッド

重複 118号住居跡、12・30号溝に掘り込まれる。36号溝を掘り込む。

規模と形状 確認全長8.82m、上幅1.39m、下幅1.1m、深さ0.31m、起電区分所調査区、台地上部分の中央部やや西寄りに位置し、南北に流れる。北端は118号住居跡に破壊されている。また、南端は12号溝に破壊されている。Q-13Gr 杭の北側は長さ約2.7mにわたって官衙基礎地業土によって埋められた窪地になっていて、検出できない部分がある。北から南へいくにしたがって、溝幅は広く、また浅くなっている。北側は幅0.4~0.7m前後、深さ0.3m位で、断面は逆台形状を呈し、しっかりとした掘り方を有する。南端付近では幅約1.3mまで広がるが、深さ0.18m程度と浅くなる。整地土によって埋められた窪地によって切られており、官衙造営以前の溝と考えられる。

埋土 上層に褐灰色土、下層に灰黄褐色土が堆積する。

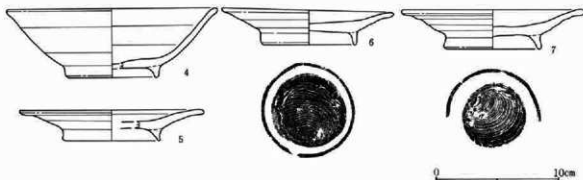


第445図 35号溝跡



第446図 35号溝跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第447図 35号溝跡出土遺物(2)

35号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
35溝-1	土師器 坏	埋土 口-底3/4	口12.3、底8.2、 高3.6	①にふい粉 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部-底部内外面横割で、体部外面に指頭圧痕。 底部外面中央にも指頭圧痕。
35溝-2	土師器 坏	埋土 口-底2/3	口(12.0)、底6. 0、高3.5	①にふい粉 ②良好 ③細 砂粒を含む。	口縁部-底部内外面横割で。
35溝-3	須恵器 坏	埋土 口-底1/2	口(13.2)、底7. 0、高4.1	①灰白 ②やや不良 ③中 -細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
35溝-4	須恵器 埴	埋土 口-底1/6	口(17.0)、底(7 .5)、高5.4	①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
35溝-5	須恵器 皿	埋土 口-底1/3	口(14.8)、底(7 .7)、高2.4	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
35溝-6	須恵器 皿	埋土 口縁一部欠	口13.7、底7.5、 高2.9	①灰 ②良好 ③細砂粒を 若干含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
35溝-7	須恵器 皿	埋土 口-底1/3	口(14.7)、底7. 8、高3.1	①オリーブ黒 ②良好 ③ 中-細砂粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

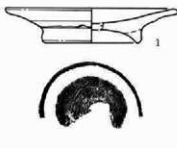
36号溝跡 (PL63-118)

位置 78-L・M-14、M-S-13グリッド

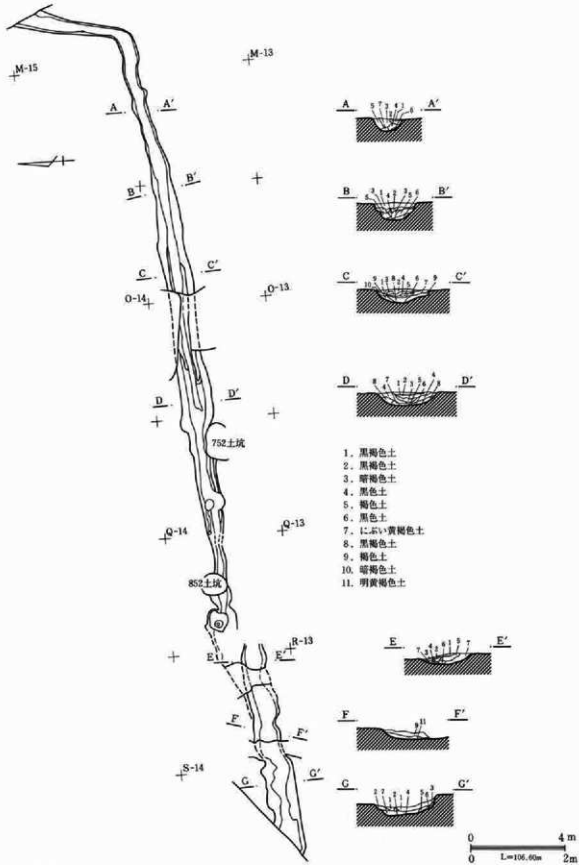
重複 1・77-78・79・83-86-87-94-95-112-120号住居跡、7・9・23-24・29-30-32-34-35号溝を掘り込む。

規模と形状 確認全長39.5m、上幅1.31m、下幅0.74m、深さ0.34m、変電所調査区、台地上部分の中央に位置する。N-13Gr杭より1.5m東の地点で東壁から南流してきた溝は約100度西へ屈曲し、西壁まで東西方向に流れる。東寄りでは断面は逆台形状を呈し、しっかりとした掘り方であるが、西へゆくに従い、上幅は若干広がるもの、浅くなり、掘り方もはっきりとしなくなってくる。官衙造営以前の溝で、本調査区で検出された奈良・平安時代の遺構の中では最も先行するものと思われる。

埋土 黒褐色土、褐色土をベースとする。



第448図 36号溝跡出土遺物



第449図 36号遺跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 36号溝遺物観察表

番号	部種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
36溝-1	須恵器 甕	埋土 口一底1/3	口(13.8)、底(8.0)、高3.3	①灰白 ②良好 ③中一細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

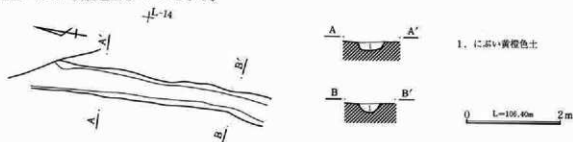
#### 37号溝跡 (PL64)

位置 78-L-13・14グリッド

重複 68・77号住居跡を掘り込む。29号溝に破壊される。

規模と形状 確認全長5.43m、上幅0.57m、下幅0.25m、深さ0.19m。起電区分所調査区、台地上部分の東端に位置し、南北に流れる。北端は調査区外に出、南端は29号溝に切られる。29号溝よりは新しいので、官衙造営時もしくは官衙が営まれていた時期の遺構と考えられる。浅いが比較的しっかりとした掘り方を有する。

埋土 にぶい黄褐色土をベースとする。



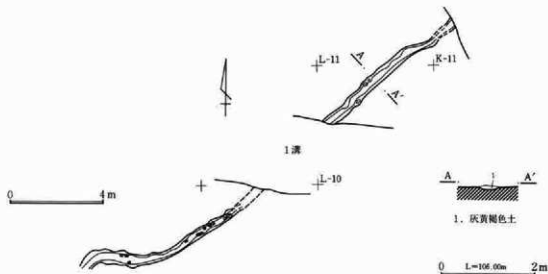
第450図 37号溝跡

#### 38号溝跡 (PL64)

位置 78-K-10・11、L-9・10、M-9グリッド

重複 1・6号溝に掘り込まれる。

規模と形状 確認全長18.3m、上幅0.51m、下幅0.22m、深さ0.1m。起電区分所調査区、台地上部分の東南隅を、北東から南西へ斜めに流れる。東端は東壁より調査区外へ出、西端は台地南端まで達し、それより南側は中世居館造営時に切られている。Ⅱ期水田 (As-C 粘土) 確認面で検出したため、上面がかなり削平



第451図 38号溝跡



されているが、上・下端ともかなりしっかりとした掘り方を有する。官衙造営以前の溝と考えられる。  
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

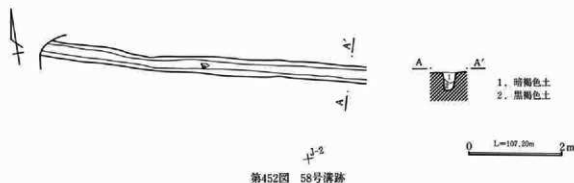
#### 58号溝跡

位置 89-I-K-2グリッド

重複 25号住居跡を掘り込む。

規模と形状 確認全長7m、上幅0.34m、下幅0.16m、深さ0.38m、本線調査区の北側を南東から北西にむかって斜めに流れる。東端は調査区外に出、西端は中世居館造営時に切られている。幅は狭いが、しっかりとした掘り方を有する。掘立柱建物とはほぼ同時期のものと考えられ、台地縁辺に位置しているところからみて、官衙域を区画する溝と考えられる。

埋土 上層に暗褐色土、下層に黒褐色土が堆積する。



#### 4. 井戸跡

##### 1号井戸跡 (PL64)

位置 79-G-14グリッド

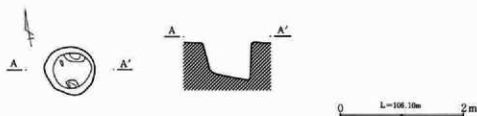
重複 なし

規模と形状 上部口径0.81m、底径0.64m、深さ0.62m、浅い井戸である。

上部口径は東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 浅間B軽石を多量に含む暗褐色土である。浅間B軽石は降下したものが自然堆積したのではなく、2次的に堆積したのと考えられる。

出土遺物 なし



第3章 検出された遺構と遺物

2号井戸跡 (PL64・118)

位置 78-Q-14グリッド

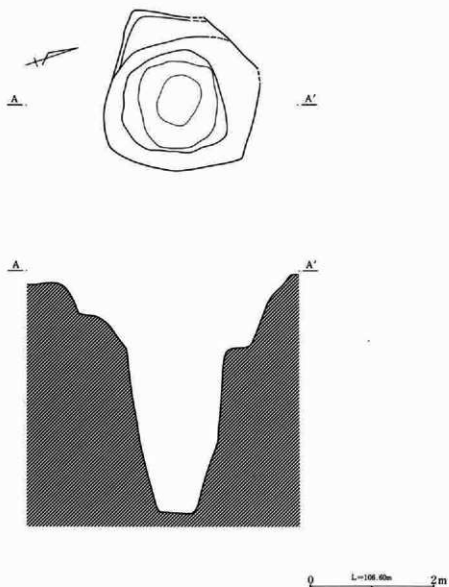
重複 118号住居跡を掘り込む。

規模と形状 上部口径2.59m、中段部口径1.48m、底径0.9m、深さ3.76m、上部口径は南北にやや長い楕円形を呈し、断面はV字形を呈する。中間部分の壁面は若干崩落しており、外側に彎曲している。

埋土 確認面より3.2mまでは $\phi$ 20~70cmの河原石を大量に含む黒褐色土であり、人為的な埋土と考えられる。それ以下、底面までは黒褐色砂質土が堆積しており、これは自然堆積とみられる。

出土遺物 獣骨(下顎骨・上顎骨の一部)、土師器坏2点、など。

時期 底部より完形で出土した土師器坏より、10世紀末ごろと考えられる。



第454図 2号井戸跡



第455図 2号井戸跡出土遺物

## 2号井戸跡遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
2号井戸 -1	土師器 坏	底 部 口-体2/3	口12.4, 底5.5, 高4.0	①赤橙 ②良好 ③細砂粒 をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
2号井戸 -2	土師器 坏	底 部 口縁一部欠	口11.6, 底4.6, 高3.7	①にぶい橙 ②良好 ③中 -細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

## 5. 土坑跡

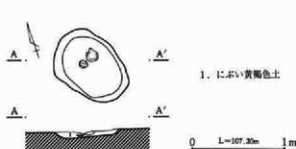
## 4号土坑跡 (PL27・64・118)

位置 79-H-20グリッド 主軸方位 N-70°-E

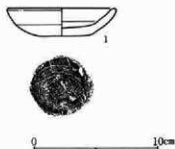
重複 23号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.86m、短径0.61m、深さ0.06m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 にぶい黄褐色土をベースとする。



第456図 4号土坑跡



第457図 4号土坑跡出土遺物

## 4号土坑跡遺物観察表

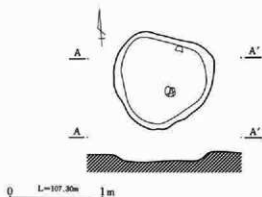
番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
4号土坑-1	土師器 坏	現 土 形	口8.6, 底4.3, 高2.2	①にぶい橙 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

## 5号土坑跡 (PL119)

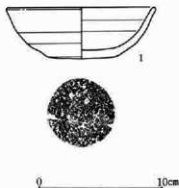
位置 79-I-1グリッド 主軸方位 N-18°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.06m、短径1m、深さ0.09m、楕円形を呈する。埋土 暗褐色土をベースとする。

第3章 検出された遺構と遺物



第458図 5号土坑跡



第459図 5号土坑跡出土遺物

5号土坑跡遺物観察表

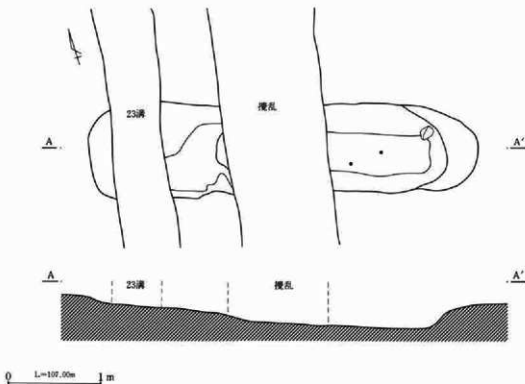
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
5土坑-1	須恵器 坏	埋土 口-底1/2	口(11.9)、底5.6、高4.0	①黄灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り後施す。

6号土坑跡

位置 78-M-15グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 23号溝に掘り込まれる。

規模と形状 長径4.16m、短径0.94m、深さ0.42m、東西に長い長円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第460図 6号土坑跡

7号土坑跡

位置 79-C-14グリッド 主軸方位 N-15°-E

重複 なし

規模と形状 長径1.45m、短径0.97m、深さ1.04m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



1. 黒褐色土  
2. 暗褐色土



0 L=107.00m 1 m

第461図 7号土坑跡

8号土坑跡 (PL64)

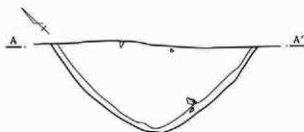
位置 79-B-13グリッド 主軸方位 N-3°-E

重複 なし

規模と形状 北東側半分以上が調査区外に出るため、原形は不明。

深さは0.26m。

埋土 灰褐色土をベースとする。



1. 灰褐色土

0 L=107.10m 1 m

第462図 8号土坑跡

10号土坑跡 (PL65)

位置 79-F-15グリッド 主軸方位 N-90°-E

重複 なし

規模と形状 長径0.99m、短径0.75m、深さ0.19m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰褐色土をベースとし、下層に炭化物が堆積している。



1. 灰褐色土  
2. 黒色土 (炭化物層)

0 L=106.90m 1 m

第463図 10号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

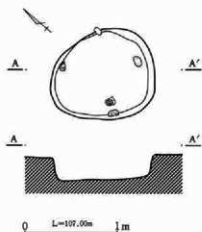
12号土坑跡

位置 79-F-15グリッド 主軸方位 N-20°-W

重複 なし

規模と形状 長径1.14m、短径0.46m、深さ0.13m、南北に長い長円形を呈する。

埋土 灰褐色土をベースとする。



第465図 20号土坑跡

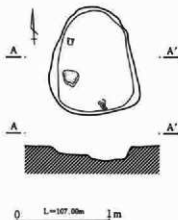
21号土坑跡 (PL65)

位置 79-E-17グリッド 主軸方位 N-80°-W

重複 なし

規模と形状 長径1.66m、短径0.98m、深さ0.15m、東西に長い縦長長方形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第467図 24号土坑跡

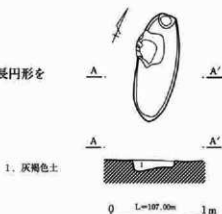
20号土坑跡 (PL65)

位置 79-F-17グリッド 主軸方位 N-50°-W

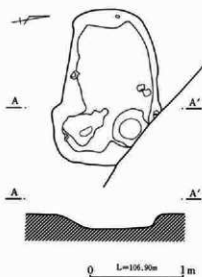
重複 なし

規模と形状 長径1.13m、短径0.98m、深さ0.24m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



第464図 12号土坑跡



第466図 21号土坑跡

24号土坑跡

位置 79-F-17グリッド 主軸方位 N-7°-W

重複 なし

規模と形状 長径1.14m、短径0.94m、深さ0.14m、南北に長い縦長長方形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。

## 25号土坑跡 (PL65)

位置 79-D-12グリッド 主軸方位 N-90°-E 重複 29号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.56m、短径0.54m、深さ0.89m、隅丸方形を呈する。

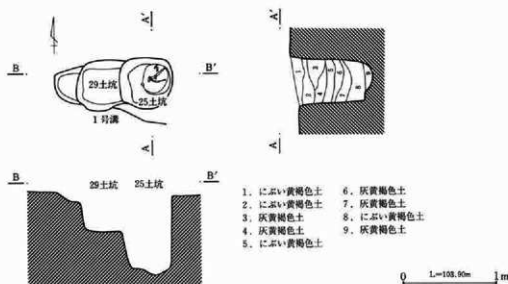
埋土 上層よりにぶい黄褐色土と灰黄褐色土が交互に堆積している。

## 29号土坑跡 (PL65)

位置 79-D-12グリッド 主軸方位 N-90°-E 重複 25号土坑に破壊される。

規模と形状 長径(0.46)m、短径(0.53)m、深さ0.41m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



第468図 25・29号土坑跡

## 33号土坑跡 (PL65)

位置 89-I-1グリッド 主軸方位 N-3°-W 重複 なし

規模と形状 長径1.96m、短径1.84m、深さ0.66m、東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土と褐色土の互層。

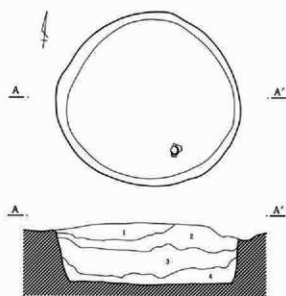
## 34号土坑跡 (PL27-65)

位置 89-J-1グリッド 主軸方位 N-34°-E 重複 23号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径1.61m、短径1.24m、深さ0.34m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土と灰黄褐色土の互層。

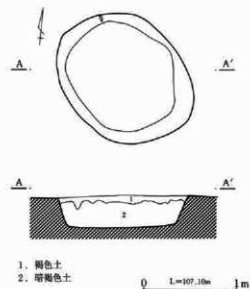
第3章 検出された遺構と遺物



1. 暗褐色土 3. 褐色土  
2. 暗褐色土 4. 暗褐色土

0 L=107.20m 1m

第469図 33号土坑跡



1. 褐色土  
2. 暗褐色土

0 L=107.10m 1m

第470図 34号土坑跡

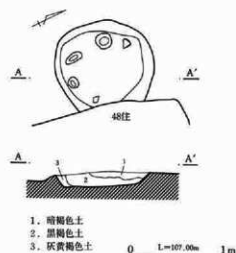
35号土坑跡 (PL65)

位置 79-J-20グリッド 主軸方位 N-35°-E

重複 48号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径1.06m、短径(0.88)m、深さ0.16m、  
南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土、黒褐色土の順に堆積。



1. 暗褐色土  
2. 黒褐色土  
3. 灰黄褐色土

0 L=107.00m 1m

第471図 35号土坑跡

36号土坑跡 (PL65・119)

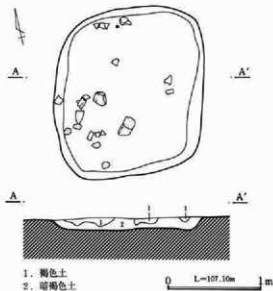
位置 79-J-20グリッド 主軸方位 N-72°-E

重複 48号住居跡を掘り込む。

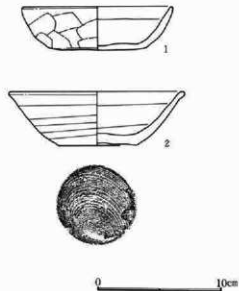
規模と形状 長径1.76m、短径1.58m、深さ0.14m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、上層に褐色土塊が入る。





第472図 36号土坑跡



第473図 36号土坑跡出土遺物

## 36号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
36土坑-1	土師器 坏	埋土 口~底1/3	口(12.0)、底7.7、高12.5	①にぶい殻 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面磨削り、内面撫で。
36土坑-2	須恵器 坏	埋土 口~底1/2	口(14.0)、底6.4、高4.3	①灰白 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	縦壺型。底部回転糸切り未調整。

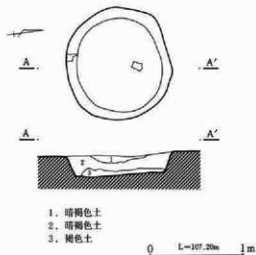
## 37号土坑跡 (PL66)

位置 89-J-1グリッド 主軸方位 N-85°-E

重複 なし

規模と形状 長径11.8m、短径10.1m、深さ0.22m、東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとし、底部に褐色土が薄く堆積する。



第474図 37号土坑跡

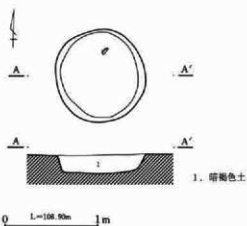
## 38号土坑跡 (PL66)

位置 79-K-19グリッド 主軸方位 N-88°-E 重複 なし

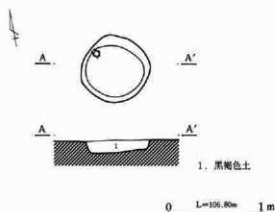
規模と形状 長径0.96m、短径0.94m、深さ0.19m、ほぼ円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

### 第3章 検出された遺構と遺物



第475図 38号土坑跡



第476図 40号土坑跡

#### 40号土坑跡

位置 79-K-18グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 なし

規模と形状 長径0.72m、短径0.7m、深さ0.13m、ほぼ円形を呈する。

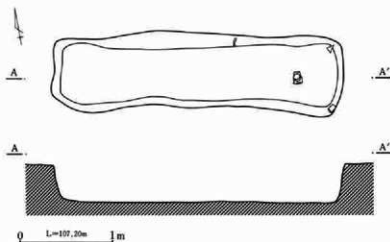
埋土 黒褐色土をベースとする。

#### 44号土坑跡 (PL66・119)

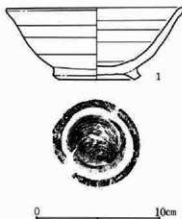
位置 89-J-12グリッド 主軸方位 N-79°-W 重複 なし

規模と形状 長径3.04m、短径0.79m、深さ0.43m、東西に長い隅丸長方形形状を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第477図 44号土坑跡



第478図 44号土坑跡出土遺物

#### 44号土坑跡遺物観察表

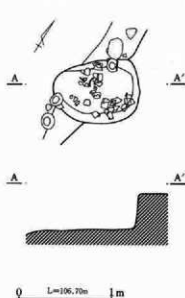
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
44号坑-1	須恵器 碗	埋土 口-底1/3	□(14.2)、底7.0、高5.8	①灰黄 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	輪轆成形。底部回転未切り未調整。高台部貼付。

## 45号土坑跡 (PL66-119)

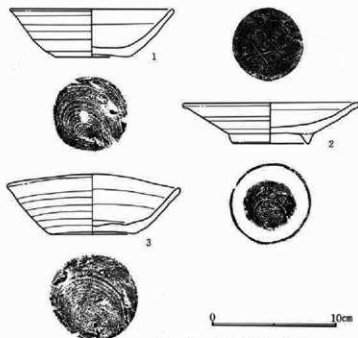
位置 79-L-19グリッド 主軸方位 N-52°-E 重複 なし

規模と形状 長径0.91m、短径0.66m、深さ0.42m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第479図 45号土坑跡



第480図 45号土坑跡出土遺物

## 45号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
45土坑-1	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口13.1、底6.1、 高3.9	①灰 ②良好 ③砂漚、中 一細砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。
45土坑-2	須恵器 皿	埋土 口縁一部欠	口14.0、底6.2、 高3.3	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
45土坑-3	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口13.9、底7.0、 高3.9	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。口縁部、体部が 大きく歪んでいる。

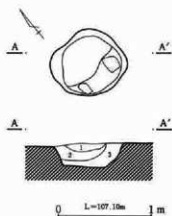
## 47号土坑跡 (PL66)

位置 79-G-18グリッド 主軸方位 N-42°-W

重複 9号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径0.84m、短径0.72m、深さ0.38m、ほぼ円形を呈する。

埋土 黒褐色土、にぶい黄褐色土の順に堆積。



1. 黒褐色土
2. にぶい黄褐色土
3. にぶい黄褐色土

第481図 47号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

48号土坑跡 (PL27・66)

位置 79-J-20グリッド 主軸方位 N-9°-E 重複 23号住居・895号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径1.06m、短径0.91m、深さ0.46m、東西に長い楕円形を呈する。

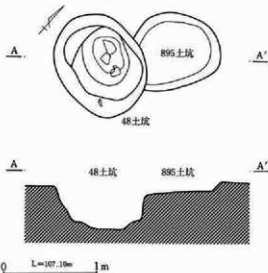
埋土 黄褐色土をベースとし、にぶい黄褐色土、灰黄褐色土が混入する。

895号土坑跡

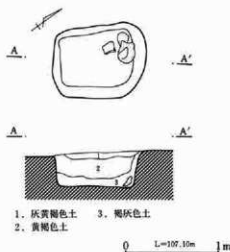
位置 79-J-20グリッド 主軸方位 N-28°-E 重複 48号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径(0.81)m、短径0.81m、深さ0.18m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土、灰黄褐色土をベースとする。



第482図 48・895号土坑跡



第483図 49号土坑跡

49号土坑跡 (PL66)

位置 79-H-18グリッド 主軸方位 N-34°-E 重複 なし

規模と形状 長径0.97m、短径0.79m、深さ0.38m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土、黄褐色土、褐灰色土の順に層状に堆積。

50号土坑跡 (PL66)

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-30°-W 重複 389号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.98m、短径0.86m、深さ0.38m、不整形形を呈する。

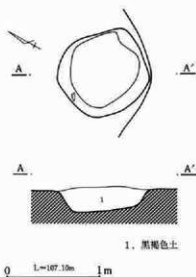
埋土 黒褐色土をベースとする。

51号土坑跡 (PL67)

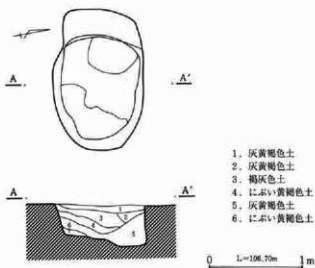
位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-79°-W 重複 なし

規模と形状 長径1.49m、短径0.96m、深さ0.43m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土、褐灰色土、にぶい黄褐色土、灰黄褐色土の順に層状に堆積している。



第484図 50号土坑跡



第485図 51号土坑跡

1. 灰黄褐色土
2. 灰黄褐色土
3. 褐色土
4. にぶい黄褐色土
5. 灰黄褐色土
6. にぶい黄褐色土

55号土坑跡 (PL67)

位置 78-R-13グリッド 主軸方位 N-87°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.73m、短径0.76m、深さ0.23m、東西に長い長円形を呈する。

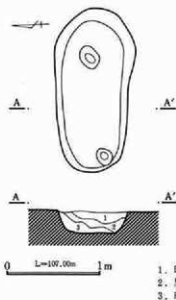
埋土 暗褐色土の中に黒褐色土の層が入る。

56号土坑跡 (PL67)

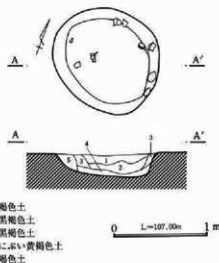
位置 78-Q-14グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.19m、短径1.04m、深さ0.24m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土の順に層状に堆積。



第486図 55号土坑跡



第487図 56号土坑跡

1. 褐色土
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土
4. にぶい黄褐色土
5. 褐色土

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 58号土坑跡

位置 78-O-13グリッド 主軸方位 N-3°-W 重複 59号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径2.32m、短径0.79m、深さ0.51m、南北に長い長方形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

#### 59号土坑跡

位置 78-O-13グリッド 主軸方位 N-25°-W 重複 58号土坑に破壊される。

規模と形状 長径(1.12)m、短径1.06m、深さ0.21m、東西にやや長い楕円形を呈する。

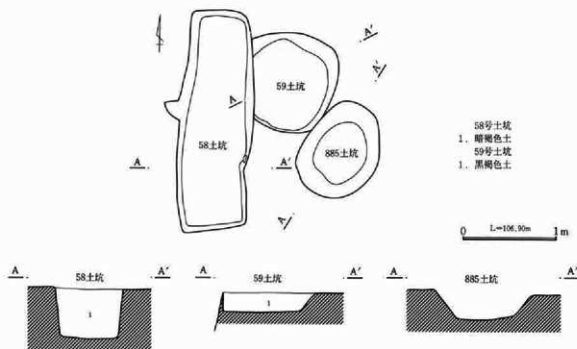
埋土 黒褐色土をベースとする。

#### 885号土坑跡

位置 78-O-13グリッド 主軸方位 N-45°-E 重複 1・114号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.04m、短径0.82m、深さ0.34m、北東-南西に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



第488図 58・59・885号土坑跡

#### 70号土坑跡

位置 79-I-19グリッド 主軸方位 N-20°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.06m、短径0.92m、深さ0.46m、南北にやや長い楕円形を呈する。

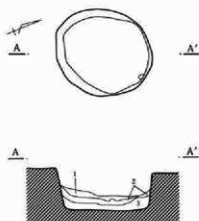
埋土 黒褐色土、灰黄褐色土、褐灰色土の順に層状に堆積する。

72号土坑跡 (PL67)

位置 79-J-19グリッド 主軸方位 N-2°-E 重複 なし

規模と形状 長径2.04m、短径1.92m、深さ0.49m、東西にやや長い楕円形を呈する。

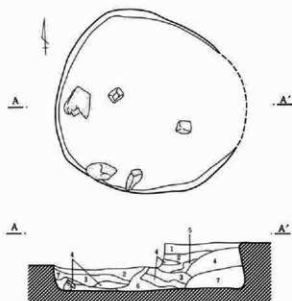
埋土 黒褐色土、暗褐色土、黒色灰層、黒色土の順に層状に堆積している。



1. 黒褐色土
2. 灰黄褐色土
3. 黒灰色土

0 L=107.10m 1 m

第489図 70号土坑跡



1. 黒褐色土
2. 黒色土
3. 暗褐色土
4. 黒褐色土
5. 灰黄褐色土
6. 黒灰色土
7. 黒色土

0 L=107.00m 1 m

第490図 72号土坑跡

74号土坑跡 (PL67)

位置 89-J-1グリッド 主軸方位 N-47°-E 重複 なし

規模と形状 長径2.36m、短径1.86m、深さ0.27m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。

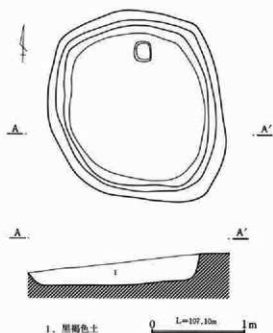
75号土坑跡 (PL67)

位置 79-G-19グリッド 主軸方位 N-6°-W 重複 16号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.56m、短径1.11m、深さ0.18m、北東隅が調査区外に出るが、南北に長い長方形を呈する。

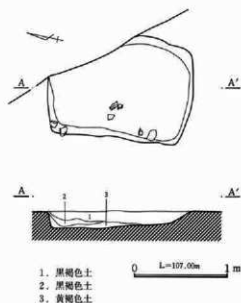
埋土 黒褐色土をベースとし、底部に薄く黄褐色土が堆積している。

第3章 検出された遺構と遺物



1. 黒褐色土 0 L=107.10m 1m

第491図 74号土坑跡



1. 黒褐色土  
2. 黒色土  
3. 黄褐色土 0 L=107.00m 1m

第492図 75号土坑跡

76号土坑跡 (PL67)

位置 89-K-1 グリッド 主軸方位 N-10°-W 重複 14号住居跡、77号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径1.48m、短径1.42m、深さ0.31m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。炭化物層の堆積が若干みられる。

77号土坑跡 (PL67・68・119)

位置 89-K-1 グリッド 主軸方位 N-37°-E

重複 14号住居跡を掘り込む。76・345号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径2.96m、短径2.76m、深さ0.38m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 褐色土、黄褐色土、黒褐色土の順に層状に堆積。

78号土坑跡 (PL68)

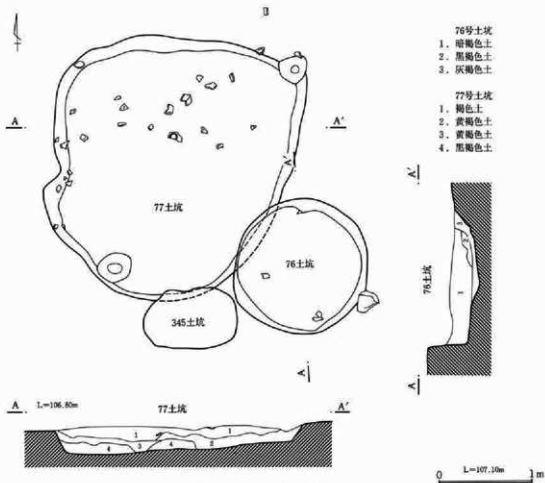
位置 89-K-1 グリッド 主軸方位 N-14°-E 重複 なし

規模と形状 長径2.04m、短径1.03m、深さ0.33m、南北に長い楕円形を呈し、南側の土坑を北側の土坑が掘り込んだ形になっているが、埋土の堆積状態から、同一の土坑と判断した。

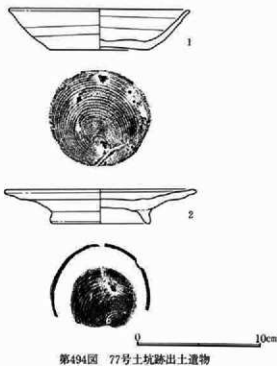
埋土 暗褐色土をベースとし、中間に黒褐色土の薄い層が入る。



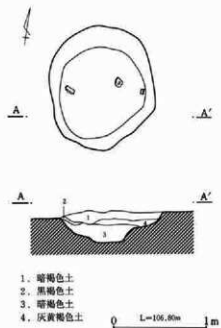
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第493図 76・77号土坑跡



第494図 77号土坑跡出土遺物



第495図 78号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 77号土坑跡遺物観察表

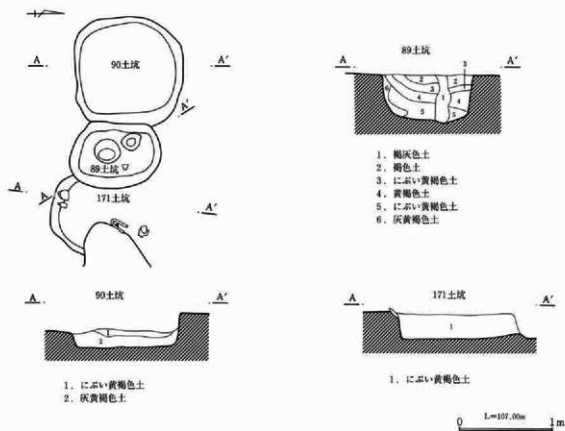
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
77土坑-1	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口14.4、底8.0、 高4.4	①灰白 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
77土坑-2	須恵器 皿	埋土 口一底1/2	口15.7、底8.0 高2.7	①灰 ②やや不良 ③中一 細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

#### 89号土坑跡

位置 79-J-19グリッド 主軸方位 N-86°-W 重複 39号住居跡、90・171号土坑を掘り込む。  
規模と形状 長径0.98m、短径0.69m、深さ0.52m、南北に長い楕円形を呈する。中央やや西寄りに底部に  
ピット状の掘り込みがみられる。  
埋土 褐色土、にぶい黄褐色土、黄褐色土、にぶい黄褐色土の順に堆積する。

#### 90号土坑跡

位置 79-J-19グリッド 主軸方位 N-4°-E 重複 39号住居跡を掘り込む。89号土坑に掘り込まれる。  
規模と形状 長径1.26m、短径1.14m、深さ0.37m、不整形円形を呈する。  
埋土 にぶい黄褐色土、灰黄褐色土の順で層状に堆積している。



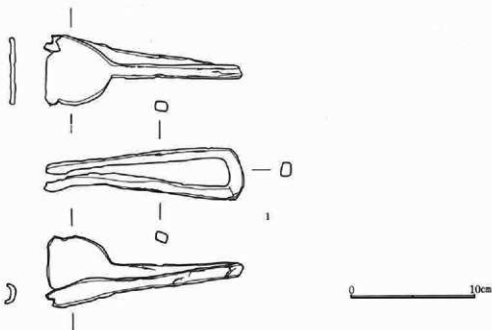
第496図 89・90・171号土坑跡

## 171号土坑跡 (PL69-119)

位置 79-J-19グリッド 主軸方位 不明

重複 89号土坑に掘り込まれる。上面を削平されているため、原形は不明である。

規模と形状 不明 埋土 におい黄褐色土をベースとする。



第497図 171号土坑跡出土遺物

## 171号土坑跡遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
171号土坑- 1	鉄製品 手 斧状製品	埋 土 完 存	長16.0、刃部長5.1、刃部幅5.6、刃部厚0.3、 柄部幅1.1、柄部厚0.7、重85g	刃部～柄端まで完存、柄端は扁平に開く。柄は完全 に折れ曲がっている。

## 100号土坑跡

位置 79-H-16グリッド 主軸方位 N-36°-W 重複 55号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.87m、短径(0.56)m、深さ(0.56)m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 上層に灰黄褐色土、におい黄褐色土、灰黄褐色土、黒褐色土がブロック状に入る。

## 101号土坑跡

位置 79-H-16グリッド 主軸方位 N-47°-E

重複 39号住居跡、100・102号土坑を掘り込む。

規模と形状 径0.98m、深さ0.47m、ほぼ円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土、褐灰色土、灰黄褐色土の順に層状に堆積している。

## 102号土坑跡

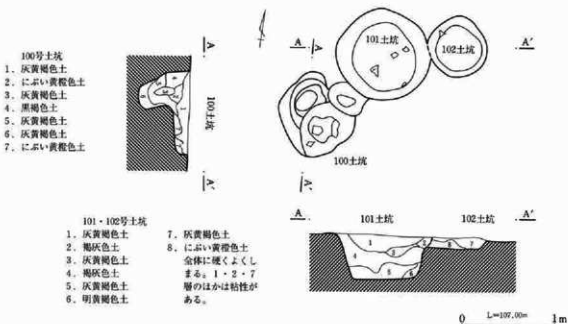
位置 79-H-16グリッド 主軸方位 N-38°-W

第3章 検出された遺構と遺物

重複 39号住居跡を掘り込む。101号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.63m、短径0.58m、深さ0.12m、ほぼ円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土、にぶい黄褐色土の順に層状に堆積している。



第498図 100～102号土坑跡

128号土坑跡 (PL68)

位置 79-E-15グリッド 主軸方位 N-8°-W

重複 51号住居跡を掘り込む。129号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.04m、短径0.54m、深さ0.24m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

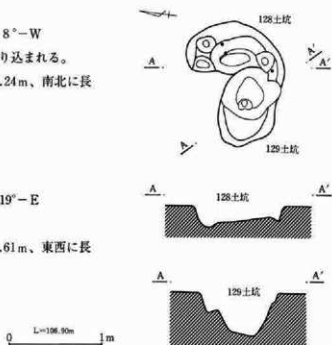
129号土坑跡 (PL68-119)

位置 79-E-15グリッド 主軸方位 N-19°-E

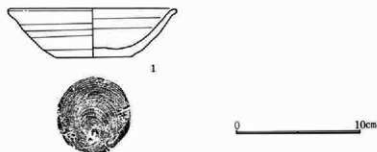
重複 51号住居跡、128号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.87m、短径0.63m、深さ0.61m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第499図 128・129号土坑跡



第500図 129号土坑跡出土遺物

129号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
129号土坑-1	須恵器 坏	埋土 口縁一部欠	口13.6、底6.0、 高3.9	①灰 ②良好 ③中～細砂 粒を多量に含む。	輪縁整形。底部回転余切り未調整。

## 136号土坑跡 (PL68)

位置 79-F-14グリッド 主軸方位 N-28°-E 重複 4号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.17m、短径1.02m、深さ0.14m、南北に長い楕円形を呈する。

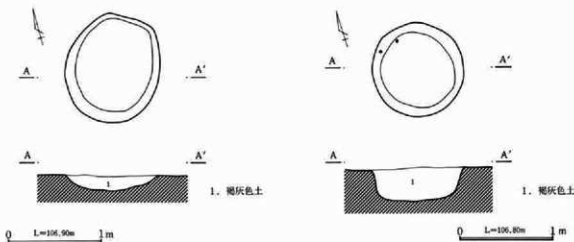
埋土 褐灰色土をベースとする。

## 137号土坑跡

位置 79-E-13グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 なし

規模と形状 径0.98m、深さ0.34m、ほぼ円形を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとする。



第501図 136号土坑跡

第502図 137号土坑跡

## 138号土坑跡

位置 79-F-15グリッド 主軸方位 N-36°-W 重複 なし

### 第3章 検出された遺構と遺物

規模と形状 長径1.17m、短径0.93m、深さ0.14m、南北にやや長い楕円形を呈する。

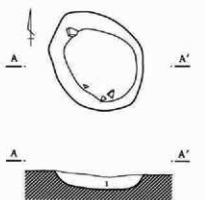
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

#### 140号土坑跡 (PL68)

位置 79-F-15グリッド 主軸方位 N-6°-E 重複 なし

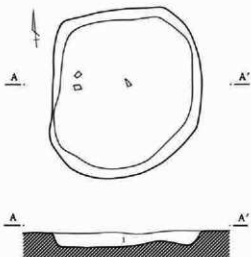
規模と形状 長径1.96m、短径1.58m、深さ0.14m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとする。



1. 灰黄褐色土

第503図 138号土坑跡



1. 褐灰色土

第504図 140号土坑跡

#### 141号土坑跡

位置 79-C-13グリッド 主軸方位 N-2°-E 重複 2号住居跡に掘り込まれる。

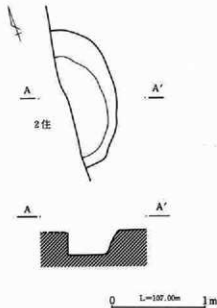
規模と形状 長径1.49m、短径(0.54)m、深さ0.23m、西側を2号住居跡に掘り込まれているため、原形は不明。埋土 暗褐色土をベースとする。

#### 142号土坑跡

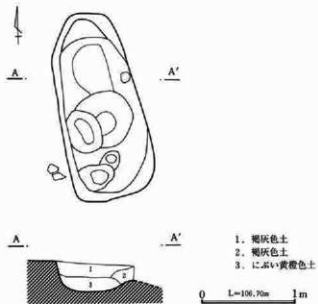
位置 78-D-13グリッド 主軸方位 N-13°-E 重複 34号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径2m、短径0.85m、深さ0.31m、南北に長い長円形を呈する。

埋土 上層が褐灰色土、下層にぶい黄褐色土が堆積している。



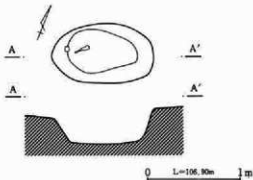
第505図 141号土坑跡



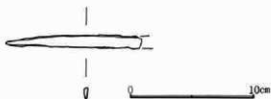
第506図 142号土坑跡

143号土坑跡 (PL119)

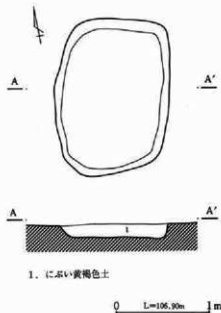
位置 79-C-14グリッド 主軸方位 N-72°-E 重複 なし  
 規模と形状 長径1.09m、短径0.63m、深さ0.37m、東西に長い楕円形を呈する。  
 埋土 黒褐色土をベースとする。



第507図 143号土坑跡



第508図 143号土坑跡出土遺物



第509図 145号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 143号土坑跡遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	器形・整形の特徴
143土坑-1	鉄製品 子	刀埋 刃部の一部	長(10.8)、幅1.1、厚0.3、重5g	

#### 145号土坑跡 (PL68)

位置 79-E-13グリッド 主軸方位 N-14°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.72m、短径1.22m、深さ0.17m、南北に長い隅丸長方形を呈する。

埋土 しぶい黄褐色土をベースとする。

#### 148号土坑跡

位置 79-B-13グリッド 主軸方位 N-32°-W

重複 42号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径1.36m、短径(0.78)m、深さ0.56m、北側が調査区外に出るため、原形は不明である。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

#### 160号土坑跡 (PL69)

位置 79-I-20グリッド 主軸方位 N-73°-W

重複 29号住居跡を掘り込む。165号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径(1.86)m、短径1.51m、深さ0.26m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

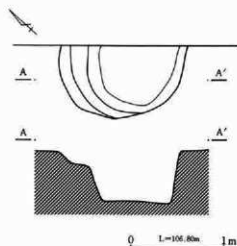
#### 165号土坑跡 (PL69)

位置 79-I-20グリッド 主軸方位 N-19°-E

重複 29号住居跡、160号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径1.14m、短径1.05m、深さ0.38m、ほぼ円形を呈する。

埋土 黄褐色土をベースとする。灰黄褐色土が少量混入。



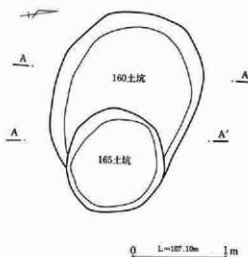
第510図 148号土坑跡



1. 暗褐色土



1. 黄褐色土  
2. 黄褐色土  
3. しぶい黄褐色土  
4. 灰黄褐色土



第511図 160・165号土坑跡



## 184号土坑跡 (PL69)

位置 78-H-19グリッド 主軸方位 N-28°-E 重複 39号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径0.77m、短径0.66m、深さ0.16m、東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 にぶい黄橙色土をベースとする。

## 213号土坑跡

位置 79-G-16グリッド 主軸方位 N-10°-W 重複 55号住居跡を掘り込む。

規模と形状 径1.23m、深さ0.56m、ほぼ円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。

## 214号土坑跡

位置 79-D-14グリッド 主軸方位 N-87°-W 重複 30・34号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.24m、短径(0.63)m、深さ0.24m、東西に長い楕円形を呈するものと思われる。

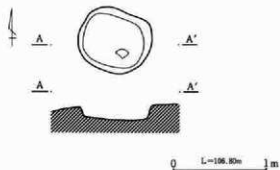
埋土 暗褐色土をベースとする。

## 219号土坑跡

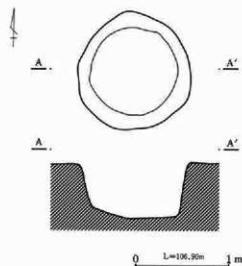
位置 79-G-16グリッド 主軸方位 N-37°-W 重複 55号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径1.34m、短径1.29m、深さ0.12m、南北にやや長い楕円形を呈する。

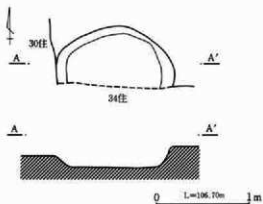
埋土 黒褐色土をベースとする。



第512図 184号土坑跡

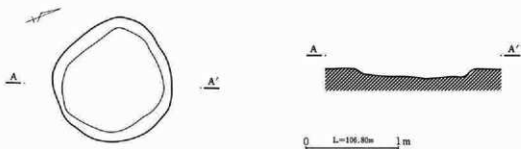


第513図 213号土坑跡



第514図 214号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物



第515図 219号土坑跡

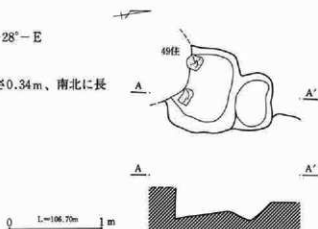
251号土坑跡 (PL69)

位置 79-F-17グリッド 主軸方位 N-28°-E

重複 49号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径(0.95)m、短径0.93m、深さ0.34m、南北に長く、二つの小土坑が連接したような形。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第516図 251号土坑跡

263号土坑跡

位置 79-J-18グリッド 主軸方位 N-42°-E 重複 264号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径(0.47)m、短径0.55m、深さ0.21m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 上層に黒褐色土、下層にぶい黄褐色土が堆積している。

264号土坑跡 (PL69)

位置 79-J-18グリッド 主軸方位 N-12°-E

重複 265号土坑に掘り込まれる。263号土坑を掘り込む。

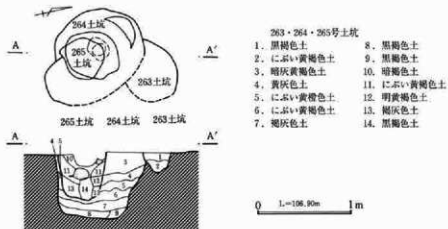
規模と形状 長径1.17m、短径0.86m、深さ0.72m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 上層より黒褐色土、ぶい黄褐色土、暗灰黄褐色土、黄灰色土、ぶい黄橙色土、褐灰色土、黒褐色土の順にほぼ水平に堆積している。

265号土坑跡

位置 79-J-18グリッド 主軸方位 N-41°-W 重複 264号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.46m、短径0.43m、深さ0.48m、不整形円形を呈する。264号土坑の中を掘り込む。  
埋土 暗褐色土をベースとする。



第517図 263～265号土坑跡

266号土坑跡

位置 89-1-1グリッド 主軸方位 N-84°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.61m、短径0.51m、深さ0.71m、東西に長い楕円形を呈する。

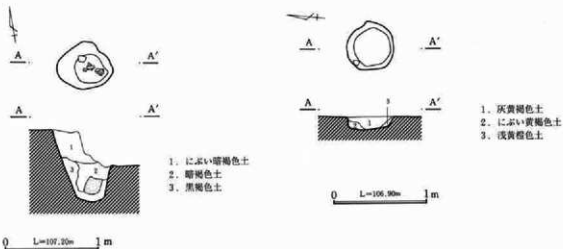
埋土 上層ににぶい黄褐色土、下層は黄褐色土と黒褐色土の互層。

272号土坑跡 (PL69)

位置 79-J-18グリッド 主軸方位 N-4°-W 重複 26号住居跡を掘り込む。

規模と形状 径0.51m、深さ0.15m、ほぼ円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第518図 266号土坑跡

第519図 272号土坑跡

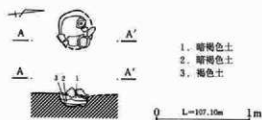
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 274号土坑跡 (PL119)

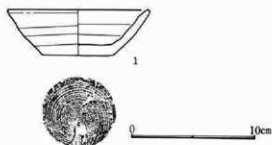
位置 79-I-17グリッド 主軸方位 N-8°-E 重複 52号住居跡を掘り込む。

規模と形状 径0.26m、深さ0.14m、ほぼ円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第520図 274号土坑跡



第521図 274号土坑跡出土遺物

#### 274号土坑跡遺物観察表

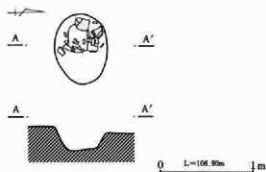
番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・形状の特徴
274土坑- 1	須恵器 坏	埋 完	□11.2、底5.7 高3.7		①灰 ②良好 ③中-細砂 粒を多く含む。	輪縁整形。底部回転糸切り未調整。

#### 275号土坑跡 (PL69-119)

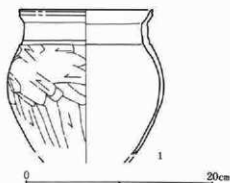
位置 79-K-20グリッド 主軸方位 N-87°-E 重複 14号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径0.64m、短径0.56m、深さ0.24m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第522図 275号土坑跡



第523図 275号土坑跡出土遺物

#### 275号土坑跡遺物観察表

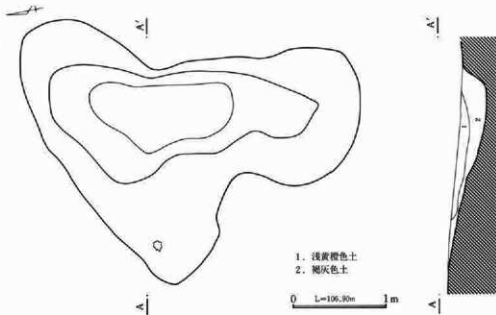
番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・形状の特徴
275土坑- 1	土師器 小 型壺	埋 完	□(14.2)、高(1 5.2)		①明赤褐 ②良好 ③細砂 粒を少量含む。	口縁部-頸部内外面横無で。体部外面荒削り、内面 撫で。

#### 296号土坑跡

位置 78-N-11グリッド 主軸方位 N-8°-E 重複 19・20号掘立柱建物跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径3.71m、短径2.28m、深さ0.28m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとし、上層に浅黄褐色土が堆積している。



第524図 296号土坑跡

297号土坑跡

位置 79-K-18グリッド 主軸方位 N-28°-W 重複 13号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径0.74m、短径0.59m、深さ0.28m、南北にやや長い楕円形を呈する。

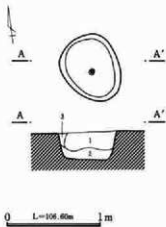
埋土 上層は黒褐色土、下層には暗褐色土が堆積する。

299号土坑跡

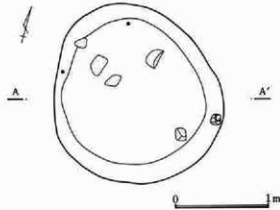
位置 78-P-12グリッド 主軸方位 N-43°-W 重複 なし

規模と形状 長径1.94m、短径1.81m、深さ0.21m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄色土をベースとする。



第525図 297号土坑跡



第526図 299号土坑跡(1)

1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土

### 第3章 検出された遺構と遺物



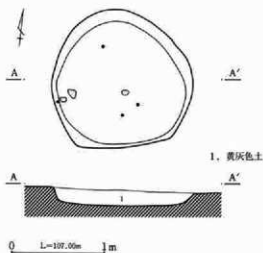
第527図 299号土坑跡(2)

#### 300号土坑跡

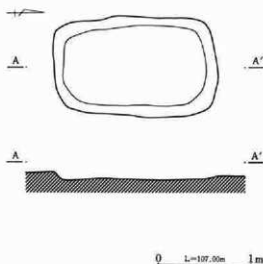
位置 78-P-12グリッド 主軸方位 N-40°-W 重複 なし  
 規模と形状 長径1.56m、短径1.47m、深さ0.16m、不整形円形を呈する。  
 埋土 黄灰色土をベースとする。

#### 309号土坑跡

位置 78-O-12グリッド 主軸方位 N-3°-E 重複 なし  
 規模と形状 長径1.74m、短径1.05m、深さ0.13m、南北に長い隅丸長方形形状を呈する。  
 埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第528図 300号土坑跡



第529図 309号土坑跡

#### 312号土坑跡

位置 79-K-18グリッド 主軸方位 N-75°-W 重複 22号住居跡を掘り込む。  
 規模と形状 長径1.54m、短径0.94m、深さ0.16m、東西に長い楕円形を呈する。  
 埋土 暗褐色土をベースとする。

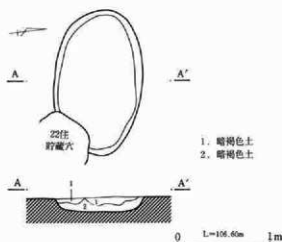
#### 313号土坑跡

位置 79-J-17グリッド 主軸方位 N-13°-W

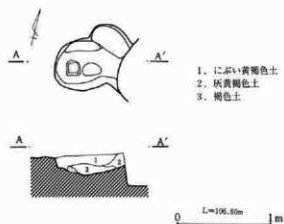
重複 40号住居跡を掘り込む。360号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径(0.7)m、短径0.67m、深さ0.21m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 上層に、にぶい黄褐色土、下層に褐色土が堆積する。



第530図 312号土坑跡



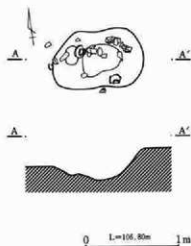
第531図 313号土坑跡

## 345号土坑跡 (PL69・70・119)

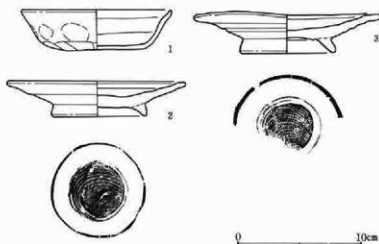
位置 89-K-1グリッド 主軸方位 N-81°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.98m、短径0.59m、深さ0.34m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第532図 345号土坑跡



第533図 345号土坑跡出土遺物

## 345号土坑跡遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・変形の特徴
345土坑-1	土師器 坏	埋土 口~底1/2	□(12.0)、底7.5、高3.2	①灰 ②良好 ③中~細砂粒を少量含む。	口縁部・体部上位内外面横溝で、体部下位~底部外面彫り、内面撫で。
345土坑-2	須恵器 皿	埋土 口縁一部欠	□14.3、底7.5 高2.8	①灰白 ②良好 ③中~細砂粒を多く含む。	輪縁整形、底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

### 第3章 検出された遺構と遺物

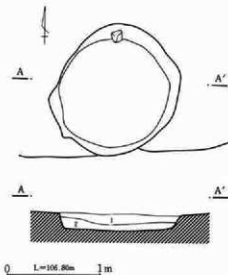
345土坑-3	須忠器 Ⅲ	埋 土	口(14.8)、底7.5、高3.1	①灰白 ②良好 ③中～粗砂粒を多く含む。	輪盤形状。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
---------	-------	-----	-------------------	----------------------	------------------------

#### 346号土坑跡 (PL70)

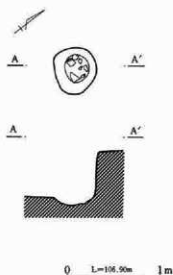
位置 78-Q-11グリッド 主軸方位 N-9°-E 重複 1号溝に掘り込まれる。  
 規模と形状 長径1.42m、短径1.39m、深さ0.16m、ほぼ円形を呈する。  
 埋土 灰褐色土をベースとする。

#### 382号土坑跡

位置 79-I-17グリッド 主軸方位 N-68°-W 重複 52号住居跡を掘り込む。  
 規模と形状 長径0.49m、短径0.46m、深さ0.56m、不整形円形を呈する。  
 埋土 黒色土、黒褐色土をベースとする。



第534図 346号土坑跡



第535図 382号土坑跡

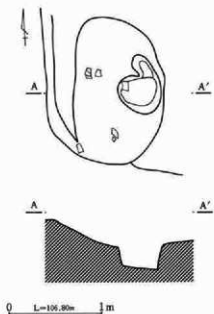
#### 383号土坑跡

位置 79-H-17グリッド 主軸方位 N-20°-E 重複 10・50号住居跡を掘り込む。  
 規模と形状 長径1.53m、短径0.96m、深さ0.51m、南北に長い楕円形を呈する。  
 埋土 灰黄褐色土をベースとする。

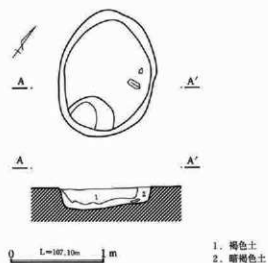
#### 384号土坑跡

位置 78-R-13グリッド 主軸方位 N-23°-W 重複 86号住居跡を掘り込む。  
 規模と形状 長径1.35m、短径1.04m、深さ0.24m、南北に長い長円形を呈する。  
 埋土 上層は褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。





第536図 383号土坑跡



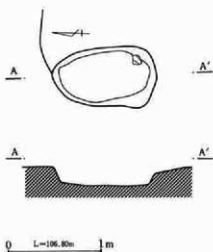
第537図 384号土坑跡

### 388号土坑跡

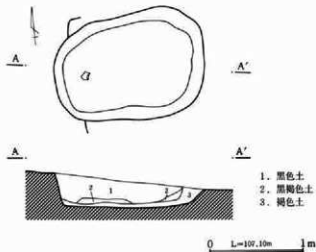
位置 78-N-13グリッド 主軸方位 N-5°-W 重複 なし  
 規模と形状 長径1.11m、短径0.64m、深さ0.16m、南北に長い楕円形を呈する。  
 埋土 暗褐色土をベースとする。

### 390号土坑跡

位置 78-P-15グリッド 主軸方位 N-90°-E 重複 71号住居跡に掘り込まれる。  
 規模と形状 長径1.6m、短径1.14m、深さ0.36m、東西に長い楕円形を呈する。  
 埋土 黒色土をベースとする。



第538図 388号土坑跡



第539図 390号土坑跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 391号土坑跡

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-11°-E

重複 70・71号住居跡に破壊される。392号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径2.71m、短径0.97m、深さ0.27m、南北に長い長円形を呈する。

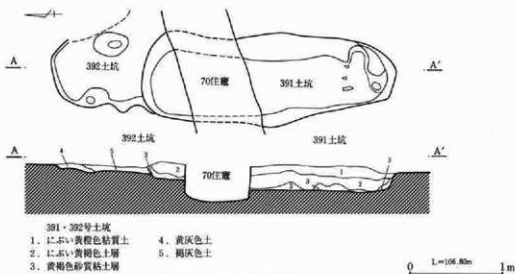
埋土 におい黄褐色土、におい黄褐色土をベースとする。

#### 392号土坑跡

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-5°-W 重複 70号住居跡、391号土坑に破壊される。

規模と形状 長径(1.0)m、短径0.75m、深さ0.07m、南側を391号土坑に破壊されており、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとする。



第540図 391・392号土坑跡

#### 416号土坑跡

位置 78-N-15グリッド 主軸方位 N-82°-W 重複 98号住居跡に破壊される。

規模と形状 長径0.64m、短径0.53m、深さ0.31m、東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 褐色土をベースとする。

#### 461号土坑跡 (PL70)

位置 79-G-17グリッド 主軸方位 N-78°-E 重複 44号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径(1.16)m、短径(1.05)m、深さ0.38m、東西にやや長い楕円形を呈する。

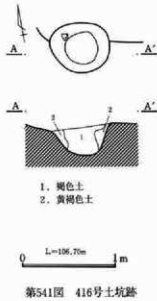
埋土 におい黄褐色土、灰褐色土をベースとする。

#### 478号土坑跡

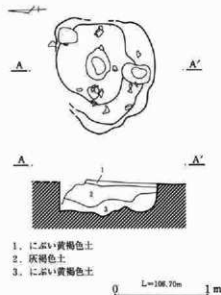
位置 79-G-13グリッド 主軸方位 N-39°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.77m、短径0.51m、深さ0.32m、南北にやや長い楕円形を呈する。

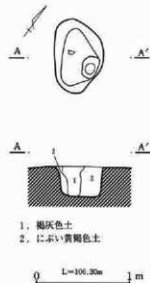
埋土 におい黄褐色土をベースとする。



第541図 416号土坑跡



第542図 461号土坑跡



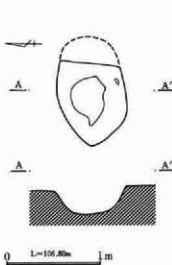
第543図 478号土坑跡

513号土坑跡 (PL70)

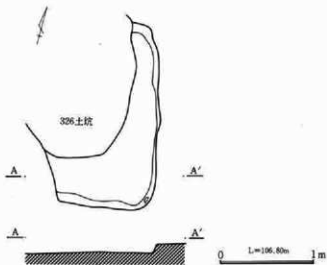
位置 78-R-11グリッド 主軸方位 N-73°-E 重複 なし  
 規模と形状 長径1.14m、短径0.74m、深さ0.38m、東西に長い楕円形を呈する。  
 埋土 灰黄褐色土をベースとする。

515号土坑跡 (PL70)

位置 78-Q-12グリッド 主軸方位 N-20°-E 重複 326号土坑に掘り込まれる。  
 規模と形状 長径1.84m、短径1.12m、深さ0.14m、南北に長い隅丸長方形を呈する。  
 埋土 黒褐色土をベースとする。



第544図 513号土坑跡



第545図 515号土坑跡

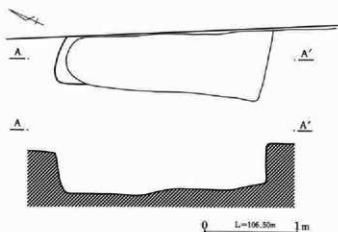
第3章 検出された遺構と遺物

516号土坑跡 (PL119)

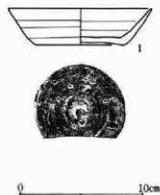
位置 78-K-12グリッド 主軸方位 N-20°-W 重複 なし

規模と形状 長径2.25m、短径(0.69)m、深さ0.46m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第546図 516号土坑跡



第547図 516号土坑跡出土遺物

516号土坑跡遺物観察表

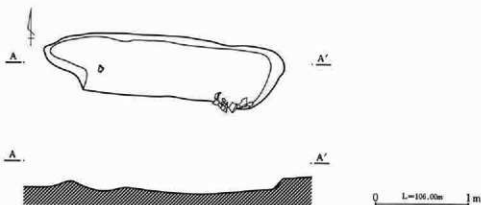
番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
516土坑-1	須恵器 坏	土 口縁一部欠	□11.4、底7.1、 高2.9	①灰 ②良好 ③中～細砂 粒を多く含む。	楕圓整形。底部回転糸切り未調整。

517号土坑跡

位置 78-K-12グリッド 主軸方位 N-81°-W 重複 なし

規模と形状 長径2.56m、短径0.64m、深さ0.13m、東西に長い長円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



第548図 517号土坑跡

519号土坑跡 (PL70)

位置 78-P-11グリッド 主軸方位 不明 重複 12号溝に破壊される。

規模と形状 長径(0.85)m、短径1.23m、深さ0.28m、形状は不明である。

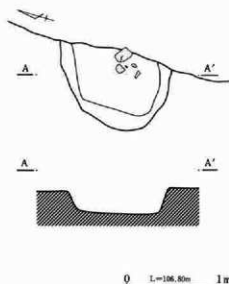
埋土 黒褐色土をベースとする。

520号土坑跡 (PL71)

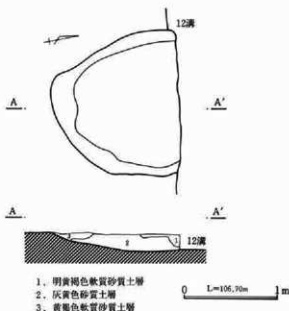
位置 78-P-12グリッド 主軸方位 N-10°-E 重複 12号溝に破壊される。21号溝を掘り込む。

規模と形状 長径(1.4)m、短径1.56m、深さ0.18m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄色土をベースとする。



第549図 519号土坑跡



第550図 520号土坑跡

521号土坑跡 (PL71)

位置 78-P-12グリッド 主軸方位 N-90°-E 重複 12号溝に破壊される。

規模と形状 長径2.16m、短径1.04m、深さ0.14m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄色土をベースとする。

522号土坑跡 (PL71)

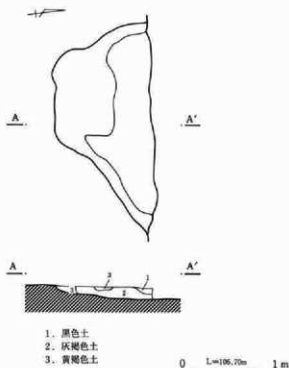
位置 78-M-10グリッド 主軸方位 N-39°-W

重複 1号溝に破壊される。126号住居跡を掘り込む。

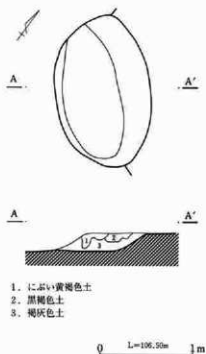
規模と形状 長径1.58m、短径1.02m、深さ0.19m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 褐灰色土をベースとする。

第3章 検出された遺構と遺物



第551図 521号土坑跡



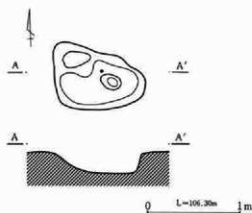
第552図 522号土坑跡

534号土坑跡 (PL71・119)

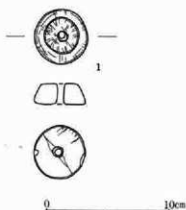
位置 78-K-11グリッド 主軸方位 N-86°-E 重複 なし

規模と形状 長径0.97m、短径0.63m、深さ0.21m、東西に長い楕円形状を呈する。

埋土 灰褐色土をベースとする。



第553図 534号土坑跡



第554図 534号土坑跡出土遺物

534号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	長さ (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
534土坑-1	かんらん岩 製紡錘車	埋土 完形	上径4.1、下径 2.7、厚1.6、孔 径0.8	①暗緑	下面に放射状刻線。

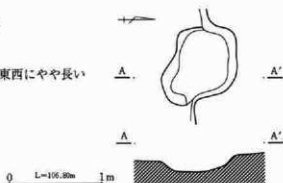
## 577号土坑跡

位置 78-O-13グリッド 主軸方位 N-64°-W

重複 1号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.96m、短径0.71m、深さ0.14m、東西にやや長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



第555図 577号土坑跡

## 646号土坑跡 (PL71・119・120)

位置 78-M-14グリッド 主軸方位 N-4°-E

重複 85号住居跡に破壊される。647号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径1.26m、短径0.93m、深さ0.39m、南北に長い楕円形を呈する。

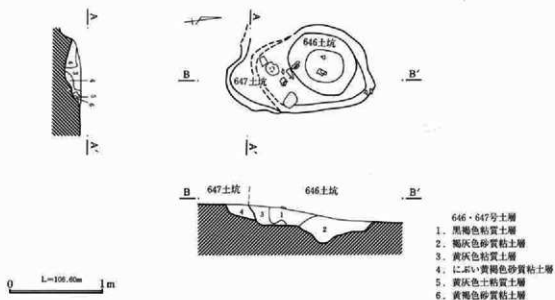
埋土 黒褐色土、褐色土をベースとする。

## 647号土坑跡 (PL71)

位置 78-M-14グリッド 主軸方位 不明 重複 85号住居跡、646号土坑に破壊される。

規模と形状 長径(0.22)m、短径0.85m、深さ0.17m、北大半を646号土坑に破壊されているため、形状は不明である。

埋土 黄灰色土、にぶい黄褐色土をベースとする。



第556図 646・647号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物



第557図 646号土坑跡出土遺物

646号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
646土坑-1	須恵器 坏	底土 完	□12.7、高6.4、 高3.6	①黄灰 ②良好 ③中-粗 砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
646土坑-2	須恵器 碗	底土 □-底1/2	□15.6、底8.2、 高5.3	①にぶい黄灰 ②良好 ③ 中-粗砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

681号土坑跡 (PL71)

位置 78-P-13グリッド 主軸方位 N-79°-W 重複 1号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.57m、短径0.49m、深さ0.18m、東西にやや長い楕円形を呈する。

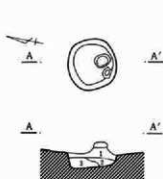
埋土 灰黄褐色土、黄褐色土をベースとする。

695号土坑跡 (PL71)

位置 78-R-14グリッド 主軸方位 N-68°-E 重複 122号住居跡、849号土坑を掘り込む。

規模と形状 長径0.95m、短径0.69m、深さ0.14m、東西に長い楕円形を呈する。

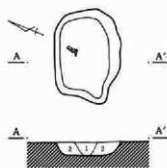
埋土 黒褐色土をベースとする。



1. 灰黄褐色軟質粘土層
2. 褐色シルト質粘土層
3. 黄褐色シルト質粘土層

0 L=106.90m 1m

第558図 681号土坑跡



1. 黒褐色軟質粘土層
2. 灰黄褐色軟質粘土層

0 L=106.80m 1m

第559図 695号土坑跡

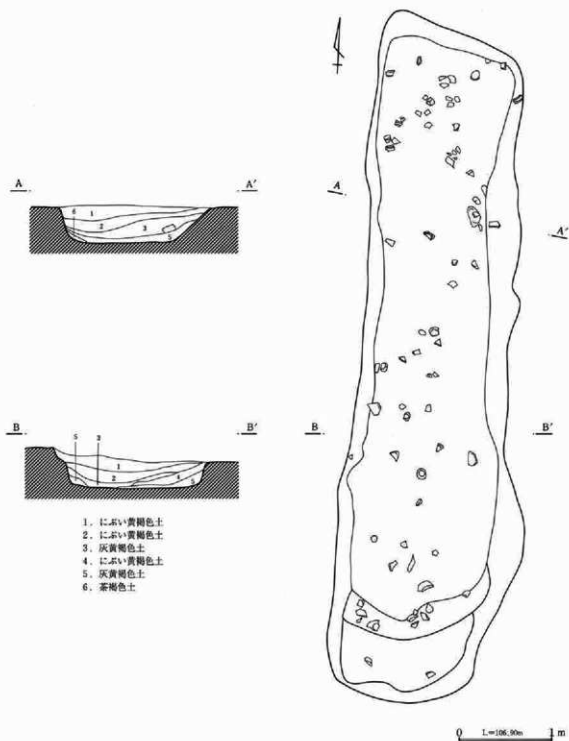


691号土坑跡

位置 89-J-1グリッド 主軸方位 N-4°-W 重複 23号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径7.06m、短径1.63m、深さ0.41m、南北に長い長円形を呈する。

埋土 におい黄褐色土、灰黄褐色土が交互に層状に堆積している。



第560図 691号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

702号土坑跡 (PL72)

位置 78-R-13グリッド 主軸方位 N-55°-E 重複 122号住居跡を掘り込む。

規模と形状 長径1.04m、短径0.76m、深さ0.09m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 にぶい黄褐色土。

706号土坑跡 (PL72-120)

位置 78-R-13グリッド 主軸方位 N-64°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.58m、短径0.56m、深さ0.51m、東西に長い楕円形を呈する。

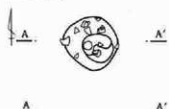
埋土 にぶい黄褐色土、灰黄褐色土をベースとする。



1. にぶい黄褐色シルト質粘土層

0 L=106.80m 1m

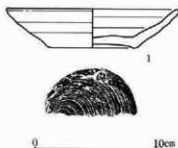
第561図 702号土坑跡



1. にぶい黄褐色シルト質粘土層  
2. 灰黄褐色シルト質粘土層

0 L=106.70m 1m

第562図 706号土坑跡



第563図 706号土坑跡出土遺物

706号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
706土坑- 1	須恵器 杯	埋土 口-底1/2	口(13.8)、底7.4、高3.1		①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

724号土坑跡 (PL72)

位置 78-P-14グリッド

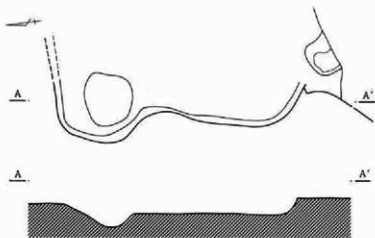
主軸方位 不明

重複 なし

規模と形状 不整形。上面はかなり削平されており、原型は不明である。

埋土 黒褐色土をベースとする。

0 L=107.00m 1m



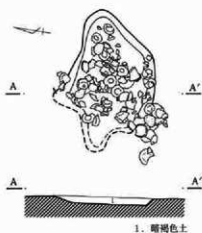
第564図 724号土坑跡

745号土坑跡 (PL72-120-121)

位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-75°-E 重複 基礎地業土を掘り込む。

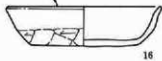
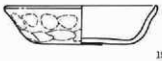
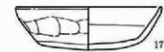
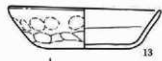
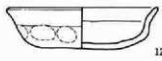
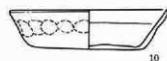
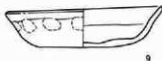
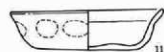
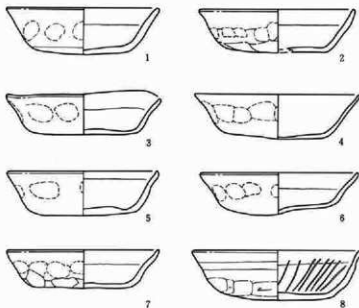
規模と形状 長径1.51m、短径1.09m、深さ0.07m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



0 L=106.70m 1 m

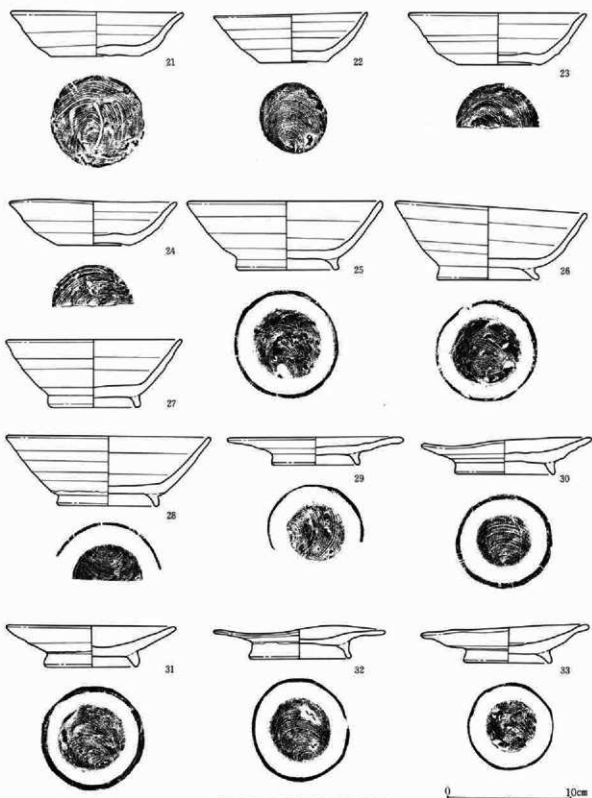
第565図 745号土坑跡



0 10cm

第566図 745号土坑跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第567図 745号土坑跡出土遺物(2)

745号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態	保存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
745土坑-1	土師器 杯	埋	土形	口12.2、底7.8、 高3.7	①橙 ②良好 ③中-細砂 絞をやや多く含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面裏削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

745土坑-2	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.2、底(8.0)、高3.4	①灰 ②良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-3	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.4、底8.6、高3.5	①灰 ②良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-4	土師器 坏	埴土 口～底4/5	口12.9、底8.0、高3.6	①灰 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-5	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.1、底8.4、高3.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-6	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.5、底8.4、高3.3	①灰 ②やや良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-7	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.2、底8.0、高3.0	①にふいね ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部上位内外面横撫で。体部下位～底部外面磨削り、内面撫で。体部上位外面に指頭圧痕。
745土坑-8	土師器 坏	埴土 口～底4/5	口13.4、底8.7、高4.0	①灰 ②やや良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	口縁部～体部上位内外面横撫で。体部下位～底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-9	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.5、底8.0、高3.3	①にふいね ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部～底部内外面横撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-10	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.6、底9.0、高4.2	①灰 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部～底部内外面横撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-11	土師器 坏	埴土 口～底3/4	口12.3、底8.5、高3.3	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-12	土師器 坏	埴土 口～底3/4	口12.0、底7.5、高3.2	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	口縁部～体部内外面横撫で。底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-13	土師器 坏	埴土 口～底5/6	口12.1、底8.3、高3.4	①灰 ②やや良好 ③中～細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面撫で。体部外面に指頭圧痕。
745土坑-14	土師器 坏	埴土 口～底2/3	口12.5、底8.4、高3.2	①にふいね ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部下位～底部外面磨削り、内面撫で。
745土坑-15	土師器 坏	埴土 口～底4/5	口12.2、底8.3、高4.1	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	口縁部～体部上位内外面横撫で。体部下位～底部外面磨削り、内面撫で。
745土坑-16	土師器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.3、底8.3、高3.1	①にふいね ②良好 ③中～細砂粒を含む。	口縁部～体部上位内外面横撫で。体部下位～底部外面磨削り、内面撫で。
745土坑-17	土師器 坏	埴土 口～底3/4	口11.7、底8.2、高3.5	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面撫で。
745土坑-18	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口13.3、底7.0、高3.8	①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-19	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口13.2、底7.3、高3.2	①灰 ②良好 ③砂礫・中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-20	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.6、底5.9、高4.0	①灰・ロープ ②良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-21	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口13.8、底7.2、高3.6	①灰白 ②やや良好 ③中～細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-22	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口12.2、底5.4、高3.9	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-23	須恵器 坏	埴土 口～底1/2	口14.2、底6.4、高4.1	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-24	須恵器 坏	埴土 口～底1/2	口13.3、底6.0、高3.5	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。
745土坑-25	須恵器 坏	埴土 口縁一部欠	口15.6、底8.2、高5.4	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-26	須恵器 坏	埴土 口～底2/3	口15.4、底8.0、高6.3	①灰 ②やや良好 ③中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-27	須恵器 坏	埴土 口～底1/2	口14.0、底7.4、高5.4	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-28	須恵器 坏	埴土 口～底1/3	口16.3、底8.1、高5.5	①灰白 ②やや良好 ③中～細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-29	須恵器 器	埴土 高台一部欠	口14.0、底7.0、高2.3	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-30	須恵器 器	埴土 完形	口13.5、底8.0、高3.0	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
745土坑-31	須恵器 器	埴土 口縁・高台部一部欠	口13.5、底7.5、高3.3	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。内面黒色炭灰処理。
745土坑-32	須恵器 器	埴土 口縁一部欠	口13.6、底8.1、高3.0	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	横輪整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

第3章 検出された遺構と遺物

745土坑一 33	須恵器 皿	埋土 口縁一部欠	口13.3、底6.9、 高3.1	①灰 ②やや不良 粒を多く含む。	③粗砂	輪縁整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。
--------------	-------	-------------	---------------------	---------------------	-----	------------------------

748号土坑跡 (PL72)

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-11°-E 重複 なし

規模と形状 長径2.34m、短径1.25m、深さ0.34m、南北に長い楕円形を呈する。

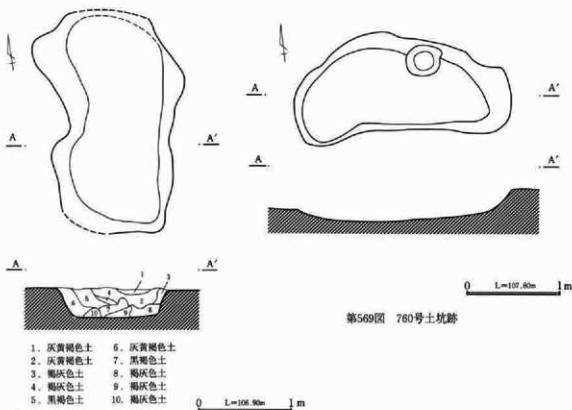
埋土 灰黄褐色土、黒褐色土、褐灰色土がブロック状に混入する。

760号土坑跡 (PL72)

位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-88°-E 重複 基礎地栗土を掘り込む。

規模と形状 長径2.32m、短径1.06m、深さ0.26m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 暗褐色土をベースとする。



第568図 748号土坑跡

第569図 760号土坑跡

751号土坑跡 (PL72)

位置 78-P-13グリッド 主軸方位 N-85°-E 重複 1号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.74m、深さ0.13m、東西に長い楕円形を呈する。

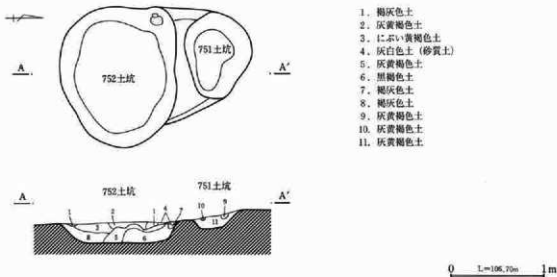
埋土 灰黄褐色土をベースとする。

752号土坑跡 (PL72)

位置 78-P-13グリッド 主軸方位 N-55°-E 重複 1号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.48m、短径1.23m、深さ0.23m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 褐灰色土、灰黄褐色土、灰白色土がブロック状に交互に堆積している。



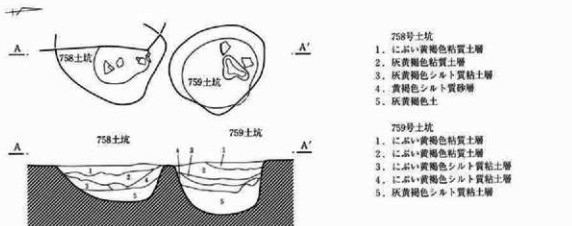
第570図 751・752号土坑跡

758号土坑跡 (PL72・121)

位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-28°-E 重複 基礎地業土を掘り込む。

規模と形状 長径(1.04)m、短径0.86m、深さ0.41m、南北に長い楕円形を呈する。西側を撻乱によって破壊されている。

埋土 上層より黄褐色土と灰黄褐色土が交互に堆積している。



第571図 758・759号土坑跡

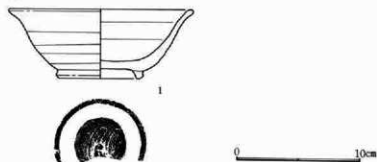
第3章 検出された遺構と遺物

759号土坑跡 (PL72)

位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-20°-W 重複 基礎地業土を掘り込む。

規模と形状 長径1.02m、短径0.86m、深さ0.56m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 におい黄褐色土をベースとする。



第572図 759号土坑跡出土遺物

758号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
758土坑- 1	須恵器 埴 土	口~底1/2	口(14.8)、底6.9、高5.5	①灰黄 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整、高台部貼付。

762号土坑跡 (PL72)

位置 78-N-13グリッド 主軸方位 N-78°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.71m、短径0.51m、深さ0.18m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 褐色土、におい黄褐色土、灰褐色土がブロック状に堆積している。

768号土坑跡 (PL73・121)

位置 78-Q-14グリッド 主軸方位 N-28°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.94m、短径0.78m、深さ0.14m、不整形形を呈する。

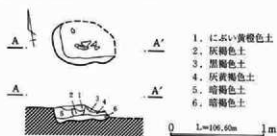
埋土 におい黄褐色土をベースとする。

770号土坑跡 (PL73)

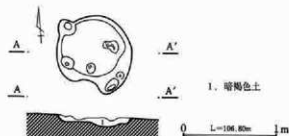
位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-15°-E 重複 基礎地業土を掘り込む。

規模と形状 長径(1.0)m、短径0.52m、深さ0.16m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。



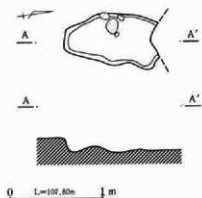
第573図 762号土坑跡



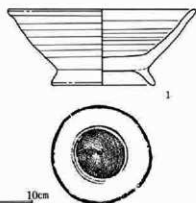
第574図 768号土坑跡



第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第575図 770号土坑跡



第576図 768号土坑跡出土遺物

768号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
768土坑- 1	須恵器 埴 土	口縁一部欠	口15.0、底8.2、 高9.1	①灰 ②良好 ③中-粗砂 粒を少量含む。	糠糠整形。底部回転糸切り残痕。高台部貼付。

771号土坑跡 (PL73)

位置 78-P-15グリッド 主軸方位 不明

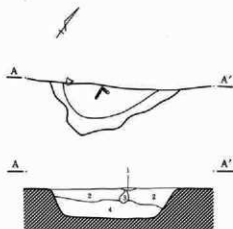
重複 なし

規模と形状 長径(1.37)m、短径(0.56)m、深さ0.32m、  
大半が調査区外となるため、原形は不明である。

埋土 褐灰色土、にぶい黄褐色土をベースとする。

1. にぶい黄褐色土
2. 褐灰色土
3. 黒褐色土
4. にぶい黄褐色土

0 L=106.90m 1m



第577図 771号土坑跡

774号土坑跡 (PL73-121)

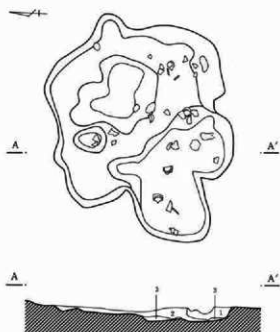
位置 78-Q-15グリッド 主軸方位 N-75°-E

重複 基礎地栗土を掘り込む。852号土坑を掘り込む。

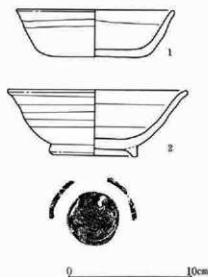
規模と形状 長径2.59m、短径1.86m、深さ0.14m、不整形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

第3章 検出された遺構と遺物



第578図 774号土坑跡



第579図 774号土坑跡出土遺物

1. 褐灰色シルト質粘土層
2. 灰黄褐色シルト質粘土層
3. 灰黄褐色土

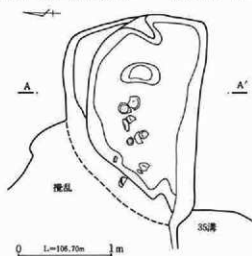
774号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
774土坑-1	土師器 坏	埋土 口-或2/3 高3.7	口12.6、底7.5、 高3.7	①褐 ②良好 ③砂礫・中 一細砂粒を少量含む。	口縁部一帯部内外面横撫で。底部外周削り、内面撫で。
774土坑-2	須恵器 埴	埋土 口-底1/2	口14.3、底7.0、 高5.3	①灰 ②不良 ③中一細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

815号土坑跡 (PL73-121)

位置 78-P-13グリッド 主軸方位 N-88°-E

重複 掘削に北西側を破壊されている。

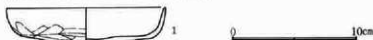


1. 灰黄褐色土
2. にぶい黄褐色土
3. にぶい黄褐色土
4. 灰黄褐色土
5. 灰黄褐色土
6. にぶい黄褐色土
7. 灰黄褐色土
8. 灰黄褐色土
9. 灰黄褐色土
10. 褐灰色土
11. 褐灰色土
12. 灰黄褐色土
13. 褐灰色土
14. にぶい黄褐色土
15. 褐灰色土
16. 灰黄褐色土
17. 褐灰色土
18. 灰黄褐色土
19. 褐灰色土
20. 褐灰色土
21. 灰キリブ土
22. 黄灰色土
23. 褐灰色土
24. 褐灰色土
25. 褐灰色土
26. 灰黄褐色土
27. にぶい黄褐色土
28. 褐灰色土
29. にぶい黄褐色土
30. 黒褐色土

第580図 815号土坑跡

規模と形状 長径2.14m、短径1.5m、深さ0.62m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、褐灰色土が細かいブロック状に入る。



第581図 815号土坑跡出土遺物

## 815号土坑跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
815土坑-1	土師器 坏	土 口縁部1/2欠	口12.7、底10.5、 高2.8	①橙 ②不良 ③中-細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面磨削り、内面撫で。

## 816号土坑跡

位置 78-P-15グリッド 主軸方位 N-65°-E 重複 71号住居跡、390号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.26m、短径(0.86)m、深さ0.57m、南西-北東方向に長い楕円形を呈する。

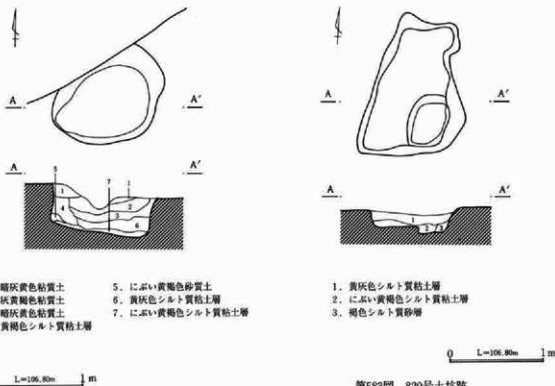
埋土 上層より灰黄褐色土、暗灰黄色土、にぶい黄褐色土の順に堆積している。

## 820号土坑跡

位置 78-P-15グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 71号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.44m、短径1.1m、深さ0.26m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



1. 暗灰黄色粘質土
2. 灰黄褐色粘質土
3. 暗灰黄色粘質土
4. 黄褐色シルト質粘土層
5. にぶい黄褐色砂質土
6. 黄灰色シルト質粘土層
7. にぶい黄褐色シルト質粘土層

1. 黄灰色シルト質粘土層
2. にぶい黄褐色シルト質粘土層
3. 褐色シルト質砂層

第582図 816号土坑跡

第583図 820号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

821号土坑跡

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-42°-W 重複 71号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.84m、短径0.65m、深さ0.23m、南北に長い楕円形を呈する。

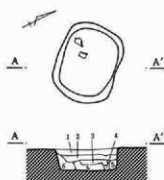
埋土 褐灰色土、暗灰黄色土、灰黄褐色土の順に層状に堆積する。

828号土坑跡

位置 78-O-14グリッド 主軸方位 N-83°-E 重複 100号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径0.98m、短径0.66m、深さ0.18m、東西に長い楕円形を呈する。

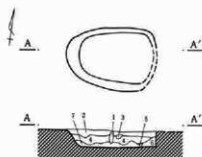
埋土 黄褐色土をベースとする。



- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 褐灰色粘土層   | 4. 黄灰色粘質土層     |
| 2. 褐灰色粘土層   | 5. 灰黄褐色シルト質粘土層 |
| 3. 暗灰黄色粘質土層 | 6. 褐色シルト質粘土層   |

0 L=106.50m 1m

第584図 821号土坑跡



- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 黄褐色砂層      | 5. 黄褐色シルト質粘土層 |
| 2. 暗褐色シルト質粘土層 | 6. 褐色シルト質粘土層  |
| 3. 黄褐色シルト質粘土層 | 7. 褐色シルト質粘土層  |
| 4. 黄褐色シルト質粘土層 |               |

0 L=106.60m 1m

第585図 828号土坑跡

832号土坑跡 (PL73)

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-76°-W 重複 なし

規模と形状 長径0.89m、短径0.66m、深さ0.31m、東西に長い楕円形を呈する。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。

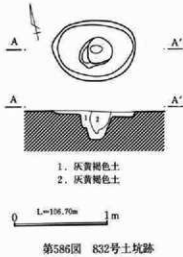
848号土坑跡 (PL73)

位置 78-Q-14グリッド 主軸方位 N-50°-W 重複 なし

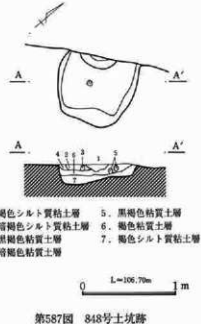
規模と形状 長径(0.73)m、短径0.84m、深さ0.22m、南北に長い楕円形を呈するものと思われるが、北側が調査区外へ出るため、形態は不明である。

埋土 上層より暗褐色土、褐色土の順に層状に堆積している。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第586図 832号土坑跡



第587図 848号土坑跡

849号土坑跡 (PL73)

位置 78-R-14グリッド 主軸方位 不明 重複 122号住居跡に掘り込まれる。

規模と形状 長径1.28m、短径(0.66)m、深さ0.68m、北西側が調査区外に出るため、形態は不明である。

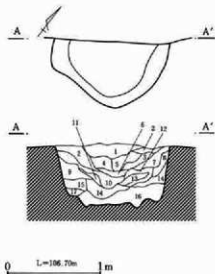
埋土 褐灰色土、にぶい黄褐色土が細かいブロック状に堆積している。

850号土坑跡 (PL74・121)

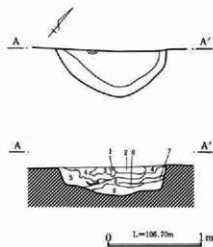
位置 78-R-13グリッド 主軸方位 不明 重複 117号住居跡に破壊される。

規模と形状 長径(0.51)m、短径(0.66)m、深さ0.32m、北西側が調査区外に出るため、形態は不明である。

埋土 上層より、にぶい黄褐色土、暗褐色土、褐色土、にぶい褐色土の順で層状に堆積している。



第588図 849号土坑跡



第589図 850号土坑跡

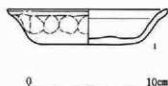
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 849号土坑

1. 褐灰色土
2. 褐灰色土
3. 褐灰色土
4. 褐灰色土
5. 褐灰色土
6. 褐灰色土
7. 褐灰色土
8. にぶい黄褐色土
9. 褐灰色土
10. 灰黄褐色土
11. にぶい黄褐色土
12. 灰黄褐色土
13. にぶい黄褐色土
14. 褐灰色土
15. にぶい黄褐色土
16. 灰黄褐色土
17. 褐灰色土

#### 850号土坑

1. 褐色粘質土層
2. にぶい黄褐色
3. にぶい黄褐色粘質土層
4. 褐色粘質土層
5. 褐色粘質土層
6. 褐色粘質土層
7. 褐色粘質土層
8. 褐色シルト質粘土層
9. にぶい褐色シルト質粘土層



第590図 850号土坑跡出土遺物

### 850号土坑跡遺物観察表

番号	部	根	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
850土坑-1	土師器	坏	土塊 口縁一部欠	口12.7、底8.4、 高2.8	①橙 ②不良 ③中-細砂 粒を多く含む。	口縁部一部内外面横溝で、底部外面造削り、内面撫で。

#### 852号土坑跡 (PL174)

位置 78-Q-13グリッド 主軸方位 N-12°-E 重複 基礎地業を掘り込む。774号土坑に破壊される。

規模と形状 長径1.04m、短径0.92m、深さ0.16m、南北に長い楕円形を呈する。

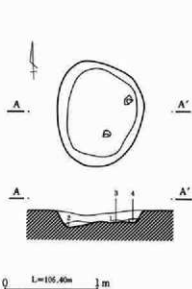
埋土 褐灰色土をベースとする。

#### 854号土坑跡 (PL121)

位置 78-R-12グリッド 主軸方位 N-10°-W 重複 なし

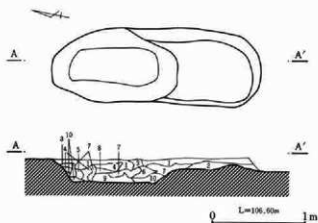
規模と形状 長径2.25m、短径0.8m、深さ0.26m、南北に長い長円形状を呈する。

埋土 黄褐色土、灰黄褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土がブロック状に入る。



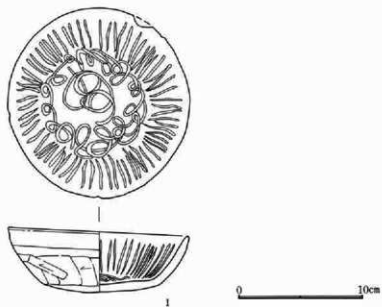
1. 褐灰色土
2. 褐色シルト質砂層
3. 黒褐色粘質土層
4. 褐灰色シルト質砂層

第591図 852号土坑跡



1. 黄褐色土
2. 灰黄褐色土
3. 褐色土
4. 黄褐色土
5. にぶい黄褐色土
6. 灰黄褐色土
7. 褐色土
8. 褐色土
9. 灰黄褐色土
10. にぶい黄褐色土

第592図 854号土坑跡



第593図 854号土坑跡出土遺物

854号土坑跡遺物観察表

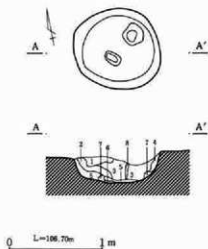
番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
854土坑- 1	土師器 坏	埋 土 完 形	□14.1、底9.1、 高5.2	①橙 ②良好 ③砂礫・中 細砂粒を少量含む。	□縁部内外面横線で。体部～底部外面施刮り、内面 撫で。体部内面に放射状暗文。底部内面に螺旋状暗 文。

856号土坑跡 (PL74)

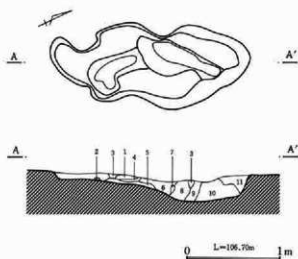
位置 78-P-15グリッド 主軸方位 N-63°-W 重複 71号住居跡に破壊される。

規模と形状 長径0.98m、短径0.87m、深さ0.31m、東西にやや長い楕円形状を呈する。

埋土 灰黄褐色土、黄褐色土をベースとする。



第594図 856号土坑跡



第595図 858号土坑跡

第3章 検出された遺構と遺物

856号土坑

1. 褐色土
2. にぶい黄褐色土
3. 灰黄褐色土
4. 明黄褐色土
5. 黄褐色土
6. にぶい黄褐色砂質土
7. 褐色砂質土
8. 褐色土

888号土坑

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 灰黄褐色土   | 7. 灰黄褐色土   |
| 2. 灰黄褐色土   | 8. にぶい黄褐色土 |
| 3. にぶい黄褐色土 | 9. 灰黄褐色土   |
| 4. 褐色土     | 10. 灰黄褐色土  |
| 5. 灰黄褐色土   | 11. 褐色土    |
| 6. 灰黄褐色土   |            |

858号土坑跡 (PL74)

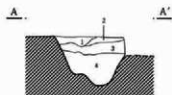
位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-25°-E 重複 なし  
 規模と形状 長径2.12m、短径0.91m、深さ0.29m、南北に長い楕円形を呈する。  
 埋土 灰黄褐色土、にぶい黄褐色土をベースとする。

859号土坑跡 (PL74)

位置 78-P-14グリッド 主軸方位 N-0°-E・W 重複 なし  
 規模と形状 長径0.94m、短径0.72m、深さ0.52m、南北に長い楕円形を呈する。  
 埋土 上層より褐色土、灰黄褐色土、褐色土の順に堆積する。

884号土坑跡

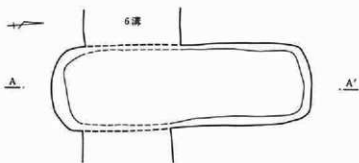
位置 78-S-14グリッド 主軸方位 N-6°-E 重複 6号溝に破壊される。  
 規模と形状 長径2.78m、短径0.88m、深さ0.32m、南北に長い隅丸長方形を呈する。  
 埋土 褐色土をベースとする。



- |        |          |
|--------|----------|
| 1. 褐色土 | 3. 灰黄褐色土 |
| 2. 褐色土 | 4. 褐色土   |

0 L=106.70m 1m

第596図 859号土坑跡



- |         |
|---------|
| 1. 褐色土  |
| 2. 暗褐色土 |

0 L=107.10m 1m

第597図 884号土坑跡

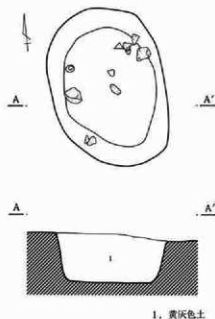


## 894号土坑跡

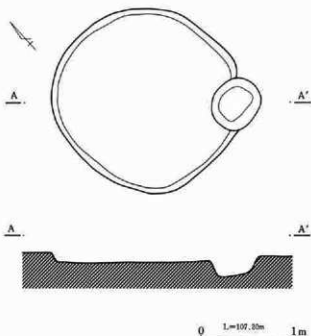
位置 78-Q-12グリッド 主軸方位 N-0°-E・W 重複 基礎地業を掘り込む。

規模と形状 長径1.74m、短径1.22m、深さ0.53m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黄灰色土をベースとする。



第598図 894号土坑跡



第599図 896号土坑跡

## 6. 整地遺構

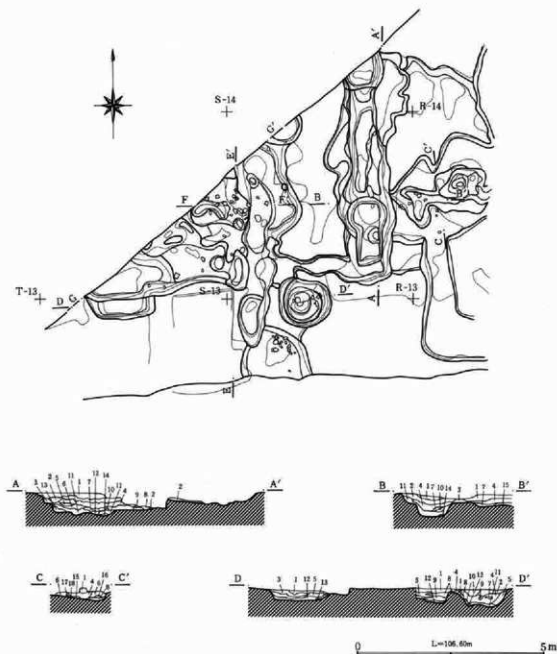
## 整地遺構 (PL74-75-122-123-124)

78区では、二箇所で窪地に土を入れ整地された箇所が検出された。Q-13・14-R-13・14-S-13Gr. 付近で検出された整地遺構は、以前にあった溝跡や土坑跡の窪みを0.2~0.6mほどの厚さで灰白色土・褐灰色土をベースとする土で埋め、平坦面を形成している。堆積状態はほぼ水平で均一であり、層状をなすが、版築と言えるほどの硬化面はない。N-11・12-O-11・12-P-11・12Gr. 付近で検出された整地遺構は、19・20号掘立柱建物すなわち門の造営に先立って施されたものと考えられる。19・20号掘立柱建物は、基本的には地山を削り出した面を基礎に建てられているが、部分的に、先行して掘り込まれていた遺跡や土坑跡の窪みに、にぶい黄褐色土をベースとする土を入れて平坦面を形成している。整地土の厚みは0.1~0.15m程度と、Q-13・14-R-13・14-S-13Gr. 付近に比べてかなり薄い。ほぼ水平な堆積であり、Q-13・14-R-13・14-S-13Gr. 付近に比べるとやや堅緻であり、若干、版築状の様相を呈している。

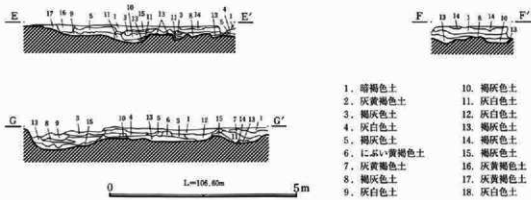
### 第3章 検出された遺構と遺物

79区では窪地を埋めた整地遺構は検出されず、A-11・12-B-11・12・13-C-11・12・13-D-11・12・13-E-12・13Gr.付近で、厚さ0.1~0.3m程度の褐灰色土層が地山の上面に貼られているのが検出され、整地土層と考えられる。南側がやや厚く、北側にいくに従って薄くなっているが、後世の竪穴住居や溝・堀等による掘り込みや削平が甚だしく、明確な範囲はおさえられなかった。

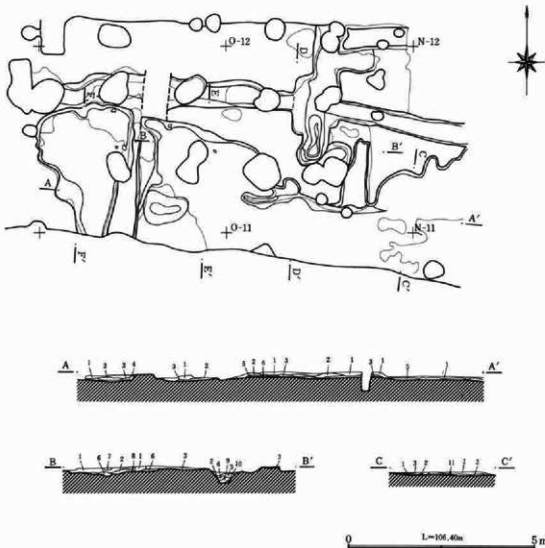
上記の整地遺構は、いずれも褐灰色土・灰白色土をベースとする土によって構築されており、いずれの地点においても大変よく類似した土が用いられている。官衙造営時に、官衙城一帯において行われたものと考えられる。なお、整地土中からは地鎮等の祭祀に伴う遺物は全く検出されなかった。



第600図 78区Q-13・14-R-13・14-S-13Gr.付近整地遺構(1)

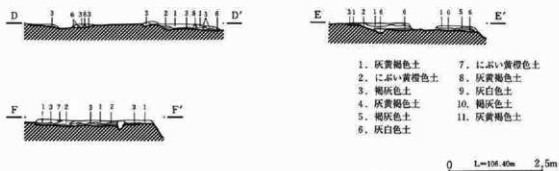


第601図 78区Q-13・14-R-13・14-S-13Gr.付近整地遺構(2)

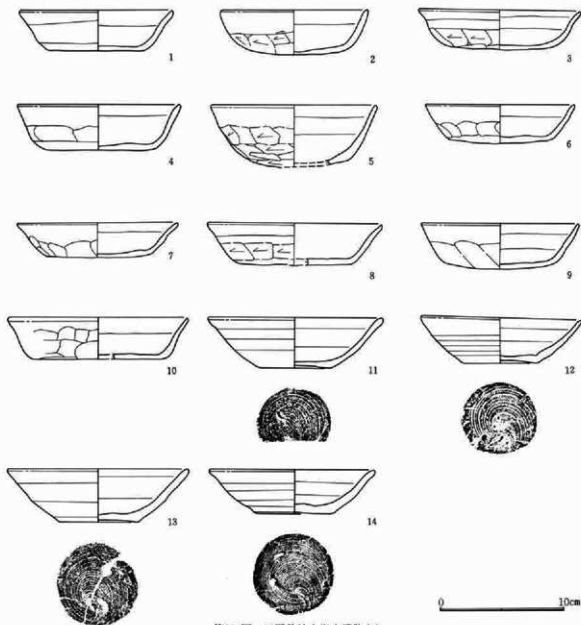


第602図 78区N-11・12-O-11・12-P-11・12Gr.付近整地遺構(1)

第3章 検出された遺構と遺物

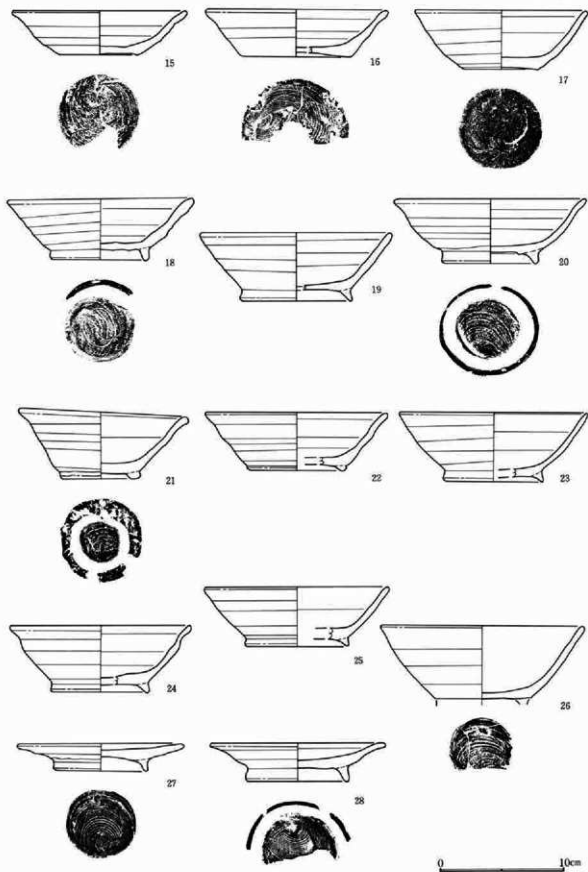


第603图 78区N-11・12-O-11・12-P-11・12Gr.付近整地遺構(2)



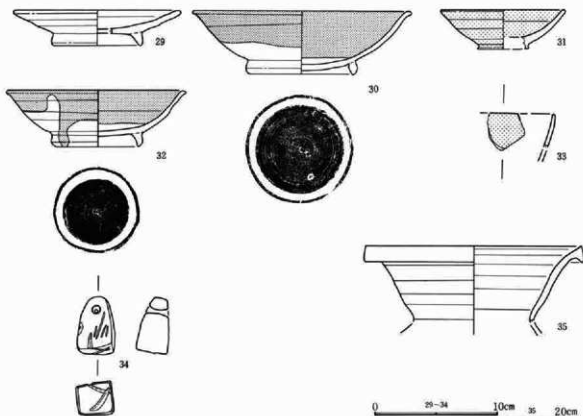
第604图 78区整地土出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第605図 78区整地土出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



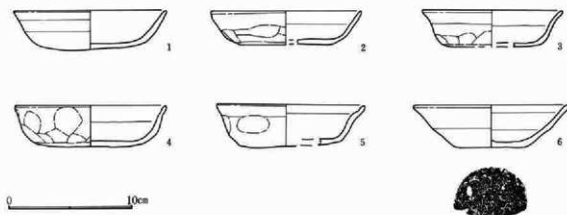
第606図 78区整地土出土遺物(3)

78区整地土遺物観察表

番 号	器 種	出土状態 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
78区整地土 -1	土師器 環	78-Q-13 口~底4/5	口12.2、底7.5、 高3.3	①橙 ②良好 ③中~細砂 粒を若干含む。	口縁部一体部内外面横撫で。底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -2	土師器 環	78-Q-14 口~底7/8	口11.8、底7.6、 高3.5	①橙 ②良好 ③中~細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -3	土師器 環	78-Q-14 口~底1/2	口(13.0)、底7. 8、高3.2	①にふい粉 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -4	土師器 環	78-Q-14 口~底1/2	口(13.0)、底8. 4、高3.6	①にふい粉 ②良好 ③中 ~細砂粒を含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -5	土師器 環	78-Q-14 口~底2/3	口(13.3)、底(7 .4)、高4.9	①にふい粉 ②良好 ③中 ~細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -6	土師器 環	78-Q-13 口~底1/3	口(11.8)、底8. 2、高3.0	①橙 ②良好 ③中~細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -7	土師器 環	78-Q-14 口~底1/3	口(12.8)、底8. 2、高2.7	①橙 ②良好 ③中~細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -8	土師器 環	78-Q-14 口~底1/4	口(14.0)、底(9 .0)、高3.3	①明黄褐 ②良好 ③中~ 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -9	土師器 環	78-Q-14 口~底1/4	口(12.6)、底8. 3、高3.6	①橙 ②良好 ③中~細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -10	土師器 環	78-Q-13 口~底1/4	口(14.3)、底(1 0.0)、高3.3	①橙 ②良好 ③細砂粒を 含む。	口縁部内外面横撫で。体部~底部外面掘削り、内面 撫で。
78区整地土 -11	須恵器 環	78-R-13 口~底1/2	口(14.0)、底5. 6、高4.0	①灰 ②良好 ③中~細砂 粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土 -12	須恵器 環	78-Q-13 口~底2/3	口(12.9)、底6. 0、高3.7	①オリーブ黒 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土 -13	須恵器 環	78-Q-14 口~底1/3	口(14.5)、底6. 4、高4.2	①黄灰 ②良好 ③細砂粒 を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土 -14	須恵器 環	78-Q-14 口縁一部欠	口13.3、底6.3、 高3.5	①灰オリーブ ②良好 ③ 中~細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。

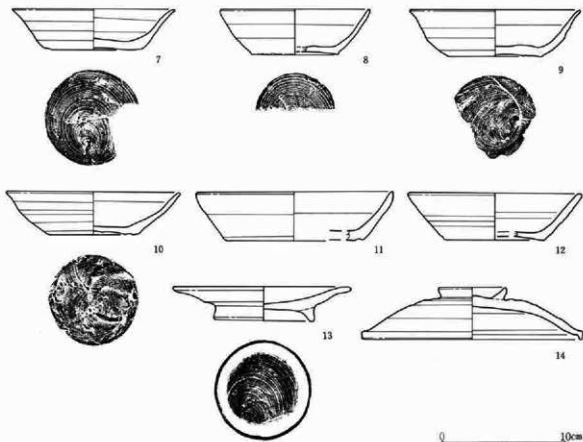
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

78区整地土-15	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(14.0)、底6.2、高3.5	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土-16	須恵器 坏	78-Q-14 口一底1/2	口(14.6)、底(8.6)、高3.7	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土-17	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(13.6)、底6.0、高4.7	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土-18	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(14.8)、底7.3、高4.9	①灰 ②良好 ③中～細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-19	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/4	口(15.4)、底(9.0)、高5.4	①明褐色 ②不良 ③中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-20	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(15.2)、底7.9、高5.2	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-21	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(13.4)、底6.4、高5.6	①黒 ②やや不良 ③中～細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-22	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/3	口(14.6)、底(8.0)、高4.7	①灰白 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-23	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/4	口(14.9)、底(8.0)、高5.5	①灰 ②やや良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-24	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/4	口(14.5)、底(7.9)、高5.3	①灰白 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-25	須恵器 坏	78-Q-13 口一底1/4	口(14.8)、底(8.2)、高4.7	①灰 ②やや不良 ③中～細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-26	土師器 坏	78-R-13 口一底3/4	口16.2、高(5.8)	①明黄褐色 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付痕あり。内面黒色処理。
78区整地土-27	須恵器 皿	78-R-13 口一底1/2	口13.3、底7.5、高2.2	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-28	須恵器 皿	78-Q-14 口一底1/4	口(14.0)、底8.0、高3.0	①灰 ②良好 ③中～細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
78区整地土-29	須恵器 皿	78-Q-14 口一底1/4	口(13.0)、底(7.0)、高2.9	①灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
78区整地土-30	灰釉陶器 坏	78-Q-14 口一底2/3	口(17.4)、底8.8、高5.0	①灰・オリーブ灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰色を呈する。
78区整地土-31	緑釉陶器 坏	78-Q-13 口一底残片	口(10.0)、底(4.0)、高3.1	①灰オリーブ ②良好 ③堅緻	轆轤整形。高台部貼付。
78区整地土-32	灰釉陶器 坏	78-Q-13 口一底2/3	口(14.3)、底7.2、高4.5	①灰白 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部貼付。施釉方法は漬け掛け。釉調は不透明な灰色を呈する。
78区整地土-33	緑釉陶器 坏	78-Q-13 口縁部破片	長(3.0)、短(3.0)、厚(0.3)	①灰オリーブ ②良好 ③堅緻	轆轤整形。釉はかなり剥離している。
78区整地土-34	砥沢石製練	78-Q-13	長4.5、短3.0、厚2.7、重35g、孔径0.7	①黄灰	
78区整地土-35	須恵器 甕	78-Q-14 口縁部破片	口(23.5)、高(8.1)	①黒灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。口縁部横撫で。



第607図 79区整地土出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第608図 79区整地土出土遺物(2)

79区整地土遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	量	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
79区整地土-1	土師器 坏	79-E-13 口-底1/3	□(12.0), 底8.6, 高3.4		①灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面彫削り、内面撫で。
79区整地土-2	土師器 坏	79-E-13 口-底1/3	□(12.0), 底7.0, 高2.7		①にぶい灰 ②良好 ③中-細砂粒を多く含む。	口縁部横撫で。体部-底部外面彫削り、内面撫で。
79区整地土-3	土師器 坏	79-D-12 口-底1/8	□(11.0), 底7.6, 高2.9		①にぶい灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部-底部外面彫削り、内面撫で。
79区整地土-4	土師器 坏	79-F-14 口-底1/2	□(12.2), 底8.4, 高3.3		①にぶい灰 ②良好 ③細砂粒を少量含む。	口縁部-体部上位内外面横撫で。体部下位-底部外面彫削り。体部上位外面に指痕圧痕。
79区整地土-5	土師器 坏	79-F-14 口縁一部欠	□(11.9), 底(8.3), 高3.5		①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	口縁部-体部内外面横撫で。底部外面彫削り、内面撫で。
79区整地土-6	須恵器 坏	79-C-12 口-底1/2	□(12.4), 底5.8, 高3.4		①灰黄 ②良好 ③中-細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-7	須恵器 坏	79-D-12 口-底2/3	□(13.0), 底6.6, 高3.2		①灰白 ②良好 ③細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-8	須恵器 坏	79-D-12 口-底1/3	□(12.0), 底(6.8), 高3.6		①灰灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-9	須恵器 坏	79-D-13 口-底1/3	□(13.6), 底7.4, 高3.7		①灰白 ②良好 ③中-細砂粒をごく少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-10	須恵器 坏	79-F-14 完	□(13.9), 底7.2, 高3.5		①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-11	須恵器 甃	79-C-12 口-底破片	□(15.7), 底(11.0), 高3.9		①灰 ②良好 ③灰織	轆轤整形。底部回転彫削り、高台部削り出し。
79区整地土-12	須恵器 坏	79-E-13 口-底1/4	□(13.8), 底(8.0), 高3.7		①灰 ②良好 ③細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。
79区整地土-13	須恵器 皿	79-F-14 口-底3/4	□(14.1), 底8.1, 高2.8		①灰 ②良好 ③中-細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。

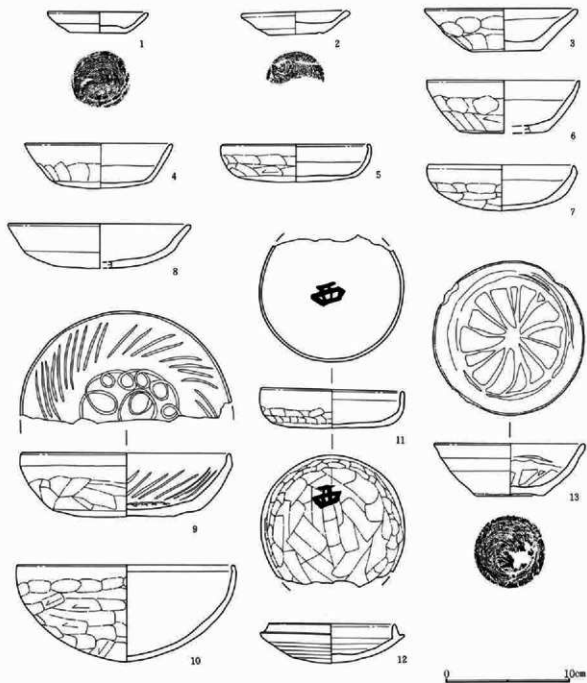


79区豊島土 -14	須恵器 蓋	79-F-15 つまみ一週 1/2	径(17.5)、つま み径5.4、高4.1	①灰 ②やや不良 ③中一 細砂粒を少量含む。	横楕圓形、つまみ部周囲に転塵削り、つまみ部貼付。
---------------	-------	-------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------

## 7. グリッド出土遺物

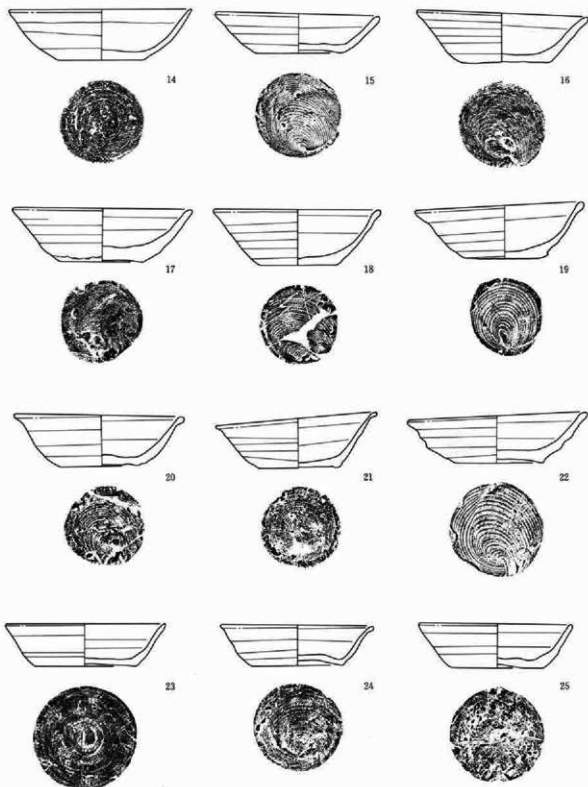
## グリッド出土遺物 (PL.75・124・125・126・127・128)

特定の遺構に伴わない、遺跡上層土中から出土した遺物は、遺物収納ケースにして約100箱分ほどの量になる。以下では復元あるいは実測可能なもののみを抽出・選定して掲載する。



第609図 グリッド出土遺物(1)

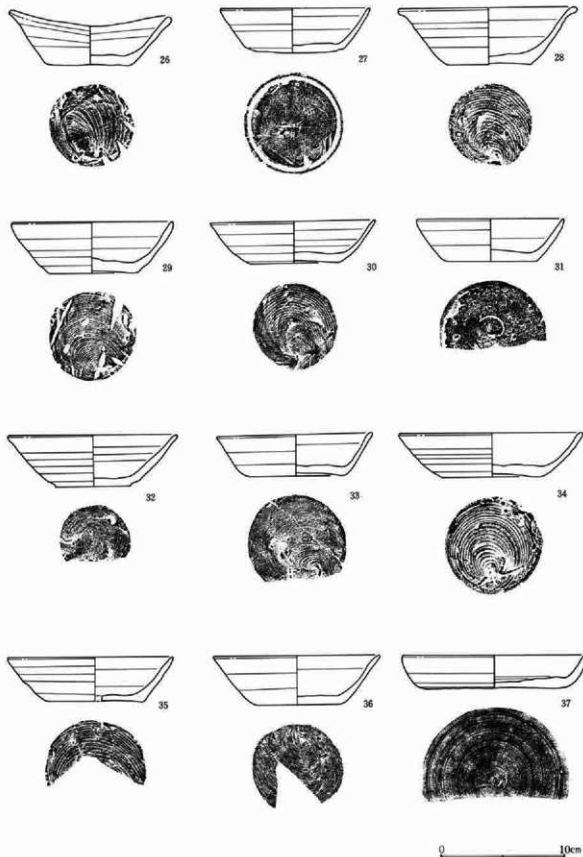
第3章 検出された遺構と遺物



0 10cm

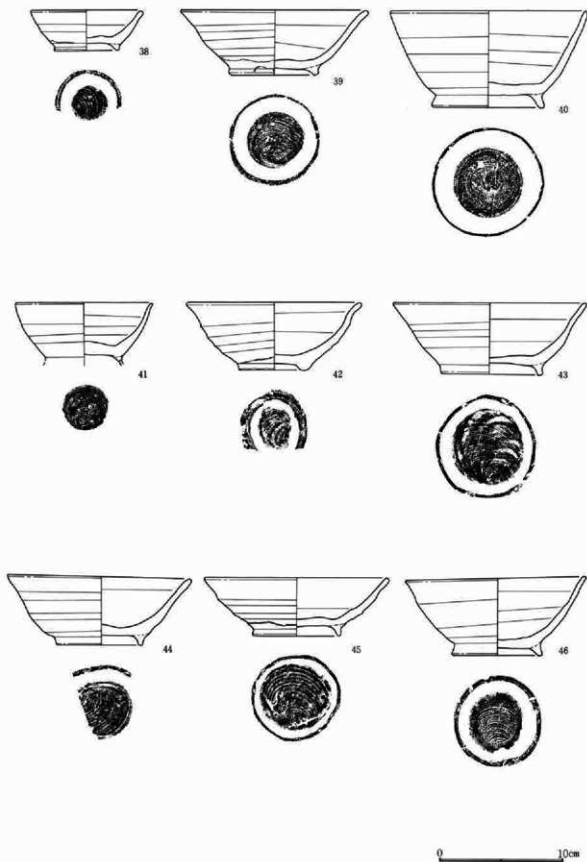
第610図 グリッド出土遺物(2)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

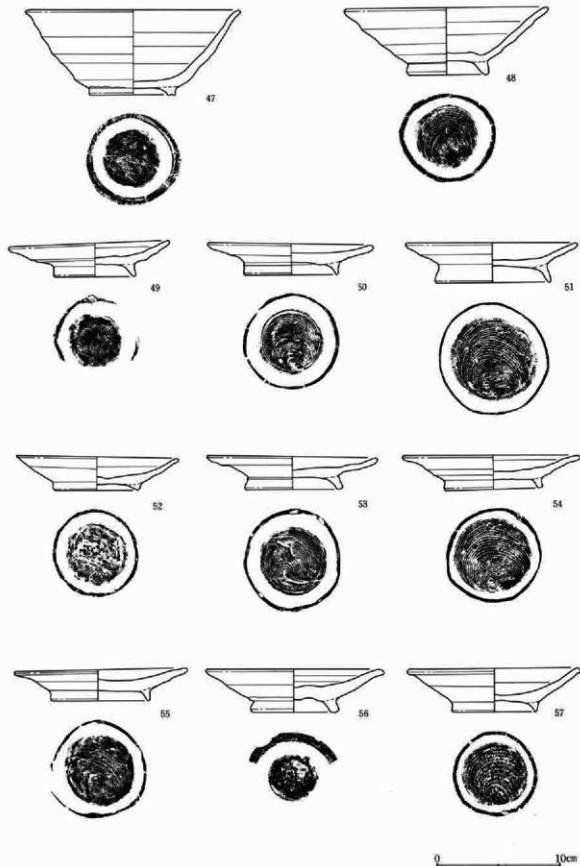


第611図 グリッド出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

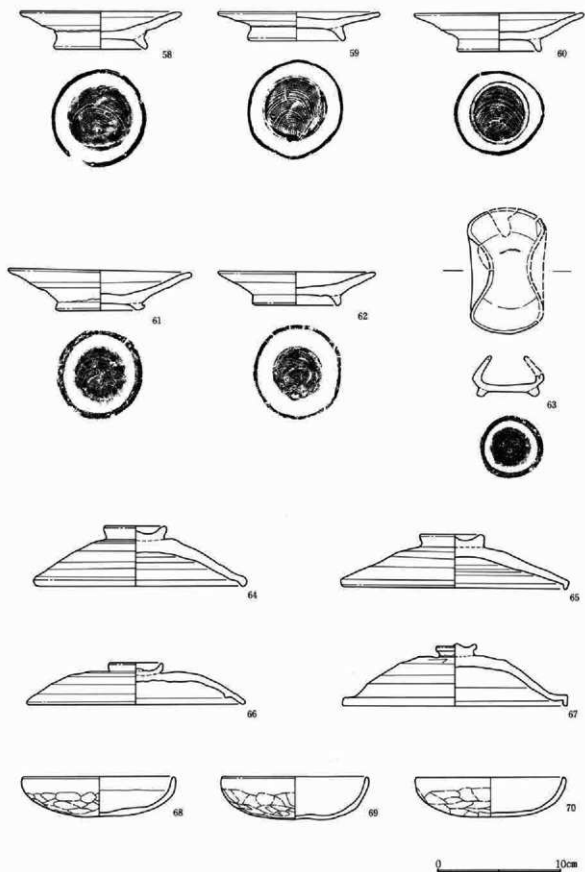


第612図 グリッド出土遺物(4)

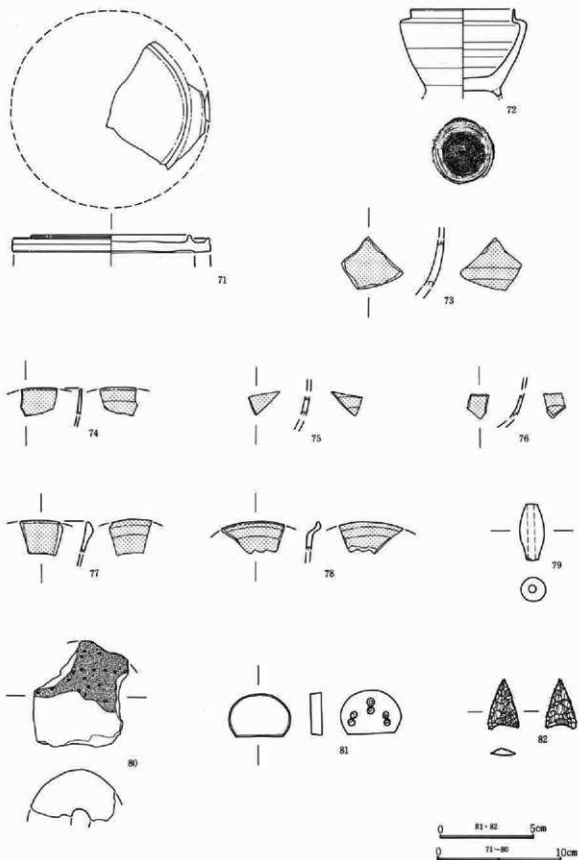


第613図 グリッド出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

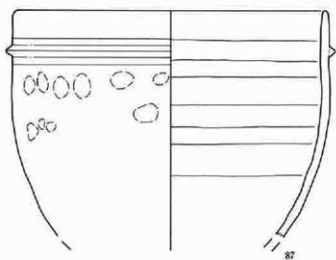
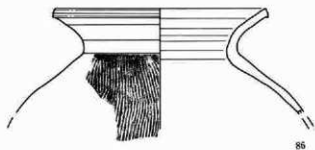
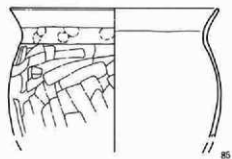


第614図 グリッド出土遺物(6)



第615図 グリッド出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物



第616図 グリッド出土遺物(8)



グリッド遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
Gr.-1 89-L-19	土師器 甕	完 形	口8.0、底4.5、 高1.6	①にぶい黄緑 ②良好 ③ 中～細砂粒を含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-2 79-C-10	土師器 甕	完 形	口8.7、底4.7、 高1.8	①明黄緑 ②良好 ③中～ 細砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-3 78-Q-12	土師器 坏	完 形	口12.2、底5.6、 高3.5	①灰 ②やや良好 ③中～ 細砂粒を含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-4 79-G-15	土師器 坏	口縁一部欠	口11.7、底7.7、 高3.5	①にぶい黄 ②良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-5 79-G-15	土師器 坏	口縁一部欠	口12.0、底8.8、 高3.1	①にぶい黄緑 ②やや不良 ③細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-6 79-E-15	土師器 坏	口～底1/3	口(12.2)、底(7 .4)、高4.2	①明赤褐 ②やや良好 ③ 中～細砂粒を多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-7 78-P-13	土師器 坏	口～底1/2	口11.5、底3.9、 高3.6	①明赤褐 ②良好 ③細砂 粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-8 79-B-12	土師器 坏	口～底1/3	口(14.6、底(7.3 )、高3.5	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部～体部上位内外面横撫で。体部下位～底部外 面磨削り、内面撫で。
Gr.-9 79-F-15	土師器 坏	口～底1/2	口(16.7、底11.5、 高5.0	①橙 ②やや良好 ③中～ 細砂粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。体部内面に放射状筋文。底部内面に横線状筋 文。
Gr.-10 78-K-17	土師器 鉢 (鉄鉢型)	口～底1/2	口(17.4)、高7. 6	①橙 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-11 79-G-15	土師器 坏	口縁一部欠	口11.5、底9.4、 高3.1	①橙 ②良好 ③中～細砂 粒を少量含む。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面磨削り、内面 撫で。
Gr.-12 78-P-14	須恵器 坏	完 形	口10.0、底1.8、 高3.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	横壁型。底部回転糸切り。
Gr.-13 78-L-14	土師器 坏	完 形	口12.1、底5.4、 高4.1	①にぶい黄 ②良好 ③細 砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。内面黒色炭灰処理。 磨きにより磨弁を括く。
Gr.-14 79-B-12	土師器 坏	口～底1/5	口14.6、底6.7、 高4.0	①にぶい橙 ②良好 ③砂 礫、細砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。内面黒色炭灰処理。
Gr.-15 78-N-13	須恵器 坏	完 形	口13.1、底6.9、 高3.3	①灰白 ②やや不良 ③細 砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-16 79-I-19	須恵器 坏	完 形	口13.7、底7.2、 高4.2	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-17 79-G-14	須恵器 坏	完 形	口14.4、底6.5、 高4.2	①褐灰 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-18 79-C-12	須恵器 坏	完 形	口13.4、底6.4、 高4.5	①灰白 ②やや良好 ③中 ～細砂粒を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-19 78-O-11	須恵器 坏	口～底3/4	口13.5、底6.8、 高4.5	①にぶい黄緑 ②やや不良 ③堅緻	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-20 78-N-16	須恵器 坏	口縁一部欠	口13.6、底6.2、 高4.4	①明褐灰 ②不良 ③中～ 細砂粒を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-21 79-A-12	須恵器 坏	口縁一部欠	口12.9、底6.3、 高4.2	①灰黄 ②やや不良 ③中 ～細砂粒を多く含む。粗い。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-22 78-O-12	須恵器 坏	口縁一部欠	口14.4、底7.2、 高4.1	①黄灰 ②やや不良 ③細 砂粒を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-23 79-G-15	須恵器 坏	口縁一部欠	口12.7、底8.2、 高3.3	①灰白 ②やや不良 ③細 砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転撫で。
Gr.-24 79-B-12	須恵器 坏	口縁一部欠	口12.2、底7.1、 高3.3	①灰 ②良好 ③砂礫、中 ～細砂粒を多く含む。	横壁型。底部回転撫で。
Gr.-25 79-H-15	須恵器 坏	口縁部1/3 欠損	口12.3、底7.6、 高5.5	①灰 ②良好 ③中～細砂 粒を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-26 79-G-14	須恵器 坏	口縁部1/2 欠損	口12.6、底6.6、 高4.5	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。器形は大きく重 んでいる。
Gr.-27 79-F-13	須恵器 坏	口縁一部欠	口(12.0)、底6. 8、高3.5	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-28 79-M-14	須恵器 坏	口～底2/3	口(14.2)、底6. 6、高4.5	①灰白 ②良好 ③中～細 砂粒を少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-29 89-M-1	須恵器 坏	口～底2/3	口(13.0)、底7. 2、高4.1	①灰 ②良好 ③細砂粒を 少量含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。
Gr.-30 78-S-12	須恵器 坏	口～底2/3	口(13.0)、底7. 0、高3.3	①灰白 ②やや良好 ③中 ～細砂粒を多く含む。	横壁型。底部回転糸切り未調整。

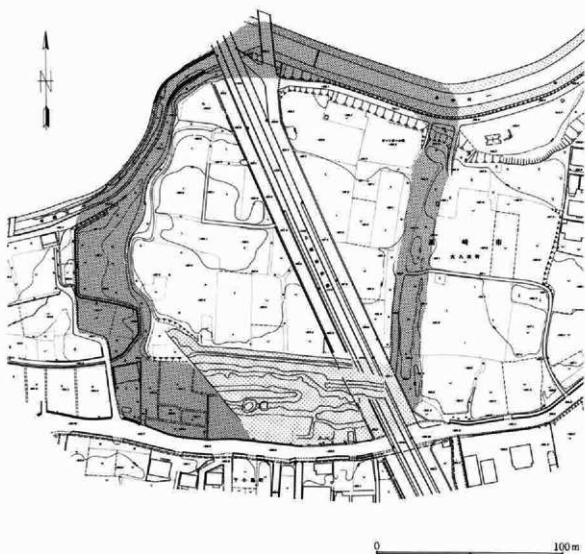
第3章 検出された遺構と遺物

G <sub>r</sub> -31 78-K-11	須恵器 坏	口~底2/3	□11.6、底7.4、 高3.4	①灰 ②やや不良 ③中一 細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡で。
G <sub>r</sub> -32 79-H-14	須恵器 坏	口~底1/2	□13.5、底6.0、 高4.1	①灰 ②やや良好 ③細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。
G <sub>r</sub> -33 79-H-14	須恵器 坏	口~底2/3	□12.5、底8.0、 高3.4	①灰 ②やや良好 ③細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。
G <sub>r</sub> -34 79-H-14	須恵器 坏	口~底2/3	□14.6、底7. 6、高3.5	①灰 ②やや良好 ③細砂 粒を微量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。
G <sub>r</sub> -35 89-M-1	須恵器 坏	口~底1/2	□13.2、底7. 6、高3.6	①灰白 ②やや不良 ③細 砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。
G <sub>r</sub> -36 78-J-11	須恵器 坏	口~底1/2	□13.3、底5. 9、高3.9	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。
G <sub>r</sub> -37 78-K-11	須恵器 壺	口~底1/2	□14.5、底11.6、 高2.6	①灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転跡削り。
G <sub>r</sub> -38 78-L-13	土師器 埴	口縁一部欠	□18.9、底5.1、 高3.2	①にぶい殻 ②やや良好 ③細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡削り後、撫で。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -39 79-D-13	土師器 埴	完形	□18.0、底7.2、 高5.2	①明焼灰 ②やや不良 ③ 中一細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -40 79-G-15	須恵器 埴	完形	□15.7、底9.0、 高7.7	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多量に含む。	轆轤整形。底部回転跡削り。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -41 79-G-15	須恵器 埴	口縁部・高 台一部欠	□10.9、高(4.6)	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。体 部内外面の一部に自然軸がかかる。軸は透明、薄い。
G <sub>r</sub> -42 78-N-13	須恵器 埴	口縁一部欠	□14.0、底5.5、 高5.4	①灰濁 ②やや不良 ③中 一細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -43 78-O-12	須恵器 埴	口縁一部欠	□15.4、底8.2、 高5.8	①灰白 ②やや良好 ③中 一細砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -44 78-P-12	須恵器 埴	口縁1/3欠、 高台2/3欠	□14.6、底(6. 8)、高5.6	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -45 78-M-12	須恵器 埴	口縁2/3欠	□14.6、底7. 0、高4.6	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -46 78-S-19	須恵器 埴	口~底3/4	□14.5、底7.3、 高6.3	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -47 78-N-15	須恵器 埴	口~底2/3	□17.3、底7. 0、高6.7	①暗伏質 ②不良 ③中一 細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -48 78-O-13	須恵器 埴	口~底1/2	□16.3、底6. 5、高5.4	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -49 79-C-14	須恵器 皿	高台一部欠	□13.0、底6.6、 高2.9	①灰白 ②良好 ③中一細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -50 78-P-12	須恵器 皿	完形	□13.4、底7.6、 高2.6	①灰 ②良好 ③中一細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -51 79-F-14	須恵器 皿	完形	□13.8、底9.2、 高3.2	①灰白 ②やや良好 ③中 一細砂粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -52 78-K-10	須恵器 皿	口縁一部欠	□12.9、底6.9、 高2.7	①灰白 ②やや良好 ③中 一細砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -53 78-R-14	須恵器 皿	口縁一部欠	□13.6、底7.8、 高2.6	①灰 ②やや良好 ③細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -54 89-K-1	須恵器 皿	口縁一部欠	□14.1、底7.8、 高2.9	①黒 ②やや良好 ③細砂 粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -55 79-C-12	須恵器 皿	口縁一部欠	□13.8、底7.8、 高2.6	①灰灰 ②やや不良 ③中 一細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -56 79-G-14	須恵器 皿	口縁一部欠	□14.2、底7.0、 高3.4	①灰濁 ②やや不良 ③細 砂粒を若干含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -57 79-C-13	須恵器 皿	口縁一部欠	□13.8、底6.8、 高3.5	①灰 ②やや良好 ③細砂 粒を多く含む。悪い。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -58 79-F-14	須恵器 皿	口縁一部欠	□13.0、底7.5、 高3.0	①灰 ②やや不良 ③中一 細砂粒を含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -59 78-Q-14	須恵器 皿	口縁1/2欠	□13.0、底7.8、 高2.3	①灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -60 78-A-14	須恵器 皿	口縁1/2欠	□13.5、底6. 7、高3.0	①灰 ②やや不良 ③細砂 粒を多く含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。
G <sub>r</sub> -61 79-G-14	須恵器 皿	口~底3/4	□14.0、底7. 1、高3.4	①灰白 ②やや良好 ③砂 濁、中一細砂粒をやや多く 含む。	轆轤整形。底部回転跡未調整。高台部貼付。

## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

Gr.-62 79-G-15	須恵器 皿	口-底3/5	口12.6、底7.0、 高2.7	①黄灰 ②やや良好 ③細 砂粒をやや多く含む。	轆轤整形。底部回転糸切り未調整。高台部貼付。
Gr.-63 78-Q-13	須恵器 耳 皿	口-底3/4	口10.0、底5.7、 高3.2	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	本体轆轤整形。体部つまみあげ。高台部貼付。
Gr.-64 79-F-14	須恵器 蓋	縁部一部欠	径17.0、つまみ 径5.0、高(4.8)	①灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。つまみ部周囲回転軌面削り、つまみ部貼付
Gr.-65 78-L-12	須恵器 蓋	縁部3/4欠	径(18.2)、つま み径5.2、高4.2	①灰白 ②やや良好 ③細 砂粒を少量含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転軌面削り、つまみ部貼付
Gr.-66 78-K-11	須恵器 蓋	つまみ一端 1/4	径(17.4)、つま み径4.4、高3.3	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転軌面削り、つまみ部貼付
Gr.-67 79-E-13	須恵器 蓋	縁部一部欠	径17.8、つまみ 径3.2、高5.0	①灰白 ②良好 ③細砂粒 を少量含む。	轆轤整形。つまみ部周囲回転軌面削り、つまみ部貼付
Gr.-68 79-H-14	土師器 坏	完 形	口12.2、底3.1、 高3.2	①にぶい橙 ②良好 ③中 -細砂粒をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で。体-底部外面削削り、内面撫 で。
Gr.-69 79-E-13	土師器 坏	完 形	口11.8、底4.6、 高3.4	①橙 ②良好 ③堅緻	口縁部内外面横撫で。体-底部外面削削り、内面撫 で。
Gr.-70 79-E-13	土師器 坏	完 形	口(12.0)、底4. 8、高3.1	①橙 ②良好 ③中-細砂 粒を含む。	口縁部内外面横撫で。体-底部外面削削り、内面撫 で。
Gr.-71 78-L-9	須恵器 円 面碗	1/4、脚部完 全に欠損	径(15.5)、高(1 .4)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	轆轤整形。脚部は完全に失われているが、幅2.7 cm程の遺しが入っていたものと考えられる。磨面 はかなり使い込まれており、磨耗が甚だしい。
Gr.-72 79-G-15	須恵器 蓋	高台一部欠	口8.2、高(6.9)	①灰 ②良好 ③細砂粒を 多く含む。	轆轤整形。底部回転撫で。高台部貼付。
Gr.-73 78-L-12	陶 器	体部 破片	長(4.8)、短(4. 1)、厚0.6	①黄灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
Gr.-74 89-J-1	緑釉陶器	口縁部破片	長(2.8)、短(2. 1)、厚0.3	①オリブ灰 ②良好 ③ 堅緻	轆轤整形。
Gr.-75 89-J-1	緑釉陶器	体部片	長(2.5)、短(1. 5)、厚0.4	①灰オリブ ②良好 ③ 堅緻	轆轤整形。
Gr.-76 89-J-2	緑釉陶器	体部片	長(2.2)、短(1. 5)、厚0.3	①オリブ灰 ②良好 ③ 堅緻	轆轤整形。
Gr.-77 78-L-11	白 磁	口縁部破片	長(3.4)、短(2. 6)、厚0.6	①灰白 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
Gr.-78 78-L-11	青 磁	口縁部破片	長(5.0)、短(2. 5)、厚0.4	①明緑灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
Gr.-79 78-M-10	土 鉢	完 形	長4.5、短1.9、 孔径0.6	①黒	表面撫で。
Gr.-80 78-N-13	輪 羽 口	破 片	長(8.2)、短(7. 0)、高(4.0)	①焼灰 ②不良 ③大重 い。砂塵・中砂粒を多く含 む。	全体に雑な撫で。
Gr.-81 78-L-14	桂貫貝岩製 丸瓶	完 形	長3.3、短2.3、 厚0.6、孔径0.2 ~0.25	①黒	表面および頸部は極めて丁寧に研磨されている。
Gr.-82 78-M-14	チャート製 石 鏝	完 形	長2.6、短1.6、 厚0.4	①黒	
Gr.-83 78-M-10	銅 鏡	完 形	径2.4、孔径0.7、 厚0.1		天型元宝(北宋、1023初銭)
Gr.-84 78-M-10	銅 鏡	完 形	径 2.4、孔 径 0.65 厚0.1		超型元宝(北宋、1094初銭)
Gr.-85 79-G-15	土師器 甕	口-縁破片	口22.3、高(13. 5)	①明赤褐 ②良好 ③中- 細砂粒を少量含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部外面削削り、内面 撫で。頸部外面に指痕圧痕。
Gr.-86 79-H-14	須恵器 甕	口縁部破片	口(23.0)、高(1 1.1)	①灰 ②良好 ③細砂粒を やや多く含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。体部外面叩き、内面撫 で。
Gr.-87 79-G-14	土師器 甕	口-胴1/4	口(33.5)、高(2 3.8)	①褐 ②やや良好 ③細砂 粒を多く含む。	口縁部・頸部内外面横撫で。胴部貼付。胴部内外面 横撫で。胴部外面に指痕圧痕。

第3節 中世の遺構と遺物



第617図 大八木屋敷推定範囲

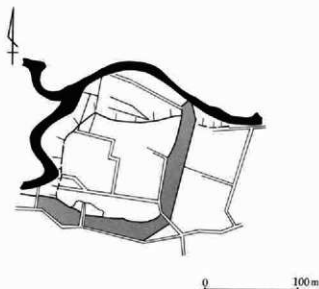
中世の遺構は、「大八木屋敷」と称される方形居館に伴う堀跡が4条と、溜井状遺構、居館の南側入口部（追手口）の方形台状の張り出しなどが検出された。「大八木屋敷」は、一辺約180mの方形居館跡で、明治13～17年（1880～1884）に、参謀本部陸軍部測量局が作成した第一軍管地方迅速測図にも方形の居館跡が明瞭にみえている（618図）。山崎一氏著『群馬県古城古塁址の研究 補遺篇上巻』（群馬県文化事業振興会刊1979年）には、「高崎市大八木町の西部、

井野川と早瀬川の合流点の東側に中世環濠遺構がある。昭和五十二年、上越新幹線敷地発掘調査に濠址が検出されている。ここは字磯通寺に属している。北面は井野川、西面は早瀬川の高さ5.6mの河岸に依托し、東面、南面は濠をめぐらし、方120m。東面、南面に虎口跡があったと推定される。この屋敷は、甘楽郡神成の小幡氏家人で浪人した茂木氏の居住と伝えられる（当村正伝記）が、茂木氏系譜には、下野国芳賀郡茂木の地衆で、茂木知正が筑輪の長野氏に属し、落城の際戦死、その子右衛門知恒は和田信業に仕え、孫右衛門知喜は大八木に住したとあるが、確実な資料とは言い難い。」と記されている。ただし北側の井野川及び西側の早瀬川については、本遺跡北西に位置する耕地の区画整理事業に伴って若干、流路が変えられており、居館の造営・存続時期とは様相が異なっている。

居館の南面、西面から西北にかけての崖面は、旧状を維持しているものとみられ、居館造営時にカットされたものと考えてよいだろう。北面は井野川による侵蝕と、井野川の改修工事により旧状は損なわれている。また東面には東側の堀跡の窪地を埋め立てた跡とみられる直角に曲がる地割痕が残っているが、この部分は上越新幹線の建設に伴う発掘調査範囲にもかかっていなかったため、居館東面の様相は全く不明である。



第618図 陸軍迅速測図にみえる大八木屋敷跡  
（陸軍迅速測図「金古駅」「高崎」 1/20000）



第619図 大八木屋敷跡（山崎一氏 1978年9月作成、同氏著『群馬県古城古塁址の研究補遺篇上巻』1979年より）

### 第3章 検出された遺構と遺物

今回の発掘調査では、南面の堀跡が検出されており、内郭より約3mほど下った外郭部分で2条、内郭で2条である。外郭の2本の堀は、確認面より深さ約3m、内郭台地上面から堀底までの比高差は約5～6m程度にもなり、調査区の東隅のやや手前で合流し、1本になっている。この合流点一帯が居館郭内への南側入口（追手）にあたるものと考えられる。内郭の台地上に掘削された堀は、台地の南端に位置する幅約5m、深さ約2mの大規模なもの、追手口の張り出しに掘り込まれた幅約3m、深さ約1mの小規模なもの、いずれの堀も、昭和50～58年（1975～83）にかけて行われた上越新幹線の建設に伴う発掘調査において、東側に隣接する部分が検出されている。また、2・3号溝については前回の調査時から、自然河川に手を加えた可能性が指摘されていたが、今回、居館入口に関連してそれらの合流点が発出されたことにより、いずれも人為的に掘削され、そこに水を引いたものであることが明らかになった。

上越新幹線の建設に伴う調査は、居館の南東隅から北西隅にかけてほぼ中央部を縦貫するような形で行われたが、堀や溝の跡以外に居館に伴う遺構は検出されなかった。今回の調査対象範囲は、居館の南側正面から北西側の端部にかかる部分にあつているが、居館南側の入口部は検出されたものの、今回も同様に堀跡以外に建物跡等の遺構は全く検出されなかった。内郭跡の現状は畑地であり、耕作に伴って削平を受けているので、居館に伴う建物跡はすでに破壊されてしまったものとみられる。いずれにしても、今回の調査においても、居館内郭の様相を明らかにすることはできなかった。なお、本遺跡のすぐ南側に隣接する北陸新幹線の建設に伴う融通寺遺跡の調査において、かなり大規模な中世の掘立柱建物跡が発出されている。方形居館の郭外の施設ということになるが、時期的にみても本居館跡に関わるものである可能性が高い。詳細については同遺跡の調査報告書にゆずりたい。

中世居館堀跡から出土した建物の量は、非常に少なく、建物の面からも居館の様相を窺い知れるような手掛かりは全く得られなかった。上越新幹線建設に伴う調査時には、内耳鍋や中世陶器片等の土器・陶器類が若干と、観応2年（1351）2月5日銘及び文保2年（1318）5月6日銘などを含む板碑13基、宝篋印塔2基、五輪塔6基などが出土している。上越新幹線建設に伴う調査時には、これらの出土遺物を含め、「融通寺」の小字名と相俟って寺院跡的な様相も指摘されていたが、今回の調査では、そのような性格を示すような遺構は勿論、遺物も出土していない。

本居館の造営、存続の年代を知る上で手掛かりとなるような資料も、何ら発見されず、居館の年代については前回以来明確にはできない。勿論、前回の調査時に出土した板碑の示す14～15世紀という年代がある種の参考とはなるが、それらとて造立時の原位置を保っているわけではなかったので、明確な根拠とはなり得ないのである。しかしながら、おおよその居館の年代としては、現時点においてはとりえず14～15世紀ぐらいを考えておくことにしたい。

居館の性格や、造営主体などについては、前掲した山崎一氏の論考でも述べられていたように、現時点では全く不明と言わざるを得ない。

#### 1号溝跡（PL76-77-79-118）

位置 78-J～T-10、79-A～C-10グリッド

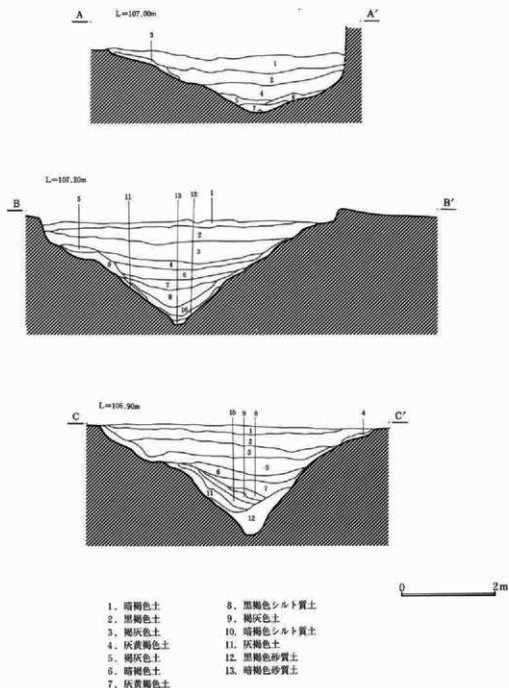
重複 なし

規模と形状 確認全長77m、上幅4.7m、下幅0.4m、深さ2.09m、起電区分所から本線にかけて、台地上の南端を東西に流れる。東端は調査区外に出る。（上越新幹線融通寺遺跡で隣接する部分が検出されている。）

第3節 中世の遺構と遺物

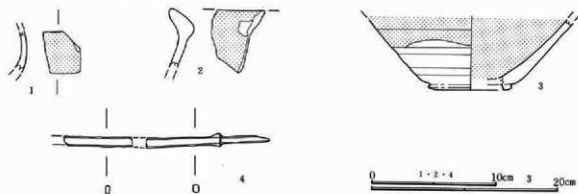
西端は溜井状遺構に注ぎ込む。いわゆる葉研掘で、断面はV字形を呈し、しっかりとした掘り方を有する。1号溝西端に位置する溜井状遺構は、西半分が調査区外に出るので完掘できなかつたが、口径5.8m、底径4.9m、深さ3.1mほぼ円形を呈する。溝は溜井に向かって、東から西へ傾斜しており、1号溝を流れた溝は溜井に注ぎ込むようになっている。溝の両側には、土塁状の高まりは検出できなかつた。中世方形居館の最も内側に位置する場である。

埋土 暗褐色土をベースとする。溝底には褐灰色砂粒が堆積しており、水が流れていたものと思われる。



第620図 1号溝跡断面

第3章 検出された遺構と遺物



第621図 1号溝跡出土遺物

1号溝遺物観察表

番 号	器 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
1溝-1	磁 器	破 片	長(5.4)、短(2.8)、厚0.6	①淡黄 ②良好 ③堅緻	輪軸整形。
1溝-2	陶 器	破 片 口縁部小片	長(5.0)、短(3.8)、厚1.2	①オリーブ黄 ②良好 ③堅緻	輪軸整形。
1溝-3	陶 器	破 片 底部破片	底(8.9)、高(7.5)	①淡黄 ②良好 ③堅緻	輪軸整形。
1溝-4	鉄製 鐵 器	破 片	長(16.4)、茎3.8、柄(12.6)、茎幅0.5、柄幅0.6、厚0.4、重12g		先端欠失。柄部一部欠損。

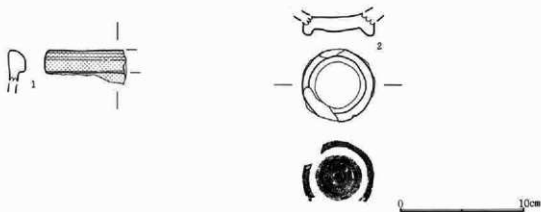
2号溝跡 (PL76-77-81-82-118)

位置 78-H-T-6、79-A-6グリッド

重複 なし

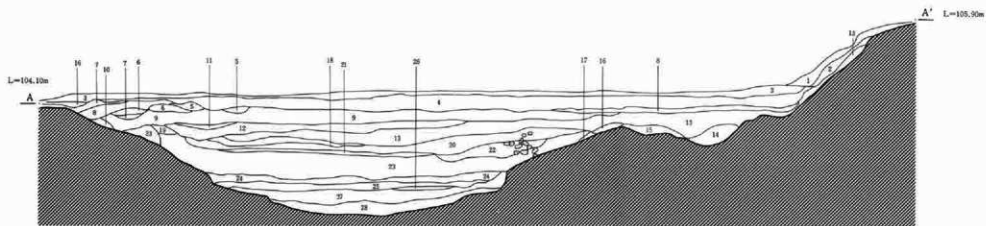
規模と形状 確認全長59m、上幅11.2m、下幅4.6m、深さ2.21m、低地部分を東西に流れる。台地上から堀の上端までの比高差は約3m、溝底までは5m以上となる。北側・崖下には幅約1m前後の犬走がつくられている。北岸の斜面はやや緩やかで、水流による侵食痕などが顕著にみられ、掘削後あまり手が増えられた様子はないが、南岸は急に立ち上がり、また斜面にもあまり乱れはない。溝底は水流によって侵食された凹地がみられる。西壁より24mほどのところで南に屈曲し、3号溝に合流する。

埋土 上層は暗褐色土、下層は褐灰色砂層をベースとする。

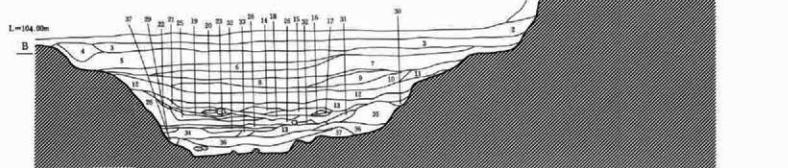


第622図 2号溝跡出土遺物





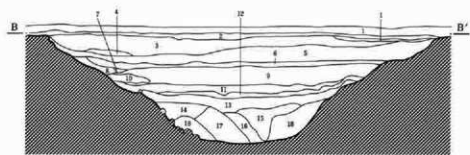
1. 黑褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗灰色土
5. 暗褐色土
6. 灰黄褐色土
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土
9. 黄褐色土
10. 灰黄褐色土
11. 黄褐色土
12. 暗褐色土
13. 灰黄-黄褐色土
14. 灰黄-黄褐色土
15. 暗黄褐色土
16. 灰黄褐色土
17. 灰黄-黄褐色土
18. 灰黄-黄褐色土
19. 灰黄褐色土
20. 灰黄褐色土
21. 灰黄-黄褐色土
22. 灰黄-黄褐色土
23. 灰黄褐色土
24. 浅黄褐色土
25. 灰黄-黄褐色土
26. 浅黄褐色土
27. 灰白色土
28. 灰黄褐色土
29. 浅黄褐色土
30. 黑色砂质土
31. 黑色砂质土
32. 黑褐色砂质土
33. 灰黄-黄褐色土
34. 黑褐色砂质土
35. 暗褐色砂质土
36. 黑褐色砂质土
37. 暗褐色砂质土



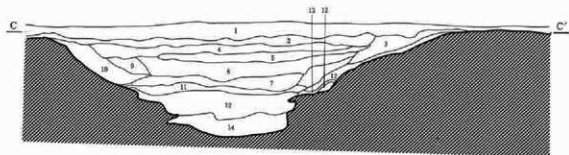
0 4m

第623图 2号清障断面



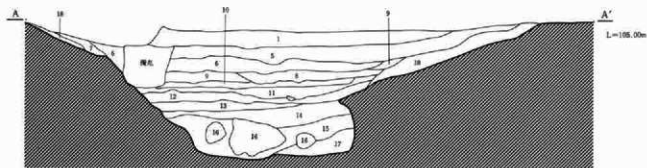


- |            |               |            |
|------------|---------------|------------|
| 1. 褐色土     | 9. 褐色土        | 17. 黒褐色砂質土 |
| 2. 褐色土     | 10. にぶい黄褐色土   | 18. 明褐色砂質土 |
| 3. 褐色土     | 11. 淡黄褐色土     | 19. 黒色砂質土  |
| 4. にぶい黄褐色土 | 12. 淡黄褐色土     | 20. 褐色土    |
| 5. にぶい黄褐色土 | 13. 灰黄褐色シルト質土 | 21. 黒色砂質土  |
| 6. 黄褐色土    | 14. 明褐色シルト質土  | 22. 暗褐色砂礫土 |
| 7. 黄褐色土    | 15. 黒褐色砂質土    | 23. 暗褐色砂礫土 |
| 8. にぶい黄褐色土 | 16. にぶい黄褐色砂質土 | 24. 灰白色土塊  |



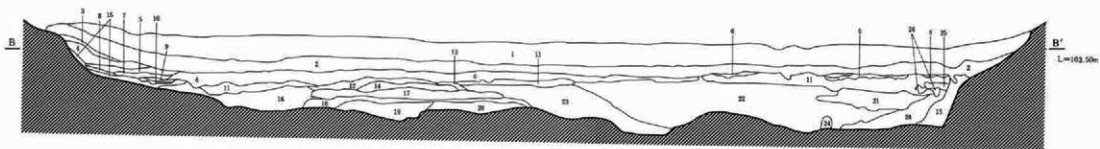
0 L=104.20m 4 m

第624図 3号溝跡断面(1)



L=156.50m

- |             |            |              |
|-------------|------------|--------------|
| 2・3号溝A-A'   | 2・3号溝B-B'  | 15. にぶい黄褐色土  |
| 1. 暗褐色土     | 1. 灰黄褐色土   | 16. 褐色砂礫土    |
| 5. 黒褐色土     | 2. にぶい黄褐色土 | 17. にぶい黄色砂礫土 |
| 6. 暗褐色土     | 3. 黄褐色土    | 18. 灰赤色砂礫土   |
| 7. にぶい黄褐色土  | 4. にぶい黄褐色土 | 19. 暗褐色砂質土   |
| 8. 褐色土      | 5. 灰黄褐色土   | 20. 黒褐色砂質土   |
| 9. 褐色土      | 6. にぶい黄褐色土 | 21. 赤褐色土     |
| 10. 褐色シルト質土 | 7. 黄褐色土    | 22. 暗褐色土     |
| 11. にぶい黄褐色土 | 8. 褐色土     | 23. 灰褐色土     |
| 12. 褐色土     | 9. 褐色土     | 24. 暗褐色土     |
| 13. 灰黄褐色土   | 10. 褐色砂質土  | 25. 明褐色土     |
| 14. 褐色砂質土   | 11. 灰黄褐色土  | 26. 灰褐色土     |
| 15. 褐色砂質土   | 12. 褐色土    |              |
| 16. 黄褐色土    | 13. 褐色土    |              |
| 17. 褐色砂質土   | 14. 灰黄褐色土  |              |
| 18. 暗褐色砂礫土  |            |              |



L=103.50m

0 4 m

第625図 2・3号溝跡断面



## 2号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
2溝-1	陶器	埋土 口縁部破片	長(6.5)、短(2.6)、厚1.4	①明オリブ灰 ②良好 ③堅緻	轆轤整形。
2溝-2	陶器	埋土 高台部破片	底5.7、厚1.2	①オリブ褐 ②良好 ③ 細砂粒を微量含む。	轆轤整形。胎は内面のみ。

## 3号溝跡 (PL76-77-81-82-83-118)

位置 78-H-T-4グリッド

重複 なし

規模と形状 確認全長76m、上幅8.6m、下幅4.6m、深さ2.91m、低地部分を東西に流れる。中世方形居館の最も外側に位置する堀である。西壁より11m東の部分には口径6.1m、底径5m、深さ3.21mの、また西壁より19m東の部分には口径5.1m、底径4.3m、深さ2.63mの楕円形の掘り込みが2箇所のみられ、自噴させて堀に水を入れるための施設と考えられる。西壁より東約40m辺りで2号溝と合流し一本の堀となる。合流点は上幅22m、深さ3mであるが、東壁際では上幅5m、深さ4m程度と急激に狭くなる。合流点より東は、南側に向かって突出する方形台状の居館の張り出し部であり、この部分が居館の南側の入口に相当すると思われる。壁面は水流による侵食を各所にうけており、整った状態ではない。

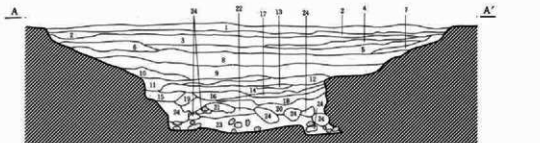
埋土 上層は暗褐色土、下層は灰褐色・灰色の砂礫層をベースとする。



第626図 3号溝跡出土遺物

## 3号溝遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
3溝-1	陶器	埋土 高台部破片	底(10.0)、厚2.5	①オリブ灰 ②良好 ③ 細砂粒を少量含む。	轆轤整形。



第627図 3号溝跡断面(2)

第3章 検出された遺構と遺物

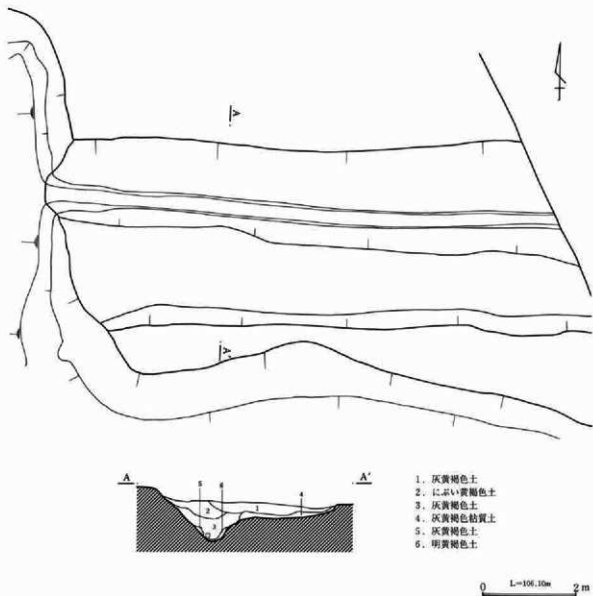
57号溝跡 (PL83)

位置 78-H-K-6グリッド

重複 なし

規模と形状 確認全長11m、上幅3.46m、下幅0.35m、深さ1.2m、起電区分所調査区の東端、中世居館張出部の中央を東西に流れる。東端は調査区外に出るが、上越新幹線融通寺遺跡 (JS25地区) の調査時にすでに継続する部分が検出されている。西端は張出部に建てられていた民家によって破壊されている。上幅は3.46mと広いが、深くなっているのは北寄りの約1.8m分で、南側は深さ0.3~0.4mほどの浅いテラス状になっている。深い部分は、断面はV字形を呈しており、いわゆる葉研堀となる。この張出部が居館の南側入口にあたるので、追手の防禦用の堀とみられる。

埋土 灰黄褐色土をベースとする。



第628図 57号溝跡

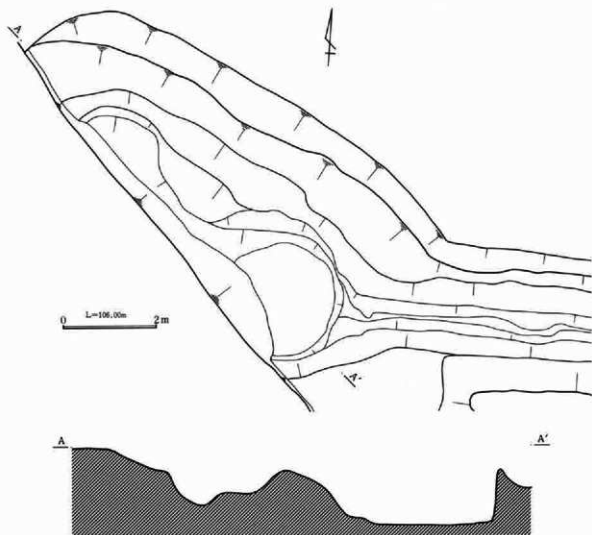
## 溜井状遺構 (PL79-80)

位置 79-A-E-9-11グリッド

重複 1号溝に取り付く(同時期)。

規模と形状 調査区西端、台地上の西南隅に位置する。1号溝の西端に位置し、1号溝が注ぎ込み形となる。西側半分が調査区外に出るため全容は不明である。上端線は北西～南東方向に長い楕円形状を呈し、溜井本体の上端の周辺に深さ約1.5m程度のテラス状の平地が取り付く。溜井本体は、口径5.4m、底径4.8mの正円形を呈し、最上段からの深さは4.4m、テラス状の平地からの深さは2.5mであり、ほぼ垂直に落ち込む。1号溝を流れた水を溜め込んだものと考えられ、居館内郭における何らかの用水に資するためのものであったと考えられる。

埋土 暗褐色土・黒褐色土をベースとする。



第629図 溜井状遺構

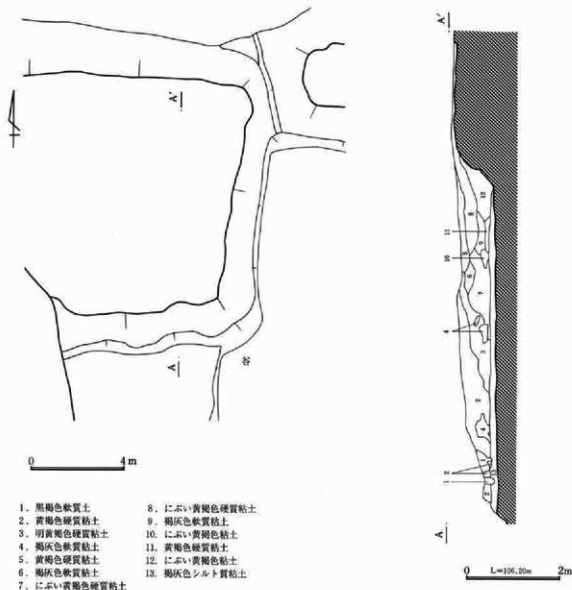
第3章 検出された遺構と遺物

南側谷張出部 (PL77)

位置 78-J~L-1~3グリッド

重複 なし

規模と形状 居館の最も外側の堀である3号溝のさらに南側は、馬の背状の広いローム台地を隔てて自然の谷になっているが、居館南面の中央やや東寄りの位置に、南側に向かって調査区外へと突出する方形台状の張り出し部分が検出された。この方形の張り出し部は、谷底からの比高差は2m以上あり、東西の幅は約10m程度で、地山ローム層の上に黄褐色硬質粘土・明黄褐色硬質粘土等を80~90cmの厚さで盛り土し、形成している。盛土部分は、版築のように層状に堆積しているわけではないが、非常に堅く掘き固められている。この張り出しは、郭外からの居館への入口部分に相当するものと考えられる。



第630図 居館外郭南側張り出し部



## 第4節 近世の遺構と遺物

近世の遺構は、土墳墓が10基である。すぐ東側に隣接する上越新幹線建設に伴う調査区域でも土墳墓8基と馬を埋葬した土墳墓が1基検出されている。今回の調査では、土墳墓の分布は78区の東寄り、上越新幹線の路線に近い部分に限られており、墓域は本調査区の東寄りから上越新幹線の路線、さらに東側一帯にかけて存在していたようである。

7～10号土墳墓が、居館外堀である3号溝が完全に埋まった後に溝埋土を振り込んで造成しているの、居館が廃絶した後のものであることは間違いない。今回の調査で検出された土墳墓からは、3号土墳墓から銅銭が二枚出土している以外、遺物は全く出土していないが、上越新幹線建設に伴う調査時に検出された土墳墓からは、土師器、銅銭、五輪塔風輪などが出土しており、それらの示す年代からみて、近世のものと考えられる。なお、同じく上越新幹線建設に伴う調査時に出土した板碑や宝篋印塔は、それらに記された年号（分保2年=1318、観応2年=1351）や形態の特徴（宝篋印塔は14世紀初頭から15世紀のものと考えられるという）からみて、直接、これらの土墳墓と関係するものとは考えられない。

## 1号土墳墓 (PL83)

位置 78-L-12グリッド 主軸方位 N-19°-E 重複 なし

規模と形状 長径1.32m、短径1.1m、深さ0.11m、南北に長い楕円形を呈する。

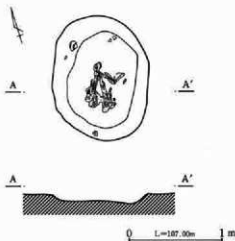
埋土 黒色土をベースとする。

出土遺物 右大腿骨、腰骨、土師器 骨は断片的にしか残っており、埋葬形態は不明である。

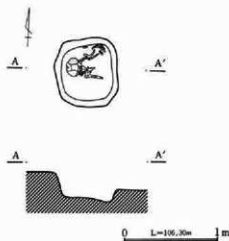
## 2号土墳墓 (PL83)

位置 78-M-10グリッド 主軸方位 N-5°-E 重複 なし

規模と形状 長径0.73m、短径0.63m、深さ0.28m、南北にやや長い両丸長方形形状を呈する。



第631図 1号土墳墓



第632図 2号土墳墓

第3章 検出された遺構と遺物

埋土 黒褐色土。

出土遺物 頭蓋骨、胛骨、肋骨、上腕骨 頭部は西を向いているが、手足の骨が断片であり、埋葬形態は不明である。

3号土墳墓 (PL128)

位置 79-C-14グリッド 主軸方位 不明 重複 なし

規模と形状 長径(2.1)m、短径(0.74)m、深さ0.21m、北東側半分が調査区外に出るため、形態は不明。埋土中より多量の骨片、有機物腐敗土等が検出され、墓坑であると判明したが、はっきりとした骨は検出されていない。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 古銭2。

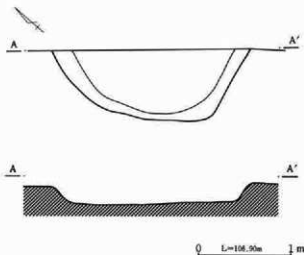
4号土墳墓 (PL83)

位置 78-M-13グリッド 主軸方位 N-5°-W 重複 なし

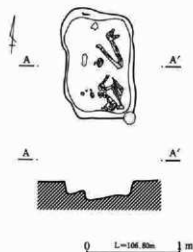
規模と形状 長径1.06m、短径0.76m、深さ0.18m、南北に長い隅丸長方形を呈する。

埋土 黒褐色土。

出土遺物 右大腿骨、左上腕骨、腰骨、頭蓋骨、歯、陶器片、人骨は部分的にしか残っていないが、足の骨が折り曲がった状態で出土しているので、屈曲葬と思われる。



第633図 3号土墳墓



第634図 4号土墳墓



1



2

第635図 3号土墳墓出土遺物

土墳墓跡遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状況	法量 (m)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
3基-1	銅 銭	埋 土 完 形	径2.5、孔径0.6		水車通宝(明、1408初銭)
3基-2	銅 銭	埋 土 完 形	径2.4、孔径0.43		嘉祐元宝(北宋、1056初銭)

## 5号土墳墓(PL83)

位置 78-Q-12グリッド 主軸方位 N-0°-E・W 重複 なし

規模と形状 長径1.04m、短径0.46m、深さ0.16m、南北に長い隅丸長方形を呈する。

埋土 にぶい黄褐色土。

出土遺物 左大腿骨、左脛骨、右大腿骨、右脛骨、両脚の骨のみ残る。

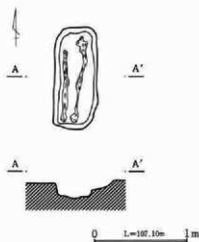
## 6号土墳墓(PL83)

位置 78-Q-12グリッド 主軸方位 N-15°-W 重複 なし

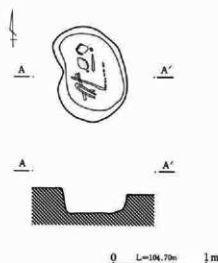
規模と形状 長径1.02m、短径0.73m、深さ0.28m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 下顎骨、右大腿骨、肋骨、左脛骨など。骨は断片的にしか残っておらず、埋葬形態は不明である。



第636図 5号土墳墓



第637図 6号土墳墓

## 7号土墳墓(PL84)

位置 78-J-4グリッド 主軸方位 N-20°-W 重複 3号溝を掘り込む。

規模と形状 長径(1.2)m、短径1.18m、深さ0.52m、北側が削平されており、原形は不明である。

人骨は2体分あり、2人合葬である。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 頭蓋骨2、左上腕骨2、右上腕骨2、左大腿骨2、右大腿骨1、左脛骨2、右脛骨2、2体とも頭を西むきにし、屈曲葬である。

### 第3章 検出された遺構と遺物

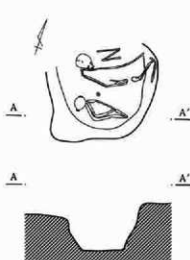
#### 8号土墳墓 (PL84)

位置 78-J-3グリッド 主軸方位 N-0°-E・W 重複 3号溝を掘り込む。

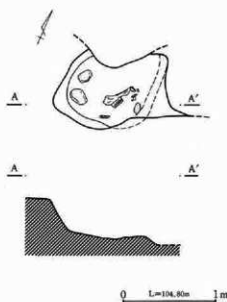
規模と形状 長径(0.71)m、短径0.98m、深さ0.34m、北側・南側・東側が削平されており、原形は不明である。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 頭蓋骨、左大腿骨、右大腿骨 骨は断片的であり、埋葬形態は不明である。



第638図 7号土墳墓



第639図 8号土墳墓

#### 9号土墳墓 (PL84)

位置 78-K-4グリッド 主軸方位 N-4°-E 重複 3号溝を掘り込む。

規模と形状 長径1.04m、短径0.81m、深さ0.74m、南北にやや長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 自然石16点、頭蓋骨 骨はほとんどが断片で埋葬形態は不明。

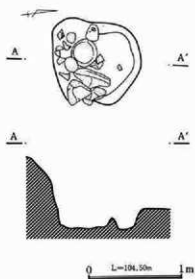
#### 10号土墳墓 (PL84)

位置 78-I-5グリッド 主軸方位 N-4°-E 重複 3号溝を掘り込む。

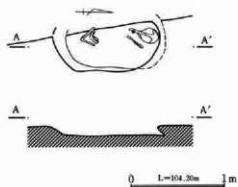
規模と形状 長径1.22m、短径0.51m、深さ0.13m、南北に長い楕円形を呈する。

埋土 黒褐色土をベースとする。

出土遺物 頭蓋骨、右上腕骨、左大腿骨、右大腿骨、左脛骨、右脛骨 骨は部分的にしか残っていないが、頭を北にむけた屈曲葬と考えられる。



第640図 9号土墳墓



第641図 10号土墳墓

## 第4章 調査成果の整理とまとめ

### 第1節 大八木屋敷遺跡出土の暗文土師器坏について

桜岡正信

(はじめに) 本稿では当遺跡出土の暗文を施した特徴的な土師器坏を取り上げ、筆者が以前に行った県内の暗文土師器の検討結果を踏まえつつ、器形分類と胎土・焼成等の観察を通して所属時期や同時期の土師器坏との関係等について若干の検討をしたい。

県内の暗文土師器坏は、畿内で7世紀初頭前後に成立する金属器模倣の暗文土師器の系譜にあり、遅くとも7世紀中頃には成立する。初期の器形は、畿内で杯Cと分類されている丸底系の坏を模倣するため深い碗形をしているが、7世紀末から8世紀初頭以降は、畿内で杯Cから杯Aと呼ばれる平底系の坏が主体となることに対応して、平底の碗形の器形へと変化する。当遺跡で出土している暗文土師器坏は、胎土・焼成の状況からすべて在地産と考えられるもので、しかも例外なく平底系の坏である。

(分類) 平底系暗文土師器坏の特徴は、やや丸底ぎみの平底または平底の底部と、体部にわずかな屈曲を有する器形と、口縁部を横撫で、体部下半を横位荒削り、底部を一定方向または不定方向の荒削りを施すことの2点である。該当する暗文土師器坏について、主に器形上の微妙な相違を基準に以下の3タイプに分類した。

[A]口縁部は直線のまたはわずかに内湾し、体部下半の張りは弱く、丸底ぎみの平底の底部を有する。概して底部の器厚が厚い傾向がある。

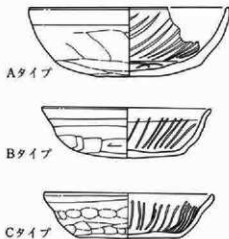
[B]口縁部は、横撫でを施す部分が弱く外反し、体部下半の張りが比較的顕著で、平底またはやや丸底ぎみの平底の底部を有する。器厚は[A]よりは薄く一定である。

[C]口縁部は外反ぎみで、口唇部が強く内屈することが最大の特徴で、体部下半の張りは比較的強く、平底またはやや丸底ぎみの平底の底部を有する。器厚は一定で[B]よりさらに薄い傾向がある。

Aタイプとしたのは、6号住-1・24号住-6・28号住-1・21号溝-2等であり、Bタイプとしたのは、31号住-2・33号住-1・39号住-1・48号住-1等で、Cタイプとしたのは、67号住-1等である。

当遺跡における暗文土師器の出土は、単器種(平底系坏)でしかも単体出土が多く、複数個を出土しているのは49号住・52号住・67号住の3遺構に過ぎない。こうした出土傾向は、特殊な性格が想定される遺構からの出土例を除けば、全体的に認められる一般的傾向とみることができる。複数個の暗文土師器を出土している前記3遺構内における各タイプの共存関係をみると、49号住と52号住ではAタイプだけが出土しており、67号住においてはB・Cタイプが共存している。

(法量) 各タイプの資料の中で計測可能なものについて、口径を横軸に、器高を縦軸にとったグラフ上に



第642図 器形分類

位置付けたのが第643図である。

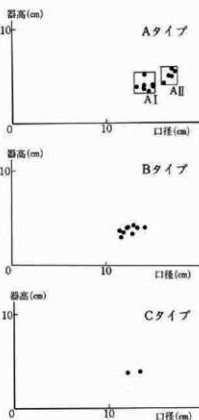
Aタイプにおいては口径16.0cm～17.3cm、器高4.2cm～5.7cm(A I)と、口径13.2cm～15.0cm、器高3.4cm～5.0cm(A II)の2群が捉えられる。これは畿内産暗文土師器に認められる大中小の法量分化を反映したものと考えられる。

Bタイプは、口径11.4cm～14.2cm、器高3.0cm～4.3cmの1群、Cタイプは2例だけであるが口径12.0cm～13.3cm、器高3.7cmであり、両タイプ共にはほぼA IIの分布に対応している。つまり、法量の分化傾向はAタイプにだけ捉えることができる。在地産の暗文土師器における法量化は模倣の初期に見られるが、長くは続かない現象であることから、AタイプはB・Cタイプよりも古い様相を示しているものと考えられる。

(暗文) 在地産暗文土師器に施される暗文には、放射状暗文・斜放射状暗文・格子状暗文・連弁状暗文・螺旋暗文等が知られているが、当遺跡出土資料では連弁状暗文以外の暗文の例がみられる。そこで各タイプと施文された暗文との関係を見ると、Aタイプでは、格子状暗文と螺旋暗文を組み合わせた特異な例が1例(21号溝-1)ある以外は、斜放射状暗文または放射状暗文と螺旋暗文を組み合わせた例が比較的多い(資料の半数近くが底部を欠損しているため螺旋暗文の有無の判断がつかない例がある)。Bタイプでは、放射状暗文または斜放射状暗文と螺旋暗文を組み合わせた例と、放射状暗文または斜放射状暗文だけを施す例がほぼ同数である。Cタイプは判断可能な例が放射状暗文だけを施した1例だけであったため、傾向を捉えるには至らなかった。県内の在地産暗文土師器の暗文施文の傾向を大きく捉えると、放射状暗文と螺旋暗文を組み合わせたものから放射状暗文だけを施文する方向に変化すると考えられることから、B・Cタイプのほうが、Aタイプよりもより後出の傾向が想定できる。

(胎土・焼成) 暗文土師器の胎土については、感覚的判断を基準としなければならないが、黒色鉱物粒(角閃石・輝石)の含有量の多少で、[ア]黒色鉱物粒と砂粒を比較的多く含有するもの、[イ]黒色鉱物粒と砂粒を少量含有するもの、[ウ]黒色鉱物粒をほとんど含有せず、砂粒を少量含有するもの3種に分類が可能である。各タイプと3種の胎土との関係を見ると、Aタイプでは[イ・ウ]の胎土が多く、特にAタイプの場合[ウ]の胎土との関係が顕著である。Bタイプでは[ア・イ]の胎土が主体で、Cタイプでは[ア]の胎土が主体である。焼成については、[ア]の胎土のものは焼けて茶色に近い色で硬質に焼成されているものが多く、[イ・ウ]の胎土のものはこれよりやや軟質で、色調もやや明るい傾向がある。

県央部における7世紀以降の土師器の胎土と焼成の変化は、ほとんど火雑物を含有しない粉っぽい胎土で、やや軟質な明るい橙色に焼成される段階(第1段階)から、前出の粉っぽい胎土をベースに黒色鉱物粒と砂粒を比較的多く含有し、やや軟質な橙色に焼成される段階(第2段階)を経て、黒色鉱物粒と砂粒を比較的多く含む緻密な胎土で、茶色に近い橙色で硬質に焼成される段階(第3段階)へと大まかに3段階が捉えられる。第1段階は6世紀代から継続するものであり、第2段階の萌芽は7世紀後半から8世紀初頭頃に認められる。第3段階の萌芽はほぼ9世紀初頭の時期と考えられ、10世紀代を通して継続する。ここで分類した胎土をこ



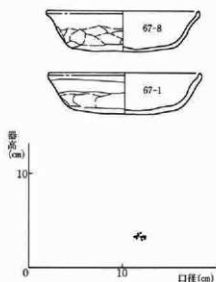
第643図 各タイプの法量分布

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

の段階に位置付けると、〔ア〕の胎土は第3段階のものであることは明らかで、〔イ〕の胎土は第2段階とみることができるが、〔ウ〕の胎土は直接に位置付けることはできない。この〔ウ〕の胎土は、県央部においてはほぼ第2段階にわずかにみられる暗文土師器に特徴的な胎土に類似しているのである。

(まとめ) 以上の検討結果を整理すると、Aタイプとした暗文土師器は、法量分化の傾向や暗文・胎土の傾向から平底系暗文土師器の出現時期により近い時期のものである可能性が強く、B・CタイプはAタイプよりも後出で、しかも胎土の傾向からみれば限りCタイプの方がBタイプよりも更に後出と考えられる。各タイプと共伴する遺物群の年代観から所属時期を類推すると、Aタイプは、52号住に代表されるように土師器甕の口縁部形態が直立ぎみのく字状を呈する点や、須恵器杯の底部切り離し技法に寛切りと糸切りが共存するなど、ほぼ8世紀中頃から後半の様相をもつ土器群と共伴する例があり、9世紀代の土器群との共伴が明確でないことから8世紀代に所属するものであろう。B・Cタイプは、67号住の出土遺物に代表されるように、須恵器杯の器形や土師器甕の口縁部が完成されたコ字状を呈していることなどから9世紀中頃の様相を示す土器群との共伴が明らかである。そして少なくとも当遺跡で見られる限り8世紀代にさかのぼり得る土器群との共伴例が見当たらないことから、ほぼ9世紀代に属するものと考えて差し支えないであろう。Bタイプに対するCタイプの後出性については、共伴関係からの検証はできなかったが、後述するCタイプと同形の暗文を施さない土師器杯の位置付け等から、このCタイプが県内暗文土師器杯としては最終形態である可能性がきわめて高い。

続いて、共伴する土師器杯との関係についてみると、52号住例では丸底系の土師器杯と平底系土師器杯が共伴しており、平底系土師器杯は暗文土師器杯Aタイプと相似形である。胎土に関しても両者は本稿で〔ウ〕と分類した黒色鉱物粒をほとんど含有しないものであり、丸底系土師器杯とは明らかに違っている。また、第644図に提示した67号住で共伴している土師器杯は、9世紀代に主体となる土師器杯であるが、Cタイプと同形でしかもほぼ同じ法量である。胎土は〔ア〕〔イ〕の両方がみられる。これらの事実、暗文土師器が暗文土師器以外の土師器杯と同じ生産ラインにあったこと、および土師器杯の器形に大きな影響を与えたであろうことを端的に示しているのである。



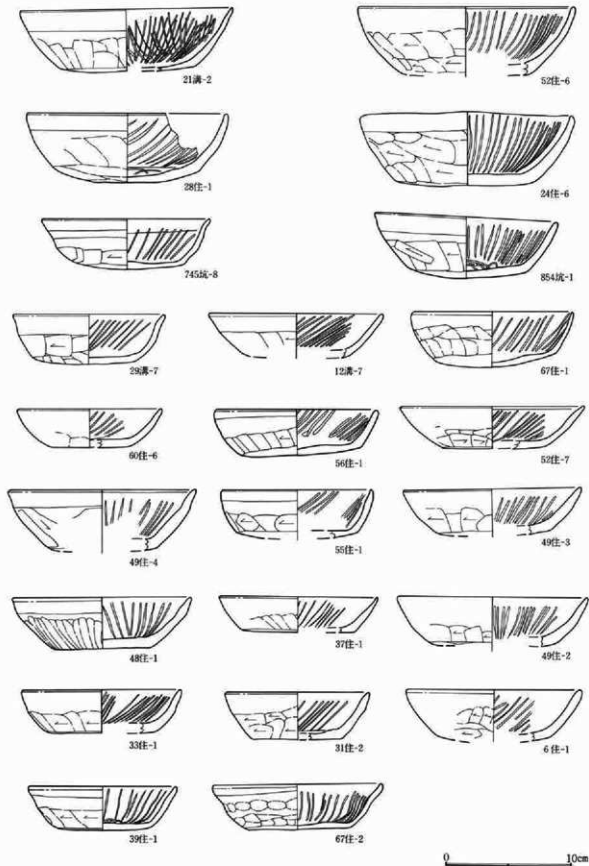
第644図 67号住居出土の土師器杯と法量

#### 参考文献

- 西 弘海 1982 「土器様式の成立とその背景」『考古学論考』  
 林部 均 1986 「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72巻第1号  
 神谷佳明 1987 「暗文土器」『下東西遺跡』 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 桜岡正信 1989 「群馬県内出土の暗文土師器について」『群馬県史研究第30号』  
 ◇ 1991 「7世紀代以降の土師器杯の画期とその要因について」『群馬考古学手帳』Vol. 2 群馬土器観会



第1節 大八木屋敷遺跡の暗文土師器環について



第645図 暗文土器集成

## 第2節 古代の官衙遺構について

はじめに

これまで述べてきたように、本遺跡では、8世紀後半・末から9世紀前半頃とみられる掘立柱建物跡20棟（1～20号掘立柱建物跡）、柱穴列跡1条（1号柱穴列跡）が検出された。今回の調査において最も注目される遺構群と言える。以下では、これらの遺構群の性格や歴史的意義について、若干の検討を試みることにしたい。

### 1. 奈良・平安時代掘立柱建物跡群の概要（第7図参照）

掘立柱建物跡は、79区で11棟（1～11号掘立柱建物跡）、78区で12棟（12～23号掘立柱建物跡）が検出されたが、前述したように78区で検出された21～23号掘立柱建物跡は、1～20号掘立柱建物跡に先行するもので、1～20号掘立柱建物造営時には埋められ、整地されていたと考えられるので、ここで検討の対象とするのは1～20号掘立柱建物跡である。

79区では、全容が確認できた建物跡は、東西棟2（3・6号掘立柱建物跡）、南北棟4（2・5・8・11号掘立柱建物跡）の計6棟で、いずれも3×2間の側柱建物である。また、調査区域外に範囲が広がり、全容が確認できないものが5棟（1・4・7・9・10号掘立柱建物跡）あるが、1号掘立柱建物跡は南北棟、7号掘立柱建物跡は東西棟と、それぞれ推測できる。建物相互の重複が部分的にみられ、2号掘立柱建物跡は5号掘立柱建物跡の、9号掘立柱建物跡は10号掘立柱建物跡の、それぞれ建て替えと考えられる。柱穴は、長径約0.7～1.2m、深さ約0.5～1mと大型で、隅丸の方形、ないし長方形状を呈し、柱間は1.8～2mである。

78区では、調査区北端付近に8棟（11～18号掘立柱建物跡）、やや離れて調査区台地上南端に全く同位置に重複する1棟分（19・20号掘立柱建物跡）が検出された。調査区の北端付近で検出された建物群は、いずれも調査区域外まで広がるもので、全容が確認できるものは全くないが、ほとんどが東西棟とみられる。柱穴は長円形もしくはやや形の崩れた隅丸方形状を呈し、長径約0.6～1.1m、深さは0.5～0.7m程で、柱間は同じく1.8～2mを測る。これらの建物跡は、79区で検出された建物跡群よりもさらに重複が複雑で甚だしく、位置をずらして数次の建て替えがあったものとみられる。

78区台地上南端で検出された19・20号掘立柱建物跡は、78区北端付近で検出された建物群から、およそ18mほど離れて、全く同位置に重複する1棟分で、単独で検出された。3×2間の東西棟総柱建物跡で、柱穴は径0.5～1m、深さ0.4～0.7mの長円形を呈し、いずれにも柱痕が明瞭に確認された。柱間は、南北方向が約1.8m、東西方向が約2mである。

この19・20号掘立柱建物跡の東西両側には、ほぼ等間隔に並ぶ柱穴列が検出された（1号柱穴列跡）。柱穴は径0.4～0.8mとまちまちであるが、しっかりとした掘り方を有し、柱痕も明瞭に確認できた。柱穴列の柱間は、両側ともほぼ2m前後と等間隔であり、東側の柱穴列は途中で若干屈曲するものの<sup>(1)</sup>、西側では建物の西端中央の柱穴からほぼ一直線に並んでいる。

以上の点から、この19・20号掘立柱建物跡と、その両側に展開する柱穴列とは一連のものと考えられる。19・20号掘立柱建物跡が、遺跡地台地上の南端ほぼ中央に位置し、しかも78区北端付近の建物群から、全く

建物の存在しない空間をはさんで単独で存在していることや、全く同位置に建て替えられている点を考慮し、各地における調査事例と比較して勘案するならば、これは門と推定できよう。すなわち、78区台地上南端付近で検出された遺構群は、門とそれに取り付け板塼のような区画施設と考えられる。

さらにこの門と並行して、その北側には、東西方向に延びる上幅1～1.3m断面逆台形状を呈する素掘りの12号溝跡が検出された。この溝は、塼とともにその内側を区画するものとみられ、特に門と接する位置では南側に弧を描いて張り出して門側に寄せており、一部で門の雨落溝を兼ねているようである。

また、門の北東と北西には、12号溝跡に直交し、注ぎ込む南北溝が2本(23・30号溝跡)ある。門の北側の幅15mほどの空間をはさんで対称的な位置にあり、施設内の南北基幹路の側溝である可能性を有する。

これらの諸遺構、とくに掘立柱建物跡の多くは、9世紀後半～11世紀初頭の堅穴住居跡の貼床を除去した状態で検出されている。また、掘立柱建物跡群の検出面には、部分的に整地土が検出されており、建物群の造営に先立って比較的大規模な基礎地業が施されていた痕跡が明瞭に確認できる。この整地土中に含まれていた建物は、ほぼ8世紀後半・末から9世紀ころのものであり、なお且つ、整地土によって埋められた8世紀初頭～後半頃のものともみられる21～23号掘立柱建物跡や、109・113・125・126号堅穴住居跡も検出されている。門と塼やそれと同時期と考えられる掘立柱建物跡群の柱穴からは、年代を明確に示し得る遺物は非常に少ないのであるが、上記の点を考え併せれば、ほぼ8世紀後半・末から9世紀前半頃のものと考えて大過ないだろう。

すなわち、本遺跡地では、8世紀後半～9世紀前半段階に門と塼・溝によって区画された大規模な施設が営まれていたとみられる。78区北端付近や79区で検出された掘立柱建物跡群は、門・塼の内側にある施設の一部をなすものであろう。門は、これらの建物群の位置関係や、台地南端部の中央という立地からみて、この施設の南門、すなわち正門と考えられる。また、出土遺物からみて、堅穴住居跡にも9世紀前半～中葉頃のもののみみられる。掘立柱建物跡と重複しているものでなければ、新旧関係を明確にすることはできないが、出土土器等の様相からみて、明らかに掘立柱建物跡群と並存していたとみられる堅穴住居跡も何棟が存在している。施設域内は掘立柱建物跡のみによって構成されていたわけではないようである。

掘立柱建物跡と重複する堅穴住居跡で、最も古い様相を呈するものは、9世紀中葉ころのものであるが、そのころを境として、急速に堅穴住居が形成されていったようである。廃絶した掘立柱建物跡の上にも、次々と堅穴住居がつくられていくが、掘立柱建物群の廃絶と堅穴住居の拡大が、必ずしも施設の廃絶に伴う急速な集落化を意味するとは限らない。門(19・20号掘立柱建物跡)と塼(1号柱穴列跡)を破壊してつくっている堅穴住居が1棟もないからである。門と塼の内側にあつて施設を区画する12号溝跡が廃絶して完全に埋まった上につくられている堅穴住居が2棟(86・112号住居跡)あるが、出土遺物からみて11世紀後半ごろのものともみられるので、同溝は遅くとも11世紀代には機能していなかったものとみられる。本遺跡で検出された堅穴住居跡は、重複が甚だしく、数世代にわたって建て替えられ続けた様子が看取できるが、それにもかかわらず、12号溝跡以南に1棟も建てられていないのは、掘立柱建物が廃絶し、その上に堅穴住居がつくられる時期になってからも、施設の区画なり地割なりが維持・存続されていたからだと考えるべきであろう。門と塼が廃絶した後に、それらの上につくられている6・21・22・25号溝跡のうち、21・22・25号溝跡の年代が明確にできないので、門と塼自体の廃絶した時期を明確にすることはできなかったが、あるいは門と塼が廃絶した後に、それらに代わる区画施設として21・22・25号溝跡等が掘削された可能性もあろう。いずれにせよ、門と塼に重複する位置にまで堅穴住居がつくられていないことから考えれば、施設の廃絶に伴う急速な集落化と考えるよりは、堅穴住居が拡大しているとは言え、依然としてこの地には何らかの形で地割が維

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

持され続けたとみるべきであろう。

最後に、この門と塀・溝等によって区画された施設の範囲であるが、地形等の様相からみて、後に中世の方形居館が造営された範囲には近い区域であると考えられる。ただし、中世に居館が造営された際に、東西南北各辺は多少なりとも削り取られたものとみられる。1号掘立柱建物跡の西側大部分は削り取られており、また、門の南側も若干削られている可能性が高い。

#### 2. 門と塀・溝によって区画された掘立柱建物群の性格

このような、門と塀によって区画された施設としては、官衙あるいは在地豪族層の居宅などがまず想定できるところであろうが、実際、これらの遺構群の性格を明確にできるような文字資料等が発見されていないので、断定はできない。ただ、遺跡地自体の広がり方が約140mと広範囲に及んでいること、門の北側に全く建物が存在していない空間があり、前庭・広場的なものと考えられること、建物配置の計画性、建物の規格性などや、門の形態が八脚門としっかりしたものであり、且つ板塀とその内側の溝によって厳重に区画されていること、などの諸点からみても、ある種の大規模な施設であることには相違ないだろう。

調査対象範囲が遺跡地の西端と南端寄りのごく一部に限定されているため、門の北奥に存在したであろう施設の中核域にまで調査が及んでいないことや、あるいはまた、検出された掘立柱建物跡群が必ずしも左右対称型に配置されたり、全体として「L字形」や「コの字形」「品字形」のような官衙等に特有な配置ではないこと、3×2間程度の建物が主であり、官衙等に特有な長大な建物や廂付建物等がみられないこと、などの否定的要因もあるが、律令制期の在地豪族層の居宅には未だ確実な検出例はなく、また、それ以前の古墳時代の豪族居館跡の事例と比較しても邸宅的な色彩はあまりうかがえないこと、門の形態が八脚門という格の高いものであること、同時期における地方官衙遺構との類似性が強いこと、などの諸点からみて、居宅と言うよりは、ある種の官衙遺構と考えた方がよいだろう。

官衙として仮定した場合、その性格であるが、本遺跡が所在する律令制下の群馬郡の郡家の所在地としては他に想定できる上、本遺跡での検出遺構自体も、郡家のものとは考えにくく、また、東山道駅路の推定線や資料にみえる駅家の記載からみても駅家とは考えにくい。あくまでも一案としてではあるが、近年、各地で調査事例が増加しつつあるような、郡家より下位にランクされるようなある種の官衙とみるのが妥当ではないだろうか。

#### 3. 郷倉「八木院」との関連

本遺跡で検出された門と塀・溝によって区画された掘立柱建物群を、郡家より下位にランクされるようなある種の官衙遺構と仮定した場合、現存する地名からみて、可能性としてまず第一に想起されるのが、長元3年(1030)の『上野国不解由状案』(『上野国交替実録帳』)の諸郡官舎・群馬郡項にみえる「八木院」である<sup>(2)</sup>。同項には、

群馬郡

正倉貳字

南行第四甲倉壹字 中行第二板倉壹字

東院伍字

中行第二板倉壹字 南行第一板倉壹字 第三甲倉壹口

(マ)

西行第一甲倉壹字 中行第二倉壹字

雑舎陸字

方壹字 掃守倉壹字 納屋壹字

厨屋壹字 酒屋壹字 備屋壹字

郡庁

(倉脱<sub>5</sub>)

西一甲倉壹字 中二板倉壹字 西院中三土倉壹字 西一土倉

(マ)

西三土倉壹字 西五土倉壹字 中二北倉壹字 東板倉

〔小〕

□野院

(倉脱<sub>5</sub>)

北一板倉壹字 東一板倉壹字

八木院

北一板倉壹字

とあり、群馬郡内に八木院と小野院という施設が存在していたことが記されている。また吾妻郡項にも、

(吾)

五妻郡

(中略)

三館

宿屋壹字 向屋壹字 長田院雑舎壹字

伊参院東一屋壹字 北一屋壹字 雑舎壹字

官舎

長田院雑舎壹字 伊参院東一屋壹字

(後略)

と、長田院と伊参院という施設がみえる<sup>(3)</sup>。これらは、それぞれ当該郡の郡内の郷名が付されている上<sup>(4)</sup>、倉庫群に関する記述があることから、延暦14年(795)閏7月15日付太政官符によって、

太政官符

応<sub>レ</sub>建<sub>二</sub>置倉院<sub>一</sub>事

右被<sub>レ</sub>右大臣宣<sub>レ</sub>言。奉<sub>レ</sub>勅、如<sub>レ</sub>聞、諸国建<sub>二</sub>郡倉<sub>一</sub>、元置<sub>二</sub>一處<sub>一</sub>。百姓之居去<sub>レ</sub>郡僻遠、跋<sub>二</sub>涉山川<sub>一</sub>有<sub>レ</sub>勞<sub>二</sub>納貢<sub>一</sub>。加以倉舎比近、臺宇相接、一倉失<sub>レ</sub>火、百倉共燒。言念<sub>二</sub>其弊<sub>一</sub>、有<sub>レ</sub>損公私。宜須<sub>レ</sub>每<sub>レ</sub>郡更置<sub>二</sub>一院<sub>一</sub>、以濟<sub>二</sub>百姓<sub>一</sub>兼絶<sub>二</sub>火祥<sub>一</sub>。始<sub>レ</sub>自<sub>二</sub>今年<sub>一</sub>所<sub>レ</sub>輸租稅取<sub>二</sub>納新院<sub>一</sub>。但前所<sub>レ</sub>納<sub>二</sub>郡家<sub>一</sub>不動物者、依<sub>レ</sub>旧莫<sub>レ</sub>動。其用尽倉者漸遷<sub>二</sub>新院<sub>一</sub>、置<sub>レ</sub>倉之法一依<sub>二</sub>延暦十年符<sub>一</sub>、各相去<sub>二</sub>十文<sub>一</sub>、量<sub>レ</sub>便置<sub>レ</sub>之。

延暦十四年閏七月十五日

と、郷ごとに倉院を置くこととされ、2ヵ月後の同年9月17日付太政官符で、

太政官符

応<sub>レ</sub>改<sub>二</sub>行建<sub>二</sub>正倉院<sub>一</sub>事

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

右被<sub>レ</sub>右大臣宣<sub>レ</sub>言。奉<sub>レ</sub>勅、去閏七月十五日毎<sub>レ</sub>郡更建<sub>レ</sub>郷倉<sub>ノ</sub>之状下<sub>レ</sub>諸国<sub>ノ</sub>畢。追尋<sub>レ</sub>比事<sub>ノ</sub>、頗垂<sub>レ</sub>總便<sub>ノ</sub>。今須<sub>レ</sub>彼此相接比近之郷、於<sub>レ</sub>其中央<sub>ノ</sub>同置<sub>一</sub>院<sub>ノ</sub>。村邑阻絶隔之處、宜<sub>レ</sub>量<sub>レ</sub>地便<sub>ノ</sub>毎<sub>レ</sub>郷置<sub>一</sub>之。自餘之事一依<sub>レ</sub>前符<sub>ノ</sub>。

延暦十四年九月十九日

と、修正され、相接した数郷ではその中央に、遠隔地では郷ごとに置くとされた郷倉のことで、倉庫群とその管理施設からなるものと考えられている。この郷倉設置策は、格文の通り、神火による被害を回避し、非常時の安全を図るとともに、併せて徴税上の便宜を図るための施策と位置付けられているが、この延暦14年をもってはじめて郡家正倉が郡家の外に分置されたというわけではない。よく知られているように、『出雲国風土記』意宇郡条には、山国郷・舎人郷・山代郷などの項に「即有<sub>レ</sub>正倉<sub>ノ</sub>」との注記があり、出雲国ではすでに8世紀代には、郡内の数箇所に正倉が分置されていたことが判明している<sup>(5)</sup>。また、延喜10年(910)の『越中国官倉納穀交替記』の礪波郡意斐村項にも、天平5(733)～天平勝宝2年(750)、天平勝宝2(750)～5年(753)にかけて貯穀のおこなわれた「不動倉東第二板倉」や「不動倉南第一板倉」がみえ、同じく8世紀の中葉にはすでに越中国でも礪波郡家の正倉が意斐郷に分置されていたものとみられる<sup>(6)</sup>。さらに栃木県真岡市中村遺跡<sup>(7)</sup>や、先述した『出雲国風土記』意宇郡条にみえる山代郷正倉に比定される島根県松江市田原遺跡<sup>(8)</sup>の発掘調査事例のように、8世紀代に溯るとみられる正倉別院と考えられる遺構も検出されている。延暦14年の郷倉設置令は、8世紀代に正倉別院がすでに設置されていたことを承けて、それらの拡充を図るといふ意図の下に発せられたと解釈すべきであろう。このように郡家正倉の郡内分置が、すでに部分的には8世紀代からおこなわれていたことからみれば、本遺跡で検出された掘立柱建物群の造営開始が8世紀後半・末ころ推定される点は、本遺跡を郷倉と仮定する上で何ら矛盾するものではないと言えるだろう。

ただ、本遺跡を郷倉・八木院と仮定した場合、若干の疑問点もないわけではない。まず、その一つが、本遺跡が郷倉と想定できるにもかかわらず、総柱の倉庫様建物跡が調査区内で1棟も検出されていないことである。八木院が郷倉と判断された根拠の一つが、先掲の長元3年『上野国不与解由状案』(『上野国交替実録帳』)の八木院に関する記事が、同史料の正倉に関する記述とはほぼ同様であるということからみれば、調査区域がかなり限定されているとは言え、倉庫様の総柱建物跡が1棟も検出されていないことは、確かに不審と言えよう。しかしながら、各地の正税帳に記載されている正倉の項をみると、正倉内には「倉」ばかりではなく、「屋」と称される建物が1割弱の比率で存在しており、これが側柱建物で、土間ないし低床構造をとる物資収納施設と考えられ、総柱の「倉」のみが収納施設ではなかったことが明らかにされている<sup>(9)</sup>。すなわち、本遺跡で検出された側柱建物も、収納施設とみなすことができるのである。また、弘仁13年(822)閏9月20日付太政官符に、

太政官符

応<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>食徭<sub>ノ</sub>丁<sub>ノ</sub>事

四度使雑掌廩丁(朝集使四人 自餘三使各二人)

大帳税帳所書手(大國十八人 上國十六人 中国十四人 下國十二人)

造<sub>レ</sub>國料紙<sub>ノ</sub>丁(大國六十人 上國五十人 中国四十人 下國三十人)

造<sub>レ</sub>筆<sub>ノ</sub>丁(國別二人) 造<sub>レ</sub>墨<sub>ノ</sub>丁(國別一人) 裝<sub>レ</sub>黃<sub>ノ</sub>丁(大國六人 上國五人 中国四人 下國三人)

造<sub>レ</sub>函<sub>ノ</sub>并<sub>レ</sub>札<sub>ノ</sub>丁(大國六人 上國五人 中国四人 下國二人)

造<sub>レ</sub>年料器仗<sub>ノ</sub>長<sub>ノ</sub>丁(國別一人) 同丁(大國百二十人 上國九十人 中国六十人 下國三十人)

国駆使（大國三百二十人 上國二百六十人 中国二百人 下國百五十人）

取<sub>レ</sub>納穀類<sub>一</sub>正倉官舎院守（院別十二人）

採<sub>レ</sub>黒葛<sub>一</sub>丁（國別二人 不<sub>レ</sub>貢<sub>一</sub>御贄<sub>一</sub>國不<sub>レ</sub>在<sub>一</sub>比限<sub>一</sub>）

事力每<sub>一</sub>一人<sub>一</sub>（厮丁四人）

郡書生（大郡八人 上郡六人 中郡四人 下郡三人） 每<sub>一</sub>郡案主二人

盜取二人 稅長正倉官舎（院別三人）

徴稅丁（郷別二人） 調長二人 服長（郷別一人）

庸長（郷別一人） 庸米長（郷別一人） 驅使（大郡十五人 上郡十二人 中郡十人 下郡八人）

厨長一人 驅使五十人 器作二人 造紙丁二人

採松丁一人 炭燒丁一人 採葉丁二人

株丁三人 駅伝使鋪設丁（郡并駅家別四人） 伝馬長（郡別一人）

（中 略）

弘仁十三年閏九月二十日

と、みえる中の「稅長正倉官舎」や「取<sub>レ</sub>納穀類<sub>一</sub>正倉官舎院守」などのように、正倉院の中に出納事務や倉庫管理を担当する官人の執務場所が存在しており、そうした管理施設は、当然、側柱建物で構成されていたと考えられる。さらに、先掲した長元3年『上野国不与解由状案』（『上野国交替実録帳』）諸郡官舎・吾妻郡項に、「伊参院東一屋壹字」「長田院雜舎壹字 伊参院東一屋壹字」とみえるように、長田・伊参両院には「屋」や「雜舎」が存在していたことが知られ、当然、両院と同種の施設とみられる八木院でも同様もしくは類似の構造であったことは想像に難くない。以上、これらの点から、本遺跡で検出された掘立柱建物跡群が側柱建物のみであることは、本遺跡を郷倉・八木院と想定する上で、特に否定的要因にはなり得ないだろう。

79区で検出された側柱建物群（1-11号掘立柱建物跡）の中には、取納施設であったものもあろうし、また曹司を構成する雜倉群とも考えられる。一方、78区北端で検出された掘立柱建物跡群（12-18号掘立柱建物跡）は、正門の正面に位置しているにもかかわらず、重複が甚だしく、また規模も小さいことから、造営・修理等あるいは臨時の行事・儀礼に伴う仮設建物群か、もしくはは若干、新しい時期のものである可能性が考えられる。

次に疑問点としてあげられるのが、長元3年『上野国不与解由状案』（『上野国交替実録帳』）の記載が、「八木院 北一板倉壹字」となっている点である。周知のように、本史料が掲載している各項目は、破損ないし無実となったものの列挙であるから<sup>90</sup>、本史料に従う限り、長元3年（1030）の時点で、八木院の施設で欠失していたのは北の第一板倉が1棟のみということになり、ほとんどの施設は現存していたということになる。この点は、本遺跡における11世紀前半の状況と著しく異なる。すなわち、本遺跡を八木院と仮定するならば、当然、11世紀前半の時期にも倉庫群や曹司・雜倉群が存在しなければならないはずであるが、これまでみてきた通り、本遺跡では11世紀には掘立柱建物群は完全に廃絶しており、竅穴住居もかなりまばらになってしまっているような状況となっている。本遺跡を八木院と想定する上での最大の矛盾点はここにあり、これまで検討してきたように、八木院と想定することの蓋然性は高いとは言え、この点について整合的に解釈することは難しく、私にも確たる成案が用意できないでいる。

ただし、強いていくばくかの解釈を行うとすれば、本史料がもともと郡単位で作成された整理されていない草案の段階のもので、記事の重複・錯簡・欠失などが随所にみられる上、記載事項を無批判に実態として

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

捉えられない史料であることからみれば<sup>01</sup>、当然、八木院についての記述にも実態にそぐわない部分があったり然るべきとの解釈は成り立ち得よう。他の郡家に関する記述によれば、郡庁の正殿とみなされる「庁屋」が無くなったままになっているのが片岡・利根・勢多・佐位・山田・邑家の6郡に及んでおり、館に至ってはほとんどの郡で壊滅的な状況である。さらに律令国家が郡家の諸施設の中でもとりわけ重要視していた正倉ですら、各郡とも相当数が欠失したままの状態となっており、全体的に郡官舎の荒廃が相当に進んでいたと言える。また、すでにこの時期には、本来の郡郷を通じた徴税体系に代わって、富豪層が徴税を担当し、官稲を本来の収納場所である正倉・郷倉に納めず、富豪層の倉に納めるという「里倉負名」制に移行しており、正倉・郷倉など郡が管理する倉庫は、ほとんど実態を失っていたということが、先学の研究により明らかになっている<sup>02</sup>。これらの点からみても、郷倉のみが無実少なく、ほぼ旧状を維持し続けたとは考えにくく、長元3年「上野国不与解由状案」（「上野国交替実録帳」）の八木院に関する記載を、直接、実態として解することはできないと言えるだろう。また、先述したように、門と堀・溝などが廃絶した後も、依然としてこの地には何らかの形で官衙域が維持され続けていたようであることから考えれば、官衙自体はこの地に継続して存在しており、主要施設が域内の別の場所、もしくは近隣に移転したと解釈することも可能であろう。

#### 4. 官衙としての性格

これまで述べてきたように、前節では、本遺跡で検出された門と堀・溝によって区画された掘立柱建物群は、長元3年「上野国不与解由状案」（「上野国交替実録帳」）諸郡官舎・郡馬郡項にみえる「八木院」と称される官衙であることの可能性を模索してきた。とは言うものの、現時点では、本遺跡で検出された遺構が八木院に該当すると断定できる積極的な根拠は遺存地各程度であり、当然、他の種類の施設である可能性も否定できない。本節では、あくまでも官衙遺構としての仮定の上に、近年、各地で調査事例が増加しつつある、郡家より下位にランクされるある種の官衙として、どのような機能・性格を有するものであったのかという点について、さらに検討をすすめることにしたい。

近年、郡家より下位にランクされるようなある種の官衙とみられる遺跡が各地で相次いで発見されつつあることに伴って、文献史学・考古学の双方において俄かに「郷（里）家」論が活況を呈してきている<sup>03</sup>。すなわち、郷（里）長の執務する郷内支配の拠点としての官衙＝「郷（里）家」を想定し、郷（里）の段階にもあたかも郷家のミニチュア版とも言うべき官衙の存在を認めるという考え方である<sup>04</sup>。「郷（里）」という用語が、史料上、確実にみえるのは、「儀制令集解」春時祭田条古記に、

（前略）春時祭田之日。謂、国郡郷里毎、村在社神、人夫衆祭祭、若故、祈年祭、厭也。行、郷飲酒礼。謂、令、其郷家、僧設也。（後略）

と、あるのが唯一の例であるが、その他にも例えば、「播磨国風土記」讃歌郡中川里条にみえる「里御宅」、平城宮跡下層から出土した「五十戸家」や<sup>05</sup>、神戸市宅原遺跡出土の「五十戸口」の墨書土器<sup>06</sup>も、「郷（里）家」と称される施設の存在を傍証する史・資料とすることができる。また、考古学の立場から「郷（里）家」の存在を積極的に肯定された井上尚明氏は、「郷（里）家」遺跡として、郡衙とは言い難いが一般集落でもない「郡衙のミニチュア版」的な様相を示す奈良・平安時代の遺跡を、全国から82箇所抽出・集成しておられる<sup>07</sup>。

非常に少ないとは言え、「郡家」「里御宅」「五十戸家」と明記する史料が存在することからみれば、「郷（里）家」と称される何らかの施設が存在したことは疑いないが、それが郷（里）内支配・末端の徴税・行



政実務の拠点としての郷（里）長が執務する官衙とは考えられない。と言うのも、すでに浅野氏が明快に述べておられるように、律令制下の地方行政機構としての郷（里）には官僚制的な構造は認めがたく、したがって「郷（里）家」といった官衙も存在しえないと思われるからである<sup>98</sup>。

郷（里）長のことを規定したのは、「戸令」取坊令条であるが、それには、

凡取坊令、取正八位以下、明廉強直、甚時務者充。里長坊長、並取白丁清正、強幹者充。若当里坊無人、聽於比里比坊簡用。若八位以下情願者聽。

と、あるように、基本的に五十戸内の位階のない人物が就任することが原則であった。郡司については「選叙令」郡司条に、

凡郡司、取性識清廉、堪時務者、為大領少領。強幹聰敏、工書計者、為主政主帳、其大領外從八位上、少領外從八位下叙之。其大領少領、才用同者、先取国造。

と、あるように、位階が伴うものであったのに対し、郷（里）長には基本的に位階はないわけである。この点からして、国・郡司とは根本的に異なっていた。また、律令国家が新たに地方行政機構を設定する際には、必ず「建郡」、すなわち郡を建てるという方法をとっており<sup>99</sup>、郷（里）を建てるという形はとっていないことからみても、行政区画の基本単位は郡であったと言える。郷（里）は五十戸という単位で機械的に編成された人間集団であり、「戸令」定郡条に、

凡郡、以二十里以下十六里以上、為大郡、十二里以上為上郡、八里以上為中郡、四里以上為下郡、二里以上為小郡。

と、あるように、最低でも二郷（里）以上あることが郡の基本的要件であることから<sup>100</sup>、郷（里）はあくまでも郡の行政的な下部単位であり、郡の機能のもとにおいてのみ機能するものと言える。ゆえに郡家が存在すれば、すべての郷（里）に官衙が存在する必要はないのである。

「儀制令」凶服不入条は、喪服を着用したまま「公門」内、すなわち各種の主要官衙の中核部内に入場することを禁止した規定であるが、その「公門」に関して、集解に、

凡凶服不入公門。謂、（中略）公門者、宮城門及諸司曹司院。其国郡庁院亦同。但駅家厨院等者非也。釈云、（中略）不入公門、市門倉庫国郡厨院駅家等類不称公門。但国郡庁院、市司庁院門者、是為公門耳。古記云、（中略）自餘国郡庁院為公門。倉庫国郡厨院駅家等類、不称公門也。穴云、凡公門皆是、宮城内亦為公門也。於市其曹司院是為公門。跡云、公門、謂、国郡庁門皆同也。（後略）。

と、あるように、官衙中核部として認識されていたのは、「宮城門及諸司曹司院」と「国郡庁院」「市司庁院」であって、「市門倉庫国郡厨院駅家等」は「公門」とは言わないと明示されている。しかしながら郷（里）については、「公門」と言わないどころか、条文中にすら上っておらず、言わば全く問題にされていない。また、「戸令」国郡司条は、

凡国郡司、須向所部檢校者、不得受百姓迎送、妨廢産業、及受供給、到令煩擾。

と、国・郡司が部内を視察する際に、百姓の生業に支障をきたすので、百姓による送迎や饗応を受けることを禁止した規定であるが、その集解に、

（前略）釈云、不得受百姓迎送。謂、国司巡所部者、郡司候当郡院、郡司巡部内者、里長候当里、不得向境也。（中略）令釈云、国司巡者、郡司候当郡院、郡司巡者、里長候当里、不得向境。（中略）古記云、（中略）謂、国司巡部内、郡司待当郡院、郡司

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

巡<sub>部内</sub>、里長待<sub>当里内</sub>。(後略)。

と、あるように、国・郡司の部内巡行の際の送迎場所について、郡司はいずれも郡家政庁において待機すると解釈されているにもかかわらず、里長については「候当里」「待当里内」とあるように、その郷(里)のなかの場所とだけ解釈されるのみである。郡司の例から言っても郷(里)に仮に官衙があるとすれば、当然「候当里家」「待当里家」と規定されたはずであろう<sup>62</sup>。これらの諸点からみても、郷(里)には郷(里)の機能を体現する官衙は存在しなかったとみるべきであろう。

また、官人という点からみても、先掲した「戸令」取坊令条に規定されているのは里長のみであり、郷(里)の官人は基本的に郷(里)長1人のみであった。先掲した弘仁13年(822)閏9月20日付太政官符中にも「徴税丁(郷別二人)」「調長二人 服長(郷別一人)」「唐米長(郷別1人)」「唐米長(郷別1人)」などとみえる所謂「郷雑任」は、郷ごとに徴発されたものであるが、あくまでも使役・管理の主体は郡であった<sup>63</sup>。すなわち、郷(里)は自律的な官僚機構を持たなかったということであり、この点からも郷(里)に官衙はなかったということになる。

先述したように、「儀制令」春時祭田条や平城宮跡等出土墨書土器に「郷家」あるいは「五十戸家」とみえることや、関和彦氏が指摘されたように、『出雲国風土記』にみえる郡家から各郡への距離程がきわめて具体的であり、測点基準としての「郷家」の存在がうかがえるということ<sup>64</sup>からみれば、「郷(里)家」と称される施設が存在していたこと自体は否定できないが、それらに言う「郷(里)家」とは、あくまでも律令地方行政機構としての郷(里)の官衙ではなく、郷(里)長の居宅と解するべきであろう<sup>65</sup>。

ゆえに、郡家よりも下位にランク付けられる官衙と言っても、郷(里)の機関としてではなく、あくまでも郡の機関としてとらえねばならないだろう。先に例として掲げた郷倉も、郡家の正倉院が分置されたものであり、しかもすべての郷に存在したのではなく、管理・経営の主体は郡であった。また、先般より、本遺跡との関連で度々論じてきた八木院についても、長元3年「上野国不与解由状案」(「上野国交替実録帳」)の諸郡官舎・群馬郡項、すなわち郡家に関する記述の中に記されており、郡の管理する施設であったことが明確である。

すでに山中敏史氏が指摘しておられるように、資料の上からも、郷倉以外にも郡家の支所的な施設が存在したことがうかがえる<sup>66</sup>。『続日本紀』和銅6年(713)9月己卯条には、

(前略) 撰津職言。河辺郡玖左佐村、山川遠隔、道路峻難。由<sub>是</sub>、大宝元年始建<sub>館</sub>舎<sub>之</sub>、雜務公文一准<sub>郡</sub>例<sub>之</sub>、請置<sub>郡</sub>司<sub>之</sub>、許<sub>之</sub>。今能勢是也。(後略)。

と、あり、撰津国河辺郡玖左佐村は遠隔地であったため、郡家とは別に館舎を建て、郡家に准じた形で行政事務を行っていたことが知られる。また、『朝野群載』巻22国務桑々事の記事の中にも、「次勘官舎」として、

(前略) 神社、学校、孔子堂、并祭器、国庁院、共郡庫院、駅館、野家、及諸郡院、別院、駅家、仏像、国分二寺堂塔、経論等。(後略)

と、みえる中の「別院」こそが、郡家の支所的な施設とみることができ。実際、近年報告された鳥取県高町の戸島・馬場遺跡のように、郡家の出先機関・支所的な施設とみられる遺構が発掘調査によって発見される例もある。郡正倉の別院である郷倉の存在から敷衍して考えれば、倉庫ばかりではなく行政機構が分置されるケースの可能性も決して低くないと言えるだろう。さらに、この郷倉についても、分置された郡正倉の管理施設とともに、当該所在郷(里)ないし周辺数郷(里)からの租税徴収などの行政事務の一部を分担する機能が付加されていた可能性が高いという<sup>67</sup>。例えば、関和彦氏が指摘しておられるように<sup>68</sup>、「出

雲風土記」意字郡山代郷条には、

山代郷 郷家西北三里一百二十歩。所造天下大神、大穴持命御子、山代日子命坐。故云山代也。即有正倉。

と、あるが、この記事の最末尾にみえる山代郷正倉は、松江市大庭の团原遺跡で検出された掘立柱建物群がそれに相当するものと考えられているが<sup>98</sup>、その位置は、上記記載の意字郡家から山代郷への距離・方角とも一致しているという。すなわち、関氏が言われるように、郡家から各郷への方角・距離の記載が、郡家から各「郷家」への方角・距離によって算出された数値であるとするならば、山代郷正倉と山代「郷家」とは同一場所にあるということになり、郷倉に併せて郡家の支所的な施設が設置されていたことを示す一例と言うことになろう。

以上、みてきたように、郡家の支所的な施設が存在が、史料上から確実にうかがえるとともに、考古学的にもその種の施設とみられる遺構が検出されていることから考えれば、本遺跡で検出された門と堀・溝によって区画された施設は、その種の官衙遺構とも考えられる。また、「出雲国風土記」意字郡山代郷条にみられるように、郷倉院が倉庫とその管理施設のみならず郡家の支所的な官衙が併置されていた可能性が高いということから考えれば、前節で検討してきたように本遺跡との関連が想定できる八木院についても、単に倉庫・貯蔵収納施設とその管理施設で構成されるのみならず、郡家の行政機構の一部が併置された可能性も想定しておく必要があろう。

また、郡家の機構の郡内分置という側面で見れば、当然、館との関連についても検討しておかねばならない。長元3年「上野国不解由状案」（「上野国交替実録報」）の記載によれば、群馬・利根・佐位郡を除く各郡について記載されており、1〜4館の4箇所があり、各館とも「宿屋」「向屋」「副屋」「廩屋」各1棟ずつを基本に、「納屋」「厨屋」が付設されることもあったようである。その性格については、建物の構成が宿泊機能を主に考えられたものであり、廩が存在していることからみて交通機能もあることから、公使臣の往来や国司の郡内巡行の際や、郡司らの宿泊・供給施設と考えられている<sup>99</sup>。本遺跡の性格としては、当然、この館も選択肢の一つとして考慮すべきであろうが、ただ、本遺跡が群馬郡内に位置していることからみれば、簡単にそう想定できない要因もある。先述したように長元3年「上野国不解由状案」（「上野国交替実録報」）には、群馬郡に関する館の記述は全くない。この史料が錯簡が欠失・脱漏等の多い史料であることからみれば、単に記されていないだけとれないこともないが、群馬郡については厨についても記載がなく、かわりに他の郡にない雑舎に関する記事があるところからみて、単なる脱漏とは考えにくい。また、この史料が無実・破損のもの列挙であることからすれば、群馬郡の館がその時点ですでに現存していたとみられなくもないが、他郡の館がほとんど壊滅的とも言える状況からすれば、ひとり群馬郡の館のみが無傷であったとは考え難い。この点について前沢和之氏は、群馬郡が国府所在郡であったため宿館が設置されなかったことによると解釈しておられるが<sup>100</sup>、おそらくそう考えて妥当であろう。そうなると群馬郡にはもともと館が存在しなかったということになり、本遺跡を郡の館とは想定できなくなる。前沢氏が言われるように、群馬郡に館が存在した可能性は低いので、本遺跡についても郡の館との関連はまず想定しなくてよいだろう。

本節では、本遺跡の性格について、前節においてその可能性を模索した郷倉・八木院以外の可能性として、郡家の支所的な官衙としての可能性について検討してみた。その結果、因らずも、その種の官衙が郷倉と併置されていた可能性が指摘できることとなり、八木院であることの豪然性がさらに高まった。山中敏史氏が言われるように<sup>101</sup>、正倉別院=郷倉、郡家の支所、借倉、借屋、館、厨家の出先機関、工房などを備えた

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

曹司が、郡内の数箇所に分置され、郡家の行政事務や徴税実務の一部を分担した可能性は高いものと思われる。そうした各種曹司が郡内に分置された場合、各々が単独に個別分散していたとみるよりは、地域ごとに数種類の施設が併置されていたとみるのが自然であろう。なお、郷(里)長居宅たる「郷(里)家」もそうした行政実務の場となる場合があったかもしれないが、その際はあくまでも郡の管理の下、使役されるのであり、郡の行政機能を体現するものであって、郷(里)が自立的な地方行政機構として機能することは有り得ない。ゆえに郡管轄の各種曹司とは別個のものとして捉えるべきであろう。

おわりに

以上、本遺跡において検出された門と堀・溝によって区画された掘立柱建物群の性格と歴史的意義をめぐって検討してきたが、その結果、有る種の地方官衙<sup>28</sup>もしくは在地豪族層の居宅等の施設である可能性を指摘することができた。これまでみてきたところによって地方官衙、とりわけ長元3年「上野国不与解由状案」(「上野国交替実録帳」)諸郡官舎・群馬郡項にみえる八木院に相当する可能性が高いと言えようが、その可能性を含めて、郡家の支所的な官衙施設の一部をなすものとの想定を、調査担当者として提示し、本報告書の結びに代えたい。

註

- (1) この柱穴列の東側が大きく屈曲する点はかなり奇異な印象を与える。しかしながら律令制期の各種官衙遺構の外郭線や建物配置には屈曲したり、不整形であったりするものが、決して少なくない。例えば、秋田県仙北町の弘田橋政庁外郭線は屈曲している上、正殿も軸線がずれ、プランが斜めに傾いている。また、常陸国鹿島郡家である茨城県鹿嶋市の神野向遺跡や陸奥国玉造郡家である宮城県古川市名生館遺跡、陸奥国賀美郡家である宮城県宮崎町東山遺跡、武蔵国豊島郡家である東京都北区御殿前遺跡、武蔵国都賀郡家である神奈川県川崎市長者原遺跡、相模国鎌倉郡家である神奈川県鎌倉市今小路西遺跡、近江国栗太郡家である滋賀県栗東町岡遺跡などの郡家政庁では、いずれも政庁外郭線や政庁内殿舎の一部の平面プランが屈曲したり、斜めに傾斜したりしている。これら城柵や郡家の中枢部ですら平面プランの屈曲、傾斜、軸線等のずれがあることからみれば、本遺跡の柱穴列の一部が屈曲する点は、さて問題にする程のこともないと言えよう。なお、西側の柱穴列が途中で止まる点については、12号溝がその部分から前面に出ているところからみて、区画施設の基本は12号溝であり、柱穴列=板塀は門の正面観を飾るだけのものとの見方も可能である。
- (2) 群馬県史編纂室編『群馬県史 資料篇4 原始古代4』1985。
- (3) 山中敏史氏は、この長田院と伊参院について、「屋」と「雑舎」がみられるのに対して「倉」に関する記述がないこと、「三館」「官舎」の項に記されていること、の2点から、群馬郡項にみえる小野院・八木院とは異なり、館であると考えておられる(同「館・厨家の構造と機能」同氏著『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房 1994)。しかしながら、郷名が冠せられていること、「屋」にも収納機能があること、本来、群馬郡項の小野院・八木院に関する記載のように末尾に記されるべき記述が、館や官舎の項目にまぎれこんだ可能性が強いこと、などの諸点からみて、私は郷倉とみてよいと思っている。なお、すでに足利能亮「郡衙の領域について」(『歴史研究』11 1969)、前沢和之「上野国交替実録帳」郡衙項についての覚書(『群馬県史研究』7 1978)が、長田院と伊参院を含めて郷倉とみることに肯定的である。

- (4) 田中勝弘氏によれば、長元3年「上野国不与解由状案」（『上野国交替実録帳』）にみえるこれらの例の他に、諸史料中から郷名を冠した院の例として、日向国那珂郡嶋田院、同宮崎郡飯飯院、同児湯郡都於院、大隅国大隅郡杵波院、同松浦郡鹿屋院、薩摩国給黎郡給黎院、能登国羽咋郡羽咋院、同邑知院、同都知院、同能登郡奥木院、山城国宇治郡宇治院、摂津国川辺郡滿津院、同武庫郡混陽院などの例が知られるという。ただし、これらすべてが倉院と解してよいかは、検討を有するとしておられる点は同感である。（『弘川遺跡の性格』（財）滋賀県文化財保護協会『滋賀県高島郡今津町弘川遺跡発掘調査報告書—古代郷倉跡—』1979）。
- (5) 山中敏史「正倉の構造と機能」（同氏註〔2〕前掲書）。
- (6) 山中敏史氏註（5）前掲論文。
- (7) 栃木県教育委員会「栃木県埋蔵文化財調査報告書第28集 栃木県真岡市中村遺跡発掘調査報告書」1979、日本歴史研究所「栃木県真岡市中村遺跡第7・8次調査報告書」1984
- (8) 鳥根県教育委員会「史跡出雲国山代郷正倉跡」1981、同「風土記の丘地内発掘調査報告書VI 田原古墳・下黒田遺跡」1989、松江市教育委員会「下黒田遺跡発掘調査報告書」1988。なお、これらの他に郷倉とみられる遺跡には、伯耆国久米郡下神郷に置かれた郷倉とみられる鳥取県北条町殿屋敷遺跡（北条町教育委員会「北条町埋蔵文化財報告書6 殿屋敷遺跡発掘調査報告書第一集」1988）、近江国高島郡善積郷郷倉とみられる滋賀県今津町弘川遺跡（『滋賀県文化財保護協会誌（4）前掲書』）などの調査事例があるが、山中敏史氏は後者を郷倉とみるについて否定的である（同氏註（5）前掲論文）。
- (9) 山中敏史氏註（5）前掲論文。
- (10) 長元3年「上野国不与解由状案」（『上野国交替実録帳』）については、前沢和之氏の一連の精力的な研究によってその史料的特質が明らかにされた。同氏註（3）前掲論文、同「『上野国交替実録帳』についての基礎的研究」（『群馬県史研究』4 1976）、同「『上野国交替実録帳』の性格について」（永島福太郎先生退職記念『日本歴史の構造と展開』山川出版社 1983）、同「『上野国交替実録帳』国分寺項について—その作成過程と上野国分寺をめぐる二、三の問題—」（『群馬県立歴史博物館紀要』1 1980）、など。
- (11) 前沢和之氏註（3）前掲論文、同「『上野国交替実録帳』にみる地方政治」（『群馬県史編纂室編『群馬県史 通史編2 原始古代2』』1991）。
- (12) 村井康彦「公出挙制の変質過程」（同『律令国家解体過程の研究』岩波書店 1965）、坂上康俊「負名体制の成立」（『史学雑誌』94-2）、森田佛「里倉負名について」（同『日本古代の政治と地方』高科書店 1988）。
- (13) 山中敏史「古代地方官衙論」（考古学研究会編『展望考古学』1995）、日本考古学協会1995年度大会シンポジウム「地方官衙とその周辺」（日本考古学協会編『日本考古学協会1995年度大会研究発表要旨』1995）。なお、官衙としての「郷（里）家」の存在を積極的に認める考え方としては、考古学から井上尚明 a 「古代集落遺跡の再検討—郡衙・郷家・一般集落—」（『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』5 1989）、同 b 「郷家に関する一試論」（『埼玉県埋蔵文化財調査事業団「埼玉考古学論集」』1991）、同 c 「集落遺跡としての南鍛冶山遺跡」（『藤沢市史研究』24 1991）、津野仁「遺跡からみた郷長の性格—茨城県大塚新地遺跡の検討を中心として—」（『太平台史窓』10 1991）、一方、文献史学からは関和彦「古代村落『官衙』考」（同『日本古代社会生活史の研究』校倉書房 1994）

#### 第4章 調査成果の整理とまとめ

がある。三者とも「郷(里)家」なる官衙の存在を肯定しておられる点については見解を同じくされているが、井上・津野両氏の「郷(里)家」に関する捉え方と、関氏のそれとはかなりニュアンスが異なる。

- (14) 井上尚明氏註(13) a b c 前掲論文、山中敏史「郡衙の出現機関」(同氏註[3]前掲書)。なお、里長宛の郡符木簡が出土していることを根拠に、兵庫県春日町山垣遺跡を郷(里)の官衙の典型例として捉えられる場合が少なくないが、根拠とされている郡符木簡は、宛所とされた春部里長が郡の機関に出頭する際に携帯し、差出である郡の施設へ戻された後に廃棄されたと考えられること、また、「丹波国水上郡」宛の封緘木簡が出土していること、の二点から、郷(里)の官衙ではなく、むしろ郡段階の官衙と考えるべきであろう(平川南「郡符木簡—古代地方行政論に向けて—」虎尾俊哉編『律令国家の地方支配』吉川弘文館 1995)。
- (15) 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告』IX 1983。
- (16) 神戸市教育委員会『宅原遺跡豊浦地区現地説明会資料』1988。
- (17) 井上尚明氏註(13) b 前掲論文。ただしこの井上氏の論考では、「郷(里)家」の概念規定・指標が、「郡衙とは言い難いが一般集落でもない、郡衙のミニチュア版の様相を指す遺跡」と甚だ曖昧である上、各遺跡がそれぞれ一類型をなすほど多様であり、明確な分類基準が示されておらず、問題点も少なくない。
- (18) 浅野亮「律令制下の地方行政について」(『藤沢市史研究』24 1991)。なお、以下はこの浅野氏の論考に負うところが大きい。
- (19) 『続日本紀』和銅4年(711)3月辛亥条の上野国多胡建郡  
和銅四年三月辛亥(中略)、割上野国甘楽郡織袋・韓級・矢田・大家・緑野郡武美、片岡郡山等六郷、別置多胡郡。  
『続日本紀』靈龜元年(715)10月丁丑条の美濃国席田建郡  
靈龜元年十月丁丑(中略)尾張国人外従八位上席田君途近及新羅人七十四家、貢于美濃国、始建席田郡焉。  
『続日本紀』養老2年(718)5月乙未条の能登・安房・石城・石背立国、石背国菊多郡建郡  
養老二年五月乙未、割越前国之羽咋・能登・鳳至・珠州四郡、始置能登国。割上総国之平群・安房・朝夷・長狭四郡、置安房国。割陸奥国之石城・標葉・行方・宇太・日理、常陸国之菊多六郡、置石城国。割白河・石背・会津・安積・信夫五郡、置石背国。割常陸国多河郡之郷二百一十郷、名曰菊田郡、属石城国焉。
- (20) 例えば佐渡国のように一国一郡という体制はあるが、一郡一郷(里)という体制はないということ。
- (21) 関和彦氏は註(13)前掲論文中において、「郡院」に比して「郷家」が完全な形で「官衙」的ではなかったことの反映と考えておられるが、まさにその通りであろう。
- (22) 西山良平「律令制収奪」とその基盤」(『日本史研究』187 1978)、同「郡雑任の機能と性格」(『日本史研究』234 1982)、吉田晶「日本古代村落史序説」塙書房 1980、中村順昭「郡の下級役人」(神奈川地域史研究会編『宮久保木簡と古代の相模』有隣堂 1984)。
- (23) 関和彦氏註(13)前掲論文。
- (24) 井上尚明氏も関和彦氏もともに、独立した官衙としての「郷(里)家」の存在を想定する一方で、郷(里)長の私宅に郷(里)の官衙が付設されるケースも想定しておられる。とくに関氏は、「郷家」が

郷長の私宅に「付設」した建物であり、同一区画内に営まれる場合が一般的であったと考えておられるが、その点については私も賛成である。ただし、「郷家と呼ばれる郷にかかわる『掌<sub>下</sub>檢<sub>上</sub>校戸口<sub>上</sub>、課<sub>上</sub>殖農桑<sub>上</sub>、楚<sub>上</sub>察非違<sub>上</sub>、備<sub>上</sub>驅賦役<sub>上</sub>」等任務遂行の場である役所」と考えておられる点については従い難い。近年、福島県いわき市荒田目条里遺跡から出土した2号木簡に「里刀自」という語がみられ、これが里長（のちの郷長）の妻とみられる点（平川南「木簡が語る古代のいわき」（財）いわき市教育文化事業団『木簡は語る』1985）を敷衍して、「郷（里）家」は郷（里）長の居宅と考えてよいように思われる。なお、広瀬和雄氏は、「郡衙・国衙といった公的な施設と並んで、首長の私宅も公的な役割を分担していた」とし、首長の居宅を「ミニ官衙」と称し、官衙の機能を果していたと考えておられる（同『畿内の古代集落』『国立歴史民俗博物館研究報告』22 1989）。私も氏の論旨には基本的に賛意を表したが、首長の私宅が官衙の機能を果す場合（在地首長を頂点とする共同体的な支配被支配関係にもとづく取奪ではない場合）にはあくまでも国・郡といった律令地方行政機構の枠内でのみ機能しうるものであり、律令地方行政機構の機能を体現するものであったと考えておきたい。

- (25) 山中敏史氏註 (14) 前掲論文。  
 (26) 山中敏史氏註 (14) 前掲論文。  
 (27) 関和彦氏註 (13) 前掲論文。  
 (28) 鳥根県教育委員会註 (8) 前掲書。  
 (29) 山中敏史氏註 (3) 前掲論文、前沢和之氏註 (11) 前掲論文。  
 (30) 前沢和之氏註 (11) 前掲論文。  
 (31) 山中敏史氏註 (14) 前掲論文。  
 (32) 以上、註にあげた他、地方官衙について以下の諸文献を参照した。  
 坪井清足「地方官衙と城櫓」（坪井清足・鈴木嘉吉編『古代史発掘9 埋もれた宮殿と寺』講談社 1974）。  
 加藤義成「律令出雲の正倉一文献を中心として」（鳥根県教育委員会註〔8〕前掲書）。  
 長野県考古学会編『長野県考古学会誌44—シンポジウム特集号—地方官衙のあり方—』1982。  
 山本忠尚「地方官衙の遺跡」（坂詰秀一・森郁夫編『日本歴史考古学を学ぶ』上 有斐閣 1983）。  
 山中敏史「評・郡衙の成立とその意義」（奈良国立文化財研究所編『文化財論叢』同朋舎 1983）。  
 同「遺跡からみた郡衙の構造」（狩野久編『日本古代の都城と国家』塙書房 1984）。  
 同「国衙・郡衙の構造と変遷」（日本史研究会・歴史学研究会編『講座日本歴史2 古代2』東京大学出版会 1984）。  
 同・佐藤典治「古代日本を発掘する5 古代の役所」岩波書店 1986。  
 同「律令国家の成立」（『岩波講座日本考古学6 変化と画期』岩波書店 1986）。  
 同「各地の官衙遺跡からみた岡遺跡」（『古代を考える46 岡遺跡の検討』1987）。  
 同「都城と国衙・郡衙」（山梨県立考古博物館『古代官道と甲斐の文化』1987）。  
 国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告10—共同研究・古代の国府の研究』1986。  
 同『国立歴史民俗博物館研究報告20—共同研究・古代の国府の研究2』1988。  
 阿部義平「国府と郡衙」（坪井清足編『古代を考える 宮都発掘』吉川弘文館 1987）。  
 同「城櫓と国府・郡家の関連」（『国立歴史民俗博物館研究報告』20 1988）。  
 同「官衙」ニューサイエンス社 1989。

第4章 調査成果の整理とまとめ

- 同 「国府と郡衙」（栃木県立しもつけ風土記の丘資料館『第6回企画展 古代の役所—下野国府とその周辺』 1992）。
- 鬼頭清明「木簡からみた郡衙の機能」（『古代を考える46 岡遺跡の検討』 1987）。
- 木下良「国府」 教育社 1988。
- 黒崎直「律令国家の点と線」（町田章編『古代史復元8 古代の宮殿と寺院』 講談社 1989）。
- 加藤友康「国府と郡家」（小林達雄・原秀三郎編『新版古代の日本7 中部』 角川書店 1993）。
- 佐藤信「宮都・国府・郡家」（『岩波講座日本通史4 古代3』 岩波書店 1994）。
- 東日本埋蔵文化財研究会『古代官衙の終末をめぐる諸問題』 1994。



## 報 告 書 抄 録

フリガナ	オオヤギヤシキイセキ
書名	大八木屋敷遺跡
副書名	北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第3集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第198集
編著者名	高島英之
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	西暦 1996年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
オオヤギヤシキイセキ 大八木屋敷	オオヤギヤシキイセキ 高崎市大八木町	10202	00336	36度 21分 20秒	139度 59分 59秒	19910401- 19930331	6880	鉄道(北陸 新幹線) 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
大八木屋敷	生産	古墳時代	水田跡	4面	なし	
			溝跡	20条		
	居住	奈良・平安時代	竪穴住居跡	111軒		土師器・須恵器
			掘立柱建物跡	3棟		灰釉陶器・緑釉陶器
			井戸跡	2基		青磁 鉄器
			土坑跡	741基		
			溝跡	29条		
	官衝	◇	掘立柱建物跡	20棟		土師器・須恵器
			柱穴列	1条		
	居館	中世	溝跡	3条		陶器
堀跡			3条			
墳墓	近世	溝跡	1条			
		土塚墓跡	10基	古銭		



写 真 图 版





大八木屋敷遺跡周辺航空写真(昭和48年)



I期水田跡 空撮



I期水田跡 空撮



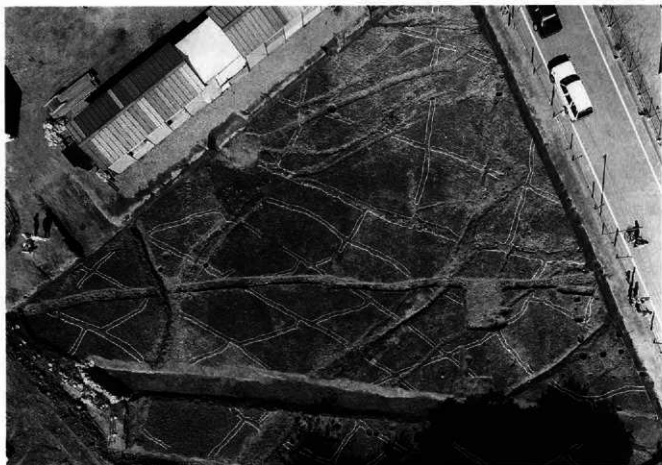
I期水田跡 空撮



I期水田跡 空撮



I期水田跡 空撮



I期水田跡 空撮



I期水田跡 空撮



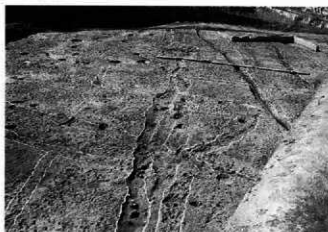
I期水田跡 空撮



I期水田跡



I期水田跡



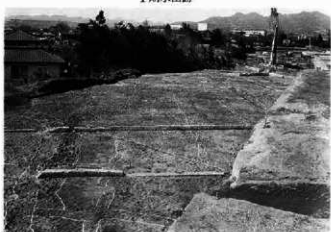
I期水田跡



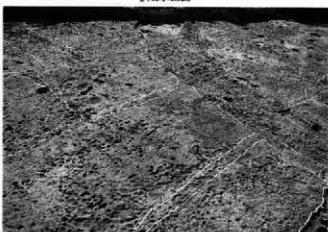
I期水田跡



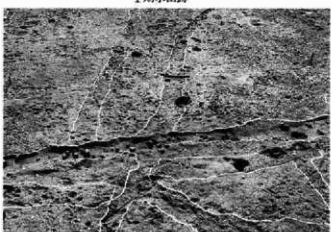
I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡





I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



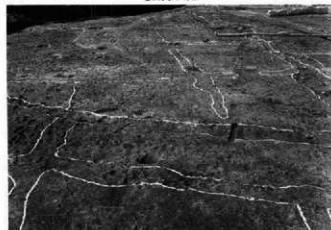
I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



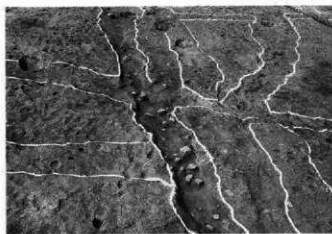
I期水田跡



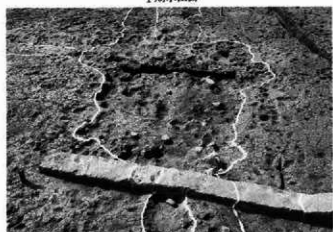
I期水田跡



I 期水田跡



I 期水田跡



I 期水田跡



I 期水田跡



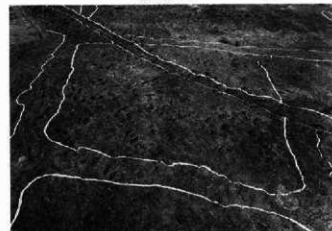
I 期水田跡



I 期水田跡



I 期水田跡



I 期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



I期水田跡



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡 空撮



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



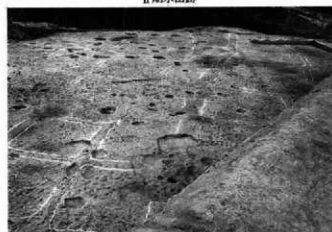
Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



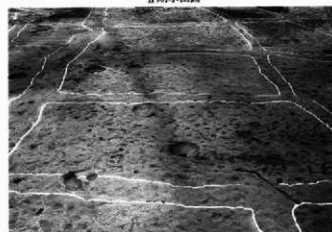
Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



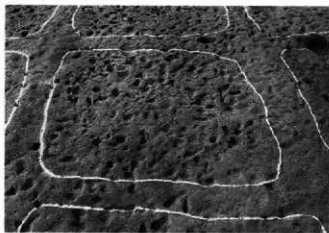
Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



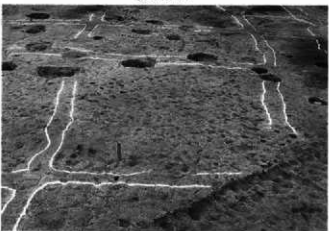
Ⅱ期水田跡



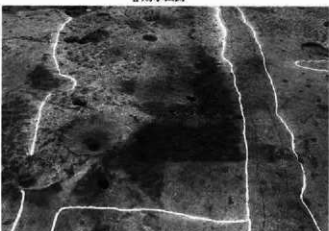
Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡

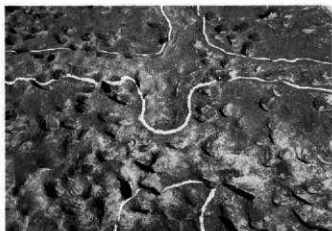


Ⅱ期水田跡





Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



Ⅱ期水田跡



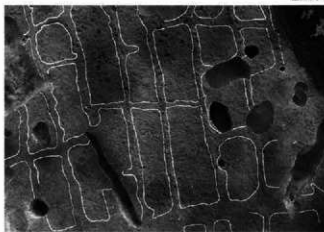
Ⅱ期水田跡



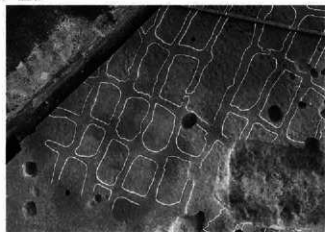
Ⅱ期水田跡



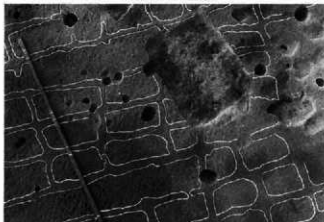
Ⅲ期水田跡 空撮



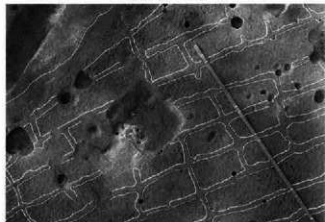
Ⅲ期水田跡 空撮



Ⅲ期水田跡 空撮



Ⅲ期水田跡 空撮



Ⅲ期水田跡 空撮



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅲ期水田跡



Ⅳ期水田跡 空地



Ⅳ期水田跡 空撮



Ⅳ期水田跡 空撮



Ⅳ期水田跡 空撮



Ⅳ期水田跡 空撮



1号住居跡 全景



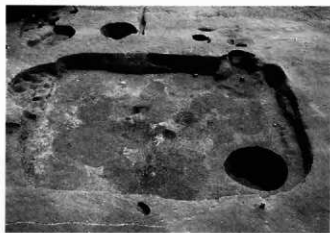
1号住居跡 遺物出土状況



1号住居跡 竈全景



1号住居跡 貯蔵穴全景



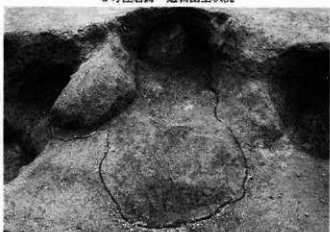
2号住居跡 全景



2号住居跡 遺物出土状況



2号住居跡 掘り方全景



2号住居跡 竈全景



2号住居跡 貯蔵穴全景



3号住居跡 遺物出土状況



3号住居跡 掘り方全景



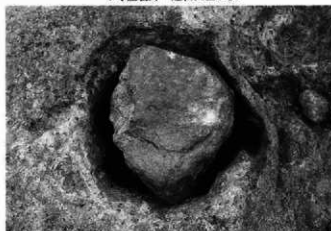
4号住居跡 全景



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 掘り方全景



4号住居跡 中央部ビット



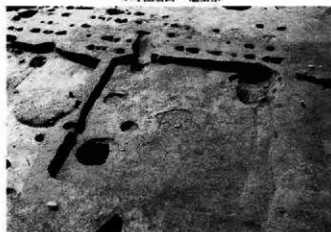
5号住居跡 全景



5号住居跡 竈全景



5号住居跡 竈全景



6号住居跡 全景



6号住居跡 遺物出土状況



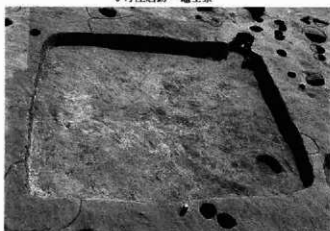
6・9号住居跡 掘り方全景



6号住居跡 竈全景



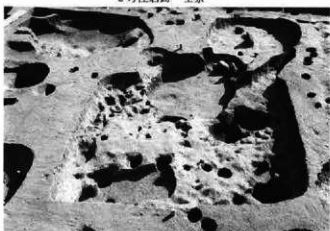
7号住居跡 竈全景



8号住居跡 全景



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 掘り方全景



8号住居跡 竈全景



8号住居跡 竈断ち割り





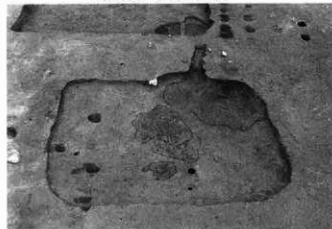
9号住居跡 全景



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 竈全景



10号住居跡 全景



10号住居跡 遺物出土状況



10号住居跡 掘り方全景



10号住居跡 竈遺物出土状況



11号住居跡 全景



11号住居跡 遺物出土状況



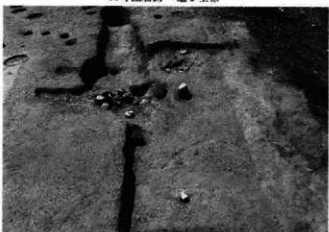
11号住居跡 掘り方全景



11号住居跡 竈1全景



11号住居跡 竈2全景



12号住居跡 全景



12号住居跡 掘り方全景



12号住居跡 竈近景



12号住居跡 竈遺物出土状況



13号住居跡 全景



13号住居跡 掘り方全景



13号住居跡 竈全景



14号住居跡 全景



14号住居跡 遺物出土状況



14号住居跡 遺物出土状況



14号住居跡 貯蔵穴全景



15号住居跡 全景



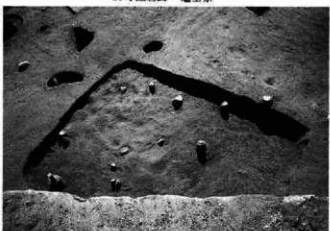
15号住居跡 遺物出土状況



15号住居跡 竈全景



16号住居跡 全景



16号住居跡 遺物出土状況



17号住居跡 全景



17号住居跡 遺物出土状況



17号住居跡 遺物出土状況



17号住居跡 遺物出土状況



17号住居跡 窟全景



18号住居跡 全景



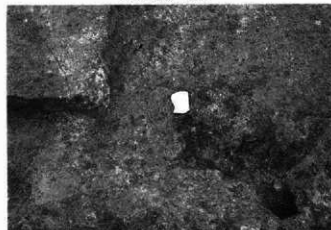
18号住居跡 窟全景



19号住居跡 全景



19号住居跡 遺物出土状況



19号住居跡 遺物出土状況



19号住居跡 窟1全景



19号住居跡 窟2全景



19号住居跡 竈2断ち割り



20号住居跡 全景



20号住居跡 掘り方全景



20号住居跡 竈全景



21号住居跡 全景



21号住居跡 遺物出土状況



21号住居跡 掘り方全景



22号住居跡 全景



22号住居跡 炭化物出土状況



22号住居跡 炭化物出土状況



22号住居跡 炭化物出土状況



22号住居跡 竈全景



22号住居跡 貯蔵穴全景



23号住居跡 遺物出土状況



23号住居跡 竈全景



24号住居跡 遺物出土状況



24号住居跡 遺物出土状況



24号住居跡 遺物出土状況



24号住居跡 掘り方全景



24号住居跡 竈全景



25号住居跡 全景



25号住居跡 遺物出土状況



25号住居跡 竈全景



26号住居跡 全景





26号住居跡 竈1 煙道部断面



26号住居跡 竈1 煙道部断面



26号住居跡 竈1 煙道部断面



26号住居跡 竈1・2 全景



26号住居跡 竈2 土層断面



28号住居跡 全景



29号住居跡 全景



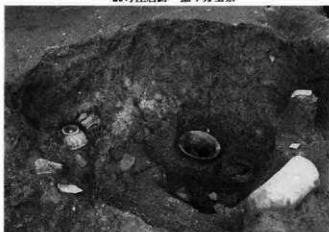
29号住居跡 遺物出土状況



29号住居跡 掘り方全景



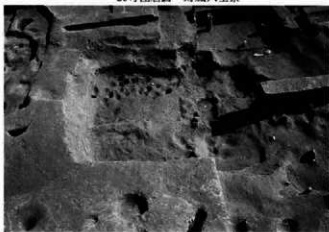
29号住居跡 竈全景



29号住居跡 貯蔵穴全景



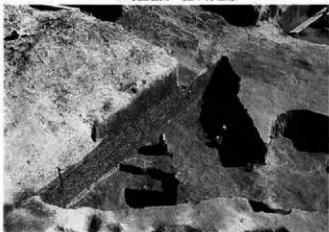
30号住居跡 遺物出土状況



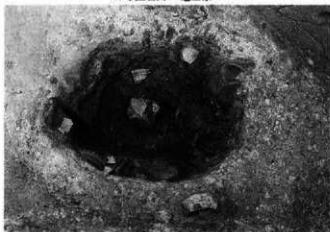
30号住居跡 掘り方全景



30号住居跡 竈全景



31号住居跡 全景



31号住居跡 床下土坑全景



32号住居跡 全景



33号住居跡 全景



33号住居跡 竈全景



34号住居跡 全景



34号住居跡 竈全景



36号住居跡 全景



36号住居跡 竈全景



37号住居跡 全景



38号住居跡 全景



38号住居跡 遺物出土状況



38号住居跡 遺物出土状況



38号住居跡 掘り方全景



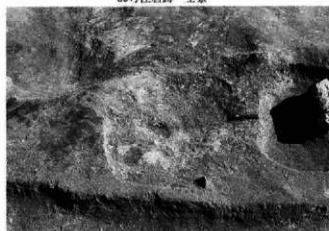
38号住居跡 貯蔵穴全景



39号住居跡 全景



39号住居跡 掘り方全景



39号住居跡 竈全景



41号住居跡 遺物出土状況



41号住居跡 遺物出土状況



41号住居跡 竈全景



41号住居跡 貯蔵穴全景



42号住居跡 全景



42号住居跡 掘り方全景



42号住居跡 竈全景



44号住居跡 全景



48号住居跡 全景



48号住居跡 掘り方全景



49号住居跡 全景



50号住居跡 遺物出土状況



50号住居跡 竈全景



51号住居跡 全景



52号住居跡 全景



52号住居跡 遺物出土状況



52号住居跡 遺物出土状況



52号住居跡 遺物出土状況



52号住居跡 竈全景



53号住居跡 全景



53号住居跡 掘り方全景



54号住居跡 全景



54号住居跡 竈付近遺物出土状況



54号住居跡 掘り方全景



54号住居跡 竈全景



55号住居跡 全景



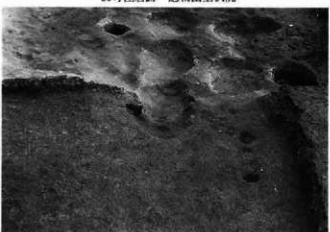
55号住居跡 遺物出土状況



55号住居跡 遺物出土状況



55号住居跡 掘り方全景



55号住居跡 竈全景



56号住居跡 全景

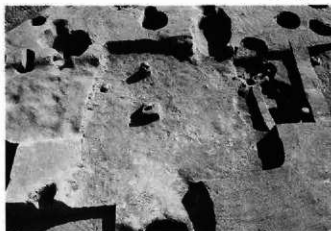


56号住居跡 遺物出土状況





56号住居跡 竈全景



57号住居跡 全景



57号住居跡 掘り方全景



57号住居跡 竈全景



57号住居跡 貯蔵穴全景



58号住居跡 全景



58号住居跡 掘り方全景



58号住居跡 竈全景



58号住居跡 貯蔵穴全景



59号住居跡 全景



60号住居跡 全景



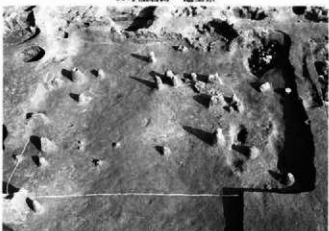
60号住居跡 掘り方全景



60号住居跡 竈全景



60号住居跡 竈掘り方近景



61号住居跡 全景



61号住居跡 竈近景



61号住居跡 貯蔵穴全景



61号住居跡 貯蔵穴全景



62号住居跡 竈全景



63号住居跡 全景



63号住居跡 遺物出土状況



63号住居跡 掘り方全景



63号住居跡 竈全景



64号住居跡 遺物出土状況



64号住居跡 遺物出土状況



64号住居跡 跡全景



65号住居跡 全景



66号住居跡 全景



67号住居跡 全景



67号住居跡 遺物出土状況



67号住居跡 遺物出土状況



67号住居跡 遺物出土状況



67号住居跡 竈近景



68号住居跡 全景



68号住居跡 掘り方全景



68号住居跡 貯蔵穴全景



69号住居跡 全景



69号住居跡 遺物出土状況



69号住居跡 竈全景



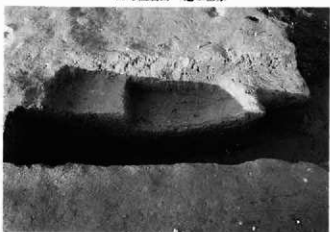
70号住居跡 全景



70号住居跡 竈1 全景



70号住居跡 竈2 全景



70号住居跡 竈2 断ち割り



70号住居跡 竈2 断ち割り



71号住居跡 全景



72・74・101号住居跡 全景



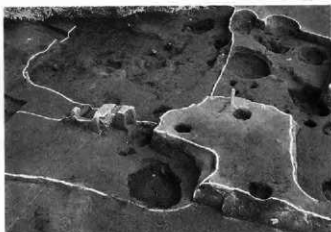
73・75号住居跡 全景



73号住居跡 竈全景



76号住居跡 全景



77号住居跡 全景



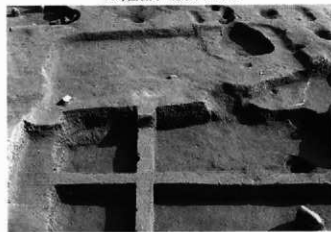
78号住居跡 全景



78号住居跡 遺物出土状況



78号住居跡 竈全景



79号住居跡 全景



79号住居跡 竈全景



82号住居跡 全景



82号住居跡 掘り方全景



83号住居跡 全景



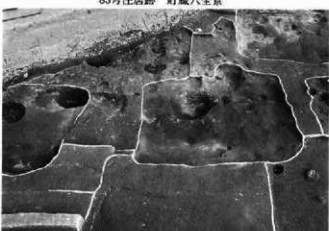
83号住居跡 竪全景



83号住居跡 貯蔵穴全景



85号住居跡 全景



84・85号住居跡 掘り方全景



85号住居跡 竪全景



86号住居跡 全景





86号住居跡 竈全景



87号住居跡 全景



87号住居跡 竈全景



88号住居跡 全景



89号住居跡 全景



89号住居跡 遺物出土状況



90号住居跡 全景



94号住居跡 全景



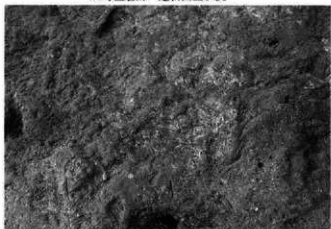
94号住居跡 遺物出土状況



94号住居跡 遺物出土状況



94号住居跡 遺物出土状況



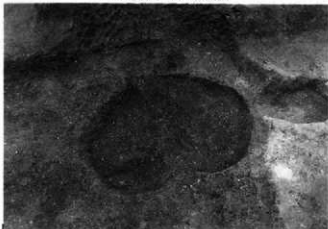
94号住居跡 跡痕



94号住居跡 掘り方全景



94号住居跡 竈全景



94号住居跡 貯蔵穴全景



95号住居跡 全景



97号住居跡 全景



97号住居跡 竈全景



98号住居跡 全景



98号住居跡 遺物出土状況



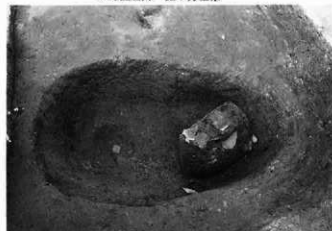
98号住居跡 遺物出土状況



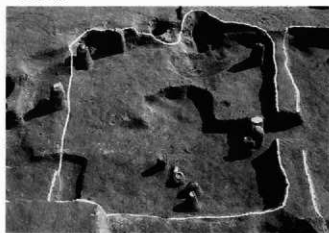
98号住居跡 掘り方全景



98号住居跡 竈全景



98号住居跡 貯蔵穴全景



99号住居跡 全景



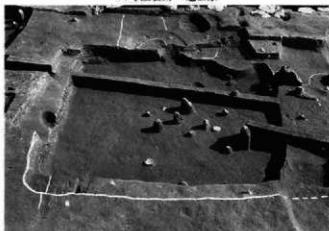
99号住居跡 掘り方全景



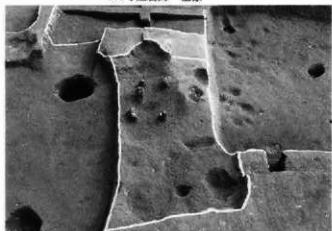
99号住居跡 竈全景



100号住居跡 全景



103号住居跡 全景



105号住居跡 全景



105号住居跡 竈全景



107号住居跡 掘り方全景



108号住居跡 全景



108号住居跡 遺物出土状況



109号住居跡 全景



109号住居跡 遺物出土状況



110号住居跡 竈全景



110号住居跡 全景



112号住居跡 全景



112号住居跡 貯藏穴全景



113号住居跡 全景



113号住居跡 遺物出土状況



113号住居跡 竈全景



114号住居跡 全景



114号住居跡 竈全景



114号住居跡 貯蔵穴全景



115号住居跡 全景



115号住居跡 竈全景



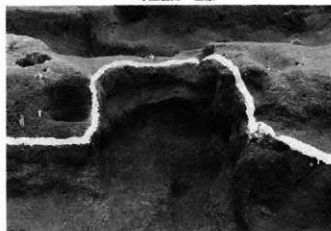
116号住居跡 全景



117号住居跡 全景



118号住居跡 全景



118号住居跡 竈全景



120号住居跡 掘り方全景



121号住居跡 全景



122号住居跡 全景



123号住居跡 全景



124号住居跡 全景



125号住居跡 全景



125号住居跡 覆全景



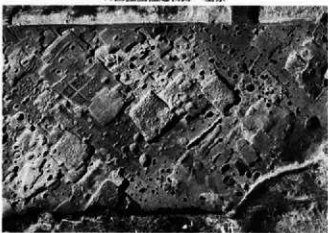
126号住居跡 全景



79区掘立柱建物跡 全景



79区掘立柱建物跡 全景 (1)

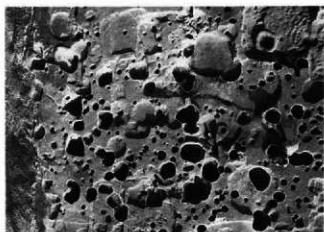


79区掘立柱建物跡 全景 (2)



1号掘立柱建物跡 全景





1·2号獨立柱建物跡 全景



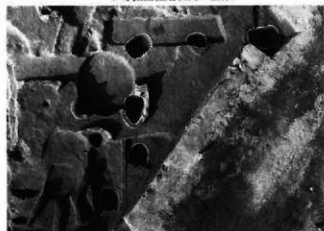
2号獨立柱建物跡 全景



3号獨立柱建物跡 全景



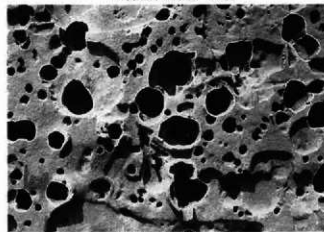
3号獨立柱建物跡 全景



4号獨立柱建物跡 全景



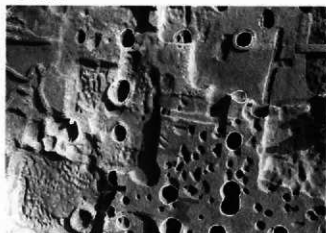
4号獨立柱建物跡 全景



5号獨立柱建物跡 全景



5号獨立柱建物跡 全景



6号独立柱建物跡 全景



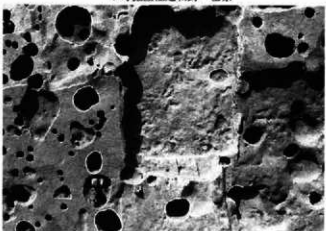
6号独立柱建物跡 全景



7号独立柱建物跡 全景



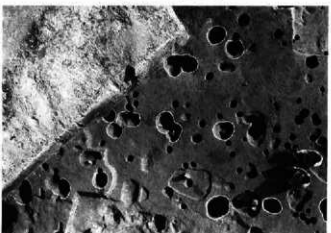
7号独立柱建物跡 全景



8号独立柱建物跡 全景



8号独立柱建物跡 全景



9・10号独立柱建物跡 全景



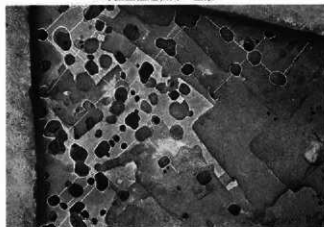
9・10号独立柱建物跡 全景



11号独立柱建物跡 全景



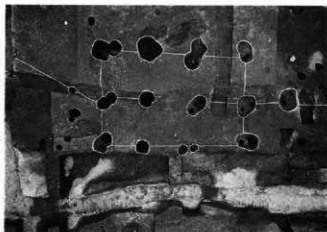
11号独立柱建物跡 全景



12～18号独立柱建物跡 全景



官衙城 全景



19·20号獨立柱建物跡 全景



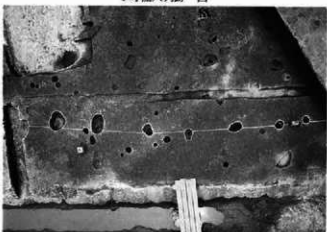
19·20号獨立柱建物跡 全景



1号柱穴列跡 西



1号柱穴列跡 西



1号柱穴列跡 東



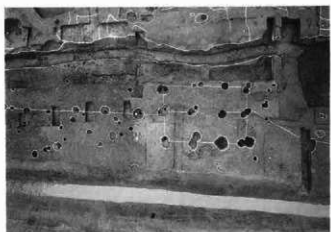
1号柱穴列跡 東



1号柱穴列跡 東



1号柱穴列跡 西



門之堀



21号掘立柱建物跡 全景



22号掘立柱建物跡 全景



23号掘立柱建物跡 全景



4・5号溝跡 全景



6号溝跡 全景



7号溝跡 全景



9号溝跡 全景



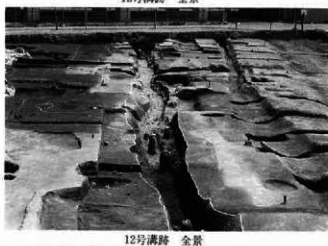
11号溝跡 全景



12号溝跡 全景



12号溝跡 全景 (東半分)



12号溝跡 全景



12号溝跡 遺物出土状況



12号溝跡 遺物出土状況



12号溝跡 遺物出土状況



12号溝跡 遺物出土状況



14号溝跡 全景



15号溝跡 全景



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 全景



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況



15号溝跡 遺物出土状況





21号溝跡 全景



22号溝跡 全景



23号溝跡 全景



24号溝跡 全景



25号溝跡 全景



26号溝跡 全景



27号溝跡 全景



29号溝跡 遺物出土状況



29号溝跡 全景



29号溝跡 遺物出土状況



29号溝跡 遺物出土状況



29号溝跡 遺物出土状況



30号溝跡 全景



31号溝跡 全景



32号溝跡 全景



33号溝跡 全景



36号溝跡 全景



34号溝跡 全景



35号溝跡 全景



37号溝跡 全景



38号溝跡 全景



1号井戸跡 全景



2号井戸跡 全景



4号土坑跡 全景



8号土坑跡 全景



10号土坑 全景



20号土坑 全景



21号土坑 全景



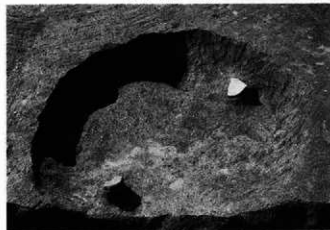
25号土坑 全景



33号土坑 全景



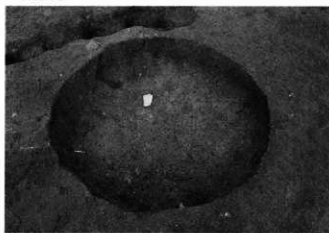
34号土坑 全景



35号土坑 全景



36号土坑 全景



37号土坑跡 全景



38号土坑跡 全景



44号土坑跡 全景



45号土坑跡 全景



46・47号土坑跡 全景



48号土坑跡 全景



49号土坑跡 全景



50号土坑跡 全景



51号土坑 全景



55号土坑 土层断面



56号土坑 土层断面



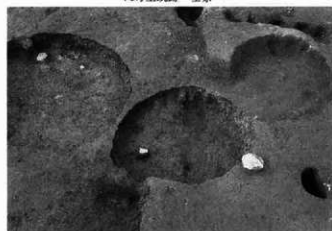
72号土坑 全景



74号土坑 全景



75号土坑 全景



76号土坑 全景



77号土坑 全景



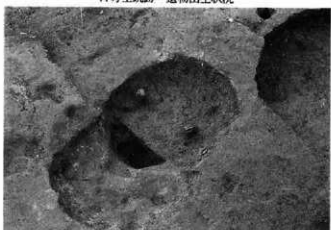
77号土坑跡 遺物出土状況



77号土坑跡 遺物出土状況



77号土坑跡 遺物出土状況



78号土坑跡 全景



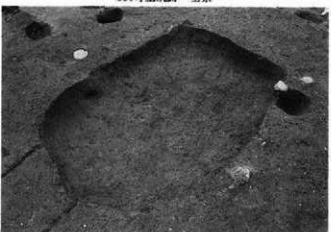
128・129号土坑跡 全景



136号土坑跡 全景



140号土坑跡 全景



145号土坑跡 全景





160・165号土坑跡 全景



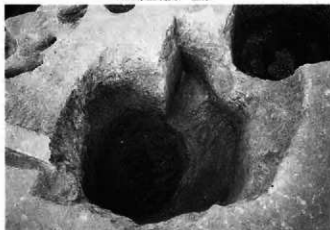
171号土坑跡 遺物出土状況



184号土坑跡 全景



251号土坑跡 全景



264号土坑跡 全景



272号土坑跡 土層断面



275号土坑跡 全景



345号土坑跡 全景



345号土坑跡 遺物出土状況



345号土坑跡 遺物出土状況



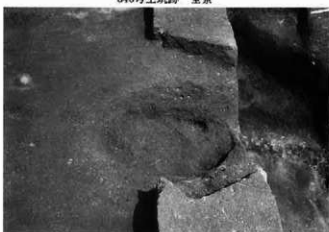
345号土坑跡 遺物出土状況



346号土坑跡 全景



461号土坑跡 全景



513号土坑跡 全景



515号土坑跡 全景



519号土坑跡 全景



520号土坑跡 全景



521号土坑跡 全景



522号土坑跡 全景



534号土坑跡 全景



646・647号土坑跡 全景



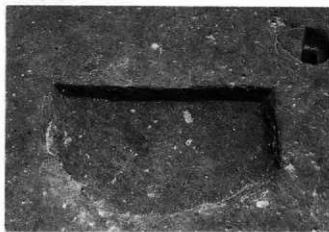
646・647号土坑跡 遺物出土状況



681号土坑跡 全景



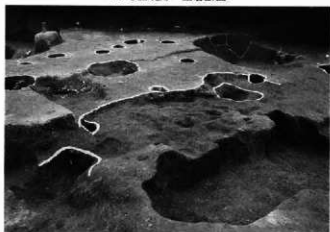
695号土坑跡 全景



702号土坑跡 土層断面



706号土坑跡 土層断面



724~727号土坑跡 全景



745号土坑跡 遺物出土状況



748号土坑跡 遺物出土状況



751・752号土坑跡 全景



758~760号土坑跡 全景



762号土坑跡 全景



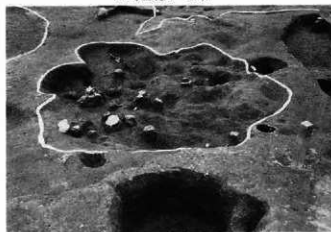
768号土坑跡 全景



770号土坑跡 全景



771号土坑跡 全景



774号土坑跡 全景



815号土坑跡 全景



832号土坑跡 全景



848号土坑跡 全景



849号土坑跡 全景



850号土坑跡 全景



852号土坑跡 全景



856号土坑跡 全景



858号土坑跡 全景



859号土坑跡 全景



Q-13·14~R-13·14~S-13Gr. 整地



Q-13·14~R-13·14~S-13Gr. 整地



Q-13·14~R-13·14~S-13Gr. 整地



Q-13·14~R-13·14~S-13Gr. 整地



N-11·12~O-11·12~R-11·12Gr. 整地



N-11·12~O-11·12~R-11·12Gr. 整地



N-11·12~O-11·12~R-11·12Gr. 整地



N-11Gr. 整地層断面



F-13Gr. 遺物出土状況



L-14Gr. 絆帯出土状況



F-13Gr. 遺物出土状況



1～3号溝跡 全景



1～3号溝跡 全景





南側張出部



1-3号溝跡 全景



中世居館跡 全景



中世居館跡 全景



1号溝跡 断面



1号溝跡 断面



1号溝跡



1号溝跡



1号溝跡 断面



1号溝跡 溜井状遺構



1号溝跡 溜井状遺構



1号溝跡 溜井状遺構



1号溝跡 溜井状遺構



1号溝跡 溜井状遺構



1号溝跡 溜井状遺構



2号溝跡 全景



2号溝跡 全景



2号溝跡 土層断面



2号溝跡 土層断面



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



南側谷 全景



兩側谷 全景



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



2・3号溝跡 全景



3号溝跡 全景



3号溝跡 全景



3号溝跡 全景



3号溝跡 全景



3号沟迹 土层断面



3号沟迹 土层断面



57号沟迹 全景



1号土坑墓 全景



2号土坑墓 全景



4号土坑墓 全景



5号土坑墓 全景



6号土坑墓 全景



7号土塚墓 全景



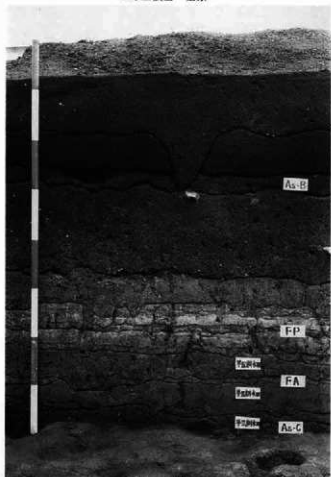
8号土塚墓 全景



9号土塚墓 全景



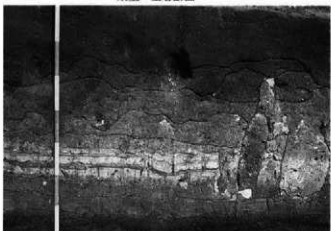
10号土塚墓 全景



東壁 土層断面



東壁 土層断面



東壁 土層断面

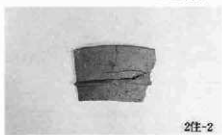




1住-1



1住-3



2住-2



2住-3



2住-4



3住-1



3住-2



3住-4



3住-3



3住-5



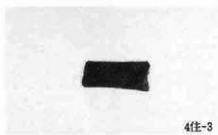
3住-6



3住-7



4住-2



4住-3



4住-4



5住-1



5住-2



5住-3



5住-4



6住-2



6住-3



6住-4



7住-2



7住-3



8住-2



9住-1



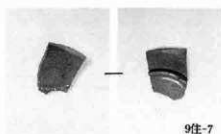
9住-3



9住-5



9住-6



9住-7



10住-1



10住-2



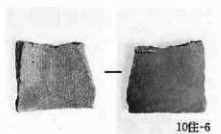
10住-3



10住-4



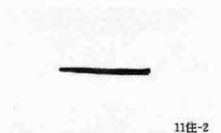
10住-5



10住-6



11住-1



11住-2



12住-1



12住-2



12住-4



12住-5



12住-3



14住-2



14住-3



12住-6



14住-4



14住-5



14住-6



14住-7



14住-8



14住-9



14住-10



14住-11



14住-12①



14住-12②



14住-13



15住-1



15住-2



17住-1



17住-2



17住-3



17住-4



17住-5



17住-6



17住-7



17住-8



17住-9



17住-10



17住-11



17住-12①



17住-13



17住-12②



17住-14



18住-2



18住-3



18住-4



19住-2



19住-1



19住-4



21住-1



21住-2



21住-3



21住-4



23住-3



23住-4



23住-5



23住-6



23住-7



24住-1



24住-2



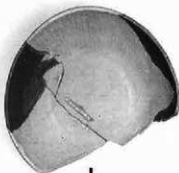
24住-3



24住-4



24住-5



24住-6



24住-7



24住-8



24住-9



24住-10



24住-11



24住-12



24住-13



24住-14



24住-16



24住-18



24住-17



25住-1



25住-2



25住-3



25住-4



25住-5



25住-6



25住-7



25住-8



25住-9



25住-9



26住-2



28住-1



29住-1



29住-2



29住-3



29住-4



29住-5



29住-6



29住-7



29住-10



29住-11



30住-1



29住-8



30住-2



30住-3



30住-4



30住-5



30住-6



31住-1



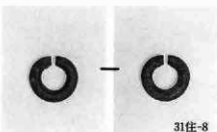
31住-2



31住-4



31住-5



31住-8



31住-9



32住-1



32住-2



32住-3



33住-2



33住-3



33住-4



33住-5



33住-6



33住-7



33住-8



33住-10



34住-1



34住-2



36住-2



36住-3



36住-4



37住-2



37住-4





38住-1



38住-2



38住-3



38住-4



38住-5



38住-6



39住-1



39住-3



39住-4



39住-5



39住-6



39住-7



39住-8



40住-1



41住-1



41住-2



41住-3



41住-4



41住-5



41住-6



41住-7



41住-8



41住-9



41住-10



41住-11



41住-12



41住-13



41住-14



41住-15



41住-16



41住-17



41住-19



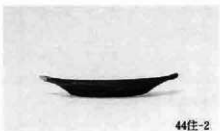
42住-1



41住-18



41住-19



44住-2



48住-1



49住-1



49住-4



49住-5



49住-6



49住-7





52住-17



52住-18



52住-16



52住-20



52住-19



53住-1



53住-2



53住-3



54住-1



54住-2



54住-3



54住-4



55住-1



54住-5



54住-4



55住-2



55住-3



55住-4



55住-5



55住-6



56住-2



56住-1



56住-3



56住-4



56住-5



56住-6



57住-1



57住-3



57住-4



57住-5



58住-1



58住-2



58住-3



58住-4



58住-5



58住-6



58住-7



58住-9



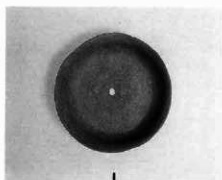
58住-8



58住-10



59住-2



59住-1



58住-11



59住-6



59住-7



60住-1



60住-2



60住-3



60住-4



60住-5



60住-8



60住-10



60住-9



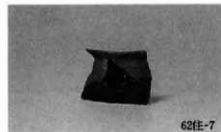
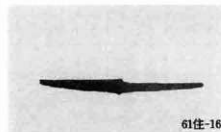
61住-1



61住-2



61住-3





63住-3



63住-4



64住-1



64住-2



64住-3



64住-4



64住-5



64住-6



64住-7



67住-1



67住-2



67住-3



67住-4



67住-5



67住-6



67住-7



67住-8



67住-9



67住-10





67住-11



67住-12



67住-13



67住-14



67住-15



67住-16



67住-17



67住-18



67住-19



67住-20



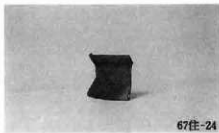
67住-21



67住-22



67住-23



67住-24



67住-25



67住-26



68住-1



68住-2



68住-3



68住-4



68住-5



68住-6



68住-7



68住-8



68住-9



68住-10



68住-11



68住-12



68住-13



68住-14



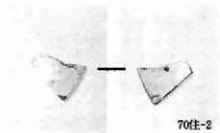
69住-1



69住-3



70住-1



70住-2



71住-1



72住-1



72住-2



72住-3



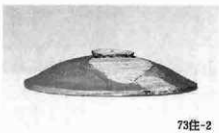
72住-4



72住-5



73住-1



73住-2



73住-3



73住-4



73住-5



74住-1



74住-2



76住-1



76住-2



76住-3



76住-4



76住-5



76住-6



76住-7



77住-1



77住-2



77住-3



77住-4



77住-5



77住-6



77住-7



77住-8



77住-9



77住-10



77住-11



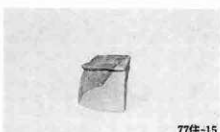
77住-12



77住-13



77住-14



77住-15



77住-16



77住-17



78住-1



78住-2



78住-3



78住-4



78住-5



78住-6



78住-7



78住-8



79住-1



82住-1



83住-1



83住-2



83住-3



83住-4



83住-5



83住-7



83住-6



84住-1



85住-1



85住-2



85住-3



85住-4



85住-5



85住-6



85住-7



85住-8



85住-9



86住-3



86住-1



86住-2



87住-2



87住-3



87住-4



87住-5



87住-6



87住-7



87住-8



87住-9



88住-1



88住-2



88住-3



88住-4



88住-5



89住-1



89住-2



89住-3



89住-4



89住-5



89住-6



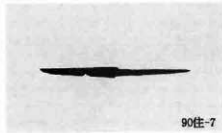
90住-1



90住-2



90住-3





98住-4



98住-5



98住-6



98住-7



98住-8



98住-9



98住-10



98住-11



98住-12



98住-13



99住-1



99住-2



99住-3



99住-4



99住-5



99住-6



100住-1



100住-2



103住-1



105住-1



105住-2





105住-3



106住-1



106住-2



106住-3



108住-1



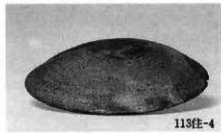
109住-1



109住-3



113住-1



113住-4



113住-5



113住-6



113住-7①



114住-1



114住-2



113住-7②



114住-3



114住-4



115住-1



117住-1



117住-2



117住-3



118住-1



118住-2



118住-4



120住-1



121住-1



122住-1



122住-2



122住-3



122住-4



122住-5



122住-6



122住-7



122住-8



122住-9



122住-10



122住-11



122住-12



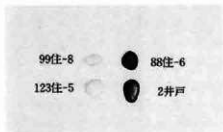
122住-13

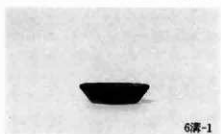
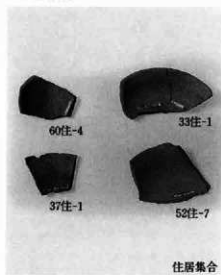


122住-14



122住-15







12溝-3



12溝-4



12溝-5



12溝-6



12溝-7



12溝-8



12溝-9



12溝-10



12溝-11



12溝-12



12溝-13



12溝-14



12溝-15



12溝-16



12溝-17



12溝-18



12溝-19



12溝-20



12溝-21



12溝-22



12溝-23



12溝-24



12溝-25



12溝-26



12溝-27



12溝-28



12溝-29



12溝-32



12溝-33



12溝-34



13溝-1



15溝-1



15溝-2



15溝-3



15溝-4



15溝-5



15溝-6



15溝-7



15溝-8



15溝-9



15溝-10



15溝-11



15溝-12



15溝-13



15溝-14



15溝-16①



15溝-16②



21溝-2



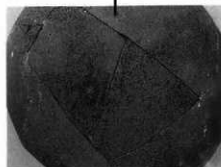
21溝-1



21溝-3



21溝-4



22溝-1



23溝-1



23溝-2



23溝-3



23溝-4



23溝-5



23溝-6



23溝-7



24溝-1



24溝-2



24溝-3







29溝-13



29溝-14



29溝-15



29溝-16



29溝-17



29溝-18



29溝-19



29溝-20



29溝-21



29溝-22



29溝-23



29溝-24



30溝-1



30溝-2



30溝-3



30溝-4



31溝-1



31溝-2



32溝-1



32溝-2



32溝-3



35溝-1



35溝-2



35溝-3



35溝-4



35溝-6



35溝-7



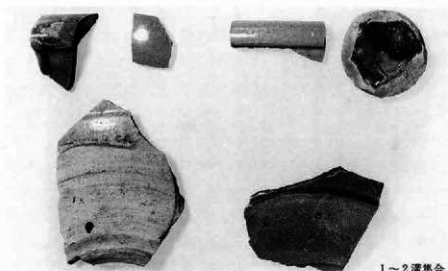
35溝-5



36溝-1



2井戸-1



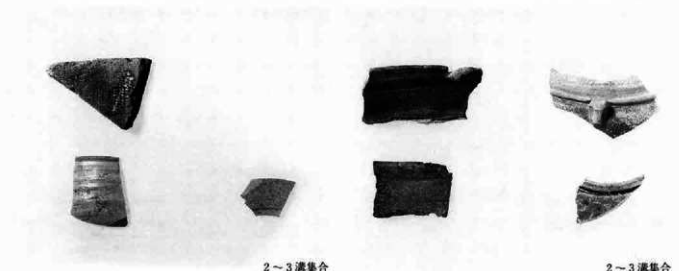
1~2溝集合



2井戸-2



4土坑-1



2~3溝集合

2~3溝集合



5土坑-1



36土坑-1



36土坑-2



44土坑-1



45土坑-1



45土坑-2



45土坑-3



77土坑-1



77土坑-2



171土坑-1



129土坑-1



143土坑-1



274土坑-1



275土坑-1



345土坑-1



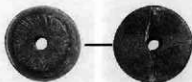
345土坑-2



345土坑-3



516土坑-1



534土坑-1



646土坑-1



646土坑-2



706土坑-1



745土坑-1



745土坑-2



745土坑-3



745土坑-4



745土坑-5



745土坑-6



745土坑-7



745土坑-8



745土坑-9



745土坑-10



745土坑-11



745土坑-12



745土坑-13



745土坑-14



745土坑-15



745土坑-16



745土坑-17



745土坑-18



745土坑-19



745土坑-20



745土坑-21



745土坑-22



745土坑-23



745土坑-24



745土坑-25



745土坑-26



745土坑-27



745土坑-28



745土坑-29



745土坑-30



745土坑-31



745土坑-32



745土坑-33



758土坑-1



768土坑-1



774土坑-1



774土坑-2



815土坑-1



850土坑-1



854土坑-1



78区整地-1



78区整地-2



78区整地-3



78区整地-4



78区整地-5



78区整地-6



78区整地-7



78区整地-8



78区整地-9



78区整地-10



78区整地-11



78区整地-12



78区整地-13



78区整地-14



78区整地-15



78区整地-16



78区整地-17



78区整地-18



78区整地-19



78区整地-20



78区整地-21



78区整地-22



78区整地-23



78区整地-24



78区整地-25



78区整地-26



78区整地-27



78区整地-28



78区整地-29



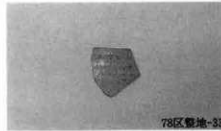
78区整地-30



78区整地-31



78区整地-32



78区整地-33



78区整地-34



78区整地-35



79区整地-1



79区整地-2



79区整地-3



79区整地-4



79区整地-5



79区整地-6



79区整地-7



79区整地-8



79区整地-9



79区整地-10



79区整地-11



79区整地-12



79区整地-13



79区整地-14



グ-1



グ-2



グ-3



グ-4



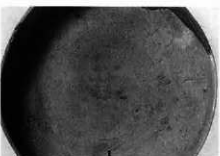
グ-5



グ-6



グ-7



グ-8



グ-9



グ-11



グ-10



グ-12







グ-14



グ-15



グ-16



グ-17



グ-18



グ-13



グ-19



グ-20



グ-21



グ-22



グ-23



グ-24



グ-25



グ-26



グ-27



グ-28



グ-29



グ-30



グ-31



グ-32



グ-33



グ-34



グ-35



グ-36



グ-37



グ-38



グ-39



グ-40



グ-41



グ-42



グ-43



グ-44



グ-45



グ-46



グ-47



グ-48



グ-49



グ-50



グ-51



グ-52



グ-53



グ-54



グ-55



グ-56



グ-57



グ-58



グ-59



グ-60



グ-61



グ-62



グ-63



グ-64



グ-65



グ-66



グ-67



グ-68



グ-69



グ-70



グ-72



グ-73



グレット集合



グ-77



グ-78



グ-79



グ-80



グ-81



グ-82



グ-82



グ-71



グ-86



3墓-1

3墓-2



グ-83

グ-84



グ-85



グ-87

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第198集

## 大八木屋敷遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

1996年3月15日 印刷

1996年3月25日 発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

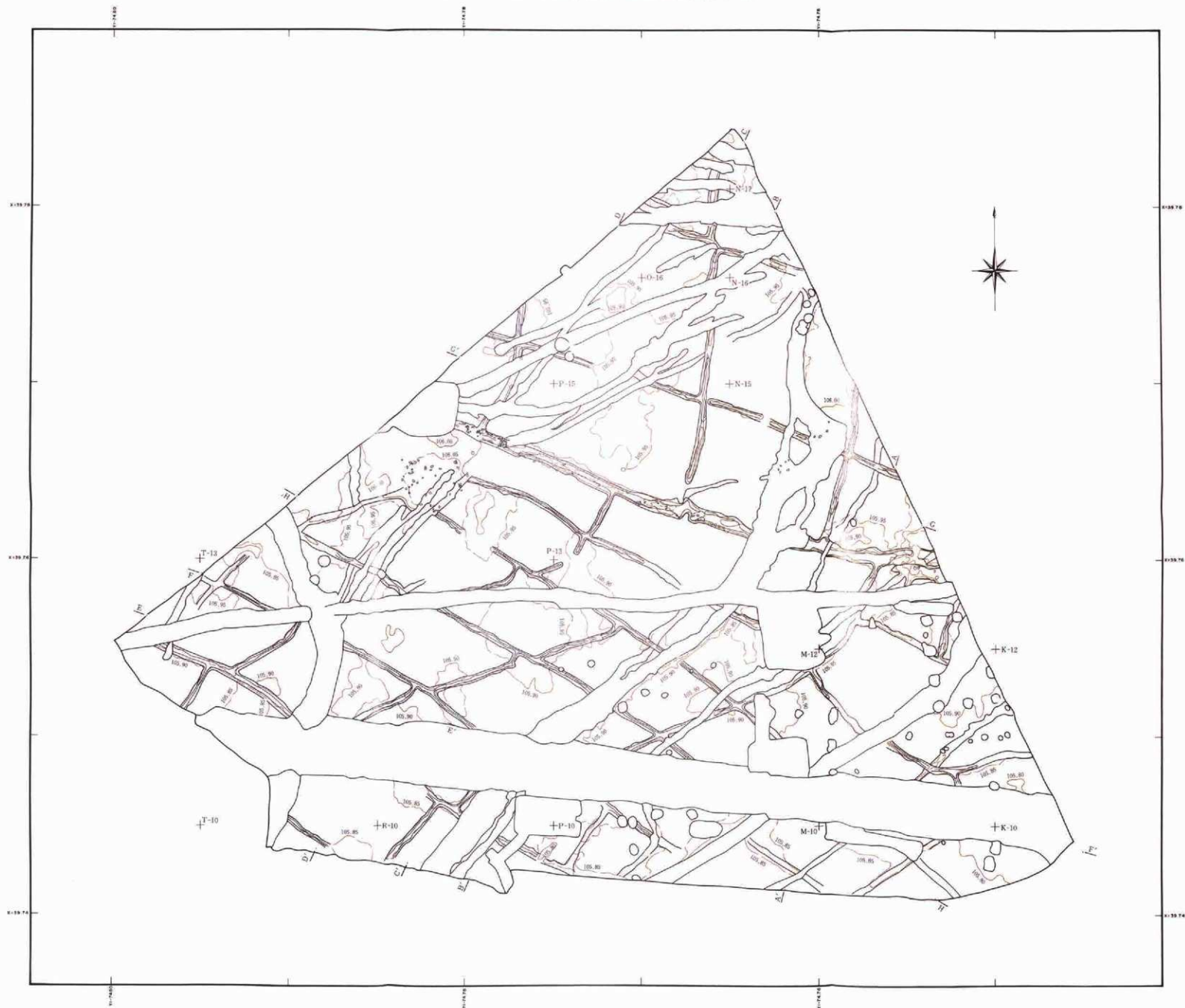
発行／群馬県考古資料普及会

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

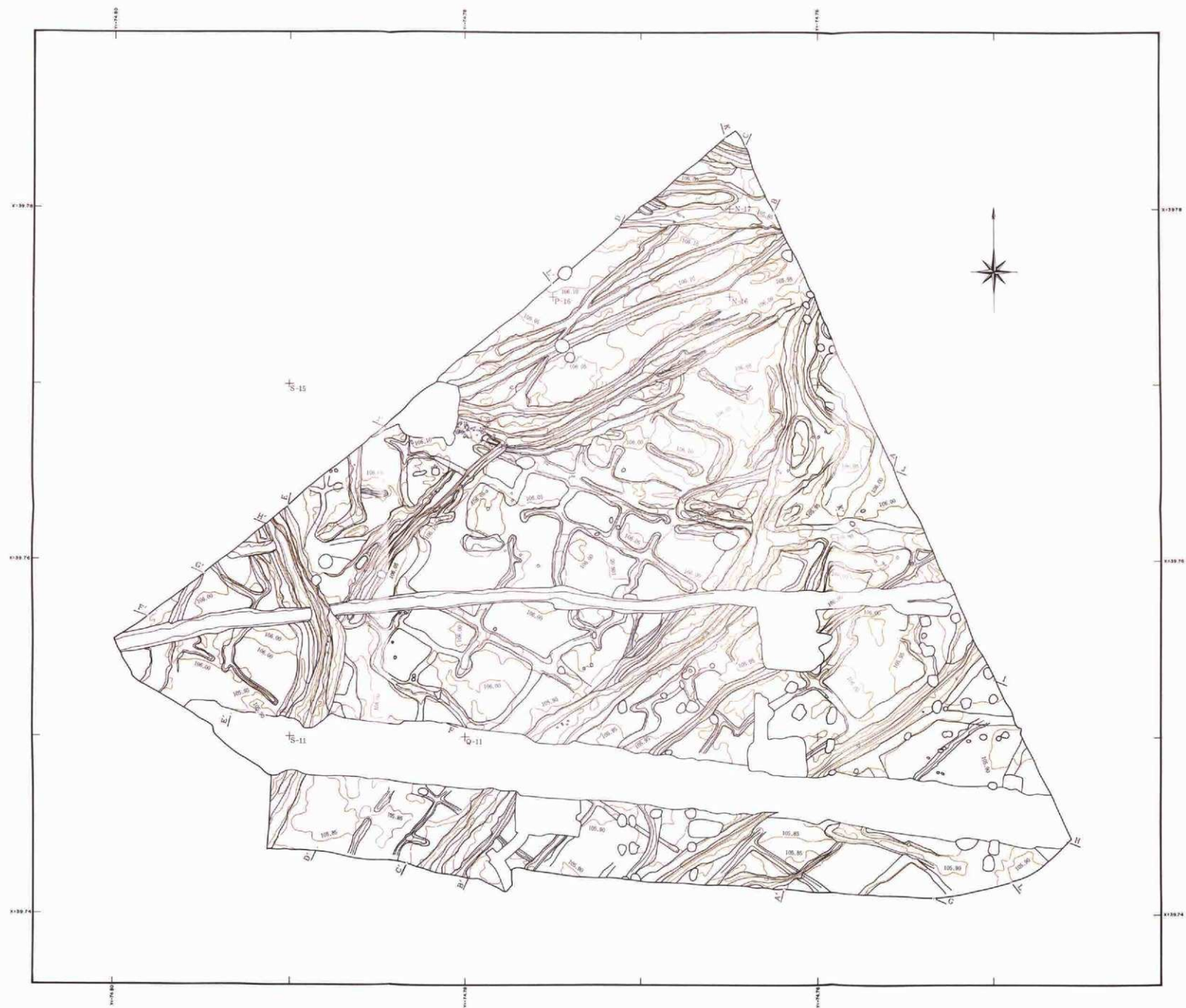
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

付図1. 大八木屋敷遺跡78区第I期水田跡 S=1:160



付図2. 大八木屋敷遺跡78区第Ⅱ期水田跡 S=1:160



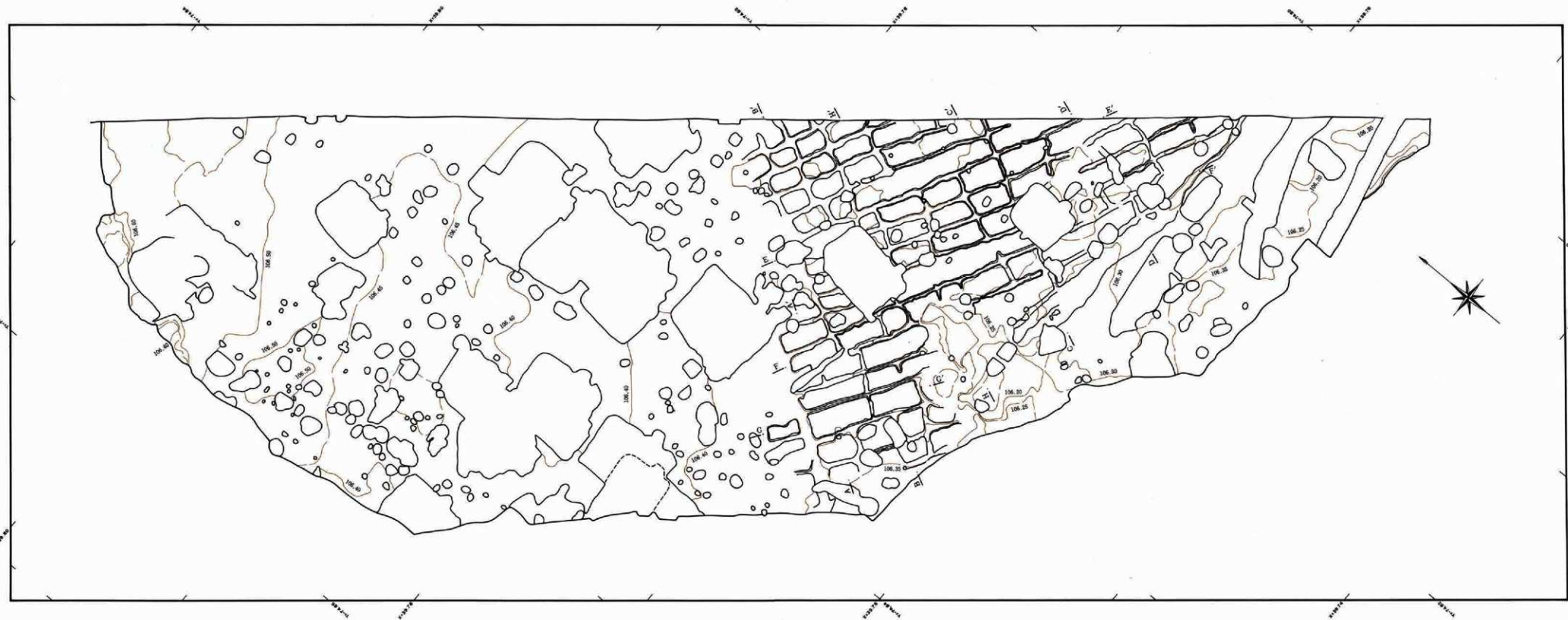




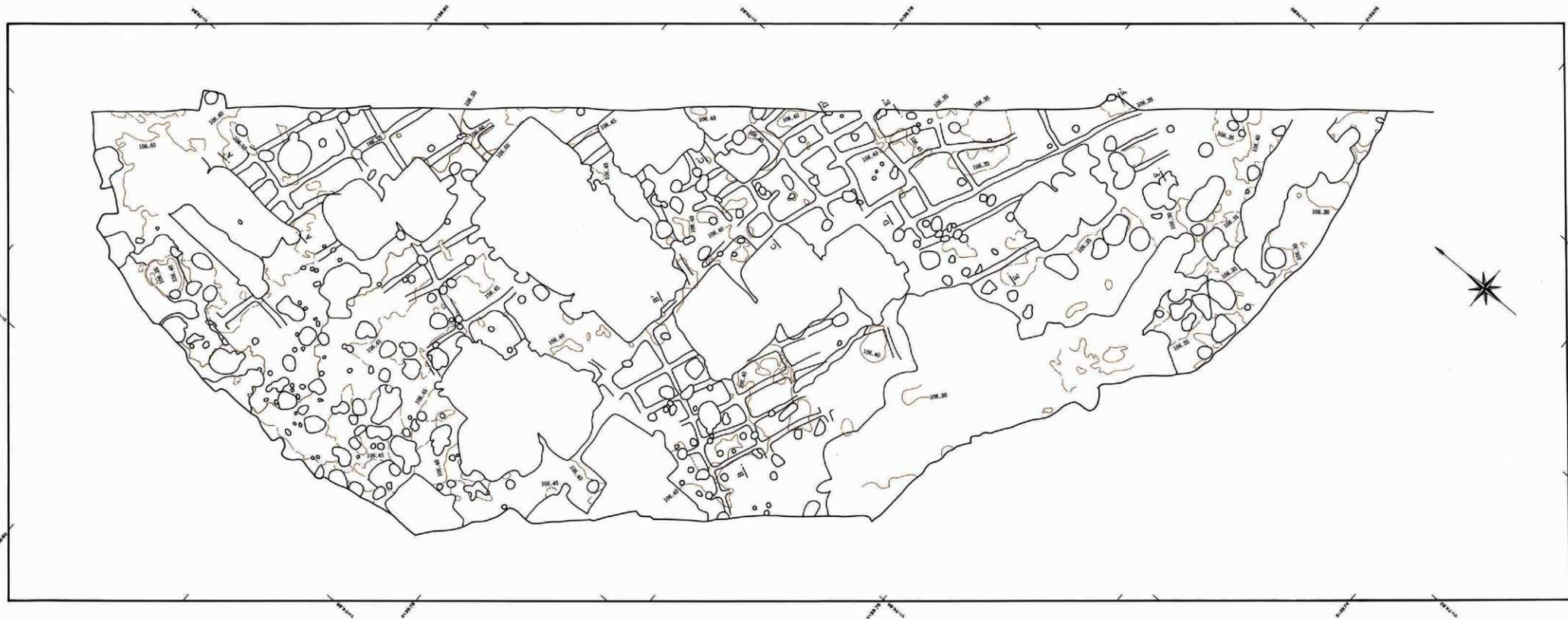
付図4. 大八木屋敷遺跡79区第Ⅱ期水田跡 S-1:160



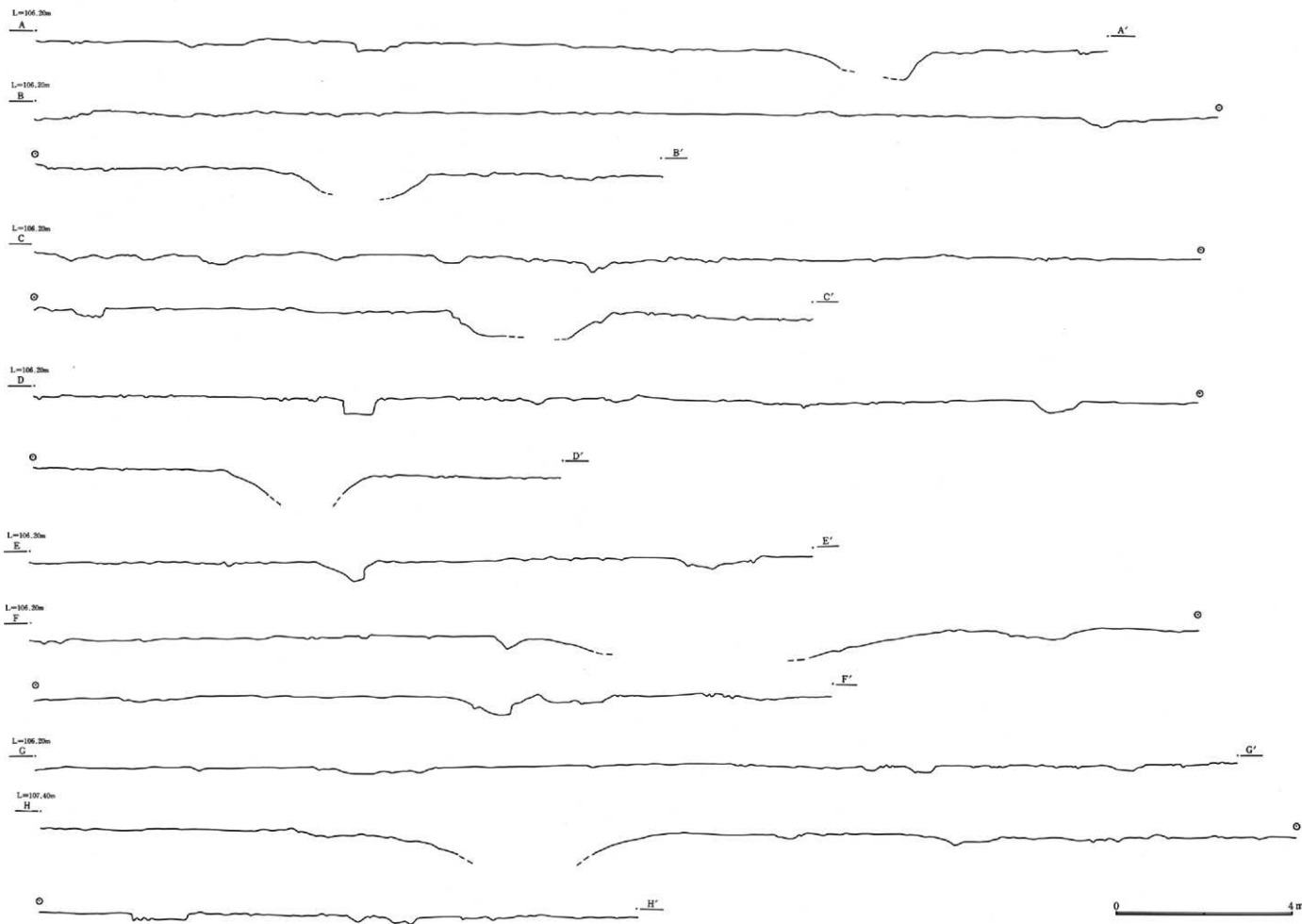
付図5. 大八木屋敷遺跡79区第Ⅲ期水田跡 S-1:160



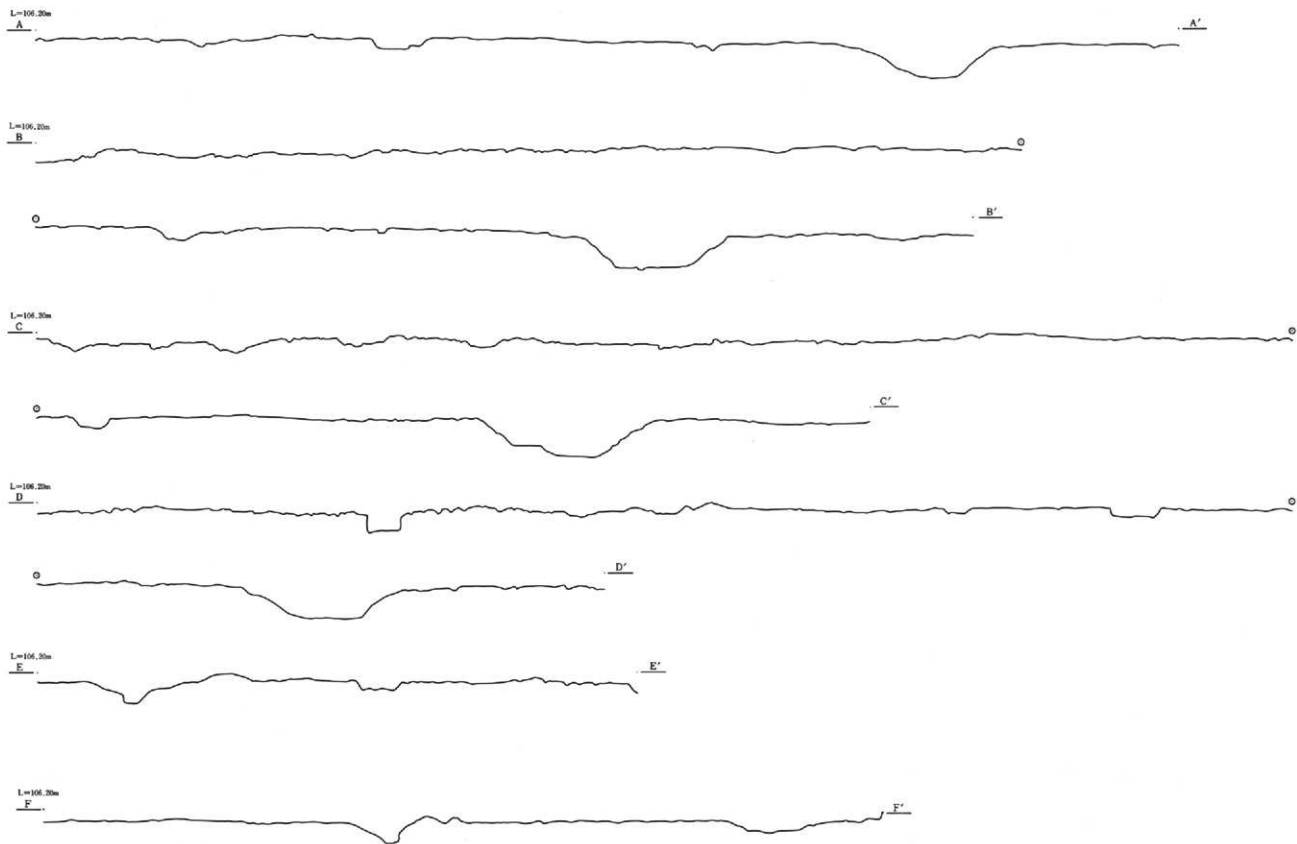
付図6. 大八木屋敷遺跡79区第Ⅳ期水田跡 S-1:160



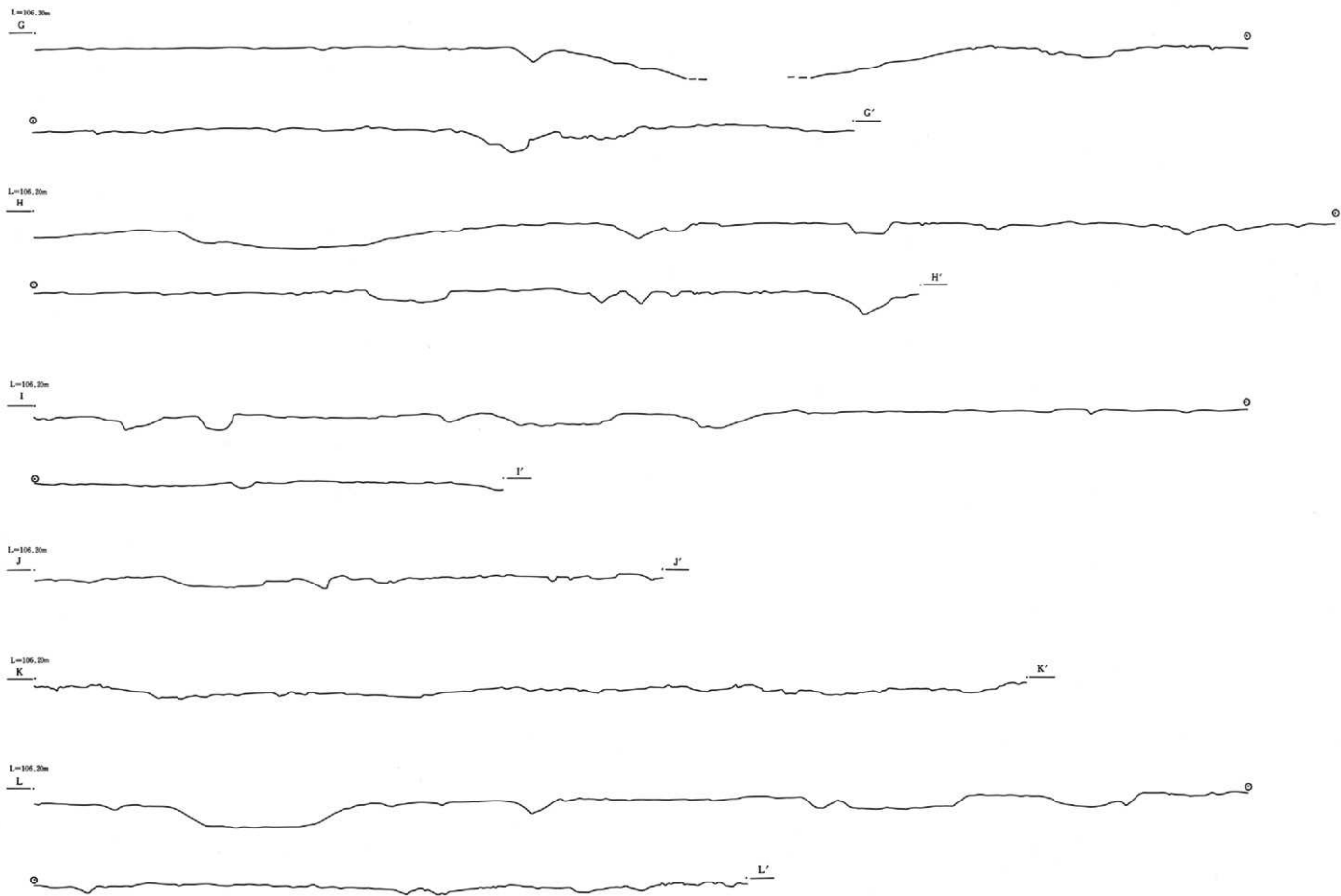
付図7. 大八木屋敷遺跡78区第I期水田跡エレヴェーション S=1:160



付図8. 大八木屋敷遺跡78区第Ⅱ期水田跡エレベーション(1) S=1:160

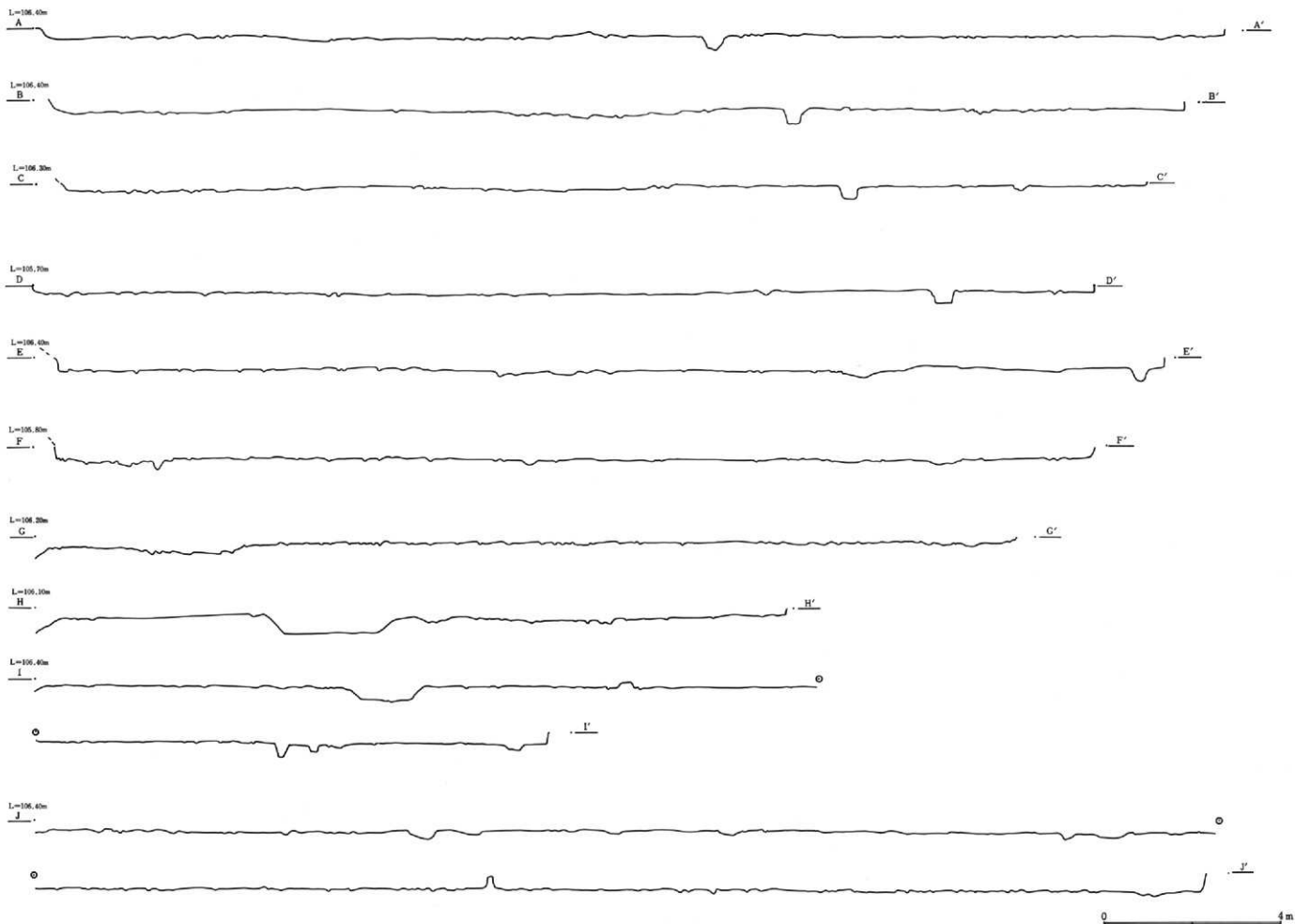


付図9. 大八木屋敷遺跡78区第Ⅱ期水田跡エレベーション(2) S=1:160

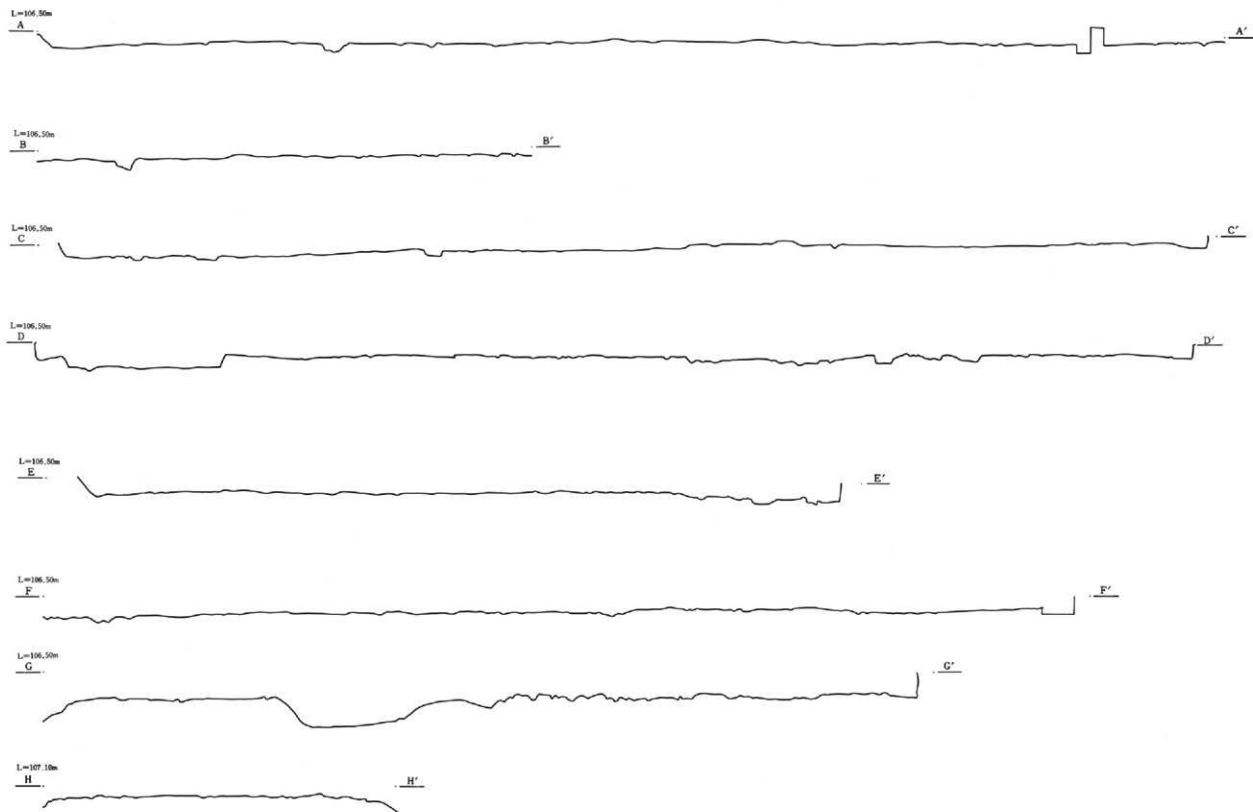


0 4m

付図10. 大八木屋敷遺跡79区第I期水田跡エレヴェーション S=1:100

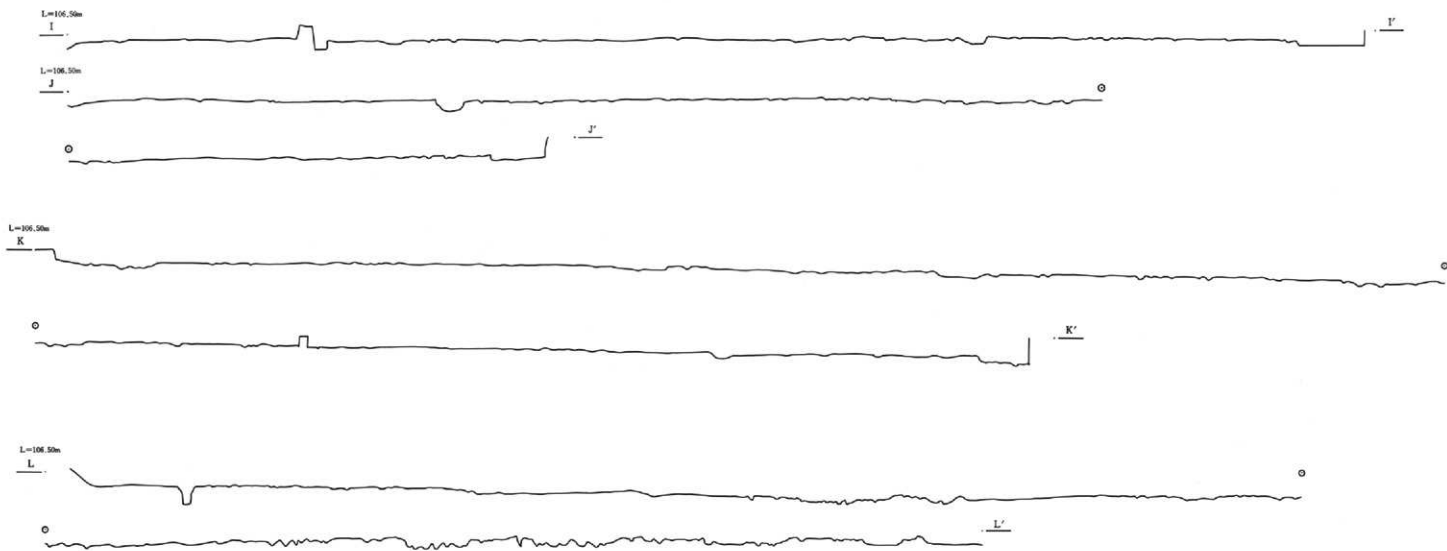


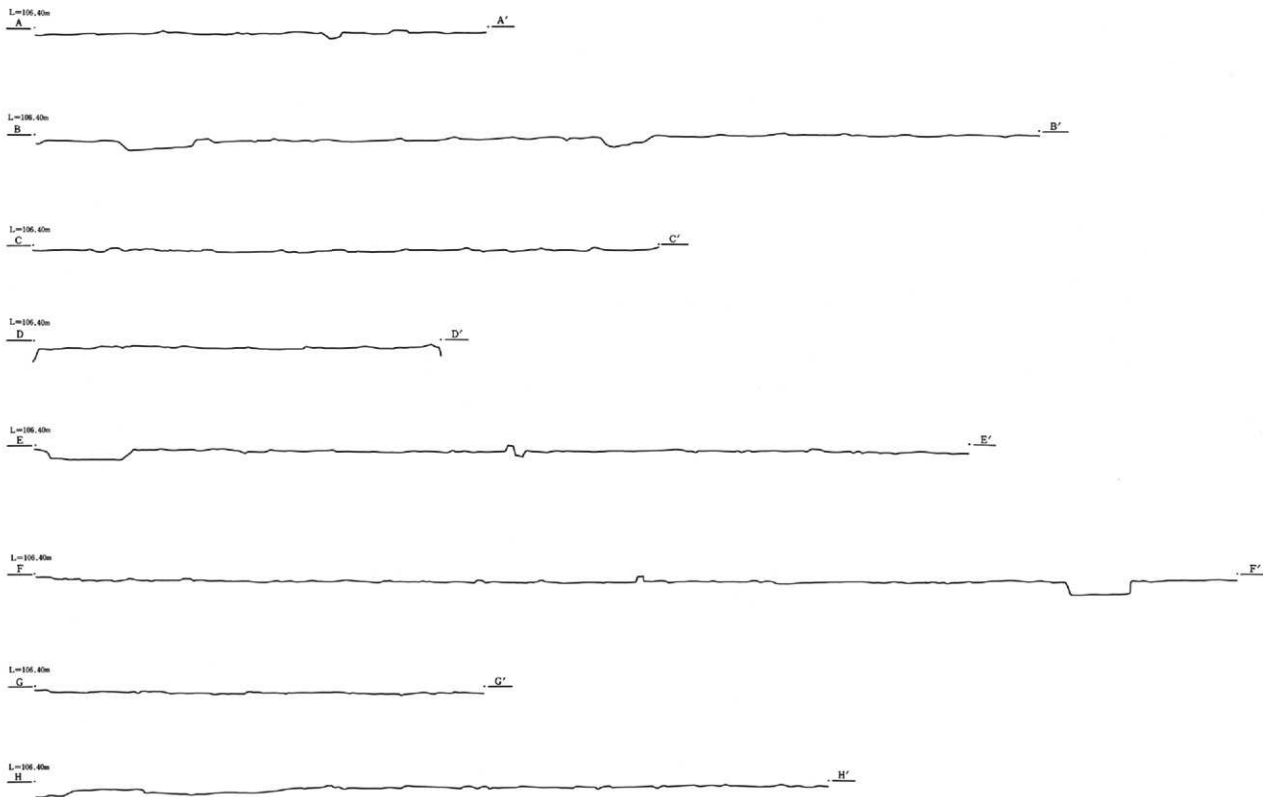
付図11. 大八木屋敷遺跡79区第Ⅱ期水田跡エレベーション(1) S=1:160





付図12. 大八木屋敷遺跡79区第Ⅱ期水田跡エレベーション(2) S=1:160





付図14. 大八木屋敷遺跡79区第IV期水田跡エレベーション S=1:180



付図15. 大八木屋敷遺跡78区掘立柱建物跡群



付图16. 大八木屋敷遺跡中世居館掘跡平面図 (1・2・3号溝跡) S=1:100

